鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　32

平成27年度発掘調査報告

（第 2 分冊）

若宮大路周辺遺跡群

大倉幕府周辺遺跡群

若宮大路周辺遺跡群

台　山　遺　跡

平成28年 3 月

鎌倉市教育委員会

若宮大路周辺遺跡群（大町一丁目1034番9）Ⅱ区第2面道路1b（北東から）

若宮大路周辺遺跡群（大町一丁目1034番9）第1面出土線刻硯

ご　あ　い　さ　つ

本市は、市域のおおよそ６割が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

近年、古い家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が増加し、長い年月地下で眠っていた文化財が失われることも増加してきています。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和５９年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成１８・１９・２２・２６年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査６ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉が歩んできた歴史を解き明かす一助となればと願う次第です。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申しあげます。

平成28年３月31日

鎌倉市教育委員会

例　　言

1　本書は平成27年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書である。

2　本書所収の調査地点は別図のとおりである。また掲載分冊については、第１分冊に掲載した表のとおりである。

3　現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。

4　出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。

5　各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

総　目　次

（第２分冊）

例言・・・Ⅱ
目次・・・Ⅲ

３　若宮大路周辺遺跡群（No.242）小町二丁目２４番１４地点
第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第二章　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第三章　調査結果・・19
第四章　自然科学分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
第五章　まとめと考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

４　大倉幕府周辺遺跡群（No.49）雪ノ下字天神前５６２番３０地点
第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
第二章　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・104
第三章　調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・106
第四章　まとめと考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・139

５　若宮大路周辺遺跡群（No.242）大町一丁目１０３４番９地点
第一章　遺跡の位置と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・161
第二章　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・163
第三章　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
第四章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・170
第五章　調査成果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・193

６　台山遺跡（No.29）台字西ノ台１４１８番１０地点
第一章　遺跡の位置と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・247
第二章　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・250
第三章　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・252
第四章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・253
第五章　調査成果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・260
付編　　台山遺跡のテフラ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・261

平成27年度の緊急発掘調査地点（1～3）
本書掲載の平成18・19・22・26年度発掘調査地点（①～⑥）
※遺跡名は一覧表を参照

鎌倉市全図

若宮大路周辺遺跡群（No.242）

わかみやおおじしゅうへんいせきぐん

小町二丁目 24 番 14 地点

例　　言

1．本報は、「若宮大路周辺遺跡群」（№242）内、小町二丁目24番14地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．調査期間　　平成19（2007）年8月28日～平成19（2007）年9月26日

3．調査面積　　14.50㎡

4．略　称　　WK224

5．調査体制

担　当　者　　馬淵和雄

調　査　員　　宇都洋平・鍛治屋勝二・松原康子・岩崎卓治（資料整理）・沖元道（同前）
本城裕（同前）

調査補助員　　佐藤あおい・佐藤千尋（資料整理）・吉田麻子（同前）

作　業　員　　小口照男・河原龍雄・中須洋二（以上（社）鎌倉市シルバー人材センター）

6．本報作成分担

遺構図整理　　沖元

遺物実測　　岩崎・沖元・本城・松原

同墨入れ　　岩崎

同観察表　　吉田・沖元

同計量表　　沖元

同写真撮影　　沖元

図版作成　　沖元・佐藤（千）

原稿執筆　　沖元

編集　　沖元

7．整理段階において、遺物の分類及び編年は以下を参考にした。

土 師 器 皿：馬淵和雄1998『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社

瓦　　：原　廣志2002「第4章　出土瓦について」『永福寺跡－遺物・考察編－』鎌倉市教育委員会

瀬　　戸：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

尾張型山茶碗：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

常　　滑：中野晴久2012『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』愛知県

渥　　美：安井俊則2012『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』愛知県

貿 易 陶 磁：太宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』

8．本報告掲載の現地写真は馬淵・宇都・鍛治屋が撮影した。

9．発掘調査における出土遺物・図面類・写真などの資料は鎌倉市教育委員会が保管している。

10．本報告では世界測地系（第Ⅸ系）の座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23（2011）年3月11日の東日本大震災以前の測量数値を使用している。

11．第四章は分析を株式会社パレオ・ラボに業務委託し、原稿を佐々木由香氏・バンダリ・スダルシャン氏・森将志氏に賜わった。

本報告作成に際し、次の方々の御教示を得た。記して感謝したい。
押木弘己・汐見一夫・原廣志

目　次

本　文　目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 ……6

１．位置と地勢
２．歴史的環境

第二章　調査の概要 ……17

１．調査にいたる経緯
２．調査の経過
３．調査方法

第三章　調査結果 ……19

第1節　概　要
１．層序と面の概要
第2節　各　説
１．1面
２．2面
３．3a面
４．3 b面
５．3 c面
６．4 a面
７．4 b面
８．5 a面
９．5 b面
10. 6 a面
11. 6 b面
12. 7面
13. 8面
14. 9面
15. 表採遺物
16. 土層断面出土遺物

第四章　自然科学分析 ……58

第１節　北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群出土の大型植物遺体
佐々木由香・バンダリ スダルシャン
第２節　北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析　森　将志
第３節　若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）から出土した大型植物遺体
バンダリ スダルシャン・佐々木由香
第４節　若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析　森　将志

第五章　まとめと考察 ……71

１．遺構の変遷と年代
２．土坑内繊維質土の土壌分析から

挿　図　目　次

図１　調査地点と周辺の遺跡・旧跡……7
図２　明治15年頃の調査地点周辺（『迅速測図』）……11
図３　調査区設定図……18
図４　調査区土層断面図……20
図５　１面遺構全図、同出土遺物・
　　建物１・土坑１・P.3、同出土遺物……24
図６　土坑２、同出土遺物・１面ピット出土遺物…25
図７　２面遺構全図、同出土遺物・溝１、
　　同出土遺物・溝２・土坑３、
　　同出土遺物・P.47・２面ピット出土遺物…26
図８　２面構築土内出土遺物……27
図９　３a面遺構全図、同出土遺物……28
図10　３a面構築土内出土遺物……29
図11　３ｂ面遺構全図、同出土遺物・
　　３ｂ面遺物集中部、同出土遺物（１）……30
図12　３ｂ面遺物集中部出土遺物（２）……31
図13　土坑４、同出土遺物
　　・３ｂ面ピット出土遺物……32
図14　３ｃ面遺構全図、同出土遺物・
　　３ｃ面構築土内出土遺物……33
図15　４a面遺構全図、同出土遺物・４ｂ面遺構全図、
　　同出土遺物・溝３、同出土遺物……34
図16　４ｂ面構築土内出土遺物……35
図17　５a面遺構全図、同出土遺物……36
図18　５ｂ遺構全図、同出土遺物、土坑５、
　　同出土遺物・５ｂ面構築土……37
図19　６a面遺構全図、同出土遺物・
　　６a面構築土内出土遺物……38
図20　６ｂ面遺構全図、同出土遺物……39
図21　６ｂ面構築土内出土遺物……40
図22　７面遺構全図、同出土遺物・
　　板列裏込め出土遺物……41
図23　８面遺構全図、同出土遺物・
　　９面遺構全図、同出土遺物……42
図24　箸状木製品寸法分布……54
図25　遺構変遷図……72
図26　南側隣地調査区と本調査区……73
図27　各遺構繊維質土採集土層図……75

表　目　次

表１　出土遺物観察表（１）……44
表２　出土遺物観察表（２）……45
表３　出土遺物観察表（３）……46
表４　出土遺物観察表（４）……47
表５　出土遺物観察表（５）……48
表６　出土遺物観察表（６）……49
表７　出土遺物観察表（７）……50
表８　出土遺物観察表（８）……51
表９　出土遺物観察表（９）……52
表10　出土遺物観察表（10）……53
表11　出土遺物観察表（11）……54
表12　出土遺物計量表（１）……55
表13　出土遺物計量表（２）……56
表14　出土遺物計量表（３）……57

図　版　目　次

図版１……77
　１－１　調査地点近景①（南から）
　１－２　調査地点近景②（西から）
　１－３　調査地点近景③（北から）
　１－４　調査地点近景④（西から）
　１－５　１面土坑２掘削前全景（南から）
　１－６　１面土坑２掘削前全景（東から）
　１－７　１面全景（南から）
図版２……78
　２－１　１面全景（西から）
　２－２　２面全景（南から）
　２－３　２面全景（東から）
　２－４　3a面遺物(図9-10・11・16)出土状況(東から)
　２－５　3b面土坑４掘削前全景（南から）①

２－６　3b面土坑４掘削前全景（東から）①
２－７　3b面北西部遺物出土状況（南から）
２－８　3b面土坑４掘削前全景（南から）②
図版３ ……79
３－１　3b面土坑４掘削前全景（東から）②
３－２　3b面北東部遺物出土状況（北から）
３－３　3b面漆器椀(図12-28)出土状況(東から)
３－４　３ｂ面全景（南から）
３－５　３ｂ面全景（東から）
３－６　３ｂ面土坑４（南から）
３－７　3c面全景（東から）
３－８　4a面全景（南から）
図版４ ……80
４－１　4a面全景（東から）
４－２　4a面礎板出土状況（北から）
４－３　４ｂ面全景（南から）
４－４　４ｂ面全景（東から）
４－５　5a面全景（南から）
４－６　5b面全景（南から）
４－７　5b面全景（東から）
図版５ ……81
５－１　６面全景（南から）
５－２　７面板列（南から）
５－３　８面全景（西から）
５－４　８面土師器皿(図23-1･2)出土状況(東から)
５－５　最終トレンチ西壁土層断面
図版６ ……82
６－１　北壁土層断面
６－２　東壁土層断面
図版７ ……83
７－１　１面土坑２東西ベルト土層断面(南から)
７－２　3a面中央ベルト土層断面（南東から）
図版８　出土遺物１ ……84
図版９　出土遺物２ ……85
図版10　出土遺物３ ……86
図版11　出土遺物４ ……87
図版12　出土遺物５ ……88
図版13　出土遺物６ ……89
図版14　北条小町邸跡の土坑16から出土した大型植物遺体 ……90
図版15　若宮大路周辺遺跡群の土坑４から出土した大型植物遺体 ……91
図版16　北条小町邸と若宮大路周辺遺跡群から産出した花粉化石・寄生虫卵 ……92
図版17　若宮大路周辺遺跡群の土坑５から出土した大型植物遺体 ……93
図版18　若宮大路周辺遺跡群（土坑５）から産出した花粉化石・寄生虫卵 ……94

第一章　遺跡と調査地点の概観

１．位置と地勢

地勢

鎌倉中心部は、鶴岡八幡宮から海に向かって真っ直ぐ伸びる若宮大路を基軸として、それにほぼ平行した東西２本の南北大路、および直交する何本かの東西道路により区画される。市街地のほとんどの地下には中世都市遺跡が存在する。

調査地点は若宮大路の西方、扇川の左岸に位置する。調査地点一帯は３ｍ程度掘り下げた、海抜５～６ｍほどで地山を検出するため、元は扇川によって形成された低地であった可能性がある。この扇川は海蔵寺あたりを水源とし、扇ガ谷の狭い谷を開析したあと、窟堂あたりから低地を形成しつつ、横須賀線と若宮大路が交差するあたりで滑川と合流する。

２．歴史的環境

縄文～古墳時代

縄文海進期、鎌倉市街地は全体的に水面下であったと考えられる。旧市内では荏柄天神社前の民家での井戸掘削時に諸磯式と阿玉台式（赤星1959）、15世紀以降に人為的に滑川を埋めた土中から加曾利Ｅ式と縄文晩期から弥生前期にかけての土器（馬淵2014）、現在の横浜国大付属小学校敷地内から称名寺式（赤星1959）の出土が知られる程度で、全体的にきわめて乏しい。

上本進二氏によれば、当初鎌倉中心部の沖積平野中心部を流れていた古滑川が、現在の位置に近い東の山裾に流路を変えるのは縄文時代晩期から弥生中期にかけてである（上本2000）。

旧市街で人の生活痕跡が確認されるのは弥生時代中期後半からである。この時期以降、大倉から二階堂にかけて大規模な集落が形成される（馬淵1998・1999、齋木ほか2007）。当地点付近では地点51（服部・宍戸1986）の河川にて弥生後期以降の土器が出土している。

古墳時代の集落・住居址は、海岸部の砂丘上、二階堂付近の平坦な微高地で発見されているが、当地点付近では、扇川の右岸でいくつか古墳後期の報告事例がある。地点79（齋木ほか1982）、地点80（松尾・継1993）・82（菊川ほか1999）・地点84（熊谷満2003）において竪穴住居址１棟を検出、地点181では7世紀中葉を上限とする竪穴住居址と溝が検出されている（菊川ほか2008）。地点169において古墳時代土師器が出土する中世基盤層下層の粘土層内の花粉分析が行われている。この結果、イネ科のプラントオパールが検出されていることから、この一帯で水田耕作がおこなわれていた可能性がある（鈴木1996）。

律令期～平安時代後期

鎌倉の文字史料上の最も早い年紀は綾瀬市宮久保遺跡出土木簡に「鎌倉郷鎌倉里　軽マ□寸稲　天平五年九月」とあるものである（國平・長谷川1990）。文献史料上では、天平七年（735年）の裏書を持つ『相摸国封戸租交易帳』（『正倉院文書』正集十八、神奈川県史資料編１－58）に「従四位下高田王食封　鎌倉郡鎌倉郷参捨戸　田壹伯参拾伍町壹伯玖歩」とあるものが知られている。この『相摸国封戸租交易帳』に見える郷名のうち、他に尺度郷、荏草郷が鎌倉郡内とされる。承平年間（931年-938年）に編纂された『和名類聚抄』（高山寺本、神奈川県史資料編１－490）には、鎌倉郡内の郷名として沼濱、鎌倉、埼立、荏草、梶原、尺度、大島が見える。この他に天平勝宝元年（749年）の『調庸布墨書』（東大寺正倉院御物、神奈川県史資料編１－102）に「相模國鎌倉郡方瀬郷」と見える。これらの郷のうち荏草郷については、

図１　調査地点と周辺の遺跡・旧跡（1/5000）

若宮大路周辺遺跡群（№.242）本調査地点　小町二丁目24-14
1.雪ノ下一丁目148-4・190-1（2013調査）宮田2014「第24回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨」NPO法人鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 2.雪ノ下一丁目161-33（2003調査）馬淵2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2」鎌倉市教育委員会 3.雪ノ下一丁目187-4（2008調査）4.雪ノ下一丁目200-3（2001調査）宗臺秀・宗臺富2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会 5.雪ノ下一丁目210（1988調査）馬淵1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 6.雪ノ下一丁目198-1（2002調査）神奈川県教育委員会2003「神奈川県埋蔵文化財調査報告45」神奈川県教育委員会 7.雪ノ下一丁目198-6（1998調査）小林ほか2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1」鎌倉市教育委員会 8.扇ガ谷一丁目110-8（2009調査）滝澤2012「若宮大路周辺遺跡群（№.242）発掘調査報告書」博通 9.小町二丁目39-6（1987-88調査）田代ほか1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」鎌倉市教育委員会 10.小町二丁目24-20（2007調査）滝澤2010「若宮大路周辺遺跡発掘調査報告書」株式会社』博通 11.小町二丁目43-2（2008調査）12.小町二丁目276他（1987調査）神奈川県教育委員会1990「神奈川県埋蔵文化財調査報告書31」神奈川県教育委員会 13.小町二丁目54-3（1998調査）原2000「第8回鎌倉市内遺跡調査・研究発表会」鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 14.小町二丁目279-2（1989調査）神奈川県教育委員会1991「神奈川県埋蔵文化財調査報告33」神奈川県教育委員会 15.小町二丁目280-3・12（1999調査）斎木・降矢1999「鎌倉考古45」鎌倉考古学研究所 16.小町二丁目280-2（1989調査）田代・原1990「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 17.小町二丁目280-18（1982調査）神奈川県教育委員会1984「神奈川県埋蔵文化財調査報告26」神奈川県教育委員会 18.小町二丁目48-10外（2003調査）原2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-1」鎌倉市教育委員会 19.小町二丁目281-2（2012調査）20.小町二丁目281-1（1989調査）神奈川県教育委員会1991「神奈川県埋蔵文化財調査報告33」神奈川県教育委員会 21.小町二丁目281（1977調査）松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会 22.小町二丁目28-3・5（1996調査）原ほか1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会 23.小町二丁目69-6（1989調査）田代・原1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会 24.小町二丁目19外（2009調査）25.扇ヶ谷一丁目74-9外（1993調査）菊川1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-2」鎌倉市教育委員会 26.扇ヶ谷一丁目74-8外（1988調査）菊川1990「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 27.小町二丁目5-27・32・34・35（2013調査）三ッ橋2014「第24回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨」NPO法人鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 28.小町二丁目12-15（1990調査）菊川1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 29.小町二丁目11-2（2005調査）森2012「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会 30.小町二丁目12-10（1991調査）大河内1991「鎌倉考古20」鎌倉考古学研究所 31.小町二丁目12-18（1987調査）馬淵1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」鎌倉市教育委員会 32.小町二丁目63-3（1992調査）斎木ほか1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-1」33.小町二丁目5-8（1997調査）福田ほか1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-1」鎌倉市教育委員会 34.小町二丁目5-7（2012調査）35.小町二丁目281-16・26・36・283-9・10（2013調査）36.小町二丁目4-19（1990調査）37.小町二丁目4-4（1989調査）38.小町二丁目5-23（1989調査）福田1990「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 39.小町二丁目4-9（1996調査）野本1997「第7回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨」40.小町二丁目4-6（1986調査）神奈川県教育委員会1989「神奈川県埋蔵文化財調査報告30」神奈川県教育委員会 41.小町二丁目283-6（1997調査）宮田1998「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会 42.小町二丁目4-1（2005調査）菊川2006「若宮大路周辺遺跡群（№.242）発掘調査報告書」株式会社斉藤建設 43.小町二丁目283の一部（2003調査）滝澤・宮田2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-1」鎌倉市教育委員会 44.小町二丁目1-14（1986調査）45.小町二丁目394（2005調査）神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化財調査報告51」神奈川県教育委員会 46.小町二丁目1-15（1986調査）神奈川県教育委員会1989「神奈川県埋蔵文化財調査報告30」神奈川県教育委員会 47.小町二丁目1-6（2002調査）神奈川県教育委員会2003「神奈川県埋蔵文化財調査報告45」神奈川県教育委員会 48.御成町126-1（2003調査）汐見2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2」鎌倉市教育委員会 49.御成町123-5（1997調査）汐見1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-1」鎌倉市教育委員会 50.御成町123-3（2004調査）福田2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-1」鎌倉市教育委員会 51.御成町12-18（1984調査）小川・服部1986「千葉地東遺跡」神奈川県立埋蔵文化財センター 52.御成町129-4（2008調査）松山ほか2009「若宮大路周辺遺跡群（№.242）発掘調査報告書」斉藤建設 53.御成町228-2（1985調査）斎木ほか1987「御成町228-2他地点遺跡」千葉地東遺跡発掘調査団 54.御成町130-6（1984調査）神奈川県教育委員会1985「神奈川県埋蔵文化財調査報告27」神奈川県教育委員会 55.小町一丁目120-1（1986調査）手塚1989「小町一丁目120番1地点」風門社ビル発掘調査団 56.小町一丁目116（1985調査）馬淵1986「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2」鎌倉市教育委員会 57.小町一丁目117-3他4筆（2005調査）滝澤2006「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」有限会社鎌倉遺跡調査会 58.小町一丁目65-26（2009調査）59.小町一丁目65-30（2005鈴木）神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化財調査報告51」神奈川県教育委員会 60.小町一丁目116-4（1989調査）手塚1999「若宮大路周辺遺跡群」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 61.小町一丁目65-10（1977調査）松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会 62.小町一丁目66-3（1977調査）松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財調査年報Ⅰ」鎌倉市教育員会 63.小町一丁目106-1（1987調査）手塚1999「若宮大路周辺遺跡群」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 64.小町一丁目107-7（2010調査）滝澤2013「若宮大路周辺遺跡群（№.242）発掘調査報告書」株式会社博通 65.小町一丁目65-21（1979調査）齋木ほか1982「小町2丁目65番地21号地点・小町1丁目75番地1号地点」鎌倉考古学研究所 66.小町一丁目66-5（1996調査）神奈川県教育委員会1997「神奈川県埋蔵文化財調査報告39」神奈川県教育委員会 67.小町一丁目67-2（1987調査）福田1994「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会 68.小町一丁目103-9（1982調査）服部1984「蔵屋敷遺跡」鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会 69.小町一丁目75-1（1979調査）齋木1982「小町2丁目65番地21号地点・小町1丁目75番地1号地点」鎌倉考古学研究所 70.小町一丁目75-1（1979調査）齋木1982「小町2丁目65番地21号地点・小町1丁目75番地1号地点」鎌倉考古学研究所 71.小町一丁目81-18（1998調査）宮田2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1」鎌倉市教育委員会 72.小町一丁目81-23（1988調査）神奈川県教育委員会1990「神奈川県埋蔵文化財調査報告32」神奈川県教育委員会 73.小町一丁目81-8（1991調査）森1995「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書－鎌倉市小町一丁目81番8地点－」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 74.小町一丁目83-1（1990調査）佐々ほか1993「鎌倉市早見芸術学園改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」株式会社四門 75.小町一丁目83-3・32（2007調査）宮田2008「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」株式会社博通 76.御成町788-3外（1995調査）菊川1997「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-1」鎌倉市教育委員会 77.御成町808-6（2005調査）神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化財調査報告51」神奈川県教育委員会 78.御成町806-5他（1981調査）斎木1985「諏訪東遺跡」諏訪東遺跡調査会 79.御成町806-3（1981

調査）斎木1982「御成町806-3番地地点」鎌倉考古学研究所 80.御成町811（1991調査）松尾・継1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 81.御成町819-1（1984調査）神奈川県教育委員会1986「神奈川県埋蔵文化財調査報告28」神奈川県教育委員会 82.御成町819-1（1989調査）菊川ほか1999「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 83.御成町11-2（1979調査）斎木ほか1982「御成町806-3番地地点」鎌倉考古学研究所 84.御成町802-2（2002調査）熊谷満2003「第13回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨」鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 85.御成町11-15（1981調査）手塚ほか1983「蔵屋敷東遺跡」江ノ電鎌倉ビル発掘調査団 86.御成町790-7（2006調査）神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化財調査報告51」神奈川県教育委員会 87.御成町788-6（2013調査） 88.御成町786-1（1999調査）斎木・降矢2002「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書－第85地点－」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 89.御成町792-3・16（2011調査） 90.御成町843-1（2013調査） 91.御成町783-1他4筆（2005調査）斎木ほか2009「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書－御成町783番1他4筆地点－」鎌倉遺跡調査会 92.御成町778-1外（1988調査）神奈川県教育委員会1989「神奈川県埋蔵文化財調査報告31」神奈川県教育委員会 93.御成町763-5（2007調査）斎木2011「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書－御成町763番5地点」鎌倉遺跡調査会 94.御成町868外（1990調査）木村1993「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書－鎌倉市御成町868番地点－」鎌倉市教育委員会 95.御成町872-11（2012齋木） 96.御成町872-14（1991調査）木村ほか1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 97.御成町884-6（1997調査）宮田ほか1999「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団　宮田事務所 98.御成町727-12・19（1990調査） 99.由比ヶ浜一丁目126-1（2005調査）熊谷満2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2」鎌倉市教育委員会 100.由比ヶ浜一丁目126-11（2005調査）熊谷満2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2」鎌倉市教育委員会 101.由比ヶ浜一丁目123-5外（1994調査）馬淵1995「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1」鎌倉市教育委員会 102.由比ヶ浜一丁目127-1（2003調査）宗臺2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2」鎌倉市教育委員会 103.由比ヶ浜一丁目118-8（1987調査）馬淵1995「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1」鎌倉市教育委員会 104.由比ヶ浜一丁目118-7（1995調査）遠藤ほか1997「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2」鎌倉市教育委員会 105.由比ヶ浜一丁目117-1（1988調査）斎木1991「由比ヶ浜1-117-1地点遺跡」若宮大路周辺遺跡発掘調査団 106.由比ヶ浜一丁目116-9（2011調査） 107.由比ヶ浜一丁目120-2・14（2008調査）斎木2012「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書－由比ヶ浜一丁目120-14、120-2地点－」鎌倉遺跡調査会 108.由比ヶ浜一丁目120-6（1991調査） 109.由比ヶ浜一丁目128-7（1986調査）馬淵1995「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4」鎌倉市教育委員会 110.由比ヶ浜一丁目128-21（2013調査） 111.由比ヶ浜一丁目129-5（1993調査）清水ほか1995「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書（由比ヶ浜一丁目129番5地点）」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 112.小町二丁目364-17（2009調査）押木「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-2」鎌倉市教育委員会 113.小町二丁目349-1の一部（2008調査） 114.小町二丁目345-2（1983調査）馬淵1985「小町2-345番2地点遺跡発掘調査報告書」小町二丁目345番-2地点遺跡発掘調査報告書 115.小町一丁目321-1（1993調査）宮田1996「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群（鎌倉警察署構内）発掘調査団 116.小町一丁目322-2（1987調査） 1989「神奈川県埋蔵文化財調査報告30」神奈川県教育委員会 117.小町一丁目325-イ（1992－1993調査）佐藤・原1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書」鎌倉市教育委員会 118.小町一丁目319-2（1978調査）松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会 119.小町一丁目309-5（1982調査）齋木1983「小町一丁目390番5地点発掘調査報告」（推定）藤内定員邸跡発掘調査団 120.小町一丁目309-4（1978調査）松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会 121.小町一丁目322-1（1992調査）宮田1997「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡発掘調査団 122.小町一丁目891（1979・1980調査）斎木1985「（推定）藤内定員邸跡遺跡」鎌倉市教育委員会 123.小町一丁目329-7（2013調査） 124.小町一丁目329-1（2010・2011・2012調査）滝澤・安藤2014「若宮大路周辺遺跡群（№242）発掘調査報告書」株式会社博通 125.小町一丁目305・308（1975調査）松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会 126.小町一丁目331-1（2012調査） 127.小町一丁目333-2（2007調査）原「貿易陶磁研究28」貿易陶磁研究会 128.小町一丁目333-15（2010調査）押木2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会 129.小町一丁目302（1982調査） 130.小町一丁目302（1977調査） 131.小町一丁目287-13（1992調査）斎木1992「鎌倉考古22」鎌倉考古学研究所 132.小町一丁目276-18・22・38（2005調査）宮田2006「若宮大路周辺遺跡発掘調査報告書」株式会社博通 133.小町一丁目1028-1（1990調査）大河内1997「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 134.大町1084-4（2007調査） 135.大町一丁目1032-1（1982調査）神奈川県教育委員会1984「神奈川県埋蔵文化財調査報告26」神奈川県教育委員会 136.大町一丁目1034-9（2010調査）

北条時房・顕時邸跡（№278） 137.小町一丁目264-4（2002調査）福田ほか2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-1」鎌倉市教育委員会 138.雪ノ下一丁目265-3（1988調査）田代・原1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会、宗臺秀・宗臺富1999「北条時房・顕時邸跡」東国歴史考古学研究所 139.雪ノ下一丁目267-2・4（2010調査）熊谷満2014「北条時房・顕時邸跡発掘調査報告書」株式会社博通 140.雪ノ下一丁目269-1（2006調査） 141.雪ノ下一丁目271-1（1987調査）原・田代1989「北条時房・顕時邸跡」北条時房・顕時邸跡発掘調査団 142.雪ノ下一丁目271-3（1998調査）馬淵2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2」鎌倉市教育委員会 143.雪ノ下一丁目236-1（2004調査）原2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1」鎌倉市教育委員会 144.雪ノ下一丁目271-4（1998調査）馬淵2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2」鎌倉市教育委員会 145.雪ノ下一丁目272（1996調査）宗臺秀・宗臺富1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-1」鎌倉市教育委員会 146.雪ノ下一丁目233-9（1986調査）馬淵1987「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書3」鎌倉市教育委員会 147.雪ノ下一丁目234-3（2008調査） 148.雪ノ下一丁目273－ロ（1986調査）原ほか1988「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4」鎌倉市教育委員会 149.雪ノ下一丁目273-イ（1997調査）瀬田ほか1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-1」鎌倉市教育委員会、齋木ほか1999「北条時房・顕時邸跡」北条時房・顕時邸跡・鎌倉遺跡調査会 150.雪ノ下一丁目274-2（1986調査）原・福田1988「北条時房・顕時邸跡」北条時房・顕時邸跡発掘調査団

北条小町邸跡（№282） 151.雪ノ下一丁目377-6・7（1994調査）馬淵ほか1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-2」鎌倉市教育委員会 152.雪ノ下一丁目374-2（1985調査）玉林ほか1985「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2」鎌倉市教育委員会 153.雪ノ下一丁目372-7（1984調査）馬淵1985「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1」鎌倉市教育委員会 154.雪ノ下一丁目371-1（1984調査）馬淵1985「北条泰時・時頼邸跡」北条泰時・時頼邸跡発掘調査団 155.雪ノ下一丁目370-1（1996調査）土屋・宗臺富1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-1」鎌倉市教育委員会 156.雪ノ下一丁目369（1990調査）瀬田1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会 157.雪ノ下一丁目369-1（1996調査）原ほか1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会 158.雪ノ下一丁目369他（1989調査） 159.雪ノ下一丁目367-1・368-1（1998 調査）森ほか「北

条小町邸跡（泰時・時頼邸跡）発掘調査報告書」北条小町邸跡発掘調査団 160.雪ノ下一丁目419-3（1986調査）玉林1987「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書3」鎌倉市教育委員会 161.雪ノ下一丁目427番2外（2007調査）沖元2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会

宇津宮辻子幕府跡（№239） 162.小町二丁目366-1（1990－1991調査）田畑1991「第1回鎌倉市遺跡調査・発表会発表要旨」鎌倉考古学研究所・中世都市研究会 163.小町二丁目361-1（1996調査）原ほか1996「宇津宮辻子幕府跡発掘調査報告書」宇津宮辻子幕府跡発掘調査団 164.小町二丁目360-1（2012調査）165.小町二丁目354-2（1997調査）166.小町二丁目354-12外（1991調査）熊谷洋ほか1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 167.小町二丁目374-1（1998調査）原1998「第22回神奈川県遺跡調査・研究会発表要旨」神奈川県考古学会 168.小町二丁目354-2（1992調査）継1993「第3回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨」鎌倉考古学研究所・中世都市研究会 169.小町二丁目389-1（1994調査）原・佐藤1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」鎌倉市教育委員会 170.小町二丁目390-2外（2004調査）宇都2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26」鎌倉市教育委員会

巨福呂坂周辺遺跡（№256） 171.雪ノ下二丁目144-1（2011調査）滝澤2011「巨福呂坂周辺遺跡（№256）発掘調査報告書」株式会社博通

上杉定正邸跡（№188） 172.扇ガ谷二丁目195-2（2009調査）山口・松吉2014「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-2」鎌倉市教育委員会

華光院跡やぐら群（№101） 173.扇ガ谷二丁目191（2002調査）汐見・田畑2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会

無量寺跡（№196） 174.扇ガ谷一丁目26-27（2002調査）森ほか2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-2」鎌倉市教育委員会 175.扇ガ谷一丁目26-89（2005調査）森ほか2007「無量寺跡（第3次）発掘調査報告書」博通 176.扇ガ谷一丁目26-14（2006調査）滝澤ほか2008「無量寺跡（第4次）発掘調査報告書」博通 177.扇ガ谷一丁目26-74外（2002調査）宮田ほか2004「無量寺跡発掘調査報告書」博通

無量寺谷やぐら群（№118） 178.御成町39-6（1991調査）田畑・手塚1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会

今小路西遺跡（№201） 179.御成町25番1外1筆（2001調査）森ほか2003「今小路西遺跡発掘調査報告書」今小路西遺跡発掘調査団 180.扇ガ谷一丁目145-3・146-2（2011調査）後藤2012「第22回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨」NPO法人鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 181.御成町171-1外（2006調査）菊川ほか2008「今小路西遺跡（№201）発掘調査報告書－御成町171番1外地点－」斉藤建設 182.御成町200-2（2003調査）宇都ほか2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-1」鎌倉市教育委員会 183.御成町15-5（1980調査）手塚ほか1982「千葉地遺跡」千葉地遺跡発掘調査団 184.御成町625-3（1984・85調査）河野ほか1990「今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会 185.御成町625-3（1991調査）河野ほか1993「今小路西遺跡（御成小学校内）第5次発掘調査概報」鎌倉市教育委員会 186.由比ヶ浜一丁目136-1（2008調査）滝澤ほか2011「今小路西遺跡（№201）発掘調査報告書」博通 187.由比ヶ浜一丁目134-4（2008調査）

下馬周辺遺跡（№200） 188.由比ヶ浜二丁目106-6・7（2000調査）汐見ほか2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1」鎌倉市教育委員会 189.由比ヶ浜二丁目107-1（1995調査）汐見ほか1997「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2」鎌倉市教育委員会 190.由比ヶ浜二丁目107-5（2007調査）191.由比ヶ浜二丁目113-5（2009調査）192.由比ヶ浜二丁目110-5（1999調査）菊川2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1」鎌倉市教育委員会 193.由比ヶ浜二丁目54-15（2008調査）194.由比ヶ浜二丁目19-4（2006調査）沖元ほか2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1」鎌倉市教育委員会 195.由比ヶ浜二丁目18-12（1990調査）宗臺秀1992「下馬周辺遺跡　東京電力鎌倉営業所改築に係る発掘調査報告書」下馬周辺遺跡発掘調査団 196.由比ヶ浜二丁目18-1（2001調査）197.由比ヶ浜二丁目3-6（2008調査）宮田2010「下馬周辺遺跡発掘調査報告書」博通 198.由比ヶ浜二丁目3-7（2005調査）神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化財調査報告51」神奈川県教育委員会 199.由比ヶ浜二丁目2-12（1998調査）熊谷満1998「下馬周辺遺跡発掘調査報告書4」下馬周辺遺跡発掘調査団 200.由比ヶ浜二丁目2-2-10（1990調査）201.由比ヶ浜二丁目2-2-2（1988調査）202.由比ヶ浜二丁目2-39-14（2004調査）原2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1」鎌倉市教育委員会 203.由比ヶ浜二丁目2-27-9（1988調査）204.由比ヶ浜二丁目2-18-1（2001調査）205.大町二丁目1001-4（2005調査）馬淵2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27-1」鎌倉市教育委員会 206.大町二丁目975-6（2003調査）森2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22」鎌倉市教育委員会

米町遺跡（№245） 207.大町二丁目993-1外（2008調査）山口2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-2」鎌倉市教育委員会 208.大町二丁目992-7外（2003調査）滝澤・森2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2」鎌倉市教育委員会

小町大路東遺跡（№233） 209.大町一丁目1147（2013調査）後藤2014「第24回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨」NPO法人鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 210.大町一丁目1181（1980調査）原1980「鎌倉考古2」鎌倉考古学研究所

妙本寺遺跡（№232） 211.大町一丁目1146（1992調査）継ほか1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-1」鎌倉市教育委員会 212.大町一丁目1158-5（1990調査）宗臺秀1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会 213.大町一丁目1158-1（1987調査）福田1988「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4」鎌倉市教育委員会

『新編相模国風土記稿』（以下『風土記稿』と記す）「荏柄天神社」の項にて、「當郡郷名に荏草と記すあり、今其唱を失すれど全く當社地邊の舊唱ならん、草にかやの古訓あれば、えがらはえがやの轉訛なるを後文字をさへ今の如く書改めしなるべし」としている。また、現在の鎌倉市内中心部は鎌倉郷にあたるとされ（鈴木・鈴木1984）、調査地点も鎌倉郷内に含まれると考えられる。

奈良から平安後期の鎌倉には二十近い寺社があり、12世紀初頭までに都市神の勧請もおこなわれているので、このころすでにかなりの都市的な集住形態が形成されていた可能性が指摘されている（野口1993・馬淵1994）。

具体的な出土事例として、地点184では古代郡家の政庁域と付属舎域、平安期に下る基壇倉庫群な

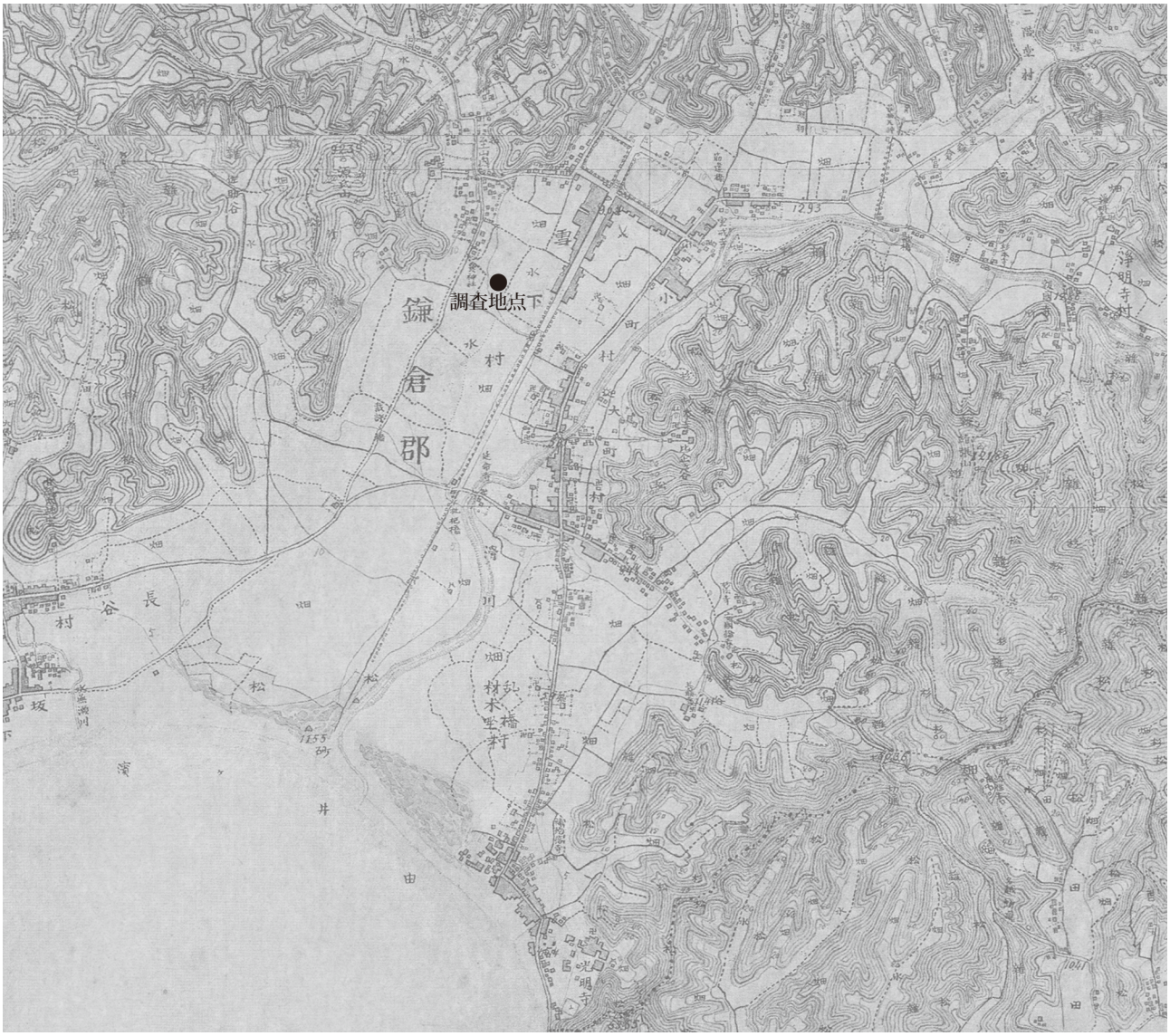


図２　明治１５年頃の調査地点周辺（『迅速測図』）（1/20000）

どが検出されている。古代Ⅰ期は「糒五斗天平五年七月十四日」の墨書がある木簡から８世紀前半代に、古代Ⅴ期は出土遺物から10世紀初頭頃に比定している（河野ほか1990）。この他、地点28（菊川1992）・51（服部・宍戸1986）・56（馬淵1986）・68（小川・服部1984）・80（松尾・継1993）・81（齋木ほか1982）・82（菊川ほか1999）・84（熊谷満2003）・96（木村ほか1992）・181（菊川ほか2008）において遺構とともに律令期以降の遺物が出土している。また、中世層からの出土等、層位は伴わないものの、律令期以降の遺物の出土が確認された地点に８（滝澤2012）・33（福田ほか1999）・55（手塚1989）・85（手塚ほか1983）・166（熊谷洋ほか1993）・183（手塚ほか1982）がある。

平安後期以降の事例に、鶴岡八幡宮境内の国宝館収蔵庫建設地の事前調査の際、八幡宮創建以前の層から板製五輪塔を伴う男女二体の合葬墓が検出されている。

鎌倉時代

源頼朝の鎌倉入り以前の鎌倉の状況は、詳しくはわからないが、『吾妻鏡』治承四年（1180年）十二月十二日条に「亥尅。前武衛「将軍」新造御亭有御移徙之儀。爲景義奉行。去十月有事始。令營作于大倉郷也。（中略）入御于寝殿之後。御共輩参侍所。十八ヶ間。二行對座。義盛候其中央。著到云々。几出仕之者三百十一人云々。又御家人等同搆宿館。自尓以降。東國皆見其有道。推而爲鎌倉主。所素邊鄙。而海人

野叟之外。卜居之類少之。正當于此時間。閭巷直路。村里授号。加之家屋並甍。門扉輾軒云々。」と記されており、頼朝の新御所御移徙と相前後して御家人の宿館が整備され、賑わったかのように見える。

頼朝が鎌倉入りするのは、『吾妻鏡』治承四年（1180年）十月六日条によると「着御于相模國。畠山次郎重忠爲先陣。千葉介常胤候御後。几扈從軍士不知幾千万。楚忽之間。未及營作沙汰。以民屋被定御宿館云々。」とあり、治承四年十月六日のこととなる。その後『吾妻鏡』同月十二日条に「寅尅。爲崇祖宗。點小林郷之北山。搆宮廟。被奉遷鶴岡宮於此所。以專光坊蹔爲別當職。令景義執行宮寺事。武衛此間潔齋給。當宮御在所。本新两所用捨。賢慮猶危給之間。任神鑒於寶前自令取探鬮給。治定當砌訖。然而未及花搆之餝。先作芽茨之營。本社者。御冷泉御宇。伊与守源朝臣頼義奉勅定。征伐安倍貞任之時。有丹祈之旨。康平六年秋八月。潛勸請石清水。建瑞籬於當國由比郷。今號之下若宮。永保元年二月。陸奥守同朝臣義家加修復。今又奉遷小林郷。致蘋蘩礼奠云々。」とあり、由比若宮を治承四年（1180年）十月十二日に小林郷の北の山（現在の鶴岡八幡宮所在地）に遷座している。この由比若宮は同条によると、康平六年（1063年）八月に源頼義が安倍貞任征伐を記念して、密かに石清水八幡宮を勧請し、永保元年（1081年）二月に源義家が修復したものとなっている。

頼朝の鎌倉入り後、鎌倉は徐々に整備されていくようで、『吾妻鏡』治承五年（1181年）六月廿七日条に「鶴岳若宮材木。柱十三本。虹梁二支。今朝且著由比浦之由申之。」とあり、同年七月三日条に「若宮營作事。有其沙汰。而於鎌倉中。無可然之工匠。仍可召進武蔵國浅草大工字郷司之旨。被下御書於彼所沙汰人等中。昌寛奉行之。」、同月八日条に「浅草大工参上之間。被始若宮營作。先奉遷神躰於假殿。武衛参給。相模國大庭御厨庋一古娘依召参上。奉行遷宮事。亦輔通景能等沙汰之。來月十五日可有遷宮于正殿。其以前可造畢之由云々。」、養和元年（1181年）七月廿日条に「鶴岳若宮寶殿上棟。社頭東方搆假屋。武衛著御。々家人等候其南北。工匠賜御馬。」、同月廿一日条に「景時者若宮造営之奉行也。」、同年八月十五日条に「鶴岳若宮遷宮。武衛参給云々。」とある。鶴岡若宮造営のための材木が由比浦に到着し、その後浅草大工を呼び寄せ、養和元年七月十五日に鶴岡若宮の遷宮を行っていることがわかる。また、この若宮造営の奉行が梶原景時であることもわかる。この後、『吾妻鏡』養和二年（1182年）三月十五日条に「自鶴岳社頭。至由比浦。直曲横而造詣往道。是日來離爲御素願。自然渉日。而依御臺所御懐孕御祈故。被始此儀也。武衛手自令沙汰之給。仍北條殿（時政）巳下各被運土石云々。」とあり、北条政子懐妊の御祈を契機に、直線の参道（若宮大路）の整備が行われたことがわかる。また、『吾妻鏡』養和二年（1182年）四月廿四日条に「鶴岳若宮邊水田号弦巻田。三町余。被停耕作之儀。被改池。專光・景義等奉行之。」とあり、水田を池に変えたことがわかる。現状と変化がなければ、これは現在の源平池となる。このように、由比若宮が現在の鶴岡八幡宮の地に遷された後も、八幡宮に関わるものは整備されており、当初から計画的に鎌倉の町づくりが行われていたとは言い難い。

鎌倉初期と関わる可能性のある出土事例として、地点141（原・田代1989）では定窯白磁、地点121（宮田1997）では渥美刻画文壺といったものが出土している。また地点141（原・田代1989）・144（馬淵2000）・145（宗臺秀・宗臺富1998）では、若宮大路と異なる軸線を持つ、切り合いから見て最も古い溝が検出されている。

この後の鎌倉の町づくりを示す例の一つとして、『吾妻鏡』嘉禄元年（1225年）十月四日条に「相州（北条時房）。武州（北条泰時）。相具人々而。宇津宮辻子并若宮大路等。令巡撿。而始被打丈尺。」とある。松尾剛次氏はこの「而始被打丈尺。」という記載から、北条泰時が御所移転に際し、鎌倉にはじめて丈尺制を導入したことを指摘している。松尾氏によれば「丈尺制」は平城京や平安京で施行されていた家地用の単位である。また、松尾氏はこの時に連動して戸主制度と保の制度が導入されたと推測している。

これらのことをまとめて、「宇津宮辻子への御所の移転は、丈尺制（戸主制度）・保制度という京都をモデルにした土地制度・行政制度の導入の契機となった。」と評している（松尾1993）。この他に、秋山哲雄氏は「13世紀半ば頃までは小町大路や横大路が軸となっている地域もあり、従来の議論で考えられてきた、若宮大路を朱雀大路に見立てるような都市計画は、少なくともこの時期までは機能していたとは言えない。」「若宮大路が中心軸として土地計画に影響を及ぼし始めるのは13世紀半ば以降である。」と述べており（秋山2006）、鎌倉の町づくりの転換点がいつあったのか、という点は考古学的にも着目していく必要はあろう。

近在の寺社

寿福寺　亀谷山寿福金剛禅寺。臨済宗建長寺派。開山明庵栄西、開基源頼家・北条政子。背後（西側）に源氏山を負っている。室町期に鎌倉五山三位となり、「えかきやぐら」と呼ばれるやぐらに、北条政子・源実朝墓と伝えられる五輪塔二基がある。

『新編鎌倉志』には「此地は、古源頼義・同義家、東國征伐の時に、源氏山に登、（後の源氏山條下に詳也。）此地に居住せらる。後に義朝、爰に居住あり。源氏代々の宅地なり。」とある。

寿福寺が建立される以前の様子は「吾妻鏡」の記述からある程度読みとれる。『吾妻鏡』治承四年（1180年）十月七日条に「先奉遥拝鶴岡八幡宮給。次「監」臨故左典厩（義朝）之亀谷御舊跡給。即點當所可被建御亭之由。雖有其沙汰地形非廣。又岡崎平四郎義實爲奉訪彼没後。建一梵宇。仍被停其儀云々。」とあり、源頼朝は鎌倉入りした翌日に、源義朝の旧跡を訪れて、ここに第を構えようとしたが、土地が狭い上に、岡崎義実が義朝の菩提を弔うために堂を建立していたので、沙汰やみになっている。

『吾妻鏡』治承五年（1181年）三月一日条に「今日。武衛依爲御母儀御忌月。於土屋次郎義清亀谷堂。被修佛事。」とあり、頼朝の母の仏事が、岡崎義実の子である土屋義清の亀谷堂で修せられている。

『吾妻鏡』正治二年（1200年）閏二月十二日条に「爲尼御臺所御願。爲建立伽藍。被點出土屋次郎義清亀谷之地。是下野國司御舊跡也。爲報其恩岡崎四郎義實兼建草堂者也。今日。民部丞行光。大夫属入道善信巡撿件地云々。」とあり、義朝の旧跡に岡崎義実が草堂を建立し、これを土屋義清が相伝していることがわかる。翌十三日条に「亀谷地被寄附葉上房律師榮西。（後号僧正。）可爲清浄結界之地之由被仰下。午剋。結衆等行道其地。施主監臨給。所右衛門尉朝光供奉御輿。義清搆假屋儲珍膳云々。未尅。堂舎（壽福寺也。）營作事始也。善信。行光等奉行之。」とあり、この地を栄西に寄進し、造営が開始されたことがわかる。同年七月十五日条に「於金剛壽福寺。新圖十六羅漢像。被遂開眼供養。導師當寺長老葉上房律師榮西也。尼御臺所爲御聽聞。有参堂云々。」とあり、これが壽福寺の初見となる。ここに記載される十六羅漢像については、同年七月六日条に「尼御臺所於京都被圖十六羅漢像。佐々木左衛門尉定綱調進之。今日到來。御拜見之後。令奉送葉上房之寺給云々。」とあり、佐々木定綱が京都で調進したことがわかる。以上の記事から義朝の旧跡に寿福寺が建立されたことがわかる。

寿福寺建立後については、『吾妻鏡』建仁二年（1202年）二月廿九日条に「壞渡故大僕卿（義朝）。沼濱御舊宅於鎌倉。被寄附于榮西律師亀谷寺。行光奉行之。此事。當寺建立最初。雖有其沙汰。僅爲彼御記念。幕下将軍殊被修復其破壞。暫不可有顛倒儀之由。被定之處。僕卿入于尼御臺所御夢中。被示云。吾常在沼濱亭。而海邊極漁。壞之令建立于寺中。欲得六樂云々。御夢覺之後。令善信記之給。被遣榮西云々。大官令云。六樂者六根樂歟云々。」とあり、沼浜の義朝旧宅から、建暦二年（1212年）七月九日条に「今日。御所侍被破却之。被寄附壽福寺。即可被新造云々。」とあり、侍所から材木が転用されている。これらの記事から、その後も寿福寺の整備が行われていたことがわかる。また、『吾妻鏡』宝治元年（1247年）十一月七日条に「丑刻。依失火。金剛壽福寺佛殿以下至捻門悉以災。」、『吾妻鏡』正嘉二年（1258年）

正月十七日条に「丑尅。秋田城介泰盛甘縄宅失火。南風頻扇。越薬師堂後山。到壽福寺。惣門。佛殿。庫裏。方丈巳下。塀内不殘一宇。餘炎。新清水寺窟堂。并其邊民屋。若宮寶藏。同別當坊寺焼失。」と二度の火災の記録があり、この時には既に伽藍が整備されていたようである。さらに、元享三年(1323年)北条貞時十三年忌供養には寿福寺から260人の僧衆の参加が確認でき、これは建長寺・円覚寺に次ぐもので、かなりの大寺になっていたことがわかる（円覚寺文書『北条貞時十三年忌供養記』神奈川県史資料編2-2364)。

英勝寺　寿福寺の北隣。東光山英勝寺と号す。浄土宗。尼寺。もと知恩院末。開山玉峯清因。開基英勝院長誉清春。寛永十三年十一月二十三日建立。英勝院は俗名勝、徳川家康の側室。勝は太田康資（太田道灌四代の孫）の娘。『新編鎌倉志』には「此地は本太田道灌の舊宅なり。」とあり、『鎌倉攬勝考』には「此地はもと、太田持資入道道灌の舊宅の地なりといふ。」と見え、『風土記稿』には『寺域は太田道灌の舊跡にして』とある。また、「三代将軍家光は本尊を寄進、また英勝院の一周忌に境内を拡張し寺領として源氏山を寄進した。」とある（貫・川副・佐脇1959)。

無量寺跡　鎌倉駅西方から銭洗弁天へ抜ける隧道手前の谷戸を無量寺谷と呼ぶ。『新編鎌倉志』には「興禪寺の西の方の谷なり。昔此處に無量寺と云寺有。泉涌寺の末寺也し云。今は亡。(中略)居宅甘縄なり。此邊まで甘縄の内なれば、此寺歟。後無量寺と云傳る歟。(中略) 今鍛冶綱廣が宅有。」とあり、『鎌倉攬勝考』には「興禪寺の西の谷をいふ。古へ此所に無量寺といふ寺ありし、泉涌寺の末なりしといふ。いま廢せり。(中略) 此邊までも甘縄のうちなり。」と見え、『風土記稿』には「興禪寺の西にあり、今字して無量寺谷と唱ふ、無量寺は京泉涌寺の末なりしと云ふ。(中略) 義景は藤九郎盛長が孫なり、甘縄に居る此地甘縄と接壌なれば無量壽院の故址ならんか、」とある。これらの記事から近世には、無量寺谷周辺まで「甘縄」と認識されていたことがわかる。

『神奈川県の地名』には「「金沢文庫古文書」の伝法灌頂附法次第に建長二年（1250年）九月「相州鎌倉无量寿寺」とみえ、同文書には無量寿院の名が散見する。」とあり（鈴木・鈴木1984)、これが年紀のわかるものでは、最も古いものになるか。

『吾妻鏡』文永二年（1265年）六月三日条に「日中夕立。故秋田城介義景十三年之佛事也。於無量壽院。自朔日至今日。或十種供養。或一切經供養也。而今迎正日。供養多寶塔一基。導師若宮別當僧正隆弁。(中略) 伊勢入道行願。武藤少卿入道心蓮。信濃判官入道行一以下數輩。爲結縁詣其場。説法最中。降雨如車軸。于時山上所搆之聽聞假屋顛倒。諸人希有而逃去。其中男女二人。自山嶺落于路之北。半死半生云々。」とあり、無量寺にて秋田城介義景十三年忌仏事が催され、説法の最中に大雨で山上の聴聞用仮屋が倒壊したことが記されている。また、『編智院法印灌頂資記』の弘安三年（1280年）の記事に「泰盛。號城介。

弘安三年九月三日。於關東授之。　法爾。城介歸依僧。　弘安三年九月十四日。於關東無量壽院授之。重受。」とある。『鎌倉大草紙』には応永二十三年（1416年）十月の上杉禅秀の乱の出来事として、「無量寺をば上杉蔵人大夫憲長。」「飯田。海上。園田四郎手負。無量寺へ取入。さて禪秀の方には二階堂信濃守。同山城守。其外駿河下總勢各一手に成て荒手二百餘騎にて攻來る。」とあり、無量寺が戦場となっている。ただ、『新編鎌倉志』、『鎌倉攬勝考』、『新編相模国風土記稿』のいずれも「無量寺口」として記載されているが、群書類従所収の『鎌倉大草紙』は「無量寺」となっている。

華光院跡　『新編鎌倉志』には「壽福寺の東向なり。眞言宗。本尊は不動。佐介谷稲荷別當の所居也。昔は壽福寺の塔頭にて、壽福寺新命入院の時は先づ此院に入て、それより壽福へ入院すと云ふ。榮西は、顕密禪なる故に、始より眞言宗なり。今は別院となりぬ。」とあり、『鎌倉攬勝考』には「壽福寺の向ひなり。もとは眞言宗、本尊不動なり。佐介谷稲荷の別當、古へは壽福寺の塔頭ゆへ、今も先此院に入て、夫よ

り壽福寺へ晋山せしといふ。今は別院となりぬ。」と見え、『風土記稿』には「龍興山と號す、眞言宗、鶴岡八幡宮の社僧なり、開基を頼舜と云ふ天福元年八月廿二日寂す、本尊不動を安ず、鶴岡社領の内一貫三百文を配當し、佐介稲荷社を進退す」とある。これについて、『鎌倉廃寺事典』は「しかるに『鎌倉志』にいう別院とは寿福寺の別院の意味らしいが、そうすると、鶴岡と寿福寺の両方に属しているみたいである。」としている（貫・川副1980）が、これは素直に「今は別の院となった。」と解釈し、昔は寿福寺の塔頭であったものが、鶴岡八幡宮下の佐介稲荷別当の居する所となった、と理解するのが良いのではないか。

『新編鎌倉志』「上杉定政舊宅」の項に、「上杉定政舊宅は、華光院の前を云ふ。今は畠也。此地を扇谷と云也。」とある。

松源寺跡　「現在の窟堂東谷にあったとみられる真言宗の寺。」（鈴木・鈴木1984）。『新編鎌倉志』には「銕観音の西、巌窟堂の山の中壇にあり。本尊は地蔵、運慶が作。相傳ふ、頼朝卿、伊豆に配流の時、伊豆日金に祈て、我世に出ば必ず地蔵を勧請せんと約せし故に、こゝに移すと云ふ。」とある。『鎌倉攬勝考』には「別當日金山彌勒院松源寺といふ。眞言新義。御室御所の末なり。」と見える。『風土記稿』には「日金山と號す、眞言宗、開山貞節正治二年五月廿四日死す、本尊地蔵長五尺許運慶作、を安ず、縁起に據に治承四年八月頼朝豆州日金山の地蔵に源家の開運を祈り、成業の後彼山の像を模して爰に安置し、即日金地蔵と稱すとなり」とある。『鎌倉廃寺事典』「松源寺」の項に「『神仏分離史料』下の四二〇頁には松源院に頼朝帰依の地蔵菩薩があり、長谷寺に移されたが、のち三浦武山に移されたとみえている。横須賀市武の東漸寺である。」と見える（貫・川副1980）。

『吾妻鏡』弘長三年（1263年）四月七日条に「天晴。入夜。窟堂邊騒動。但則静謐。是群盗十余人隠居地蔵堂之間。夜行輩等行向其庭生虜故也。」とあり、この記事に関して『鎌倉廃寺事典』「地蔵堂」の項に「この地蔵堂が窟堂の一部なのか、別にあったのかわからない。ともかく近くにあったのは確かである。これが後に松源寺となるものと考えられる。」としている（貫・川副1980）。

窟堂　寿福寺から鶴岡八幡宮西南隅へ至る道の北側、山腹に岩窟があり、不動明王を祀る。『新編鎌倉志』には「巌窟不動は、松源寺の西、山の根にあり。巌窟の中に、石像の不動あり。弘法の作と云ふ。【東鑑】には、窟堂とあり。俗、或は岩井堂と云ふ。巌窟堂、今は教圓坊と云僧持分なり。昔は等覚院の持分なりけるにや。」とある。『鎌倉攬勝考』には「【東鑑】に窟堂又は岩屋堂、岩井堂と有るも此所の事なり。日金地蔵のにしの山麓にて、窟中に石像の不動あり。弘法大師のさくといふ。此前の道路を岩屋小路と唱ふ。（中略）昔は等覚院といふが別當なりしが、今は散圓坊といふ庵室の持とす。むかし等覚院別當のときは、日金堂をも兼持せしといふ。」と見える。『風土記稿』には「村西に巌窟あり廻三間許高七尺、其中巌面に不動の像、弘法の畫く所と云を彫るのみ今は堂宇なし、（中略）尊運は鶴岡別當二十三世の僧なれば元は別當坊の持なりしを、應永三十三年七月等覚院の住僧卵塔を建るに依て尊運より譲りしなり、されど是等の事實都て傳を失へり、鶴岡社人山口榮存持」とある。

『吾妻鏡』文治四年（1188年）正月一日条に「日中以後属霽。大風。佐野太郎基綱窟堂下宅焼亡。焔如飛。人屋敷十宇災。依爲鶴岳近所。二品参宮中給。諸人競集云々。」とあるのが初見か。

『吾妻鏡』文治四年（1188年）十月十日条に「浮雲所々掩。雨僅灑即止。巳尅。窟堂聖阿弥陀佛房詣勝長寿院礼佛。退出之後。於路頓滅。年八十四歳稀有事。」とあり、これについては「この僧が永く堂守であったとすれば、窟堂はすでに平安時代後期から存在した、古い堂ということになる。」（鈴木・鈴木1984）というように、窟堂が頼朝以前から存在した可能性が示されている。

『吾妻鏡』承久二年（1220年）正月廿九日条に「入夜。窟堂邊焼亡。進士判官代工藤右衛門尉等家災」とあり、同年三月九日条に「酉刻。窟堂邊民居數十宇災。」とある。

前掲『吾妻鏡』弘長三年（1263年）四月七日条とあわせて、これらの記事から窟堂周辺が御家人と町家の混在する地帯であったことはわかるが、詳細は不明である。

『吾妻鏡』建暦三年（1213年）五月三日条に「當斯時。大學助義清自甘縄入龜谷。経窟堂前路次。欲参旅御所之處。於若宮赤橋之砌。流矢之所犯。義清亡命。件箭自北方飛來。」とあり、当時の甘縄から八幡宮前への経路の一つを窺い知ることができる。

『吾妻鏡』建長四年（1252年）五月五日条に「御所造営将軍家御方違事有其沙汰。陰陽道六人参入。（中略）亦龜谷方角罷向見定之可申之由。被仰下之間。行義。行方。景頼等令引率彼六人。登窟堂後山上。即歸参。當乾方之由。一同申之云云。」という記事も見える。

貞応二年（1223年）から、さほど時をへずに成立したとされる『海道記』には「夕に及びて西に帰りぬ。鶴が岳に登りて鳩の宮（鶴岡八幡宮）に参ず。（中略）月の光にたたずみて、石屋堂の山、梢かすかにながめて不審く帰る。」という記述が見える。また『鎌倉廃寺事典』「窟堂」の項に「永仁四年（1296）四月十六日未の刻、岩屋堂から出火し、北方へ焼けた（『随聞私記』）。」とある。

鎌倉幕府滅亡後の窟堂・松源寺の状況に関しては、應永三十三年（1426年）七月十七日付の等覚院（鶴岡八幡宮寺）法印御房（快季）宛の『尊運避状』（『鶴岡八幡宮文書』神奈川県史資料編3-5761）に「岩井堂日金事、可被立卵塔之由承候、（中略）以彼所限永代奉避渡候了、兼又同以被申方候之間承候、其段可令存知候也」とあり、卵塔を立てるための敷地が、鶴岡八幡宮別当尊運から等覚院快季に与えられていることがわかる。天文十六年十月十九日付の『鎌倉代官大道寺盛昌證文』（『鶴岡八幡宮文書』神奈川県史資料編3-6846）に「鶴岡御社家御菩提□（日）金免田之事、壹貫文目之所、改而爲御寄進申定、進之置候所也、仍證文如件」とあり、宛名は「社家御菩提所日金（松源寺）」となっている。このことから、松源寺が鶴岡八幡宮の菩提所であったことと、鎌倉代官大道寺盛昌から一貫文の地が寄進されたことがわかる。應永三十三年『尊運避状』と天文十六年『鎌倉代官大道寺盛昌證文』の二通は『鎌倉市史史料編第一』の『鶴岡八幡宮文書七七號文書』の注に「相州文書ニハ鶴岡八幡宮・僧松源寺所蔵トシテ収メラル」とあり、このことから「窟堂は松源寺の管理するところであったと考えられる。」としている（貫・川副・佐脇1959）。また、『新編鎌倉志』に「岩井堂日金事、如来院僧正、任證文、成敗不可有相違候、恐々謹言、五月九日、等覚院へ、空然判とある状あり。」と空然書状が記されている。空然は後の小弓公方足利義明で鶴岡八幡宮別当を務めている。還俗するのが永正年間（1504年～1520年）初期になるので、これ以前の書状となる。いずれの史料にも鶴岡八幡宮及び等覚院が関わることから、鶴岡八幡宮－等覚院－松源寺－窟堂、という関係があった可能性を指摘できる。

巽神社　祭神は奥津日子神（おきつひこ）・奥津日女神（おきつひめ）・火産霊神（ほむすび）。天正十九年（1591）十一月日付『徳川家康社領寄進状案』（『巽荒神社文書』鎌倉市史史料編1-406）には「寄進　荒神」とあり、『新編鎌倉志』及び『鎌倉攬勝考』は「巽荒神」としている。この他に「荒神社（『浄光明寺領荒神社領租税録』）」（貫・川副・佐脇1959）という呼び名もある。「勧請年月未詳。延暦二十年、坂上田村麿が葛原岡に勧請したと伝えている」という（貫・川副・佐脇1959）。『新編鎌倉志』には「今小路の南、壽福寺の巽にあり。故に名く、本壽福寺の鎮守なり。今は浄光明寺の玉泉院の持分也。」とあり、もとは寿福寺の鎮守であり、その寿福寺の巽の方角に所在することが名の由来であることが示されている。なお、「明治二年の前掲『租税録』（『浄光明寺領荒神社領租税録』）には、「当山鎮守、荒神社」とあり、浄光明寺の鎮守となっている。」とある（貫・川副・佐脇1959）。

第二章　調査の概要

１．調査にいたる経緯

小町二丁目24番14地点で個人専用住宅建設の照会があった。当該地点は若宮大路周辺遺跡群（№242）として県遺跡台帳に登録されている周知の遺跡であり、南側隣接地点の小町二丁目24番20地点において既に発掘調査が行われているため、当該地点においても遺跡の存在が確実視された。

建築計画では鋼管杭の打設による基礎工事を伴い、遺構の損傷は避けられないが、強度維持の関係上設計変更は困難なため、国庫補助事業として本発掘調査が実施されることとなった。

あらかじめ平成19（2007）年８月28日に重機による表土掘削を行ない、調査は同年８月29日から開始された。

２．調査の経過

日誌抄

8月28日（火）　重機による表土掘削
8月30日（木）　１面調査開始
9月3日（月）　１面全景写真撮影
9月4日（火）　１面土２掘削後全景写真
9月10日（月）　２面全景写真撮影
9月13日（木）　３b面全景写真撮影
9月14日（金）　３b面土４掘削後全景写真撮影
9月18日（火）　３c面全景写真撮影
9月19日（水）　４b面全景写真撮影
9月21日（金）　５b面全景写真撮影
9月25日（火）　７面板列写真撮影
9月26日（水）　機材撤収

３．調査方法

掘削方法

掘削にあたって、残土は場内処理とした。南側隣接地点の調査成果から、表土下３ｍ以上の遺構面の存在が想定されるため、安全上の理由から表土下1.5ｍほどから調査区を縮小して調査を進めた。

測量基準の設定

ここでは作業効率を考慮して、調査区長軸中心部を通る測量基準線と、それに直交する基準線を５ｍおきに配した。そして、のちこれらを世界測地系に座標変換するという方法を採用した。

調査区は以下の範囲内にある。

［エリア９］　X－75 225.70～X－75 230.02
　　Y－25 611.70～Y－25 615.42

図３　調査区設定図（1/300）

第三章　調査結果

第１節　概　要

１．層序と面の概要

地表面と表土

地表面の海抜は8.50ｍ～ 8.55ｍほどで、ほぼ平坦な面になっている。表土層は60 ～ 70cmほどあり、一部深くなっているものの、おおむね水平に堆積している。この表土層を除くと１層とした明灰色粘質土が現われ、この１層を除くと１面検出面となる。迅速測図では本地点周辺は水田や畑となっており、後世の耕作や近現代以降の開発で１層より上層は削平を受けている。

１面

１層とした明灰色粘質土の下に現われる最初の検出面。標高7.67ｍ～ 7.72ｍ程度となる。１面構成土は２層とした暗灰色弱粘質土となるが、２層下の遺構面のものも１面遺構群として検出している。

２面

１面遺構群を5cm～ 17cmほど掘り下げると黄灰色砂質土が現れる。これを２面とした。この黄灰色砂質土は泥岩粒や砂粒で構成されており、地行層になるか。海抜は7.51ｍ～ 7.59ｍ。

３ａ面

２面を5cm～ 15cmほど掘り下げると黄灰色砂質土の地行層が現れる。これを３ａ面とした。海抜は7.36ｍ～ 7.47ｍ。実際の遺構検出はこの地行層の下層に堆積した、腐植土層と炭層上面で行った。

３ｂ面

３ａ面下に5cm～ 10cmほど堆積する黄灰色砂質土層と炭層・腐植土層を掘り下げると、黄灰色砂質土の地行層が現れる。これを３ｂ面とした。海抜は7.31ｍ～ 7.34ｍ。

３ｃ面

３ｂ面を15cmほど掘り下げると、主に炭土(20層)で構成された遺構面が現れる。これを３ｃ面とした。調査区の南側では３ｂ面と同一の遺構面を使用していたようである。海抜は7.16ｍ～ 7.31ｍ。

４ａ面

３ｃ面を14cm～ 30cmほど掘り下げると、暗青灰色と青灰色の砂質土地行層が現れる。これを４ａ面とした。海抜は6.98ｍ～ 7.17ｍ。

４ｂ面

４ａ面を5cm～ 11cmほど掘り下げると、泥岩片・砂岩片を多く含んだ暗青灰色の砂質土層が現れる。これを４ｂ面とした。海抜は6.88ｍ～ 7.05ｍ。

５ａ面

４ｂ面を10cm～ 17cmほど掘り下げると、炭土と腐植土、木くずで覆われた層が現れる。これを５ａ面とし、遺構検出を行った。海抜は6.72ｍ～ 6.81ｍ。

５ｂ面

５ａ面を7cm～ 10cmほど掘り下げると、炭土が薄く広く堆積した青灰色砂質土の地行様の面と、灰褐色粘質土の混入した腐植土が現れる。これを５ｂ面とした。海抜は6.55ｍ～ 6.65ｍ

６ａ面

５ｂ面を14cm～ 17cmほど掘り下げると、暗灰褐色粘質土層上に炭土が広がった状況が現れる。これ

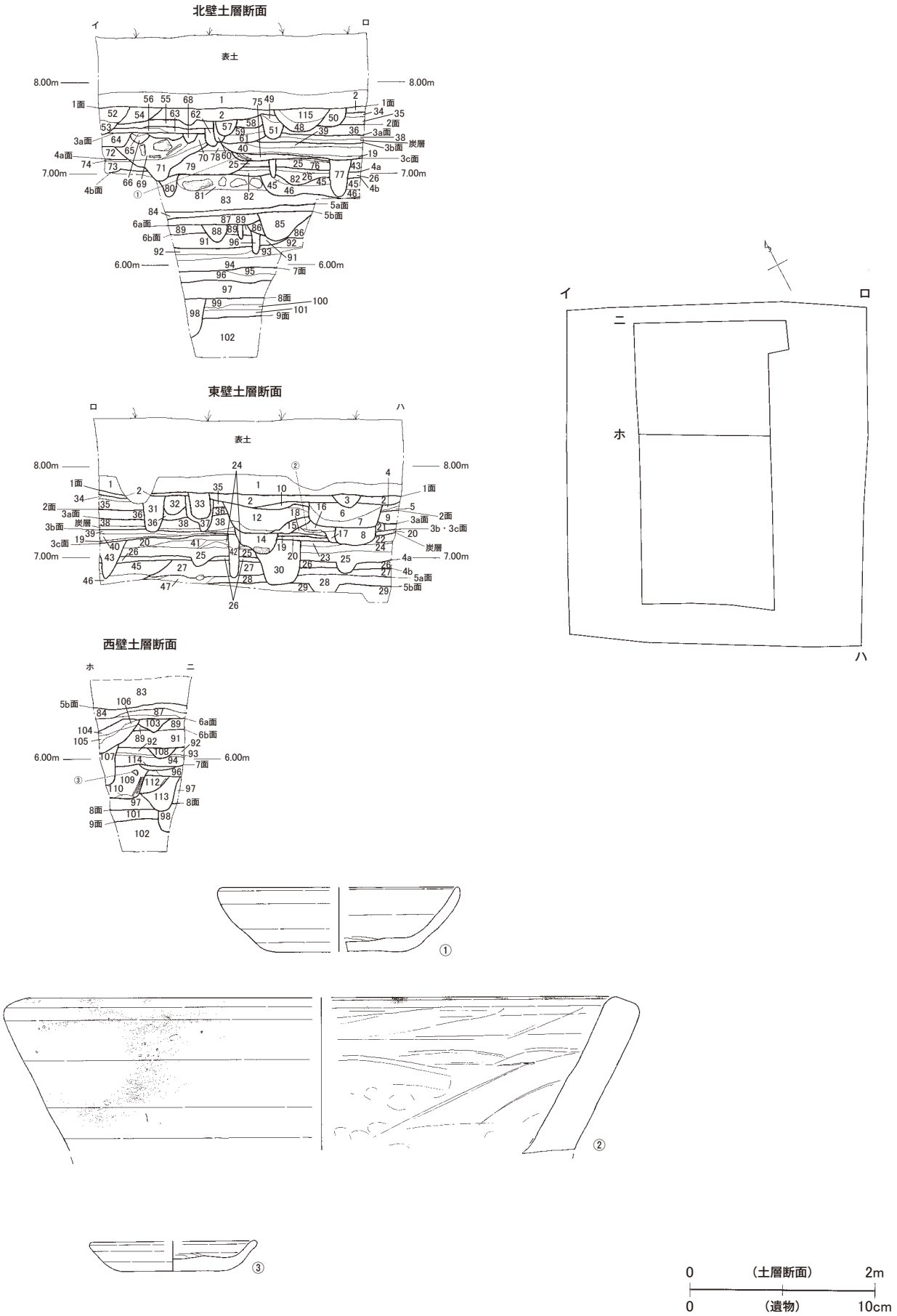

北壁土層断面
東壁土層断面
西壁土層断面
表土
8.00m
7.00m
6.00m
1面
2面
3a面
3b面
3c面
4a面
4b面
5a面
5b面
6a面
6b面
7面
8面
9面
炭層
3b・3c面
イ
ロ
ハ
ニ
ホ
0
(土層断面)
2m
(遺物)
10cm

図４　調査区土層断面図

1．明灰色粘質土　炭化物・鉄分・泥岩粒混入
2．暗灰色弱粘質土　炭化物（多）・土器細片・砂粒・鉄分（１面構成土）
3．灰褐色弱粘質土　砂岩（拳大）・炭化物・土器細片・泥粒（やや多）
4．暗灰色弱砂質土　炭化物（多）・砂粒
5．暗灰色砂質土　泥岩（小石大）・砂岩（小石大）つまる。炭化物（多）
6．暗灰色粘質土　炭化物（多）・泥岩粒（多）・砂岩粒（多）砂粒（多）・土器細片
7．暗青灰色砂質土　炭化物（やや多）・泥岩（小石大まで）（多）・砂岩（小石大まで）（多）
8．黄茶褐色弱砂質土　砂岩粒・貝砂・炭化物・暗灰色粘質土混入
9．黄灰色砂質土　砂岩（小石大まで）つまる。鉄分（２面構成土）
10. 茶褐色砂質土　砂岩粒（多）・炭化物・砂粒
11. 黄灰色砂質土　炭化物多量につまる。土器細片
12. 黄灰色砂質土　泥岩（小石大まで）・砂岩（小石大まで）白色砂粒つまる。炭化物混入。
13. 暗茶褐色粘質土　腐植土（茶褐色粘土）混入。砂粒・炭化物
14. 暗茶褐色粘質土　炭化物（多）・木片・腐植土・砂岩（拳大まで）・白色砂粒・遺物片
15. 黄灰色砂質土　暗灰色粘土混入
16. 黄灰色砂質土
17. 黄灰色砂質土　炭化土混入。砂岩（拳大）
18. 黄灰色砂質土　暗灰色粘土・炭化物（多）混入
19. 茶褐色繊維質腐食土　直上直下に薄い炭層ある（３ｂ面構成土）
20. 炭土　砂質土・木片（多）・泥岩粒・砂岩粒・砂岩（拳大）混入（３ｃ面構成土）
21. 黄灰色砂質土　９に比べキメ細かい泥岩粒・砂岩粒つまる、泥岩粒（微）・砂岩粒（微）・炭化物（３ａ面構成土）
22. 暗灰色砂質土　炭化物（多）・木片（多）（３ｃ面構成土）
23. 暗黄灰色砂質土　木片（多）・礫（多）・遺物片（多）・泥岩粒・砂岩粒
24. 炭土　砂質土（多）・木片（多）・泥岩（半人頭大）・砂岩（半人頭大）
25. 暗茶褐色腐食土　木片（多）・炭化物（多）泥岩粒・砂岩粒
26. 暗青灰色砂質土　炭化物（やや多）・砂岩・砂粒の地行土（４ａ面構成土）
27. 暗青灰色砂質土　26より色調暗い。腐植土・泥岩（拳大）（やや多）・砂岩（拳大）（やや多）（４ｂ面構成土）
28. 暗茶褐色腐食土　25と同質
29. 暗青灰色砂質土　上層、弱地行土　下層、腐植土（多）混入（５ａ面構成土）
30. 暗灰色粘質土　木片・炭化物・砂粒・腐植土（多）・貝殻粒・泥岩粒・砂岩粒
31. 灰褐色弱粘質土　炭化物（微）・砂粒・木片
32. 黄灰色砂質土　泥岩粒（小石大まで）・砂岩粒（小石大まで）つまる。炭化物（微）混入
33. 30と同質
34. 暗灰色弱砂質土　炭化物・泥岩粒（小石大まで）（多）
35. 暗灰色砂質土　34より砂質土
36. 暗灰色弱粘質土　炭化物（少）・木片（少）・泥岩粒・砂岩粒（２面構成土）
37. 灰褐色粘質土　炭化物（少）・泥岩粒・砂岩粒・遺物片
38. 黄灰色砂質土　砂岩粒・砂粒を含む　地行土（３ａ面構成土）
39. 38と同質の地行土（３ｂ面構成土）
40. 暗灰色弱粘質土　炭化物・木片・泥岩粒（やや多）・砂岩粒（やや多）・砂粒（やや多）
41. 暗灰色弱粘質土　炭化物（少）・泥岩粒（小石大）・木片
42. 暗茶灰色粘質土　炭化物（多）・木片（多）
43. 暗灰色粘質土　木片・炭化物・泥岩粒（多）・砂岩粒（多）粘性強（３ｃ面構成土）
44. 暗茶褐色弱粘質土　腐植土（多）・貝殻粒・炭化物
45. 暗茶褐色弱粘質土　腐植土中に砂岩粒（多）・砂粒（多）・炭化物・泥岩（小石大）
46. 暗青灰色粘質土　腐植土（少）・木片・炭化物・泥岩粒（やや多）・砂岩粒（やや多）
47. 19と同質の純正の腐植土
48. 灰褐色弱砂質土　山砂（多）・泥岩粒・砂岩粒・小石・炭化物・土器細片
49. 灰褐色弱砂質土　黄灰色砂質土（多）・炭化物・鉄分混入
50. 灰褐色弱粘質土　炭化物（やや多）・鉄分（やや多）・土器細片（やや多）・鉄塊・泥岩粒・砂岩粒・砂粒・小石
51. 灰褐色弱砂質土　土器細片・炭化物・山砂（少）
52. ２と同質　色調黒い。鉄分（微）
53. 灰褐色弱砂質土　山砂（多）・炭化物（微）
54. ２と同質　鉄分・炭化物、２より多い
55. 黄灰色砂質土　山砂（多）
56. 黄灰色砂質土　上層灰褐色粘土混入、木片・炭化物（２面構成土）
57. 灰褐色弱砂質土　炭化物・黄灰色砂（多）・土器細片・鉄分（少）
58. 黄灰色砂質土　砂岩（拳大まで）つまる地行土
59. 灰褐色弱砂質土　黄灰色砂と灰褐色粘土混合土・炭化物・土器片
60. 黄灰色砂質土　砂岩（拳大）
61. 黄灰色砂質土　58に比べきめ細かな砂岩・砂粒つまった地行土、炭化物
62. 黄灰色砂質土　灰褐色土・礫・鉄分・炭化物（やや多）
63. 黄灰色砂質土　上層、鉄分（多）　下層、灰褐色土混入（２面構成土）
64. 黄灰色砂質土　上層、砂岩粒　下層、炭化物（多）・灰褐色粘土
65. 黄灰色砂質土
66. 黄灰色砂質土　炭化物・砂粒塊（小石大）
67. 黄灰色砂質土　砂粒・炭化物つまる
68. 黄灰色砂質土　下層、炭化物（多）
69. 黒褐色土　炭化物（多）・木片（多）・大型砂岩
70. 暗灰褐色粘質土　木片・炭化物含む
71. 茶褐色腐植土　多量の木片・炭化物混入、しまり弱い
72. 茶褐色腐植土　炭化物（やや多）
73. 茶褐色腐植土　炭化物・木片（少）
74. 青灰色砂質土　弱い地行土（４ａ面構成土）
75. 20と同質
76. 青灰色砂質土　地行土
77. 暗茶褐色腐植土　木片（多）・炭化物（多）
78. 青灰色弱砂質土　灰褐色砂質土・炭化物混入
79. 暗茶褐色腐植土　木片・炭化物・泥岩粒（少）・砂岩粒（少）
80. 暗茶褐色腐植土　暗灰色砂質土・炭化物混入
81. 青灰色砂質土　大型泥岩（多）・大型砂岩（多）（４ｂ面構成土）
82. 青灰色砂質土　腐植土混入、炭化物・木片・泥岩粒・砂岩粒
83. 暗茶褐色腐植土　炭化物・貝片・泥岩粒・砂岩粒
84. 暗茶褐色腐植土　灰褐色粘質土混入（５ａ面構成土）

85. 暗茶褐色腐植土　有機質土がつまる
86. 暗茶褐色腐植土　85に似るが木片含む
87. 暗茶褐色腐植土　83と同じ（５ｂ面構成土）
88. 暗灰褐色腐植土　灰色粘土・炭化物（多）
89. 暗灰褐色粘質土　黒褐色粘土（炭）・砂岩・小石・茶灰色粘土混入（６面構成土）
90. 暗灰褐色粘質土　腐植土（多）・炭化物（多）・木片（多）・泥岩粒・砂岩粒
91. 暗灰褐色粘質土　鉄分・腐植土・炭化物・木片・灰
92. 暗灰褐色粘質土　91と似るが含有量少ない
93. 茶褐色腐植土　炭化物・泥岩粒・砂岩粒混入
94. 灰褐色粘質土　腐植土（少）混合、炭化物・泥岩粒（微）・砂岩粒（微）
95. 灰褐色粘質土　腐植土・木片・炭化物・泥岩粒（多）（７面構成土）
96. 灰褐色粘質土　95より混入物少ない（７面構成土）
97. 灰茶褐色粘質土　腐植土・炭化物・貝殻片・泥岩粒（微）・小石（微）、粘性強
98. 灰褐色粘質土　木片（少）・炭化物・黄灰色粘土・泥岩（小石大）
99. 灰褐色粘質土　木片（ごく微）・炭化物・泥岩粒（８面構成土）
100. 明灰褐色弱砂質土　青灰色砂・木片・炭化物（少）
101. 茶灰色粘土と青灰色粘土　木片（ごく微）・炭化物混入（８面構成土）
102. 暗灰褐色粘質土　茶灰色粘土（微）・遺物片（９面構成土）
103. 暗茶褐色腐植土　炭化物（多）・木片（多）・灰褐色粘土・泥岩粒
104. 暗茶褐色腐植土　木片（多）・炭化物（多）・灰褐色粘土・泥岩粒・小石
105. 灰褐色粘質土　炭化物（少）・腐植土（少）・泥岩粒
106. 茶褐色有機質土　炭化物（少）・灰褐色粘質土（少）混入
107. 灰褐色粘質土　腐植土・木片・炭化物・泥岩粒（やや多）
108. 暗灰褐色粘質土　木片（少）・炭化物（少）・泥岩（拳大）・貝殻片
109. 灰褐色粘質土　炭化物（少）・腐植土（少）・黄灰色粘土・泥岩粒・小石・木片
110. 暗茶色弱腐植土　炭化物（少）・木片混入
111. 青灰色砂質土　地行土
112. 暗茶褐色腐植土　大型の木製品（多）・遺物片・青灰色砂質土
113. 暗灰褐色粘質土　木片（少）・腐植土・炭化物・泥岩粒・小石・黄茶色粘土
114. 94に似るが混入物少ない
115. 暗灰色弱粘質土　鉄分（多）・炭化物（多）・土器細片・泥岩粒・小石

を６ａ面とした。海抜は6.31ｍ～6.49ｍ。

６ｂ面

６ａ面を12cmほど掘り下げると、暗灰褐色粘質土が広がり、遺物がまとまって出土したため、ここで一度精査を行った。遺構は検出されず、６ａ面出土遺物との接合も認められたため、生活面として評価できるかは定かではない。海抜は6.31ｍ～6.33ｍ。

７面

６ｂ面を37cm～40cmほど掘り下げると、灰褐色粘質土層の広がる面を検出する。板列を伴う落込みを確認できたため、これを７面とした。海抜は5.92ｍ～5.97ｍ。

８面

７面を42cm～47cmほど掘り下げると、茶灰色と青灰色の粘土層が検出された、遺物の出土と、土層断面から遺構の存在を確認できたため、これを８面とした。海抜は5.45ｍ～5.65ｍ。

９面

８面から11cm～13cmほど掘り下げると、暗灰褐色粘質土層になる。土層注記には遺物片が含まれるとあるが、茶褐色粒子を遺物片と誤認した可能性もあり、地山層である可能性を否定できない。海抜は5.32ｍ～5.45ｍ。

第２節　各　説

１．１面

面の概要（図５）

検出高：7.70 m～ 7.64 m　**面構成土**：暗灰色弱粘質土　**検出遺構**：建物１棟・土坑２基・ピット45穴

１面出土遺物：土師器皿Ｒ種小型（1 ～ 4）穿孔土師器皿Ｒ種小型（5）・土師器皿Ｒ種大型（6）・フイゴ羽口（7）・常滑片口鉢Ⅰ類（8）・渥美甕（9）・常滑甕（10・11）・常滑片口鉢Ⅱ類（12）・備前擂鉢（13・14）・瀬戸卸皿（15・16）・瀬戸折縁深皿（17）・瀬戸香炉か（18）・竜泉窯青磁Ⅰ類碗（19）・瀬戸碗か（20）・石製品硯(21)　**特記事項**:13の備前擂鉢は四辺が磨耗している。20の瀬戸は大窯期まで下る可能性あり。

建物１（図５）

位置：X(－75 226.39)～－75 229.25　Y－25 612.70 ～（－25 615.69）　**規模**：東西１間，2.00 m×南北１間，2.00 m　**主軸方位**：N－28°－E　**重複関係**：土坑２・P.1・P.12・P.32を切る、P.5に切られる

出土遺物：(P.4) 土師器皿Ｒ種小型（22）　**特記事項**：南東端は調査区外のため確認できず。また調査区が狭小なため建物の全容を明らかにしたとは言えない。

土坑１（図５）

位置：X－75 228.03 ～（－75 228.96）　Y－25 614.05 ～（－25 615.33）　**平面形**：楕円形　**断面形**：浅皿形　**規模**:長径1.24 m×短径（0.85 m）×深さ 0.10 m　**主軸方位**:N－24.5°－W　**重複関係**:土坑２・P.25・P.28・P.29を切る、P.2・P.3を切られる　**出土遺物**：常滑片口鉢Ⅱ類（23）・瀬戸平底末広碗（24）・瀬戸卸皿（25）　**特記事項**：調査区南壁よりで検出したため、南側の範囲は不明。23の常滑鉢は中野編年8 ～ 9型式のもの。

Ｐ．３（図５）

位置：X－75 228.37 ～－75 228.73　Y－25 614.52 ～－25 614.95　**規模**：長径0.45 m×短径0.34 m×深さ 0.20 m　**主軸方位**:N－35°－W　**重複関係**:土坑１・P.25を切る　**出土遺物**:土師器皿Ｒ種大型（26）

特記事項：26の土師器皿は13世紀後葉を上限とするもの。

土坑２（図６）

位置：X－75 226.51 ～（－75 229.63）　Y（－25 612.17 ～－25 615.03）　**平面形**：隅丸方形　**断面形**：浅皿形　**規模**：長径（2.54 m）×短径（2.08 m）×深さ 0.22 m　**主軸方位**：N－25°－W　**重複関係**：１面すべての遺構に切られる　**出土遺物**：土師器皿Ｒ種小型（1・2）・瓦器質輪花火鉢（3）・常滑甕（4 ～ 6）・常滑甕転用摩耗陶片（7）・瀬戸卸皿（8）・瀬戸蓋か（9）・青白磁碗（10）　**特記事項**：調査区が狭小のため東側と南側の範囲は不明。ただし東壁土層断面では土坑の落込みを確認していない。土師器皿は13世紀後葉が上限のもの。4・5の常滑甕は中野編年７～８型式。8の卸皿は古瀬戸前Ⅳ期～中期のものか。

１面ピット出土遺物（図６）

出土遺物：(P.1) 土師器皿Ｒ種小型（11・12）・土師器皿Ｒ種大型（13）・瀬戸柄付片口（14）・(P.6) 瓦器質火鉢（15）・(P.8) 瓦質火鉢（16）・(P.10) 土師器皿Ｒ種小型（17）・(P.13) 常滑壺（18）・(P.15) 土師器皿Ｒ種大型（19）・瀬戸卸皿（20）・(P.16) 鉄製品鑿か（21）・(P.18) 穿孔土師器皿Ｒ種小型（22）・(P.19) 常滑甕（23）・(P.25) 土師器皿Ｒ種大型（24）・青白磁梅瓶（25）・(P.26) 瓦器質土鍋（26）・(P.27) 土師器皿Ｒ種小型（27）・(P.29) 土師器皿Ｒ種大型（28）・(P.37) 土師器皿Ｒ種小型（29）・(P.43) 白磁輪花碗（30）・(P.44) 常滑片口鉢Ⅱ類（31）　**特記事項**：土師器皿は13世紀後葉が上限のもの。20 の卸皿は古瀬戸前Ⅳ期～中Ⅰ期のものか。23の常滑甕は中野編年６a ～６ b型式、31の片口鉢は８型式。

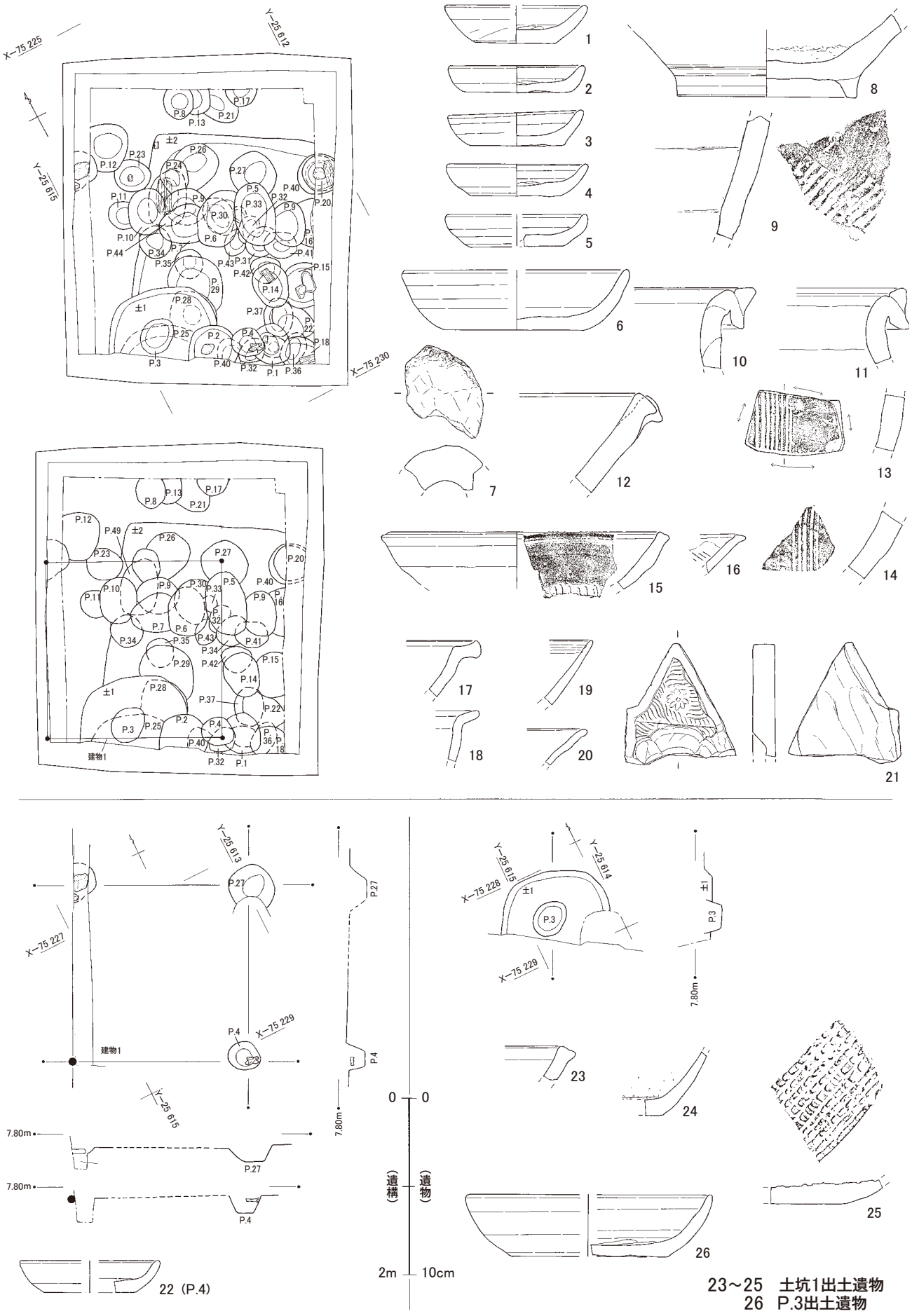
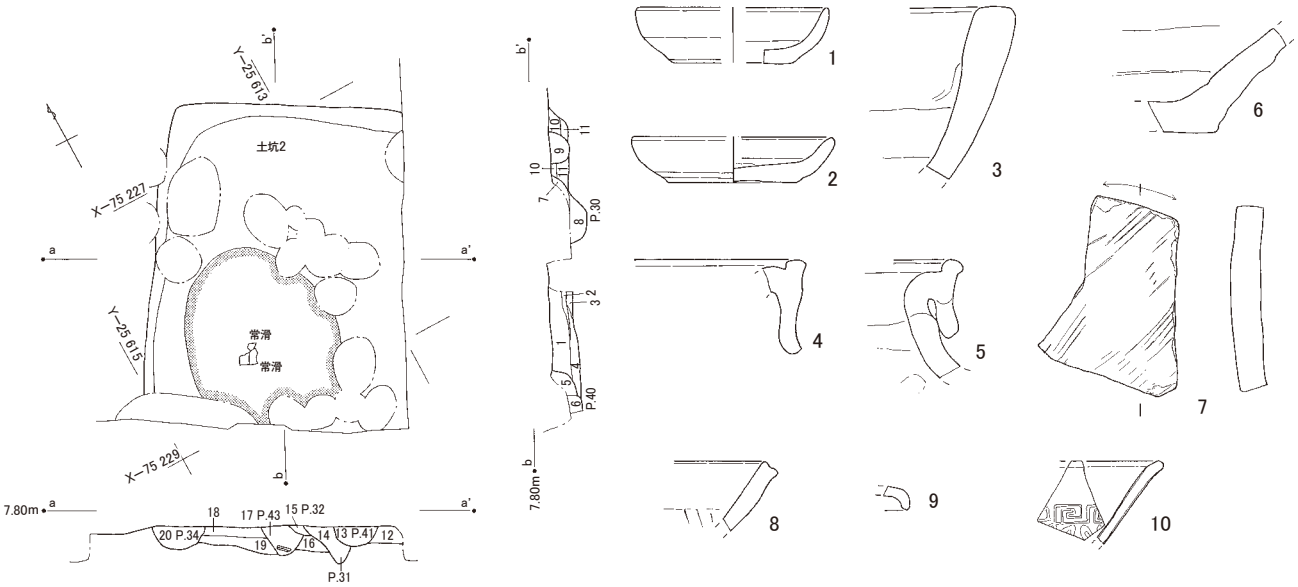


図５　１面遺構全図、同出土遺物・建物１・土坑１・P.3、同出土遺物



1．暗青灰色弱砂質土
　炭化物・泥岩粒・小石大泥岩・土師器皿細片やや多く含む
2．暗青灰色弱砂質土
　砂質土に暗茶色土少量混入、炭化物含む
3．暗青灰色弱砂質土
　２と同質
4．暗青灰色弱砂質土
　炭化物多く含む、少量の小石大泥岩片・土師器皿片を含む
5．暗青灰色弱粘質土
　黄色粘土・炭化物・泥岩片・砂質土を含む
6．暗青灰色弱砂質土
　灰茶褐色粘土・炭化物混入
7．暗青灰色弱粘質土
　５と同質
8．黄茶灰色砂質土
　炭化物・灰褐色粘質土混入
9．暗青灰色弱粘質土
　土師器皿細片・炭化物・泥岩粒・黄色粘土を多く含む、砂質土含む
10．暗青灰色弱砂質土
　炭化物・泥岩粒を少量含む
11．青灰色弱砂質土
　泥岩粒・小石大泥岩をやや多く含む
12．暗青灰色粘質土
　鉄分多く含む、炭化物・泥岩粒微量含む
13．暗青灰色粘質土
　鉄分・拳大までの泥岩・炭化物・やや多く含む
14．暗青灰色粘質土
　粘性強、炭化物多く含む、土師器皿細片・拳大までの泥岩・鉄分少量含む
15．暗青灰色粘質土
　14と同質。炭化物多く含む
16．暗茶褐色弱粘質土
　鉄分・炭化物少量含む、土師器皿細片・山砂・泥岩粒含む
17．茶褐色弱砂質土
　鉄分・土師器皿細片やや多く含む、炭化物・泥砂粒含む
18．茶褐色弱砂質土
　泥岩粒・炭化物・山砂を多く含む
19．茶褐色弱砂質土
　砂質土多く含む、炭化物・小石・大泥岩少量含む
20．暗青灰色弱砂質土
　炭化物多く含む、泥岩粒・鉄分・土師器皿細片含む

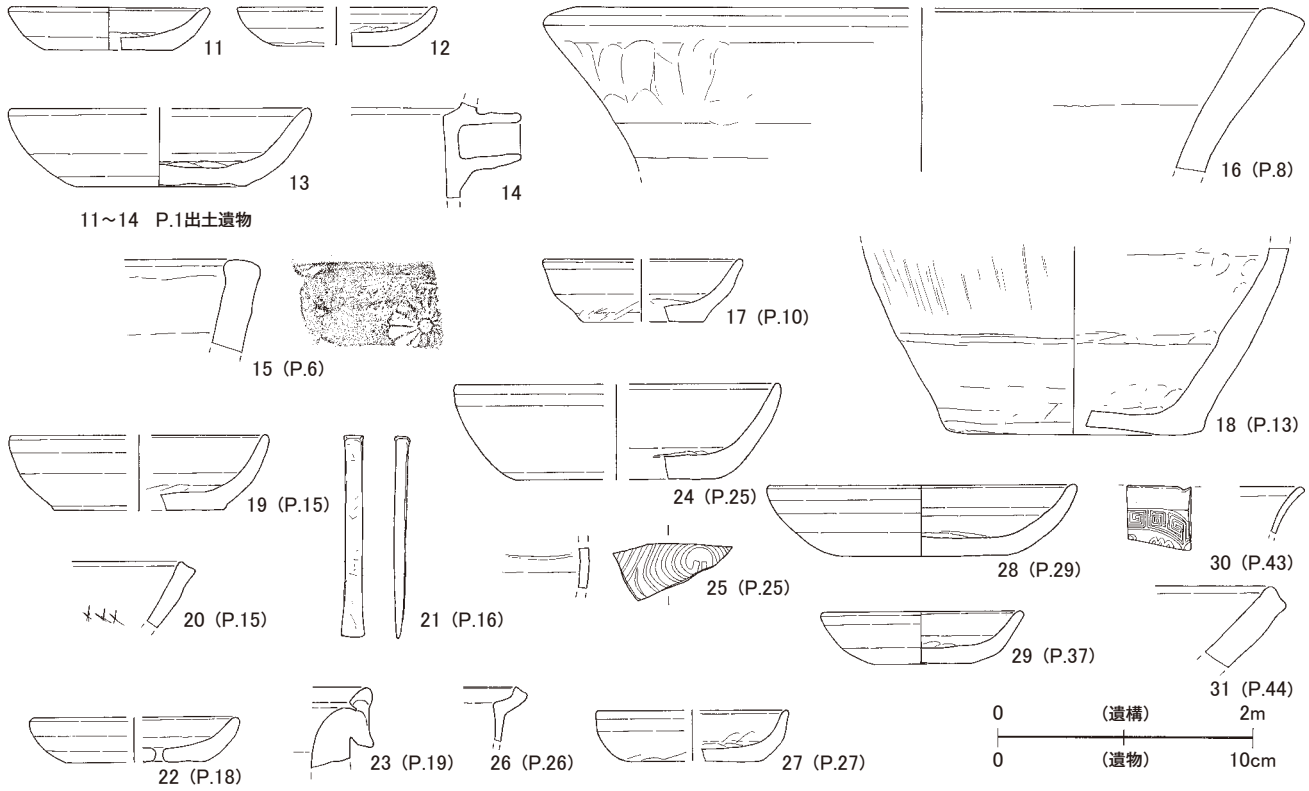


図６　土坑２、同出土遺物・１面ピット出土遺物

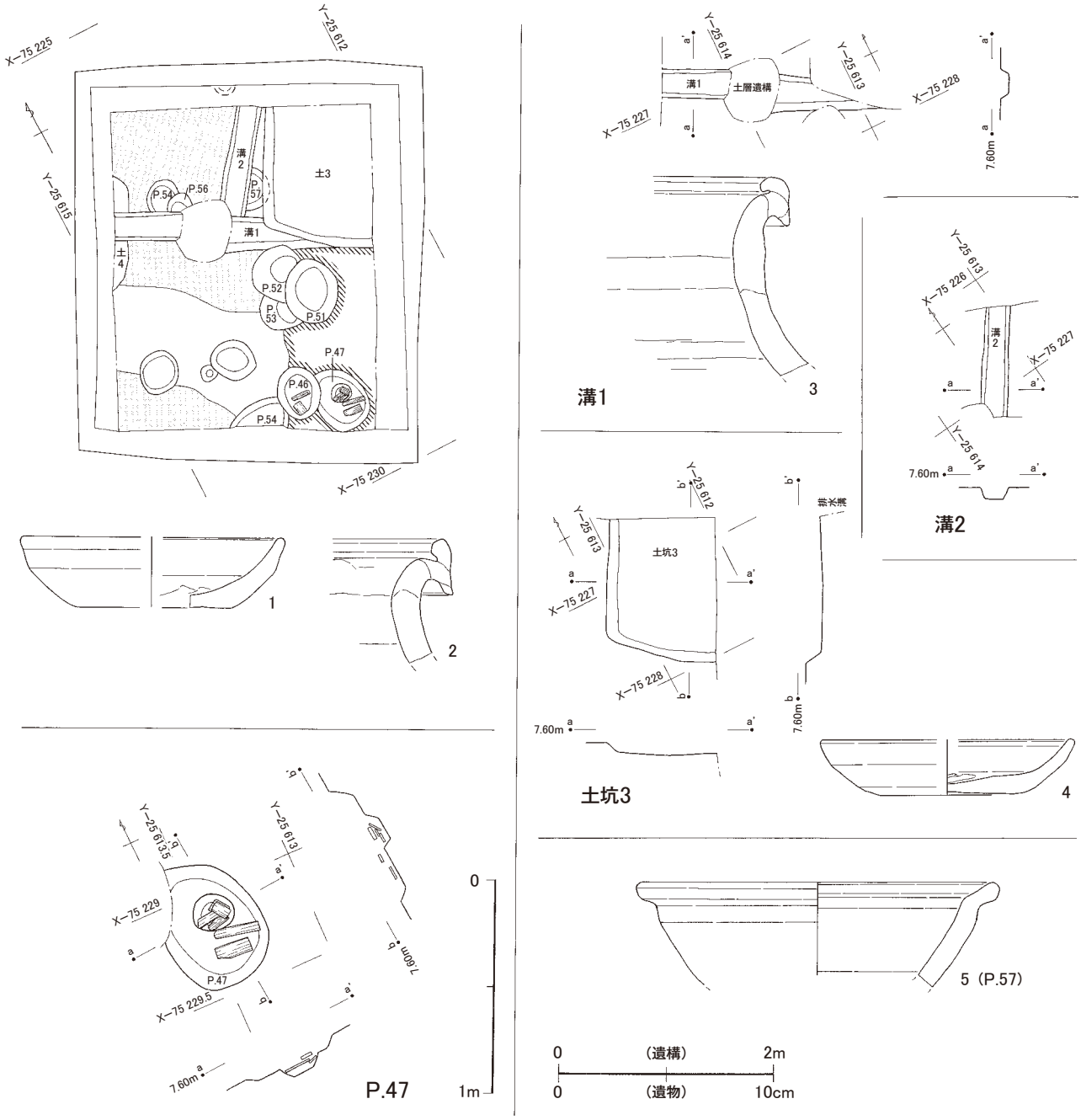


図７　２面遺構全図、同出土遺物・溝１、同出土遺物・溝２・土坑３、同出土遺物・P.47・２面ピット出土遺物

２．２面

面の概要（図７）

検出高：7.40 m～ 7.57 m　**面構成土**：黄灰色砂質土・暗灰色弱粘質土　**検出遺構**：溝２条・土坑２基・ピット12穴　**２面出土遺物**：土師器皿Ｒ種大型（1）・常滑甕（2）

溝１（図７）

位置:X(－75 226.53 ～－75 227.88)　Y(－25 612.84 ～－25 614.65)　**断面形**:逆台形　**規模**:最大幅0.35 m×長さ（2.07 m）×深さ 0.08 m　**主軸方位**：N-70.5°-W　**重複関係**：土坑４・溝２・P.54・P.56を切る、土坑３・P.52に切られる　**出土遺物**：常滑甕（3）　**特記事項**：常滑甕は中野編年６a ～ ６b。

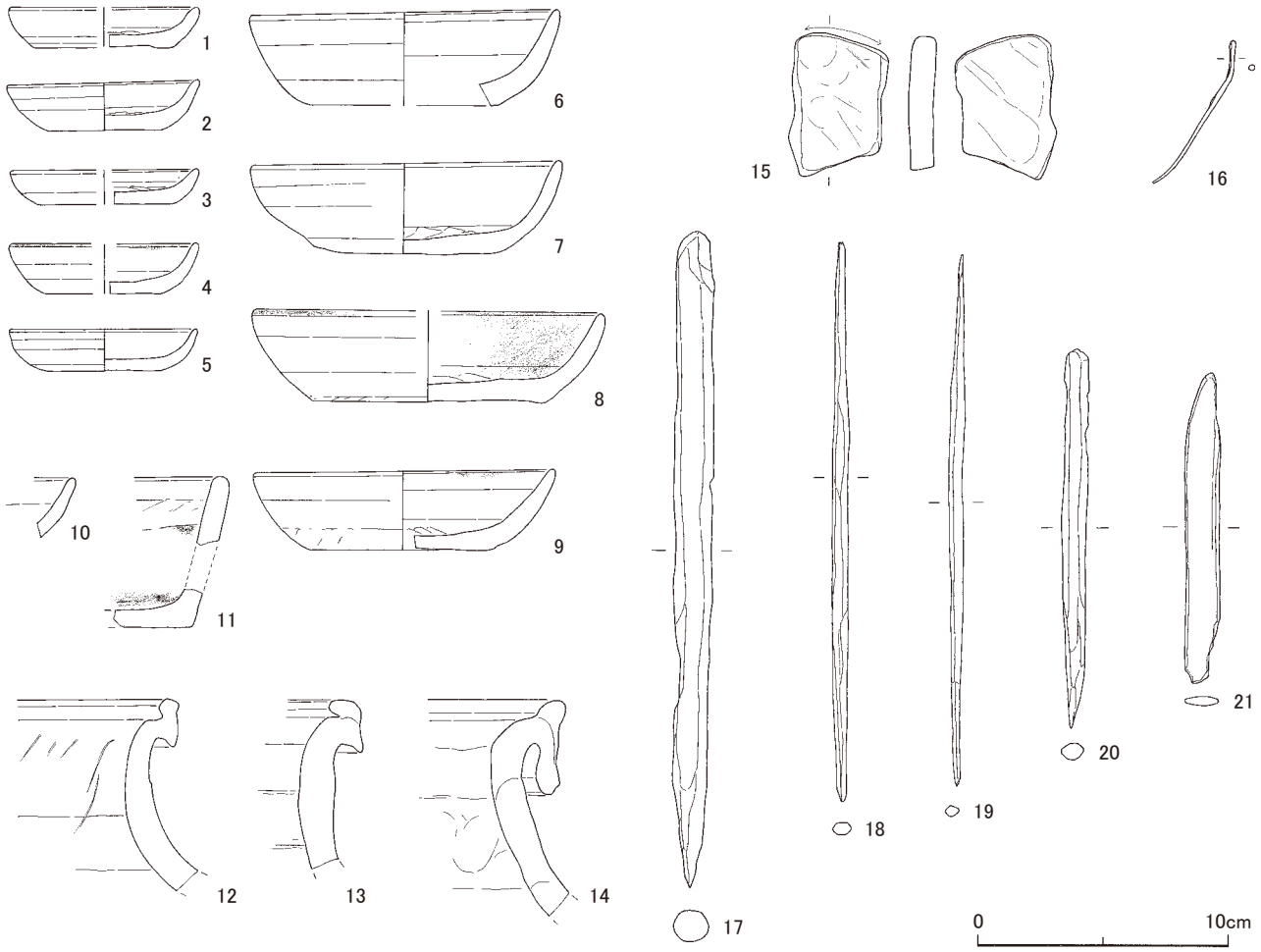


図８　２面構築土内出土遺物

溝２（図７）

位置：X（－75 226.27 ～－75 227.22）　Y（－25 612.86 ～－25 613.39）　**断面形**：逆台形　**規模**：最大幅0.25 m×長さ（1.04 m）×深さ 0.11 m　**主軸方位**:N-38.5°-E　**重複関係**:P.57を切る、溝１に切られる。**出土遺物**：図化可能遺物なし

土坑３（図７）

位置:X（－75 226.41 ～－75 228.04）　Y（－25 612.05）～－25 613.34　**平面形**:不整隅丸方形　**断面形**:浅鉢形　**規模**:長径（1.34 m）×短径（1.03 m）×深さ 0.14 m　主軸方位:N-24°-E　**重複関係**:溝１・P.57を切る　**出土遺物**：土師器皿Ｒ種大型（4）

P.47（図７）

位置：X－75 228.84 ～－75 229.46　Y－25 613.23 ～－25 613.70　**平面形**：不整楕円形　**断面形**：浅皿形　**規模**：長径0.63 m×短径0.46 m×深さ 0.06 m　**主軸方位**：N-5°-W　**重複関係**：P.46に切られる　**出土遺物**：図化可能遺物なし　**特記事項**：礎板を敷き詰めた穴をもつ。

２面ピット出土遺物（図７）

出土遺物：(P.46) 瀬戸折縁中皿（5）　**特記事項**：瀬戸は中Ⅰ・Ⅱ期のものか。

２面構築土内出土遺物（図８）

出土遺物：土師器皿Ｒ種小型（1 ～ 5）・土師器皿Ｒ種大型（6 ～ 9）・白色系土師器皿Ｒ種大型（10）・

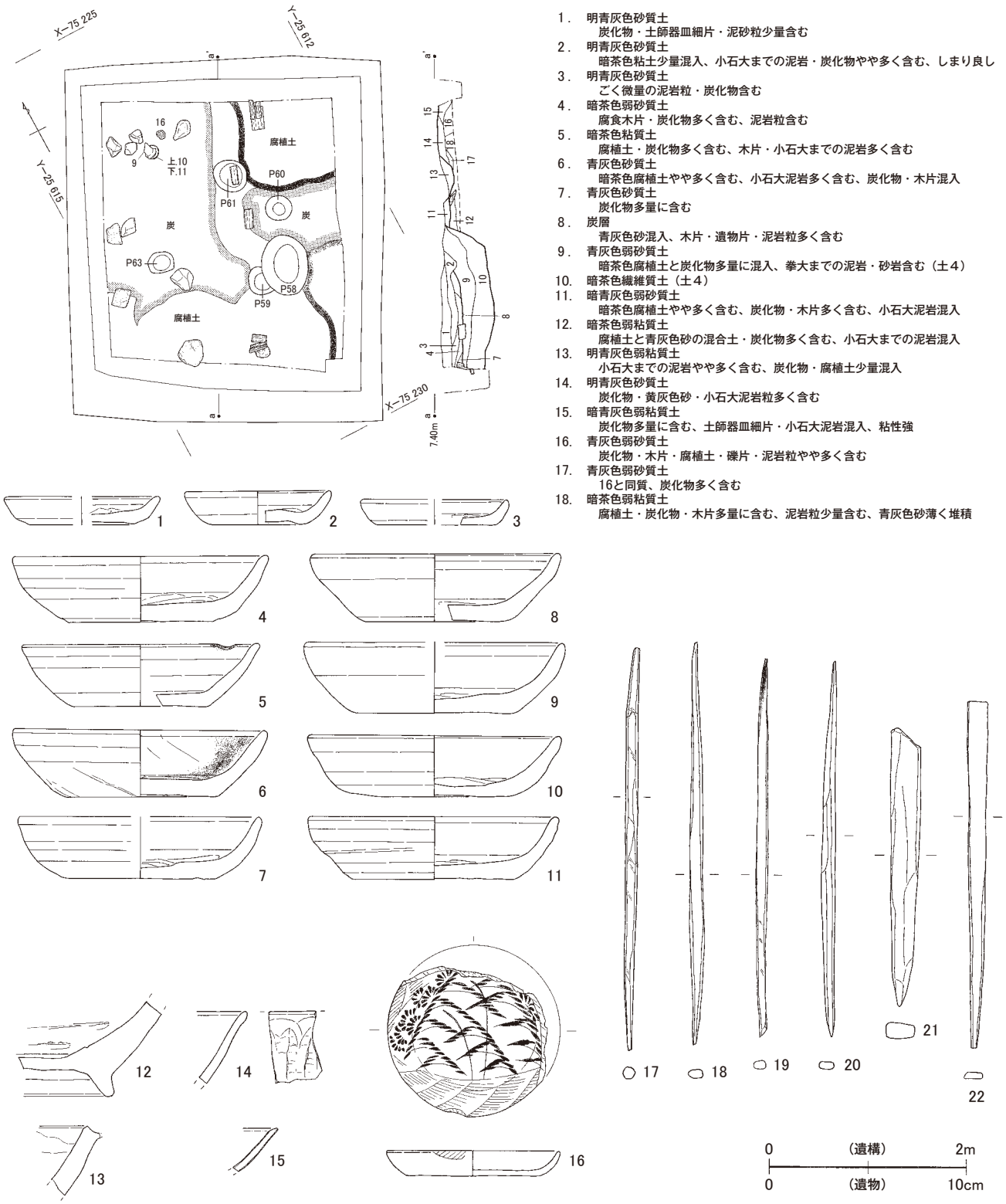


図９　３a面遺構全図、同出土遺物

土器香炉か（11）・常滑甕（12 ～ 14）・常滑甕転用磨耗陶片（15）・不明銅製品（16）・串状木製品（17）・箸状木製品（18・19）・ヘラ状木製品（20・21）　**特記事項：**土師器皿は13世紀後葉が上限のもの。常滑甕は中野編年６a ～ ８型式のもの。16の銅製品は近現代の可能性もある。調査区壁からの落下により近現代遺物が混入した可能性を指摘しておく。

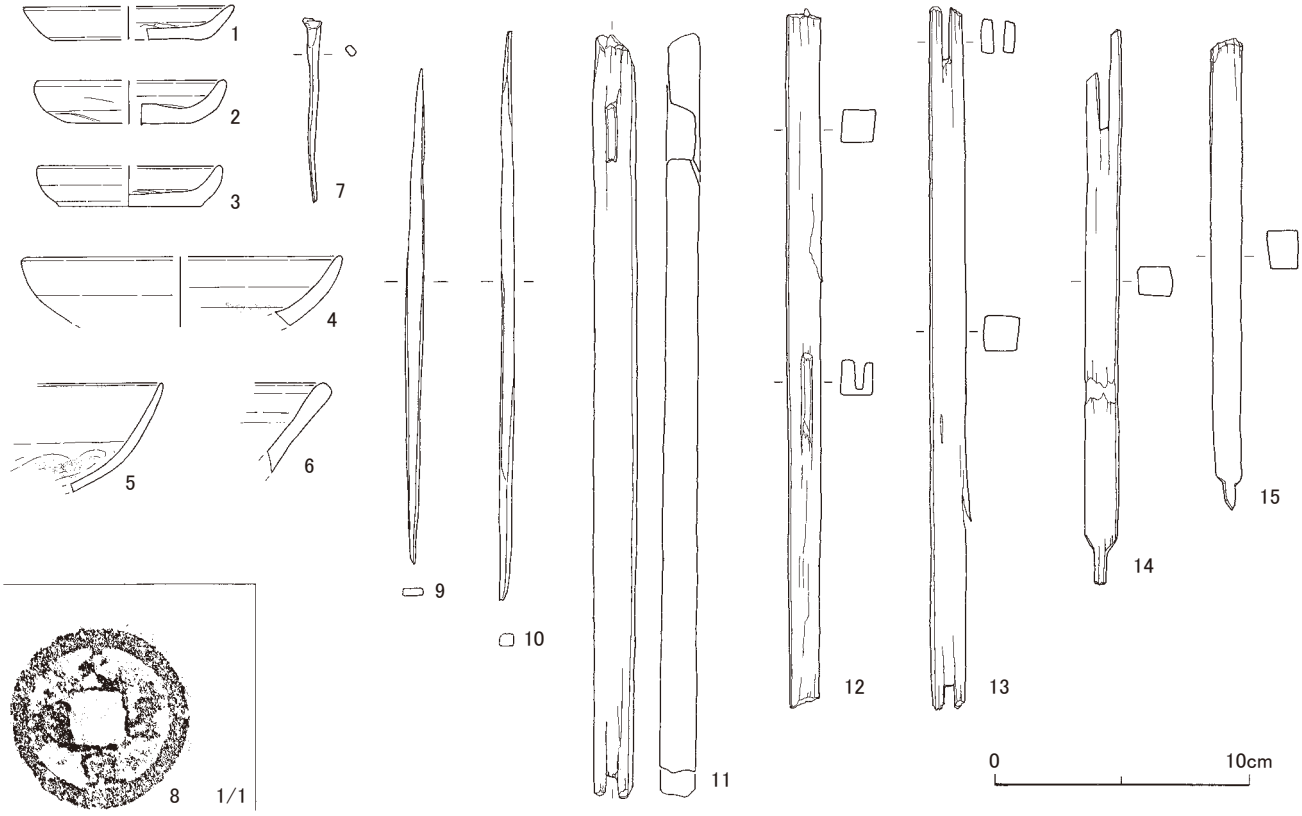


図10　3a面構築土内出土遺物

3．3a面

面の概要（図9）

検出高：7.35 m～7.40 m　**面構成土**：黄灰色砂質土　**検出遺構**：ピット5穴　**3a面出土遺物**：土師器皿R種小型（1～3）・土師器皿R種大型（4～11）・常滑片口鉢Ⅰ類（12）・常滑片口鉢Ⅱ類（13）・竜泉窯青磁Ⅱ類碗（14）・白磁Ⅸ類皿（15）・漆器皿（16）・箸状木製品（17～20）・ヘラ状木製品（21）・棒状木製品（22）　**特記事項**：土師器皿は13世紀後半以降のもの。14の青磁は13世紀中葉頃までのもの。15の白磁は13世紀後半のもの。

3a面構築土内出土遺物（図10）

出土遺物：土師器皿R種小型（1～3）・土師器皿R種大型（4）・瓦器質碗（5）・常滑片口鉢Ⅰ類（6）・鉄釘（7）・元豊通宝（8）・箸状木製品（9・10）・不明木製品部材（11～15）**特記事項**：土師器皿は13世紀中頃が上限となる。6の常滑片口鉢Ⅰ類は中野編年5～6 a型式のもの。11～15の木製品は建具の部材となる可能性もある。

4．3b面

面の概要（図11）

検出高：7.25 m～7.30 m　**面構成土**：黄灰色砂質土　**検出遺構**：土坑1基・ピット8穴　**3b面出土遺物**：土師器皿R種小型（1・2）・土師器皿R種大型（3・4）　**特記事項**：上面に炭化層が広く堆積している。土師器皿は13世紀後半以降のもの。

遺物集中部（図11・12）

位置：X－75 226.01～－75 227.65　Y－25 612.13～－25 614.55　**出土遺物**：土師器皿R種小型（5

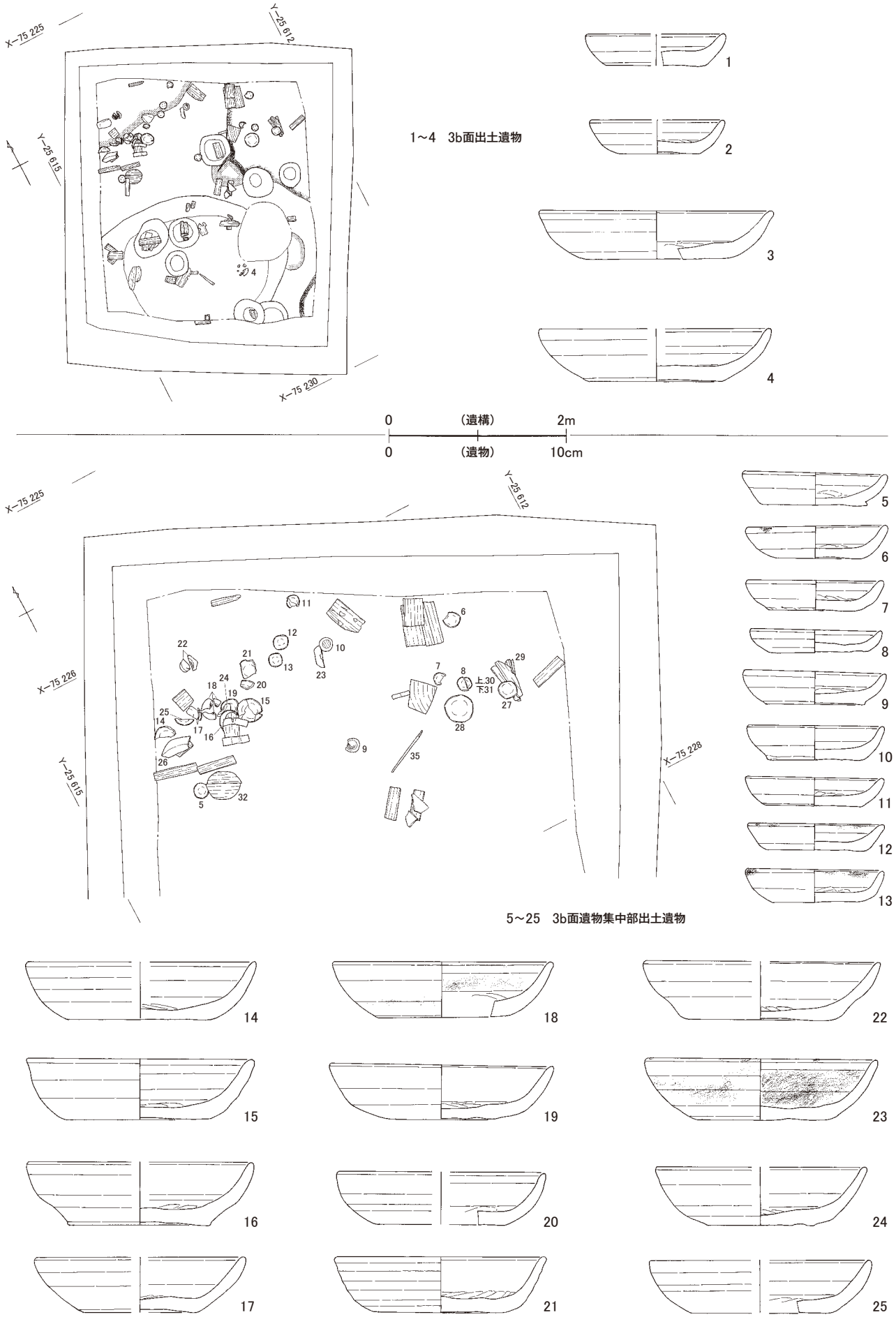


図11　３ｂ面遺構全図、同出土遺物・３ｂ面遺物集中部、同出土遺物（１）

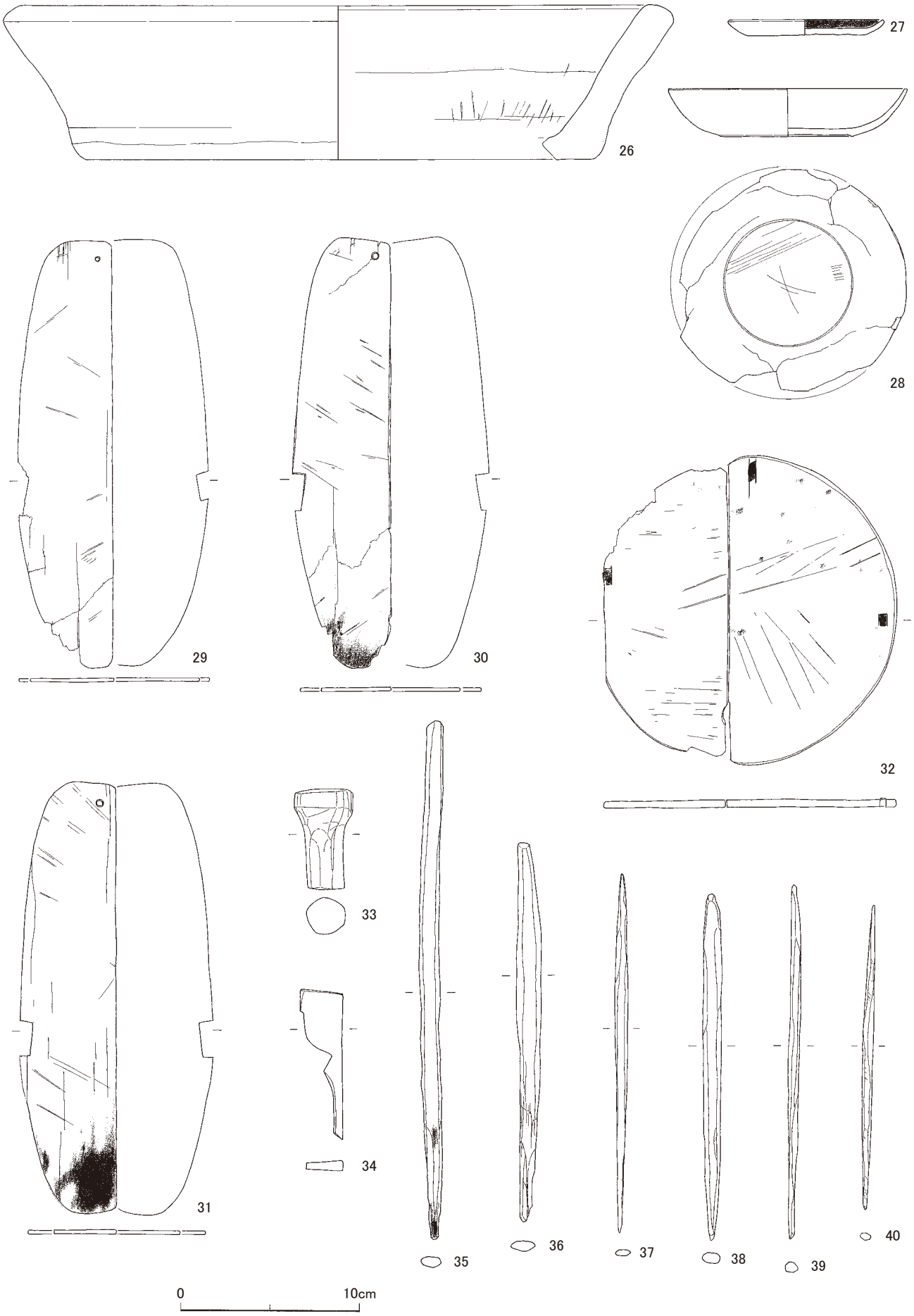


図12　３ｂ面遺物集中部出土遺物（２）

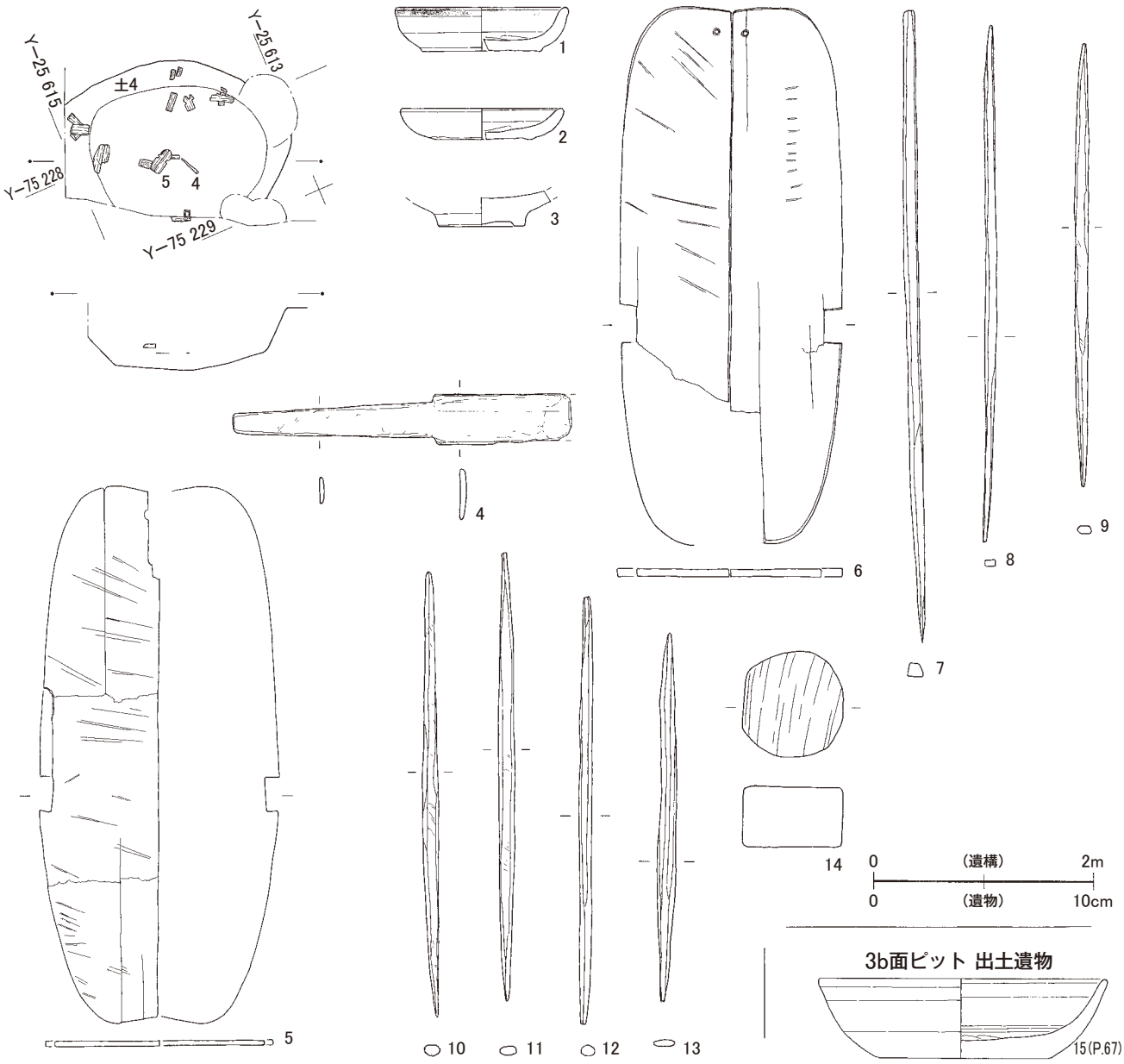


図13　土坑４、同出土遺物・３ｂ面ピット出土遺物

～ 13)・土師器皿Ｒ種大型 (14 ～ 25)・土器質火鉢 (26)・漆器皿 (27)・漆器椀 (28)・板草履芯 (29 ～ 31)・木製品円盤 (32)・木製品栓 (33)・木製品肘木 (34)・串状木製品 (35・36)・箸状木製品 (37)・串状木製品 (38)・箸状木製品 (39・40)　**特記事項**：土師器皿は13世紀中頃を上限とするもの。33の木製品は栓になるか。

土坑４（図13）

位置：X − 75 227.31 ～ − 75 228.90　Y − 25 613.04 ～ − 25 615.18　充填土：青灰色弱砂質土・暗茶色繊維質土　**平面形**：楕円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径 (2.16 m) ×短径 (1.48 m) ×深さ (0.52 m)　**主軸方位**：N-74°-W　**重複関係**：P.64・67・68他ピット２穴に切られる　**出土遺物**：土師器皿Ｒ種小型 (1・2)・竜泉窯青磁碗 (3)・鉄製品刀子 (4)・板草履芯 (5・6)・串状木製品 (7)・箸状木製品 (8 ～ 13)・不明木製品 (14)　**特記事項**：繊維質土が厚く堆積し、ウジのサナギも確認できた。有機質の廃棄物が充填されていた土坑か。土師器皿は13世紀中頃を上限とするもの。3の青磁は大宰府Ⅰ類かⅡ類にあたるが施文の有無が不明。図示した遺物は全て繊維質土内か繊維質直上のもの。

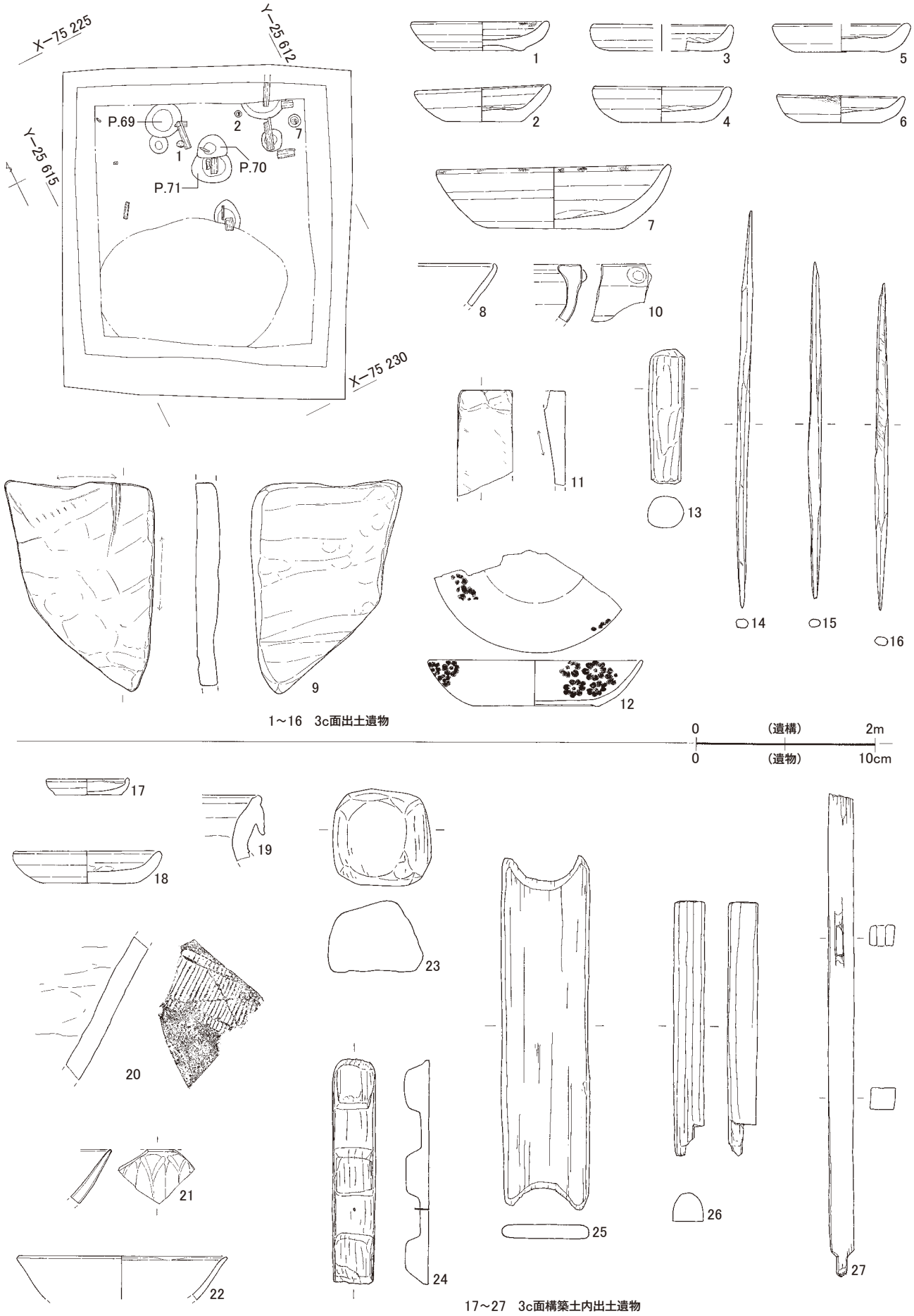


図14　３ｃ面遺構全図、同出土遺物・３ｃ面構築土内出土遺物

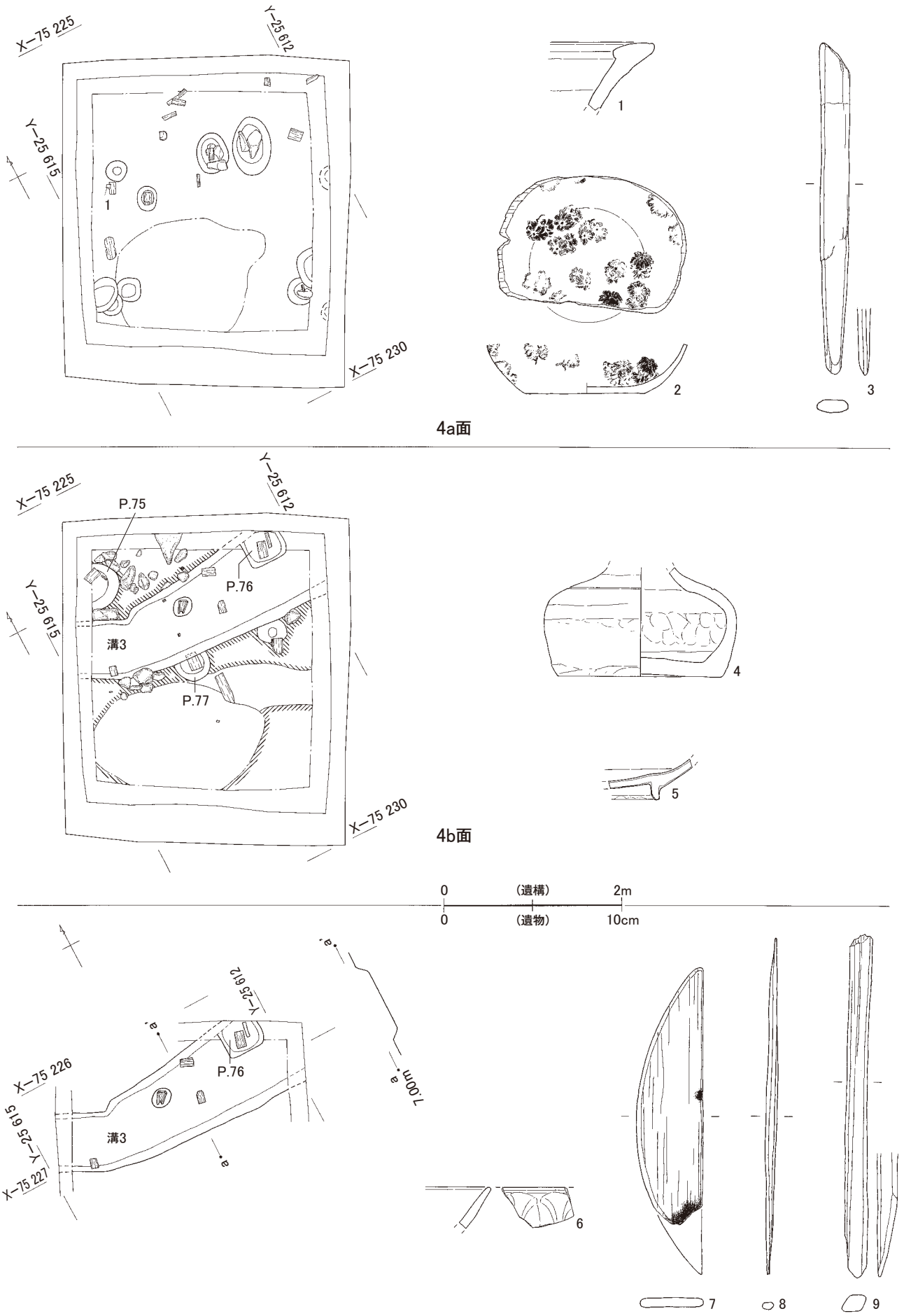


図15　4a面遺構全図、同出土遺物・4b面遺構全図、同出土遺物・溝3、同出土遺物

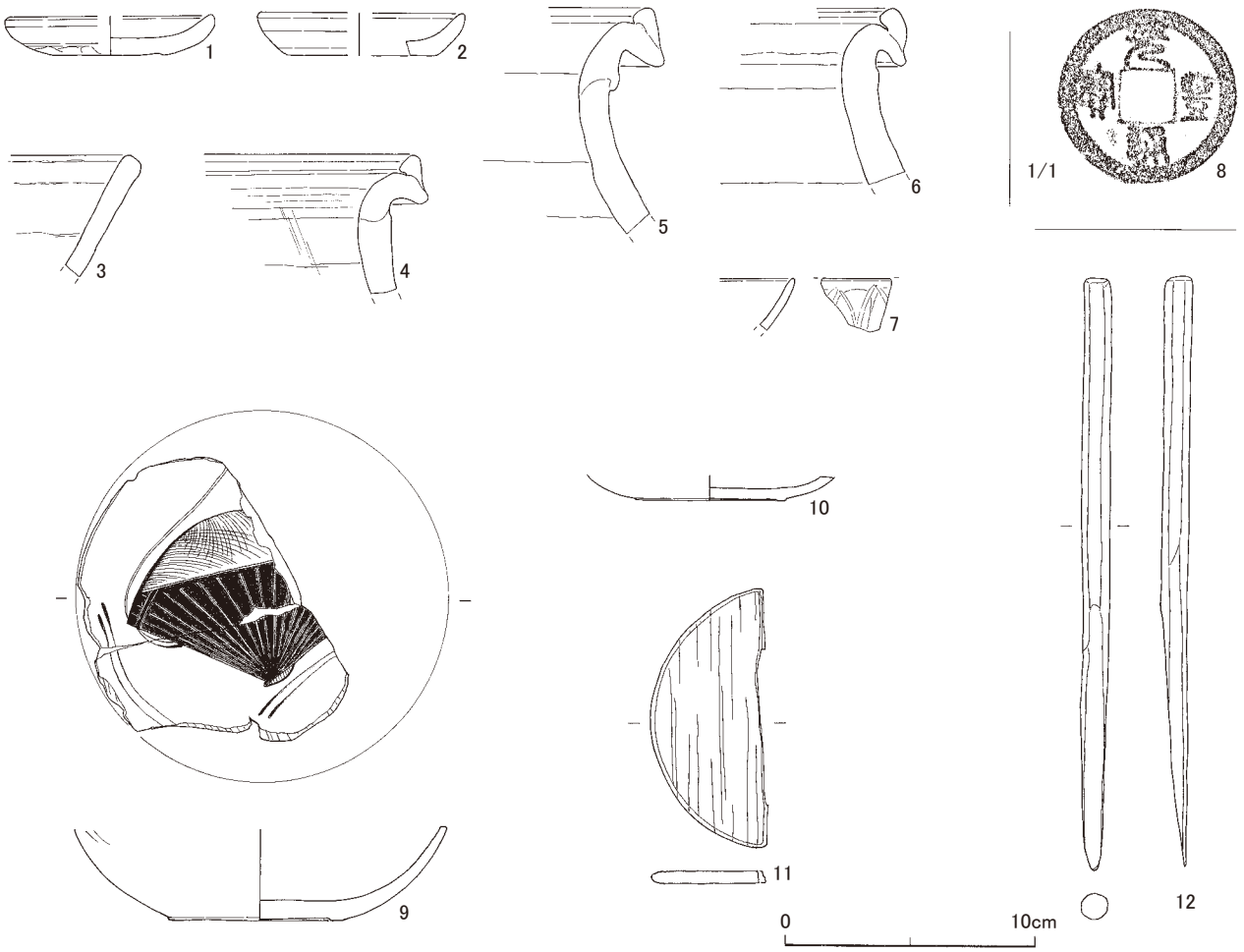


図16　４ｂ面構築土内出土遺物

３ｂ面ピット出土遺物（図13）

出土遺物：（P.67）土師器皿Ｒ種（15）　**特記事項：**土師器皿は13世紀後葉を上限とするもの。

５．３ｃ面

面の概要（図14）

検出高：7.15ｍ～7.20ｍ　**面構成土：**炭化物を多く含む砂質土　**検出遺構：**ピット6穴　**３ｃ面出土遺物：**土師器皿Ｒ種小型（1～6）・土師器皿Ｒ種大型（7）・白色系土師器皿Ｒ種大型（8）・常滑甕転用摩耗陶片（9）・竜泉窯青磁Ⅲ類香炉（10）・砥石仕上砥（11）・漆器椀（12）・不明木製品（13）・箸状木製品（14～16）

特記事項：土師器皿は13世紀後半以降のもの。10の青磁は大宰府分類Ⅲ類併行のもの。

３ｃ面構築土内出土遺物（図14）

出土遺物：土師器皿Ｒ種極小型（17）・土師器皿Ｒ種小型（18）・常滑甕（19・20）・竜泉窯青磁Ⅲ類碗（21）・白磁Ⅸ類皿（22）・不明木製品（23～25）・不明木製品部材（26・27）　**特記事項：**土師器皿は13世紀後半以降のもの。21の青磁は大宰府分類Ⅲ類。22の白磁は大宰府分類Ⅸ類。25の木製品は糸巻きか。27の木製品は建具の部材になる可能性がある。

６．４ａ面

面の概要（図15）

検出高：6.95ｍ～7.15ｍ　**面構成土：**暗青灰色砂質土・青灰色砂質土　**検出遺構：**ピット9穴　４ａ

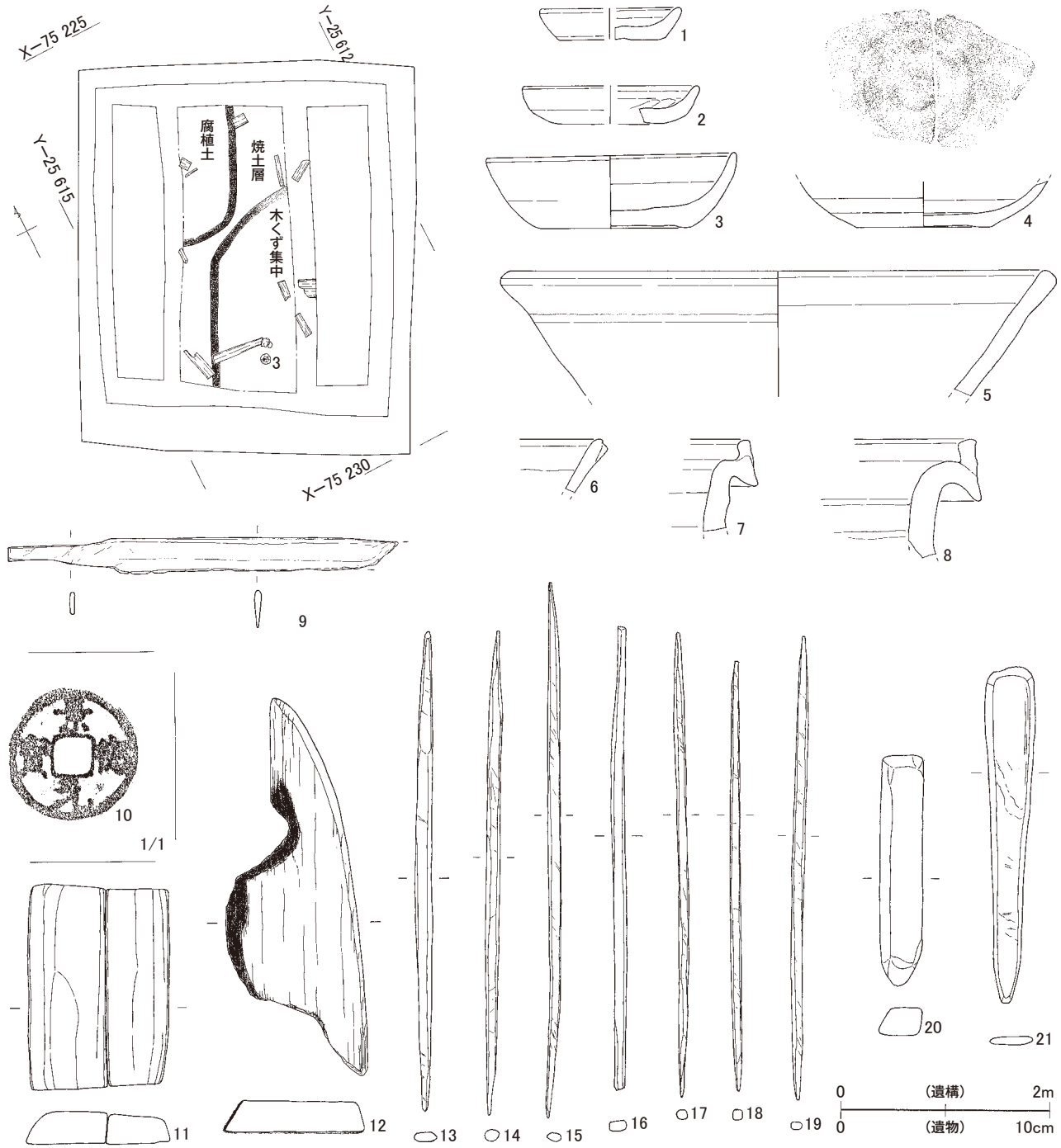


図17　5a面遺構全図、同出土遺物

面出土遺物：土器質火鉢 (1)・漆器椀 (2)・ヘラ状木製品 (3)　**特記事項**：調査区南側は上層土坑により大きく削平されている。

7．4 b面

面の概要（図15）

検出高：6.81 m～6.95 m　**面構成土**：暗青灰色砂質土・青灰色砂質土　**検出遺構**：溝１・ピット5穴

４b面出土遺物：常滑鳶口壺 (4)・竜泉窯青磁Ⅲ類鉢 (5)　**特記事項**：調査区南側は上層土坑により大きく削平されている。４の常滑鳶口壺は13世紀中葉頃に多く生産されたもの。５の青磁は大宰府分類Ⅲ類。

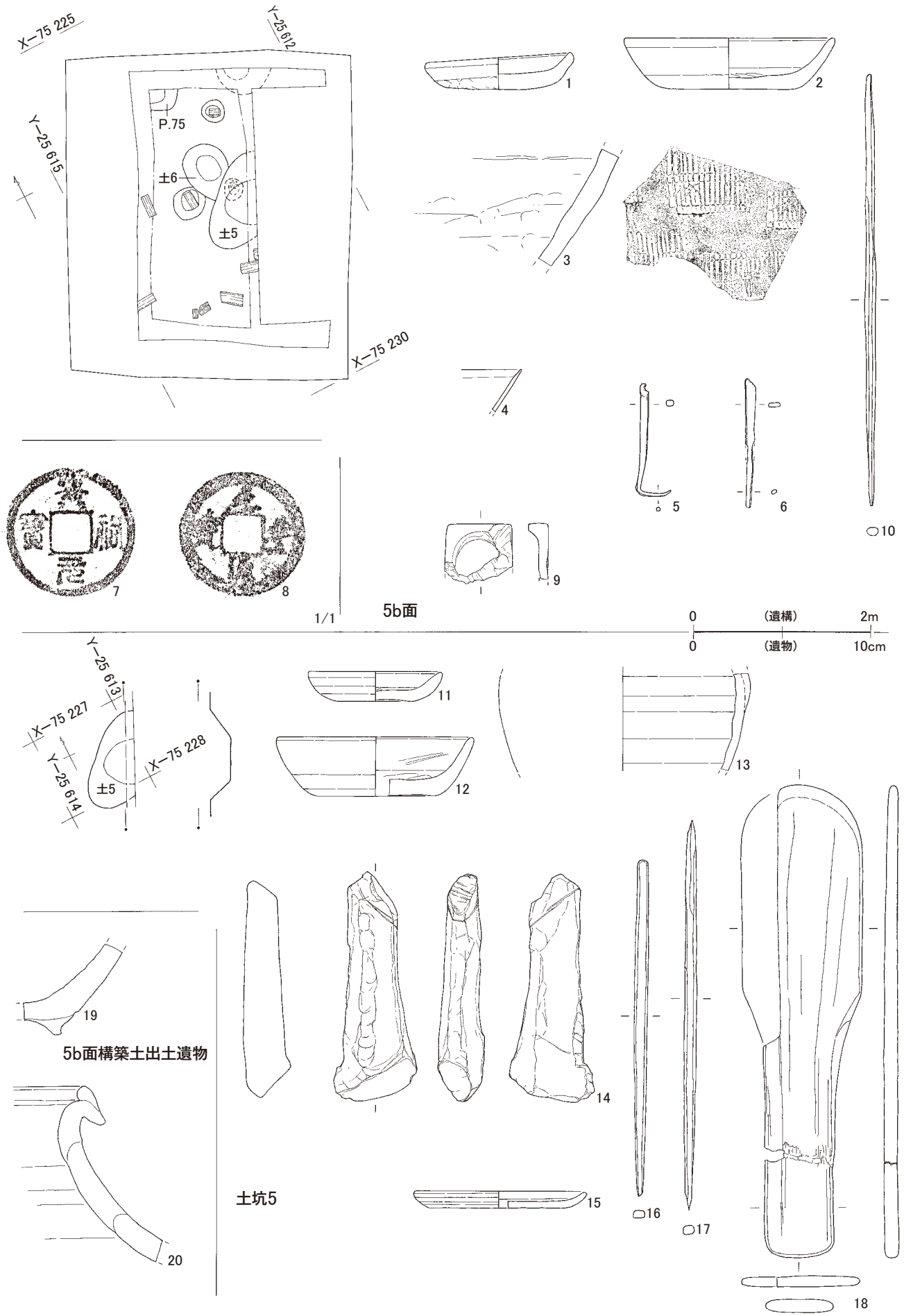


図18　５ｂ遺構全図、同出土遺物・土坑５、同出土遺物・５ｂ面構築土

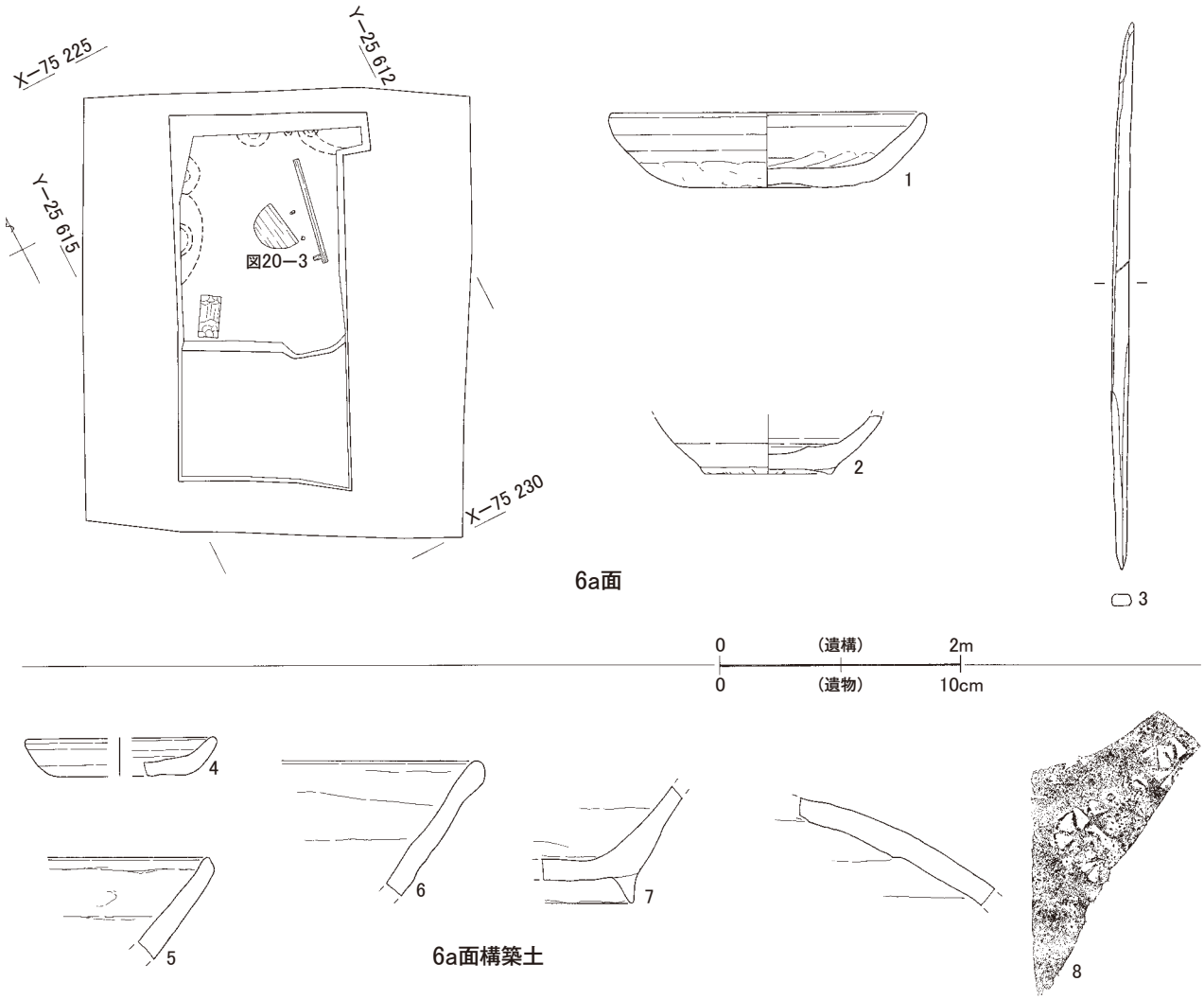


図19　6a面遺構全図、同出土遺物・6a面構築土内出土遺物

溝3（図15）

位置:X(－75 226.32～－75 227.40)　Y(－25 611.90～－25 615.92)　**断面形**:浅皿形　**規模**:最大幅1.07 m×長さ（3.22 m）×深さ0.11 m　**主軸方位**：N-90°-E　**重複関係**：P.76・77を切る　**出土遺物**：竜泉窯青磁Ⅱ類碗（6）・木製品円盤（7）・箸状木製品（8）・ヘラ状木製品（9）　**特記事項**：6の青磁は大宰府分類Ⅱ類。7の円盤は蓋ないし底になるものか。

4b面構築土内出土遺物（図16）

出土遺物：土師器皿T種小型（1）・土師器皿R種小型（2）・常滑片口鉢Ⅰ類鉢（3）・常滑甕（4～6）・竜泉窯青磁Ⅱ類碗（7）・元豊通宝（8）・漆器椀（9・10）・木製品円盤（11）・ヘラ状木製品（12）　**特記事項**：土師器皿は13世紀後半以降のもの。3の片口鉢は中野編年5型式～6 a型式のもの。常滑甕は6 a型式から6 b型式のもの。11の円盤は蓋か底になるか。

8．5 a面

面の概要（図17）

検出高：6.60 m～6.70 m　**面構成土**：暗青灰色砂質土・暗茶褐色腐植土　**検出遺構**：　**5a面出土遺物**：土師器皿R種小型（1・2）・土師器皿R種大型（3・4）・常滑片口鉢Ⅰ類（5・6）・常滑甕（7・8）・鉄製品刀子（9）・景徳元宝（10）・不明木製品（11）・木製品円盤（12）・箸状木製品（13～15）・棒状木製品（16）・

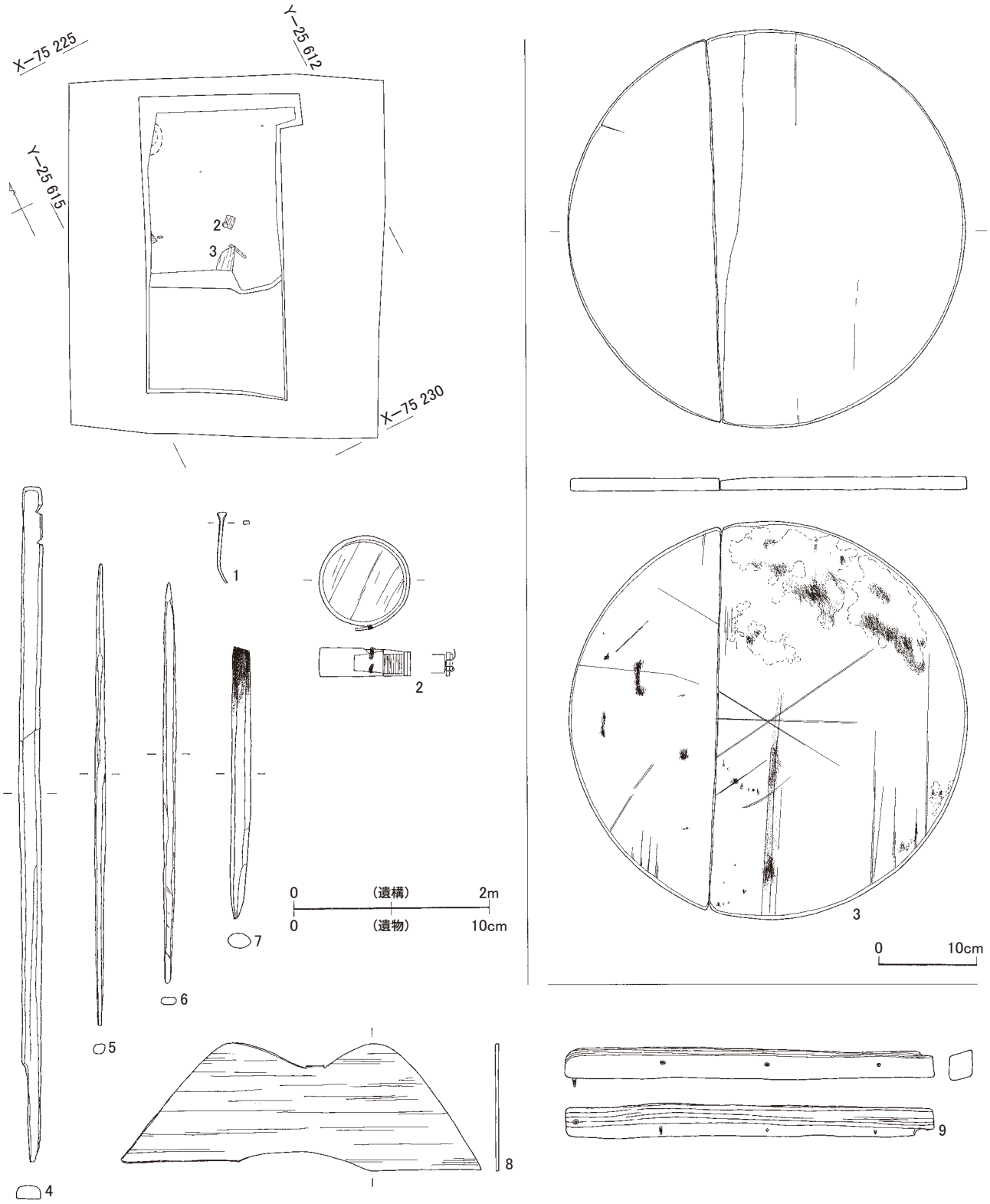


図20　６ｂ面遺構全図、同出土遺物

箸状木製品（17 ～ 19）・不明木製品（20・21）　**特記事項：**腐植土、焼土、木くず集中で構成されており、遺構面と評価できるかは定かではない。土師器皿は13世紀後半以降のもの。片口鉢Ⅰ類は中野編年５～６ｂ型式のもの。常滑甕は６ｂ～７型式のもの。

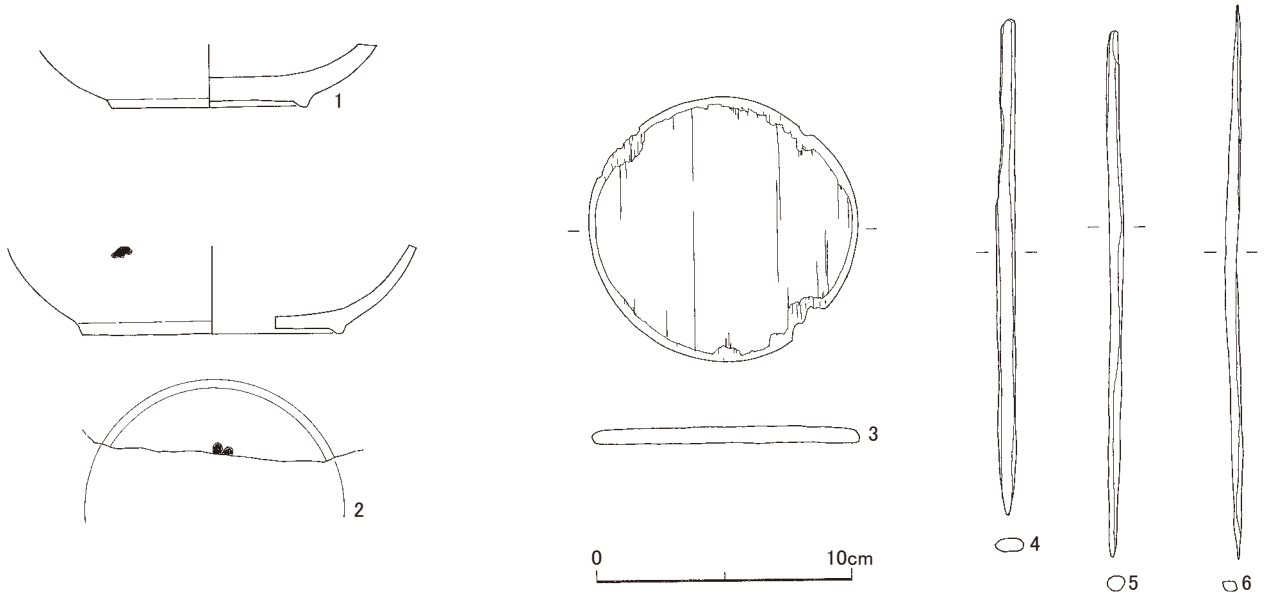


図21　６ｂ面構築土内出土遺物

９．５ｂ面

面の概要（図18）

検出高：6.52ｍ～6.63ｍ　**面構成土**：暗茶褐色腐植土　**検出遺構**：土坑2基・ピット6穴　**５ｂ面出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（1）・土師器皿Ｒ種大型（2）・常滑甕（3）・青白磁碗（4）・鉄釘（5）・不明鉄製品（6）・景祐元宝（7）・元豊通宝（8）・石製品硯（9）・箸状木製品（10）　**特記事項**：土師器皿は13世紀中葉頃のもの。

土坑５（図18）

位置：X（－75 227.18～－75 228.12）　Y（－25 612.75）～－25 613.73　**充填土**：暗茶褐色繊維質土　断面形：深皿形か　**規模**：最大幅（0.90ｍ）×長さ（0.65ｍ）×深さ0.25ｍ　**主軸方位**：N-57°-W　**重複関係**：土６を切る　**出土遺物**：土師器皿Ｒ種小型（11）・土師器皿Ｒ種大型（12）・白磁水注（13）・滑石鍋転用陽物（14）・漆器皿（15）・箸状木製品（16・17）・木製品杓子（18）　**特記事項**：繊維質土が充填され、ウジのサナギも確認できたことから有機物の廃棄土坑の可能性がある。土師器皿は13世紀前半のもの。

５ｂ面構築土内出土遺物（図18）

出土遺物：常滑片口鉢Ｉ類（19）・常滑甕（20）　**特記事項**：常滑甕は６ａ～６ｂ型式か。

10.　６ａ面

面の概要（図19）

検出高：6.40ｍ～6.48ｍ　**面構成土**：暗灰褐色粘質土　**検出遺構**：ピット4穴　**６ａ面出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（1）・尾張型山茶碗（2）・箸状木製品（3）　**特記事項**：この検出面で出土した木製品円盤は下層のものと接合した。１の土師器皿は13世紀前半のもの。２の山茶碗は藤澤編年第６型式ないし第７型式のもの。

６ａ面構築土内出土遺物（図19）

出土遺物：土師器皿Ｒ種小型（4）・常滑片口鉢Ⅱ類（5）・常滑片口鉢Ｉ類（6・7）・常滑甕（8）　**特記事項**：土師器皿は13世紀後半のもの。常滑片口鉢Ｉ類は中野編年５～６ａ型式のもの。

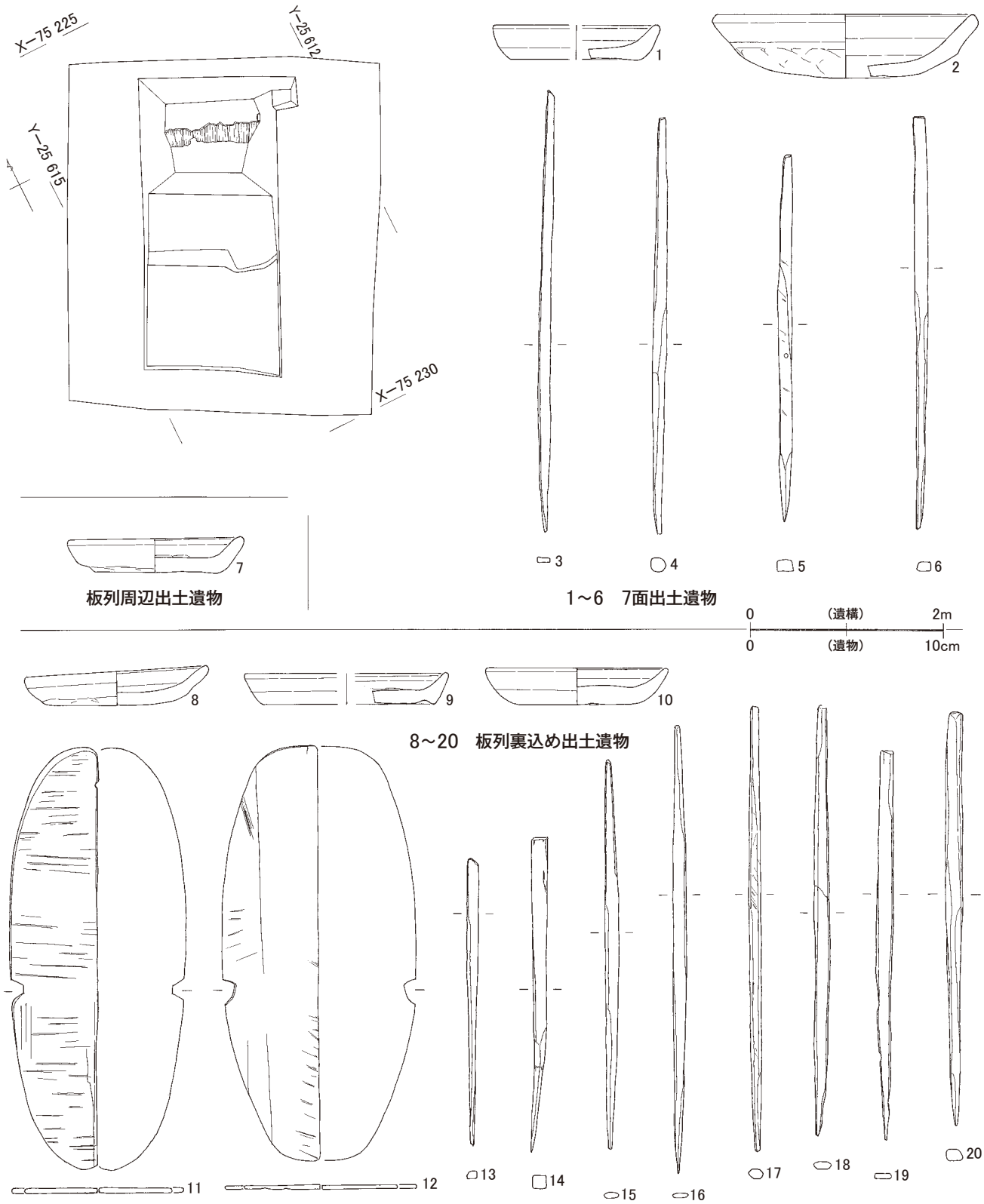


図22　７面遺構全図、同出土遺物・板列裏込め出土遺物

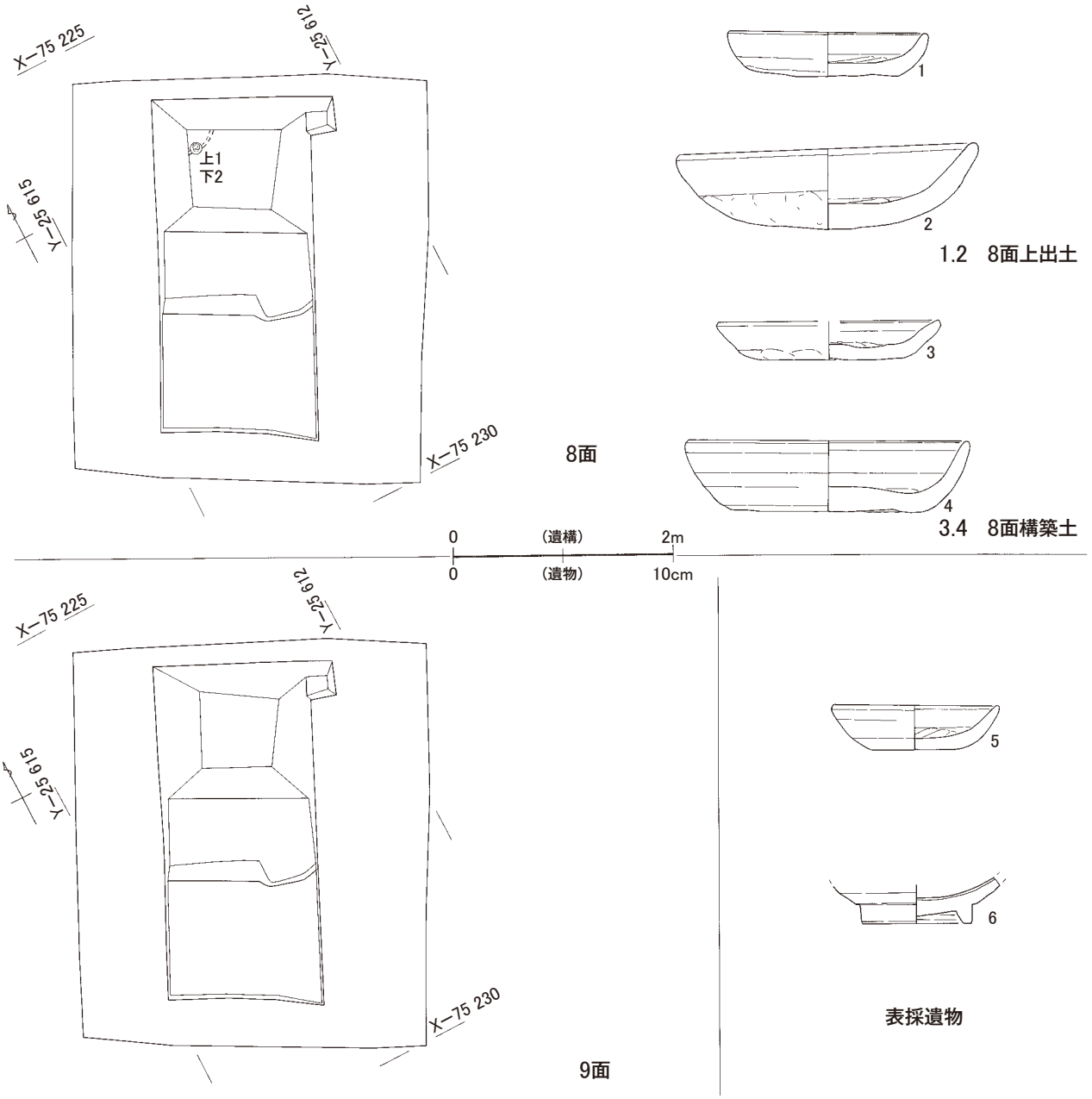


図23　８面遺構全図、同出土遺物・９面遺構全図、同出土遺物

11.　６ｂ面

面の概要（図20）

検出高：6.15 m～6.20 m　**面構成土**：暗灰褐色粘質土　**検出遺構**：ピット1穴　**６ｂ面出土遺物**：釘状鉄製品（1）・曲物（2）・木製品円盤（3）・棒状木製品（4）・箸状木製品（5・6）・ヘラ状木製品（7）・不明木製品（8）・不明木製品部材（9）　**特記事項**：２の木製品円盤は６ａ面出土のものと接合。底か蓋になるか。８・９の木製品は調度品の部材になる可能性もある。

６ｂ面構築土内出土遺物（図21）

出土遺物：漆器椀（1・2）・木製品円盤（3）・箸状木製品（4～6）　**特記事項**：漆器椀はいずれも輪高台のもの。１は厚手、２は薄手である。

12.　7面

面の概要（図22）

検出高：5.92 m～5.97 m　**面構成土**：灰褐色粘質土　**検出遺構**：板列１列　**７面出土遺物**：土師器皿Ｒ種小型（1）・土師器皿Ｔ種大型（2）・棒状木製品（3～6）　**特記事項**：調査区狭小のため板列とそれに伴う落ちを検出したに留まる。調査区が狭小なため、板列とそれに伴う落ち等が逆である可能性を否定しない。土師器皿は13世紀中葉を中心とするもの。

板列周辺出土遺物（図22）

出土遺物：土師器皿Ｒ種小型（7）

板列裏込め出土遺物（図22）

出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（8）・土師器皿Ｒ種小型（9・10）・板草履芯（11・12）・串状木製品（13・14）・箸状木製品（15～20）　**特記事項**：土師器皿は13世紀中葉を中心とするもの。

13.　8面

面の概要（図23）

検出高：5.60 m～5.62 m　**面構成土**：灰褐色粘質土　**検出遺構**：ピット1穴　**８面出土遺物**：土師器皿Ｒ種小型（1）・土師器皿Ｔ種大型（2）　**特記事項**：調査区狭小のため全容は不明。土師器皿は13世紀第２四半期あたりを上限とする。

８面構築土内出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（3）・土師器皿Ｒ種大型（4）**特記事項**：調査区狭小のため全容は不明。土師器皿は13世紀第２四半期あたりを上限とする。

14.　9面

面の概要（図23）

検出高：5.30 m～5.45 m　**面構成土**：暗灰褐色粘質土　**検出遺構**：なし　**９面出土遺物**：図化可能遺物なし　**特記事項**：面構成土にあたる102層の土層注記には「遺物片含む」とあるが、現地調査では遺物の取り上げはない。土層中に茶色の５mm程度までの粒子が含まれることがあるが、これを遺物片と誤認した可能性もあるので、この面を遺構面とできるかは定かではない。

15.　表採遺物

面の概要（図23）

土師器皿Ｒ種小型（5）・瀬戸丸碗か（6）

16.　土層断面出土遺物

土層の概要（図４）

土師器皿Ｒ種大型（1）・瓦質火鉢（2）・土師器皿Ｒ種小型（3）

表１　出土遺物観察表（１）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図4-1	調査区 北壁	土師器皿 R種大型	口径（12.9)cm　底径(6.9)cm　器高3.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	調査区 東壁	瓦質 火鉢	口径（32.0）㎝　胎土は灰白色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・礫片を含む 外面に焼きムラ・煤　内外面にナデ
3	調査区 西壁	土師器皿 R種小型	口径（9.0）cm　底径(6.4)cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図5-1	１面	土師器皿 R種小型	口径（7.7）cm　底径4.7cm　器高2.1cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯（微）を含む
2	１面	土師器皿 R種小型	口径7.6cm　底径6.0cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	１面	土師器皿 R種小型	口径7.5cm　底径5.3cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	１面	土師器皿 R種小型	口径7.8cm　底径5.1cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で雲母・黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	１面	穿孔土師器皿 R種小型	口径（7.7)cm　底径(5.4)cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	１面	土師器皿 R種大型	口径（12.5)cm　底径7.8cm　器高3.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　内外面に煤
7	１面	フイゴ 羽口	残存長（5.0）㎝　残存幅（4.3）㎝　厚さ2.0㎝ 胎土は橙色で赤色粒子・白色粒子・泥岩粒・礫片を含む　先端に鉱滓付着
8	１面	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片　輪積み成形後、ロクロ整形　胎土は灰色で白色粒子・石英・礫片を含む　付高台 内面剥離するほど磨耗　体部外面下位回転ヘラ削り　高台端部摩耗
9	１面	渥美 甕	胴部片　輪積み成形 胎土は灰褐色で白色粒子・礫片を含む　器表面に叩き目
10	１面	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・石英・礫片を含む　器表面は暗赤褐色
11	１面	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む　器表面は暗赤褐色で、器表面外面に淡黄色の降灰
12	１面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　口縁部横ナデ 胎土は暗赤褐色で白色粒子・長石・礫片を含む　器表面は暗赤褐色
13	１面	備前 擂鉢	胴部小片　輪積み成形後、ロクロ整形　胎土は灰白色で黒色粒子・白色粒子を含む 器表面は暗赤褐色　内面に８条の櫛目が入る　断面四面を弱く研磨している
14	１面	備前 擂鉢	胴部小片　輪積み成形　胎土は暗赤褐色で白色粒子・礫片を含む 器表面は褐灰色　内面に４条の櫛目、灰白色の自然釉　内面調整確認できるが磨耗
15	１面	瀬戸 卸皿	口径（15.2）㎝　輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色　器表内面に灰白色の灰釉ハケ塗り
16	１面	瀬戸 卸皿	口縁部小片　輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は淡黄色で白色粒子を含む　灰オリーブ色の灰釉漬け掛け
17	１面	瀬戸 折縁深皿	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子を含む　灰白色の灰釉漬け掛け
18	１面	瀬戸 香炉か	口縁部小片　輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は淡黄色　オリーブ褐色の鉄釉漬け掛け
19	１面	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬は灰オリーブ色透明　内面に片切り彫りによる区画線
20	１面	瀬戸 碗か	口縁部片　ロクロ成形　胎土は灰色で黒色粒子を含む　灰白色の灰釉漬け掛け
21	１面	石製品 硯	残存長（6.9）㎝　残存幅（6.2）㎝　厚さ1.3㎝　鳴滝硯 表面に花と波模様の線彫り　裏面に平タガネ痕と剥離による浅いくぼみあり
22	建物1 Ｐ．４	土師器皿 R種小型	口径（7.8）㎝　底径（5.2）㎝　器高1.8㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は橙色で赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯を含む
23	土坑1	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形 胎土は赤褐色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む　口縁部横ナデ
24	土坑1	瀬戸 平底末広碗	底部片　輪積み成形後、ロクロ整形　外底部右回転糸切り 胎土は灰色　内外面に灰白色の灰釉ハケ塗り
25	土坑1	瀬戸 卸皿	底部片　外底部右回転糸切り　板状圧痕 胎土は灰色　灰白色の灰釉ハケ塗り
26	Ｐ．３	土師器皿 R種大型	口径（13.7）㎝　底径（9.1）㎝　器高3.5㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図6-1	土坑２	土師器皿 R種小型	口径（7.4）㎝　底径（4.6）㎝　器高1.7㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	土坑２	土師器皿 R種小型	口径（7.8）㎝　底径（5.1）㎝　器高1.8㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・白色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む

表２　出土遺物観察表（２）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図6-3	土坑２	瓦器質 輪花火鉢	口縁部片　胎土は灰白色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 外面に煤　内外面にヘラ磨き　残存長（7.0）cm　残存幅（4.5）cm
4	土坑２	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 器表面は赤褐色で、口縁上部に灰白色の降灰
5	土坑２	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　器表面は暗赤褐色で、口縁上部に灰白色の降灰 胎土は黄灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む
6	土坑２	常滑 甕	底部片　輪積み成形 胎土は黄灰色で白色粒子・長石・石英・礫片を含む
7	土坑２	常滑甕 転用磨耗陶片	胴部片　輪積み成形　胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・石英を含む 表面は赤褐色　内面は黄灰色　断面３面磨耗
8	土坑２	瀬戸 卸皿	口縁部片　ロクロ整形　胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子を含む 器表面に灰白色の灰釉ハケ塗り
9	土坑２	瀬戸 蓋か	口縁部小片　胎土は灰色　灰オリーブ色の灰釉漬け掛け
10	土坑２	青白磁 碗	口縁部片　ロクロ成形 素地は灰白色　釉薬は明緑灰色透明　口縁部は釉面取り
11	Ｐ．１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.8）cm　底径（5.0）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
12	Ｐ．１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.7）cm　底径（4.8）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
13	Ｐ．１	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.7）cm　底径7.2cm　器高3.1cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
14	Ｐ．１	瀬戸 柄付片口	把手部　胎土は灰黄色　灰オリーブ色の灰釉漬け掛け
15	Ｐ．６	瓦器質 火鉢	口縁部片　胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・礫片・小石粒を含む 器表面は灰赤色　外面に菊花押印文あり　内外面にヘラ磨き
16	Ｐ．８	瓦質 火鉢	口径（27.2）cm　胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子・礫片・小石粒を含む 器表面は灰色　内外面に横ナデ
17	Ｐ．１０	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.6）cm　底径（4.7）cm　器高2.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
18	Ｐ．１３	常滑 壺	底径（10.0）cm　輪積み成形　胎土は暗灰色で白色粒・石英・礫片・小石粒を含む　底面に離れ砂 器表面は橙色、内面は暗赤褐色で灰白色の降灰　外面は板状工具による縦位ナデの後、横位ナデ
19	Ｐ．１５	土師器皿 Ｒ種大型	口径（10.0）cm　底径（6.4）cm　器高3.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
20	Ｐ．１５	瀬戸 卸皿	口縁部片　ロクロ整形　胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子・礫片を含む 器表面は灰釉ハケ塗り
21	Ｐ．１６	鉄製品 鑿か	長さ8.0cm　幅1.0cm　厚さ0.5cm　重さ16.0ｇ
22	Ｐ．１８	穿孔土師器皿 Ｒ種小型	口径(8.1)cm　底径(5.6)cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　枝状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
23	Ｐ．１９	常滑 甕	口縁部小片　輪積み成形　胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子を含む 器表内面は暗赤褐色　口縁部に灰オリーブ色の降灰
24	Ｐ．２５	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.7）cm　底径（8.0）cm　器高3.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・礫片・海綿骨芯を含む
25	Ｐ．２５	青白磁 梅瓶	胴部小片　ロクロ成形　素地は灰白色で黒色粒子を含む　釉薬は明緑灰色透明　内面は無釉 断面に漆が付着しており漆継ぎ痕か
26	Ｐ．２６	瓦器質 土鍋	口縁部小片　胎土は灰色　口縁上部に炭素吸着あり　西国産か
27	Ｐ．２７	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.4）cm　底径（5.2）cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で金雲母・黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
28	Ｐ．２９	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.0）cm　底径（6.6）cm　器高2.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
29	Ｐ．３７	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.8）cm　底径（3.6）cm　器高2.1cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む　焼きムラあり
30	Ｐ．４３	白磁 輪花碗	口縁部小片　素地は灰白色　釉薬は灰白色の透明　口縁部は釉面取り
31	Ｐ．４４	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形 胎土は灰色で白色粒・石英を含む　口縁～内面に灰白色の降灰
図7-1	２面	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.0）cm　底径（7.6）cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	２面	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・礫片を含む 器表内面は暗赤褐色　内面上部に灰白色の降灰

表３　出土遺物観察表（３）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図7-3	溝１	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　器表内面は暗赤褐色　口縁上部と外面下部に灰色の降灰 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片・小石粒を含む　図8-13と接合
4	土坑３	土師器皿 Ｒ種大型	口径(11.6)cm　底径(6.8)cm　器高2.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は にぶい黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	Ｐ．４６	瀬戸 折縁中皿	口径（16.4）㎝　輪積み成形後、ロクロ整形　胎土は灰色で白色粒子を含む 内面は灰白色、外面は灰オリーブ色の灰釉ハケ塗り　口縁部は釉剥落
図8-1	２面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口縁（7.4）㎝　底径（5.6）㎝　器高1.6㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む
2	２面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.6㎝　底径4.7㎝　器高1.9㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯・礫片を含む　口縁部一部橙色・煤あり
3	２面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.5）㎝　底径（5.5）㎝　器高1.4㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	２面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径(7.4)cm　底径(4.6)cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子を含む　口縁部に煤付着
5	２面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径(7.4)cm　底径(4.4)cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む
6	２面 構築土	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.2cm　底径(7.8)cm　器高3.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
7	２面 構築土	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.3cm　底径7.8cm　器高3.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
8	２面 構築土	土師器皿 Ｒ種大型	口径(13.8)cm　底径(9.3)cm　器高3.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は 橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　内面に煤付着
9	２面 構築土	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.0㎝　底径7.4㎝　器高3.2㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・ 赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　口縁に煤付着　外面に灰色の付着物
10	２面 構築土	白色系土師器皿 Ｒ種大型	口縁部小片　回転ロクロ　胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子を含む
11	２面 構築土	土器 香炉か	口縁部片・底部片　胎土は橙色で黒色粒子・白色粒子を含む　内面一部に煤付着
12	２面 構築土	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・長石・石英を含む　器表面は赤褐色　長石の吹き出しあり
13	２面 構築土	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 器表面は赤褐色　口縁～内面上部に灰オリーブ色の降灰　図7-3と接合
14	２面 構築土	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む　器表面は黒褐色
15	２面 構築土	常滑甕 転用磨耗陶片	胴部片　輪積み成形　胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・石英を含む 表面は暗赤褐色　断面２面磨耗
16	２面 構築土	不明 銅製品	残存長（6.5）㎝　残存幅（0.2）㎝　厚さ0.2㎝　重さ1.3ｇ　近現代製品の可能性あり
17	２面 構築土	串状 木製品	長さ26.5㎝　幅1.5㎝　厚さ1.2㎝　片口　端部曲線状と尖頭状に加工
18	２面 構築土	箸状 木製品	長さ22.7㎝　幅0.8㎝　厚さ0.5㎝　片口
19	２面 構築土	箸状 木製品	長さ21.3㎝　幅0.7㎝　厚さ0.4㎝　両口
20	２面 構築土	ヘラ状 木製品	長さ15.3㎝　幅1.0㎝　厚さ0.7㎝　片口　端部曲線状と５回の削りで細く加工
21	２面 構築土	ヘラ状 木製品	長さ12.5㎝　幅1.4㎝　厚さ0.4㎝　端部曲線状とナイフ状に加工
図9-1	３ａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.8）㎝　底径（5.3）㎝　器高1.4㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	３ａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.3）㎝　底径（5.3）㎝　器高1.7㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	３ａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.5）㎝　底径（5.5）㎝　器高1.4㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	３ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.8cm　底径7.2cm　器高3.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　口縁一部に煤
5	３ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径(12.0)cm　底径(7.2)cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は にぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　口縁一部に煤
6	３ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.9cm　底径8.0cm　器高3.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　内底部暗灰色に煤けている
7	３ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.2）㎝　底径（7.7）㎝　器高3.2㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は にぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む

表４　出土遺物観察表（４）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図9-8	３ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.6）㎝　底径（7.3）㎝　器高3.5㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　外面暗灰色に煤けている
9	３ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径(13.0)cm　底径8.4cm　器高3.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
10	３ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.7cm　底径8.3cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
11	３ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.5cm　底径8.2cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
12	３ａ面	常滑 片口鉢Ｉ類	底部片　輪積み成形　胎土は灰色で白色粒子・長石を含む 内面調整確認できないほど磨耗　付け高台
13	３ａ面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部小片　輪積み成形 胎土は灰褐色で白色粒子・長石・礫片を含む　口縁部一部破損
14	３ａ面	竜泉窯青磁 Ⅱ類碗	口縁部　ロクロ成形　素地は灰白色で黒色粒子を含む　釉薬は灰オリーブ色透明
15	３ａ面	白磁 Ⅸ類皿	口縁部小片　ロクロ成形　素地は灰白色で黒色粒子を含む　釉薬は灰白色透明　口縁部釉面取り
16	３ａ面	漆器 皿	口径8.8㎝　底径6.8㎝　器高1.3㎝　黒漆　朱漆で手描きで施文
17	３ａ面	箸状 木製品	長さ20.7㎝　幅0.6㎝　厚さ0.6㎝　両口
18	３ａ面	箸状 木製品	長さ20.7㎝　幅0.8㎝　厚さ0.5㎝　両口
19	３ａ面	箸状 木製品	長さ19.5㎝　幅0.7㎝　厚さ0.4㎝　片口
20	３ａ面	箸状 木製品	長さ19.4㎝　幅0.7㎝　厚さ0.4㎝　両口
21	３ａ面	ヘラ状 木製品	長さ14.3㎝　幅1.5㎝　厚さ0.8㎝　端部は斜めの切り出しと３面が１回、１面が２回の削り出し
22	３ａ面	棒状 木製品	長さ17.9㎝　幅0.9㎝　厚さ0.3㎝　端部は直線の切り出しと４回の削りで細く加工
図10-1	３ａ面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径(8.2)cm　底径(6.0)cm　器高1.3cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む　焼成非常に良好
2	３ａ面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径(7.3)cm　底径(5.0)cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	３ａ面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.2）㎝　底径5.6㎝　器高1.6㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	３ａ面 構築土	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.6）㎝　回転ロクロ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　内部一部に煤付着
5	３ａ面 構築土	瓦器質 碗	口縁部片　手づくね 胎土は黒色　器表内面は灰色　口縁部・体部下部に炭素吸着
6	３ａ面 構築土	常滑 片口鉢Ｉ類	口縁部小片　輪積み成形　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む 内面に灰白色の降灰
7	３ａ面 構築土	鉄釘	長さ7.2㎝　幅0.4㎝　厚さ0.3㎝　重量4．１ｇ
8	３ａ面 構築土	元豊通宝	北宋　初鋳1078年　行書
9	３ａ面 構築土	箸状 木製品	長さ19.7㎝　幅0.7㎝　厚さ0.3㎝　両口
10	３ａ面 構築土	箸状 木製品	長さ22.7㎝　幅0.5㎝　厚さ0.5㎝　片口
11	３ａ面 構築土	不明 木製品部材	残存長（30.2）㎝　幅1.5㎝　厚さ1.3㎝　不貫通枘穴あり
12	３ａ面 構築土	不明 木製品部材	残存長（27.7）㎝　幅1.3㎝　厚さ1.3㎝　不貫通枘穴あり
13	３ａ面 構築土	不明 木製品部材	残存長（27.8）㎝　幅1.4㎝　厚さ1.4㎝　貫通枘穴あり
14	３ａ面 構築土	不明 木製品部材	残存長（22.1）㎝　幅1.3㎝　厚さ1.1㎝　不貫通枘穴と柄を有する
15	３ａ面 構築土	不明 木製品部材	残存長（18.6）㎝　幅1.2㎝　厚さ1.5㎝　枘を有する（中央突起）

表５　出土遺物観察表（５）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図11-1	３ｂ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.7）cm　底径（5.6）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	３ｂ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.4cm　底径4.6cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	３ｂ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.9cm　底径8.1cm　器高2.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	３ｂ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径（13.0）cm　底径7.6cm　器高3.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.9cm　底径5.8cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.8cm　底径4.9cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　口縁部に油煤
7	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.4cm　底径5.1cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
8	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.2cm　底径5.0cm　器高1.3cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　焼きムラにより橙色の部分あり
9	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.8cm　底径5.5cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　焼きムラあり
10	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.5cm　底径5.5cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　焼きムラあり
11	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.7cm　底径5.4cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
12	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.5cm　底径5.5cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　口縁部に油煤付着
13	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.6cm　底径5.2cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　口縁部に油煤付着
14	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.8）cm　底径8.3cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む　口縁部に油煤付着
15	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.7cm　底径7.9cm　器高3.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
16	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.6）cm　底径7.9cm　器高（3.6）cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　焼きムラあり
17	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.7）cm　底径（6.5）cm　器高3.1cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
18	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.2cm　底径7.4cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内面部ナデ　胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　内外面に煤状の付着物
19	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.4cm　底径7.0cm　器高3.1cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
20	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径(11.6)cm　底径(7.3)cm　器高3.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
21	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.8）cm　底径7.9cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　外面一部に煤状付着物
22	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径（13.1）cm　底径8.5cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
23	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.9cm　底径7.1cm　器高3.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部油煤付着　内外面に煤状付着物
24	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.8）cm　底径（6.0）cm　器高３．３cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は黄灰色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
25	遺物集中部	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.4）cm　底径（8.0）cm　器高3.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図12-26	遺物集中部	土器質 火鉢	口径（35.4）cm　底径（28.4）cm　器高8.7cm　胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・礫片を含む　内面上半部に漆喰の塗布あり　底面付近に火鉢の使用痕が認められる
27	遺物集中部	漆器 皿	口径8.4cm　底径6.8cm　器高0.9cm　外面黒漆、内面黒漆の上に朱漆
28	遺物集中部	漆器 碗	口径12.9cm　底径7.3cm　器高2.7cm　内外面黒漆　輪高台
29	遺物集中部	板草履芯	長さ24.2cm　幅5.3cm　厚さ0.2cm　板目材
30	遺物集中部	板草履芯	長さ24.3cm　幅5.4cm　厚さ0.2cm　板目材
31	遺物集中部	板草履芯	長さ24.4cm　幅5.4cm　厚さ0.2cm　板目材

表６　出土遺物観察表（６）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図12-32	遺物集中部	木製品 円盤	径17.5cm　厚さ0.4cm　桜皮３カ所付着　曲物の底板か　柾目材
33	遺物集中部	木製品 栓	頭部径3.3cm　胴部径2.2cm　長さ5.6cm　柾目材
34	遺物集中部	木製品 肘木	長さ8.4cm　幅2.3cm　厚さ0.6cm　表面に黒漆
35	遺物集中部	串状 木製品	長さ29.3cm　幅1.2cm　厚さ0.6cm　尖端部炭化
36	遺物集中部	串状 木製品	長さ21.4cm　幅1.4cm　厚さ0.6cm　４回以上の削りにより尖端部を加工
37	遺物集中部	箸状 木製品	長さ20.3cm　幅0.8cm　厚さ0.3cm　両口
38	遺物集中部	串状 木製品	長さ19.7cm　幅1.0cm　厚さ0.6cm　４回以上の削りにより尖端部を加工
39	遺物集中部	箸状 木製品	長さ20.0cm　幅0.7cm　厚さ0.6cm　両口
40	遺物集中部	箸状 木製品	長さ17.2cm　幅0.5cm　厚さ0.5cm　両口
図13-1	土坑４	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.7）cm　底径（5.4）cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　内外面煤状付着物
2	土坑４	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.4）cm　底径（4.2）cm　器高1.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・海綿骨芯を含む　混入物少ない
3	土坑４	竜泉窯青磁 碗	底径（3.9）cm　ロクロ成形　素地は灰色で黒色粒子（微）を含む 釉薬は灰オリーブ色透明　高台内面は無釉　削り出し高台
4	土坑４	鉄製品 刀子	残存長15.6cm　最大幅2.3cm　最大厚0.3cm　重さ31.8g
5	土坑４	板草履芯	長さ24.7cm　幅5.4cm　厚さ0.2cm　植物圧痕あり
6	土坑４	板草履芯	長さ24.5cm　幅10.4cm　厚さ0.45cm　植物圧痕あり
7	土坑４	串状 木製品	長さ29.0cm　幅0.7cm　厚さ0.6cm　尖端部を５回以上の削りで細く加工
8	土坑４	箸状 木製品	長さ23.6cm　幅0.5cm　厚さ0.3cm　両口
9	土坑４	箸状 木製品	長さ20.3cm　幅0.6cm　厚さ0.4cm　両口
10	土坑４	箸状 木製品	長さ20.4cm　幅0.7cm　厚さ0.5cm　両口
11	土坑４	箸状 木製品	長さ20.5cm　幅0.8cm　厚さ0.4cm　両口
12	土坑４	箸状 木製品	長さ19.6cm　幅0.7cm　厚さ0.5cm　両口
13	土坑４	箸状 木製品	長さ16.9cm　幅1.0cm　厚さ0.3cm　両口
14	土坑４	不明 木製品	径4.9cm　厚さ2.7cm　円柱状の部材を短く切断か　柾目材
15	Ｐ．６７	土師器皿 Ｒ種大型	口径（13.1）cm　底径（8.0）cm　器高3.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図14-1	３ｃ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.5cm　底径4.7cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　口縁部に油煤付着
2	３ｃ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.4cm　底径4.3cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	３ｃ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.6）cm　底径（6.0）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕 胎土は橙色で黒色粒子・海綿骨芯を含む
4	３ｃ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.4cm　底径5.2cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	３ｃ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.3）cm　底径（5.2）cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	３ｃ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（6.9）cm　底径（5.2）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　外面一部黒色に変色
7	３ｃ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.8cm　底径7.8cm　器高3.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　口縁部に油煤　内面まだらに黒色に変色

表７　出土遺物観察表（７）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図14-8	３ｃ面	白色系土師器皿 Ｒ種大型	口縁部小片　回転ロクロ　胎土は灰白色で黒色粒子・礫片を含む
9	３ｃ面	常滑甕 転用磨耗陶片	胴部片　輪積み成形 胎土は褐灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・礫片を含む　鉄分の吹き出しあり　断面２面磨耗
10	３ｃ面	竜泉窯青磁 Ⅲ類香炉	口縁部小片　胎土は灰色・一部黒色で黒色粒子・赤色粒子を含む　釉薬は明緑灰色不透明
11	３ｃ面	砥石 仕上砥	残存長(5.3)cm　幅3.1cm　厚さ1.2～0.6cm　灰白色　鳴滝　１面使用
12	３ｃ面	漆器 椀	口径（11.8）cm　底径（7.0）cm　器高2.6cm　黒漆に朱漆で印判施文
13	３ｃ面	不明 木製品	最大径2.0cm　最小径1.4cm　長さ7.8cm　両端で径が違い、栓のような形状　柾目材
14	３ｃ面	箸状 木製品	長さ22.3cm　幅0.7cm　厚さ0.5cm　両口
15	３ｃ面	箸状 木製品	長さ19.0cm　幅0.7cm　厚さ0.4cm　両口
16	３ｃ面	箸状 木製品	長さ18.5cm　幅0.7cm　厚さ0.5cm　両口
写真図版11	３ｃ面	常滑 甕	胴部片　輪積み成形　胎土は灰色で白色粒子・長石・石英・礫片を含む 外面は褐灰色　内面に黒色の漆様の付着物
図14-17	３ｃ面 構築土	土師器皿 Ｒ種極小型	口径4.5cm　底径3.8cm　器高0.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子を含む　内折れ　外面に黒色の付着物
18	３ｃ面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.1）cm　底径（5.3）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
19	３ｃ面 構築土	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 口縁の縁帯部が赤褐色・外面がにぶい黄橙色　内面が暗赤褐色で灰オリーブ色の降灰あり
20	３ｃ面 構築土	常滑 甕	肩部片　輪積み成形　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 内面は赤褐色　外面に灰オリーブ色の自然釉、叩き目
21	３ｃ面 構築土	竜泉窯青磁 Ⅲ類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰白色で黒色粒子を含む　釉薬は緑灰色半透明　釉層厚い
22	３ｃ面 構築土	白磁 Ⅸ類皿	口径（11.6）cm　ロクロ成形　素地は灰白色　釉薬は透明　口縁部釉を面取り
23	３ｃ面 構築土	不明 木製品	長さ5.4cm　幅5.4cm　厚さ3.9cm　端部を斜めに面取りしている
24	３ｃ面 構築土	不明 木製品	長さ12.7cm　幅2.4cm　厚さ1.3cm　１ヶ所鉄釘あり
25	３ｃ面 構築土	不明 木製品	長さ20.0cm　幅5.0cm　厚さ0.8cm　端部半円状に切り取り加工　糸巻きか
26	３ｃ面 構築土	不明 木製品部材	長さ14.5cm　幅1.7cm　厚さ1.6cm　枘を有する（片側突起）
27	３ｃ面 構築土	不明 木製品部材	残存長（27.3）cm　幅1.4cm　厚さ1.2cm　不貫通枘穴と枘を有する
図15-1	４ａ面	土器質 火鉢	口縁部片　輪積み成形　外面は褐灰色 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・礫片・海綿骨芯を含む
2	４ａ面	漆器 椀	口径10.5cm　底径6.6cm　器高2.8cm　黒漆に朱漆で印判で施文
3	４ａ面	ヘラ状 木製品	長さ18.8cm　幅1.7cm　厚さ0.7cm　尖端部４回以上の削りでヘラ状に加工　端部周辺２ヶ所に切り込みあり 端部は切り込みから折れた、あるいは折って成形
4	４ｂ面	常滑 鳶口壺	底径9.2cm　輪積み成形　胎土は灰色で白色粒子・長石・石英・礫片を含む　器表面は褐灰色 外面上部に灰オリーブ色の降灰　内面に暗赤色の付着物あり　長石の吹き出しあり　肩部から上部に打ち欠いたような痕跡多くあり
5	４ｂ面	竜泉窯青磁 Ⅲ類鉢	底部片　ロクロ成形　素地は灰白色で黒色粒子を含む　釉薬は明緑灰色不透明　釉層厚い
6	溝３	竜泉窯青磁 Ⅱ類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色で白色粒子を含む　釉薬はオリーブ灰色不透明
7	溝３	木製品 円盤	残存長（13.4）cm　残存幅3.7cm　厚さ0.6cm　一部炭化　曲物等の底板か　柾目材
8	溝３	箸状 木製品	長さ19.3cm　幅0.6cm　厚さ0.5cm　両口
9	溝３	ヘラ状 木製品	長さ19.4cm　幅1.2cm　厚さ0.9cm　角材の端部を斜めに削りヘラ状に加工
図16-1	４ｂ面 構築土	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.1）cm　底径（5.1）cm　器高1.6cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む

表８　出土遺物観察表（８）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図16-2	４ｂ面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.1）cm　底径（6.0）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	４ｂ面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む　一部煤状付着物
4	４ｂ面 構築土	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 胎土はにぶい褐色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む　器表面は褐色
5	４ｂ面 構築土	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　　胎土は灰色で白色粒子・石英・礫片を含む 内面は暗赤褐色　口縁部に灰白色の降灰
6	４ｂ面 構築土	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 内面は褐灰色　外面は暗赤褐色　口縁部・体部下部に灰オリーブ色の自然釉　長石の吹き出しあり
7	４ｂ面 構築土	竜泉窯青磁 Ⅱ類碗	口縁部小片　ロクロ成形　素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は緑灰色半透明　気泡あり　釉層厚い
8	４ｂ面 構築土	元豊通宝	北宋　初鋳1078年　篆書
9	４ｂ面 構築土	漆器 椀	口径15.0cm　底径7.1cm　器高3.8cm　黒漆に朱漆で手描きで施文　輪高台
10	４ｂ面 構築土	漆器 椀	口径（9.8）cm　底径（5.9）cm　器高1.0cm　黒漆　輪高台
11	４ｂ面 構築土	木製品 円盤	長さ10.5cm　幅4.6cm　厚さ0.5cm　曲物等の底板か　柾目材
12	４ｂ面 構築土	ヘラ状 木製品	長さ23.5cm　幅1.2cm　厚さ1.1cm　円柱状の尖端部を斜めに削り加工
図17-1	５ａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（6.7）cm　底径（4.8）cm　器高1.5cm　回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	５ａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.3）cm　底径（5.6）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	５ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径11.9cm　底径7.0cm　器高3.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	５ａ面	土師器皿 Ｒ種大型	底径（6.6）cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部渦状ナデ 胎土は灰黄色で金雲母・黒色光沢粒子・黒色粒子・海綿骨芯を含む　混入物少ない
5	５ａ面	常滑 片口鉢Ⅰ類	口径（25.5）cm　輪積み成形後、ロクロ整形　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む
6	５ａ面	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形　胎土は灰色で白色粒子・長石・石英を含む
7	５ａ面	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は褐灰色で白色粒子・石英を含む 内面は褐色で口縁部に灰オリーブ色の自然釉　外面は褐灰色
8	５ａ面	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 内面下部・外面はオリーブ黒色の自然釉　口縁部に灰白色の降灰
9	５ａ面	鉄製品 刀子	長さ18.8cm　幅1.6cm　厚さ0.3cm　重さ29.5ｇ
10	５ａ面	景徳元宝	北宋　初鋳1004年　真書
11	５ａ面	不明 木製品	長さ9.9cm　幅6.8cm　厚さ1.6cm　上面端部は曲線状になるように加工か　板目材
12	５ａ面	木製品 円盤	長さ18.2cm　幅6.7cm　厚さ1.5cm　一部炭化　端部を曲線状に削る
13	５ａ面	箸状 木製品	長さ22.8cm　幅1.0cm　厚さ0.4cm　両口
14	５ａ面	箸状 木製品	長さ23.1cm　幅0.6cm　厚さ0.5cm　両口
15	５ａ面	箸状 木製品	長さ25.6cm　幅0.6cm　厚さ0.4cm　両口
16	５ａ面	棒状 木製品	長さ22.1cm　幅0.7cm　厚さ0.4cm　端部４回の削りで細く加工
17	５ａ面	箸状 木製品	長さ22.1cm　幅0.5cm　厚さ0.5cm　両口
18	５ａ面	箸状 木製品	長さ20.5cm　幅0.4cm　厚さ0.5cm　両口
19	５ａ面	箸状 木製品	長さ22.1cm　幅0.5cm　厚さ0.4cm　両口
20	５ａ面	不明 木製品	長さ11.0cm　幅2.0cm　厚さ1.3cm　尖端部直線状の切り出しと、３面が１回の削りで尖頭状に加工

表９　出土遺物観察表（９）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図17-21	５ａ面	不明 木製品	長さ16.1cm　幅2.3cm　厚さ0.4cm　幅広端部の方が薄くなっている
図18-1	５ｂ面	土師器皿 Ｔ種小型	口径8.1cm　底径5.8cm　器高1.9cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・海綿骨芯を含む　割れ目の一部橙色
2	５ｂ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.8）cm　底径7.4cm　器高2.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	５ｂ面	常滑 甕	肩部片　輪積み成形　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内面はにぶい黄橙色　外面は赤褐色で、板状工具による縦位のナデ、叩き目あり
4	５ｂ面	青白磁 碗	口縁部小片　ロクロ成形　素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色透明　素地・釉層薄い　口縁部釉面取り
5	５ｂ面	鉄釘	長さ7.5cm　幅0.5cm　厚さ0.3cm　重さ3.7ｇ
6	５ｂ面	不明 鉄製品	長さ7.5cm　幅0.6cm　厚さ0.3cm　重さ3.2ｇ　釘状ではあるが頭部の形状が違う
7	５ｂ面	景祐元宝	北宋　初鋳1034年　篆書
8	５ｂ面	元豊通宝	北宋　初鋳1078年　行書
9	５ｂ面	石製品 硯	残存長（3.4）cm　幅3.8cm　厚さ1.1cm　鳴滝より柔らかい石を使用か
10	５ｂ面	箸状 木製品	長さ24.7cm　幅0.6cm　厚さ0.5cm　両口
11	土坑５	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.5）cm　底径（4.6）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 内面は口縁部付近まで橙色・赤褐色
12	土坑５	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.0）cm　底径（7.4）cm　器高3.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は黄灰色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　青灰色の付着物あり
13	土坑５	白磁 水注	胴部片　ロクロ成形　素地は灰色で黒色粒子を含む　釉薬は明オリーブ灰色半透明
14	土坑５	滑石鍋 転用陽物	長さ13.2cm　幅4.8cm　厚さ2.4cm　灰白色　滑石鍋の底部を転用
15	土坑５	漆器 皿	口径（9.5）cm　底径（8.0）cm　器高0.9cm　黒漆
16	土坑５	箸状 木製品	長さ19.2cm　幅0.7cm　厚さ0.3cm　片口
17	土坑５	箸状 木製品	長さ22.2cm　幅0.7cm　厚さ0.5cm　両口
18	土坑５	木製品 杓子	長さ27.1cm　幅3.9・（6.8）cm　厚さ0.7cm
19	５ｂ面 構築土	常滑 片口鉢Ｉ類	底部片　輪積み成形後、ロクロ整形　内面剥離するほど磨耗　付け高台　外面下位回転ヘラ削り 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片・小石粒を含む
20	５ｂ面 構築土	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は褐灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 内面は暗赤褐色　外面は黒褐色　口縁部に灰オリーブ色・灰白色の降灰　長石の吹き出しあり
図19-1	６ａ面	土師器皿 Ｔ種小型	口径13.0cm　底径7.2cm　器高3.1cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	６ａ面	尾張型 山茶碗	底径5.3cm　輪積み成形後、ロクロ整形　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む 外底部板状圧痕　付高台　内底部中央に指頭ナデ　内面黒褐色に変色、外面にぶい黄橙色　内面調整確認できるが摩耗
3	５ｂ面	箸状 木製品	長さ23.0cm　幅0.7cm　厚さ0.45cm　両口
4	６ａ面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.7）cm　底径（5.3）cm　器高1.6cm　回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	６ａ面 構築土	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は褐灰色で赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む
6	６ａ面 構築土	常滑 片口鉢Ｉ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形　内面は黄褐色、外面は黄灰色 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片（多）・小石粒を含む
7	６ａ面 構築土	常滑 片口鉢Ｉ類	底部片　輪積み成形後、ロクロ整形　内面調整が確認できないほど磨耗　外面下位回転ヘラ削り 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片（多）小石粒を含む　付け高台
8	６ａ面 構築土	常滑 甕	肩部片　輪積み成形　胎土は黄灰色で赤色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 内面は暗褐色　外面にオリーブ灰色の自然釉、叩き目あり
図20-1	６ｂ面	釘状 鉄製品	長さ3.6cm　幅0.2cm　厚さ0.1cm　重さ0.6ｇ　頭部の形状が釘と若干違う

表10　出土遺物観察表（10）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図20-2	6 b面	曲物	径4.7cm　厚さ1.3cm　厚さ0.7cmの底板に木の板を巻きつけ、木の皮で留めている
3	6 b面	木製品 円盤	径41.7cm　厚さ0.7cm　灰白色の付着物あり　柾目材
4	6 b面	棒状 木製品	長さ35.0cm　幅1.2cm　厚さ0.7cm　角柱状の棒に2ヶ所の切込みあり
5	6 b面	箸状 木製品	長さ23.9cm　幅0.6cm　厚さ0.5cm　両口
6	6 b面	箸状 木製品	長さ20.8cm　幅0.6cm　厚さ0.4cm　両口
7	6 b面	ヘラ状 木製品	長さ14.1cm　幅1.1cm　厚さ0.7cm　尖端部6回の削りで細く加工　端部炭化
8	6 b面	不明 木製品	長さ18.5cm　幅6.6cm　厚さ0.15cm　加工により形状を作る　柾目材
9	6 b面	不明 木製品部材	長さ11.0cm　幅1.5cm　厚さ1.2cm　平坦面1面に3ヶ所、1面に1ヶ所木釘あり
図21-1	6 b面 構築土	漆器 椀	底径7.8cm　器高（2.4）cm　内外面黒漆
2	6 b面 構築土	漆器 椀	口径（15.7）cm　底径10.2cm　器高（3.5）cm　黒漆に朱漆で印判で施文
3	6 b面 構築土	木製品 円盤	径10.6cm　厚さ0.6cm　曲物の底板か　柾目材
4	6 b面 構築土	箸状 木製品	長さ19.8cm　幅0.8cm　厚さ0.5cm　両口
5	6 b面 構築土	箸状 木製品	長さ20.9cm　幅0.6cm　厚さ0.6cm　両口
6	6 b面 構築土	箸状 木製品	長さ22.1cm　幅0.5cm　厚さ0.4cm　両口
図22-1	7面	土師器皿 R種小型	口径（8.4）cm　底径（6.8）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で赤色粒子・海綿骨芯を含む　外面焼きムラあり
2	7面	土師器皿 T種大型	口径13.3cm　底径8.2cm　器高3.4cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む　粉質土、混入物少ない
3	7面	棒状 木製品	長さ23.4cm　幅0.6cm　厚さ0.3cm　尖端部2面が1回、1面が2回の削り　端部平たく加工
4	7面	棒状 木製品	長さ21.9cm　幅0.7cm　厚さ0.7cm　尖端部3回の削りと5回の削りで形成
5	7面	棒状 木製品	長さ19.3cm　幅0.8cm　厚さ0.6cm　尖端部4回の削り
6	7面	棒状 木製品	長さ21.7cm　幅0.7cm　厚さ0.5cm　尖端部3回の削りで細く加工
7	板列周辺	土師器皿 R種小型	口径9.1cm　底径7.4cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む
8	板列裏込め	土師器皿 T種小型	口径9.4cm　底径6.5cm　器高1.8cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む
9	板列裏込め	土師器皿 R種小型	口径（10.3）cm　底径（9.0）cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　内面に焼きムラ
10	板列裏込め	土師器皿 R種小型	口径9.3cm　底径6.3cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　内面に焼きムラ
11	板列裏込め	板草履芯	長さ22.3cm　幅4.6cm　厚さ0.3cm　植物圧痕あり
12	板列裏込め	板草履芯	長さ21.9cm　幅5.0cm　厚さ0.2cm　植物圧痕あり
13	板列裏込め	串状 木製品	長さ15.1cm　幅0.6cm　厚さ0.4cm　端部斜めの切り出しと尖端部2回の削りで加工
14	板列裏込め	串状 木製品	長さ16.6cm　幅0.8cm　厚さ0.7cm　尖端部4回の削りで加工
15	板列裏込め	箸状 木製品	長さ20.5cm　幅0.7cm　厚さ0.3cm　両口
16	板列裏込め	箸状 木製品	長さ23.5cm　幅0.8cm　厚さ0.3cm　両口
17	板列裏込め	箸状 木製品	長さ23.5cm　幅0.7cm　厚さ0.5cm　片口

表11　出土遺物観察表（11）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図22-18	板列裏込め	箸状 木製品	長さ22.6cm　幅0.9cm　厚さ0.4cm　両口
19	板列裏込め	箸状 木製品	長さ21.6cm　幅0.8cm　厚さ0.3cm　片口
20	板列裏込め	箸状 木製品	長さ21.7cm　幅0.8cm　厚さ0.6cm　片口
図23-1	8面	土師器皿 R種小型	口径8.9cm　底径6.4cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む　混入物少ない
2	8面	土師器皿 T種大型	口径13.5cm　底径9.1cm　器高3.7cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	8面 構築土	土師器皿 T種小型	口径（10.0）cm　底径（6.2）cm　器高1.8cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	8面 構築土	土師器皿 R種大型	口径12.7cm　底径8.9cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む　焼成良好
5	表採	土師器皿 R種小型	口径7.5cm　底径4.0cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	表採	瀬戸 丸碗か	底径5.0cm　胎土は淡黄色で黒色粒子を含む 内面に灰オリーブ色の釉薬　釉層厚く、気泡あり　削り出し高台

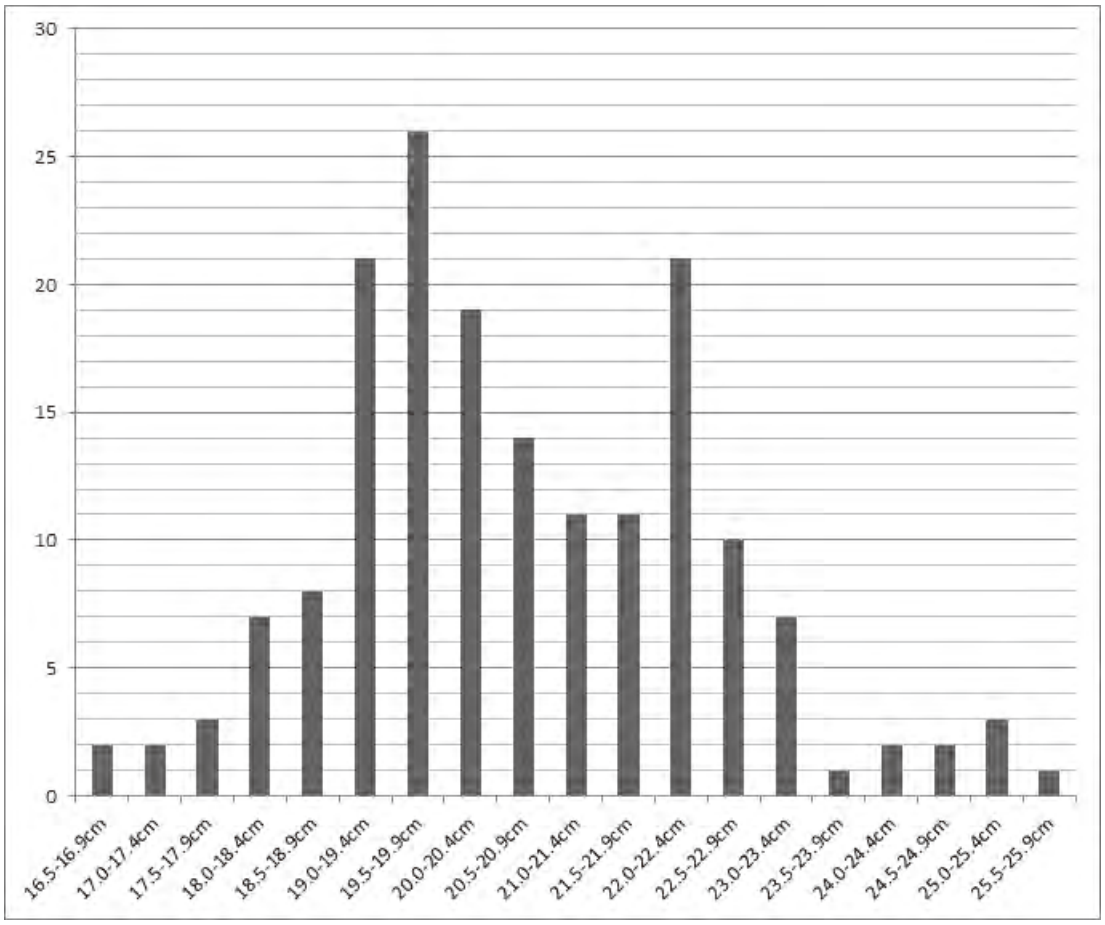


図24　箸状木製品寸法分布

表12　出土遺物計量表（1）

				1面		2面		3a面		3b面		3c面	
中世以前		須恵器		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		鬼高式		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
土器	土師器皿	T種	大	2	0.12%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
			小	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		R種	大	1293	79.57%	390	64.68%	304	47.13%	112	19.31%	142	41.76%
			燈明皿	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	3	0.52%	1	0.29%
			小	114	7.02%	48	7.96%	35	5.43%	17	2.93%	16	4.71%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.34%	2	0.59%
			極小	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%
		R種白色系	大	0	0.00%	1	0.17%	1	0.16%	0	0.00%	1	0.29%
	土器質	火鉢		0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	2	0.34%	0	0.00%
		香炉		0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	瓦質土器	火鉢		16	0.98%	2	0.33%	2	0.31%	2	0.34%	0	0.00%
	瓦器質土器	火鉢		5	0.31%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	瓦器	産地不明	碗	0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%
			鍋	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
土製品		羽口		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
国産陶器	常滑	壺		5	0.31%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		甕		140	8.62%	56	9.29%	39	6.05%	10	1.72%	13	3.82%
		片口鉢	Ⅰ類片口鉢	1	0.06%	3	0.50%	4	0.62%	0	0.00%	0	0.00%
			Ⅱ類片口鉢	5	0.31%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	2	0.59%
		鳶口壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		摩耗陶片		1	0.06%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	瀬戸	四耳壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		瓶子		1	0.06%	2	0.33%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		卸皿		5	0.31%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		折縁皿		1	0.06%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		柄付片口		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		香炉		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		入子		2	0.12%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%
		平底末広碗		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		壺類		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		碗類		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		器種不明		2	0.12%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	尾張型	山茶碗		0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	1	0.29%
	渥美	壺		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		甕		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	備前	擂鉢		3	0.18%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
瓦		Ⅱ期以降平瓦		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
舶載陶磁器		大宰府Ⅰ類	碗	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%
		大宰府Ⅱ類	蓮弁文碗	0	0.00%	3	0.50%	2	0.31%	0	0.00%	0	0.00%
		大宰府Ⅲ類	蓮弁文碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%
			折縁鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
			香炉	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%
	青白磁	梅瓶		0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		碗		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	白磁	口はげ	碗	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
			皿	0	0.00%	0	0.00%	3	0.47%	0	0.00%	1	0.29%
		水注		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		輪花碗		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	褐釉	壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
金属製品	銭	中国銅銭		0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%
	鉄	釘		0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%
		刀子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%
		鑿		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	銅	不明		0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
石製品	滑石	鍋転用陽物		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	砥石	鳴滝		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%
	硯	鳴滝硯		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
石材・石		軽石		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		摩耗石片		1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
木製品	漆器	椀		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	1	0.29%
		皿		0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	1	0.17%	0	0.00%
	漆器以外木製品	箸状木製品（両口）		1	0.06%	18	2.99%	48	7.44%	87	15.00%	49	14.41%
		箸状木製品（片口）		0	0.00%	1	0.17%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%
		箸状木製品（不明）		2	0.12%	30	4.98%	54	8.37%	142	24.48%	68	20.00%
		杓文字		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		曲物		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	1	0.29%
		折敷		0	0.00%	5	0.83%	3	0.47%	14	2.41%	3	0.88%
		板草履		0	0.00%	2	0.33%	6	0.93%	15	2.59%	4	1.18%
		板状木製品		0	0.00%	7	1.16%	2	0.31%	13	2.24%	0	0.00%
		棒状木製品		0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	5	0.86%	15	4.41%
		串状木製品		0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	4	0.69%	0	0.00%
		ヘラ状木製品		0	0.00%	2	0.33%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%
		栓		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	4	1.18%
木材		部材		0	0.00%	13	2.16%	113	17.52%	133	22.93%	4	1.18%
		肘木		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%
自然遺物	木	炭		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%
	骨	鳥獣骨		6	0.37%	6	1.00%	12	1.86%	2	0.34%	3	0.88%
		魚骨		1	0.06%	1	0.17%	0	0.00%	2	0.34%	2	0.59%
	貝	アカニシ		0	0.00%	0	0.00%	6	0.93%	1	0.17%	1	0.29%
		サザエ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		バイガイ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		ダンベイキサゴ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		ハマグリ類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%
		イガイ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%
		カキ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.69%	0	0.00%
		アワビ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%
	種	モモ		0	0.00%	2	0.33%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		クルミ		0	0.00%	2	0.33%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		ウメ		0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		トチ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
合計				1625	100%	603	100%	645	100%	580	100%	340	100%

表13　出土遺物計量表（2）

				4a面		4b面		5a面		5b面		6a面	
中世以前		須恵器		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		鬼高式		0	0.00%	0	0.00%	3	1.13%	0	0.00%	0	0.00%
土器	土師器皿	T種	大	0	0.00%	0	0.00%	29	10.90%	0	0.00%	1	0.82%
			小	0	0.00%	1	0.55%	6	2.26%	1	0.68%	1	0.82%
		R種	大	18	36.73%	54	29.83%	52	19.55%	25	17.12%	16	13.11%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
			小	0	0.00%	4	2.21%	6	2.26%	1	0.68%	2	1.64%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
			極小	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		R種白色系	大	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	土器質	火鉢		1	2.04%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		香炉		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	瓦質土器	火鉢		0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	瓦器質土器	火鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	瓦器	産地不明	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
			鍋	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
土製品		羽口		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
国産陶器	常滑	壺		0	0.00%	0	0.00%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%
		甕		5	10.20%	22	12.15%	12	4.51%	11	7.53%	7	5.74%
		片口鉢	Ⅰ類片口鉢	1	2.04%	4	2.21%	4	1.50%	1	0.68%	2	1.64%
			Ⅱ類片口鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.82%
		鳶口壺		0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		摩耗陶片		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	瀬戸	四耳壺		0	0.00%	0	0.00%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%
		瓶子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		卸皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		折縁皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		柄付片口		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		香炉		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		入子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		平底末広碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		壺類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		碗類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		器種不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	尾張型	山茶碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.82%
	渥美	壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		甕		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	備前	擂鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
瓦		Ⅱ期以降平瓦		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
舶載陶磁器		大宰府Ⅰ類	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		大宰府Ⅱ類	蓮弁文碗	0	0.00%	2	1.10%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		大宰府Ⅲ類	蓮弁文碗	0	0.00%	1	0.55%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%
			折縁鉢	0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
			香炉	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	青白磁	梅瓶		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
	白磁	口はげ	碗	0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
			皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		水注		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
		輪花碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	褐釉	壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	2.46%
金属製品	銭	中国銅銭		0	0.00%	1	0.55%	1	0.38%	2	1.37%	0	0.00%
	鉄	釘		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
		刀子		0	0.00%	0	0.00%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%
		鑿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
	銅	不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
石製品	滑石	鍋転用陽物		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
	砥石	鳴滝		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
	硯	鳴滝硯		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
石材・石		軽石		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		摩耗石片		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
木製品	漆器	椀		1	2.04%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		皿		0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
	漆器以外木製品	箸状木製品（両口）		0	0.00%	7	3.87%	43	16.17%	5	3.42%	23	18.85%
		箸状木製品（片口）		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
		箸状木製品（不明）		10	20.41%	15	8.29%	50	18.80%	32	21.92%	39	31.97%
		杓文字		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
		曲物		0	0.00%	4	2.21%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%
		折敷		1	2.04%	0	0.00%	0	0.00%	3	2.05%	0	0.00%
		板草履		1	2.04%	2	1.10%	1	0.38%	4	2.74%	5	4.10%
		板状木製品		0	0.00%	3	1.66%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%
		棒状木製品		1	2.04%	2	1.10%	1	0.38%	2	1.37%	0	0.00%
		串状木製品		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		ヘラ状木製品		1	2.04%	2	1.10%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		栓		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	3	1.13%	0	0.00%	0	0.00%
木材		部材		5	10.20%	26	14.36%	29	10.90%	24	16.44%	14	11.48%
		肘木		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
自然遺物	木	炭		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	骨	鳥獣骨		2	4.08%	3	1.66%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		魚骨		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	貝	アカニシ		0	0.00%	2	1.10%	2	0.75%	1	0.68%	1	0.82%
		サザエ		0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		バイガイ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
		ダンベイキサゴ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.82%
		ハマグリ類		2	4.08%	18	9.94%	17	6.39%	19	13.01%	4	3.28%
		イガイ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		カキ		0	0.00%	0	0.00%	1	0.38%	1	0.68%	1	0.82%
		アワビ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	種	モモ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		クルミ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		ウメ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		トチ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	1.37%	0	0.00%
合計				49	100%	181	100%	266	100%	146	100%	122	100%

表14　出土遺物計量表（3）

				6b面		7面		8面		総計	
中世以前		須恵器		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.00%
		鬼高式		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	6	0.12%
土器	土師器皿	T種	大	1	0.51%	3	5.56%	3	25.00%	66	1.34%
			小	0	0.00%	1	1.85%	1	8.33%	16	0.33%
		R種	大	23	11.73%	2	3.70%	1	8.33%	2449	49.90%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
			小	5	2.55%	5	9.26%	1	8.33%	260	5.30%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			極小	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		R種白色系	大	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
	土器質	火鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%
		香炉		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	瓦質土器	火鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	23	0.47%
	瓦器質土器	火鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%
	瓦器	産地不明	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			鍋	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
土製品		羽口		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
国産陶器	常滑	壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	7	0.14%
		甕		7	3.57%	0	0.00%	0	0.00%	324	6.60%
		片口鉢	Ⅰ類片口鉢	1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	21	0.43%
			Ⅱ類片口鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	9	0.18%
		鳶口壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		摩耗陶片		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
	瀬戸	四耳壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		瓶子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
		卸皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%
		折縁皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		柄付片口		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		香炉		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		入子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
		平底末広碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		壺類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		碗類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		器種不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
	尾張型	山茶碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
	渥美	壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		甕		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
	備前	擂鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
瓦		Ⅱ期以降平瓦		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
舶載陶磁器		大宰府Ⅰ類	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		大宰府Ⅱ類	蓮弁文碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	7	0.14%
		大宰府Ⅲ類	蓮弁文碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
			折縁鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			香炉	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	青白磁	梅瓶		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
		碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
	白磁	口はげ	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
			皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.08%
		水注		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		輪花碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	褐釉	壺		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%
金属製品	銭	中国銅銭		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%
	鉄	釘		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		刀子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		鑿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		不明		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
	銅	不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
石製品	滑石	鍋転用陽物		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	砥石	鳴滝		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
	硯	鳴滝硯		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
石材・石		軽石		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		摩耗石片		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
木製品	漆器	椀		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	6	0.12%
		皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.08%
	漆器以外木製品	箸状木製品（両口）		29	14.80%	5	9.26%	1	8.33%	318	6.48%
		箸状木製品（片口）		0	0.00%	4	7.41%	0	0.00%	7	0.14%
		箸状木製品（不明）		65	33.16%	0	0.00%	3	25.00%	520	10.59%
		杓文字		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		曲物		3	1.53%	0	0.00%	0	0.00%	10	0.20%
		折敷		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	32	0.65%
		板草履		4	2.04%	4	7.41%	0	0.00%	49	1.00%
		板状木製品		9	4.59%	0	0.00%	0	0.00%	38	0.77%
		棒状木製品		3	1.53%	5	9.26%	0	0.00%	35	0.71%
		串状木製品		0	0.00%	2	3.70%	0	0.00%	7	0.14%
		ヘラ状木製品		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	7	0.14%
		栓		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		不明		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	10	0.20%
木材		部材		21	10.71%	19	35.19%	1	8.33%	413	8.41%
		肘木		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
自然遺物	木	炭		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	骨	鳥獣骨		1	0.51%	1	1.85%	0	0.00%	39	0.79%
		魚骨		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	6	0.12%
	貝	アカニシ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	14	0.29%
		サザエ		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
		バイガイ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		ダンベイキサゴ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		ハマグリ類		8	4.08%	2	3.70%	1	8.33%	72	1.47%
		イガイ		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		カキ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	7	0.14%
		アワビ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		不明		1	0.51%	1	1.85%	0	0.00%	3	0.06%
	種	モモ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		クルミ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		ウメ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		トチ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
合計				196	100%	54	100%	12	100%	4908	100%

第四章　自然科学分析

第１節　北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群出土の大型植物遺体

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

1. はじめに

北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の中世の遺構から出土した大型植物遺体を同定し、食用などとして利用された植物や、遺跡周辺における栽培状況および植生について検討する。なお、同一試料を用いて花粉分析と寄生虫卵分析も行われている（各分析の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、北条小町邸跡の土坑16の11層から採取された堆積物、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の10層から採取された堆積物である。考古学的な所見による遺構の時期は、土坑16が12世紀末～14世紀初頭、土坑4が13世紀前半～14世紀半ばである。

試料は、300ccを最小0.5mm目の篩で水洗した。試料の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその産出数を記号（+）で表記した。試料は、鎌倉市教育委員会に保管されている。

3. 結果

3-1. 北条小町邸跡の土坑16

同定した結果、木本植物は含まれておらず、草本植物ではミチヤナギ属果実と、スベリヒユ属種子、ウシハコベ種子、アカザ属種子、キケマン属種子、エノキグサ属種子、メロン仲間種子、イヌコウジュ属果実、キク科果実、ヘラオモダカ果実、ヒエ炭化種子、ヒエ属有ふ果、イネ籾殻・小穂軸・炭化種子、アワ有ふ果、ハリイ属果実、サンカクイ－フトイ果実の16分類群、シダ植物のワラビ裂片1分類群の、計17分類群が見いだされた。不明の芽は一括した。種実以外には昆虫遺体がみられた（表1）。

キケマン属がやや多く、イネが少量、スベリヒユ属とアカザ属がわずかに得られた。それ以外はいずれも産出数が4点以下であった。栽培植物ではメロン仲間とヒエ、アワがわずかに得られた。

表1　北条小町邸跡出土の大型植物遺体（括弧内は破片数）

		土坑	16
		層位	11層
		時期	12世紀末～14世紀初頭
分類群	水洗量（cc）		300
ミチヤナギ属	果実		1 (1)
スベリヒユ属	種子		8
ウシハコベ	種子		4
アカザ属	種子		10
キケマン属	種子		47 (10)
エノキグサ属	種子		(1)
メロン仲間	種子		2
イヌコウジュ属	果実		1
キク科	果実		3
ヘラオモダカ	果実		1
ヒエ	炭化種子		1
ヒエ属	有ふ果		1
イネ	籾殻		(2+)
	小穂軸		(14)
	炭化種子		(1)
アワ	有ふ果		1
ハリイ属	果実		1
サンカクイ－フトイ	果実		1 (1)
ワラビ	裂片		(1)
昆虫			(++)

+:1-9, ++:10-49

3-2. 若宮大路周辺遺跡群の土坑４

同定した結果、木本植物のクリ果実と、キイチゴ属核、キブシ種子の３分類群、草本植物ではヤナギタデ果実と、イヌタデ果実、キケマン属種子、メロン仲間種子、トウダイグサ種子、スミレ属種子、トウバナ属果実、メハジキ属果実、イヌコウジュ属果実、シソ属果実、ニガクサ属果実、ナス種子、コウゾリナ果実、メナモミ属果実、タカサブロウ果実、オトコエシ属果実、イネ籾殻・小穂軸、オオムギ炭化種子、スゲ属果実、ヒメクグ果実、カワラスガナ果実、カヤツリグサ属果実、ホタルイ属果実の23分類群、計26分類群が得られた。種実以外には昆虫遺体がみられた（表2）。

イネが非常に多く（図版2-5）、ヤナギタデとイヌタデ、キケマン属、トウバナ属、タカサブロウ、ヒメクグがわずかに得られた。その他の分類群はいずれも産出数が２点以下であった。栽培植物ではメロン仲間とナス、オオムギがわずかに得られた。

表2　若宮大路周辺遺跡群出土の大型植物遺体（括弧内は破片数）

		土坑	4
		層位	10層
		時期	13世紀前半～14世紀半
分類群	水洗量（cc）		300
クリ	果実		(1)
キイチゴ属	核		(1)
キブシ	種子		1
ヤナギタデ	果実		1 (2)
イヌタデ	果実		4 (2)
キケマン属	種子		4
メロン仲間	種子		1
トウダイグサ	種子		1
スミレ属	種子		(2)
トウバナ属	果実		5
メハジキ属	果実		1
イヌコウジュ属	果実		2
シソ属	果実		1 (1)
ニガクサ属	果実		1
ナス	種子		(1)
コウゾリナ	果実		1
メナモミ属	果実		(1)
タカサブロウ	果実		4
オトコエシ属	果実		2
イネ	籾殻		(++++)
	小穂軸		(++++)
オオムギ	炭化種子		1
スゲ属	果実		2
ヒメクグ	果実		4
カワラスガナ	果実		1
カヤツリグサ属	果実		2
ホタルイ属	果実		1 (1)
昆虫			(+++)

+：1-9, ++：10-49, +++：50-99, ++++：100以上

次に、主要な大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) クリ　*Castanea crenata Sieb.* et Zucc.　果実　ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。残存高10.3mm、残存幅6.0mm。

(2) メロン仲間　*Cucumis melo* L.　種子　ウリ科

黄白色～黄褐色で、上面観は扁平、側面観は倒卵形。表面は平滑で、基部は突出せず直線状の隆線となる。藤下（1984）は、種子の大きさからおおむね次の３群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1～8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。北条小町邸跡の土坑16から出土した種子は、長さ8.0mm、残存幅2.5mmと、長さ5.7mm、幅3.4mmの２点で、マクワウリ・シロウリ型と雑草メロン型の大きさであった。若宮大路周辺遺跡群の土坑４から出土した種子は長さ8.4mm、残存幅3.0mmで、モモルディカメロン型であった。

(3) シソ属　*Perilla* spp.　果実　シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.6mm、幅1.3mm。

(4) ナス　*Solanum melongena* L.　種子　ナス科

赤褐色で、上面観は長楕円形、側面観は完形ならばいびつな円形。着点は明瞭に窪む。種皮細胞の細胞壁が屈曲し、それが網目状隆線を構成する。残存長2.4mm、残存幅3.2mm。

(5) キク科　Asteraceae sp.　果実

黒褐色で、側面観は非対称の狭倒卵形。頂部はやや切形になり、冠毛着点の隆起がある。長さ 2.4mm、幅0.7mm。

(6) ヒエ　*Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz　炭化種子　イネ科

側面観が卵形、断面が片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広く、長さは全長の2/3程度と長い。臍は幅が広いうちわ型。長さ 1.9mm、幅1.7mm。

(7) ヒエ属　*Echinochloa* spp.　有ふ果　イネ科

茶褐色で、紡錘形。基部と先端はやや尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。壁は薄く弾力がある。内穎は膨らまない。残存長3.0mm、残存幅1.5mm。全体の形状は、栽培種であるヒエよりも細長く、野生のイヌビエに近い。

(8) イネ　*Oryza sativa* L.　籾殻・小穂軸・炭化種子　イネ科

籾殻は黄褐色～淡褐色で、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。基部は突出し、小穂軸がある。北条小町邸跡の土坑16から出土した籾殻は残存長1.8mm、残存幅1.3mm、小穂軸は残存長1.7mm、残存幅1.1mm。若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した籾殻は残存長3.2mm、残存幅1.7mm、小穂軸は残存長1.5mm、残存幅1.0mm。種子の上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。両面に縦方向の2本の浅い溝がある。残存長2.2mm、幅2.9mm。

(9) アワ　*Setaria italica* P.Beauv.　有ふ果　イネ科

赤褐色で、紡錘形。内穎と外穎に独立した微細な乳頭突起がある。長さ 1.8mm、幅1.5mm。

(10) オオムギ　*Hordeum vulgare* L.　炭化種子　イネ科

状態が悪いが、側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る１本の溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚がある。断面は楕円形となる。長さ 5.4mm、幅2.9mm、厚さ 2.4mm。

(11) ワラビ　*Pteridium aquilinum* (L.) Kuhn subsp. *japonicum* (Nakai) A. et S.Löve　裂片　ワラビ科

暗褐色で、長楕円形。鈍頭で全縁。葉脈は2～3叉状に分岐し、平行に並ぶ。残存長3.3mm、残存幅3.1mm。

4. 考察

以下、遺跡ごとに考察を行う。

4-1. 北条小町邸跡の土坑 16

12世紀末～ 14世紀初頭の土坑16から産出した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物はメロン仲間とヒエ、イネ、アワが得られた。メロン仲間は種子の大きさからマクワウリ・シロウリ型と雑草メロン型に分類され、栽培種のマクワウリ・シロウリ型が含まれていた。ヒエとイネは食用部位が炭化して産出している状況から判断して、調理で炭化した種子が土坑内に入り込んだ可能性がある。野生植物ではあるが食用あるいは他の用途に利用可能な植物としては、葉や茎を食用にするスベリヒユ属やウシハコベ、若芽を食用にするワラビがある。

種実から周囲の植生を検討すると、周辺には森林要素はなく、遺構のごく近くには、ミチヤナギ属やアカザ属、キケマン属など、道端や荒れ地などの乾いた草地に生育する草本が生育していたと考えられる。

畑作植物であるメロン仲間やヒエ、アワは、持ち込まれた可能性と付近で栽培されていた可能性の両方の可能性が考えられる。スベリヒユ属やウシハコベ、エノキグサ属などは畑作雑草として畑地に生育していた可能性もある。

イネは炭化種子だけでなく、籾殻や籾の軸にあたる小穂軸が少量産出しており、籾殻を土坑内に廃棄

した可能性がある。水生植物であるハリイ属やサンカクイ-フトイなども多産しており、遺構周辺に存在した湿地や水田の堆積物が土坑内に堆積した可能性がある。

4-2. 若宮大路周辺遺跡群の土坑４

13世紀前半～14世紀半の土坑4から産出した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物は、メロン仲間とナス、イネ、オオムギが得られた。メロン仲間は種子の大きさからモモルディカメロン型に分類された。オオムギは食用部位が炭化して産出している状況から判断して、調理で炭化した種子が入り込んだ可能性がある。野生植物ではあるが食用あるいは他の用途に利用可能な植物としては、食用可能なクリとキイチゴ属、シソ属や、染料に利用するキブシなどがある。

種実から周囲の植生を検討すると、周辺にはほとんど森林要素はなく、遺構のごく近くには落葉樹がわずかに生えていた可能性と、産出した種実はすべて利用可能な植物のため、なんらかの用途のために持ち込まれた可能性、庭木として植栽された可能性などが考えられる。遺構周辺には、イヌタデやトウダイグサ、メハジキ属、キケマン属など道端や荒れ地などの乾いた草地に生育する草本が生育していたと考えられる。

畑作植物であるメロン仲間やナス、オオムギは持ち込まれた可能性と付近で栽培されていた可能性の両方の可能性が考えられる。イヌタデやタカサブロウなどは畑作雑草として畑地に生育していた可能性もある。

イネは籾殻や籾の軸にあたる小穂軸が非常に多産しているため、籾殻をまとめて土坑内に廃棄した可能性がある。水生植物であるヒメクグやカワラスガナ、ホタルイ属なども産出しており、遺構周辺に存在した湿地や水田の堆積物が土坑内に堆積したと考えられる。

引用文献

藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法．渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学―総括報告書」：638-654，同朋舎出版.

第２節　北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析

森　将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

鎌倉市雪ノ下一丁目427番2外地点に所在する北条小町邸跡と、鎌倉市小町二丁目24番14地点に所在する若宮大路周辺遺跡群において、花粉分析用と寄生虫卵分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析と寄生虫卵分析の結果を示し、考察を行った。なお、同一試料を用いて大型植物遺体分析も行われている（大型植物遺体分析の節参照）。

2. 試料と方法

北条小町邸跡の分析試料は、土坑16の第11層から採取された黒色（10YR2/1）有機質シルト１点である。土坑16は、12世紀末～ 14世紀初頭の井戸の可能性が考えられている。若宮大路周辺遺跡群の分析試料は土坑4の第10層から採取された黒色（10YR2/1）有機質シルト１点である。土坑4は、13世紀前半～ 14世紀半ばのゴミ穴の可能性が考えられている。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

2-1. 花粉分析

試料（湿重量約１～ 2g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC.1577 ～ 1583）を作製し、写真を図版1に載せた。

2-2. 寄生虫卵分析

試料を計量し、花粉分析と同様の方法で処理を行った。処理後の残渣に適容量のグリセリンを加え、計量を行った。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求める。

$X = BD/AC$

X：試料1g中の寄生虫卵含有数、A：分析に用いた試料の重量(g)、B：濃縮試料＋グリセリンの重量(g)、C：濃縮試料＋グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D：プレパラート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良好な寄生虫卵を選んで単体標本（PLC.1584）を作製し、写真を図版1に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉7、草本花粉12、形態分類のシダ植物胞子2の総計21である。これら花粉･シダ植物胞子の一覧を表1に、分布図を図1に示した。分布図の樹木花粉･草本花粉・シダ植物胞子は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン（－）で結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科とマメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括

して入れてある。

今回の分析試料は、両試料ともに樹木花粉の含有量が少なく、ほとんどが草本花粉で占められる。草本花粉のなかではイネ科とヨモギ属の産出が突出するが、北条小町邸跡の土坑16の試料ではイネ科の産出は少ない。北条小町邸跡の土坑16の試料ではイネ科が3%、ヨモギ属が97%、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の試料ではイネ科が51%、ヨモギ属が46%の産出率である。

表1　産出花粉胞子一覧表

学名	和名	北条小町邸跡 土坑16	若宮大路周辺遺跡群 土坑4
樹木			
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	-	2
Cryptomeria	スギ属	5	-
Carpinus－*Ostrya*	クマシデ属－アサダ属	-	1
Rhus－*Toxicodendron*	ヌルデ属－ウルシ属	-	1
Acer	カエデ属	-	1
Araliaceae	ウコギ科	4	3
Ligustrum	イボタノキ属	-	1
草本			-
Gramineae	イネ科	255	1245
Cyperaceae	カヤツリグサ科	-	1
Moraceae	クワ科	1	-
Polygonum sect. *Persicaria*－*Echinocaulon*	サナエタデ節－ウナギツカミ節	-	3
Chenopodiaceae－Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	18	6
Leguminosae	マメ科	1	-
Apiaceae	セリ科	1	-
Labiatae	シソ科	-	3
Patrinia	オミナエシ属	6	4
Ambrosia－*Xanthium*	ブタクサ属－オナモミ属	1	-
Artemisia	ヨモギ属	9797	1107
Tubuliflorae	キク亜科	41	35
Liguliflorae	タンポポ亜科	2	7
シダ植物			
monolete type spore	単条溝胞子	2	-
trilete type spore	三条溝胞子	1	1
Arboreal pollen	樹木花粉	9	9
Nonarboreal pollen	草本花粉	10123	2411
Spores	シダ植物胞子	3	1
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	10135	2421
Unknown pollen	不明花粉	5	3

3-2. 寄生虫卵分析

計量し、検鏡した結果を表2に示す。両試料ともに鞭虫卵が検出された。北条小町邸跡の土坑16の試料では試料1g当たり86個、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の試料では試料1g当たり83個である。

表2　寄生虫卵分析に用いた試料の計量値と寄生虫卵数

	北条小町邸跡 土坑16	若宮大路遺跡群 土坑4
分析に用いた試料(g)	2.5716	1.6005
残渣＋グリセリン(g)	1.5177	1.3139
封入に用いた量(g)	0.0482	0.0791
鞭虫卵	7	8
(試料1g当たりの個数)	86	83

4. 考察

花粉分析の結果では、両試料ともにヨモギ属の産出が突出している。特に北条小町邸跡の土坑16の試料では、産出花粉のうち、ほとんどがヨモギ属であった。このような特定の分類群が突出するような産状は、自然状態よりも人為的な影響を反映している可能性がある。例えば、土坑内にヨモギ属が人為的に投げ込まれた状況などが推測できる。また、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の試料では、ヨモギ属とともにイネ科の産出も多い。同試料は、大型植物遺体分析で籾殻が大量に検出されている（大型植物遺体の節参照）。籾殻には花粉が多量に付着しているため、検出されたイネ科花粉は籾殻由来であると考えられる。

寄生虫卵分析の結果では、両試料ともに鞭虫卵が検出された。鎌倉時代の鎌倉では市内各地で回虫卵や鞭虫卵などの寄生虫卵が大量に産出しており（鈴木，2008）、鎌倉時代の鎌倉における寄生虫卵の産出は一般的な現象であると考えられる。ただし、今回の試料では鞭虫卵が検出されたものの、比較的産出量が少なく、回虫卵などは一切検出されていない。寄生虫卵の有無を決める要因は不明であるが、今回の北条小町邸跡の土坑16と若宮大路周辺遺跡群の土坑4は、寄生虫卵の汚染が軽度な遺構であると考えられる。

引用文献

鈴木　茂（2008）鎌倉の遺跡と寄生虫卵．考古論業神奈河第16集，77-83.

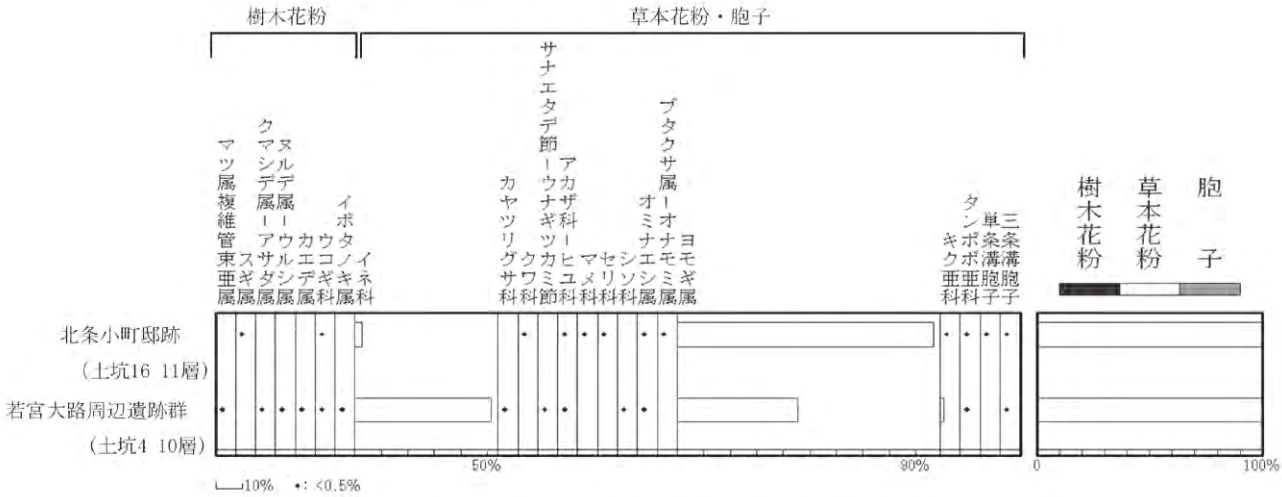


図１　北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の土坑採取試料における花粉分布図
樹木花粉、草本花粉、胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。

第3節　若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）から出土した大型植物遺体

バンダリ スダルシャン・佐々木由香（パレオ・ラボ）

1. はじめに

神奈川県鎌倉市の若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）は、沖積平野である市内中心部の小町に所在し、13世紀前半から14世紀半の遺構などが検出されている。以下では、13世紀中葉～後半の堆積物を掘り込んで作られたゴミ穴である土坑の土壌より得られた大型植物遺体の同定結果を報告し、当時の利用植物や植生について検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、第5b面を掘り込んだ遺構である土坑5の埋土から採取された堆積物である。土相は、暗茶褐色の砂礫混じりの砂質シルトである。第5b面は、13世紀中葉～後半の遺構面と推定されている。

試料の水洗は、パレオ・ラボで行った。試料500ccについて最小0.5mm目の篩を用いて水洗した。同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群は、おおよその産出数を記号（+）で表記した。試料は、鎌倉市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物ではクワ属核と、キイチゴ属核、ブドウ属種子、カキノキ種子の4分類群、草本植物ではソバ果実と、イヌタデ果実、サナエタデ-オオイヌタデ果実、ミチヤナギ属果実、スベリヒユ属種子、アカザ属種子、キケマン属種子、ゴマ種子、メロン仲間種子、オトコエシ属果実、トウバナ属果実、メハジキ属果実、シソ属果実、タカサブロウ果実、メナモミ属果実、コウゾリナ属果実、ナス種子、ナス属種子、ヘラオモダカ種子、オモダカ属果実、メヒシバ属果実、イネ籾殻・炭化籾殻・炭化種子、エノコログサ属有ふ果、ヒメクグ果実、カヤツリグサ属果実、サンカクイ-フトイ果実、ホタルイ属果実の27分類群の、計31分類群が見いだされた（表1）。大型植物遺体以外には昆虫遺体や骨片、鉄釘がみられたが、同定の対象外とした。

産出した大型植物遺体では、イネの籾殻（炭化籾殻を含む）が多量で、キケマン属とナス、カヤツリグサ属が少量、クワ属とキイチゴ属、ブドウ属、カキノキ、ソバ、イヌタデ、サナエタデ-オオイヌタデ、ミチヤナギ属、スベリヒユ属、アカザ属、ゴマ、メロン仲間、オトコエシ属、トウバナ属、メハジキ属、シソ属、タカサブロウ、メナモミ属、コウゾリナ属、ナス属、ヘラオモダカ、オモダカ属、メヒシバ属、イネ（種子）、エノコログサ属、ヒメクグ、サンカクイ-フトイ、ホタルイ属がわずかに得られた。

次に、主要な大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) クワ属　Morus sp.　核　クワ科

淡褐色で、側面観はいびつな広倒卵形または三角状倒卵形、断面形は卵形または三角形。背面は稜をなす。表面にはゆるやかな凹凸があり、厚くやや硬い。基部に嘴状の突起を持つ。長さ1.7mm、幅1.5mm。

(2) ブドウ属　Vitis sp.　種子　ブドウ科

黒褐色で、上面観は楕円形、側面観は先端が尖る卵形。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点

があり、腹面には縦方向の2本の深い溝がある。種皮は薄く硬い。長さ4.2m、幅3.9mm、厚さ2.4mm。

(3) カキノキ　*Diospyros kaki* Thunb.　種子　カキノキ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと想定される種子をカキノキとした。残存長12.4mm、幅8.1mm。

(4) ソバ　*Fagopyrum esculentum* Moench　果実　タデ科

暗褐色で、完形ならば横断面が正三角形の三稜形。着点付近には膜状の果皮が残存する。残存長3.4mm、幅4.1mm。

(5) ゴマ　*Sesamum orientale* L.　種子　ゴマ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑。縁に沿って浅い溝がある。長さ2.8mm、残存幅2.1mm。

(6) メロン仲間　*Cucumis melo* L.　種子　ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は細長い卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下(1984)は、種子の大きさで次の3群に分類している。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1～8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。計測可能な3点の大きさは、長さ5.9～7.9(平均6.9±1.0) mm。図版に示した種子は、長さ6.9mm、残存幅3.5mm。ほぼすべてマクワウリ・シロウリ型の大きさである。

表1　出土した大型植物遺体（括弧内は破片数）

分類群	検出面	第5b面
	遺構	土坑5
	採取位置	埋土
	時期	13世紀中葉～後半
	水洗量(cc)	500
クワ属	核	1
キイチゴ属	核	6 (1)
ブドウ属	種子	1 (1)
カキノキ	種子	(2)
ソバ	果実	(1)
イヌタデ	果実	2 (4)
サナエタデ-オオイヌタデ	果実	(1)
ミチヤナギ属	果実	1
スベリヒユ属	種子	2 (1)
アカザ属	種子	5 (1)
キケマン属	種子	11 (6)
ゴマ	種子	2
メロン仲間	種子	3 (1)
オトコエシ属	果実	1
トウバナ属	果実	3
メハジキ属	果実	2
シソ属	果実	1 (1)
タカサブロウ	果実	(1)
メナモミ属	果実	(1)
コウゾリナ属	果実	1
ナス	種子	4 (11)
ナス属	種子	4 (1)
ヘラオモダカ	種子	1
オモダカ属	果実	1
メヒシバ属	果実	1
イネ	籾殻	(++++)
	炭化籾殻	4 (++)
	炭化種子	1
エノコログサ属	有ふ果	1 (9)
ヒメクグ	果実	1
カヤツリグサ属	果実	24
サンカクイ-フトイ	果実	1
ホタルイ属	果実	3
昆虫		(+++)

+:1-9、++:10-49、+++:50-99、++++:100以上

(7) シソ属　*Perilla* spp.　果実　シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.7mm、幅1.6mm。

(8) ナス　*Solanum melongena* L.　種子　ナス科

黄褐色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ3.1mm、幅3.7mm。

(9) ナス属　*Solanum* spp.　種子　ナス科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。表面には細かい畝状突起をもつ網目状隆線がある。長さ1.3mm、幅1.5mm。

(10) イネ　*Oryza sativa* L.　籾殻・炭化籾殻・炭化種子（頴果）　イネ科

籾殻は橙褐色で、完形ならば側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長3.8mm、残存幅1.2mm。炭化籾殻は残存長4.6mm、残存幅1.8mm。種子（頴果）は上面観が両凸レンズ形、側面観が楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の２本の浅い溝がある。長さ4.7mm、幅2.4mm。

(11) エノコログサ属　*Setaria* spp.　有ふ果　イネ科

赤褐色で、上面観は楕円形、側面観は長楕円形で先端がやや突出する。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ1.9mm、幅1.1mm。

(12) カヤツリグサ属　*Cyperus* spp.　果実　カヤツリグサ科

黒褐色で、上面観は三稜形、側面観は狭倒卵形。頂部と基部が突出する。表面には微細な網目状の文様がある。やや光沢がある。長さ1.3mm、幅0.6mm。

4. 考察

13世紀中葉～後半の第5b面を掘り込んでつくられた土坑5の堆積物を水洗した結果、栽培植物ではカキノキとソバ、ゴマ、メロン仲間、ナス、イネが得られた。食用として利用可能な野生植物ではクワ属とブドウ属、シソ属、エノコログサ属が得られた。イネは籾摺り後の籾殻がゴミとしてまとめて廃棄されたと考えられる。イネ籾は目視でおおよその数を計数すると、約800点に相当する量が含まれていた。

木本植物はほとんど産出しておらず、クワ属やキイチゴ属、ブドウ属子、カキノキがわずかずつの産出であった。これらは食用可能な種であるため、食べられた後の残渣の可能性もある。草本植物のイヌタデやミチヤナギ属、アカザ属、キケマン属、メハジキ属、メナモミ属、コウゾリナ属、メヒシバ属などは、遺構周辺の道端や荒れ地、畑地に生育していたと考えられる。やや湿った道端や田の畔などにはトウバナ属やタカサブロウ、ヒメクグなど、湿地にはサンカクイ-フトイ、水田や浅い水域にはヘラオモダカやホタルイ属などが生育していたと考えられる。今回検討した試料には、明瞭な水田雑草は含まれていなかった。

引用文献

藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法．渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学―総括報告書」：638-654，同朋舎.

第４節　若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析

森　将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

鎌倉市小町二丁目24番14地点に所在する若宮大路周辺遺跡群において、花粉分析用と寄生虫卵分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析と寄生虫卵分析の結果を示し、考察を行った。なお、同一試料を用いて大型植物遺体分析も行われている（大型植物遺体分析の節参照）。

2. 試料と方法

分析試料は、第5b面（13世紀中葉～後半）を掘り込んだ遺構（土坑5）の埋土から採取された黒色（10YR2/1）有機質シルト１点である。土坑５の埋土には繊維質の有機物が多数含まれており、土坑５はゴミ穴の可能性が考えられている。この試料について、以下の手順で分析を行った。

2-1. 花粉分析

試料（湿重量約１～2g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え１時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸１の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC.1656～1662）を作製し、写真を図版１に載せた。

2-2. 寄生虫卵分析

試料を計量し、花粉分析と同様の方法で処理を行った。処理後の残渣に適容量のグリセリンを加え、計量を行った。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求める。

$X = BD/AC$

X：試料1g中の寄生虫卵含有数、A：分析に用いた試料の重量(g)、B：濃縮試料＋グリセリンの重量(g)、C：濃縮試料＋グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D：プレパラート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良好な寄生虫卵を選んで単体標本（PLC.1663、PLC.1664）を作製し、写真を図版１に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉10、草本花粉21、形態分類のシダ植物胞子１の総計32である。これら花粉･シダ植物胞子の一覧を表１に､分布図を図１に示した。分布図の樹木花粉･草本花粉・シダ植物胞子は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン（－）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して

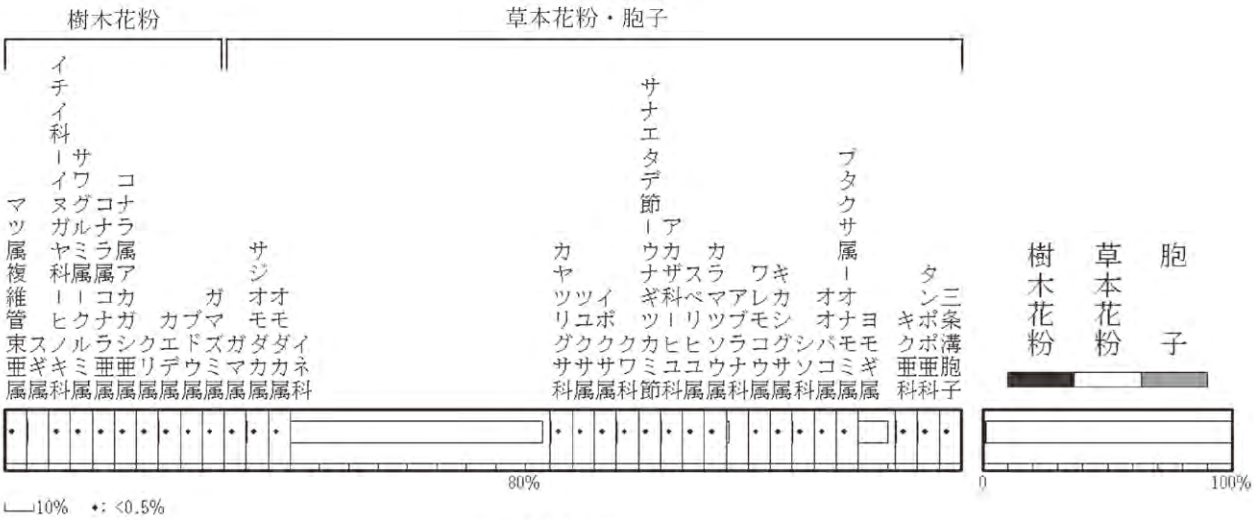


図1　花粉分布図

樹木花粉・草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。

表1　産出花粉胞子一覧表

学名	和名	土坑5
樹木		
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	3
Cryptomeria	スギ属	17
Taxaceae－Cephalotaxaceae－Cupressaceae	イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科	2
Pterocarya－*Juglans*	サワグルミ属ークルミ属	1
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	7
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	4
Castanea	クリ属	1
Acer	カエデ属	2
Vitis	ブドウ属	2
Viburnum	ガマズミ属	1
草本		
Typha	ガマ属	1
Alisma	サジオモダカ属	2
Sagittaria	オモダカ属	2
Gramineae	イネ科	2590
Cyperaceae	カヤツリグサ科	4
Commelina	ツユクサ属	1
Aneilema	イボクサ属	1
Moraceae	クワ科	6
Polygonum sect. *Persicaria*－*Echinocaulon*	サナエタデ節ーウナギツカミ節	1
Chenopodiaceae－Amaranthaceae	アカザ科ーヒユ科	11
Portulaca	スベリヒユ属	2
Thalictrum	カラマツソウ属	1
Brassicaceae	アブラナ科	22
Sanguisorba	ワレモコウ属	1
Rotala	キカシグサ属	2
Labiatae	シソ科	1
Plantago	オオバコ属	1
Ambrosia－*Xanthium*	ブタクサ属ーオナモミ属	1
Artemisia	ヨモギ属	303
Tubuliflorae	キク亜科	8
Liguliflorae	タンポポ亜科	3
シダ植物		
trilete type spore	三条溝胞子	2
Arboreal pollen	樹木花粉	40
Nonarboreal pollen	草本花粉	2964
Spores	シダ植物胞子	2
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	3006
Unknown pollen	不明花粉	3

表2　寄生虫卵分析に用いた試料の計量値と寄生虫卵

	土坑5
分析に用いた試料(g)	1.8393
残渣＋グリセリン(g)	1.0113
封入に用いた量(g)	0.0347
試料の密度 (g/cm^3)	1.05
回虫卵	18
(試料1g当たりの個数)	285
鞭虫卵	51
(試料1g当たりの個数)	808
肝吸虫卵	1
(試料1g当たりの個数)	16
不明	6
(試料1g当たりの個数)	95
計	76
(試料1g当たりの個数)	1204
(試料1cm3当たりの個数)	1264

入れてある。

今回の分析試料は、樹木花粉の含有量が少なく、ほとんどが草本花粉で占められる。草本花粉のなかではイネ科が突出しており、ヨモギ属を伴う。イネ科の産出率は86%、ヨモギ属の産出率は10%である。その他では、ガマ属やサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、キカシグサ属などの好湿性植物花粉がわずかに産出している。

3-2. 寄生虫卵分析

計量し、検鏡した結果を表2に示す。検鏡の結果、回虫卵と鞭虫卵、肝吸虫卵が検出された。回虫卵は試料1g当たり285個、鞭虫卵は試料1g当たり808個、肝吸虫卵は試料1g当たり16個である。試料全体では、試料1cm^{3}当たり1264個となる。

4. 考察

花粉分析の結果ではイネ科が突出して多く産出した。大型植物遺体分析によると、土坑5内からはイネの籾殻が大量に検出されている（大型植物遺体の節参照）。イネの花は、開花後すぐに籾殻が閉じるため、籾殻内に花粉が取り込まれ、籾殻には多量の花粉が付着している。よって、土坑5の埋土から検出されたイネ科花粉の大半は、籾殻に付着していたイネ花粉であると考えられる。その他では、ヨモギ属をはじめカヤツリグサ科やスベリヒユ属、アブラナ科、オオバコ属、ブタクサ属-オナモミ属、キク亜科、タンポポ亜科などの草本類が検出されており、土坑周辺に生育していたと思われる。また、ガマ属やサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、キカシグサ属などの好湿性植物の花粉も検出されており、土坑周辺には湿地的環境も存在していたと考えられる。一方で、樹木花粉の産出は非常に少なく、大型植物遺体分析でも木本植物はほとんど産出していない。土坑周辺に木本植物が生育していなかったか、あるいは、土坑の形状が小さいため、土坑周辺の草本類の花粉のみが土坑内に供給され、遺跡周辺に分布する樹木花粉はあまり入り込めなかったか、または、土坑内堆積物が人為的に短時間で供給されたために樹木花粉が堆積する余地がなかったなどの理由が考えられよう。

寄生虫卵分析の結果では、回虫卵や鞭虫卵、肝吸虫卵が検出された。寄生虫卵数については、試料1㎤中に1,000個以上あれば糞便の可能性があると考えられている（金原，1997）。この値に照らし合わせると、土坑5から産出した寄生虫卵数は試料1cm³当たり1264個であるため、糞便が含まれていた可能性は高いと思われる。ただし、鎌倉時代の鎌倉では市内各地で回虫卵や鞭虫卵などの寄生虫卵が大量に産出しており（鈴木，2008）、鎌倉時代の鎌倉における寄生虫卵の産出は一般的な現象とも考えられる。

引用文献

金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化．大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」：197-216，東京美術．
鈴木　茂（2008）鎌倉の遺跡と寄生虫卵．考古論業神奈河，16，77-83.

第五章　まとめと考察

１．遺構の変遷と年代

１期－９面

調査区が狭小なため定かではないが、遺構は検出されていない。また現地でも９面から確実に取り上げられた遺物はない。このため、９面を遺構面とする確証はなく、出土遺物がないことから年代も不明。

２期－８面

調査区が狭小のため全容は定かではないが、ピットが１穴のみ検出されている。また出土遺物が確認できることから、本期以降、人の手が入ったことは確実と言える。出土遺物から見て、13世紀前葉の後半（13世紀第２四半期あたり）が上限となる。

３期－７面

調査区が狭小なため、板列とそれに伴う落ちを検出したに留まる。板列裏込めおよび板列に伴う落ちの埋土からの出土遺物は、ともに大きな年代差を認められず、ほぼ同時期のものと言える。年代は13世紀前葉の後半（13世紀第２四半期あたり）が上限。

４期－６ｂ面

調査区が狭小なため、全容は不明。木製品の出土が多い。遺構の検出状況も悪く、上層の６ａ面と接合した木製品もあるため、生活面として評価できるかどうか定かではない。接合状況から考えて、上層の６ａ面と近似する年代か。

５期－６ａ面

調査区が狭小なため全容は不明。生活面の上に火災等の何らかの理由により、炭土が広がる状況が形成されたか。出土遺物からみて13世紀中葉が上限か。

６期－５ｂ面

調査区が狭小なため全容は不明。確認された遺構のうち、土坑５は有機物が腐植した繊維質土が充填されていた。この他に礎板の可能性もある板が面上で複数確認している。構築土内の出土遺物から、上限は13世紀の中頃と言えよう。

７期－５ａ面

腐植土・焼土・木くず集中で覆われており、生活面として評価できるか定かではない。ただし、次の整地（地行）を行う直前の廃絶時の状況を反映している可能性を指摘できる。年代は出土遺物からみて、13世紀後半以降と考えられる。

８期－４ｂ面

調査区南側は上層の土坑により削平されている。調査区北半分はほとんど溝３のみとなっており、この溝は区画を示す可能性もあるが、全容は不明。出土遺物に13世紀中葉のものも含まれるが、構築土の出土遺物からみて、年代は13世紀後半以降と言える。

９期－４ａ面

調査区が狭小なことと、調査区南側が上層の土坑により削平されていることから全容は不明。出土遺物から年代を特定するには至らないが、上下層から勘案すると、13世紀後半以降となるか。

10期－３ｃ面

調査区が狭小なことと、調査区南側が上層の土坑により削平されていることから全容は不明。出土遺物からみて、年代は13世紀後半以降と言える。

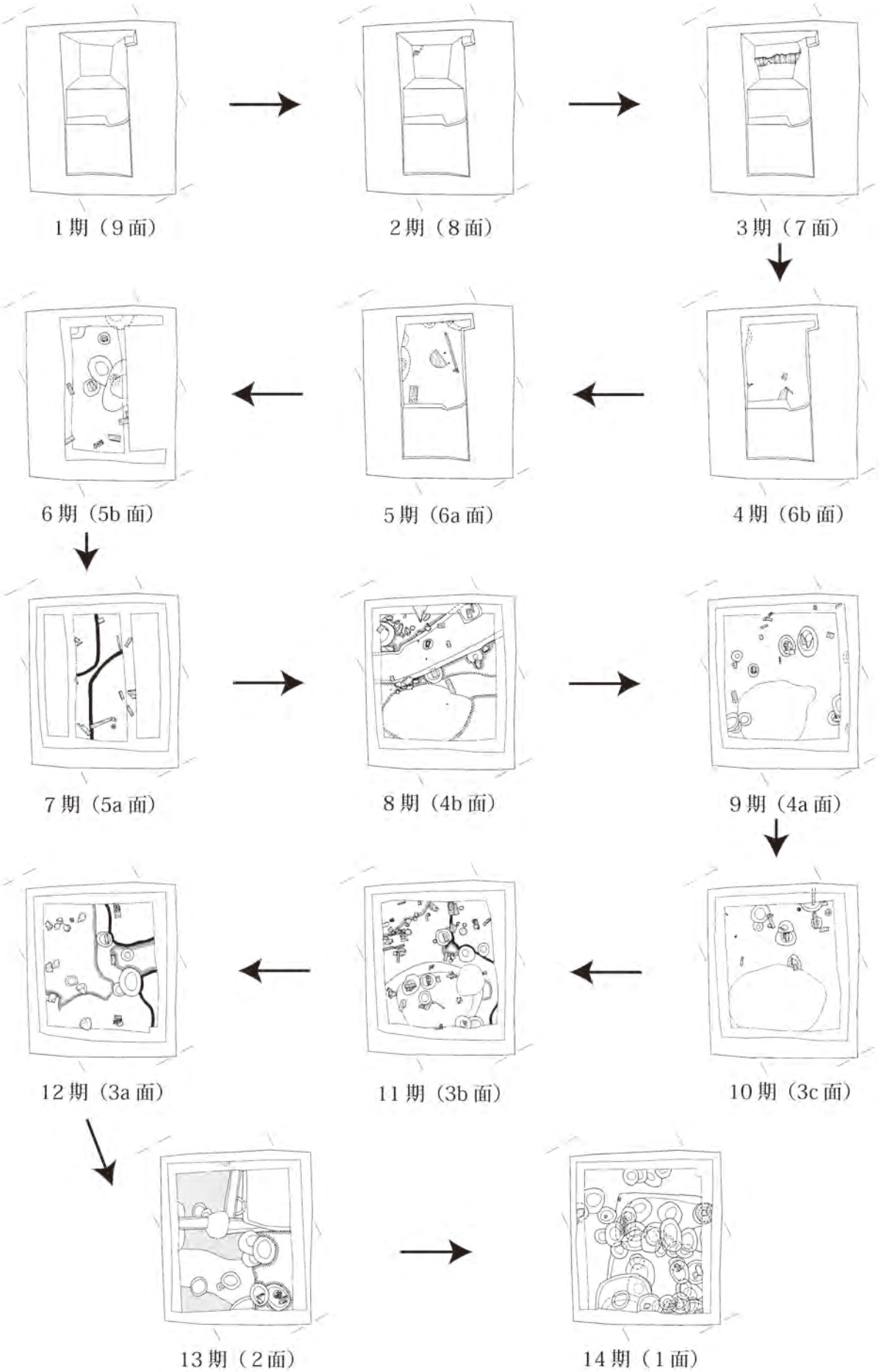

1 期（9 面）
2 期（8 面）
3 期（7 面）
4 期（6b 面）
5 期（6a 面）
6 期（5b 面）
7 期（5a 面）
8 期（4b 面）
9 期（4a 面）
10 期（3c 面）
11 期（3b 面）
12 期（3a 面）
13 期（2 面）
14 期（1 面）

図25　遺構変遷図

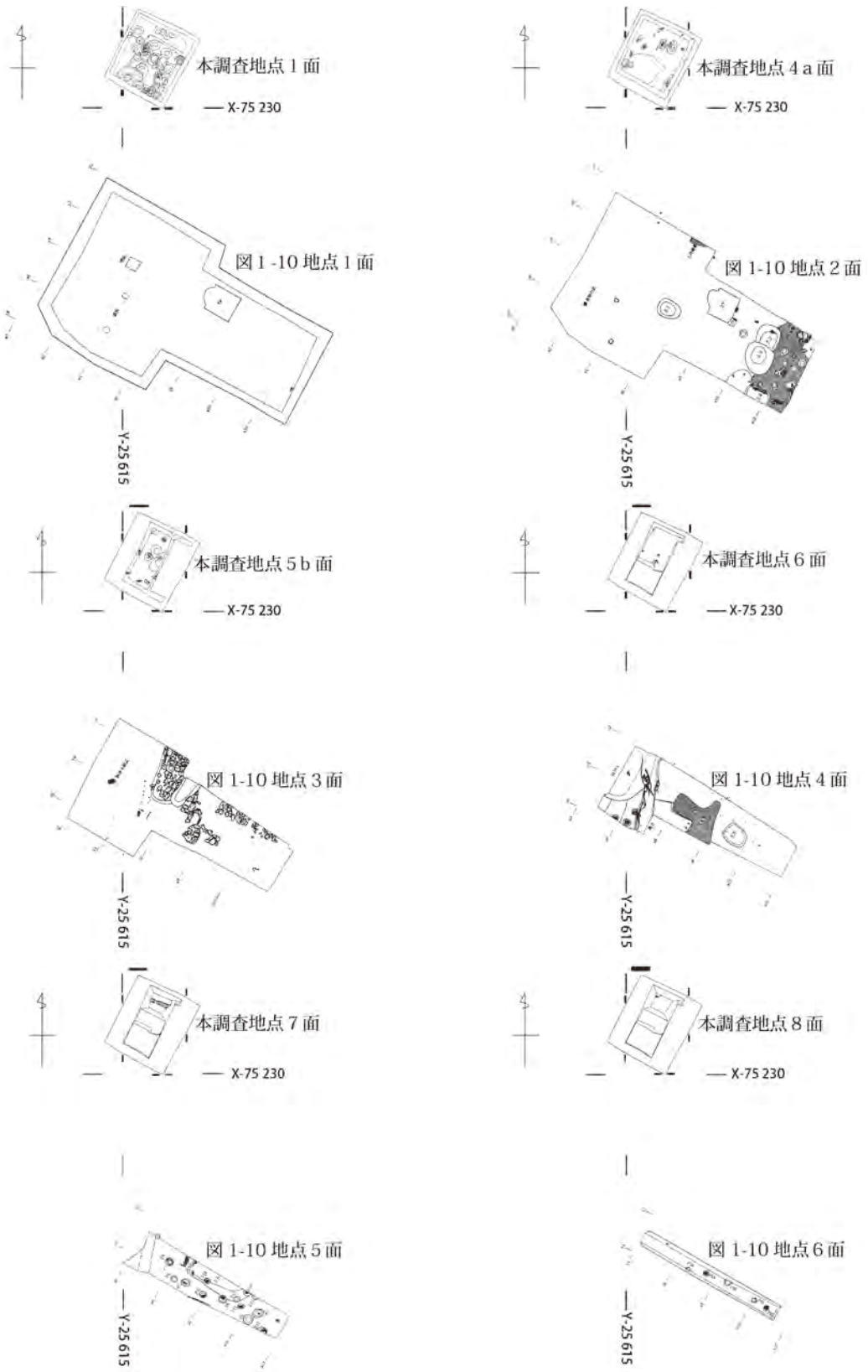


図26　南側隣地調査区と本調査区（1/300）

11期－３ｂ面

調査区が狭小なため全容は不明。検出面上に遺物が散乱する状況と底部に繊維質土が厚く堆積する土坑４が検出された。遺物の散乱状況から廃絶時の状況を反映している可能性を指摘できる。年代は出土遺物からみて13世紀後葉を上限とするか。

12期－３ａ面

調査区が狭小なため全容は不明。遺構の検出もまばらな状況である。出土遺物は13世紀中葉までのものを含むが、上下層の年代を勘案すると、13世紀後葉が上限となるか。

13期－２面

調査区が狭小なため全容は不明。溝２条が検出されているが、これが区画を示すものかは不明。年代は13世紀後葉を上限とするが、14世紀以降が主体となる可能性もある。

14期－１面

調査区が狭小なため全容は不明。調査区の大半を占める土坑２とそれを切るピット群の２時期に大別することができる。ピット群の時期に建物が１棟ありそうではあるが、調査区外に広がるため全容は不明。年代は13世紀後葉を上限とするが、最上層であるため、より後世の出土遺物も認められる。

図26は南側隣地の調査区と本調査区の合成図になるが、これは遺構面標高を元に合成したもので、必ずしも整合性が取れているとは言えない。

２．土坑内繊維質土の土壌分析から

平成27年度報告の北条小町邸跡Ｉｂ面土坑16（沖元2015）、及び本調査地点の３ｂ面土坑４、５ｂ面土坑５に堆積していた繊維質土の分析結果を第四章に提示した。このうち土坑16、土坑４の堆積状況及び繊維質土の採集土層は図27に再提示、土坑５に関しては土坑内埋土がすべて繊維質土であった。

第四章の分析結果をみると、北条小町邸跡の土坑16はヨモギ属が97％と極めて高く、分析者も人為的な影響の可能性を指摘している。また、本調査地点の土坑４及び土坑５においてはイネ科花粉が51％、86％と高比率を示しているが、当該土坑では籾殻も多数検出されていることから、その影響が指摘されている。いずれにしろ、大きな特徴としてヨモギ属とイネ科の花粉が、それぞれの比率は違えど他の分類群よりも多く産出されていることである。

これらを踏まえた上で、日本人とヨモギの関わりについて他分野、史料上から探ってみる。

『日本民俗大辞典』（福田ほか編2000）には「葉裏の綿毛は灸療治に用いるもぐさとして利用されている。」とあり、ヨモギの利用法としてもぐさが一つあげられる。

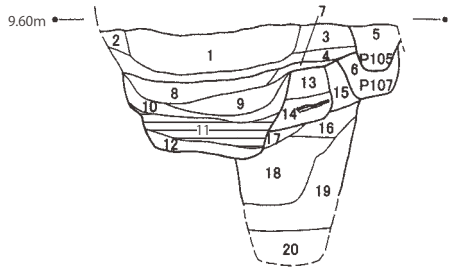
『万葉集』巻十八4116の大伴家持の歌に「ほとどぎす　來鳴く五月の　菖蒲草（あやめぐさ）　よもぎかづらき」（原文万葉仮名）とあり「奈良時代には五月にアヤメとともにヨモギをカズラとしたことが確認できる。これは、アヤメと同じく芳香を楽しむことのほか、魔除けの意味合いもあったものと思われる」とある（福田ほか編2000）。

『和名類聚抄』（註）には「本草云艾一名蘡草」とあり平安期にはヨモギが薬草として認識されている。

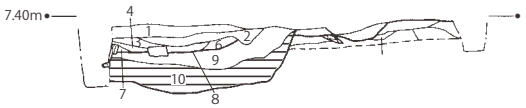
『平家物語』巻第三「御産」には「桑の弓・蓬（よもぎ）の矢にて、天地四方を射させらる。」、『太平記』巻第二十五「宮方怨霊会六本杉事付医師評定事」には「蓬矢（よもぎのや）ノ慶賀天下ニ聞ヘシカバ」とあり、中世には男子誕生の際、蓬矢（よもぎや）を天地四方に放つ儀礼が存在した可能性を確認できる。

安倍清明が編纂者として仮託されている『三国相傳陰陽韜轄簠簋内傳金烏玉兎集（かんかつほき　きんうぎょくと）』には「三月三日蓬莱草餅巨旦皮膚」とあり、ヨモギの草餅と蘇民将来の説話とが関連づけられている。

江戸期に編纂された『日本歳時記』三月二日項に「沐浴、艾餅（よもぎもち）を製すべし。」続く三日項に「さて今日艾餅を食し、桃花酒をのみ、艾餅を親戚にをくる。」とある。さらに、五月四日項に「国俗、今日艾（よもぎ）、菖蒲（あやめ）を屋ののきに挟む。按ずるに、歳時記に、五月五日艾をむすびて、人の形のごとくして、戸上にかくれば。毒気をはらふ、と見えたり。国俗、艾、菖蒲をのきに挟むも、かゝる遺意なるべし。弘仁式に、



北条小町邸跡（雪ノ下一丁目 427 番 2 外）
土坑 16 土層堆積 (沖元 2015 より転載加筆)



本調査地点　土坑 4 土層堆積

図27　各遺構繊維質土採集土層図

五月三日平坦に、菖蒲、蓬花など、南殿の前にをくとあれば、其時より有ける事とみえたり。」とあり、江戸時代にはヨモギを軒に挟む儀礼が存在したことが確認できる。また五月五日項に「又いにしへは、今日薬玉とて、菖蒲、よもぎ、そのほか雑花十種ばかりを、五色の糸にてとゝのへて、ひぢにかくる事侍り。」とあり薬玉にもヨモギが使用されていたことがわかる。

中国最古の詩編である『詩経』王風、采葛（さいかつ）には「彼采蕭（よもぎ）兮、一日不見、如三秋兮、彼采艾兮、一日不見、如三歳兮」とあり、守屋美都雄氏は「艾をとる風習が古くよりあったことがわかる。」としている（守屋1950・1978）。

楚の屈原の詩とされる『楚辞』離騒には「惟此黨人其獨異、戸服艾以盈要」とあり、守屋氏は「艾を帯びることによって、却って悪をさけうるものと考えている。」としている（守屋1950・1978）。

『孟子』離婁篇七十章に「今之欲王者。猶七年之病。求三年之艾也。」とあり、守屋氏は「艾を摘る目的は、(中略) 薬用に供するためであったろう。」としている（守屋1950・1978）。

漢代に原形が成立した『礼記』内則には「國君世子生。(中略) 射人以桑弧蓬矢六。射天地四方。」とあり、世子生誕の際に蓬矢（よもぎや）を天地四方に放つ儀礼が中国に存在したことが確認できる。

中国南朝梁代に成立した『荊楚歳時記』には「五月五日、謂之浴蘭節。四民並蹋百草之戯、採艾以爲人、懸門戸上、以禳毒気。以菖蒲或鏤或屑以泛酒。按大戴禮曰、五月五日蓄蘭爲沐浴、楚辞曰、浴蘭湯兮沐芳華、今謂之浴蘭節、又謂之端午。蹋百草、即今人有鬪百草之戯也。宗則字文度、常以五月五日鷄未鳴時採艾、見似人處、攬而取之、用灸有験。師曠占曰、歳多病、則病草先生。艾是也。今人以艾爲虎形、或剪綵爲小虎、粘艾葉以戴之。」とあり、荊楚地方では五月五日の端午の節句の際に邪気払いとしてヨモギを門戸の上にかかげる風習が存在したことが窺え、また、灸にもぐさや薬草としての効用も期待されていたことがわかる。この他に、ヨモギを使って虎形を作成していたこともわかる。

このように、古来より日本人は「ヨモギ」に対して特別な観念を抱いていたことが把握でき、さらに中国ではそれ以前の史料上においても「ヨモギ」に対する特別な観念を確認できる。土坑内におけるヨモギ花粉や籾殻の偏在が何を示すかは容易にわかるものではないが、正月飾りのように「廃棄までが儀礼」であることを視野にいれた分析が必要になろう。さしあたり考古学的に行えることは、偏った分析結果を示す遺構や土層はどのようなものがあるか、土壌サンプル採取箇所の違いが分析結果の違いにつながるのか、あるいは地域的・年代的偏在の有無（例えば京都・奈良、古代・中世）といったデータを集積していくことが肝要であろう。

(註)国立国会図書館デジタルコレクションにて閲覧

引用・参考文献（本報全体に共通）

赤星直忠1959『鎌倉市史　考古編』吉川弘文館
秋山哲雄2006『北条氏権力と都市鎌倉』吉川弘文館
蘆田伊人編1958『大日本地誌大系（二十一）　新編鎌倉志　鎌倉攬勝考』雄山閣
蘆田伊人編1998『大日本地誌大系22　新編相模国風土記稿』雄山閣
上本進二2000「第４節　鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子桟敷戸遺跡（逗子市№100）』（仮称）医療保健センター建設地内埋蔵文化財発掘調査団・東国歴史考古学研究所
沖元道2015「北条小町邸跡　雪ノ下一丁目427番２外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31（第２分冊）』鎌倉市教育委員会
小川裕久・服部実喜1984『蔵屋敷遺跡』鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会
貝原益軒刪補・貝原好古編録・大森志郎解説・注1972『日本歳時記』八坂書房
神奈川県県史編纂室編1971『神奈川県史　資料編１　古代・中世（１）』神奈川県県史編纂室
神奈川県県史編纂室編1973『神奈川県史　資料編２　古代・中世（２）』神奈川県県史編纂室
神奈川県県史編纂室編1975『神奈川県史　資料編３　古代・中世（３上）』神奈川県県史編纂室
神奈川県県史編纂室編1979『神奈川県史　資料編３　古代・中世（３下）』神奈川県県史編纂室
金谷治1966『孟子　新訂中国古典選第５巻』朝日新聞社
河野真知郎ほか1990『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
菊川英政1992「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』鎌倉市教育委員会
菊川英政ほか1999『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書（御成町819番１地点）』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団
菊川英政ほか2008『今小路西遺跡（№201）発掘調査報告書』斉藤建設
木村美代治ほか1992「若宮大路周辺遺跡群　御成872-14」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』鎌倉市教育委員会
熊谷満2003「若宮大路周辺遺跡群の調査」『第13回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨』鎌倉考古学研究所
熊谷洋一ほか1993「宇津宮辻子幕府跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書９（第３分冊）』鎌倉市教育委員会
黒板勝美編1933『新訂増補国史大系　吾妻鏡』吉川弘文館
國平健三・長谷川厚1990『宮久保遺跡Ⅲ』（神奈川県立埋蔵文化財センター15）神奈川県立埋蔵文化財センター
後藤丹治・釜田喜三郎校注1961『太平記　二　日本古典文学大系35』岩波書店
齋木秀雄ほか1982『御成町806-3番地地点』鎌倉考古学研究所
齋木秀雄ほか2007『大倉幕府周辺遺跡群発掘調査報告書　鎌倉遺跡調査会報告書第47集』鎌倉遺跡調査会
澤瀉久孝ほか編1954『萬葉集大成14本文編三』平凡社
宗臺秀明・宗臺富貴子1998「北条時房・顕時邸跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14（第１分冊）』鎌倉市教育委員会
鈴木茂1996「宇津宮辻子幕府跡の花粉化石」（「宇津宮辻子幕府跡」附編）『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12（第１分冊）』鎌倉市教育委員会
鈴木棠三・鈴木良一監修1984『神奈川県の地名』平凡社
宗懍撰1965『荊楚歳時記』藝文印書館
高木市之助ほか校注1959『平家物語　上　日本古典文学大系32』岩波書店
長崎健校注・訳1994「海道記」『中世日記紀行集』小学館
滝澤晶子2012『若宮大路周辺遺跡群（№242）発掘調査報告書』博通
塚本哲三編1927『漢文叢書　禮記』有朋堂書店
手塚直樹1989『小町一丁目120番１地点』風門社ビル発掘調査団
手塚直樹ほか1982『千葉地遺跡』千葉地遺跡発掘調査団
手塚直樹ほか1983『蔵屋敷東遺跡』江ノ電鎌倉ビル発掘調査団
貫達人・川副武胤・佐脇栄智1959『鎌倉市史　社寺編』吉川弘文館
貫達人・川副武胤1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂
野口実1993「頼朝以前の鎌倉」『古代文化45』（財）古代学協会
服部実喜・宍戸信悟1986『千葉地東遺跡』（神奈川県立埋蔵文化財センター10）神奈川県立埋蔵文化財センター
塙保己一編1932「鎌倉大草紙」『群書類従　第20輯』平文社
塙保己一編1923「編智院法印灌頂資記」『續群書類従　第26輯上』平文社
塙保己一編1927「簠簋内傳」『續群書類従　第31輯上』續群書類従完成會
原廣志・田代郁夫1989『北条時房・顕時邸跡』北条時房・顕時邸跡発掘調査団
福田アジオほか編2000『日本民俗大辞典　下』吉川弘文館
福田誠ほか1999「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15（第１分冊）』鎌倉市教育委員会
松尾宣方・継実1993「若宮大路周辺遺跡群　御成町811番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書９』鎌倉市教育委員会
松尾剛次1993『中世都市鎌倉の風景』吉川弘文館
馬淵和雄1986「若宮大路周辺遺跡群　小町一丁目116番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書２』鎌倉市教育委員会
馬淵和雄1994「武士の都　鎌倉―その成立と構想をめぐって―」『都市鎌倉と坂東の海に暮らす』（『中世の風景を読む』２）新人物往来社
馬淵和雄1998「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14（第２分冊）』鎌倉市教育委員会
馬淵和雄1999『大倉幕府周辺遺跡群　雪ノ下四丁目620番５地点』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団
馬淵和雄2000「北条時房・顕時邸跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16（第２分冊）』鎌倉市教育委員会
馬淵和雄2014「大倉幕府周辺遺跡群　雪ノ下四丁目570番１地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30（第１分冊）』鎌倉市教育委員会
宮田眞1997『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡発掘調査団
目加田誠訳1969『詩経・楚辞　中国古典文学大系第15巻』平凡社
守屋美都雄1950『校註　荊楚歳時記　中国民俗の歴史的研究』帝国書院
守屋美都雄訳注・布目潮渢・中村裕一補訂1978『荊楚歳時記　東洋文庫324』平凡社

１－１　調査地点近景①（南から）

１－３　調査地点近景③（北から）

１－５　１面土坑２掘削前全景（南から）

１－７　１面全景（南から）

１－２　調査地点近景②（西から）

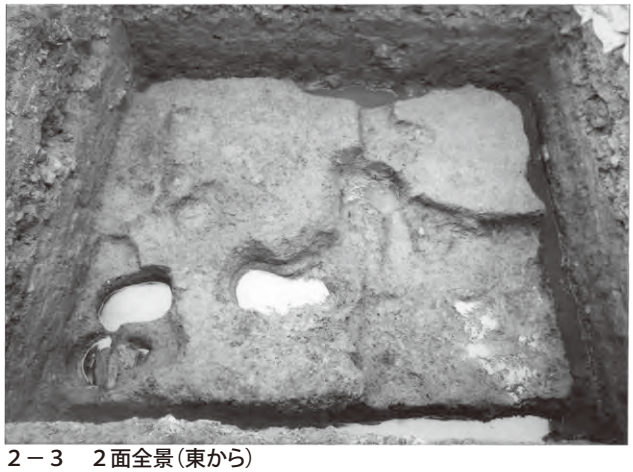
１－４　調査地点近景④（西から）

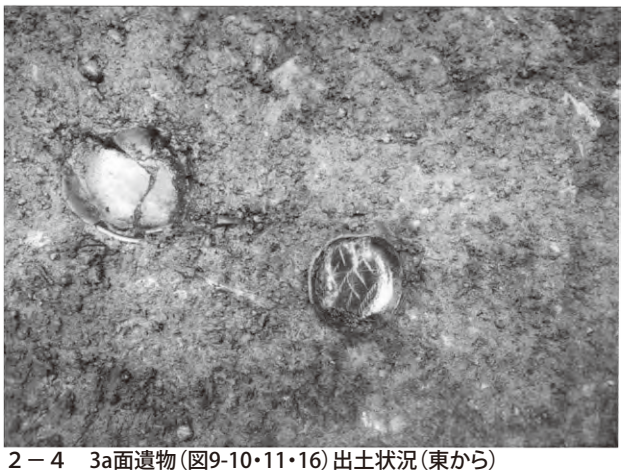
１－６　１面土坑２掘削前全景（東から）

図版２

２－１　１面全景（西から）

２－２　２面全景（南から）


２－３　２面全景（東から）


２－４　3a面遺物（図9-10・11・16）出土状況（東から）

２－５　3b面土坑４掘削前全景（南から）①

２－６　3b面土坑４掘削前全景（東から）①

２－７　3b面北西部遺物出土状況（南から）

２－８　3b面土坑４掘削前全景（南から）②

３－１　3b面土坑４掘削前全景（東から）②

３－２　3b面北東部遺物出土状況（北から）

３－３　3b面漆器椀（図12-28）出土状況（東から）

３－４　3b面全景（南から）

３－５　3b面全景（東から）

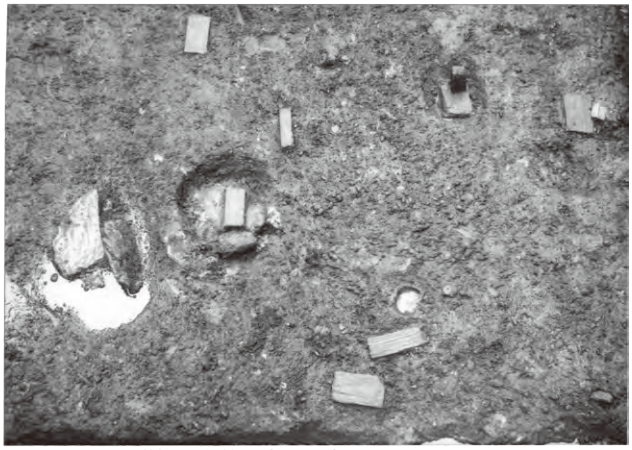
３－６　3b面土坑４（南から）

３－７　3c面全景（東から）

３－８　4a面全景（南から）

図版４

４－１　4a面全景（東から）



４－２　4a面礎板出土状況（北から）

４－３　4b面全景（南から）

４－４　4b面全景（東から）

４－５　5a面全景（南から）

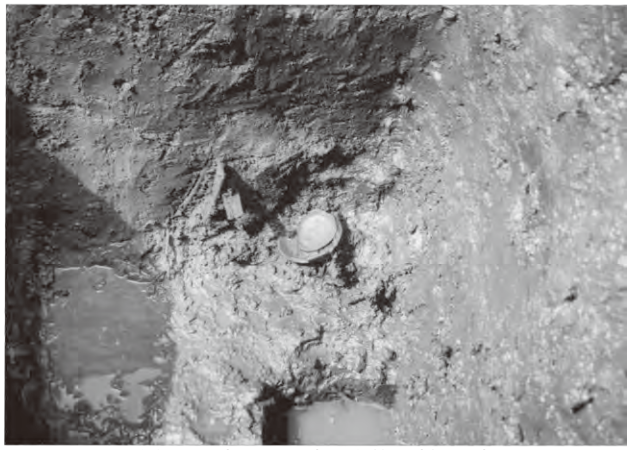
４－７　5b面全景（東から）

４－６　5b面全景（南から）

５－１　６面全景（南から）

５－２　７面板列（南から）

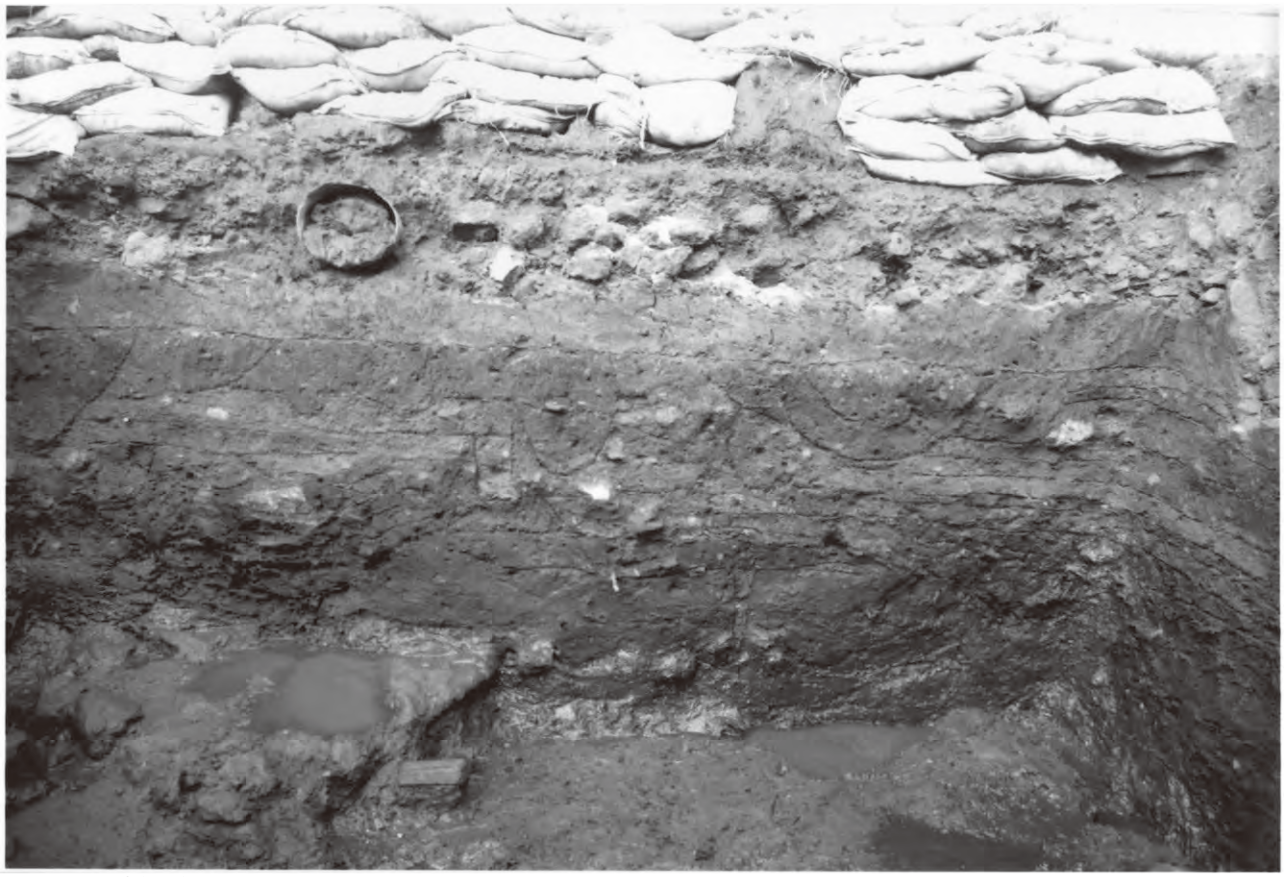
５－３　８面全景（西から）



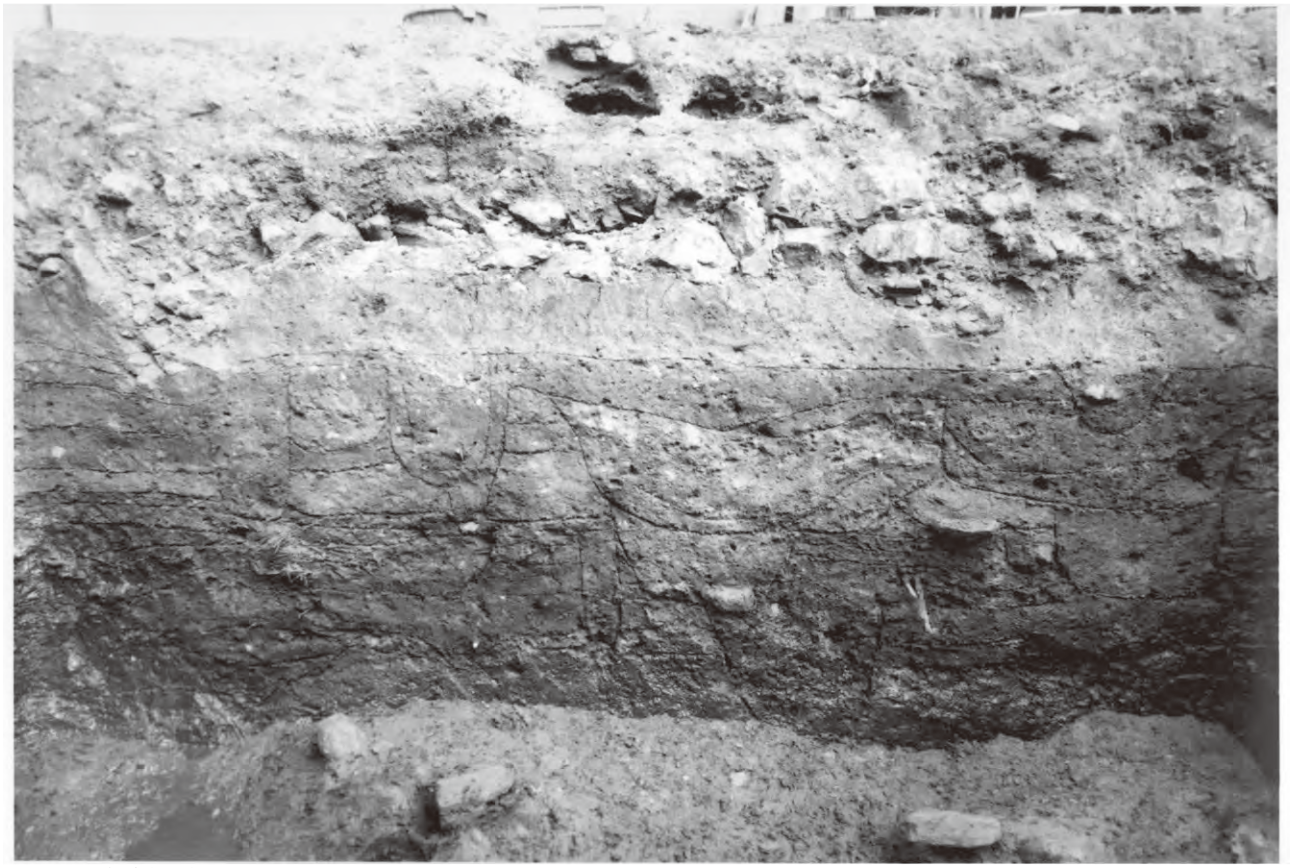
５－４　８面土師器皿（図23-1・2）出土状況（東から）

５－５
最終トレンチ
西壁土層断面

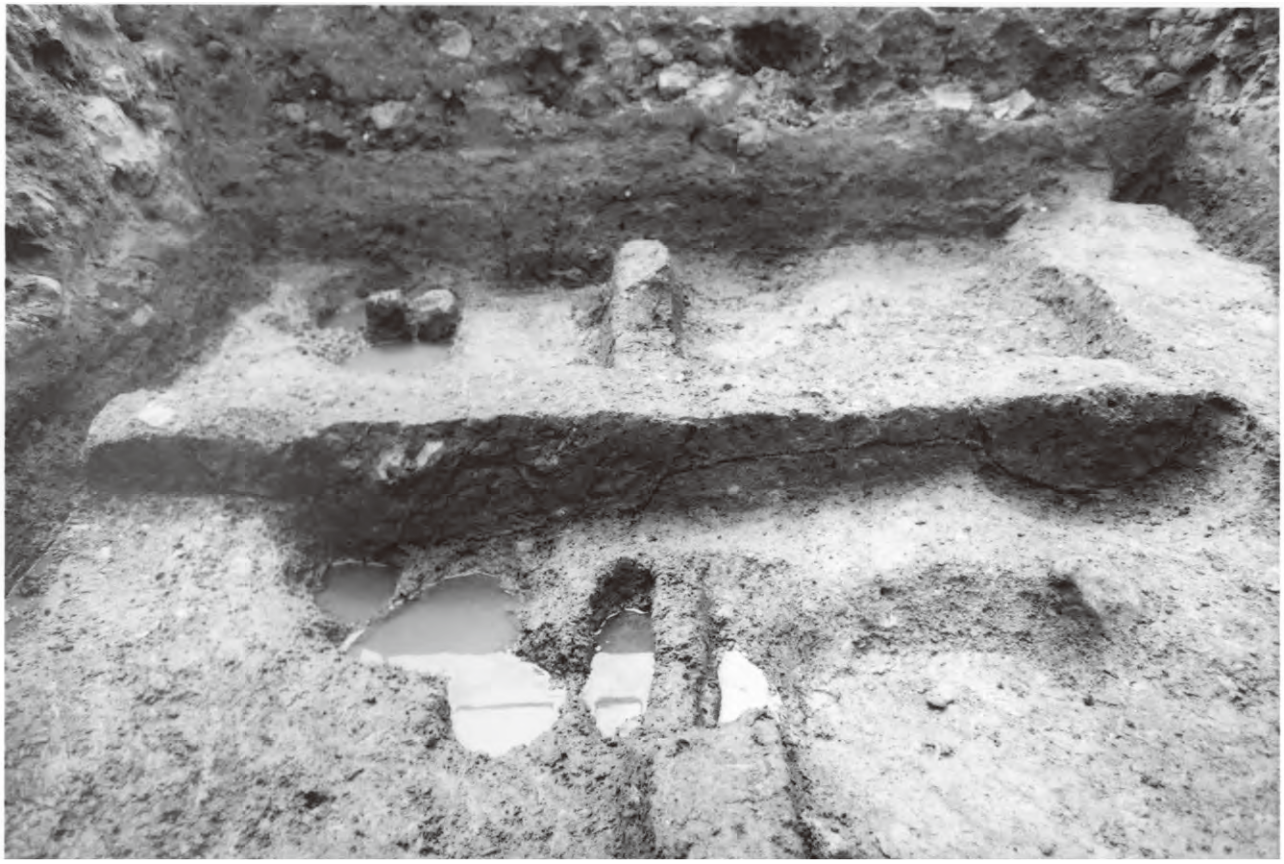
図版６



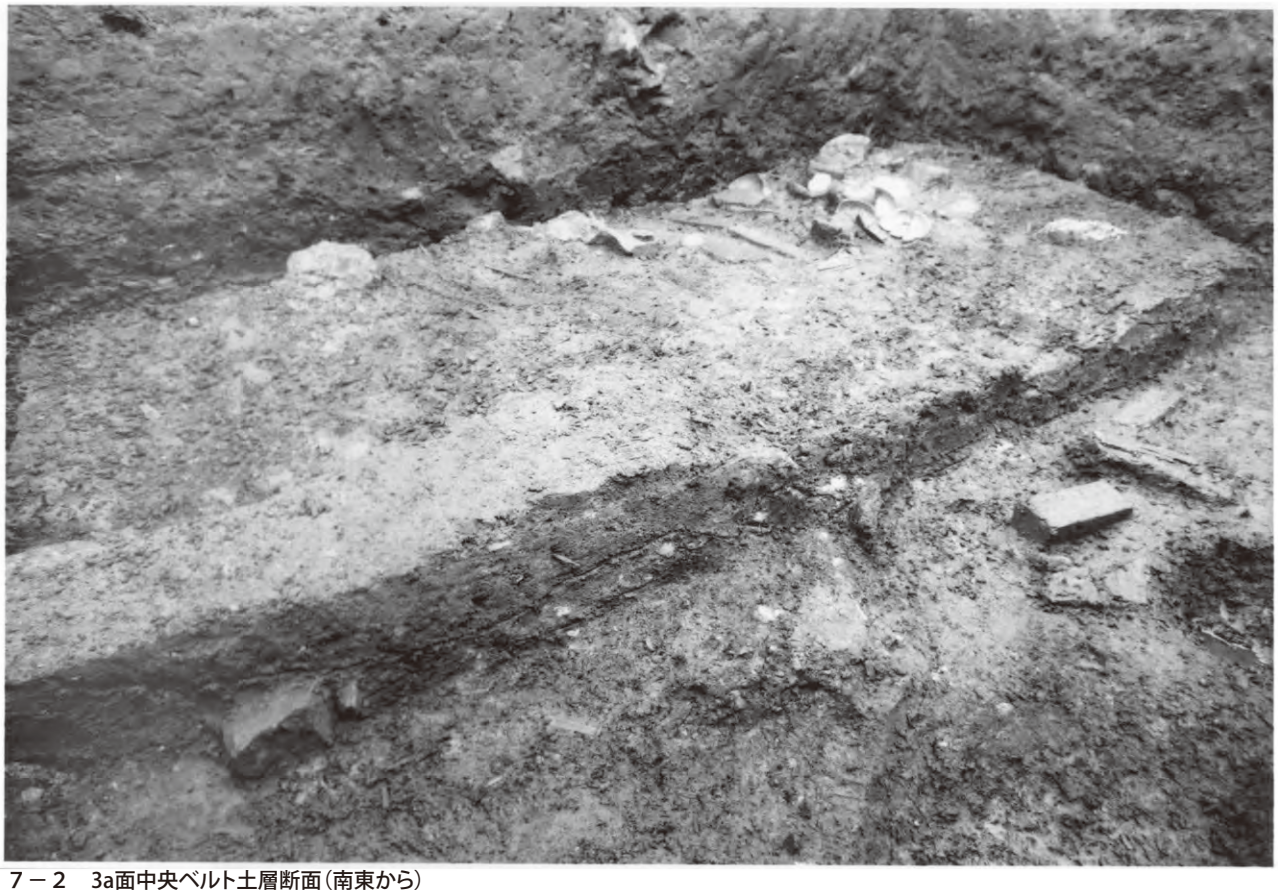
６－１　北壁土層断面



６－２　東壁土層断面

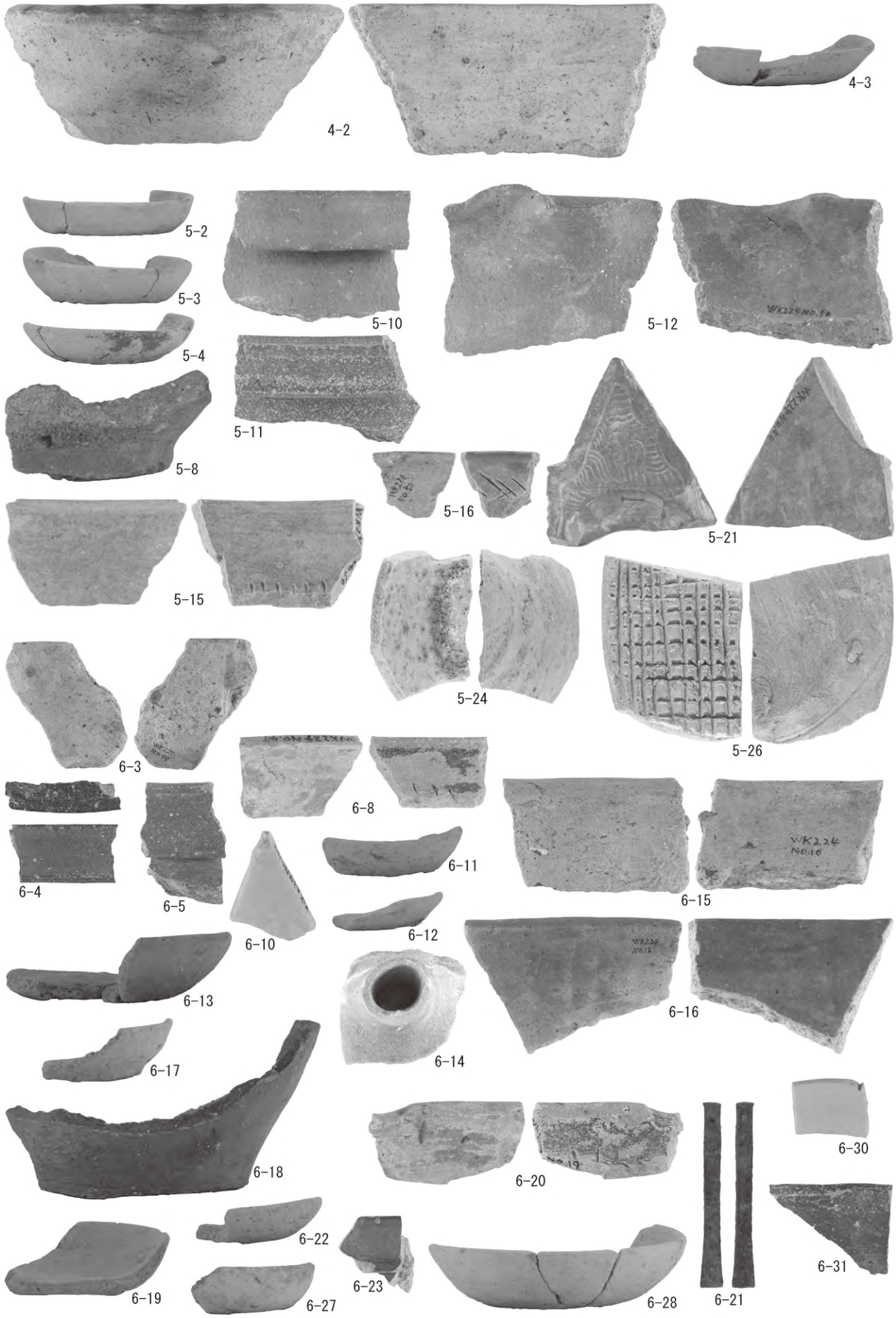


７－１　１面土坑２東西ベルト土層断面（南から）

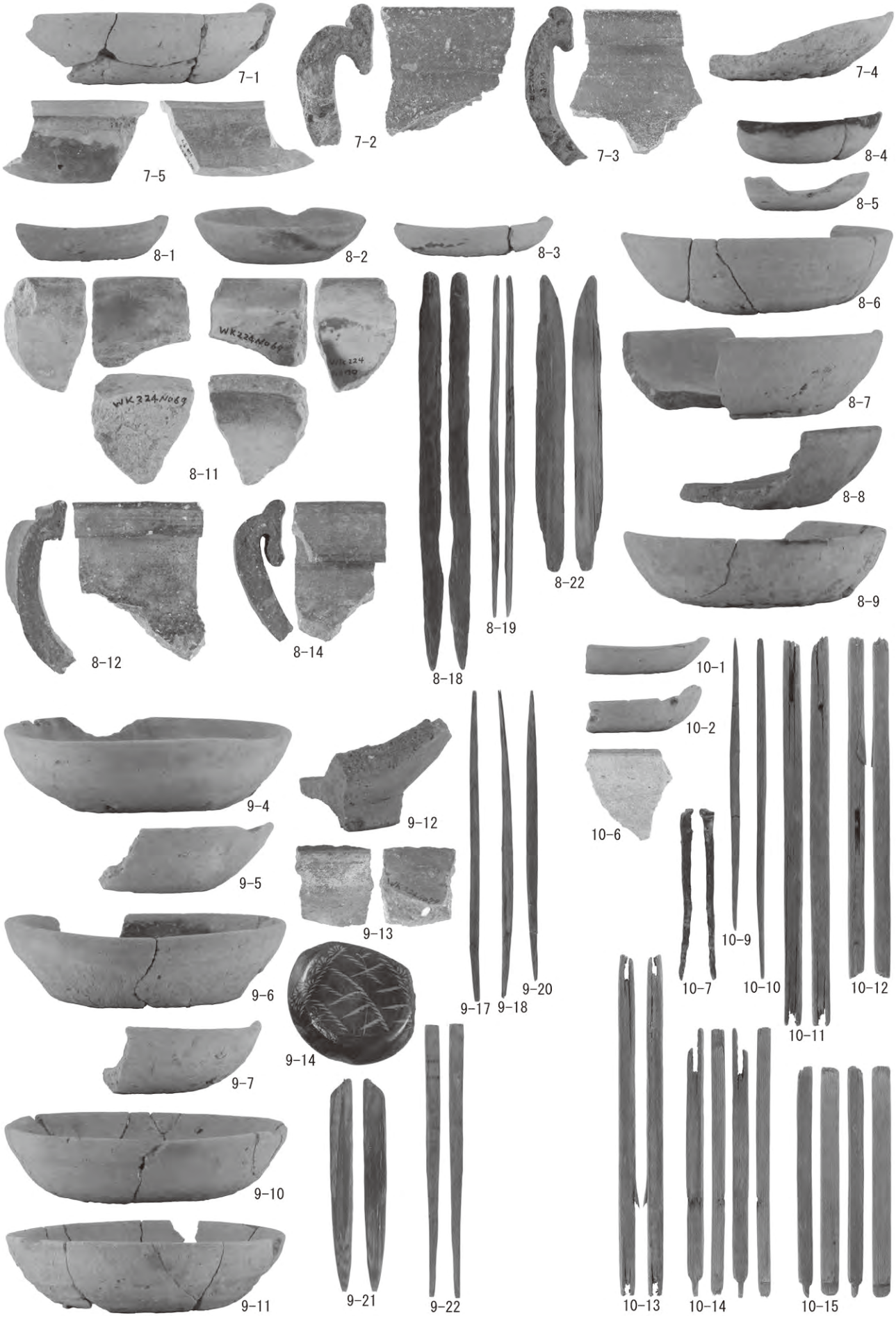


７－２　3a面中央ベルト土層断面（南東から）

図版８

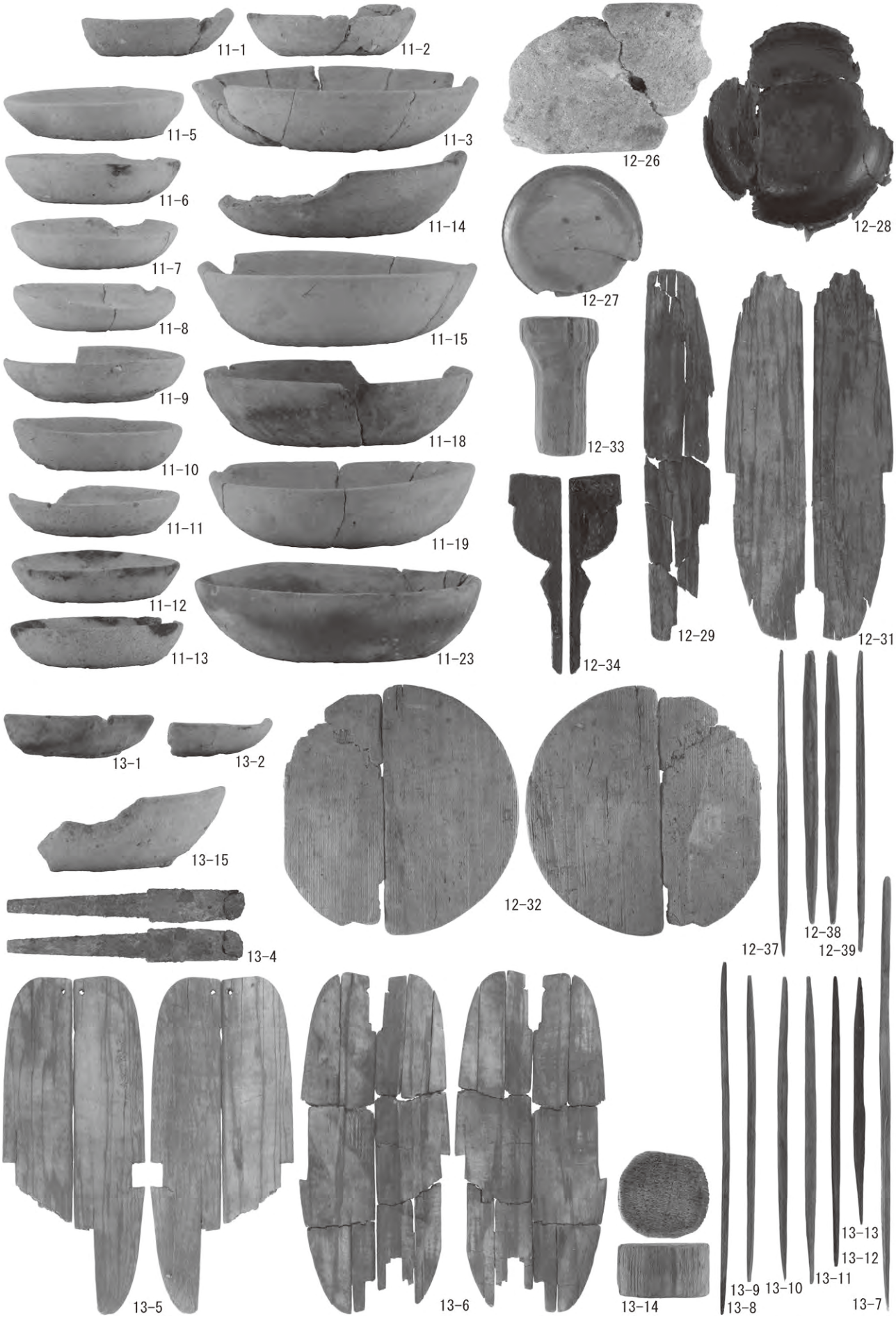

4-2
4-3
5-2
5-3
5-4
5-8
5-10
5-11
5-12
5-15
5-16
5-21
5-24
5-26
6-3
6-4
6-5
6-8
6-10
6-11
6-12
6-13
6-14
6-15
6-16
6-17
6-18
6-19
6-20
6-21
6-22
6-23
6-27
6-28
6-30
6-31

出土遺物１

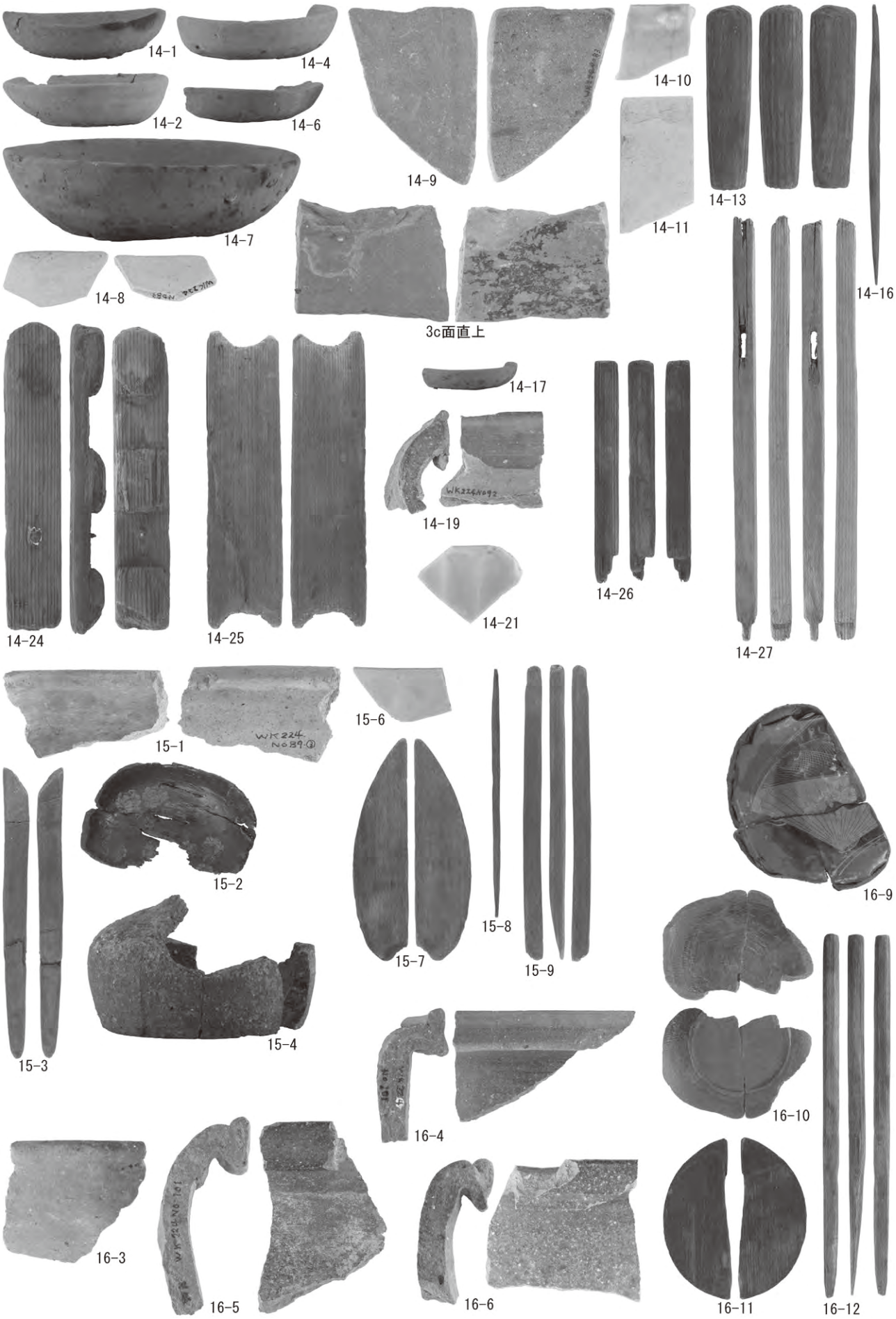

7-1
7-2
7-3
7-4
7-5
8-1
8-2
8-3
8-4
8-5
8-6
8-7
8-8
8-9
8-11
8-12
8-14
8-18
8-19
8-22
9-4
9-5
9-6
9-7
9-10
9-11
9-12
9-13
9-14
9-17
9-18
9-20
9-21
9-22
10-1
10-2
10-6
10-7
10-9
10-10
10-11
10-12
10-13
10-14
10-15

出土遺物２

図版10

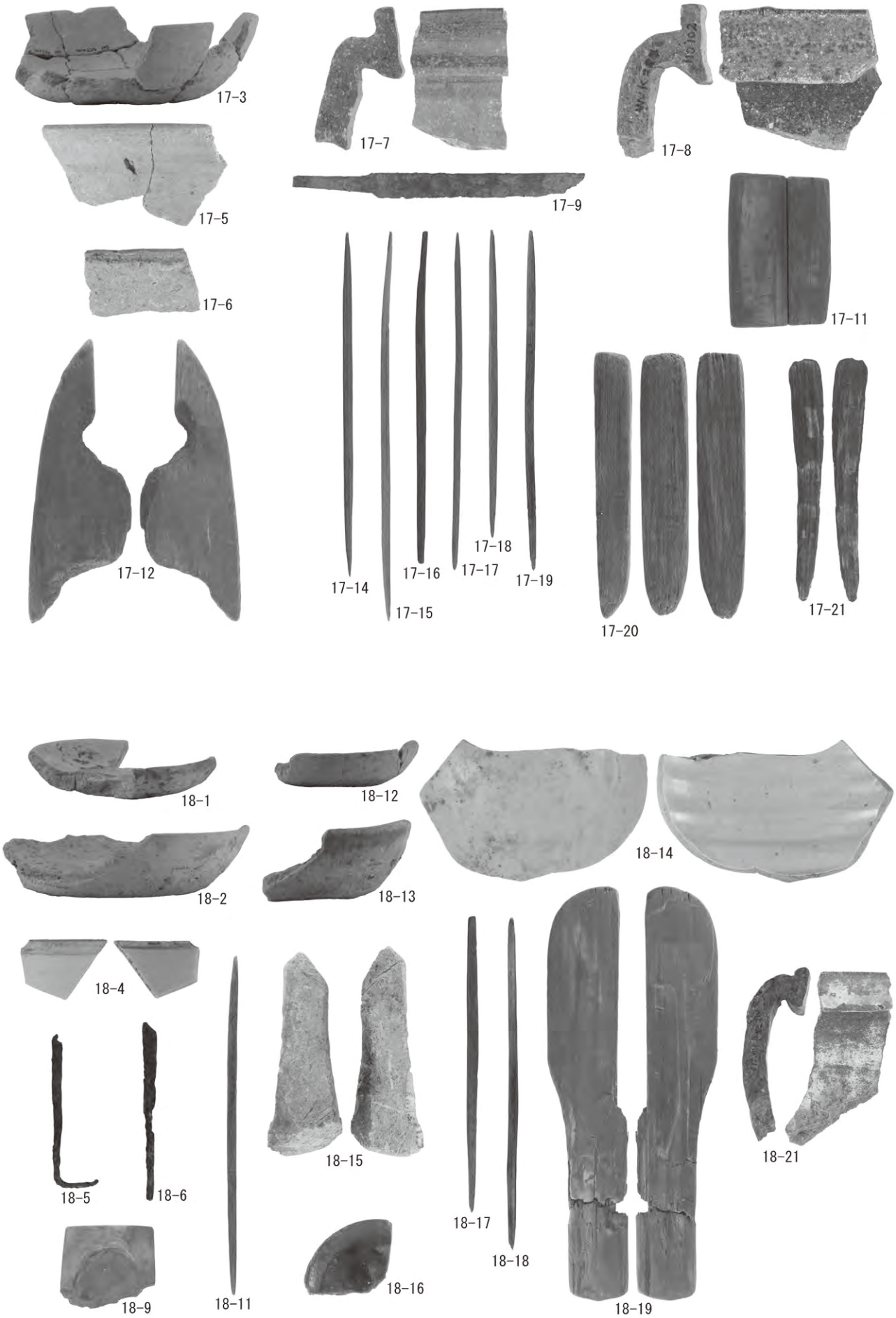

11-1
11-2
11-5
11-3
11-6
11-14
11-7
11-8
11-15
11-9
11-18
11-10
11-11
11-19
11-12
11-13
11-23
12-26
12-28
12-27
12-33
12-29
12-31
12-34
13-1
13-2
13-15
12-32
12-37
12-38
12-39
13-4
13-5
13-6
13-14
13-13
13-12
13-9
13-10
13-11
13-8
13-7

出土遺物３

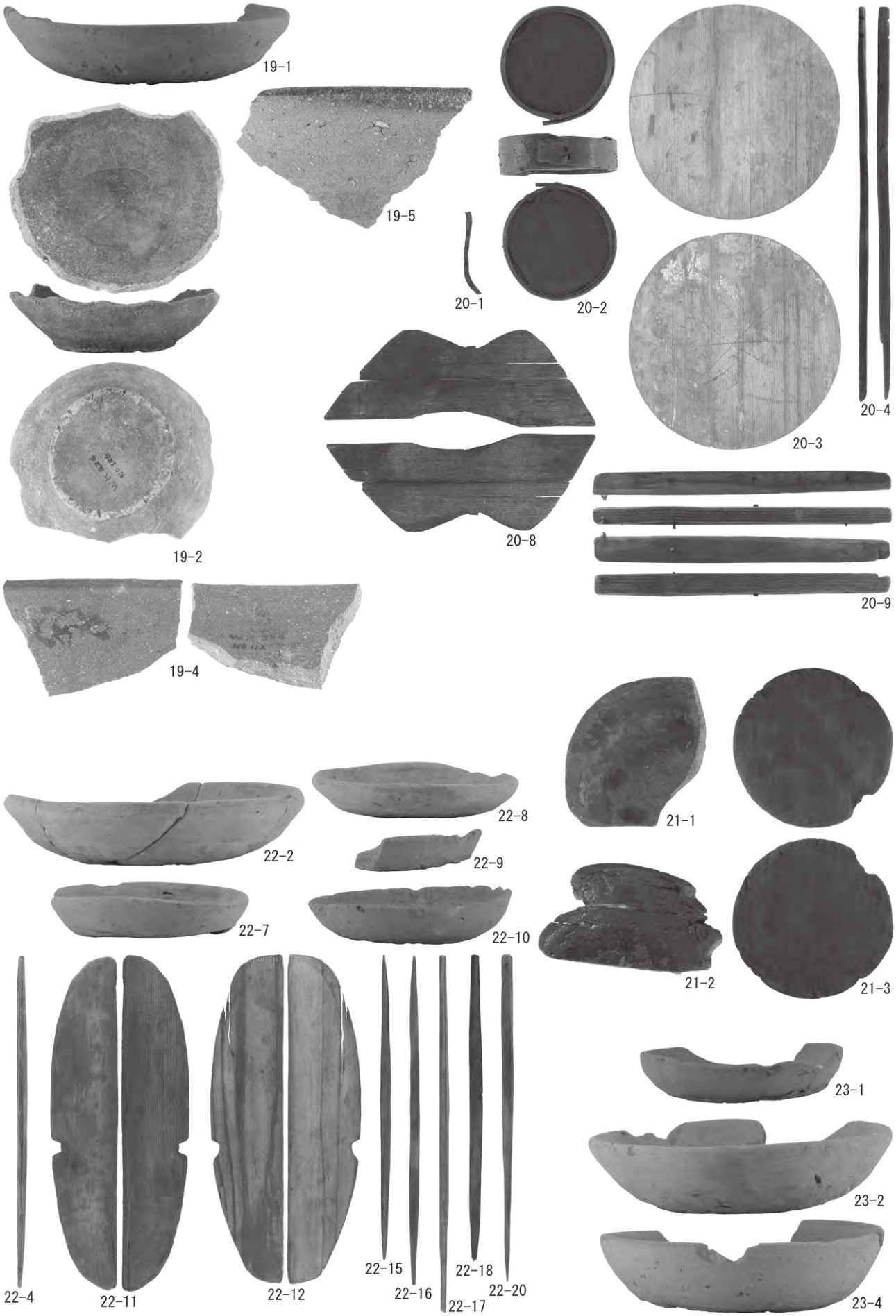

14-1
14-4
14-2
14-6
14-7
14-8
14-9
14-10
14-11
14-13
14-16
3c面直上
14-17
14-19
14-21
14-24
14-25
14-26
14-27
15-1
15-2
15-3
15-4
15-6
15-7
15-8
15-9
16-3
16-4
16-5
16-6
16-9
16-10
16-11
16-12

出土遺物4

図版12

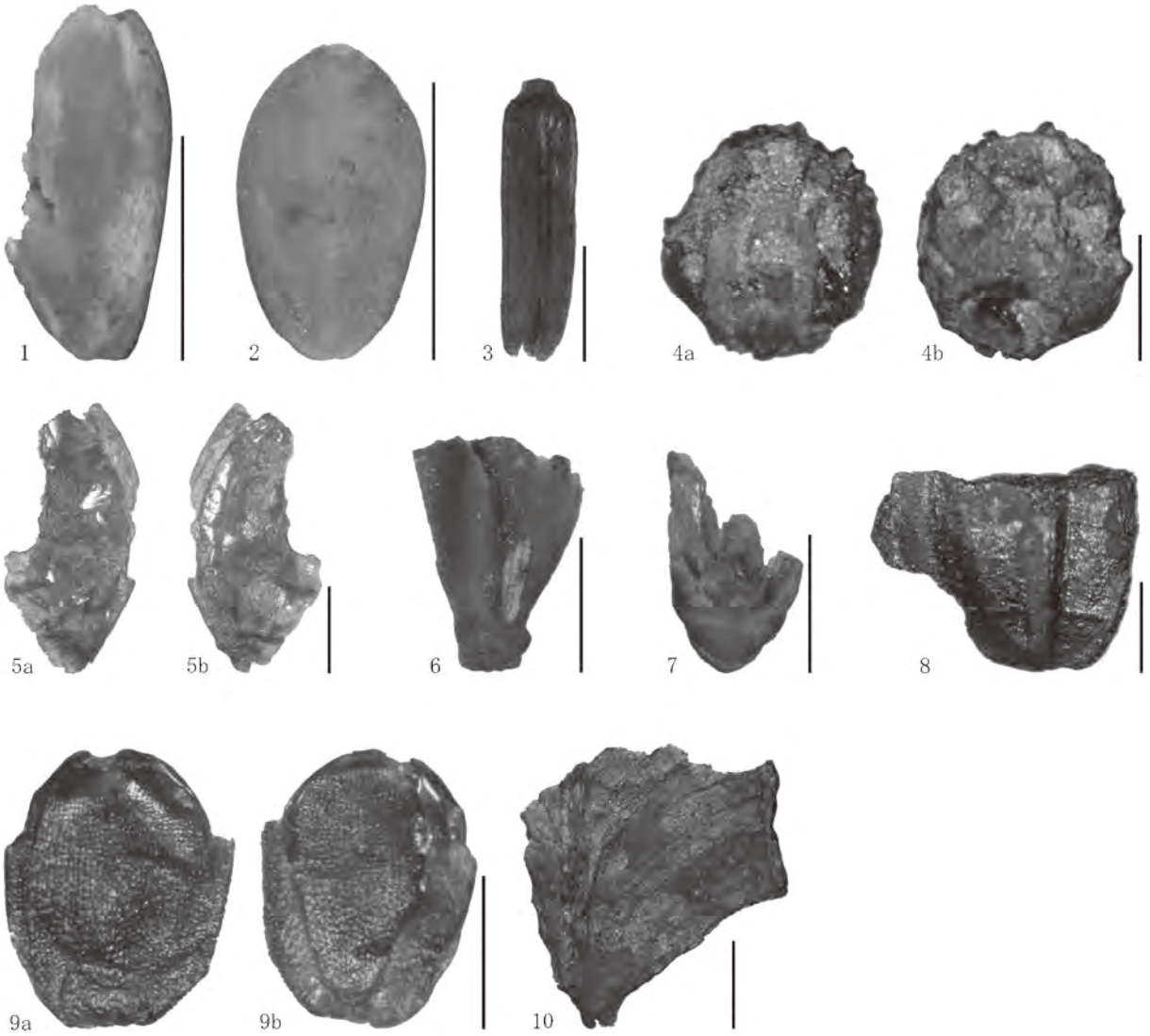

17-3
17-7
17-8
17-5
17-9
17-6
17-11
17-12
17-14
17-15
17-16
17-17
17-18
17-19
17-20
17-21
18-1
18-12
18-14
18-2
18-13
18-4
18-5
18-6
18-15
18-21
18-17
18-18
18-9
18-11
18-16
18-19

出土遺物５


19-1
19-5
20-1
20-2
20-4
20-3
19-2
20-8
20-9
19-4
22-8
21-1
22-2
22-9
22-7
22-10
21-2
21-3
23-1
23-2
23-4
22-4
22-11
22-12
22-15
22-16
22-17
22-18
22-20

出土遺物6

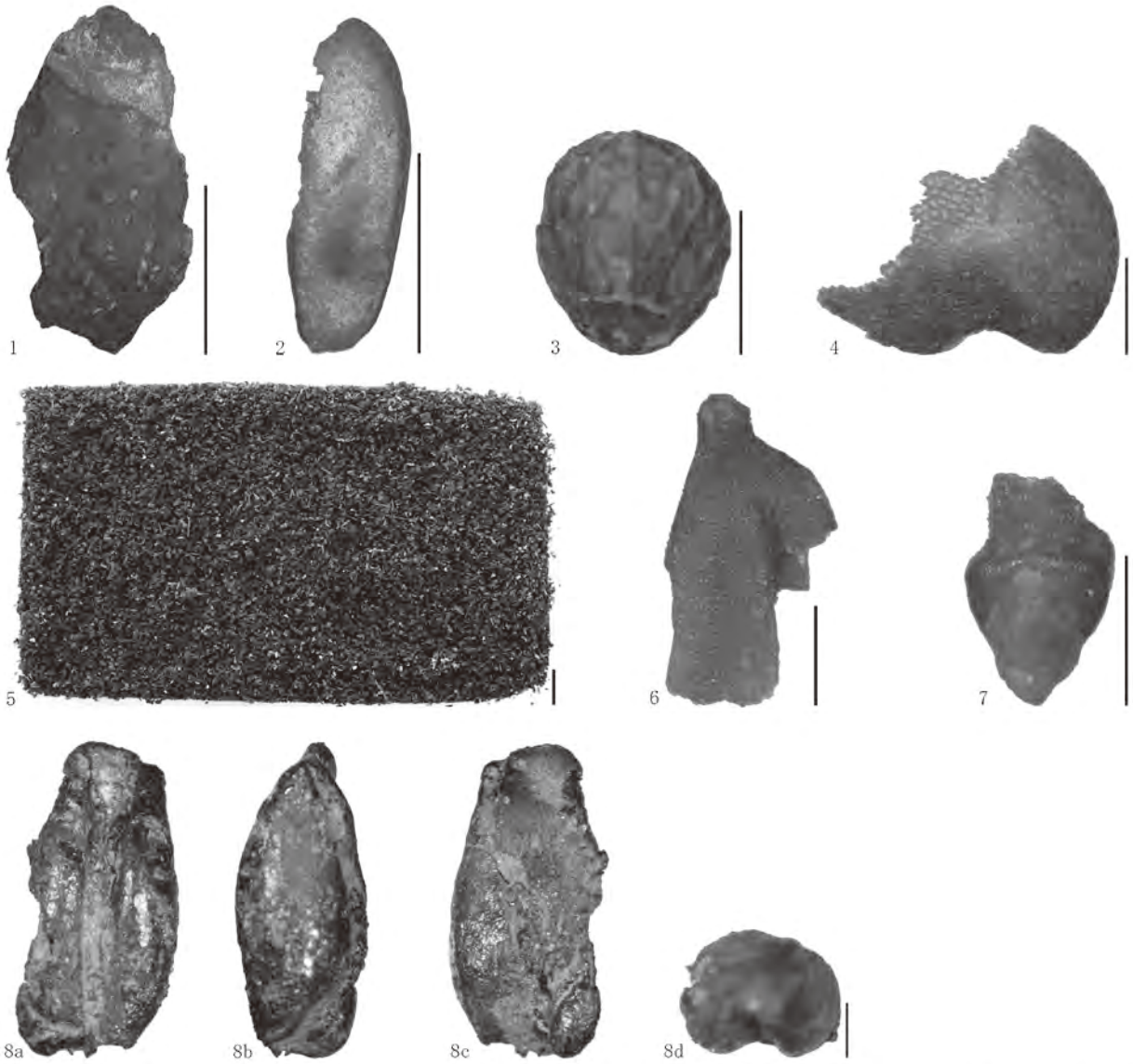
図版14



スケール 1-2:5mm, 3-10:1mm

図版 14　北条小町邸跡の土坑 16 から出土した大型植物遺体

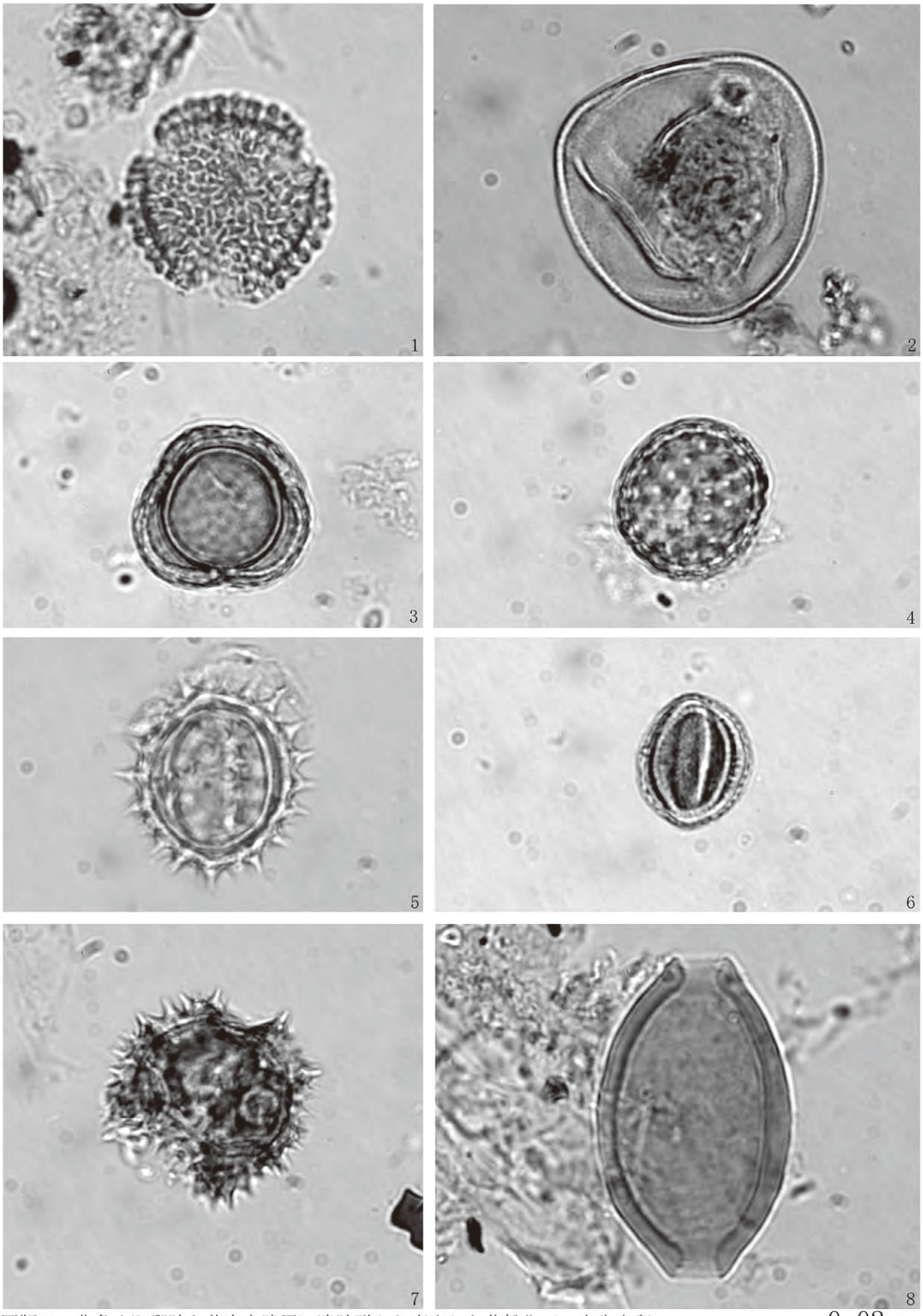
1・2. メロン仲間種子、3. キク科果実、4. ヒエ炭化種子、5. ヒエ属有ふ果、6. イネ籾殻、7. イネ小穂軸、8. イネ炭化種子、9. アワ有ふ果、10. ワラビ裂片



スケール 1, 2:5mm, 3, 4, 6-8:1mm, 5:10mm

図版15　若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した大型植物遺体

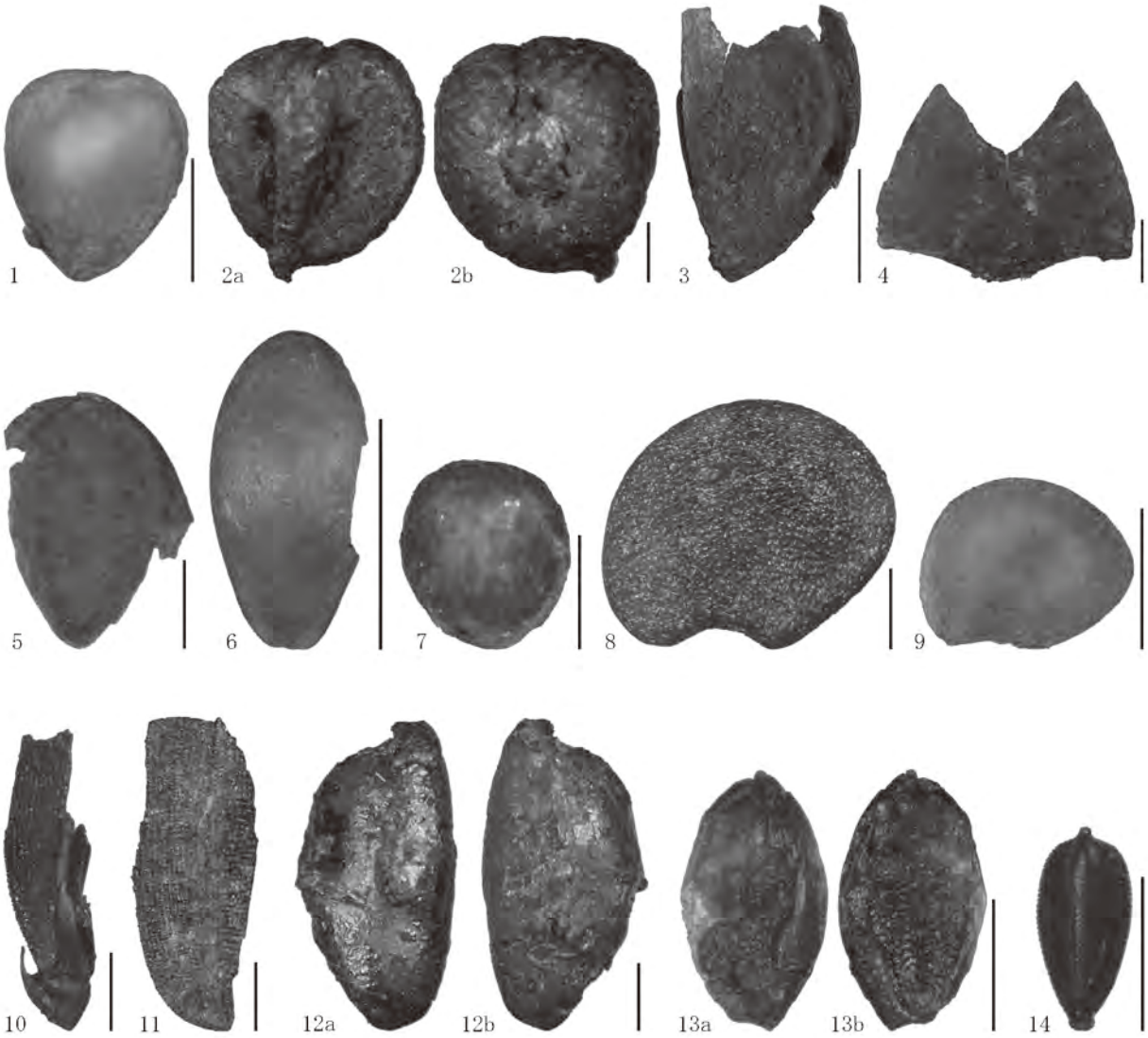
1. クリ果実、2. メロン仲間種子、3. シソ属果実、4. ナス種子、5. イネ籾殻（全体）、6. イネ籾殻、7. イネ小穂軸、8. オオムギ炭化種子



図版16　北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群から産出した花粉化石・寄生虫卵

0.02mm

1. イボタノキ属（若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1577）
2. イネ科（若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1578）
3. ブタクサ属-オナモミ属（北条小町邸跡 PLC. 1579）
4. アカザ科-ヒユ科（若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1580）
5. キク亜科（若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1581）
6. ヨモギ属（北条小町邸跡 PLC. 1582）
7. タンポポ亜科（若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1583）
8. 鞭虫卵（北条小町邸跡 PLC. 1584）

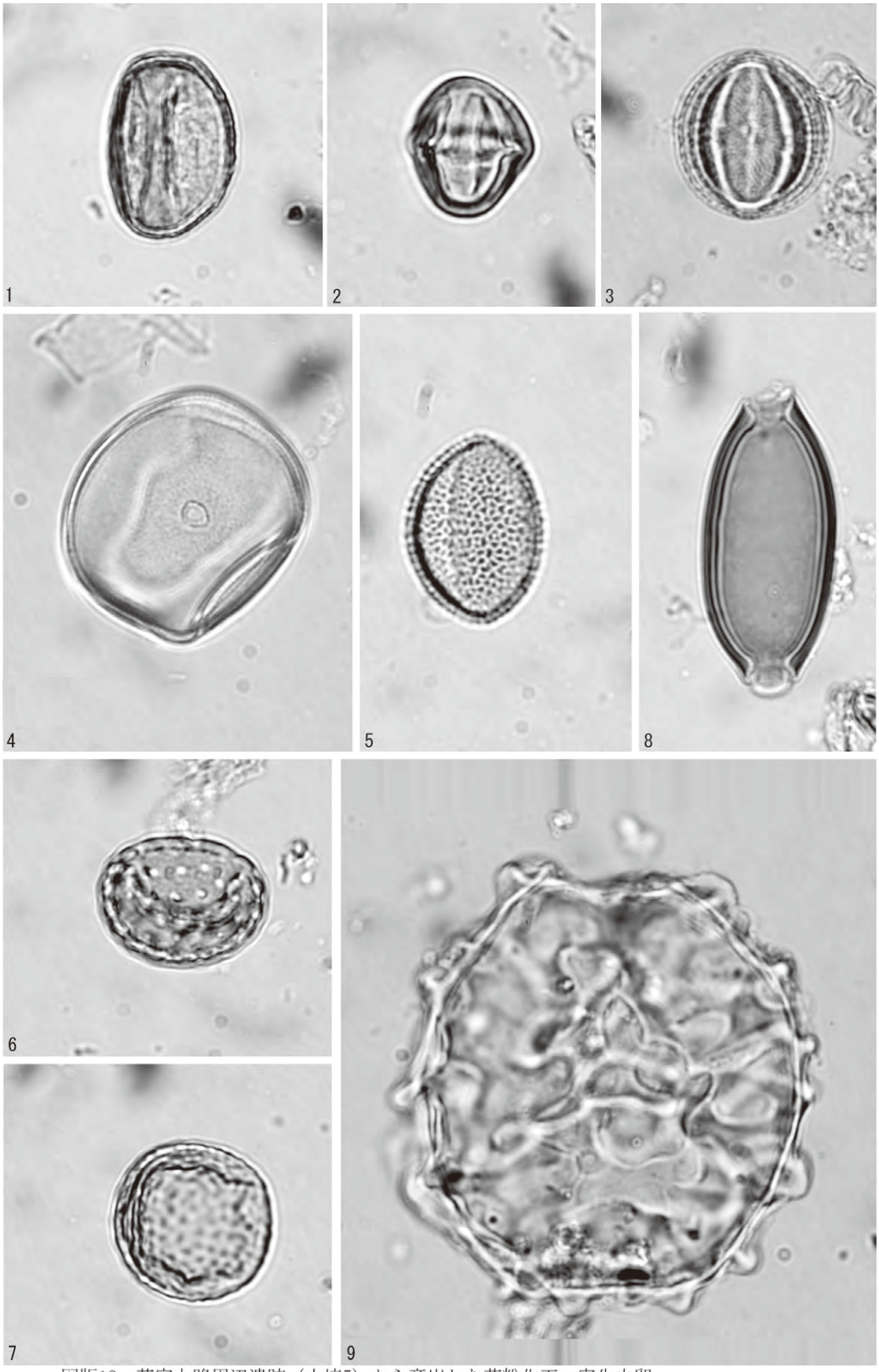


スケール 1, 2, 4, 5, 7-14:1mm, 3, 6:5mm

図版17　若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）の土坑5から出土した大型植物遺体

1. クワ属核、2. ブドウ属種子、3. カキノキ種子、4. ソバ果実、5. ゴマ種子、6. メロン仲間種子、7. シソ属果実、8. ナス種子、9. ナス属種子、10. イネ籾殻、11. イネ炭化籾殻、12. イネ炭化種子、13. エノコログサ属有ふ果、14. カヤツリグサ属果実

図版18



図版18　若宮大路周辺遺跡（土坑5）から産出した花粉化石・寄生虫卵

1. コナラ属コナラ亜属（PLC. 1656）　2. ワレモコウ属（PLC. 1657）

3. ヨモギ属（PLC. 1658）　4. イネ科（PLC. 1659）

5. アブラナ科（PLC. 1660）　6. アカザ科−ヒユ科（PLC. 1661）

大倉幕府周辺遺跡群（No.49）

おおくらばくふしゅうへんいせきぐん

雪ノ下天神前 562 番 30 地点

例　　言

1．本報は、「大倉幕府周辺遺跡群」（№49）内、雪ノ下天神前562番30地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．調査期間　　平成19（2007）年11月7日～平成19（2007）年12月14日

3．調査面積　　26.25㎡

4．略　称　　OSYT562

5．調査体制

担　当　者　　馬淵和雄

調　査　員　　鍛冶屋勝二・松原康子・岩崎卓治（資料整理）・沖元道（同前）

調査補助員　　佐藤あおい・佐藤千尋（資料整理）・田中聡（同前）

作　業　員　　小口照男・金丸義一・伴一明・渡辺輝彦（以上（社）鎌倉市シルバー人材センター）

6．本報作成分担

遺構図整理　　沖元

遺 物 実 測　　岩崎・沖元・松原・佐藤（千）・田中

同 墨 入 れ　　岩崎・沖元・佐藤（千）

同 観 察 表　　沖元

同 計 量 表　　沖元・佐藤（千）

同写真撮影　　沖元

図 版 作 成　　沖元

原 稿 執 筆　　沖元・馬淵

編　　集　　沖元

7．整理段階において、遺物の分類及び編年は以下を参考にした。

土 師 器 皿：馬淵和雄1998『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社

瓦　　：原　廣志2002「第4章　出土瓦について」『永福寺跡－遺物・考察編－』鎌倉市教育委員会

瀬　　戸：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

尾張型山茶碗：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

常　　滑：中野晴久2012『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』愛知県

渥　　美：安井俊則2012『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』愛知県

貿 易 陶 磁：太宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』

8．本報告掲載の現地写真は馬淵・鍛冶屋が撮影した。

9．発掘調査における出土遺物・図面類・写真などの資料は鎌倉市教育委員会が保管している。

10．本報告では世界測地系（第Ⅸ系）の座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23（2011）年3月11日の東日本大震災以前の測量数値を使用している。

本報告作成に際し、次の方々の御教示を得た。記して謝意を示したい。
押木弘己・汐見一夫・原廣志・福田誠

目　次

本　文　目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 ……99
1．位置と地勢
2．歴史的環境
第二章　調査の概要 ……104
1．調査にいたる経緯
2．調査の経過
3．調査方法
第三章　調査結果 ……106
第1節　概　要
1．層序と面の概要
第2節　各　説
1．１面遺構群
2．２面遺構群
3．３面
4．最終トレンチ
5．表採・撹乱坑出土遺物
第四章　まとめと考察 ……139
1．遺構の変遷と年代
2．本調査地点と周辺の調査成果より

挿　図　目　次

図１　調査地点と周辺の遺跡・旧跡 ……100
図２　明治15年頃の調査地点周辺 ……103
図３　調査区設定図……105
図４　調査区土層断面図……106
図５　１面遺構群遺構全図、同出土遺物・撹乱Ｂ出土遺物 ……109
図６　１面遺構群上層・１面遺構群直上・１面遺構群構築土出土遺物 ……110
図７　土坑１・３・４・５・６、同出土遺物…111
図８　土坑２、同出土遺物……112
図９　土坑9・11・P.13・29・30・60・66・106・107、同出土遺物……113
図10 P.44、同出土遺物・１面遺構群ピット出土遺物（1）……114
図11 １面遺構群ピット出土遺物（2）……115
図12 ２面遺構群全図、同出土遺物 ……117
図13 ２面遺構群炭層直上・炭層内・構築土出土遺物……118
図14 溝１上層・下層、同出土遺物 ……119
図15 土坑7・8・10・13・P.11・87・88、同出土遺物……121
図16 土坑13炭層内・炭層下出土遺物、土坑14・15・16、同出土遺物……123
図17 P.40・41・２面遺構群ピット出土遺物…124
図18 ３面遺構全図・溝２、同出土遺物 ……125
図19 最終トレンチ、同出土遺物 ……126
図20 表採・撹乱坑出土遺物……127
図21 北壁土層概念図……139
図22 本調査地点と周辺の調査成果 ……141

表　目　次

表１　出土遺物観察表（１）…… 128
表２　出土遺物観察表（２）…… 129
表３　出土遺物観察表（３）…… 130
表４　出土遺物観察表（４）…… 131
表５　出土遺物観察表（５）…… 132
表６　出土遺物観察表（６）…… 133
表７　出土遺物観察表（７）…… 134
表８　出土遺物観察表（８）…… 135
表９　出土遺物観察表（９）…… 136
表10 出土遺物観察表（10）…… 137
表11 出土遺物計量表…… 138

図　版　目　次

図版１ …… 144
１－１　県道204号線（六浦路）調査地点入口より西を臨む
１－２　近景、県道204号線（六浦路）（東から）
１－３　手前・県道204号線（六浦路）、奥・調査区（南から）
１－４　１面遺構群全景（東から）
１－５　１面遺構群全景（北から）
１－６　１面遺構群土坑２（西から）
１－７　１面遺構群土坑２・３（西から）
１－８　１面遺構群土坑３南北ベルト（西から）
図版２ …… 145
２－１　１面遺構群土坑１遺物出土状況（北から）
２－２　１面遺構群土坑１東西土層断面（北から）
２－３　１面遺構群土坑１完掘状況（南から）
２－４　１面遺構群P.44（北から）
２－５　１面遺構群P.13内遺物出土状況（南から）
２－６　２面遺構群全景（東から）
２－７　２面遺構群全景（北から）
図版３ …… 146
３－１　２面遺構群全景（南から）
３－２　２面遺構群溝１上層（北から）
３－３　２面遺構群溝１上層（南から）
３－４　２面遺構群焼土内青磁（図13-14）出土状況（北から）
３－５　２面遺構群土坑13上層炭層（東から、遺物は図15-5）
３－６　２面遺構群土坑13完掘状況（北から）
３－７　２面遺構群土坑13完掘状況（北東から）
図版４ …… 147
４－１　北壁際最終トレンチ内集石（３面）出土状況（南から）
４－２　北壁際最終トレンチ（東から）
４－３　北壁際最終トレンチ大溝内木製品出土状況（南から）
４－４　北壁際最終トレンチ大溝内木製品出土状況（南から・拡大）
４－５　北壁土層断面
図版５ …… 148
５－１　北壁土層断面（中央）
５－２　北壁土層断面（東側）
図版６ …… 149
６－１　北壁土層断面（土塁状遺構と大溝）①
６－２　北壁土層断面（土塁状遺構と大溝）②
図版７　出土遺物１ ……150
図版８　出土遺物２ ……151
図版９　出土遺物３ ……152
図版10　出土遺物４ ……153
図版11　出土遺物５ ……154
図版12　出土遺物６ ……155
図版13　出土遺物７ ……156

第一章　遺跡と調査地点の概観

１．位置と地勢

地勢

大倉幕府周辺遺跡群は、大倉幕府跡比定地の東・南・西側に隣接する一帯の遺跡名称である。本地点は、遺跡地のなかでも東側に位置し、幕府比定地の南東角に面した場所にあたる。鶴岡八幡宮東側から東京湾側の六浦に向かう旧街道が、大倉幕府前の約400ｍ続く直線が尽きていくらか南に曲がり始めたあたりの北側になる。ちょうどこの地点から、二階堂川の右岸を北東方向に路地が通じており、これが鎌倉時代には二階堂大路と称された道と推定される。

調査地点の現地表面は海抜12.00ｍほどで、調査地点南の旧街道にあたる県道204号金沢鎌倉線の海抜は、10.30ｍほどである。

（馬淵・沖元）

２．歴史的環境

縄文～古墳時代

縄文海進期、鎌倉市街地は全体的に水面下であったと考えられる。旧市内では荏柄天神社前の民家での井戸掘削時に諸磯式と阿玉台式（赤星1959）、15世紀以降に人為的に滑川を埋めた土中から加曾利Ｅ式と縄文晩期から弥生前期にかけての土器（地点12・馬淵2014）、現在の横浜国大付属小学校敷地内から称名寺式（赤星1959）の出土が知られる程度で、全体的にきわめて乏しい。

上本進二氏によれば、当初鎌倉中心部の沖積平野中心部を流れていた古滑川が、現在の位置に近い東の山裾に流路を変えるのは縄文時代晩期から弥生中期にかけてである（上本2000）。

旧市街で人の生活痕跡が確認できるのは弥生時代中期後半からである。地点14・16において、大規模な集落が確認されている（馬淵1998・1999、齋木ほか2007）。また、地点14においては、方形周溝墓とおぼしき周溝が検出されている（齋木ほか2007）。

古墳時代の集落・住居址は、海岸部の砂丘上、二階堂付近、御成小学校近辺の平坦な微高地で発見されている。調査地点付近では地点５において、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落址が確認されている（馬淵1993）。この他、宇津宮辻子幕府跡において、古墳時代土師器が出土する中世基盤層下層の粘土層内の花粉分析が行われている。この結果、イネ科のプラントオパールが検出されていることから、この一帯で水田耕作がおこなわれていた可能性がある（鈴木1996）。

奈良・平安期

鎌倉の文字史料上の最も早い年紀は綾瀬市宮久保遺跡出土木簡に「鎌倉郷鎌倉里　軽マ□寸稲　天平五年九月」とあるものである（國平・長谷川1990）。文献史料上では、天平七年（735年）の裏書を持つ『相摸国封戸租交易帳』（『正倉院文書』正集十八『神奈川県史　資料編』１－58）に「従四位下高田王食封　鎌倉郡鎌倉郷参捨戸　田壹伯参拾伍町壹伯玖歩」とあるものが知られている。この『相摸国封戸租交易帳』に見える郷名のうち、他に尺度郷、荏草郷が鎌倉郡内とされる。承平年間（931年-938年）に編纂された『和名類聚抄』（高山寺本『神奈川県史　資料編』１－490）には、鎌倉郡内の郷名として沼濱、鎌倉、埼立、荏草、梶原、尺度、大島が見える。この他に天平勝宝元年（749年）の『調庸布墨書』（東大寺正倉院御物『神奈川県史　資料編』１－102）に「相模國鎌倉郡方瀬郷」と見える。これらの郷のうち荏草郷については、『新編相模国風土記稿』「荏柄天神社」の項にて、「當郡郷名に荏草と記すあり、今其唱を

図１　調査地点と周辺の遺跡・旧跡（1/5000）

大倉幕府周辺遺跡群（№49）本調査地点　雪ノ下字天神前 562-30　1.二階堂字荏柄58-4外（2000調査）原2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1」鎌倉市教育委員会　2.二階堂字荏柄76-8（2006調査）伊丹ほか2014「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-1」鎌倉市教育委員会　3.二階堂字荏柄76-4（2007調査）　4.二階堂字荏柄27-3の一部（2002調査）原2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-1」鎌倉市教育委員会　5.二階堂字荏柄38-1（1991調査）馬淵1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-2」鎌倉市教育委員会　6.二階堂字荏柄3-6外（2006調査）　7.二階堂字荏柄3-6外（2008調査）　8.雪ノ下大倉耕地565-4（1989調査）菊川英1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会　9.雪ノ下天神前562-29（1994調査）福田1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」鎌倉市教育委員会　10.雪ノ下字大倉耕地562-16（2000調査）菊川泉2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2」鎌倉市教育委員会　11.雪ノ下四丁目567-7（2002調査）馬淵2004「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-2」鎌倉市教育委員会　12. 雪ノ下四丁目570番1（2006調査）馬淵2014「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-1」鎌倉市教育委員会　13.雪ノ下四丁目581-2（1981-82松尾）　14.雪ノ下四丁目581-5（2003調査）齋木2007「大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書」㈲鎌倉遺跡調査会　15.雪ノ下四丁目580-10外（2000原）原2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2」鎌倉市教育委員会　16.雪ノ下四丁目620-5（1996調査）馬淵1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会・馬淵1999「大倉幕府周辺遺跡群」大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団　17.雪ノ下四丁目620-18(1980調査）　18.雪ノ下四丁目620-2（1980調査）　19.雪ノ下四丁目610-2(1983-84調査）　20.雪ノ下四丁目600(1980調査）　21.雪ノ下三丁目606-1（1991調査）菊川英1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会　22.雪ノ下三丁目607外（1992調査）菊川英1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-1」鎌倉市教育委員会　23.雪ノ下三丁目607-1（2001調査）降矢2004「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-2」鎌倉市教育委員会

西御門遺跡（№325） 24.西御門一丁目11-4（2006調査）　25.西御門一丁目681-1（2006調査）

大倉幕府跡（№253） 26.雪ノ下三丁目707-1（1990調査）　27.雪ノ下三丁目637-4（2006調査）熊谷2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27-2」鎌倉市教育委員会　28.雪ノ下三丁目637-6外(2008調査）　29.雪ノ下三丁目635-2外(2008齋木・熊谷）　30.雪ノ下字大倉耕地569-1（1989調査）馬淵1990「大倉幕府周辺遺跡群」大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団　31.雪ノ下三丁目693-8（2009調査）押木2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会　32.雪ノ下三丁目693-1（2010調査）滝澤・宮田「大倉幕府跡（№253)発掘調査報告書」㈱博通　33.雪ノ下三丁目694-18(2009調査)「大倉幕府跡（№253）発掘調査報告書」㈱博通　34.雪ノ下三丁目701-14・701-3・701-1（2002-2003調査）馬淵・滝澤2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-1」鎌倉市教育委員会　35.雪ノ下三丁目704-3外(2005調査)福田2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27-2」鎌倉市教育委員会　36.雪ノ下三丁目648-3（2009原・山口）　37.雪ノ下三丁目648-8(2010齋木・降矢）　38.雪ノ下三丁目651-8(1997調査）汐見1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会　39.雪ノ下三丁目629-1(2007調査)宮田他2011「大倉幕府跡（№253）発掘調査報告書」㈱博通　40.雪ノ下三丁目618-4（2000調査）汐見2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1』鎌倉市教育委員会

大倉幕府北遺跡(№193) 41.西御門二丁目756-10・756-6(2004調査）滝澤2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-1」鎌倉市教育委員会　42.西御門二丁目796-1外2筆(2001調査）森・宮田2002「大倉幕府北遺跡発掘調査報告書」大倉幕府北遺跡発掘調査団　43.西御門二丁目803-17（1997調査）熊谷1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会　97.西御門二丁目816ほか1筆(1999調査)宮田2000「大倉幕府北遺跡発掘調査報告書」

報恩寺遺跡（№251） 44.西御門一丁目91-3他（1974・75・76調査）松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会

保寿院跡（№250） 45.西御門一丁目922-4（2004宮田）宮田・滝澤2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2」鎌倉市教育委員会

政所跡（№247） 46.雪ノ下三丁目965（1990手塚）瀬田1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会　47.雪ノ下三丁目966-1（1990手塚）瀬田1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会　48.雪ノ下三丁目971-6(1997手塚・野本）　49.雪ノ下三丁目970-2外(1997手塚）野本1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会　50.雪ノ下三丁目989-4（1999調査）宗臺秀ほか2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1」鎌倉市教育委員会　51.雪ノ下三丁目988（1991調査）手塚・田畑1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会　52.雪ノ下三丁目987－1・2（1990調査）手塚・宮田1991「政所跡」政所跡発掘調査団

北条高時邸跡（№281） 53.小町三丁目426-3（1994原）原他1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」鎌倉市教育委員会　54.小町三丁目451-1（2004菊川）菊川・森2004「北条高時邸跡」㈱斉藤建設

北条小町邸跡（№282） 55.雪ノ下一丁目377-6・7（1994調査）馬淵ほか1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-2」鎌倉市教育委員会　56.雪ノ下一丁目374-2（1985調査）玉林ほか1985「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2」鎌倉市教育委員会　57.雪ノ下一丁目407-3の一部（2002調査）原ほか2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-2」鎌倉市教育委員会　58.雪ノ下一丁目395（1988菊川）菊川1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」鎌倉市教育委員会　59.雪ノ下一丁目403-14（2013調査）　60.雪ノ下一丁目427番2外（2007調査）沖元2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会　61.雪ノ下一丁目401-5他（2001調査）馬淵ほか2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会　62.雪ノ下一丁目400-1(2000調査）馬淵ほか2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2」鎌倉市教育委員会

若宮大路周辺遺跡群（№242） 63.小町三丁目425-1の一部（2005調査）原・宇都2012「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会　64.小町三丁目425-3(2004調査）原・宇都2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1」鎌倉市教育委員会　65.小町三丁目422-2外（2005調査）伊丹ほか2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1」鎌倉市教育委員会

横小路周辺遺跡（№259） 66.二階堂字四ツ石115-3の一部（2003調査）福田2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2」鎌倉市教育委員会　67.二階堂字横小路110-3（1994調査）宗臺他1996「横小路周辺遺跡」横小路周辺遺跡発掘調査団　68.二階堂字横小路93-11（1998調査）野本1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会　69.二階堂字稲葉越856-5（2009調査）　70.二階堂字向荏柄880・874（1982調査）馬淵1985「向荏柄遺跡発掘調査報告書」　71. 二階堂字向荏柄875-4（2008調査）　72. 二階堂字荏柄10-1（2001調査）原2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会　73. 二階堂字荏柄10-6（1998調査）福田2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2」鎌倉市教育委員会　74.二階堂字荏柄9-1（1988調査）菊川1990「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会　75.雪ノ下五丁目557-1（1996調査）野本1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会

杉本寺周辺遺跡（№158） 76.二階堂字杉本903（1974調査）松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会　77.二階堂字杉本912（1984調査）馬淵ほか2002「杉本寺周辺遺跡」鎌倉市教育委員会　78.二階堂字杉本912-1ほか（1990・1999調査）馬淵ほか2002「杉本寺周辺遺跡」鎌倉市教育委員会　79.二階堂字杉本932-1他8筆(2005調査）2007「杉本寺周辺遺跡発掘調査報告書」㈱博通

田楽辻子周辺遺跡（№33）80.浄明寺字宅間562-33（1990調査）大上1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会　81.浄明寺字釈迦堂658（1989調査）手塚・田畑1990「釈迦堂田楽辻子遺跡」釈迦堂田楽辻子遺跡発掘調査　82.浄明寺一丁目661（1998調査）森2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1」鎌倉市教育委員会　83.浄明寺一丁目676-1（2008調査）齋木2012「田楽辻子周辺遺跡」㈲鎌倉遺跡調査会　84.雪ノ下五丁目555-1（2000調査）福田2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-1」鎌倉市教育委員会　85.浄明寺一丁目556-6外（2009調査）押木2012「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2」鎌倉市教育委員会

覚園寺旧境内遺跡（№435）86.二階堂字会下351-3外（2004調査）伊丹2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1」鎌倉市教育委員会　87.二階堂字会下351-1（2005調査）馬淵2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会　88.二階堂字会下351-2外（2005調査）原2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会　89.二階堂字会下331-3外（2004調査）齋木ほか2005「覚園寺旧境内遺跡発掘調査報告書」㈲鎌倉遺跡調査会　90.二階堂字会下323（2000調査）福田2004「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-2」鎌倉市教育委員会　103.二階堂字中村363-5内（1994調査）田代ほか「中世石窟遺構の調査」東国歴史考古学研究所

浄妙寺旧境内遺跡（№408）91.浄明寺三丁目3-2（2003調査）福田ほか2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-1」鎌倉市教育委員会

鶴岡八幡宮旧境内遺跡（№56）92.雪ノ下二丁目1・16-2（1986調査）齋木1987「鶴岡八幡宮境内遺跡発掘調査報告Ⅱ」鎌倉市鶴岡八幡宮　93.雪ノ下二丁目75-16（1995調査）菊川1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-2」鎌倉市教育委員会　94.雪ノ下二丁目73-1（1980-81調査）服部1984「裏八幡西谷遺跡」神奈川県立埋蔵文化財センター

西御門東やぐら群（№449）95.西御門一丁目31（2003調査）鈴木2005「西御門東やぐら群Ⅱ　かながわ考古学財団調査報告187」（財）かながわ考古学財団　96.西御門一丁目22-1・23・25-1・2（2001・2002・2003調査）鈴木他2005「西御門東やぐら群　かながわ考古学財団調査報告181」（財）かながわ考古学財団

大倉幕府北やぐら群（№460）98.西御門二丁目792-2（調査）鈴木2004「大倉幕府北やぐら群　かながわ考古学財団調査報告162」（財）かながわ考古学財団

会下山西やぐら群（№331）99.二階堂306（2004調査）井関ほか2006「会下山西やぐら群　かながわ考古学財団調査報告196」（財）かながわ考古学財団　100.二階堂309・310・311（2005調査）井関ほか2006「会下山西やぐら群Ⅱ　かながわ考古学財団調査報告204」（財）かながわ考古学財団　101.二階堂309・310・311（2006調査）井関2008「会下山西やぐら群Ⅲ　かながわ考古学財団調査報告219」（財）かながわ考古学財団　102.二階堂字会下312（1986調査）田代1987「会下山西やぐら発掘調査報告書」会下山西やぐら発掘調査団

杉本城跡内やぐら（№386）104.二階堂字稲葉越851（1989調査）田代・継1991「平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書」杉本城跡内やぐら・宅間ヶ谷やぐら発掘調査団　105.二階堂字稲葉越851内（1990調査）神奈川県立埋蔵文化財センター 1990「神奈川県立埋蔵文化財センター年報9」神奈川県立埋蔵文化財センター

杉本寺南やぐら群（№318）106.二階堂字杉本896（1995調査）1996「中世石窟遺構の調査」東国歴史考古学研究所　107.二階堂字杉本930外（1997調査）宗臺1999「中世石窟遺構の調査Ⅲ」東国歴史考古学研究所　108.二階堂字杉本903（1987調査）田代1988「報国寺境内やぐら・杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査報告書」報国寺境内やぐら・杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査団

国指定史跡・法華堂跡（源頼朝墓・北条義時墓）109.西御門二丁目686他（2005福田）福田他2005「北条義時法華堂跡」鎌倉市教育委員会

国指定史跡・永福寺跡110.福田・菊川泉2001「永福寺跡―遺構編―」鎌倉市教育委員会、福田ほか2002「永福寺跡―遺物編・考察編―」鎌倉市教育委員会、福田・永田2011「永福寺跡」鎌倉市教育委員会

国指定史跡・鶴岡八幡宮境内111.雪ノ下二丁目1051-3内（1979調査）齋木ほか1983「研修道場用地発掘調査報告書」鎌倉市鶴岡八幡宮　112.雪ノ下二丁目1051-1内（1982松尾）松尾他1985「鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会　113.雪ノ下二丁目1051-1内（1979調査）齋木ほか1983「直会殿用地発掘調査報告書」鎌倉市鶴岡八幡宮

失すれど全く當社地邊の舊唱ならん、草にかやの古訓あれば、えがらはえがやの轉訛なるを後文字をさへ今の如く書改めしなるべし」としている。また、現在の鎌倉市内中心部は鎌倉郷にあたるとされ（鈴木・鈴木1984）、調査地点も鎌倉郷内に含まれると考えられる。

今小路西遺跡では古代郡家の政庁域と付属舎域、平安期に下る基壇倉庫群などが検出されており、古代Ⅰ期は「糒五斗天平五年七月十四日」の墨書がある木簡から8世紀前半代に、古代Ⅴ期は出土遺物から10世紀初頭頃に比定している（河野ほか1990）。

また、奈良から平安後期の鎌倉には二十近い寺社があり、12世紀初頭までに都市神の勧請もおこなわれていることが指摘されている（野口1993・馬淵1994）。

この他に、平安後期以降の事例として、地点46において鶴岡八幡宮境内の国宝館収蔵庫建設地の事前調査の際、八幡宮創建以前の層から板製五輪塔を伴う男女二体の合葬墓が検出されている。

（沖元）

鎌倉時代

二階堂大路は六浦道から永福寺惣（総）門にいたる600ｍほどの直線道路で、その基点となる本地点南の交差点は、鎌倉幕府が建長三年（1251）と文永二年（1265）に設置した商業地区7地点のうちにみら

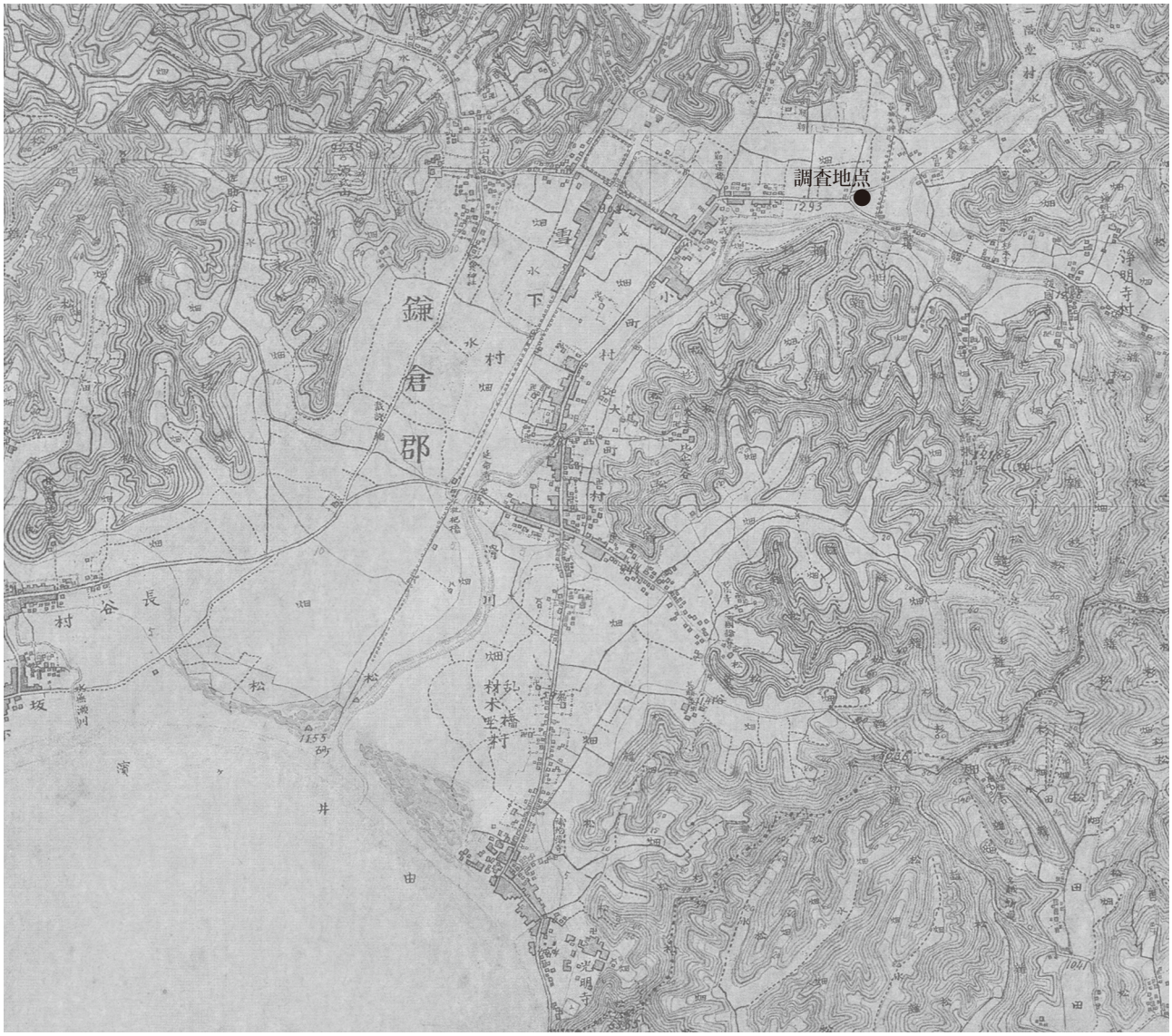


図２　明治１５年頃の調査地点周辺（『迅速測図』）（1/20000）

れる「大倉辻」に相当するのであろう。ここは六浦往還の要衝でもあり、時代を下った天文十七年（1548）、この地にある橋の西詰めに、小田原城主北条氏康により荏柄社造営料徴収のための関取場が置かれた（「荏柄天神社造営関定書案」『神奈川県史　資料編』3 － 3863）。以来、橋には「関取橋」の名がついた。先年この橋の西詰めにあたる場所で発掘調査がおこなわれ、関取場とみられる近世初期の礎石建物が発見された（馬淵1990）。

『吾妻鏡』には調査地点付近の記事が頻出する。とりわけ、二階堂大路を挟んだ調査地点の対面位置一帯は荏柄社の前に当たり、建暦三年（1213）の和田の乱に関係して『吾妻鏡』にしばしば消息の伝わる場所である。このとき、和田義盛の甥、平太胤長の屋地の収公をめぐって、乱の一因ともなる争論が義盛と北条義時らの間に起きる。胤長の屋地の場所は、「在荏柄前。依為御所東隣」だという（三月二十五日条）。さらに５月４日、乱のとき、「尼御台所御第」として「東御所」と見え（同日条）、貫達人はそれを「幕府の郭外で、東方の近くにあった」と推定する（貫1971）。

かつて調査地点の大路向かい側でおこなわれた発掘調査で、大型掘立柱建物群とともに、大路の北側側溝、および側溝に平行した塀もしくは柵とおぼしい鎌倉時代初期の長大な柱穴列が見つかった。発見

された掘立柱建物は、鎌倉でも過去に例がないほど大きく、文献史料からの位置検討とあわせ、筆者はその場所を「東御所」に比定したことがある（馬淵1993）。

『吾妻鏡』には北条義時の「大倉亭」についての記事もしばしばみられる。貫はその場所を、寛喜三年（1231）正月十四日条などから、「杉本観音の西方で、二階堂大路の辺」と推定したうえで、関取橋の近所、と書き加えている（貫1971）。そうだとすれば調査地点は至近の場所ということになるが、「関取橋の近所」とするには根拠がいささか薄く、しかも「杉本寺の西方で、二階堂大路の辺」に該当する場所は広大に過ぎるので、調査地点と義時大倉亭の関係については、まだ保留しておきたい。

いずれにしても、調査地点が鎌倉時代前期には幕府要人の往来する場所であったことは確かであろう。

（馬淵）

第二章　調査の概要

１．調査にいたる経緯

雪ノ下天神前562番30地点において個人専用住宅建設の照会があった。当該地点は大倉幕府周辺遺跡群（№49）として県遺跡台帳に登録されている周知の遺跡であるため、確認調査が行われた。その結果地表面下40cmほどで遺構面が確認された。

建築計画では表層地盤の改良が行われるため、遺構の損傷は避けられないが、強度維持の関係上設計変更は困難なため、国庫補助事業として本発掘調査が実施されることとなった。

あらかじめ平成19（2007）年11月７日に重機による表土掘削を行ない、調査は同年11月８日から開始された。

２．調査の経過

日誌抄

11月7日（水）　重機による表土掘削
11月9日（金）　１面調査開始
11月27日（火）　１面全景写真撮影
12月10日（月）　２面全景写真撮影
以下は地盤改良による遺構が損壊される深度以下のため、トレンチによる土層堆積の確認のみ。
12月11日（火）　北壁際に土層確認トレンチ、掘削開始
12月14日（金）　土層断面写真撮影・機材撤収

３．調査方法

掘削方法

掘削にあたって、残土は場内処理とした。

測量基準の設定

ここでは作業効率を考慮して、調査区長軸中心部を通る測量基準線と、それに直交する基準線を５ｍおきに配した。そして、のちこれらを世界測地系に座標変換するという方法を採用した。

調査区は以下の範囲内にある。

［エリア９］　X－75 014.24 ～ X－75 021.75
　　Y－24 580.45 ～ Y－24 588.77

（沖元）

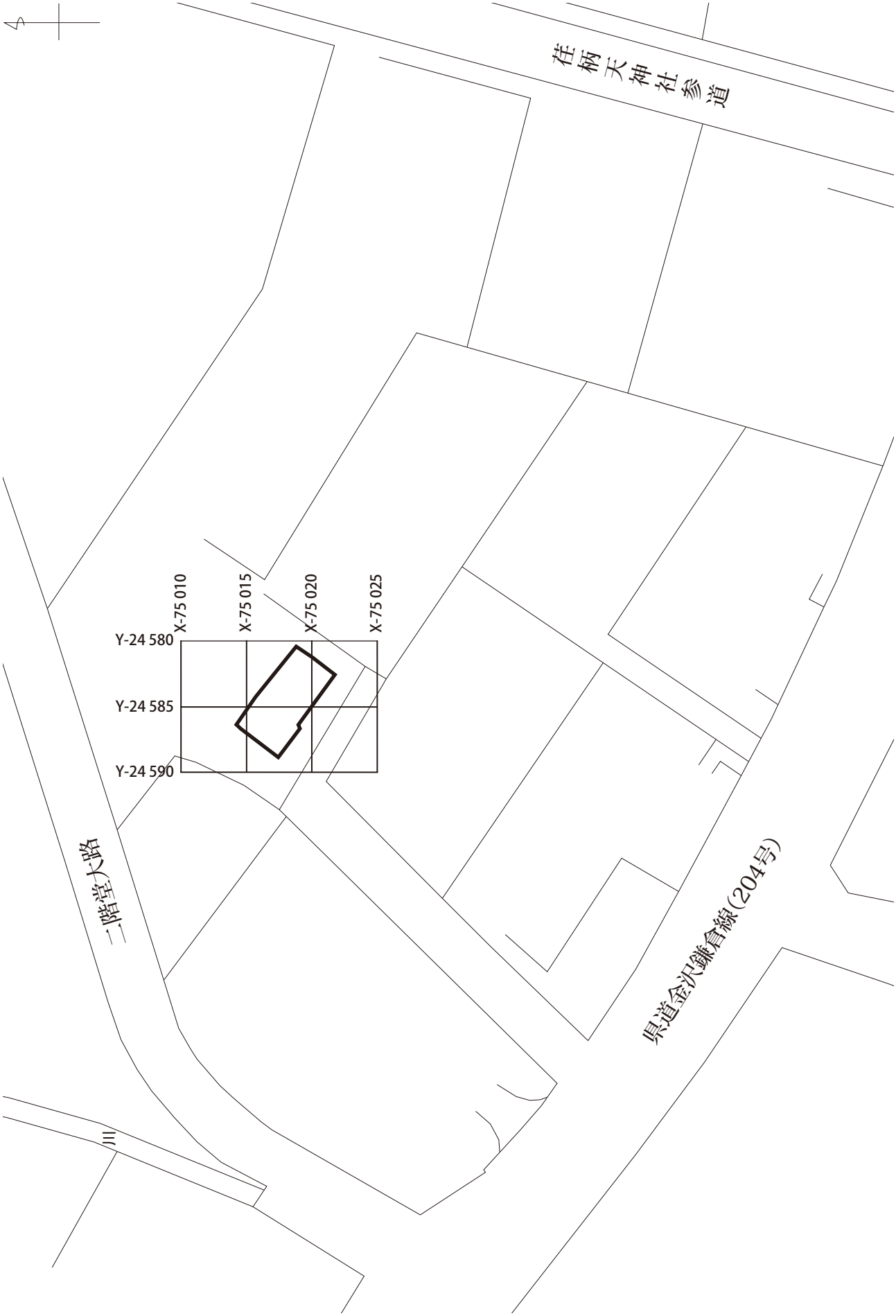


図３　調査区設定図（1/300）

第三章　調査結果

第１節　概　要

１．層序と面の概要

地表面と表土

地表面の海抜は12.00ｍ～ 11.85ｍほどで、南東から北西に若干傾斜するほぼ平坦な面になっている。

表土層は25 ～ 65cmほどあり、一部深くなっているものの、おおむね地表面と同様の傾斜で堆積している。この表土層を除くと後世の攪乱により削平され、部分的に残る地行層が確認できる。この最上層の地行層を5cm～ 15cm掘り下げるとさらに地行層が検出でき、この２枚の地行層を１面遺構群とした。

迅速測図では本地点周辺は畑となっており、後世の耕作や近現代以降の開発で１面遺構群より上層は削平を受けている。

１面遺構群

表土層直下に現われる海抜11.54ｍ～ 11.67ｍに残存する最初の地行層と、この地行層下５～ 15cmほど、海抜11.38ｍ～ 11.67ｍに堆積する地行層を１面遺構群として、遺構検出を行った。遺構の掘り込み面が削平されている箇所が多いため、遺構出土遺物から考えられる年代には幅がある。

２面遺構群

海抜11.37ｍ～ 11.63ｍに堆積する17層と11.17ｍ～ 11.24ｍに堆積する地行層の29層・29´層とを２面遺構群として遺構検出を行った。17層は暗褐色弱粘質土で地行層とは違うが、遺構が掘り込まれているため、１時期の遺構検出面として評価できる。29´層は土塁状遺構の外側を大型泥岩で地行し、29層は土塁状遺構の構築土中の地行であるが、土塁状遺構脇の地行層である29´層とあわせてほぼ平坦になるように削平されている。

（沖元）

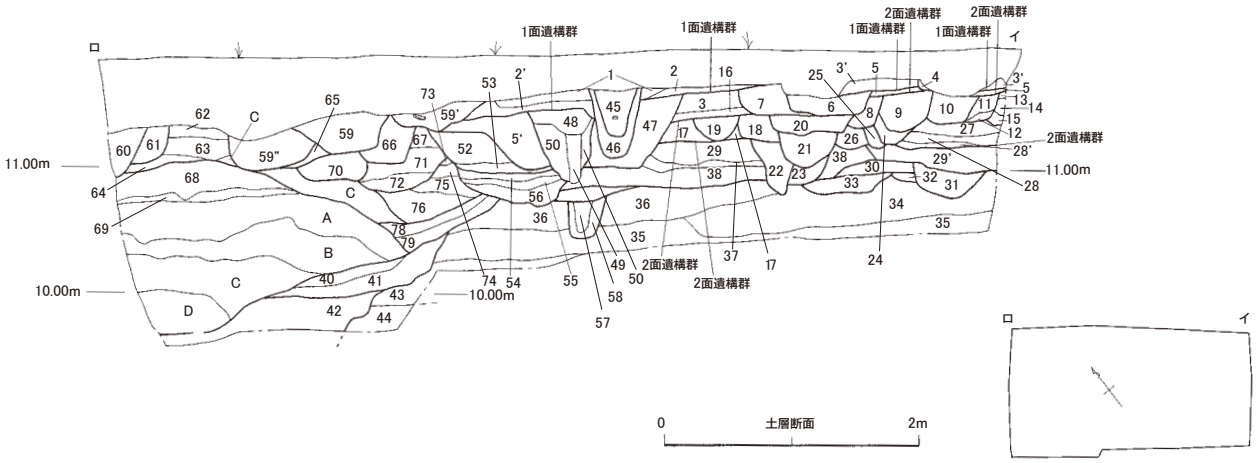


図４　調査区土層断面図

１．泥岩地行層　拳大～半人頭大の泥岩つまる　茶褐色土・泥岩粒・土器細片含む
２．茶褐色弱粘質土　泥岩（粒～小石大）（少）・炭化物（少）・土器細片（少）・山砂含む
2'．茶褐色弱粘質土　２より含有物やや多い、焼土（多）含む
３．半泥岩地行層　上部、破砕泥岩密　下部、茶褐色土（多）・泥岩（粒～小石）・礫・炭化物・山砂含む
４．黒褐色弱粘質土（P.1）
５．破砕泥岩地行　炭化物含む
６．茶褐色弱粘質土　泥岩（粒～小石大）（多）・炭化物・土器細片・山砂含む（遺構）
７．茶褐色弱粘質土　泥岩（粒～半人頭大）（多）・炭化物（多）含む（P.4）
８．暗褐色弱粘質土　泥岩（粒）（微）・炭化物（多）含む
９．褐色弱粘質土　泥岩（粒～小石大）・炭化物・土器細片・山砂（少）含む
10．暗褐色弱粘質土　泥岩（粒～拳大）・炭化物（多）・土器細片（少）含む
11．褐色弱粘質土　茶色粘土（鉄分か？）（やや多）・泥岩粒・炭化物（少）・山砂含む
12．暗褐色弱粘質土　泥岩（粒）・炭化物（少）含む
13．茶褐色弱粘質土　泥岩（小石大）・山砂（多）
14．茶褐色弱粘質土　泥岩（小石大）（多）
15．黒褐色弱粘質土　炭化物・鉄分含む
16．茶褐色弱粘質土　泥岩（粒～小石大）（少）・炭化物・鉄分（やや多）含む
17．暗褐色弱粘質土　泥岩（粒～拳大）・炭化物・鉄分・土器細片・山砂（多）含む
18．茶褐色弱粘質土　泥岩（粒～拳大）密につまる　炭化物・山砂含む
19．暗褐色弱粘質土　泥岩（粒～小石大）（少）・炭化物（少）・礫・土器細片・遺物片・山砂（少）含む
20．暗褐色弱粘質土　19と似る　炭化物（多）含む
21．茶褐色弱粘質土　泥岩（小石大～拳大）密につまる　炭化物・鉄分含む
22．茶褐色弱粘質土　灰色粘土・泥岩（粒～拳大）（多）
23．灰褐色粘質土　泥岩（粒～小石大）（少）・炭化物・鉄分・山砂含む
24．暗褐色弱粘質土　８と同質
25．暗褐色弱粘質土　８と同質
26．茶褐色弱粘質土　21と同質
27．大型泥岩版築
28．灰褐色粘質土　泥岩（粒～半人頭大）（多）・炭化物・鉄分含む　半地行土
28'．灰褐色粘質土　泥岩（粒）（少）・炭層含む
29．大型泥岩層
30．暗灰褐色粘質土　粘性強、泥岩（粒～小石大）（微）・炭化物（微）・鉄分（微）・土器細片（微）含む
31．灰褐色粘質土　泥岩（半人頭大）・炭化物（やや多）・鉄分（やや多）含む
32．灰褐色粘質土　粘性強、泥岩（粒～小石大）（少）・炭化物・鉄分含む
33．灰褐色粘質土　32と同質
34．茶灰色粘質土　泥岩（粒）（微）・炭化物（微）・鉄分（やや多）含む
35．茶灰色弱砂質土　砂・炭化物（微）・鉄分含む
36．茶灰色弱砂質土　褐色粘土混ざる、泥岩（粒）・炭化物・土器細片（ごく微）含む
37．明灰褐色粘質土　破砕泥岩・小礫（多）・炭化物含む
38．大型・破砕泥岩版築層
39．大型泥岩層　灰褐色粘土と破砕泥岩を合わせて突き固める（土塁状）、炭化物含む
A．大型泥岩層
B．灰褐色粘土　泥岩（小石～大型）雑につまる
C．半人頭大泥岩層　均一につまる
D．大型泥岩層
40．茶灰色粘質土　軟質、砂・炭化物・鉄分含む
41．茶灰色粘質土　40より軟質で粘性強
42．暗茶色腐植土　炭化物（多）・木片（多）・木製遺物（多）
43．茶灰色弱砂質土　35より鉄分多く砂を含む、炭化物（微）含む
44．青灰色砂質土　地山に似た土、炭化物（微）含む
45．暗褐色弱砂質土　泥岩（粒～小石大）・炭化物（多）・土器細片・山砂（少）含む（P.5）
46．茶褐色弱砂質土　泥岩（粒～小石大）（やや多）・炭化物・遺物片・山砂（やや多）含む（P.5）
47．茶褐色弱砂質土　46と同質　炭化物（やや多）
48．茶褐色弱砂質土　46と同質　泥岩（粒～拳大）（多）（遺構）
49．茶褐色弱砂質土　48と同質　泥岩（少）・炭化物（やや多）含む（遺構）
50．茶褐色弱砂質土　48と同質　泥岩（やや多）・炭化物（微）含む（遺構）
51．茶褐色弱砂質土　泥岩（粒～拳大）（多）・炭化物（少）・山砂（少）・焼土（微）含む
52．茶褐色弱砂質土　51と同質　灰色粘土（多）・泥岩（少）・炭化物（多）含む（溝１上層）
53．灰褐色粘質土　粘性強、泥岩（粒～小石大）・炭化物・鉄分（微）含む（溝１上層）
54．茶灰色粘質土　粘性強、炭化物（微）・鉄分か（多）含む（溝１下層）
55．灰褐色粘質土　粘性強、53と同質　泥岩なく炭化物やや多く含む（溝１下層）
56．灰褐色粘質土　泥岩（小石大～半人頭大）密につまる、炭化物（微）含む（溝１下層）
57．暗灰色粘質土　粘性強、軟質、炭化物（微）含む
58．暗灰色粘質土　粘性強、泥岩・炭化物・鉄分・土器細片（微）含む
59．茶褐色弱粘質土　泥岩（粒～小石大）（多）・炭化物・土器細片・山砂（少）含む（P.38）
59'．茶褐色弱粘質土　礫・常滑破片含む（P.37）
60．暗褐色弱粘質土　泥岩（粒）・炭化物（少）・土器細片（少）含む（遺構）
61．茶褐色弱粘質土　59と同質　礫（微）・焼土（微）含む（遺構）
62．泥岩層　半人頭大泥岩つまる
63．茶褐色弱粘質土　泥岩（粒～小石大）（少）・炭化物・焼土・山砂（少）含む
64．茶褐色弱粘質土　炭層・焼土を含む
65．茶褐色弱粘質土
66．茶褐色弱粘質土　泥岩（拳大）（やや多）・泥岩（粒）・炭化物（少）・山砂含む（遺構）
67．茶褐色弱粘質土　破砕泥岩密につまる　半地行土
68．大型泥岩版築層
69．明灰褐色粘質土
70．茶褐色弱粘質土　泥岩（粒～半人頭大）つまる
71．大型泥岩層　泥岩（粒～半人頭大）つまる
72．破砕泥岩層　鉄分・土器細片含む　地行土に近い
73．茶褐色弱粘質土
74．泥岩層
75．泥岩層　破砕泥岩つまる、38と同質
76．泥岩層　破砕泥岩つまる、炭化物・鉄分含む
78．暗灰色粘質土　粘性強、軟質、泥岩（粒）（微）・炭化物・鉄分含む
79．暗灰色粘質土　78と同質　破砕泥岩（少）・炭化物（やや多）・鉄分含む

第２節　各　説

１．１面遺構群

面の概要（図５）

検出高：11.29 m～ 11.63 m　**面構成土**：泥岩地行層・茶褐色弱粘質土　**検出遺構**：土坑６基・ピット125穴　**１面出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（4・5）・土師器皿Ｔ種大型（6）・土師器皿Ｒ種小型（7・8）　**特記事項**：土師器皿Ｔ種は13世紀前葉までのもの。土師器皿Ｒ種は13世紀中葉までか。

撹乱Ｂ（図５）

出土遺物：瓦器質火鉢脚（1）・常滑甕（2）・青白磁梅瓶（3）

１面遺構群上層出土遺物（図６）

出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（1・2）・土師器皿Ｔ種大型（3）・土師器皿Ｒ種大型（4）・渥美甕（5）・白磁Ⅷ類碗（6）　**特記事項**：出土遺物は13世紀前葉までのものを主とする。

１面遺構群直上出土遺物（図６）

出土遺物：土師器皿Ｔ種大型（7）・土師器皿Ｒ種小型（8・9）・常滑片口鉢Ｉ類（10）・常滑甕（11～13）・竜泉窯青磁Ｉ類碗（14・15）・青白磁碗（16）　**特記事項**：10の常滑鉢は中野編年５～ 6a型式。11の常滑甕は中野編年５型式、12･13の常滑甕は中野編年6a ～ 6b型式。

１面構築土出土遺物（図６）

出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（17）・土師器皿Ｔ種大型（18 ～ 22）・土師器皿Ｒ種小型（23・24）・白色系土師器皿Ｔ種小型（25）・常滑片口鉢Ｉ類（26）・渥美甕（27 ～ 29）・同安窯系青磁碗（30）・竜泉窯青磁Ｉ類碗（31）・黒曜石火打石（32）　**特記事項**：26の常滑鉢は中野編年５～ 6a型式。他の出土遺物も12世紀後葉から13世紀中頃までのもの。

土坑１（図７）

位置：X － 75 017.20 ～（－ 75 018.20）　Y － 24 583.37 ～－ 24 584.32　**平面形**：不整楕円形　**断面形**：浅鉢形　**規模**：長径1.02 m ×短径0.92 m ×深さ 0.36 m　**主軸方位**：N － 33° － W　**重複関係**：P.20・P.31・P.99他ピット６穴を切る　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（1）・土師器皿Ｒ種小型（2 ～ 10）・土師器皿Ｒ種大型（11 ～ 18）・常滑片口鉢Ｉ類（19・20）・常滑甕（21）・平瓦（22）　**特記事項**：１の土師器皿Ｔ種は13世紀前葉までのもの。土師器皿Ｒ種小型は13世紀前葉までのものを含みつつ13世紀中葉のものが多い。土師器皿Ｒ種大型は13世紀中葉のものと後葉以降のものがある。19・20の常滑鉢は中野編年５～ 6a型式のもの、21の常滑甕は中野編年５型式のもの。22の平瓦は永福寺Ｉ期のもの。

土坑２（図８）

位置：X － 75 019.23 ～（－ 75 020.52）　Y（－ 24 581.20）～－ 24 582.54　**平面形**：隅丸方形　**断面形**：円筒形　**規模**：長径（1.09 m）×短径1.16 m ×深さ 1.69 m　**主軸方位**：N － 54° － W　**重複関係**：土坑３を切る　**出土遺物**：土師器甕（7）・土師器皿Ｔ種大型（8）・土師器皿Ｒ種小型（9 ～ 13）・土師器皿Ｒ種大型（14 ～ 18）・土師器皿Ｒ種大型打ち欠き（19）・伊勢系鍔鍋（20・21）・常滑甕（22）・常滑甕転用摩耗陶片（23）・瀬戸平碗か（24）・青白磁蓋（25）・青白磁梅瓶（26）・砥石中砥（27）玄武岩質凝灰岩（28）

特記事項：土坑２と上層の撹乱Ａとした炭層との関連は不明。深い形状から井戸になるか。７の土師器甕は古墳時代のもの。土師器皿は14世紀後半から15世紀のもの。20・21の伊勢系鍔鍋も鍔の角度から15世紀に近い年代か。

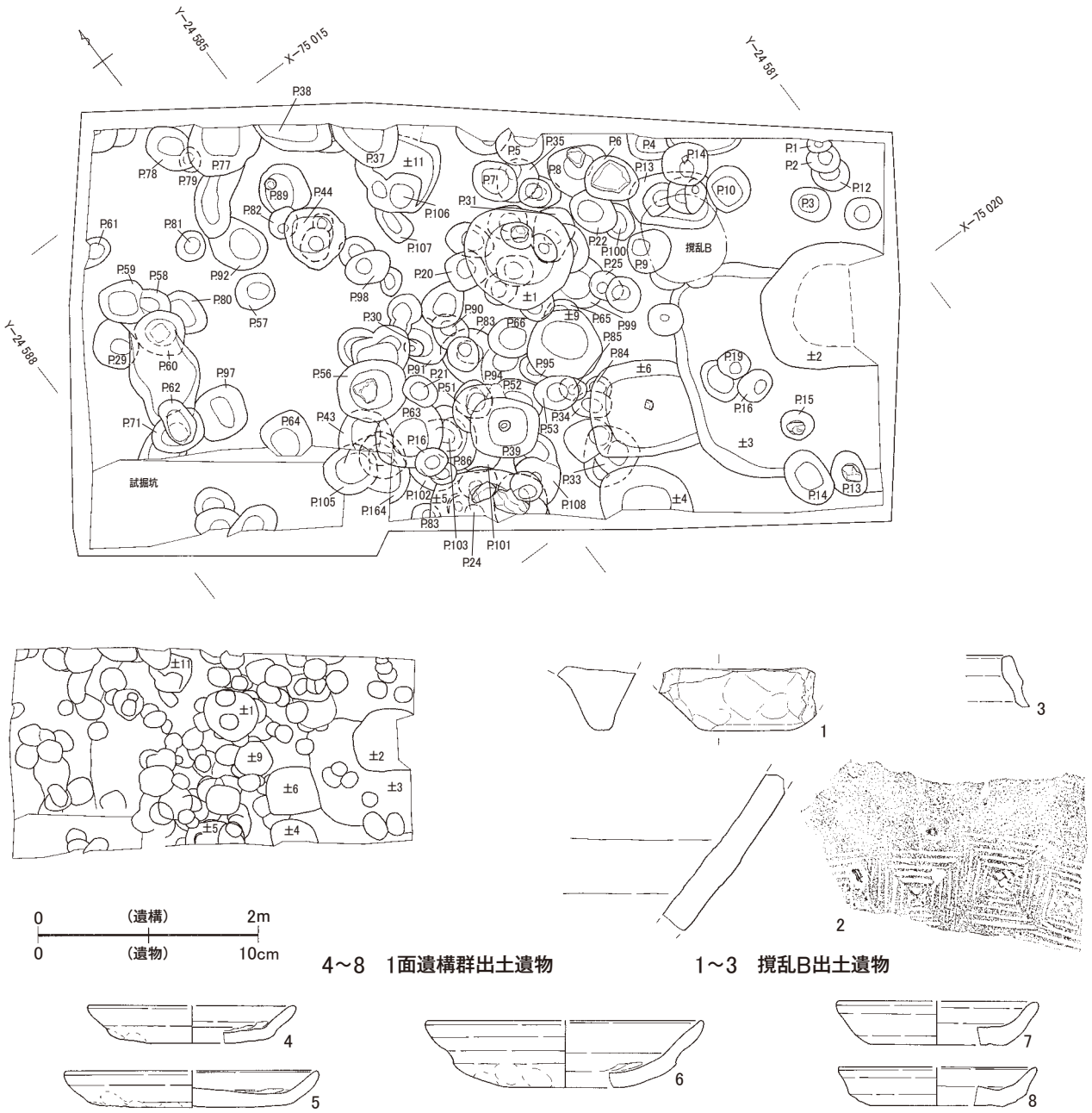


図５　１面遺構群遺構全図、同出土遺物・撹乱Ｂ出土遺物

撹乱Ａ出土遺物（図８）

出土遺物：土師器皿Ｒ種小型（1 〜 3）・土師器皿Ｒ種大型（4・5）・常滑甕（6）　**特記事項**：炭層を撹乱Ａとしたが、下層の土坑２との関連は不明。現地取り上げ遺物に近世・近代は含まれない。1 〜 3の土師器皿は13世紀中頃までのもの。4・5の土師器皿は15世紀のもの。

土坑３（図７）

位置:X（− 75 018.84 〜 − 75 021.47）　Y（− 24 581.89）〜 − 24 583.57　**平面形**:不整隅丸方形　**断面形**:浅皿形　**規模**：長径（1.89 m）×短径1.94 m × 深さ 0.21 m　**主軸方位**：N − 56° − W　**重複関係**：土坑２他ピット６穴に切られる　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（23・24）・土師器皿Ｒ種小型（25 〜 28）　**特記事項**：土師器皿は13世紀中頃までのもの。

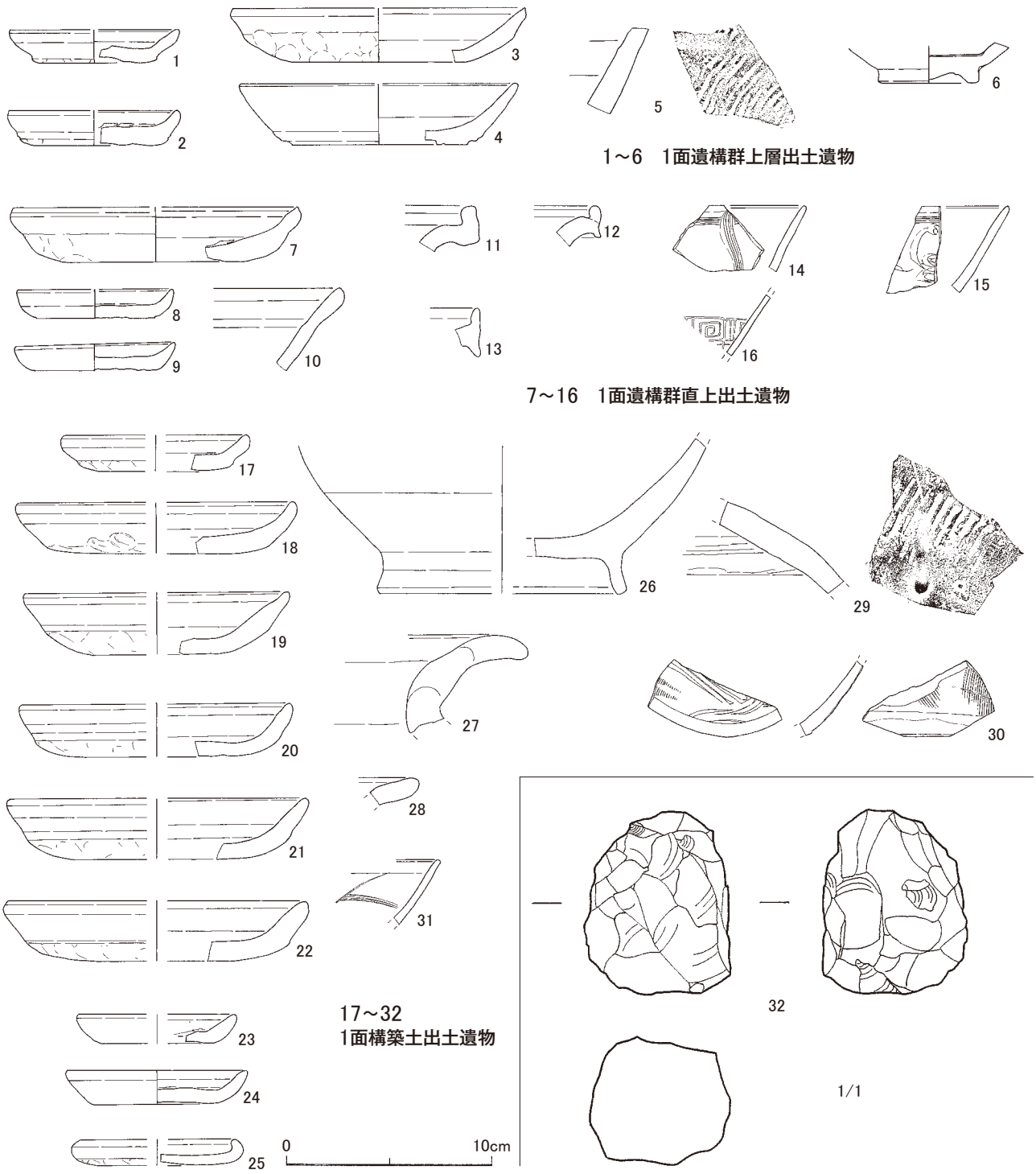


図６　１面遺構群上層・１面遺構群直上・１面遺構群構築土出土遺物

土坑４（図７）

位置：X－75 019.83 ～（－75 020.59）　Y－24 583.92 ～（－24 584.70）　**平面形：**不整円形　**断面形：**浅皿形　**規模：**長径0.86 m×短径(0.51 m)×深さ0.16 m　**主軸方位：**N－54°－W　**重複関係：**P.33を切る。

出土遺物：図化可能遺物なし

土坑５（図７）

位置：X－75 018.95 ～（－75 019.80）　Y－24 585.05 ～（－24 585.98）　**平面形：**楕円形　**断面形：**深鉢形　**規模：**長径1.11 m×短径0.42 m×深さ0.25 m　**主軸方位：**N－55°－W　**重複関係：**P.25・P.83・

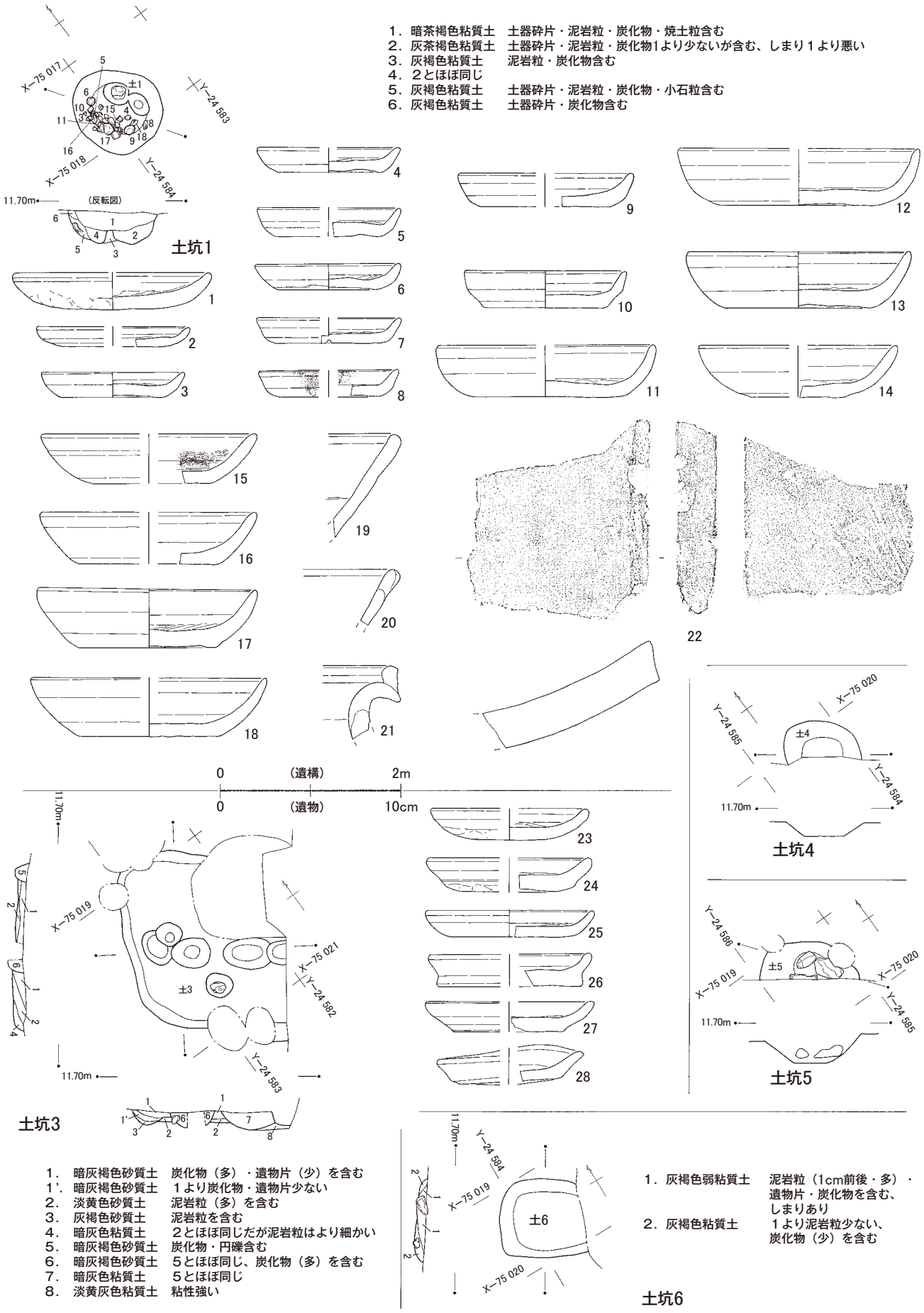
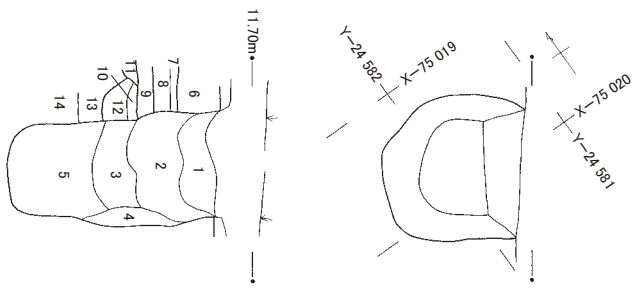
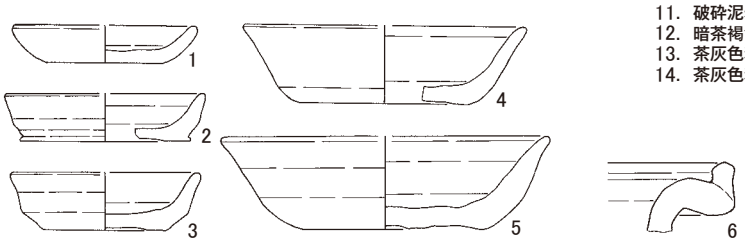


図７　土坑１・３・４・５・６、同出土遺物

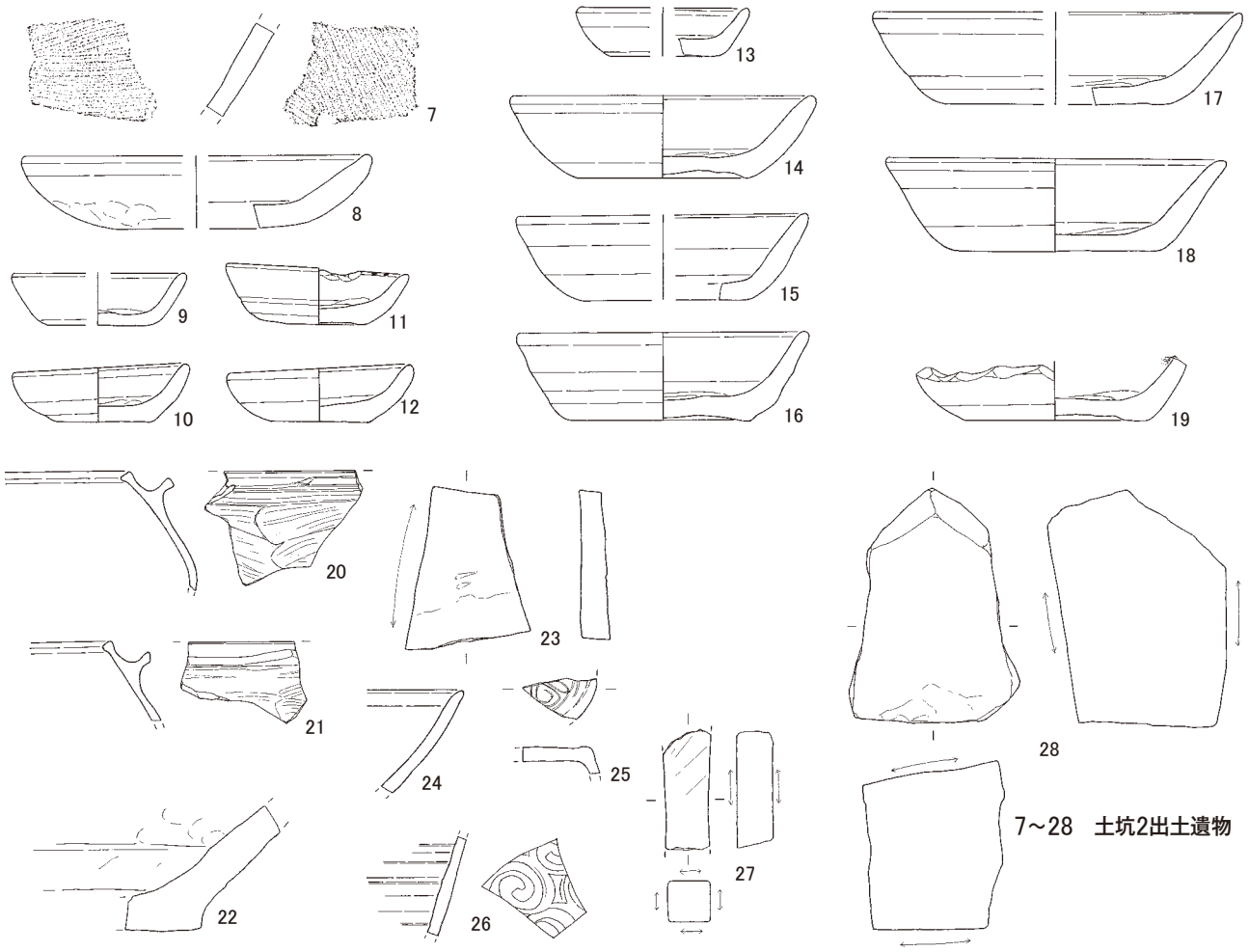


1．撹乱A　炭化物多量に含む
2．灰茶褐色弱粘質土　土器砕片・泥岩（砂粒大～拳大）・炭化物・山砂（少量）を含む（土2）
3．灰褐色粘質土　炭化物（やや多）・土器砕片・泥岩（小石大）・焼土を含む（土2）
4．灰褐色粘質土　泥岩（半人頭大・多）を含む（土2）
5．暗灰色粘質土　土器砕片（多）・炭化物（多）・木片（多）・泥岩（粒～人頭大）を含む（土2）
6．茶褐色弱粘質土　泥岩（粒～小石大・多）・遺物片・炭化物・山砂を含む（2面構成土）
7．破砕泥岩地行　炭化物含む、粘性あり
8．破砕泥岩地行　泥岩（小石大～人頭大）つまる
9．破砕泥岩地行　大型泥岩つまる
10．明灰色粘質土　泥岩粒（微）・炭化物（微）を含む、粘性強
11．破砕泥岩地行
12．暗茶褐色粘質土
13．茶灰色粘質土　鉄分含む
14．茶灰色粘質土　13より硬い粘土



0　（遺構）　2m
0　（遺物）　10cm

1～6　撹乱A出土遺物



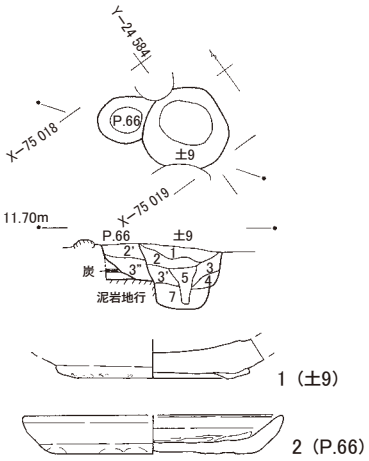
7～28　土坑2出土遺物

図８　土坑２、同出土遺物

P.101・P.108他ピット２穴を切る。ピット１穴に切られる。　**出土遺物**：図化可能遺物なし　**特記事項**：土坑の底に泥岩あり。

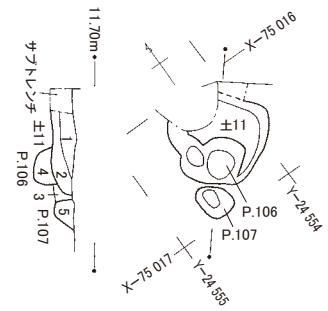
土坑６（図７）

位置：X－75 019.03～（－75 020.11）　Y－24 583.64～（－24 584.70）　**平面形**：不整隅丸方形　**断面形**：



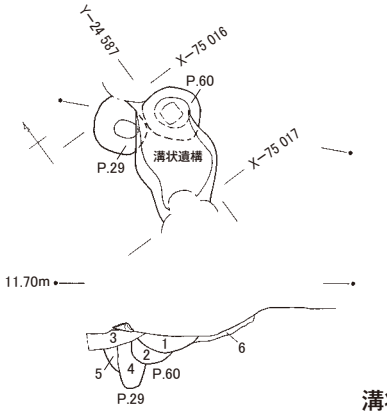
1．灰褐色粘質土
　炭化物（多）・焼土（多）・山砂・泥岩（粒～小石大・少）を含む
2．灰褐色粘質土
　泥岩（粒～小石大・多）・土器砕片・炭化物・焼土を含む
3．灰褐色粘質土
　炭化物・灰黒色粘土を含む、粘性強
4．黄灰褐色土
　３の土に破砕泥岩（小石大）つまる
5．灰褐色粘質土
　炭化物（微）・鉄分（微）を含む、粘性強
6．灰褐色粘質土
　３と同質、破砕泥岩（小石大）多量につまる
7．暗灰褐色粘質土
　炭化物（微）・泥岩粒（微）・鉄分（微）を含む、粘性強い

土坑9・P.66



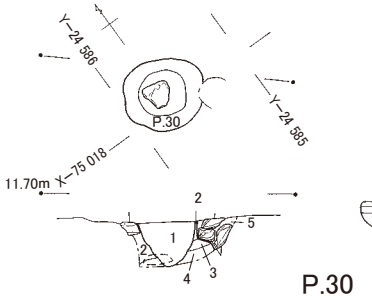
1．灰黒色砂質土
　遺物含む（土11）
2．淡黄褐色砂質土
　泥岩（半拳大）を含む（土11）
3．淡黄褐色砂質土
　泥岩（1・2cm大・多）を含む
4．暗灰褐色砂質土
　泥岩（1・2cm大）を含む（P.106）
5．灰褐色砂質土
　焼土粒（多）を含む（P.107）

土坑11・P.106



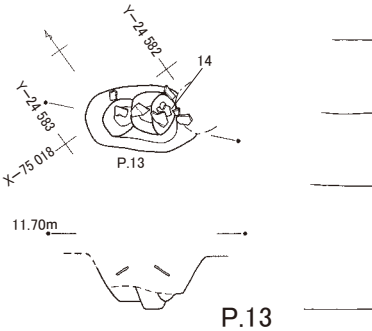
1．灰褐色弱粘質土
　土器砕片・泥岩（数cm大）・炭化物を含む
2．灰黄褐色弱粘質土
　泥岩（数cm大）を含む
3．灰褐色弱粘質土
　１とほぼ同じ
4．暗灰褐色弱砂質土
　泥岩（拳大）を含む
5．暗茶褐色砂質土
　混入物少ない
6．黒褐色粘質土
　泥岩版築上にへばりついた黒土

溝状遺構・P.29・P.60



1．黒褐色弱粘質土　土器砕片・泥岩（半拳大）を含む
2．灰褐色砂質土　泥岩粒含む
3．灰黒色粘質土　炭化物（多）を含む
4．炭化層　炭層と灰色の灰層が互層をなす
5．暗黒褐色粘質土

P.30



P.13

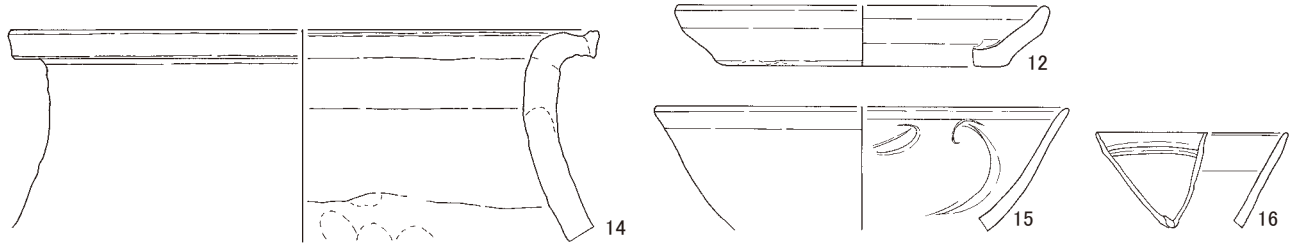


図９　土坑９・11・P.13・29・30・60・66・106・107、同出土遺物

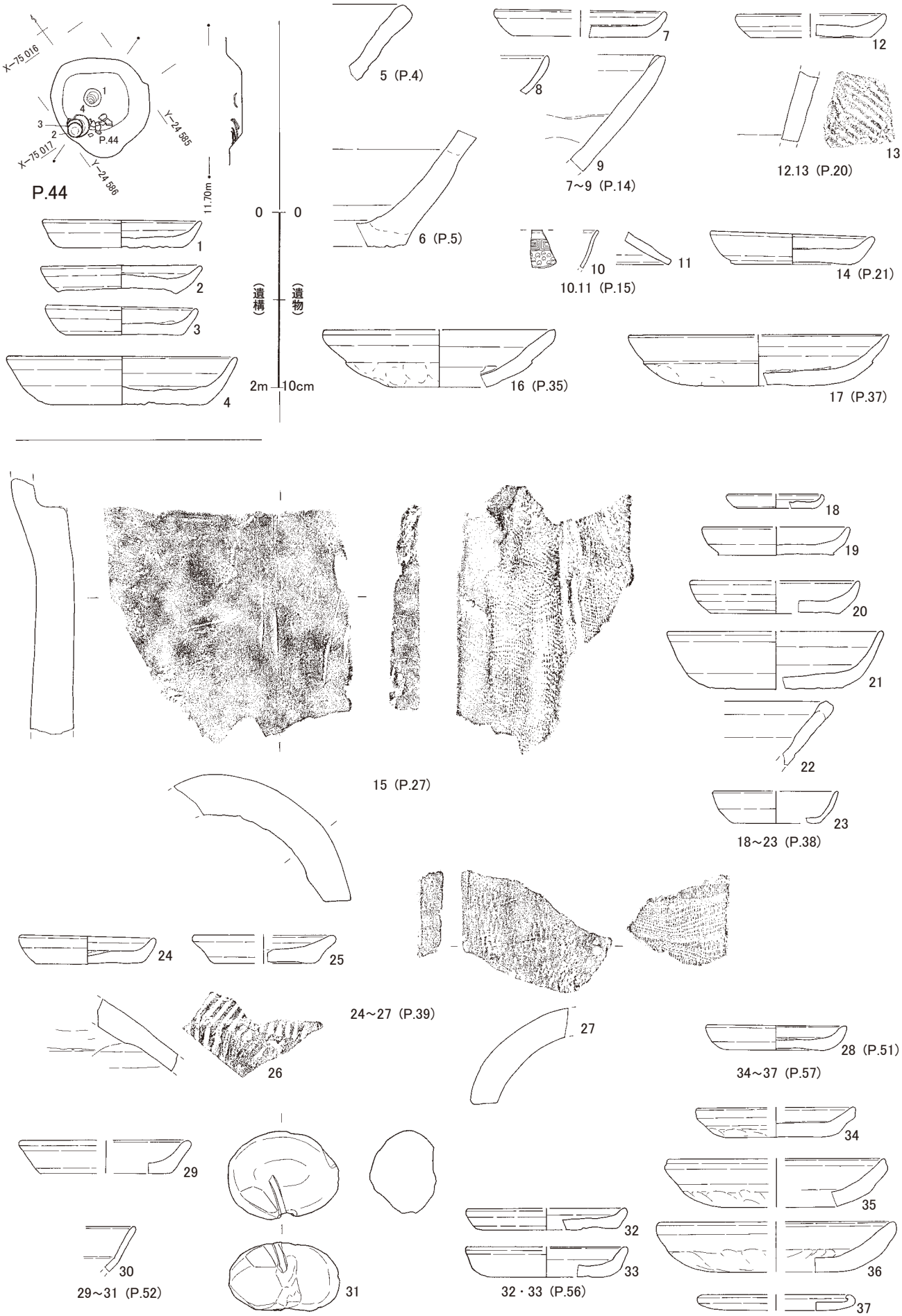


図10　P.44、同出土遺物・１面遺構群ピット出土遺物（1）

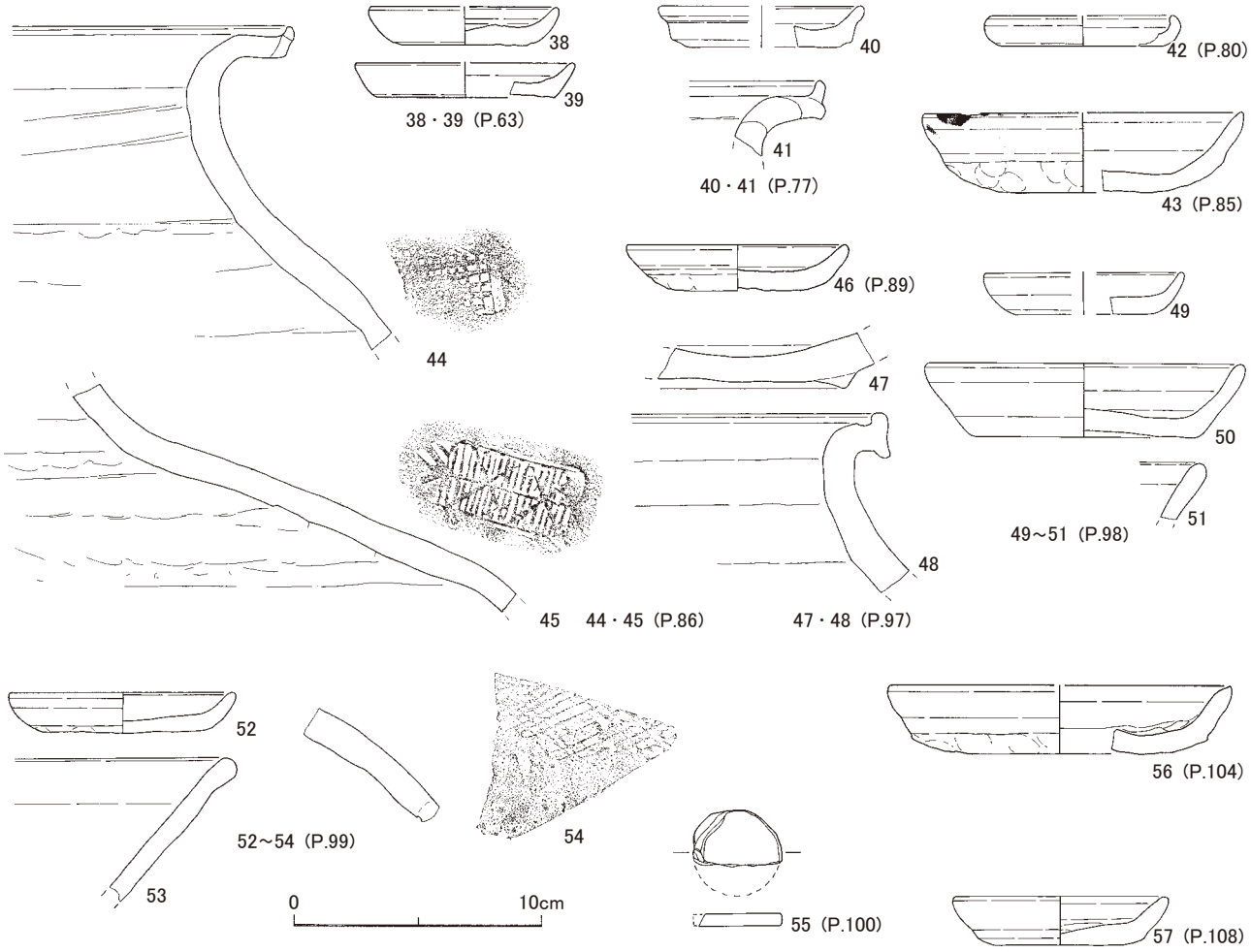


図11　１面遺構群ピット出土遺物（2）

浅皿形　**規模**：長径0.98 m×短径0.89 m×深さ0.13 m　**主軸方位**：N－60°－W　**重複関係**：土坑３に切られる。P.33・P.34・P.84他ピット１穴を切る。　**出土遺物**：図化可能遺物なし

土坑９（図９）

位置：X－75 018.31～－75 018.97　Y－24 583.62～－24 584.29　**平面形**：円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.67 m×短径0.64 m×深さ0.49 m　**主軸方位**：N－34°－W　**重複関係**：P.65・P.66・P.95を切る。P.53・P.85他ピット１穴に切られる。　**出土遺物**：渥美・湖西型山茶碗（1）　**特記事項**：山茶碗は安井編年2b～3aのものか。

土坑11（図９）

位置：X－75 016.15～－75 016.84　Y－24 553.16～－24 554.65　**平面形**：不整形　**断面形**：浅鉢形　**規模**：長径0.78 m×短径（0.57 m）×深さ0.19 m　**主軸方位**：N－38°－W　**重複関係**：P.106を切る。P.37に切られる。　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（3）・土師器皿Ｔ種大型（4）・土師器皿Ｒ種小型（5）・土師器皿Ｒ種大型（6）・渥美甕（7）・竜泉窯青磁Ⅱ類碗（8）・青白磁水注把手（9）・白磁皿（10）　**特記事項**：土師器皿Ｔ種は13世紀前葉までのもの。土師器皿Ｒ種は13世紀中葉までのもの。８の青磁は13世紀中葉～後半のもの。

P.13（図９）

位置：X－75 017.16～－75 018.57　Y－24 582.96～－24 583.80　**平面形**：楕円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.88 m×短径0.54 m×深さ0.42 m　**主軸方位**：N－49°－W　**重複関係**：P.6・P.10・P.14に切られ

る。　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種大型（12）・常滑甕（13・14）・竜泉窯青磁Ｉ類碗（15・16）　**特記事項**：12の土師器皿は13世紀前葉までのもの。14の常滑甕は中野編年５型式。15・16の青磁碗は12世紀末～13世紀前葉までのもの。

P.29（図９）

位置：X－75 015.90～－75 016.37　Y－24 587.17～－24 587.52　**平面形**：円形　**断面形**：円筒形　**規模**：長径0.44 m×短径（0.42 m）×深さ0.45 m　**主軸方位**：N－38°－W　**重複関係**：P.60・溝状遺構に切られる。

出土遺物：図化可能遺物なし

P.30（図９）

位置：X－75 017.60～－75 018.20　Y－24 586.67～－24 587.13　**平面形**：楕円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.65 m×短径0.58 m×深さ0.36 m　**主軸方位**：N－58°－W　**重複関係**：P.43・P.63他ピット２穴を切る。P.21に切られる。　**出土遺物**：土師器皿Ｒ種小型（11）　**特記事項**：土師器皿は13世紀前葉までのもの。

P.44（図10）

位置：X－75 016.27～－75 017.45　Y－24 584.92～－24 586.00　**平面形**：不整円形　**断面形**：浅鉢形　**規模**：長径1.14 m×短径1.13 m×深さ0.13 m　**主軸方位**：N－49°－W　**重複関係**：P.82他ピット３穴を切る。　**出土遺物**：土師器皿Ｒ種小型（1～3）・土師器皿Ｒ種大型（4）　**特記事項**：土師器皿は13世紀中葉までのもの。

P.60（図９）

位置：X－75 016.08～－75 016.56　Y－24 586.67～－24 587.13　**平面形**：不整円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.47 m×短径0.41 m×深さ0.29 m　**主軸方位**：N－46°－W　**重複関係**：P.29を切る。溝状遺構に切られる。　**出土遺物**：図化可能遺物なし

P.66（図９）

位置：X－75 018.10～－75 018.49　Y－24 583.42～（－24 583.92）　**平面形**：楕円形　**断面形**：浅鉢形　**規模**：長径（0.44 m）×短径0.38 m×深さ0.29 m　**主軸方位**：N－43°－W　**重複関係**：土９に切られる。

出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（2）　**特記事項**：土師器皿は13世紀前葉までのもの。

P.106（図９）

位置：X－75 016.43～－75 017.83　Y－24 554.15～－24 554.65　**平面形**：不整形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.38 m×短径0.33 m×深さ（0.15 m）　**主軸方位**：N－35°－W　**重複関係**：土11に切られる。　**出土遺物**：図化可能遺物なし

１面遺構群ピット出土遺物（図10・11）

出土遺物：（P.4）常滑片口鉢Ｉ類（5）・（P.5）常滑甕（6）・（P.14）土師器皿Ｒ種小型（7）・白色系土師器皿Ｒ種大型（8）・常滑片口鉢Ⅱ類（9）・（P.15）白磁皿（10）・須恵器蓋か（11）・（P.20）土師器皿Ｒ種小型（12）・渥美甕（13）・（P.21）土師器皿Ｒ種小型（14）・（P.27）丸瓦（15）・（P.35）土師器皿Ｔ種大型（16）・（P.37）土師器皿Ｔ種大型（17）・（P.38）土師器皿Ｒ種極小型（18）・土師器皿Ｒ種小型（19～20）・土師器皿Ｒ種大型（21）・常滑片口鉢Ｉ類（22）・瀬戸入子（23）・（P.39）土師器皿Ｒ種小型（24・25）・渥美甕（26）・丸瓦（27）・（P.51）土師器皿Ｒ種小型（28）・（P.52）土師器皿Ｒ種小型（29）・同安窯系青磁碗（30）・軽石（31）・（P.56）土師器皿Ｒ種小型（32・33）・（P.57）土師器皿Ｔ種小型（34）・土師器皿Ｔ種大型（35・36）・白色系土師器皿Ｔ種小型（37）・（P.63）土師器皿Ｒ種小型（38・39）・（P.77）土師器皿Ｒ種小型（40）・常滑甕（41）・（P.80）白色系土師器皿Ｔ種小型（42）・（P.85）土師器皿Ｔ種大型（43）・（P.86）常滑甕（44・45）・（P.89）土師器皿Ｔ種小型（46）・（P.97）渥美・湖西片口鉢（47）・常滑甕（48）・（P.98）土師器皿Ｒ種小型

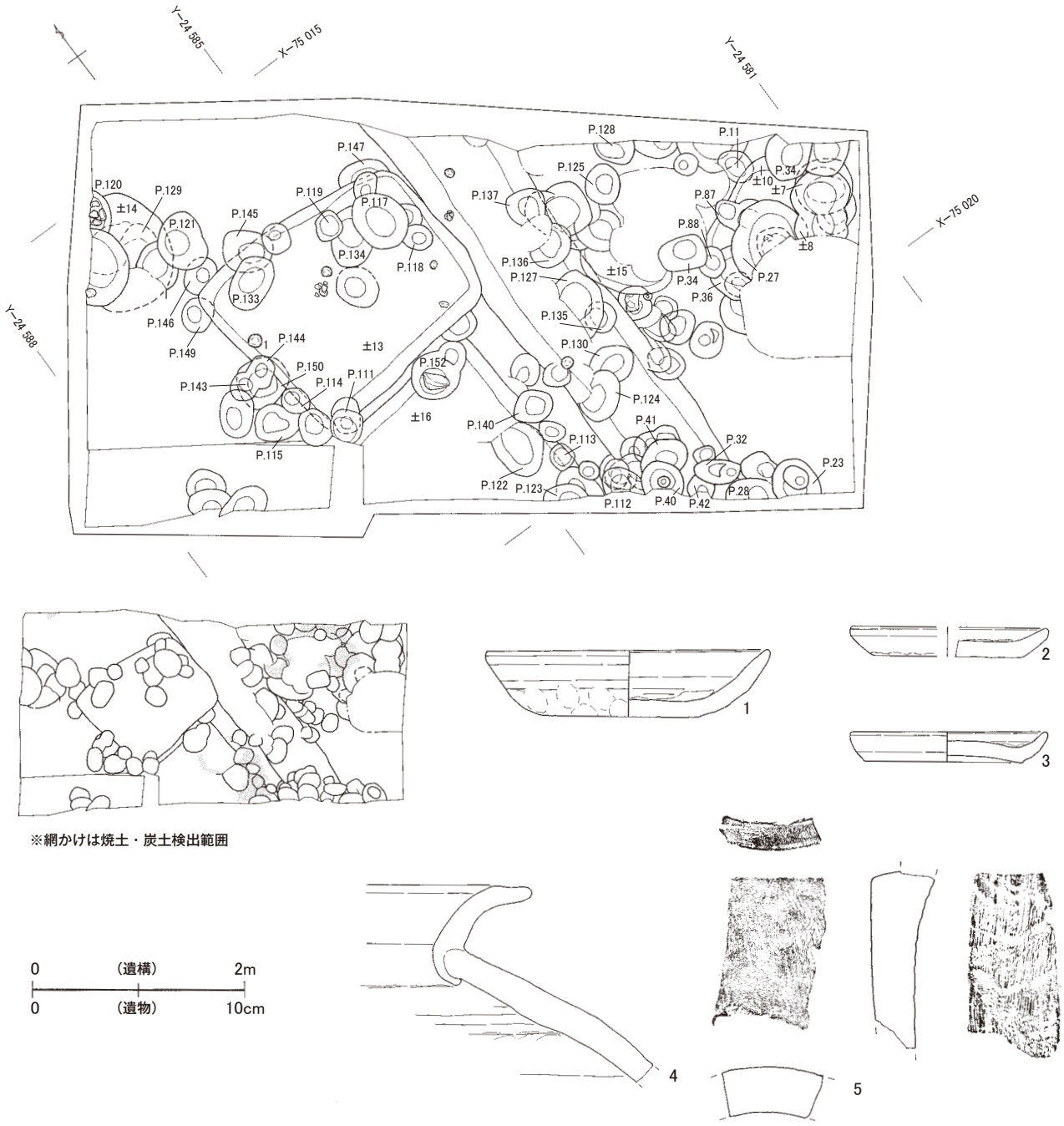


図12　２面遺構群全図、同出土遺物

(49)・土師器皿Ｒ種大型 (50)・常滑片口鉢Ｉ類 (51)・(P.99) 土師器皿Ｔ種小型 (52)・常滑片口鉢Ｉ類 (53)・常滑甕 (54)・(P.100) 土製円盤 (55)・(P.104) 土師器皿Ｔ種大型 (56)・(P.108) 土師器皿Ｔ種小型 (57)　**特記事項：** 5 の常滑は中野編年 5 型式から6a型式。 7 の土師器皿は13世紀後葉以降、 9 の常滑は中野編年6b ～ 7 型式。11は須恵器であるが蓋か坏か判断しきれなかった。また生焼けであるため須恵器ではない可能性もある。12の土師器皿は13世紀中葉～後半。14の土師器皿は13世紀中葉～後半。15の丸瓦は永福寺Ｉ期。16・17の土師器皿は13世紀前葉までのもの。19 ～ 21の土師器皿は13世紀後葉以降。22の常滑は中野編年 5 ～ 6a型式。24･25の土師器皿は13世紀中葉まで､27の丸瓦は永福寺Ｉ期。28の土師器皿は13世紀中葉までのもの。29の土師器皿は13世紀中葉まで、30の青磁碗は大宰府分類では12世紀後半～ 13世紀前葉のもの。32･33の土師器皿は13世紀前葉～中葉のもの。34 ～ 36の土師器

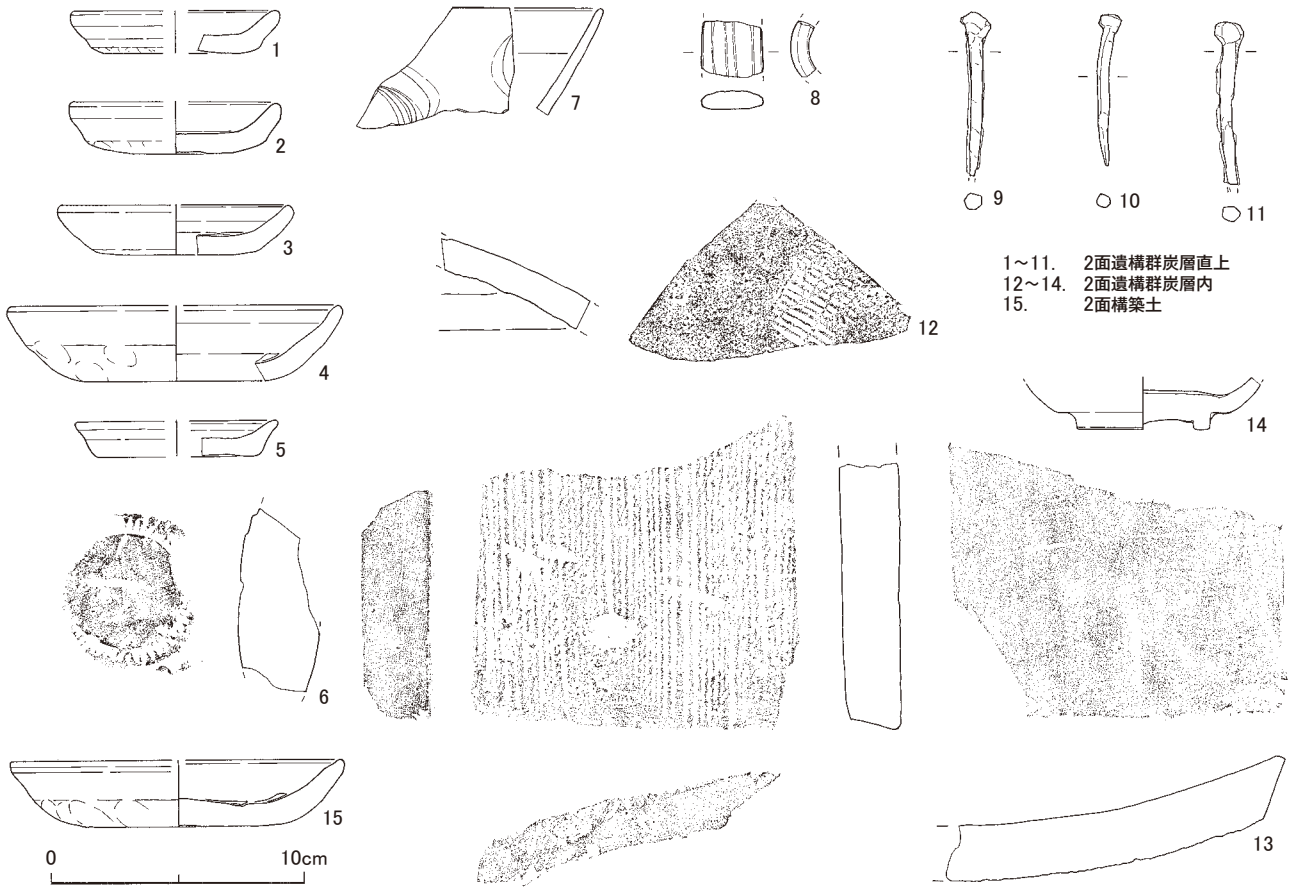


図13　２面遺構群炭層直上・炭層内・構築土出土遺物

皿は13世紀前葉から中葉のもの。38・39の土師器皿は13世紀中葉。40の土師器皿は13世紀前葉まで、41の常滑は中野編年５型式。43の土師器皿は13世紀前葉までのもの。44の常滑甕は５型式。48の常滑甕は中野編年6a ～ 6b型式。49･50の土師器皿は13世紀中頃～後半、51の常滑は５～ 6a型式。52の土師器皿は前葉～中葉、53の常滑は中野編年５～ 6a型式のもの。56の土師器皿は13世紀前葉のもの。57の土師器皿は13世紀中葉まで。

２．２面遺構群

面の概要（図12）

検出高：11.25 m～ 11.33 m　**面構成土**：暗褐色弱粘質土・大型泥岩版築・大型泥岩層　**検出遺構**：溝１条・土坑７基・ピット90穴　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種大型（1）・土師器皿Ｔ種小型（2）・土師器皿Ｒ種小型（3）・渥美甕（4）・丸瓦（5）　**特記事項**：土師器皿は13世紀前葉まで、渥美甕は安井編年2bか。

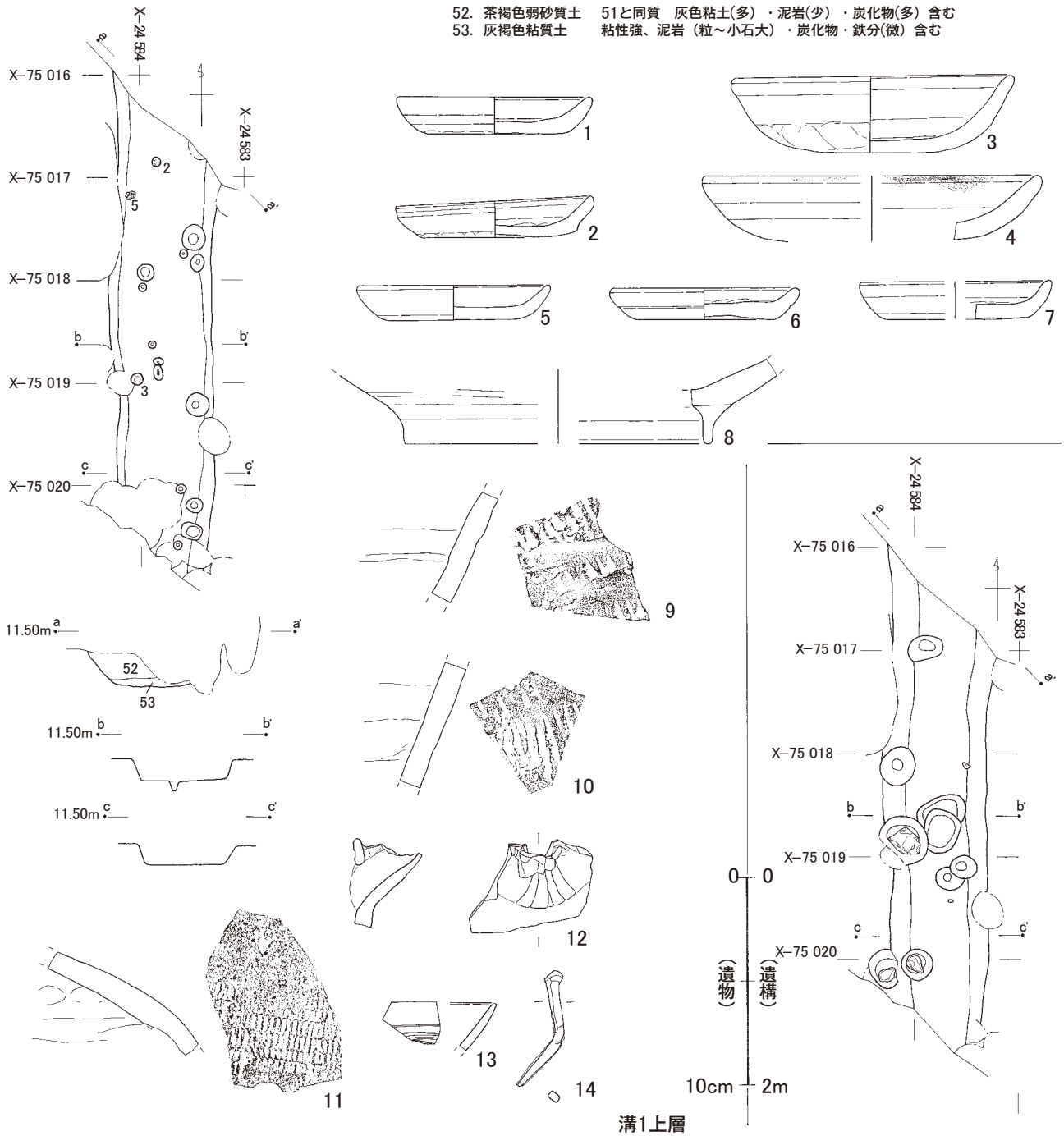
２面遺構群炭層直上（図13）

出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（1～3）・土師器皿Ｔ種大型（4）・土師器皿Ｒ種小型（5）・軒丸瓦（6）・竜泉窯青磁Ｉ類碗（7）・白磁把手（8）・鉄釘（9～11）　**特記事項**：６の軒丸瓦は永福寺Ｉ期。土師器皿は13世紀前半のもの。

２面遺構群炭層内（図13）

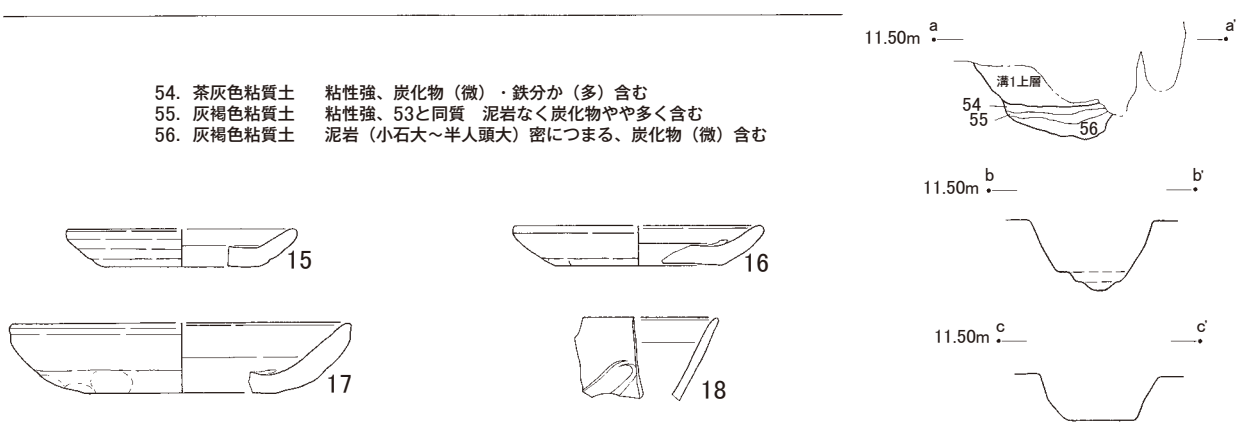
出土遺物：常滑甕（12）・平瓦（13）・竜泉窯青磁Ｉ類碗（14）　**特記事項**：13の平瓦は永福寺Ｉ期。

52. 茶褐色弱砂質土　51と同質　灰色粘土(多)・泥岩(少)・炭化物(多)含む
53. 灰褐色粘質土　粘性強、泥岩（粒～小石大）・炭化物・鉄分(微)含む



溝1上層

54. 茶灰色粘質土　粘性強、炭化物（微）・鉄分か（多）含む
55. 灰褐色粘質土　粘性強、53と同質　泥岩なく炭化物やや多く含む
56. 灰褐色粘質土　泥岩（小石大～半人頭大）密につまる、炭化物（微）含む



溝1下層

図14　溝１上層・下層、同出土遺物

２面遺構群構築土（図13）

出土遺物：土師器皿Ｔ種大型（15）　**特記事項**：土師器皿は13世紀前半のもの。

溝１上層（図14）

位置：X（－75 015.95 ～－75 020.83）　Y（－24 583.27 ～－24 584.31）　**断面形**：逆台形　**規模**：最大幅0.97 m×長さ（5.04 m）×深さ0.37 m　**主軸方位**：N-0°-W　**重複関係**：ピット１穴を切る、土坑15・P.28・P.32・P.40・P.41・P.42・P.112・P.124・P.127・P.130・P.135・P.136・P.137他ピット11穴に切られる。

出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（1・2）・土師器皿Ｔ種大型（3・4）・土師器皿Ｒ種小型（5 ～ 7）・常滑片口鉢Ｉ類（8）・渥美甕（9・10）・常滑甕（11）・瀬戸柄付片口（12）・竜泉窯青磁Ｉ類碗（13）・鉄釘（14）

特記事項：土師器皿は13世紀前半のもの。８の常滑鉢は中野編年５～ 6a型式。12の瀬戸は藤澤編年中期様式。

溝１下層（図14）

位置：X(－75 015.95 ～－75 020.83)　Y(－24 583.27 ～－24 584.31)　**断面形**：逆台形　**規模**：最大幅0.97 m×長さ（5.04 m）×深さ0.63 m　**主軸方位**：N-0°-E　**重複関係**：溝１上層と同様　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（15・16）・土師器皿Ｔ種大型（17）・竜泉窯青磁Ｉ類碗（18）　**特記事項**：土師器皿は13世紀前葉のもの。

土坑７（図15）

位置：X－75 019.87 ～（－75 020.36）　Y－24 580.88 ～－24 581.45　**平面形**：不整円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.58 m×短径（0.43 m）×深さ0.28 m　**主軸方位**：N-36°-E　**重複関係**：土坑10・P.27他ピット２穴を切る、ピット１穴に切られる

土坑８（図15）

位置：X（－75 020.16 ～－75 020.58）　Y－24 581.06 ～－24 581.58　**平面形**：不整円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.51 m×短径（0.23 m）×深さ0.24 m　**主軸方位**：N-35°-E　**重複関係**：土坑10・P.27他ピット２穴を切る、ピット１穴に切られる

土坑７・８出土遺物（図15）

出土遺物：常滑甕（1）・滑石製石鍋（2）

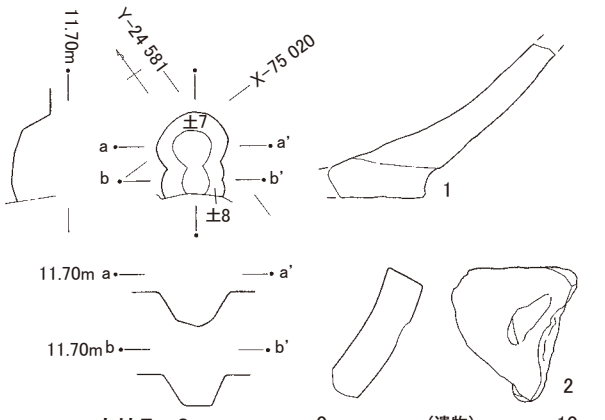
土坑10（図15）

位置：X（－75 018.48 ～－75 020.58）　Y（－24 581.26 ～－25 582.33）　**平面形**：楕円形か　**断面形**：深皿形　**規模**：長径（1.17 m）×短径（0.65 m）×深さ0.30 m　**主軸方位**：N-25°-E　**重複関係**：土坑７・８・P.27・34・36・87・88に切られる。　**出土遺物**：白磁Ⅷ類碗（3）

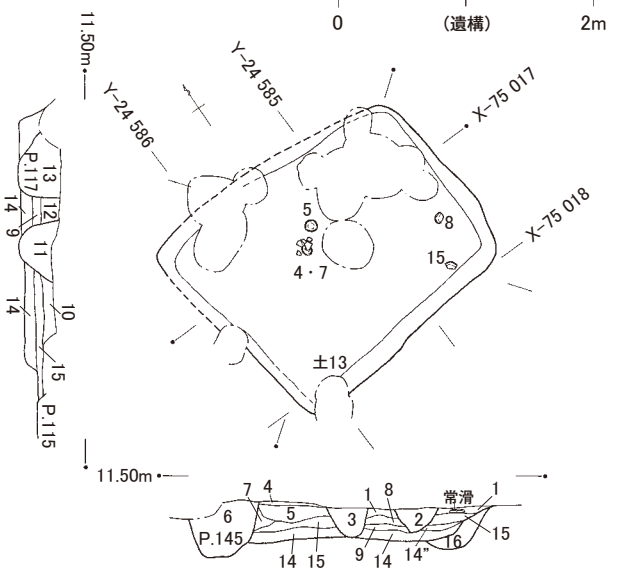
土坑13（図15）

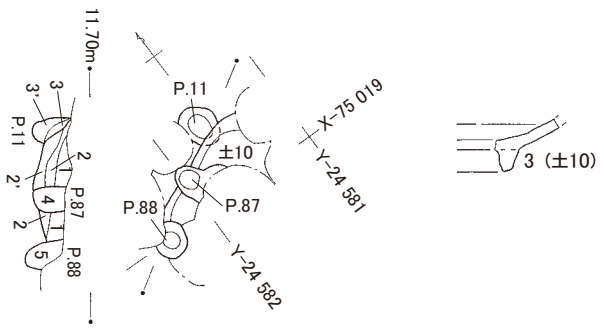
位置：X－75 016.26 ～－75 018.16　Y－24 584.16 ～－24 586.49　**平面形**：隅丸方形　**断面形**：逆台形　**規模**：長軸2.17 m×短軸1.87 m×深さ0.32 m　**主軸方位**：N-87°-E　**重複関係**：P.146・147他ピット１穴を切る。P.111・114・117・118・119・133・134・143・144・145・150に切られる。　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型(4 ～ 12)・土師器皿Ｔ種大型(13 ～ 17)・土師器皿Ｒ種小型(18)・渥美・湖西型山皿(19)・渥美甕（20)・常滑甕（21)・渥美甕（22)・竜泉窯青磁Ｉ類浅形碗（23)・竜泉窯青磁Ｉ類碗（24)・安山岩（25)

特記事項：土師器皿は13世紀前半までのもの。20の渥美甕は安井編年2bか。21の常滑甕は中野編年３型式。



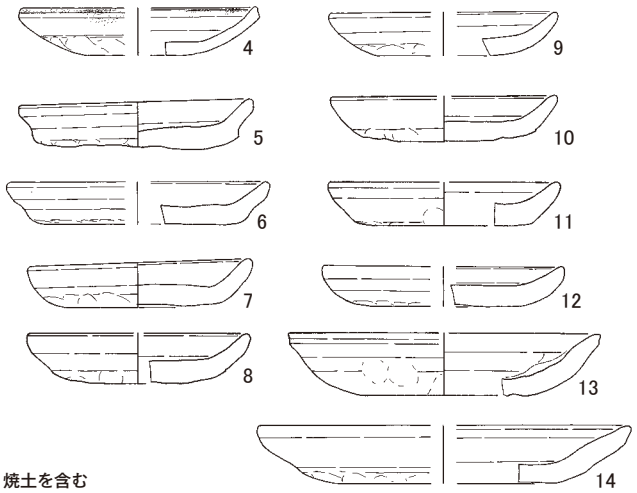
土坑7・8



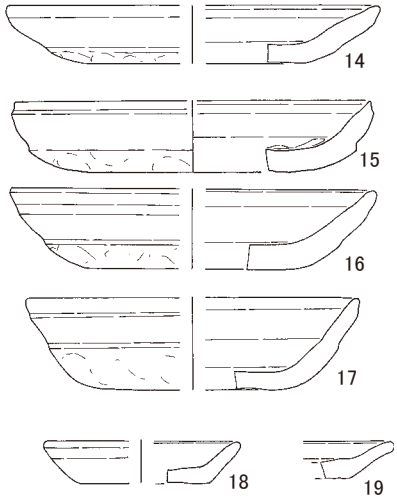


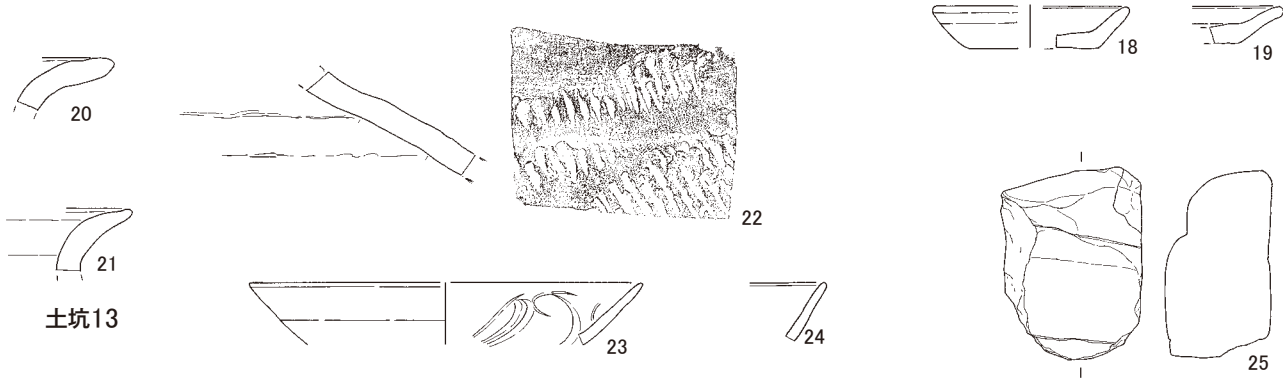
1. 淡黄褐色砂質土　泥岩粒（多）を含む
2. 灰褐色砂質土　1よりも泥岩少ない
2'. 灰褐色砂質土　遺物片・炭化物が2よりも多い
3. 灰褐色砂質土　混入物少ない
3'. 灰褐色砂質土　若干の炭化物含む
4. 灰黄褐色砂質土　泥岩（数cm大・多）を含む
5. 淡黄褐色砂質土　泥岩粒（多）・炭化物（多）を含む

土坑10，P.11・87・88



1. 暗灰色粘質土　炭化物（多）・土器砕片・泥岩（小石大）山砂・焼土を含む
2. 暗灰色粘質土　泥岩(粒～小石大）・炭化物・焼土粒を含む
3. 暗灰色粘質土　泥岩(粒～小石大・多）・炭化物を含む
4. 灰褐色粘質土　泥岩粒・炭化物（微）を含む
5. 灰褐色粘質土　泥岩（粒～小石大・多）・炭化物（多）・焼土・土器砕片（微）を含む
6. 暗灰褐色粘質土　泥岩(粒～小石大）・炭化物・鉄分・土器砕片（少）を含む
7. 破砕泥岩層
8. 灰茶色粘質土　泥岩(粒～小石大）炭化物・鉄分（やや多）を含む、しまりよい
9. 破砕泥岩地行
10. 暗灰褐色粘質土　泥岩（粒～小石大・少）・炭化物を含む
11. 暗灰褐色粘質土　泥岩粒・炭化物を含む、10より少量
12. 灰褐色粘質土　泥岩（粒～小石大・多）・炭化物・山砂（微）を含む
13. 暗灰褐色粘質土　泥岩（粒～小石大・少）・炭化物（やや多）・土器砕片を含む
14. 暗茶灰褐色粘質土　泥岩粒（多）・炭化物（少）・焼土ブロック（少）を含む
15. 炭層
16. 灰茶褐色粘質土　泥岩（1～5cm大・多）・土器砕片・炭化物を含む





土坑13

図15　土坑7・8・10・13・P.11・87・88、同出土遺物

土坑13炭層内出土遺物（図16）

出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（1～3）・土師器皿Ｔ種大型（4～7）・土師器皿Ｒ種小型（8・9）・土師器皿Ｒ種大型（10～12）・須恵器甕（13）　**特記事項**：土師器皿は13世紀前半までのもの。

土坑13炭層下出土遺物（図16）

出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（14～16）・竜泉窯青磁Ｉ類碗（17）　**特記事項**：土師器皿は13世紀前葉までのもの。

土坑14（図16）

位置：X－75 015.06～－75 016.14　Y－24 586.31～（－24 587.25）　**平面形**：円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径1.14 m×短径（0.76 m）×深さ0.36 m　**主軸方位**：N-33°-E　**重複関係**：P.120・121他ピット２穴を切る。P.129に切られる。　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種大型（18）・楠葉型瓦器輪花碗（19）　**特記事項**：土師器皿は13世紀前葉までのもの。

土坑15（図16）

位置：X（－75 018.18）～－75 018.94　Y（－24 582.72）～－24 583.39　**平面形**：楕円形　**断面形**：浅皿形　**規模**：長径0.90 m×短径（0.34 m）×深さ0.09 m　**主軸方位**：N-39°-W　**重複関係**：ピット１穴を切る。P.34・136他ピット２穴に切られる。　**出土遺物**：図化可能遺物なし

土坑16（図16）

位置：X－75 018.19～（－75 020.19）　Y－24 584.54～（－24 586.39）　**平面形**：隅丸方形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長軸（1.97 m）×短軸（1.76 m）×深さ0.20 m　**主軸方位**：N-2°-W　**重複関係**：P.113・122・123・140・152他ピット４穴に切られる。　**炭土直下出土遺物**：土師器皿Ｔ種大型（20・21）・土師器皿Ｒ種小型（22・23）　**最下層出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（24）・土師器皿Ｔ種大型（25）・土師器皿Ｒ種大型（26）・竜泉窯青磁Ｉ類皿（27）　**特記事項**：土師器皿は13世紀前半までのもの。

P.11（図15）

位置：X－75 018.24～－75 018.60　Y－24 581.40～（－24 581.76）　**平面形**：楕円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.37 m×短径0.27 m×深さ0.31 m　**主軸方位**：N-8°-W　**重複関係**：ピット１穴を切る。土坑10に切られる。　**出土遺物**：図化可能遺物なし

P.87（図15）

位置：X－75 018.60～－75 018.90　Y（－24 581.67）～－24 582.07　**平面形**：不整形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径（0.31 m）×短径0.38 m×深さ0.25 m　**主軸方位**：N-24°-W　**重複関係**：土坑10を切る。P.27に切られる。　**出土遺物**：図化可能遺物なし

P.88（図15）

位置：X－75 018.87～－75 019.16　Y－24 582.23～－24 582.50　**平面形**：楕円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.31 m×短径0.26 m×深さ0.31 m　**主軸方位**：N-20°-E　**重複関係**：土坑10・P.36を切る。P.34に切られる。　**出土遺物**：図化可能遺物なし

P.40（図17）

位置：X－75 020.20～（－75 020.62）　Y－24 583.80～（－24 584.18）　**平面形**：円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.40 m×短径0.32 m×深さ0.37 m　主軸方位：N-71°-E　**重複関係**：P.41・112他ピット１穴を切る。　**出土遺物**：図化可能遺物なし

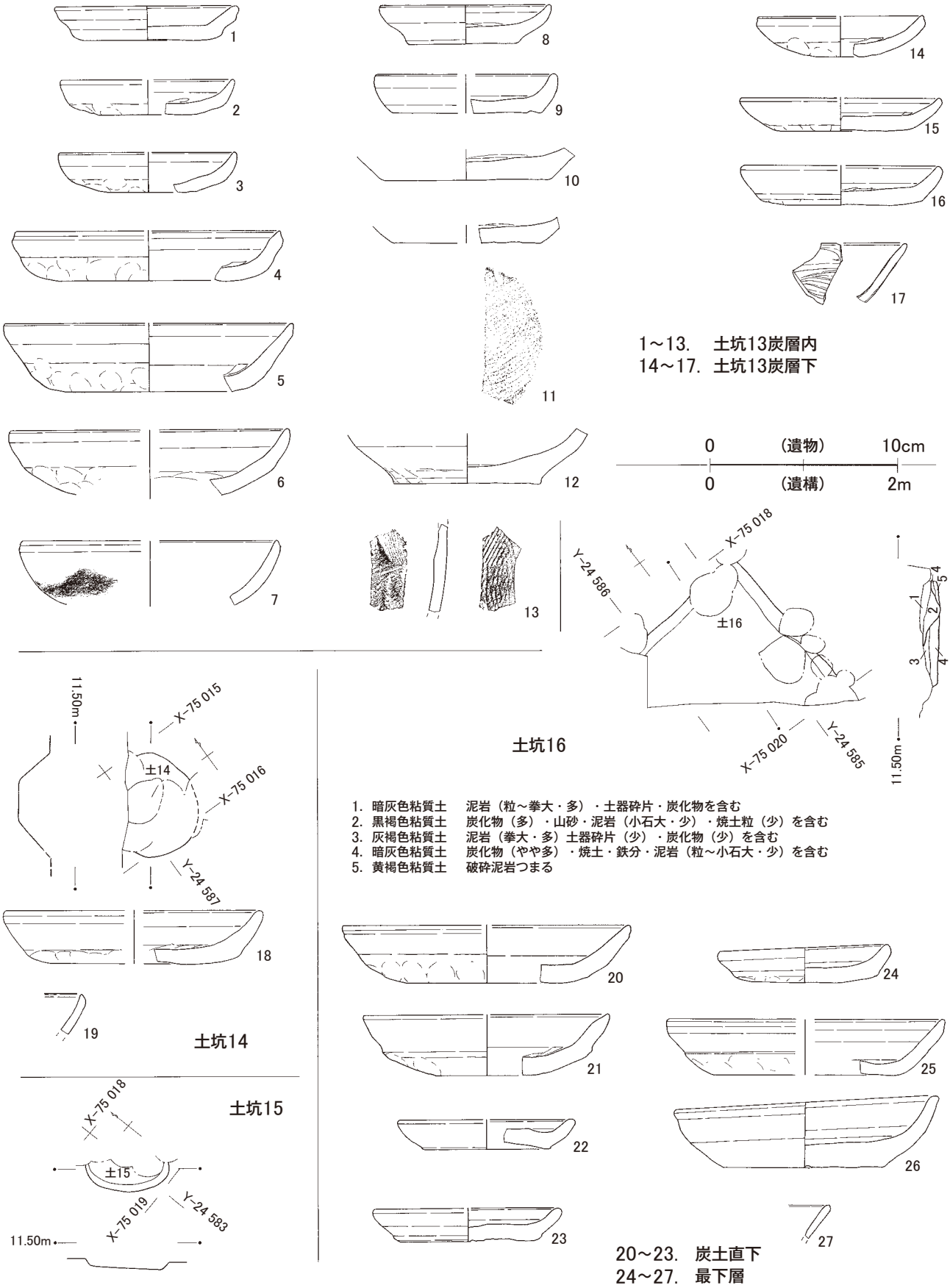


図16　土坑13炭層内・炭層下出土遺物、土坑14・15・16、同出土遺物

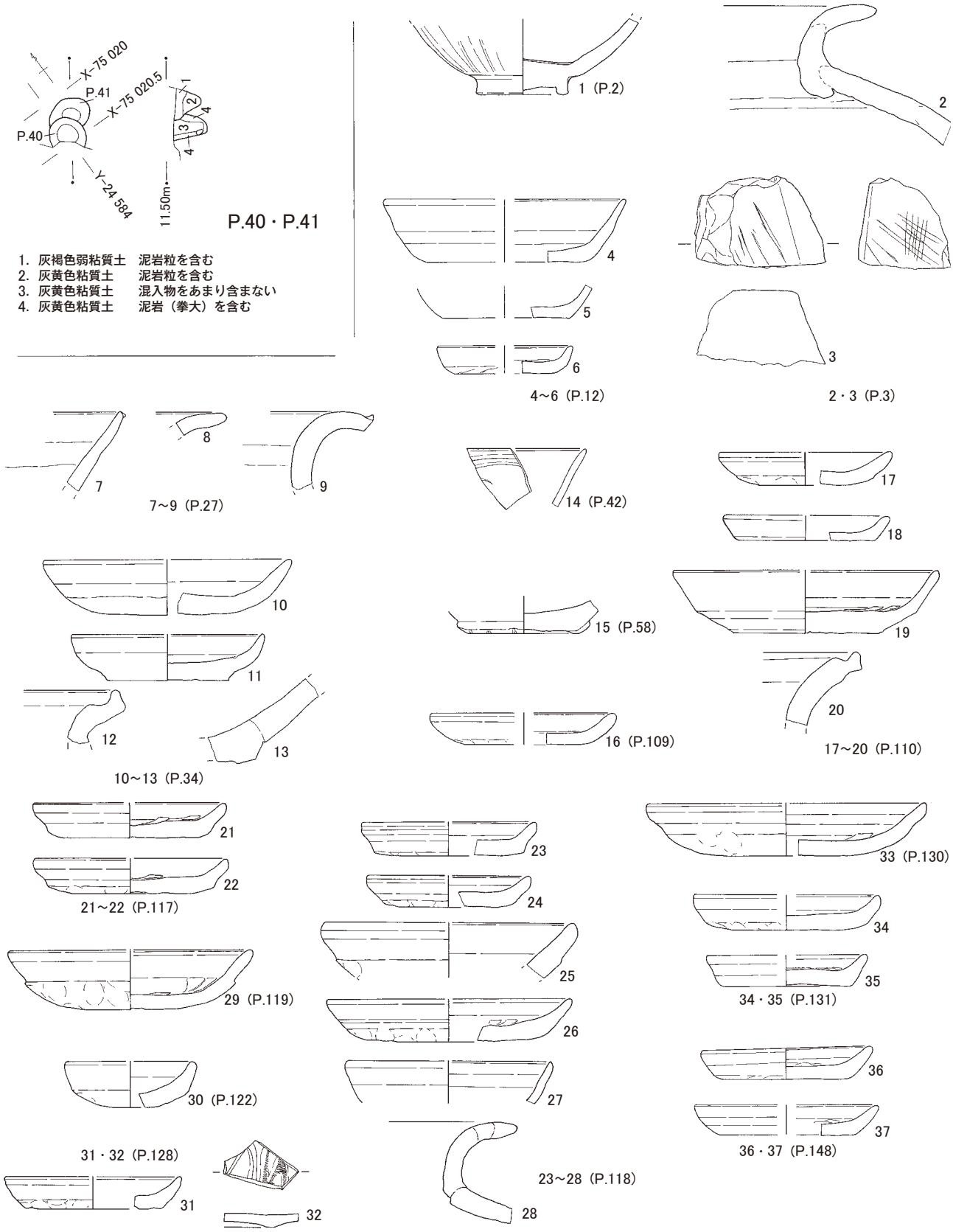


図17　P.40・41・２面遺構群ピット出土遺物

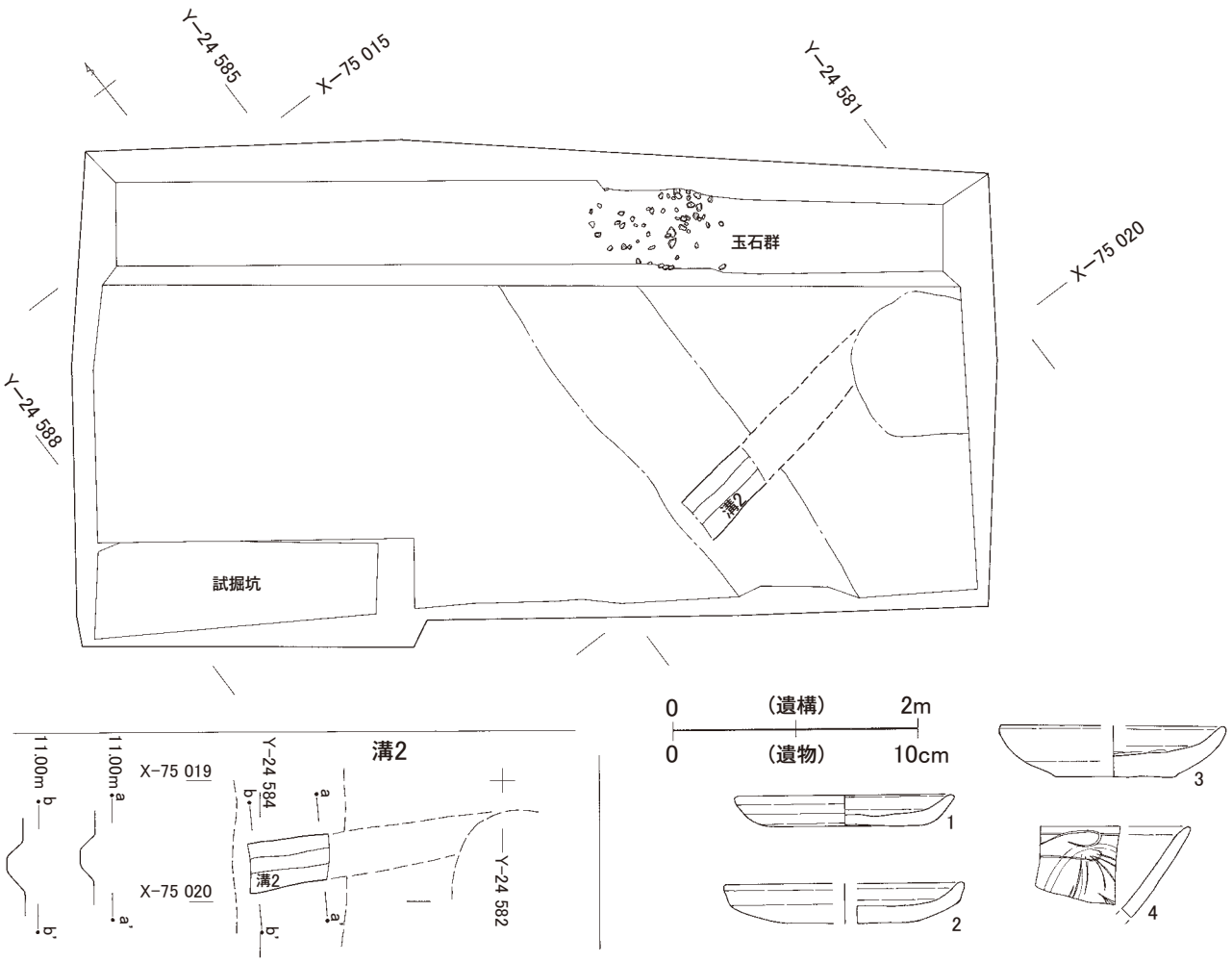


図18　３面遺構全図・溝２、同出土遺物

P.41（図17）

位置：X − 75 020.06 ～ − 75 020.43　Y − 24 583.38 ～（− 24 584.09）　**平面形**：楕円形　**断面形**：深鉢形　**規模**：長径0.45 m ×短径0.35 m ×深さ 0.27 m　**主軸方位**：N-83°-W　**重複関係**：ピット 4 穴を切る。P.40に切られる。　**出土遺物**：図化可能遺物なし

２面遺構群ピット出土遺物（図17）

出土遺物：(P.2) 竜泉窯青磁Ⅱ類碗 (1)・(P.3) 渥美甕 (2)・安山岩 (3)・(P.12) 土師器皿Ｒ種大型 (4・5)・土師器皿Ｒ種小型 (6)・(P.27) 常滑片口鉢Ⅱ類 (7)・渥美甕 (8)・常滑甕 (9)・(P.34) 土師器皿Ｔ種大型 (10)・土師器皿Ｒ種小型 (11)・常滑甕 (12・13)・(P.42) 竜泉窯青磁Ⅰ類碗 (14)・(P.58) 渥美・湖西型山茶碗 (15)・(P.109) 土師器皿Ｔ種小型 (16)・(P.110) 土師器皿Ｔ種小型 (17)・土師器皿Ｒ種小型 (18)・土師器皿Ｒ種大型 (19)・常滑甕 (20)・(P.117) 土師器皿Ｔ種小型 (21・22)・(P.118) 土師器皿Ｔ種小型 (23・24)・土師器皿Ｔ種大型 (25・26)・白色系土師器皿Ｔ種大型 (27)・渥美甕 (28)・(P.119) 土師器皿Ｔ種大型 (29)・(P.122) 土師器皿Ｔ種小型 (30)・(P.128) 土師器皿Ｔ種小型 (31)・同安窯系青磁皿 (32)・(P.130) 土師器皿Ｔ種大型 (33)・(P.131) 土師器皿Ｔ種小型 (34)・土師器皿Ｒ種小型 (35)・(P.148) 土師器皿Ｒ種小型 (36・37)　**特記事項**：土師器皿は13世紀前半までのもの。７の常滑鉢は中野編年6a ～ 7 型式のもの。９・12・20の常滑甕は中野編年５型式か。15の渥美・湖西型山茶碗は安井編年3aか。28の渥美甕は安井編年2b。

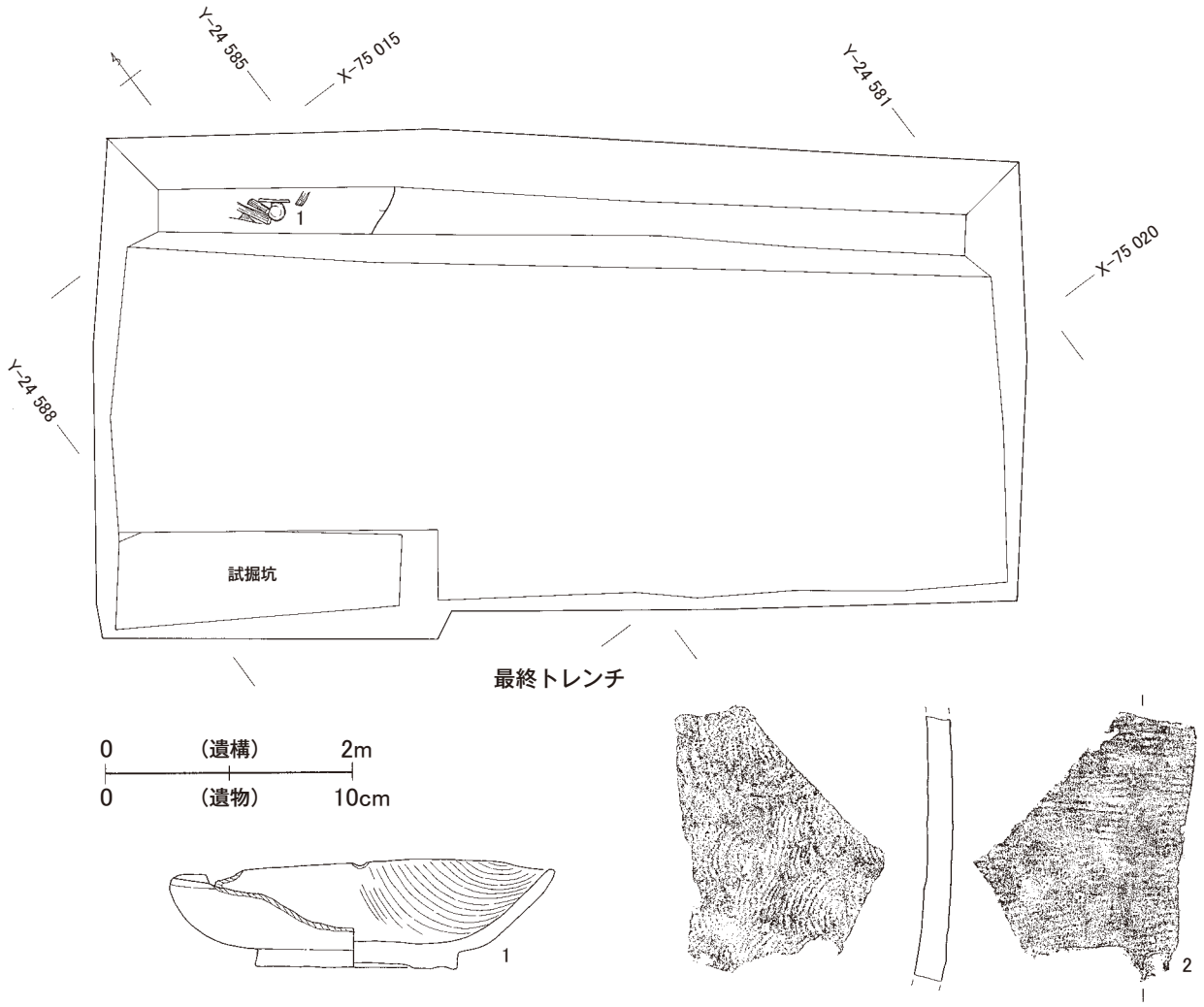


図19　最終トレンチ、同出土遺物

3．3面

面の概要（図18）

検出高：10.86 m～10.89 m　**面構成土**：茶灰色弱砂質土・茶灰色粘質土　**検出遺構**：溝１条・玉石群　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（1・2）・土師器皿Ｒ種小型（3）・竜泉窯青磁Ｉ類碗（4）　**特記事項**：深度規制のためトレンチ内での検出のみ。また上層遺構底面と上層遺構壁から溝を１条検出。玉石群は検出レベルからみて、37層内の礫を検出したか。検出範囲内における軸方位は上層の溝１と同様である。土師器皿は13世紀前葉まで、４の青磁は大宰府分類では12世紀後半～13世紀前葉。

4．最終トレンチ

概要（図19）

深度規制のため調査は２面遺構群までとなっており、下層の状況は調査区北壁際のトレンチで把握することとなった。トレンチ最下層において、溝の掘り込みを検出し土層断面でも確認できたが、出土遺物も乏しく、検出範囲も狭小なため詳細は定かではない。

検出高：10.20 m～10.55 m　**検出遺構**：溝１条　**出土遺物**：木器椀（1）・須恵器甕（2）　**特記事項**：１の木器椀は漆が施されていない。

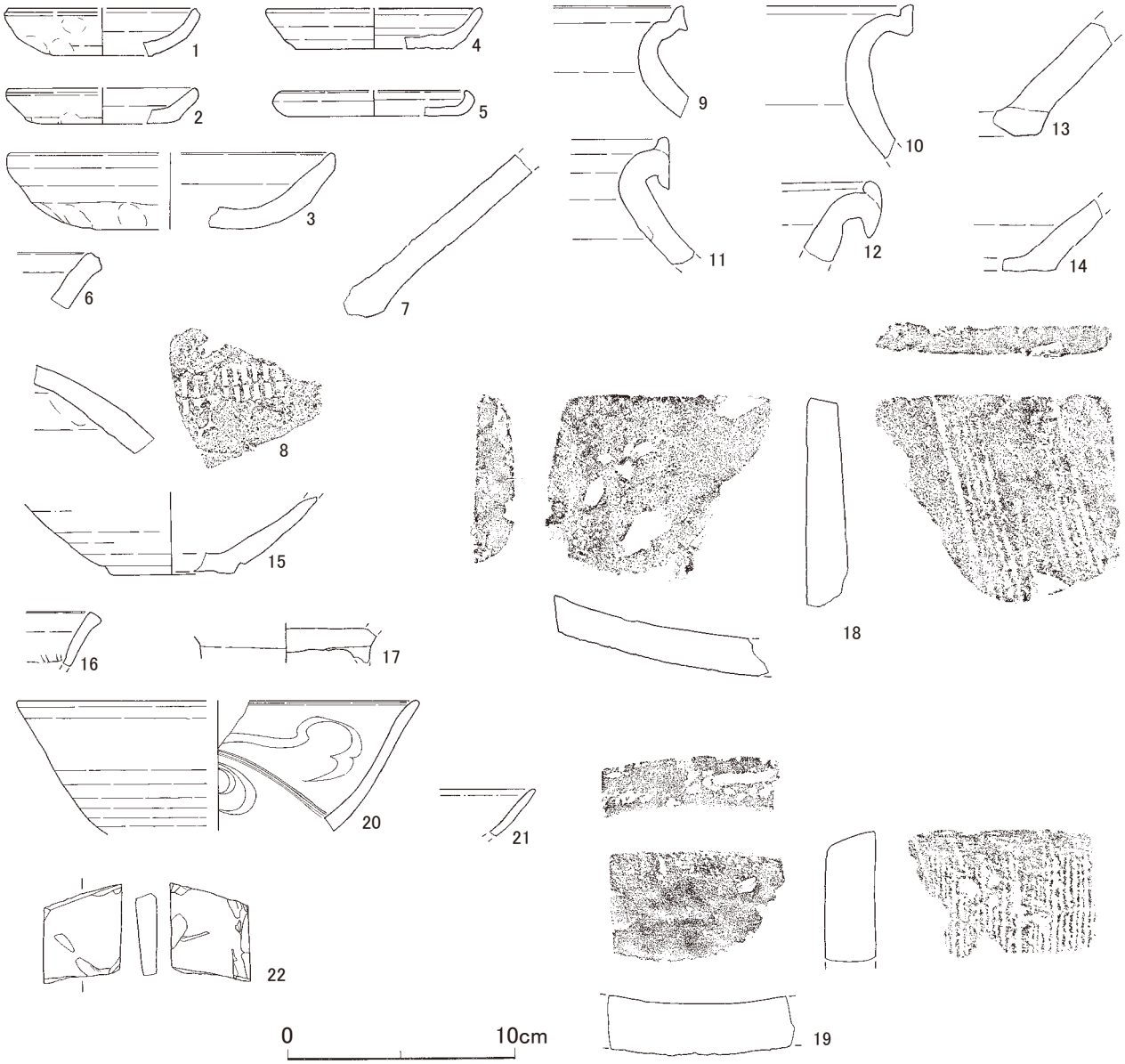


図20　表採・撹乱坑出土遺物

5．表採・撹乱坑出土遺物

(図20)

出土遺物：土師器皿Ｔ種小型（1・2）・土師器皿Ｔ種大型（3）・土師器皿Ｒ種小型（4）・白色系土師器皿Ｔ種小型（5）・常滑片口鉢Ⅱ類（6・7）・常滑甕（8～14）・瀬戸碗（15）・瀬戸卸皿（16）・瀬戸瓶類（17）・平瓦（18・19）・竜泉窯青磁Ⅰ類碗（20）・白磁口はげ皿（21）・砥石仕上げ砥（22）

（沖元）

表１　出土遺物観察表（１）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図5-1	撹乱Ｂ	瓦器質 火鉢脚	胎土は明赤灰色、胎芯は灰白色で黒色光沢粒子（多）・赤色粒子・白色粒子（微）を含む 貼付け部位で剥離
2	撹乱Ｂ	常滑 甕	胴部下位片　輪積み成形　叩き目あり　器表面は暗赤褐色で残存部内面全面にオリーブ灰色の自然釉 胎土は灰色で白色粒子・透明光沢粒子・長石・礫片を含む　器表面に鉄分の吹き出し
3	撹乱Ｂ	青白磁 梅瓶	口縁部片　ロクロ成形 素地は灰白色　釉薬は明青灰色で半透明
4	１面	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.5）cm　器高1.75cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は淡橙色で黒色光沢粒子（少）・黒色粒子（少）・白色粒子（少）・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	１面	土師器皿 Ｔ種小型	口径（11.5）cm　器高1.7cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は淡橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子（少）・赤色粒子（少）・泥岩粒・海綿骨針を含む　全体に焼きムラあり
6	１面	土師器皿 Ｔ種大型	口径（12.6）cm　器高3.1cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
7	１面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.2）cm　底径（6.4）cm　器高2.0cm　回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
8	１面	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.1)cm　底径(6.3)cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
図6-1	１面 遺構群上層	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.2)cm　器高1.6cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・透明光沢粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
2	１面 遺構群上層	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.9）cm　器高1.75cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
3	１面 遺構群上層	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.4）cm　器高2.5cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	１面 遺構群上層	土師器皿 Ｒ種大型	口径（13.6）cm　底径（8.8）cm　器高3.0cm　回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は淡橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　内底部煤ける
5	１面 遺構群上層	渥美 甕	胴部片　輪積み成形　叩き目あり 器表面は灰黄褐色　胎土は褐灰色で白色粒子（少）を含む
6	１面 遺構群上層	白磁 Ⅷ類碗	底部片　ロクロ成形　削り出し高台 素地は淡黄色で黒色粒子を含む　釉薬は灰白色で透明　高台露胎
7	１面 遺構群直上	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.0）cm　器高2.7cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・透明光沢粒子を含む　焼成良好
8	１面 遺構群直上	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.6)cm　底径(5.9)cm　器高1.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
9	１面 遺構群直上	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.8)cm　底径(6.0)cm　器高1.3cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
10	１面 遺構群直上	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む
11	１面 遺構群直上	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 器表面は暗灰色　胎土は灰色で白色粒子を含む　内面に降灰あり
12	１面 遺構群直上	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 器表面は暗灰色　胎土は灰色で白色粒子を含む　内面に降灰あり
13	１面 遺構群直上	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 器表面は灰褐色　胎土は暗灰色で白色粒子を含む
14	１面 遺構群直上	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬は緑灰色で透明 内面に片切り彫りと串状工具による界線
15	１面 遺構群直上	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　胎土は灰色　釉薬は緑灰色で透明　内面に片切り彫りで施文
16	１面 遺構群直上	青白磁 碗	残存長2.5cm　残存幅3.7cm　内面型押し後、外面回転ヘラ削り 素地は灰白色　釉薬は明青灰色透明　内面の雷文は凸文
17	１面 構築土	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.0）cm　器高1.8cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・海綿骨針を含む　焼成良好
18	１面 構築土	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.4）cm　器高2.5cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・海綿骨針を含む　焼成良好
19	１面 構築土	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.0）cm　器高3.1cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・白色粒子・赤色粒子（微）・海綿骨針を含む　焼成良好
20	１面 構築土	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.2）cm　器高2.6cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子（多）・白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
21	１面 構築土	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.7）cm　器高3.0cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
22	１面 構築土	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.6）cm　器高3.0cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子（微）・海綿骨針を含む　焼成良好
23	１面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.7）cm　底径（5.5）cm　器高1.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・白色粒子（少）・海綿骨針を含む
24	１面 構築土	土師器皿 Ｒ種小型	口径8.8cm　底径6.8cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
25	１面 構築土	白色系土師器皿 Ｔ種小型	口径（7.6）cm　器高1.3cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰白色で礫片（微）を含む　粉質土

表２　出土遺物観察表（２）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
26	１面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片　輪積み成形後、ロクロ整形　外面下位回転ヘラ削り　付高台 胎土は灰色で白色粒子（多）・長石・礫片を含む　内面剥離するほど摩耗
27	１面 構築土	渥美 甕	口縁部片　輪積み成形　灰オリーブ色の灰釉ハケ塗り 器表面は灰色　胎土は灰色で白色粒子を含む　器表面に鉄分の吹き出し
28	１面 構築土	渥美 甕	口縁部片　輪積み成形　灰オリーブ色の灰釉ハケ塗り 器表面は暗灰色　胎土は灰色
29	１面 構築土	渥美 甕	胴部片　輪積み成形　内面に灰オリーブ色の自然釉 器表面は灰色　胎土は灰色で白色粒子を含む　器表面に鉄分の吹き出し
30	１面 構築土	同安窯系青磁 Ⅰ類碗	胴部片　ロクロ成形　外面回転ヘラ削り　胎土は灰色　釉薬は灰オリーブ色で透明 外面は櫛歯状工具の掻き揚げにより施文　内面は櫛歯状工具と片切り彫により施文
31	１面 構築土	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　胎土は灰色　釉薬はオリーブ灰色で透明　内面に片切り彫りで施文
32	１面 構築土	黒曜石 火打石	最大長3.0㎝　最大幅2.4㎝　最大厚2.1㎝　深い索痕が多く見られ後世ついた痕跡か
図7-1	土坑１	土師器皿 Ｔ種小型	口径（10.9）㎝　器高2.1㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
2	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.3）㎝　底径（6.4）㎝　器高1.1㎝　回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
3	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.9）㎝　底径（6.1）㎝　器高1.4㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.8）㎝　底径（5.7）㎝　器高1.4㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
5	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.8）㎝　底径（6.0）㎝　器高1.6㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
6	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.9㎝　底径5.9㎝　器高1.5㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
7	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.8）㎝　底径（5.9）㎝　器高1.4㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
8	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.6）㎝　底径（5.9）㎝　器高1.5㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
9	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.6）㎝　底径（7.1）㎝　器高1.9㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
10	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.8）㎝　底径（6.7）㎝　器高2.1㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
11	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径(11.8)cm　底径(8.8)cm　器高2.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、枝状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
12	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径(13.1)cm　底径(9.2)cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、枝状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
13	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.2）㎝　底径（8.5）㎝　器高3.2㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
14	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径（10.9）㎝　底径（5.2）㎝　器高2.9㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
15	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.9）㎝　底径（6.4）㎝　器高2.8㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
16	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.5）㎝　底径（8.0）㎝　器高2.9㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
17	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.1㎝　底径7.9㎝　器高3.3㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
18	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径（13.0）㎝　底径（7.9）㎝　器高3.3㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・海綿骨針を含む
19	土坑１	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
20	土坑１	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・長石・礫片を含む　内面に降灰あり
21	土坑１	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　内面上部に降灰あり 器表面は黒褐色　胎土は黄橙色で白色粒子・礫片を含む　器表面に鉄分の吹き出し
22	土坑１	平瓦	残存長11.0cm　残存幅10.1cm　残存厚2.3cm 凹面に布目痕、凹面端部にナデ　凸面糸切痕の上に離れ砂　側面削り 表面は灰色　胎土は灰白色で混入物少ない　粉質均質土　永福寺Ⅰ期
23	土坑３	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.6）㎝　器高1.8㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子（微）・海綿骨針を含む　焼成非常に良好
24	土坑３	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.9）㎝　器高1.9㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子（微）を含む　焼成良好
25	土坑３	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.2）㎝　底径7.2㎝　器高1.5㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
26	土坑３	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.9）㎝　底径（7.4）㎝　器高1.8㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好

表３　出土遺物観察表（３）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
27	土坑３	土師器皿 R種小型	口径（9.3）㎝　底径（6.0）㎝　器高1.7㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は赤褐色で黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成温度が高いため少し歪む
28	土坑３	土師器皿 R種小型	口径（7.9）㎝　底径（5.7）㎝　器高2.1㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は赤褐色で黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成温度が高いため少し歪む
図8-1	撹乱A	土師器皿 R種小型	口径(7.2)cm　底径(4.5)cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子（微）を含む　二次被焼のため黒ずんでいる
2	撹乱A	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm　底径(6.8)cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で白色粒子を含む　二次被焼のため黒ずんでいる
3	撹乱A	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm　底径(4.8)cm　器高2.3cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（少）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	撹乱A	土師器皿 R種大型	口径（11.0）cm　底径（6.6）cm　器高3.1cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子（多）・泥岩粒・海綿骨針を含む　焼成良好
5	撹乱A	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm　底径7.3cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・赤色粒子（多）・泥岩粒・海綿骨針を含む　焼成良好
6	撹乱A	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　内面上部に降灰あり 器表面は黒褐色　胎土は暗灰色で白色粒子を含む
7	土坑２	土師器 甕	胴部片　外面は縦位のハケ目　内面は横位のハケ目 胎土は明赤褐色で黒色光沢粒子（多）を含む
8	土坑２	土師器皿 T種大型	口径（14.0）㎝　器高3.0㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子を含む
9	土坑２	土師器皿 R種小型	口径（7.8）㎝　底径（4.0）㎝　器高2.1㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
10	土坑２	土師器皿 R種小型	口径7.0㎝　底径4.4㎝　器高2.2㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子（少）・白色粒子（少）・海綿骨針を含む　焼成良好
11	土坑２	土師器皿 R種小型	口径7.3㎝　底径4.6㎝　器高2.3㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　口縁部に油煤付着
12	土坑２	土師器皿 R種小型	口径7.4㎝　底径4.1㎝　器高2.2㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子（少）・白色粒子（少）・海綿骨針を含む　焼成良好
13	土坑２	土師器皿 R種小型	口径（6.8）㎝　底径（4.4）㎝　器高2.0㎝　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子（少）・海綿骨針を含む
14	土坑２	土師器皿 R種大型	口径（12.1）cm　底径6.7cm　器高3.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子（微）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
15	土坑２	土師器皿 R種大型	口径（11.8）cm　底径（7.5）cm　器高3.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子（微）・泥岩粒・海綿骨針を含む
16	土坑２	土師器皿 R種大型	口径11.6cm　底径7.0cm　器高3.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子（微）・泥岩粒・海綿骨針を含む　焼成良好
17	土坑２	土師器皿 R種大型	口径（14.8）cm　底径（9.0）cm　器高3.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子（微）・泥岩粒・海綿骨針を含む
18	土坑２	土師器皿 R種大型	口径13.7cm　底径9.1cm　器高3.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子（微）・泥岩粒・海綿骨針を含む
19	土坑２	土師器皿 R種大型打ち欠き	底径7.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で赤色粒子（微）・泥岩粒・海綿骨針を含む
20	土坑２	伊勢系 鍔鍋	口縁部片　外面に櫛歯状工具による横位ナデ　鍔貼付け 胎土は灰白色で長石を含む　胎芯部は灰色
21	土坑２	伊勢系 鍔鍋	口縁部片　外面に櫛歯状工具による横位ナデ　鍔貼付け 胎土は灰黄色で白色粒子を含む　胎芯部は灰色
22	土坑２	常滑 甕	底部片　輪積み成形　底部脇に板状工具による掻き上げ 器表面は明赤褐色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む　器表面に鉄分の吹き出し
23	土坑２	常滑　甕 転用摩耗陶片	胴部片を転用　輪積み成形　内面に降灰 器表面は明赤褐色　胎土は灰色で白色粒子を含む　破断面１面を使用
24	土坑２	瀬戸 平碗か	口縁部片　胎土は淡黄色で混入物なし　粉質均質土　浅黄色の灰釉漬け掛け
25	土坑２	青白磁 蓋	ロクロ成形後、型押しにより施文　胎土は灰白色　釉薬は明青灰色で半透明
26	土坑２	青白磁 梅瓶	ロクロ成形後、型押しにより施文　胎土は灰白色　釉薬は明青灰色で半透明
27	土坑２	砥石 中砥	残存長5.1㎝　残存最大幅1.9㎝　残存最大厚1.6㎝　オリーブ黄色　４面使用　上野砥
28	土坑２	玄武岩質 凝灰岩	残存長9.6cm　残存最大幅7.1cm　残存最大厚6.7cm　灰色 残存面は摩耗しており礎石の一部の可能性も
図9-1	土坑９	渥美・湖西型 山茶碗	底径（6.0）cm　輪積み成形後、ロクロ整形　付高台　高台端部籾殻痕　内底部渦状ナデか 胎土は灰色で白色粒子を含む　均質土
2	P.66	土師器皿 T種小型	口径（10.2）㎝　器高1.55㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成非常に良好
3	土坑11	土師器皿 T種小型	口径（8.8）㎝　器高1.8㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む

表４　出土遺物観察表（４）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
4	土坑11	土師器皿 Ｔ種大型	口径（15.2）cm　器高3.25cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・海綿骨針を含む
5	土坑11	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.4）cm　底径（6.7）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子（少）・海綿骨針を含む　焼成良好
6	土坑11	土師器皿 Ｒ種大型	口径（14.0）cm　底径（8.6）cm　器高2.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子（少）・海綿骨針を含む　焼成良好
7	土坑11	渥美 甕	肩部片　輪積み成形　灰釉ハケ塗りか 器表面は暗灰色　胎土は灰色で白色粒子（少）・礫片（微）を含む
8	土坑11	竜泉窯青磁 Ⅱ類碗	口縁部片　ロクロ成形　胎土は灰色　釉薬はオリーブ灰色で透明　外面に片切り彫りによる蓮弁文
9	土坑11	青白磁 水注把手	残存長3.1cm　残存幅1.3cm　残存厚0.6cm　胎土は灰白色　釉薬は明青灰色で透明
10	土坑11	白磁 皿	底部片　ロクロ成形後回転ヘラ削りか　外底部回転ヘラ削り　内面型押しにより施文 胎土は灰白色　釉薬は透明
11	P.30	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.4）cm　底径（7.6）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・赤色粒子（少）・海綿骨針を含む　焼成良好
12	P.13	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.5）cm　器高2.45cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
13	P.13	常滑 甕	胴部片　輪積み成形　器表面に叩き目 器表面は褐灰色　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む
14	P.13	常滑 甕	口径(22.2)cm　輪積み成形 器表面は暗赤褐色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む　長石の吹き出しあり
15	P.13	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口径（16.2）cm　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬はオリーブ灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
16	P.13	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬はオリーブ灰色で透明
図10-1	P.44	土師器皿 Ｒ種小型	口径8.9cm　底径6.8cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
2	P.44	土師器皿 Ｒ種小型	口径9.0cm　底径6.8cm　器高1.35cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・海綿骨針を含む
3	P.44	土師器皿 Ｒ種小型	口径8.4cm　底径6.6cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
4	P.44	土師器皿 Ｒ種大型	口径13.0cm　底径8.6cm　器高2.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	P.4	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形 器表面オリーブ黒色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
6	P.5	常滑 甕	底部片　輪積み成形　底部脇に板状工具による縦位ナデ 器表面は黒褐色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
7	P.14	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.6）cm　底径（7.8）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は浅黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
8	P.14	白色系土師器皿 Ｒ種大型	口縁部片　手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色で礫片（微）を含む　粉質土
9	P.14	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　外面縦位の板状工具によるナデ後、口縁部に一条の横位ナデ 器表面はオリーブ黒色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む　内面に降灰あり
10	P.15	白磁 皿	口縁部片　ロクロ成形後回転ヘラ削りか　口縁部釉面取り　内面型押しにより施文 胎土は灰白色　釉薬は透明
11	P.15	須恵器 蓋か	口縁部片　胎土は灰色とにぶい橙色で白色粒子・礫片を含む 生焼けのため土師器の可能性もあるが、須恵器とした
12	P.20	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.4）cm　底径（6.9）cm　器高1.35cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
13	P.20	渥美 甕	胴部片　輪積み成形　外面に叩き目　器表面は暗灰色　胎土は灰色で白色粒子を含む
14	P.21	土師器皿 Ｒ種小型	口径9.2cm　底径6.8cm　器高1.75cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
15	P.27	丸瓦	残存長14.5cm　残存幅12.0cm　残存厚2.2cm　凹面に布目痕、凹面端部削り　凸面縦位ヘラナデ　側面削り 表面は灰色　胎土は灰色で混入物少ない　均質土　永福寺Ⅰ期
16	P.35	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.1）cm　器高3.3cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で白色粒子を含む　混入物少ない　焼成良好
17	P.37	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.1）cm　器高3.3cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
18	P.38	土師器皿 Ｒ種極小型	口径（5.2）cm　底径（4.2）cm　器高0.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
19	P.38	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.2）cm　底径6.5cm　器高1.65cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
20	P.38	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.4）cm　底径（7.0）cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む

表５　出土遺物観察表（５）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
21	P.38	土師器皿 R種大型	口径（12.2）cm　底径（6.5）cm　器高3.35cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
22	P.38	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形 器表面オリーブ黒色　胎土は灰色で白色粒子・長石・礫片を含む
23	P.38	瀬戸 入子	口径（7.0）cm　底径（4.8）cm　器高1.85cm　外底部回転糸切り 胎土は灰白色で白色粒子を含む　混入物少ない
24	P.39	土師器皿 R種小型	口径7.6cm　底径6.2cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
25	P.39	土師器皿 R種小型	口径（8.0）cm　底径（5.8）cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は明赤褐色で白色粒子・海綿骨針を含む
26	P.39	渥美 甕	肩部片　輪積み成形　外面に叩き目 器表面は暗灰色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
27	P.39	丸瓦	残存長4.8cm　残存幅7.0cm　残存厚1.7cm　凹面に布目痕　凸面縄目叩き後縦位ナデ　側面削り　表面は暗灰色　胎土は灰白色で黒色粒子・白色粒子を含む　均質土　永福寺Ⅰ期
28	P.51	土師器皿 R種小型	口径（7.8）cm　底径（5.9）cm　器高1.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
29	P.52	土師器皿 R種小型	口径（9.6）cm　底径（7.6）cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・海綿骨針を含む
30	P.52	同安窯系青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　外面回転ヘラ削り 胎土は灰色　釉薬は灰オリーブ色で半透明　外面は櫛歯状工具の掻き揚げにより施文
31	P.52	軽石	長径6.3cm　短径5.0cm　最大厚3.8cm　灰色 前面上部に溝状の彫り込み、彫り込みの平らにした箇所あり
32	P.56	土師器皿 R種小型	口径（9.0）cm　底径（7.6）cm　器高1.25cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
33	P.56	土師器皿 R種小型	口径(9.0)cm　底径(6.5)cm　器高1.75cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・泥岩粒・海綿骨針を含む
34	P.56	土師器皿 T種小型	口径（8.8）cm　器高1.7cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
35	P.56	土師器皿 T種大型	口径（12.3）cm　器高2.8cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
36	P.56	土師器皿 T種大型	口径（13.3）cm　器高2.9cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ　板状圧痕 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
37	P.56	白色系土師器皿 T種小型	口径（8.4）cm　器高0.9cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰白色　粉質均質土
図11-38	P.63	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm　底径(5.0)cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
39	P.63	土師器皿 R種小型	口径(8.8)cm　底径(7.2)cm　器高1.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・透明光沢粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
40	P.77	土師器皿 R種小型	口径(8.2)cm　底径(6.2)cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子（微）・赤色粒子（少）・海綿骨針を含む
41	P.77	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　内面上部に降灰あり 器表面は橙色　胎土は暗灰色で白色粒子を含む
42	P.80	白色系土師器皿 T種小型	口径（7.3）cm　器高1.25cm　手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色　粉質均質土
43	P.85	土師器皿 T種大型	口径（12.8）cm　器高3.3cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好　口縁部油煤付着
44	P.86	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　内面上部と肩部に降灰あり 器表面は赤褐色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
45	P.86	常滑 甕	肩部片　輪積み成形 器表面は黄灰色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
46	P.89	土師器皿 T種小型	口径（8.8）cm　器高1.9cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
47	P.97	渥美・湖西 片口鉢	底部片　輪積み成形後、ロクロ整形　付高台 胎土は灰白色で白色粒子を含む　均質土
48	P.97	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　内面上部と肩部に降灰あり 器表面は黒褐色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
49	P.98	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm　底径(5.6)cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
50	P.98	土師器皿 R種大型	口径(12.7)cm　底径(9.4)cm　器高3.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
51	P.98	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は明褐灰色で白色粒子・長石・礫片を含む
52	P.99	土師器皿 T種小型	口径（9.15）cm　器高1.7cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で白色粒子・海綿骨針を含む　焼成非常に良好
53	P.99	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む　残存部下端内面調整が確認できないほど摩耗

表６　出土遺物観察表（６）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
54	P.99	常滑 甕	肩部片　輪積み成形 器表面は赤褐色　胎土は暗灰色で白色粒子・礫片を含む　器表面に鉄分の吹き出し
55	P.100	土製円盤	残存最大径3.6㎝　厚さ0.5㎝　手づくね成形 胎土は橙色で黒色粒子・白色粒子・赤色粒子を含む
56	P.104	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.8）㎝　器高2.85㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
57	P.108	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.5）㎝　器高2.0㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
図12-1	２面 遺構群	土師器皿 Ｔ種大型	口径13.3㎝　器高3.2㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む　焼成良好
2	２面 遺構群	土師器皿 Ｔ種小型	口径（10.0）㎝　器高1.4㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　混入物少ない　焼成良好
3	２面 遺構群	土師器皿 Ｒ種小型	口径(9.1)cm　底径(7.5)cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・海綿骨針を含む
4	２面 遺構群	渥美 甕	口縁部片　輪積み成形　口縁内面と肩部に灰釉ハケ塗り 器表面は灰色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
5	２面 遺構群	丸瓦	残存長8.9cm　残存幅5.0cm　残存厚2.0cm　凹面に布目痕　凸面縄目叩き後縦位ナデ 表面は暗灰色　胎土は灰白色で黒色粒子・白色粒子を含む　均質土　永福寺Ｉ期
図13-1	２面遺構群 炭層直上	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.0）㎝　器高1.7㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子（微）・海綿骨針を含む　焼成良好
2	２面遺構群 炭層直上	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.1）㎝　器高2.1㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・海綿骨針（微）を含む　焼成良好
3	２面遺構群 炭層直上	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.0）㎝　器高2.0㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子を含む
4	２面遺構群 炭層直上	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.0）㎝　器高3.0㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子（微）・海綿骨針を含む　焼成良好
5	２面遺構群 炭層直上	土師器皿 Ｒ種小型	口径(7.9)cm　底径(6.3)cm　器高1.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
6	２面遺構群 炭層直上	軒丸瓦	残存長7.5cm　残存幅8.5cm　残存厚3.2cm　蓮華文の瓦当 表面は暗灰色　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む　均質土　永福寺Ｉ期
7	２面遺構群 炭層直上	竜泉窯青磁 Ｉ類碗	口縁部片　ロクロ成形 素地は灰色で黒色粒子を含む　釉薬は灰オリーブ色で透明　内面に片切り彫りによる施文
8	２面遺構群 炭層直上	白磁 把手	残存長2.2cm　残存幅2.4cm　残存厚0.7cm　串状工具により沈線を施文 胎土は灰色　釉薬は灰白色で透明
9	２面遺構群 炭層直上	鉄釘	残存長6.5cm　幅0.6cm　厚0.6cm　重さ5.3ｇ
10	２面遺構群 炭層直上	鉄釘	長さ6.0cm　幅0.5cm　厚0.5cm　重さ3.8ｇ
11	２面遺構群 炭層直上	鉄釘	長さ6.5cm　幅0.7cm　厚0.6cm　重さ8.3ｇ
12	２面遺構群 炭層内	常滑 甕	肩部片　輪積み成形　外面全面に降灰 器表面は暗赤褐色　胎土はにぶい橙色で白色粒子・透明光沢粒子・長石・礫片を含む
13	２面遺構群 炭層内	平瓦	残存長12.3cm　残存幅13.7cm　残存厚2.25cm　凹面に離れ砂　凸面縄目叩き後縦位ナデ 表面は灰色　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む　均質土　永福寺Ｉ期
14	２面遺構群 炭層内	竜泉窯青磁 Ｉ類碗	底部片　ロクロ成形　削り出し高台 素地は灰色で黒色粒子を含む　釉薬は明青灰色で透明　高台内露胎
15	２面遺構群 構築土	土師器皿 Ｔ種大型	口径（12.8）㎝　器高2.6㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
図14-1	溝１ 上層	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.1）㎝　器高1.8㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色粒子（少）・白色粒子・海綿骨針を含む
2	溝１ 上層	土師器皿 Ｔ種小型	口径9.3㎝　器高1.8㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
3	溝１ 上層	土師器皿 Ｔ種大型	口径13.2㎝　器高3.7㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
4	溝１ 上層	土師器皿 Ｔ種大型	口径15.9㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・海綿骨針を含む
5	溝１ 上層	土師器皿 Ｒ種小型	口径9.1cm　底径7.0cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
6	溝１ 上層	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.8）cm　底径（6.8）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
7	溝１ 上層	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.9）cm　底径（7.0）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
8	溝１ 上層	常滑 片口鉢Ｉ類	底径14.6cm　輪積み成形後、ロクロ整形　外面下位回転ヘラ削り 胎土は灰色で白色粒子・長石・礫片を含む　内面調整が確認できないほど摩耗
9	溝１ 上層	渥美 甕	胴部片　輪積み成形　外面叩き目　器表面は黒褐色　胎土は灰色で白色粒子を含む

表７　出土遺物観察表（７）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
10	溝１ 上層	渥美 甕	胴部片　輪積み成形　外面叩き目　器表面は黒褐色　胎土は灰色で白色粒子を含む
11	溝１ 上層	常滑 甕	肩部片　輪積み成形　外面叩き目 器表面はにぶい黄橙色　胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む
12	溝１ 上層	瀬戸 柄付片口	片口部　片口は貼付け後ヘラナデで整形　器表面は褐灰色 胎土は灰色で混入物なし　内面に灰オリーブ色の灰釉　まだらに黒褐色の部分あり
13	溝１ 上層	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬はオリーブ灰色で透明　内面に片切り彫りによる施文
14	溝１ 上層	鉄釘	長さ 6.5cm　幅0.5cm　厚さ 0.4cm　重さ 4.4 g
15	溝１ 下層	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.0）cm　器高1.5cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
16	溝１ 下層	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.7）cm　器高1.5cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む　焼成良好
17	溝１ 下層	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.4）cm　器高2.3cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子・白色粒子を含む
18	溝１ 下層	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬はオリーブ灰色で透明　内面に片切り彫りによる施文
図15-1	土坑７・８	渥美 甕	底部片　輪積み成形　底部脇に板状工具による縦位ナデ 器表面は黄灰色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
2	土坑７・８	滑石製 石鍋	口縁部片　鍔部に工具痕のようなものがあり、削り取った可能性も 灰白色　外面炭化し黒色に変色　内面も暗灰色
3	土坑10	白磁 Ⅷ類碗	底部片　ロクロ成形　削り出し高台 素地は淡黄色で黒色粒子を含む　釉薬は明緑灰色で不透明　高台及び内底部露胎
4	土坑13	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.2）cm　器高1.9cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は暗灰色で黒色光沢粒子・海綿骨針を含む　二次被焼により全面黒く変色　口縁部油煤付着
5	土坑13	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.1）cm　器高1.8cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
6	土坑13	土師器皿 Ｔ種小型	口径（10.2）cm　器高1.7cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・海綿骨針を含む
7	土坑13	土師器皿 Ｔ種小型	口径8.7cm　器高1.8cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・海綿骨針を含む
8	土坑13	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.6）cm　器高2.5cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・海綿骨針を含む
9	土坑13	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.8）cm　器高1.7cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐灰色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
10	土坑13	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.8）cm　器高1.8cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子（微）・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
11	土坑13	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.0）cm　器高1.75cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
12	土坑13	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.4）cm　器高1.6cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
13	土坑13	土師器皿 Ｔ種大型	口径（12.3）cm　器高2.5cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成非常に良好
14	土坑13	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.6）cm　器高2.3cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
15	土坑13	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.0）cm　器高2.85cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
16	土坑13	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.3）cm　器高3.2cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
17	土坑13	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.0）cm　器高3.7cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成非常に良好
18	土坑13	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.6）cm　底径（5.3）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
19	土坑13	渥美・湖西型 山皿	口縁部片　外底部回転糸切り 胎土は灰色で白色粒子を含む
20	土坑13	渥美 甕	口縁部片　輪積み成形　口縁部内外面に灰釉ハケ塗り 器表面は暗灰色　胎土は灰色で白色粒子を含む
21	土坑13	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　口縁部内面に降灰 器表面に黒褐色　胎土は灰色で白色粒子（微）を含む
22	土坑13	渥美 甕	胴部片　輪積み成形　外面叩き目 器表面に黒褐色　胎土は灰色で白色粒子を含む
23	土坑13	竜泉窯青磁 Ⅰ類浅形碗	口径（15.6）cm　ロクロ成形 胎土は灰色　釉薬は明緑灰色で透明　内面に片切り彫りによる施文
24	土坑13	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形 胎土は灰色　釉薬は明オリーブ灰色で透明　無文

表８　出土遺物観察表（８）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
25	土坑13	安山岩	残存長7.5cm　残存幅5.5cm　残存厚4.3cm　灰色　残存部一部に摩耗した箇所あり
図16-1	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.5）㎝　器高1.9㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
2	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｔ種小型	口径（10.2）㎝　器高1.9㎝　手づくね後、内底部･口縁部ナデ　胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子･黒色粒子･白色粒子・海綿骨針を含む　内面に付着物のような痕跡　焼成良好
3	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｔ種小型	口径（9.4）㎝　器高2.15㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
4	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.2）㎝　器高2.7㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
5	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｔ種大型	口径（15.4）㎝　器高3.7㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
6	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.8）㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　粉質均質土
7	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.6）㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　外面に黒色に変色した部位あり　焼成良好
8	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.0）cm　底径5.8cm　器高2.1cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・海綿骨針を含む
9	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.5）cm　底径（8.1）cm　器高2.1cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
10	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｒ種大型	底径9.0cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
11	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｒ種大型	底径7.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
12	土坑13 炭層内	土師器皿 Ｒ種大型	底径（7.8cm）　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　底部脇指おさえ　糸切り痕はナデ消したのか不明瞭　胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
13	土坑13 炭層内	須恵器 甕	残存長4.9cm　残存幅2.0cm　厚さ0.7cm　胎土は灰色で白色粒子を含む
14	土坑13 炭層下	土師器皿 Ｔ種小型	口径（8.8）㎝　器高2.2㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・白色粒子・海綿骨針（微）を含む
15	土坑13 炭層下	土師器皿 Ｔ種小型	口径（10.6）㎝　器高1.8㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
16	土坑13 炭層下	土師器皿 Ｔ種小型	口径（10.4）㎝　器高2.15㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
17	土坑13 炭層下	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬は明緑灰色で透明　内面に片切り彫りによる施文
18	土坑14	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.7）㎝　器高2.9㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
19	土坑14	楠葉型瓦器 輪花碗	口縁部片　内面にミガキ（暗文）　器表面は炭素吸着により暗灰色　胎土は灰白色
20	土坑16	土師器皿 Ｔ種大型	口径（15.4）㎝　器高3.15㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・泥岩粒・海綿骨針を含む　焼成良好
21	土坑16	土師器皿 Ｔ種大型	口径（13.0）㎝　器高3.3㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ　胎土は淡橙色で黒色光沢粒子（少）・黒色粒子（少）・赤色粒子・海綿骨針を含む　内面に暗灰色に変色した部位あり　焼成良好
22	土坑16	土師器皿 Ｒ種小型	口径（9.8）cm　底径（6.8）cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・海綿骨針を含む
23	土坑16	土師器皿 Ｒ種小型	口径（10.0）cm　底径（7.2）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子を含む
24	土坑16	土師器皿 Ｔ種小型	口径9.0㎝　器高1.9㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ　内底部は同心円状ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
25	土坑16	土師器皿 Ｔ種大型	口径（14.6）㎝　器高3.0㎝　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成非常に良好
26	土坑16	土師器皿 Ｒ種大型	口径13.9cm　底径8.8cm　器高3.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・海綿骨針を含む
27	土坑16	竜泉窯青磁 Ⅰ類皿	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬は明オリーブ灰色で透明　同安窯系皿の可能性もあり
図17-1	P.2	竜泉窯青磁 Ⅱ類碗	底部片　ロクロ成形　削り出し高台　外底部露胎 胎土は灰色　釉薬はオリーブ灰色で透明　外面に片切り彫りによる蓮弁文
2	P.3	渥美 甕	口縁部片　輪積み成形　器表面は灰色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
3	P.3	安山岩	残存長4.95cm　残存幅6.85cm　残存厚4.2cm　灰色、表面は暗灰色 残存面２面のうち１面が摩耗　残存面２面に索痕あり
4	P.12	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.8）cm　底径（8.6）cm　器高3.4cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	P.12	土師器皿 Ｒ種大型	底径（6.8）cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む

表９　出土遺物観察表（９）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
6	P.12	土師器皿 R種小型	口径（7.1）cm　底径（5.4）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
7	P.27	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　外面口縁下に二条の横位ナデ 外面は灰赤色、内面は黒褐色　胎土は暗灰色で白色粒子・礫片を含む　内面に降灰あり
8	P.27	渥美 甕	口縁部片　輪積み成形 器表面は暗灰色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む　内外面に灰釉ハケ塗り
9	P.27	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　器表面は暗赤灰色　胎土は暗灰色で白色粒子・礫片を含む
10	P.34	土師器皿 T種大型	口径（13.2）cm　器高3.0cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む　焼成良好
11	P.34	土師器皿 R種小型	口径（10.2）cm　底径（6.4）cm　器高2.5cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
12	P.34	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　器表面は褐灰色　胎土はにぶい黄橙色で白色粒子・礫片を含む
13	P.34	常滑 甕	底部片　輪積み成形　底部脇に板状工具による縦位ナデ 器表面は褐灰色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
14	P.42	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬は灰オリーブ色で透明
15	P.58	渥美・湖西型 山茶碗	底部片　輪積み成形後ロクロ整形　付け高台　高台及び内底部に籾殻痕 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
16	P.109	土師器皿 T種小型	口径（9.7）cm　器高1.7cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子（微）・白色粒子（微）・海綿骨針（微）を含む　焼成非常に良好
17	P.110	土師器皿 T種小型	口径（9.2）cm　器高1.8cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
18	P.110	土師器皿 R種小型	口径（8.6）cm　底径（7.3）cm　器高1.35cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
19	P.110	土師器皿 R種大型	口径（14.0）cm　底径（7.8）cm　器高3.45cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・海綿骨針を含む
20	P.110	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　器表面は褐灰色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
21	P.117	土師器皿 T種小型	口径（10.2）cm　器高1.9cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子（微）・白色粒子（微）・海綿骨針（微）を含む　焼成非常に良好
22	P.117	土師器皿 T種小型	口径（10.2）cm　器高1.9cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子（微）・赤色粒子（微）・海綿骨針（微）を含む　焼成非常に良好
23	P.118	土師器皿 T種小型	口径（9.2）cm　器高1.85cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・透明光沢粒子（微）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
24	P.118	土師器皿 T種小型	口径（9.2）cm　器高1.85cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成非常に良好
25	P.118	土師器皿 T種大型	口径（13.2）cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成非常に良好
26	P.118	土師器皿 T種大型	口径（12.9）cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成非常に良好
27	P.118	白色系土師器皿 T種大型	口径（10.8）cm　手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子を含む　焼成良好
28	P.118	渥美 甕	口縁部片　輪積み成形　器表面は褐灰色　胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内面頸部まで、外面肩部まで灰釉ハケ塗り
29	P.119	土師器皿 T種大型	口径（13.0）cm　器高3.2cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
30	P.122	土師器皿 T種小型	口径（7.6）cm　器高2.0cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
31	P.128	土師器皿 T種小型	口径（9.4）cm　器高1.75cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
32	P.128	同安窯系青磁 Ⅰ類皿	口縁部片　ロクロ成形　外面回転ヘラ削り 胎土は灰色　釉薬は灰オリーブ色で半透明　内面に櫛歯状工具により施文
33	P.130	土師器皿 T種大型	口径（14.7）cm　器高2.9cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
34	P.131	土師器皿 T種小型	口径（9.7）cm　器高1.9cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（微）・黒色粒子（微）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
35	P.131	土師器皿 R種小型	口径（8.4）cm　底径（7.2）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部同心円状ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
36	P.148	土師器皿 R種小型	口径9.0cm　底径6.7cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
37	P.148	土師器皿 R種小型	口径（9.6）cm　底径（7.3）cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・海綿骨針を含む
図18-1	3面	土師器皿 T種小型	口径（8.9）cm　器高1.3cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好

表10　出土遺物観察表（10）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
2	3面	土師器皿 T種小型	口径（9.7）cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
3	3面	土師器皿 R種小型	口径（9.0）cm　底径5.0cm　器高2.1cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・赤色粒子・海綿骨針を含む
4	3面	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片　ロクロ成形　素地は灰色　釉薬はオリーブ黄色で透明　内面に片切り彫りによる施文
図19-1	最終トレンチ	木器 椀	底径8.2cm　高台内側に円形に溝が削り込まれており、これにより削り出し高台を形成　柾目材
2	最終トレンチ	須恵器 甕	胴部片　輪積み成形　内面に青海波状の当て具痕 器表面は暗灰色　胎土は暗赤褐色で白色粒子を含む
図20-1	表採・撹乱	土師器皿 T種小型	口径（8.4）cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・海綿骨針を含む　焼成良好
2	表採・撹乱	土師器皿 T種小型	口径（8.3）cm　器高1.6cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
3	表採・撹乱	土師器皿 T種大型	口径（14.2）cm　器高3.4cm　手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子（多）・黒色粒子（多）・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む　焼成良好
4	表採・撹乱	土師器皿 R種小型	口径（9.4）cm　底径（7.0）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底部回転糸切り、板状圧痕　内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	表採・撹乱	白色系土師器皿 T種小型	口径（8.2）cm　器高1.15cm　手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色で黒色粒子（微）・赤色粒子（微）を含む　焼成良好
6	表採・撹乱	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　口縁部横位ナデ 外面は暗赤褐色、内面は黒褐色　胎土は暗灰色で白色粒子・長石・礫片を含む
7	表採・撹乱	常滑 片口鉢Ⅱ類	底部片　輪積み成形　底部脇に板状工具による縦位ナデ 器表面は橙色　胎土は橙色で白色粒子・長石・礫片を含む　内底部全面剥離するほど使用
8	表採・撹乱	常滑 甕	肩部片　輪積み成形　叩き目あり 外面は暗赤褐色、内面は明黄褐色　胎土はにぶい赤褐色で白色粒子・礫片・小石粒を含む
9	表採・撹乱	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　口縁部折り曲げ成形　外面は暗赤褐色、内面は赤黒色 胎土はにぶい黄色で白色粒子・礫片を含む
10	表採・撹乱	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　口縁部折り曲げ後貼付け成形　外面は暗赤灰色、内面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子・黒色粒子を含む　灰オリーブ色の自然釉
11	表採・撹乱	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　口縁部折り曲げ後貼付け成形　内面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子・長石を含む　外面に淡黄色の自然釉
12	表採・撹乱	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形　口縁部折り曲げ後貼付け成形　器表面は黒褐色 胎土はオリーブ黒色で白色粒子・長石・礫片・小石粒を含む　外面に淡黄色の自然釉
13	表採・撹乱	常滑 甕	底部片　輪積み成形　底部脇と内面に板状工具による縦位ナデ 外面は赤褐色、内面は橙色　胎土は橙色で白色粒子・礫片・小石粒を含む 内面調整が確認できないほど摩耗　常滑片口鉢Ⅱ類底部の可能性もあり
14	表採・撹乱	常滑 甕	底部片　輪積み成形　底部脇に板状工具による縦位ナデ　内面に横位ナデ 外面はにぶい赤褐色、内面は極暗赤褐色　胎土は橙色で白色粒子・礫片・小石粒を含む　鉄分の吹き出しあり 内面調整確認できるが摩耗　常滑片口鉢Ⅱ類底部の可能性もあり
15	表採・撹乱	瀬戸 碗	底径（5.0）cm　ロクロ成形　削り出し高台　内面に目跡か 胎土は灰黄色で白色粒子（微）を含む　灰オリーブ色の灰釉を漬け掛け
16	表採・撹乱	瀬戸 卸皿	口縁部片　胎土はにぶい黄橙色　明オリーブ灰色の灰釉ハケ塗り
17	表採・撹乱	瀬戸 瓶類	残存部底径（7.5）cm　付け高台　底部は2枚の板を貼付け　胎土は灰黄色で混入物なし
18	表採・撹乱	平瓦	残存長9.3cm　残存幅11.0cm　厚さ1.55cm 凹面に黒色光沢粒子の離れ砂　凸面に縄目痕と黒色光沢粒子の離れ砂　側面ヘラ削り 凸面は暗灰色　胎土は灰色で白色粒子・黒色粒子を含む　硬質
19	表採・撹乱	平瓦	残存長5.8cm　残存幅8.2cm　厚さ2.25cm 凹面に横位ナデ　凸面に縄目痕と離れ砂　端面ヘラ削り 胎土は灰白色で白色粒子・礫片を含む　硬質
20	表採・撹乱	竜泉窯青磁 I類碗	口径（17.6）cm　ロクロ成形 胎土は灰色　釉薬は灰オリーブ色で透明　内面に片切り彫りによる施文
21	表採・撹乱	白磁 口はげ皿	口縁部片　ロクロ成形　口縁部面取り　口縁部に重ね焼き痕 胎土は灰白色　釉薬は灰白色と透明
22	表採・撹乱	砥石 仕上げ砥	残存長4.4cm　幅3.4cm　残存最大厚0.9cm　残存最少厚0.55cm 側面に切出し痕　黄灰色　使用面1面　鳴滝
写真図版 13	表採・撹乱	高麗青磁 瓶子	ロクロ成形　胎土は灰色　釉薬は灰オリーブ色で透明　外面に片切り彫りによる施文

表11　出土遺物計量表

				1面遺構群		2面遺構群		3面まで		総計	
中世以前		黒曜石		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		縄文土器		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
		弥生土器		0	0.00%	0	0.00%	1	0.81%	2	0.05%
		土師器		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		鬼高式土師器		0	0.00%	3	0.17%	3	2.44%	6	0.14%
		古代土師器		1	0.05%	2	0.11%	3	2.44%	6	0.14%
		須恵器		1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	2	0.05%
		須恵器甕		1	0.05%	1	0.06%	1	0.81%	3	0.07%
		南比企産須恵器		1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	2	0.05%
土器	土師器皿	T種	大	714	36.19%	1029	58.23%	79	64.23%	1945	46.69%
			燈明皿	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			小	87	4.41%	166	9.39%	16	13.01%	283	6.79%
			燈明皿	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
			極小	3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%
			小型特殊	0	0.00%	0	0.00%	1	0.81%	1	0.02%
		R種	大	677	34.31%	333	18.85%	9	7.32%	1065	25.56%
			中	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			小	202	10.24%	86	4.87%	5	4.07%	306	7.35%
			燈明皿	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			極小	2	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
			転用円盤	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			特大	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
		T種白色系	大	4	0.20%	1	0.06%	0	0.00%	5	0.12%
			小	3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.10%
		R種白色系	大	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	土器質	火鉢		1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%
	伊勢系	鍔鍋		2	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
	瓦器質土器	火鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
	瓦器	楠葉	輪花碗	0	0.00%	2	0.11%	0	0.00%	2	0.05%
土製品		円盤		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
国産陶器	常滑	壺		3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%
		甕		147	7.45%	44	2.49%	0	0.00%	246	5.90%
		片口鉢	Ⅰ類片口鉢	15	0.76%	5	0.28%	0	0.00%	22	0.53%
			Ⅱ類片口鉢	1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	6	0.14%
		山茶碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	瀬戸	瓶子		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%
		平碗		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		卸皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		柄付片口		0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
		入子		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		壺類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		碗類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		器種不明		1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%
	渥美・湖西	甕		34	1.72%	36	2.04%	1	0.81%	78	1.87%
		片口鉢		3	0.15%	1	0.06%	0	0.00%	4	0.10%
		山茶碗		2	0.10%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%
		山皿		0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
瓦		永福寺Ⅰ期平瓦		2	0.10%	3	0.17%	0	0.00%	7	0.17%
		永福寺Ⅰ期丸瓦		2	0.10%	3	0.17%	0	0.00%	5	0.12%
		永福寺Ⅰ期軒丸瓦		0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
		永福寺Ⅱ期平瓦		3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%
		永福寺Ⅱ期丸瓦		0	0.00%	2	0.11%	0	0.00%	2	0.05%
		永福寺Ⅱ期以降平瓦		4	0.20%	1	0.06%	1	0.81%	9	0.22%
		永福寺Ⅱ期以降丸瓦		3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.12%
舶載陶磁器	青磁同安窯系	碗		2	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
		皿		0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
	青磁 竜泉窯系	大宰府Ⅰ類	画花文碗	9	0.46%	12	0.68%	1	0.81%	24	0.58%
			無文碗	1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%
			皿	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
			浅形碗	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
		大宰府Ⅱ類	蓮弁文碗	1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%
		大宰府Ⅲ類	蓮弁文碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
			折縁鉢	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	青白磁	梅瓶		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
		水注		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		碗		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		皿		0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
		蓋		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	白磁	端反	碗	3	0.15%	1	0.06%	0	0.00%	4	0.10%
		口はげ	皿	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
		四耳壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		水注		0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
		皿		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
		不明		1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	2	0.05%
	褐釉	壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	泉州窯	緑釉	盤	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	高麗青磁	瓶子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	産地不明	器種不明陶器		0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
金属製品	鉄	釘		1	0.05%	5	0.28%	0	0.00%	6	0.14%
石製品	滑石	鍋		0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
	砥石	鳴滝		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		上野		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
石材・石		搬入石		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.12%
		砂岩		3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.10%
		安山岩		2	0.10%	7	0.40%	0	0.00%	9	0.22%
		凝灰岩		3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%
		焼泥岩		1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	2	0.05%
		軽石		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		搬入石材（頁岩）		2	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
木製品	漆器以外	椀		0	0.00%	0	0.00%	1	0.81%	1	0.02%
自然遺物	骨	鳥獣骨		2	0.10%	2	0.11%	0	0.00%	4	0.10%
	貝	夜光貝		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
その他		不明搬入土器		0	0.00%	0	0.00%	1	0.81%	1	0.02%
合計				1973	100%	1767	100%	123	100%	4166	100%

第四章　まとめと考察

１．遺構の変遷と年代

１期

北壁際トレンチ内での検出のみ。土層断面から溝であることは確認できるが、底部まで掘削していないため、全容は不明。土層堆積から浚渫ないし掘り直しの可能性を考えて、１－１期と１－２期の２期に分けた。出土遺物が乏しいため年代は不明だが、13世紀前半までに収まるか。

２期

北壁土層断面で確認した。溝を埋めた後に、ほぼその真上に土塁状遺構が構築されている。出土遺物が乏しいため年代は不詳だが、13世紀前半までに収まるか。なお軸方位に関しては、西壁及び南壁の土層断面の記録がないため不明である。

３期

北壁土層断面で確認した。２期の土塁状遺構を覆うように東寄りに構築されている。出土遺物が乏しいため年代は不詳だが、13世紀前半までに収まるか。なお軸方位に関しては、西壁及び南壁の土層断面の記録がないため不明である。

４期

北壁際トレンチ内での検出と上層遺構の底面で溝２の一部を検出したのみ。土層断面から土塁状遺構を確認できる。この土塁状遺構は２面遺構群造成の際に上部を削平されている。出土遺物は13世紀前半のもの。なお軸方位に関しては、西壁及び南壁の土層断面の記録がないため不明である。

５期－２面遺構群

二階堂大路と思しき道路と若干軸方位をずらしながらも、ほぼ直交する軸方位で交差する溝１を検出している。出土遺物は13世紀中葉までのものが主だが、溝１上層から古瀬戸中期以降の柄付片口が出土しているため、13世紀後葉まで存続していた可能性はある。

６期－１面遺構群

上層を大きく削平されており、遺構や面上遺物の年代は混在する。５期に存在した溝１のような、区画を分ける機能を有している可能性のある遺構は検出していない。土坑１が13世紀後葉を上限、土坑２が15世紀代と言える以外は、出土遺物は13世紀中葉までのものとなっている。また、構築土内の出土遺物も13世紀中葉までで収まる。下層の年代と勘案すると13世紀中頃が上限となり、13世紀後半以降とすることが妥当と考える。

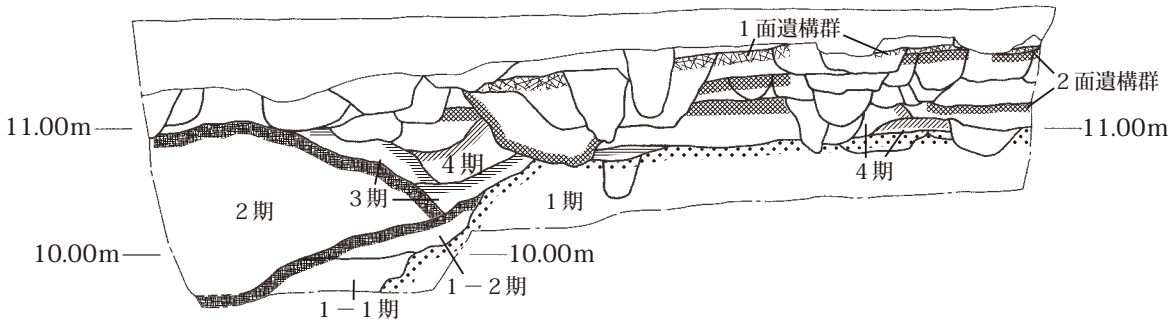


図21　北壁土層概念図

２．本調査地点と周辺の調査成果より

本調査地点と周辺の調査から、本調査地点周辺の軸方位を推定できる遺構の検出事例が蓄積されたため、図22に提示した。あくまで軸方位を推定できる遺構の提示を目的としたため、遺構面や年代には差異がある。また調査年次の古い地点に関しては、正確に地図上に落とし込めたとは言えないことを付記しておく。

図１－５（馬淵1993）・30地点（馬淵1990）では東御門川の旧河道とおぼしき流路、図１－11（馬淵2004）・12地点（馬淵2014）では滑川の旧河道とおぼしき流路が検出されている。

図１－30地点（馬淵1990）は中近世遺構面の全測図を提示したが、下層では古墳後期の土器を埋土に含むより古い時期の旧流路がさらに広がった状況で検出されている。

図１－５地点（馬淵1993）では中世基盤層が大きく削平を受けている状況で遺構検出が行われている。調査区西端で検出されている旧流路埋土内には15世紀代の出土遺物も含まれており、埋没年代はそれ以降となる。調査区南端では二階堂大路の側溝とおぼしき大溝が検出されているが、土層断面からは何度も掘り直され位置が現道側へ移動していることがわかる。出土遺物には15世紀代のものも含まれるため、かなり後世まで存続していたことが確認できる。この大溝と異なる軸方位を持つのが柱穴列１であるが、出土遺物からみて13世紀前葉までにおさまる。12世紀末から13世紀前葉にかけて軸方位がずれた可能性を指摘できるに留まる。以上、図１－５・30地点の成果から、旧東御門川の川幅が鎌倉時代には現在より広かったことが推定でき、現道（旧二階堂大路か）と軸方位を異にする遺構を確認できるが、時期差の有無までは確認できない。

図１－11地点（馬淵2004）は13世紀前半までの土器が埋土に含まれるもっとも新しい河道を提示した。これより新しい時期の土器が確認されていないため、この地点の河道は13世紀前半代で埋没したことが推定できる。

図１－12地点（馬淵2014）はもっとも新しい第１河床面を提示した。これより下層は調査区全体が流路堆積層と流路埋土で構成されている。安全性に基づく掘削規制のため最下層まで検出したわけではないが、検出最下層において15世紀代の土器が出土していることから埋没時期が15世紀以降まで下ることが確認できる。図１－11・12地点の成果から、旧滑川の川幅が現在よりも広く、さらに現在の川幅と同程度まで埋められた時期が15世紀以降まで下ることが推定できる。

図１－10地点（菊川泉2001）は最下層の地山の落込ラインを提示した。調査区内では対岸が検出されておらず、東御門川の流路とも大きく軸がずれていないことから、東御門川によって削平された段丘崖面を検出した可能性もある。この落込埋土からは13世紀前葉の土器が出土していることから、埋没時期が13世紀前半以降であることが推定できる。

図１－８地点（菊川英1991）に関しては、西側調査区（トレンチⅠ）は最下層の地山面（第３面）、東側調査区（トレンチⅡ）は第１面上に盛土された土塁状遺構を提示した。土塁状遺構は現在の荏柄天神社参道にほぼ平行することがわかるが、西側調査区の地山面検出の溝２は中位に段を有する二段箱掘り様の形状をなしており、東側調査区で検出された土塁状遺構とは軸方位が異なる。西側調査区の第２面では土塁状遺構にほぼ直交する溝１が検出されており、第２面と第３面で軸方位が変化したことが推定できる。第３面上包含層からは13世紀前葉の遺物、第２面上包含層からは13世紀前半代の遺物が出土しており、13世紀中葉を下限とする時期に軸方位が変化したことが推定できる。

図１－72地点（原2003）は中世基盤層（５Ｂ面）、図１－73地点（福田2000）の北側調査区（Ｂ区）は中世基盤層（５面）、南側調査区（Ａ区）は検出面最下層の２面（北側調査区４面相当か）、図１－74地点（菊

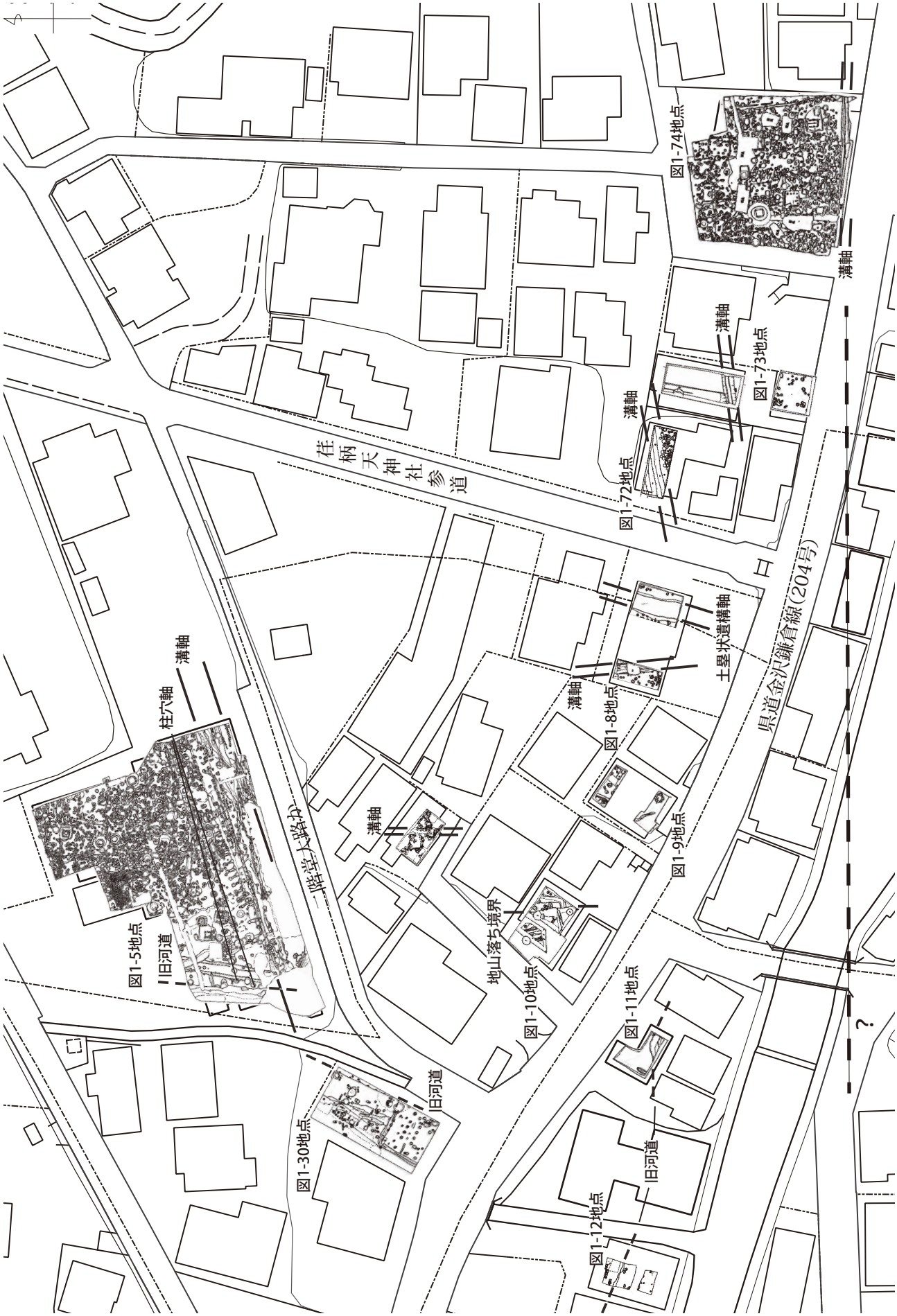


図22　本調査地点と周辺の調査成果

川英1990）は第１面が大きく削平されており、検出最下層面（第１・２面）を提示した。

図１―72地点（原2003）では５Ａ面と５Ｂ面で軸方位を同一とする箱薬研掘様の溝と柱穴列を検出しており、４面で検出された柱穴列も下層の溝にほぼ直交する軸方位を示している。３面より上層では軸方位を推定できる遺構を検出していないため詳細は不明だが、少なくとも４面までは軸方位が変化していない可能性がある。４面の出土遺物は13世紀中葉までのものがほとんどとなっており、13世紀中葉まで軸方位が変化していない可能性を指摘できる

図１－73地点（福田2000）は北側調査区の中世基盤層（５面）で薬研掘の溝を検出している。１層上層の４面のピットの検出状況は５面の溝と直交するように配置されているようにも見えるが、定かではない。中世基盤層の２層上層の３面以降で検出されている溝は現道（県道金沢鎌倉線・204号）とほぼ平行する軸方位となっている。南側調査区の検出面最下層の下層堆積は地山土によって盛土された土層となっているようである。この盛土層は標高11.80ｍほどまで調査されているが、地山は検出されていない。

北側調査区の出土遺物は３面で13世紀第３四半期以降のものを含みつつも13世紀中葉までのものが主となっていることから、13世紀前半から中葉にかけて軸方位の変化が起こった可能性を指摘できる。南側調査区の２面までの出土遺物には13世紀中頃以降のものが含まれ、盛土が行われたのが13世紀中葉以降である可能性を指摘できる。

図１―74地点（菊川英1990）では調査区南端で現道（県道金沢鎌倉線・204号）の下に潜り込む溝１が検出されている。この他に溝１に直交する軸方位を持つ溝３、調査区北端で北側現道とほぼ平行する溝４が検出されている。出土遺物からみて、溝１は13世紀後半まで、溝３は13世紀中葉まで、溝４は13世紀中頃までを下限として存続していたと考えられる。先行調査で得られた調査区南側の地山面の標高は11.80ｍほどとなっている。

図１－８・72・73・74地点の調査では現況とは大きく異なる軸方位をもつ遺構が検出されており、この軸方位は13世紀中葉を中心とする時期まで存続している可能性を指摘できる。この現況と異なる軸方位に関して、むしろ図１―74地点北側道路と軸方位がほぼ同一となっていることは着目すべき事象と指摘できる。また、図１－11・12地点で検出された旧滑川河道とおぼしき流路や、図１－74地点で検出された現道（県道金沢鎌倉線・204号）の下に潜り込む溝の存在は現況と中世のとある時期までは土地利用・地割に大きな違いがあることを示唆していよう。翻って本調査地点の成果をみると、深度規制に伴い最下層までの調査は行われなかったが、軸方位が確認できる13世紀中葉を上限とする溝を検出している。この軸方位は図１－10地点で検出された地山の落込ラインとほぼ平行していることが確認できる。これが自然地形に合わせた土地利用のあり方を示しているか即断はできないが、狭小な調査範囲といえども事例を積み重ねることにより、自然地形に応じた土地利用、自然地形を改変した土地利用、といったものが明らかになり、現在の町のありようがどのように出来上がってきたかが少しづつ明瞭になっていくであろう。

（沖元）

引用・参考文献（本報全体に共通）

赤星直忠1959『鎌倉市史　考古編』吉川弘文館

蘆田伊人編1998『大日本地誌大系22　新編相模国風土記稿』雄山閣

上本進二2000「第4節　鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子桟敷戸遺跡（逗子市№100）』（仮称）医療保健センター建設地内埋蔵文化財発掘調査団・東国歴史考古学研究所

神奈川県県史編纂室編1971『神奈川県史　資料編1　古代・中世（1）』神奈川県県史編纂室

神奈川県県史編纂室編1975『神奈川県史　資料編3　古代・中世（3上）』神奈川県県史編纂室

河野真知郎ほか1990『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会

菊川英政1990「横小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』鎌倉市教育委員会

菊川英政1991「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』鎌倉市教育委員会

菊川泉2001「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

國平健三・長谷川厚1990『宮久保遺跡Ⅲ』（神奈川県立埋蔵文化財センター15）神奈川県立埋蔵文化財センター

齋木秀雄ほか2007『大倉幕府周辺遺跡群発掘調査報告書　鎌倉遺跡調査会報告書第47集』鎌倉遺跡調査会

鈴木茂1996「宇津宮辻子幕府跡の花粉化石」（「宇津宮辻子幕府跡」附編）『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12（第1分冊）』鎌倉市教育委員会

鈴木棠三・鈴木良一監修1984『神奈川県の地名』平凡社

貫達人1971「北条氏亭址考」『金沢文庫研究紀要』第8号　神奈川県立金沢文庫

野口実1993「頼朝以前の鎌倉」『古代文化45』（財）古代学協会

原廣志2003「横小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』鎌倉市教育委員会

福田誠・菊川泉2000「横小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

馬淵和雄1990『大倉幕府周辺遺跡群　雪ノ下字大倉耕地569番1地点発掘調査報告書』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団

馬淵和雄1993「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

馬淵和雄1994「武士の都　鎌倉―その成立と構想をめぐって―」『都市鎌倉と坂東の海に暮らす』（『中世の風景を読む』2）新人物往来社

馬淵和雄1998「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

馬淵和雄1999『大倉幕府周辺遺跡群　雪ノ下四丁目620番5地点』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団

馬淵和雄2004「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

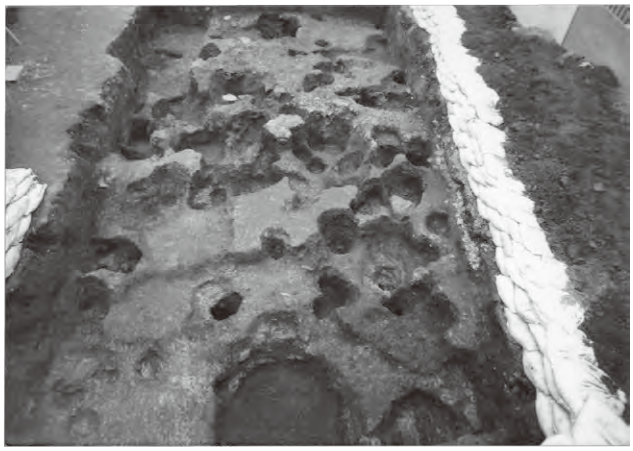
馬淵和雄2014「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30（第1分冊）』鎌倉市教育委員会

図版１

１－１　県道204号線（六浦路）調査地点入口より西を臨む

１－２　近景、県道204号線（六浦路）（東から）

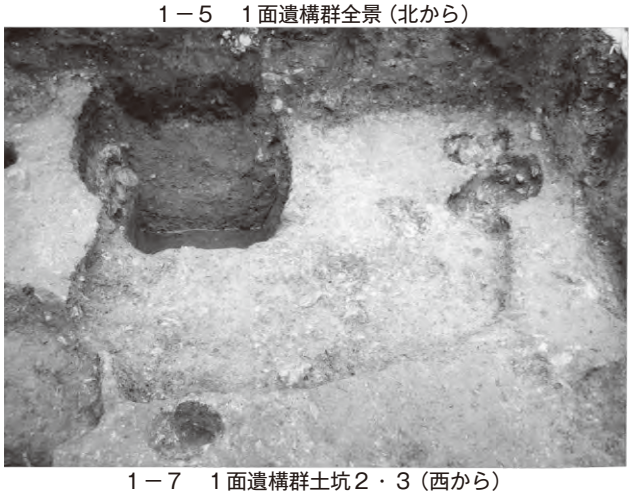
１－３　手前・県道204号線（六浦路）、奥・調査区（南から）



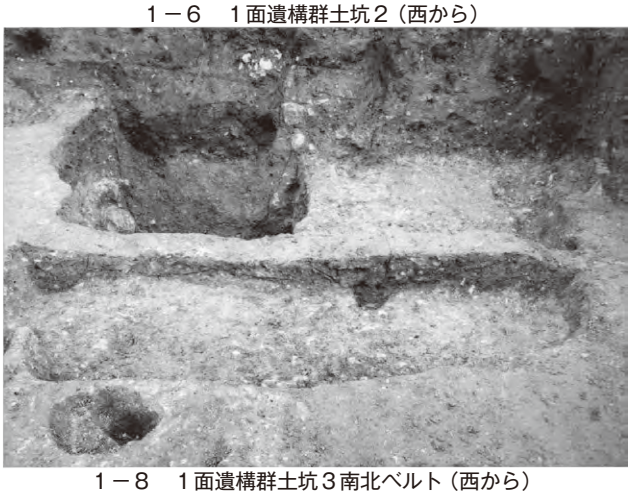
１－４　１面遺構群全景（東から）

１－５　１面遺構群全景（北から）

１－６　１面遺構群土坑２（西から）

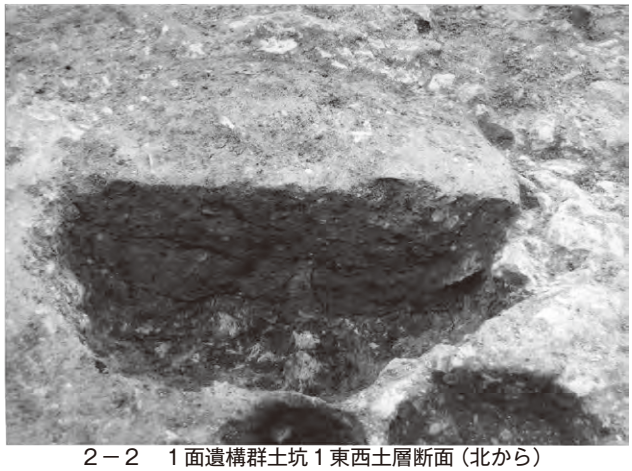


１－７　１面遺構群土坑２・３（西から）

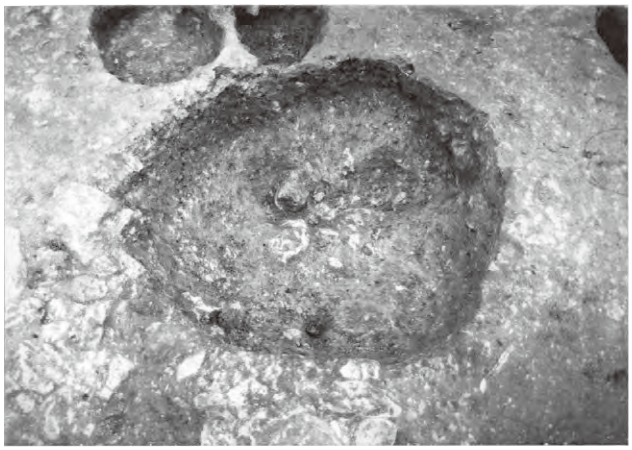


１－８　１面遺構群土坑３南北ベルト（西から）

２－１　１面遺構群土坑１遺物出土状況（北から）

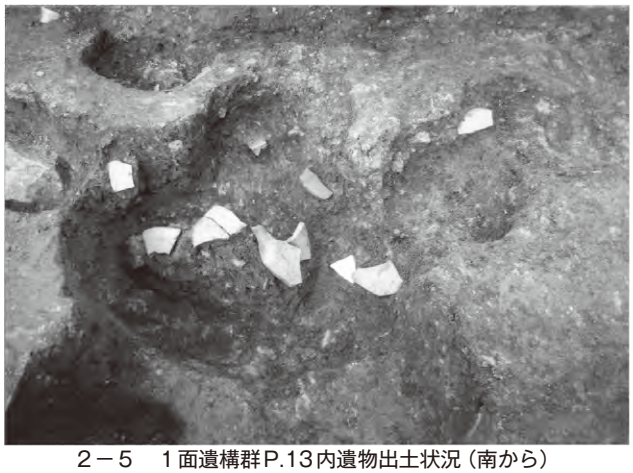


２－２　１面遺構群土坑１東西土層断面（北から）

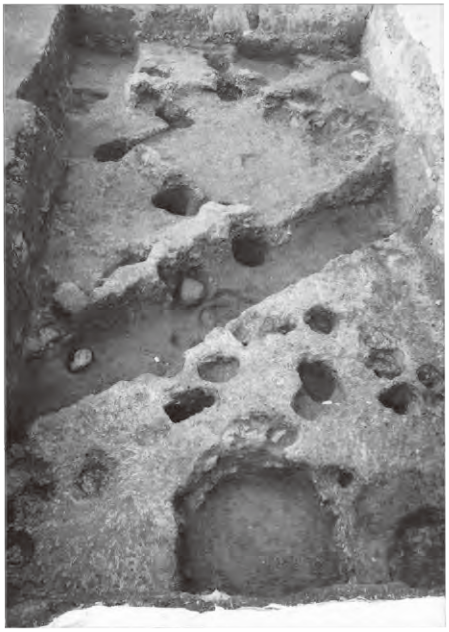


２－３　１面遺構群土坑１完掘状況（南から）

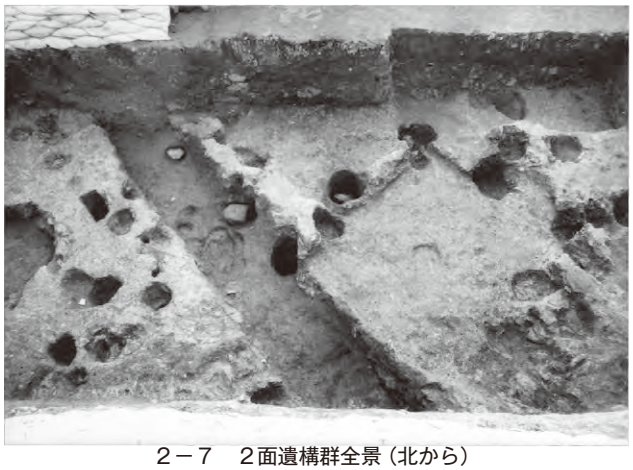
２－４　１面遺構群P.44（北から）



２－５　１面遺構群P.13内遺物出土状況（南から）

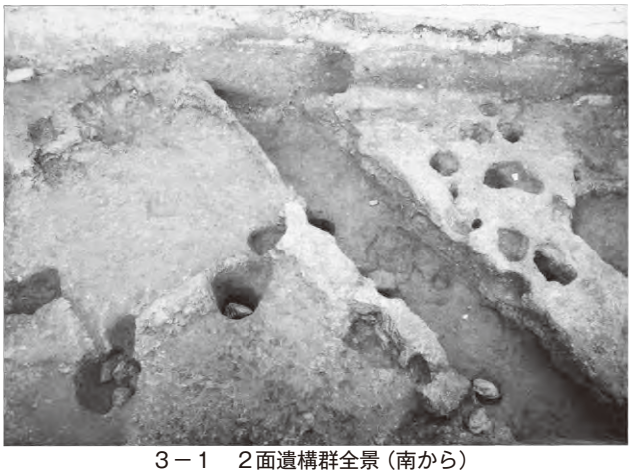


２－６　２面遺構群全景（東から）



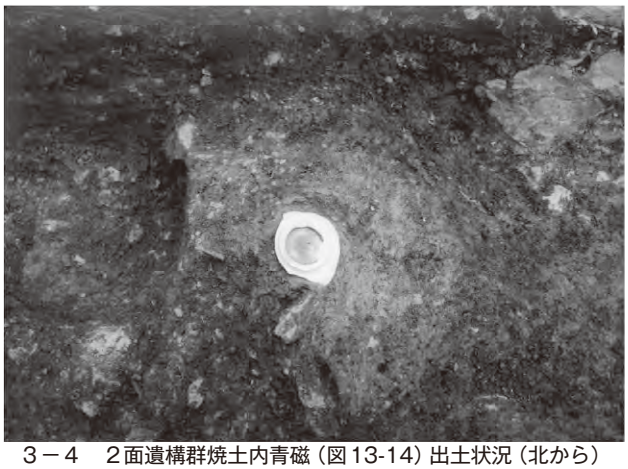
２－７　２面遺構群全景（北から）

図版３



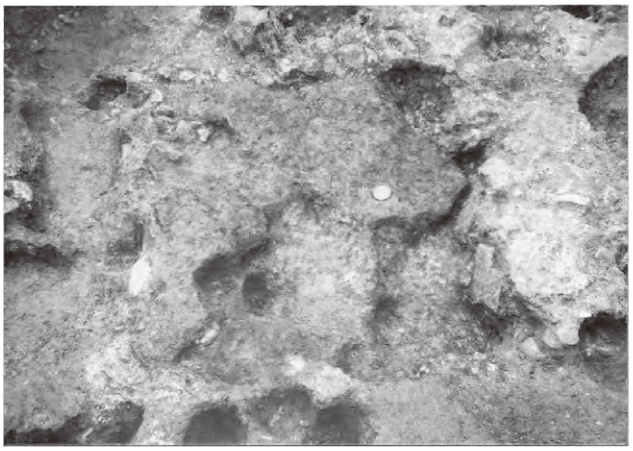
３－１　２面遺構群全景（南から）

３－２　２面遺構群溝１上層（北から）



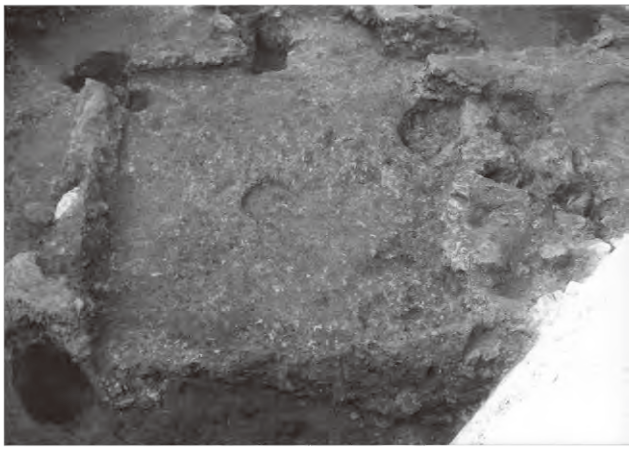
３－４　２面遺構群焼土内青磁（図13-14）出土状況（北から）

３－３　２面遺構群溝１上層（南から）

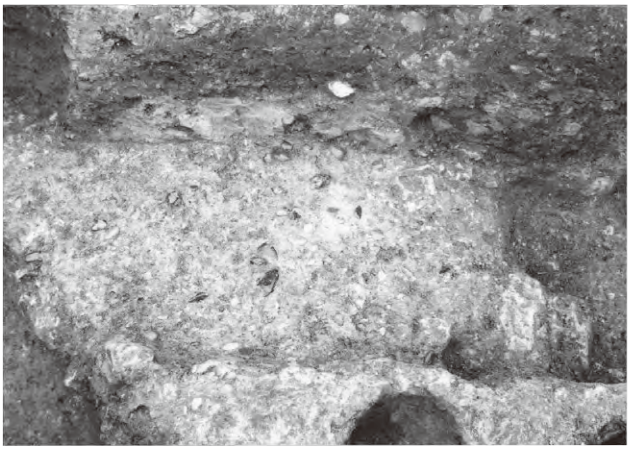


３－５　２面遺構群土坑13上層炭層（東から、遺物は図15-5）

３－６　２面遺構群土坑13完掘状況（北から）



３－７　２面遺構群土坑13完掘状況（北東から）

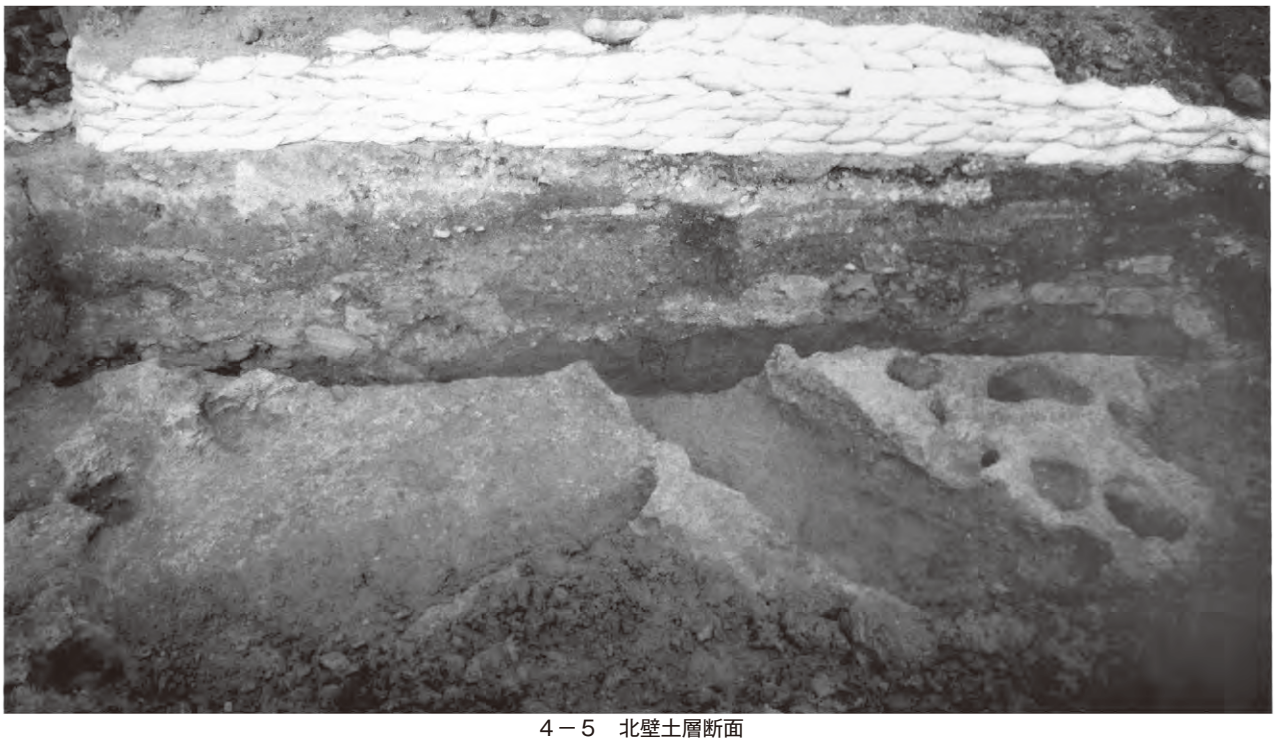


４－１　北壁際最終トレンチ内集石（３面）出土状況（南から）

４－２　北壁際最終トレンチ（東から）

４－３　北壁際最終トレンチ大溝内木製品出土状況（南から）

４－４　北壁際最終トレンチ大溝内木製品出土状況（南から・拡大）



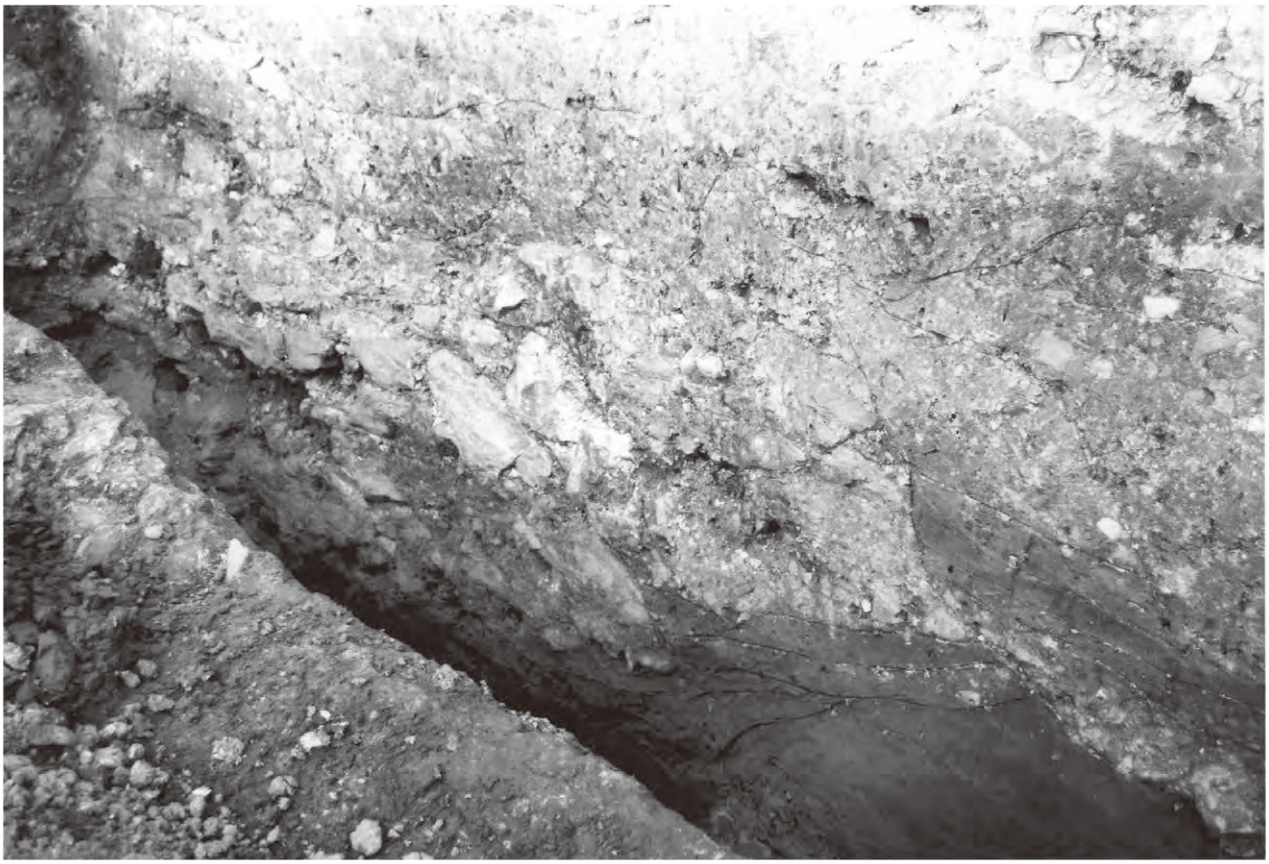
４－５　北壁土層断面

図版５

５－１　北壁土層断面（中央）

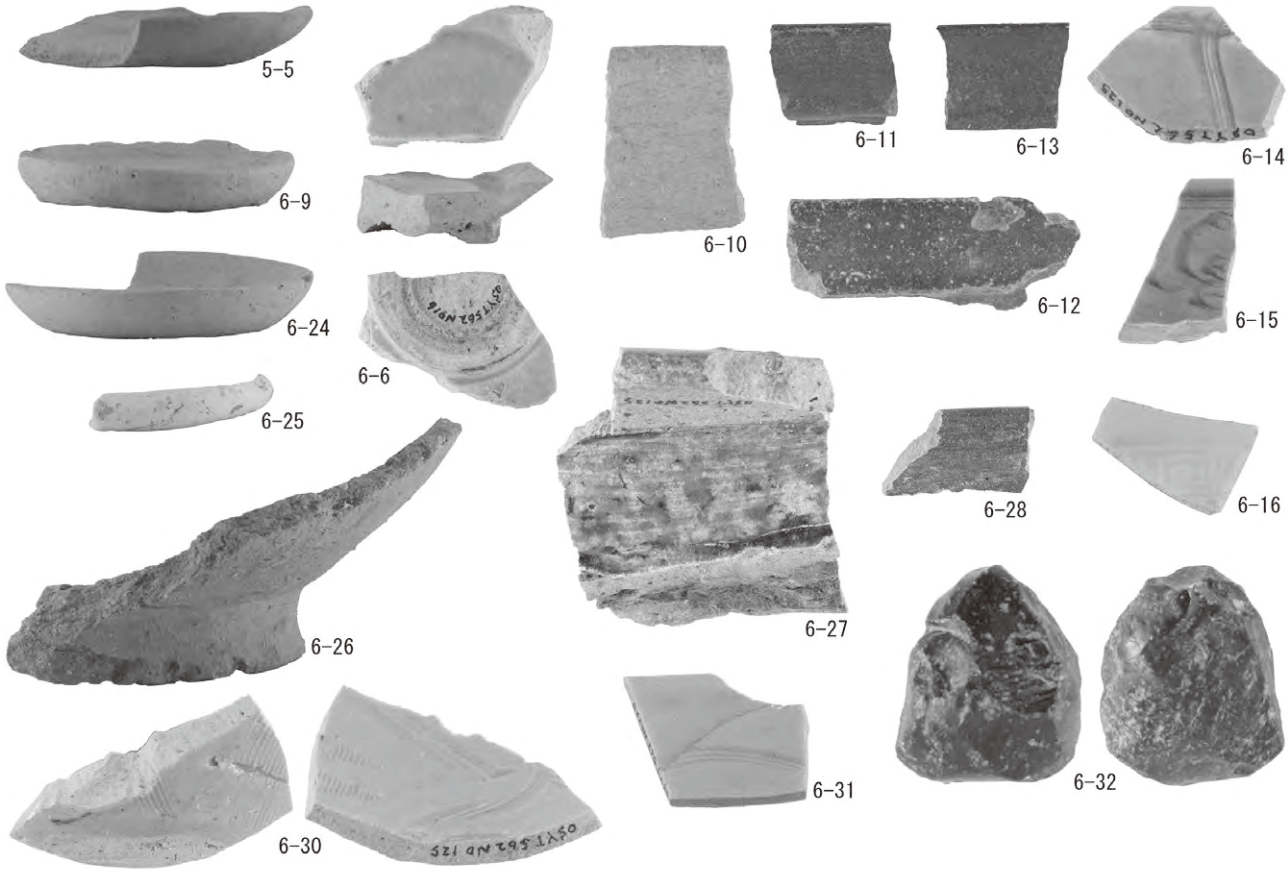
５－２　北壁土層断面（東側）

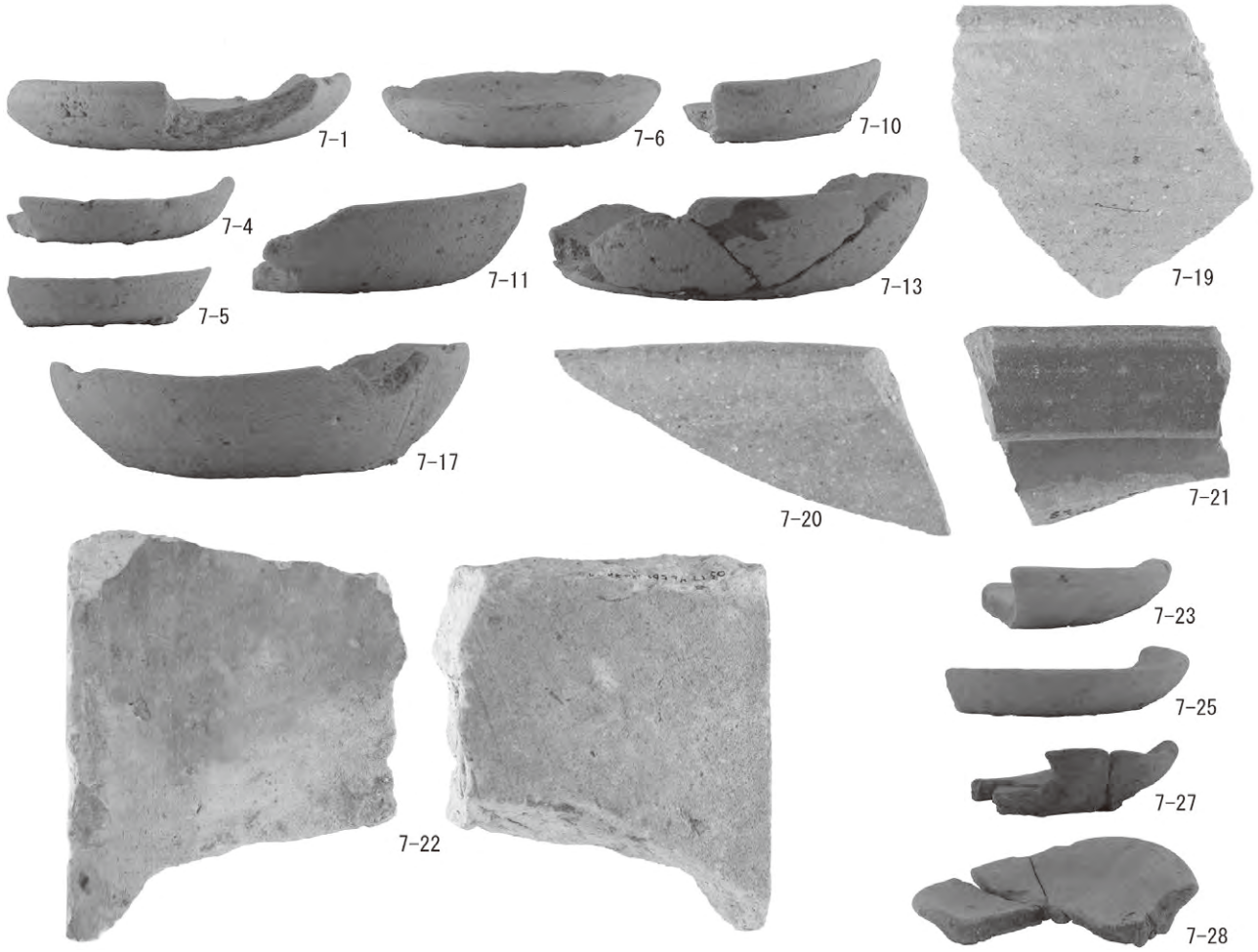
６－１　北壁土層断面（土塁状遺構と大溝）①



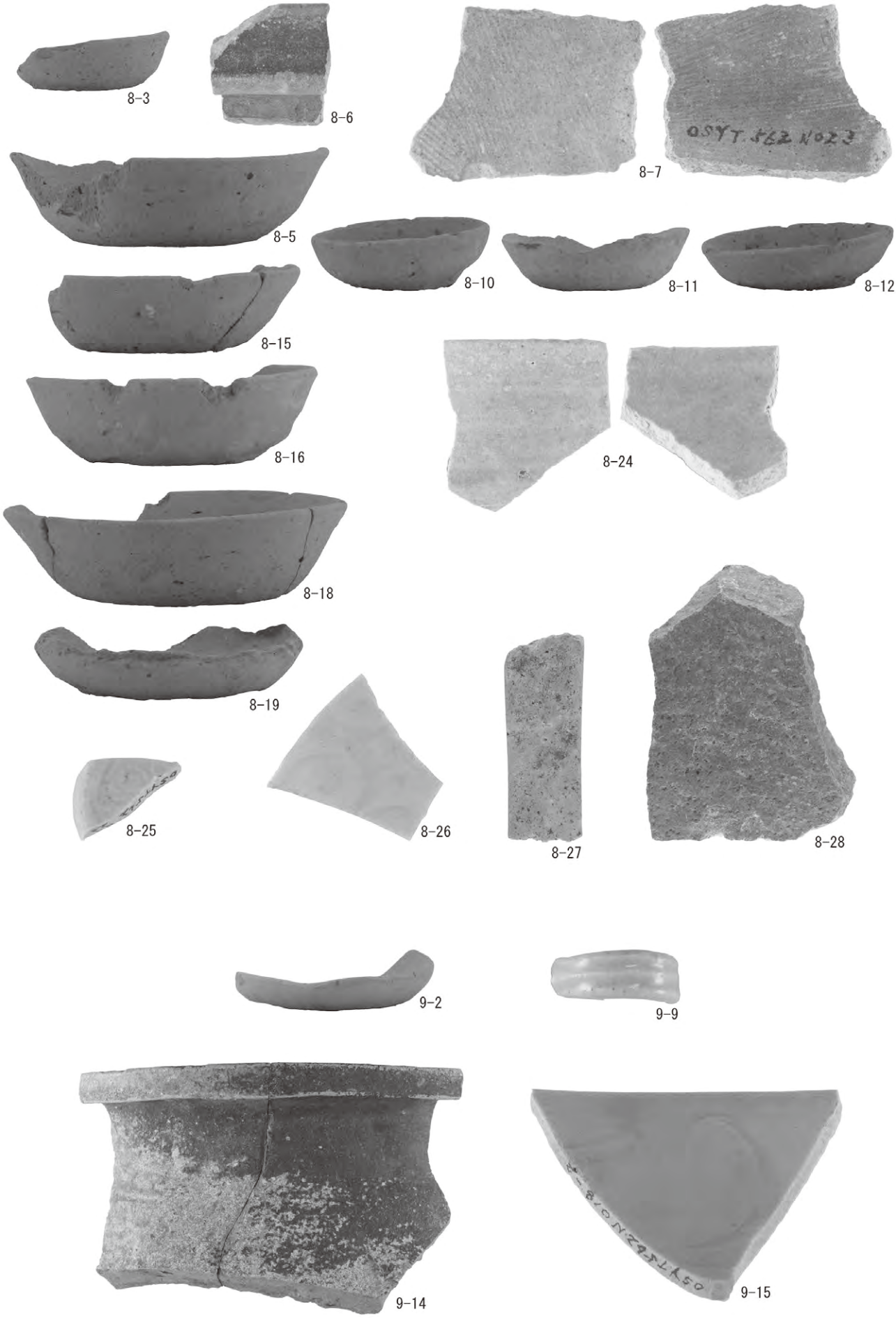
６－２　北壁土層断面（土塁状遺構と大溝）②

図版７


5-5
6-9
6-24
6-25
6-26
6-6
6-10
6-11
6-13
6-14
6-12
6-15
6-28
6-16
6-27
6-31
6-32
6-30

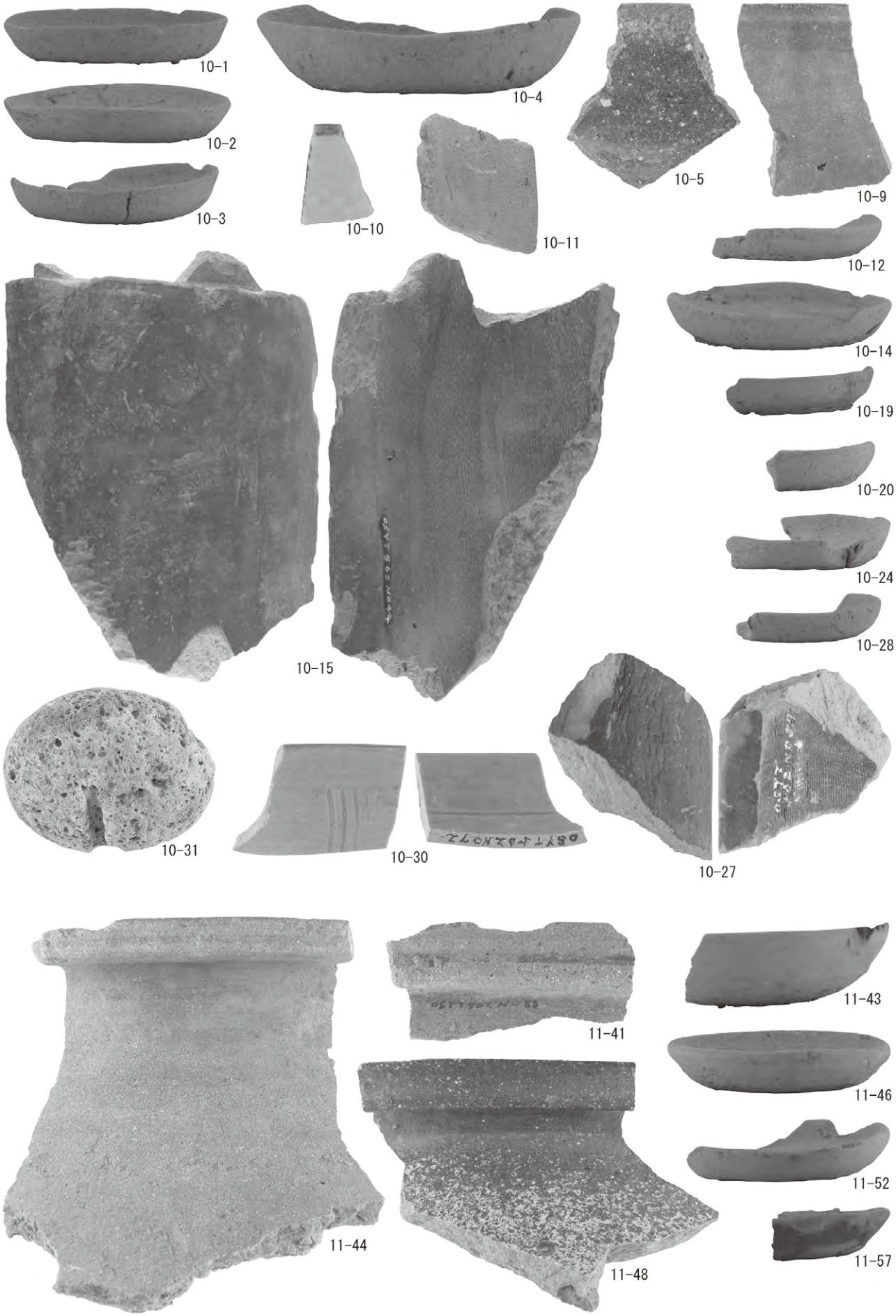

7-1
7-6
7-10
7-4
7-5
7-11
7-13
7-19
7-17
7-20
7-21
7-22
7-23
7-25
7-27
7-28

出土遺物１

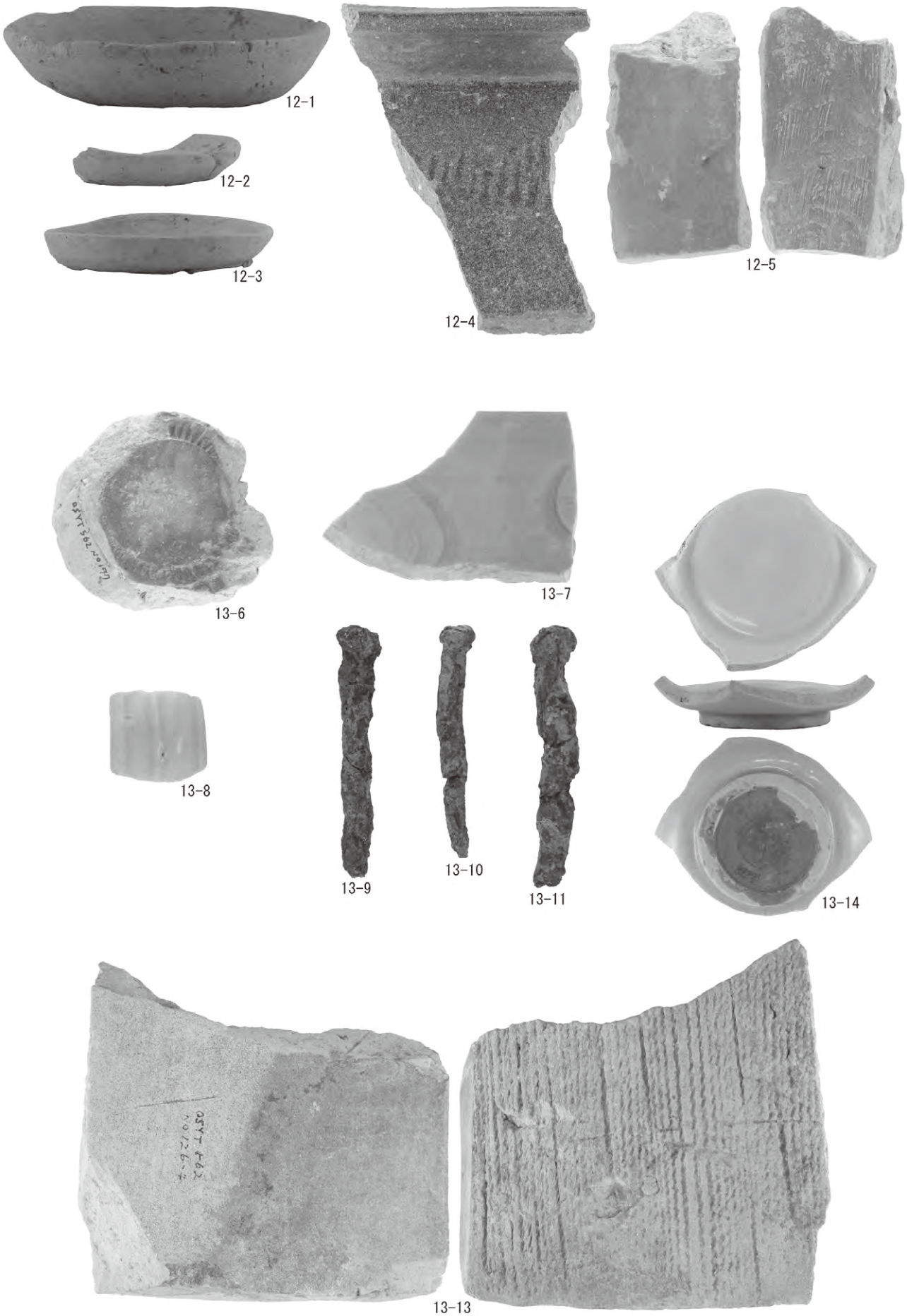

8-3
8-6
8-7
8-5
8-10
8-11
8-12
8-15
8-16
8-24
8-18
8-19
8-25
8-26
8-27
8-28
9-2
9-9
9-14
9-15

出土遺物２

図版９

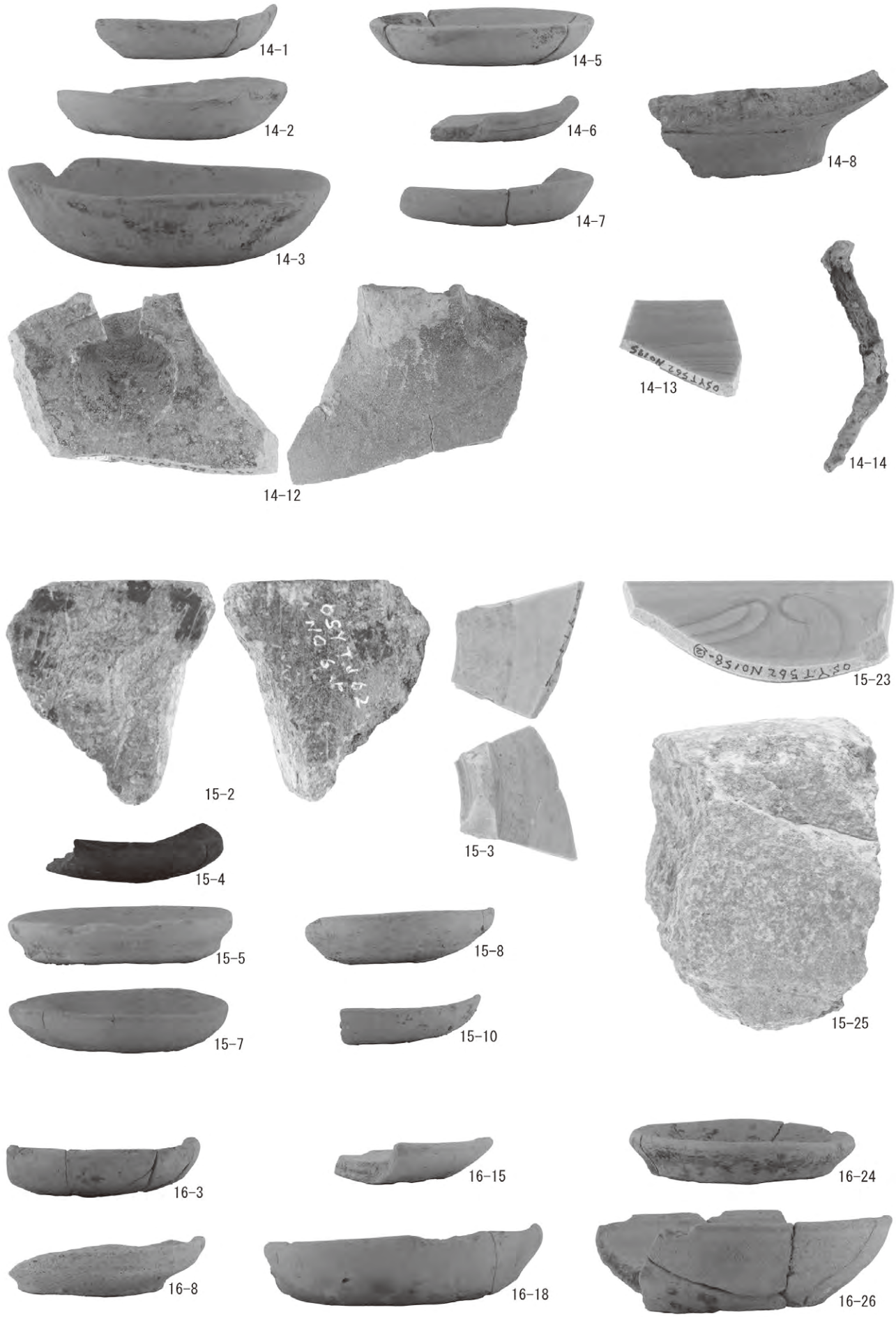

10-1
10-2
10-3
10-4
10-5
10-9
10-10
10-11
10-12
10-14
10-15
10-19
10-20
10-24
10-28
10-27
10-30
10-31
11-41
11-43
11-44
11-46
11-48
11-52
11-57

出土遺物３



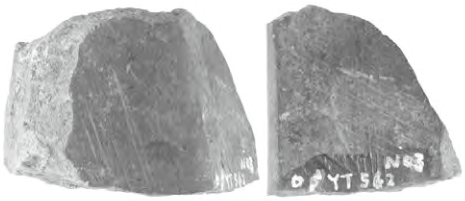
出土遺物４

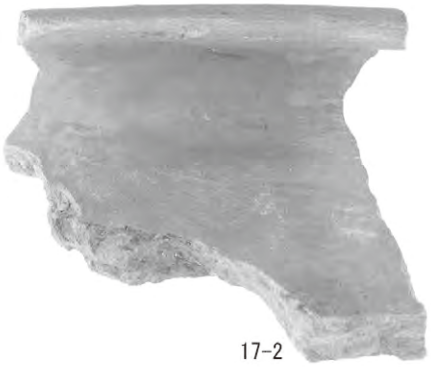
図版11


14-1
14-5
14-2
14-6
14-8
14-3
14-7
14-13
14-14
14-12
15-2
15-23
15-3
15-4
15-5
15-8
15-7
15-10
15-25
16-3
16-15
16-24
16-8
16-18
16-26

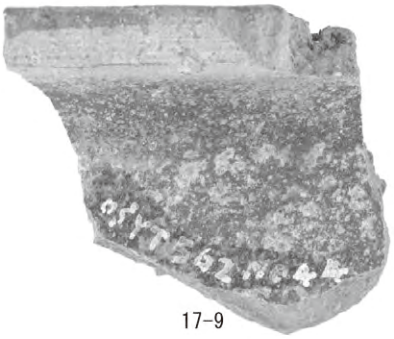
出土遺物５

17-1


17-3

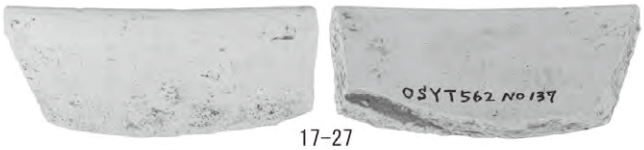

17-2

17-12


17-9

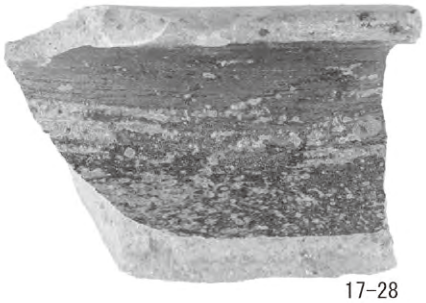
17-17

17-19


17-27

17-22

17-34


17-28

17-35

17-36

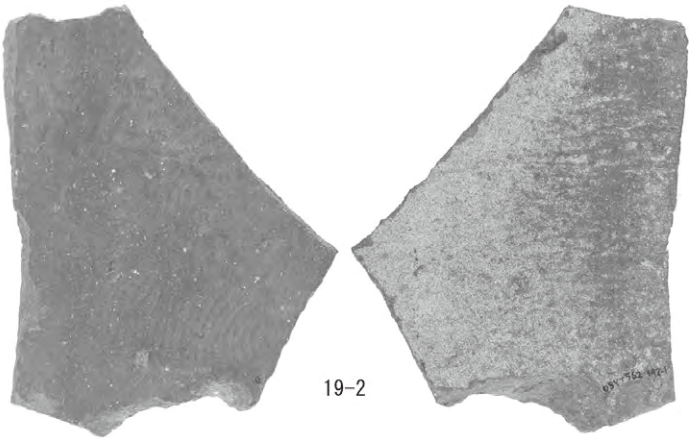
18-1

18-3

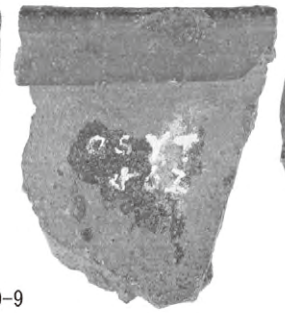
出土遺物6

図版13

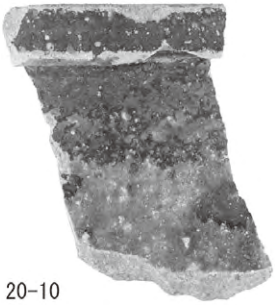
19-1


19-2

20-9

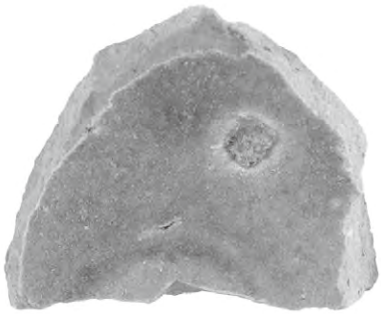


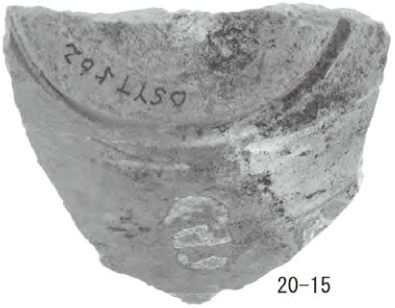
20-10

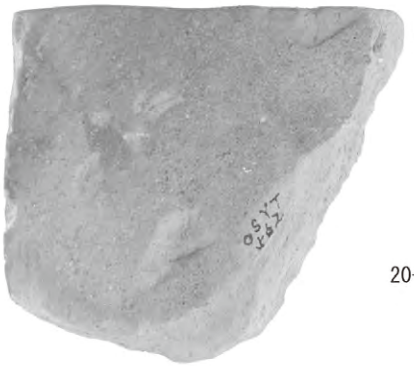


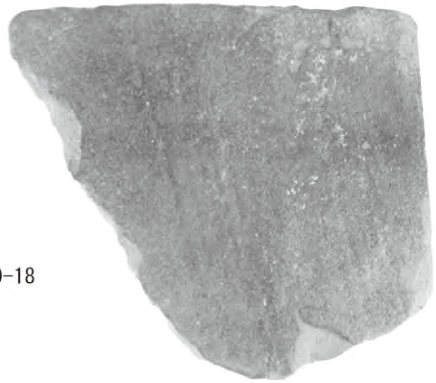
20-11

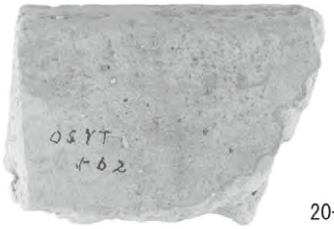
20-12




20-15


20-18




20-19

表採・高麗青磁

20-20

出土遺物７

若宮大路周辺遺跡群（No.242）

わかみやおおじしゅうへんいせきぐん

大町一丁目 1034 番 9 地点

例　言

1．本報告は、鎌倉市大町一丁目1034番9において実施した若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市No.242）の発掘調査報告である。

2．発掘調査は平成22年８月18日から同年11月５日にかけて、店舗併用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、79.81㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

主任調査員　　押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調　査　員　　岡田慶子、渡辺美佐子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調査補助員　　佐藤ななみ、椎木達哉（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
作　業　員　　牛嶋道夫、中須洋二、大塚尚城、根市真古人
（公益社団法人　鎌倉市シルバー人材センター）
整理作業参加者　押木弘己、遠藤綾子、佐藤千尋、吉田麻子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
天野隆男、串田健一、倉澤六郎、高橋こう子、高山譲二、 松岡信喜
（公益社団法人　鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告では世界測地系（第Ⅸ系）の国家座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23年3月11日以前の測量基準点を基に測量・作図したため、座標値は東日本大震災後の地殻変動に対応した補正値となっていない。

5．本報告の執筆と編集は、押木が行った。

6．本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。

7．本報告の作成に当たり、次の諸氏からご教示を賜った（敬称略）。
古田土俊一（浄光明寺）・汐見一夫（鎌倉市教育委員会）

8．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＷＡ１００６」とし、出土品への注記などに使用した。

目　次

本　文　目　次

第一章　遺跡の位置と歴史的環境 ……161

第二章　調査の方法と経過 ……163

第１節　調査に至る経緯
第２節　調査の方法
第３節　調査の経過

第三章　基本土層 ……164

第四章　発見された遺構と遺物 ……170

第１節　１面の遺構と遺物
第２節　２面の遺構と遺物
第３節　３面の遺構と遺物
第４節　４面の遺構と遺物

第五章　調査成果のまとめ ……193

挿　図　目　次

図１　調査地の位置……162
図２　調査区配置図……163
図３　調査区セクション図①……165
図４　調査区セクション図②……167
図５　調査区セクション図③ ……169
図６　１面 全体図……171
図７　１面 個別遺構図……172
図８　２面 全体図……173
図９　２面 個別遺構図①……174
図10　２面 個別遺構図②……175
図11　３面 全体図……177
図12　３面 個別遺構図……178
図13　４面 全体図……179
図14　４面 個別遺構図……180
図15 表土～１面 出土遺物①……181
図16 表土～１面 出土遺物②……182
図17　１面遺構 出土遺物①……183
図18　１面遺構 出土遺物②……184
図19　１面下～２面 出土遺物① ……185
図20　１面下～２面 出土遺物② ……186
図21　２面遺構 出土遺物①……187
図22　２面遺構 出土遺物②……188
図23　２面遺構130・138 出土遺物……189
図24　２面下～３面 出土遺物……190
図25　３面遺構 出土遺物……191
図26　３面 道１c下～４面（地山面）
・３面 遺構18 出土遺物……192
図27　３面下～４面（地山面）
・４面遺構 出土遺物……192
図28 線刻画（階調反転）……194

表　目　次

表１　出土遺物観察表……195
表２　出土遺物カウント表・計量表……204

図　版　目　次

図版１……233
１．現地調査前（南から）
２．表土掘削作業（北東から）
３．Ⅰ区 第１面
（南西から・○印は線刻硯の出土位置）
４．第１面 遺構10線刻硯出土状況
５．Ⅰ区 第４面（北東から）
６．第３面 遺構18（第４面検出時、南西から）
７．Ⅰ区 南壁断面（北東から）
８．Ⅰ区 地山砂質土面（東から）
図版２……234
１．Ⅱ区 第１面（北東から）
２．Ⅱ区第１面 道路１a（北東から）
３．道路１a 路盤内遺物出土状況
４．道路１a ～１b 掘り下げ時断面（南西から）
５．Ⅱ区第１・２面 道路１a・
遺構10断面（南西から）
６．Ⅱ区 第２面（北東から）
７．Ⅱ区第２面 道路１b（北東から）
図版３……235
１．Ⅱ区 第３面（北東から）
２．Ⅱ区 第４面（北東から）
３．Ⅱ区 第４面（東から）
４．Ⅱ区第４面 遺構18（南西から）
５．Ⅱ区 地山砂質土面（北東から）
６．Ⅲ区 第１面（北東から）
７．Ⅲ区 第２面（北東から）
８．Ⅲ区第２面 遺構130・138断面（南西から）
図版４……236
１．Ⅲ区第２面 遺構130（北東から）
２．遺構130 底面清掃作業（北から）
３．Ⅲ区第２面 遺構130・138断面（西から）
４．遺構130 床下埋甕（南西から）
５．Ⅲ区第２面 清掃作業（北から）
図版５……237
１．Ⅲ区第２面 遺構138（北西から）
２．遺構138断面（南西から）
３．遺構138断面（北東から）
４．遺構138 床下土坑（南西から）
５．Ⅲ区 第４面（北東から）
図版６……238
１．第２面道路１b（北東から）
２．第２面道路１b 路面上貝砂
３．地山砂中の貝層
４．道路１c下～地山面 断面（南西から）
５．道路１a ～地山面 調査区北壁断面（南西から）
６．Ⅲ区 道路１下 第４面（北東から）
７．第４面 遺構160断面（南西から）
８．第４面 遺構160（南東から）
図版７～10 出土遺物……239

凡　例

１．挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
２．本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅸ系：東日本大震災後の補正前）に基づいている。
３．挿図に示した方位標は座標北（Ｙ軸）で、真北はこれより0°09′25″ほど東に振れている。
４．遺構挿図中の水糸高は、海抜値を示す。

第一章　遺跡の位置と歴史的環境

本地点は若宮大路の東側に位置し、下馬交差点から至近の位置にある。かつて若宮大路には上・中・下3本の「下馬橋」が懸かっていたといい、現在の下馬交差点近辺には下の下馬橋が存在していたと考えられている。ちなみに、上の下馬橋は鶴岡八幡宮社頭の赤橋に比定、中の橋は二の鳥居前に存在したとする理解が一般的である。下馬は社寺や貴人への敬意や礼節を表す行為であり、八幡宮への参詣道たる若宮大路の性格を象徴的に表す名称といえる。

「下の下馬」は、若宮大路と笹目から名越方面へと通じる東西道路（大町大路）とが交差する場所に位置しており、『吾妻鏡』建保元年（1213）五月二日条は、この東側が「若宮大路米町口」と呼ばれていたことを伝えてくれる。また、建長三年（1251）十二月三日条と文永二年（1265）三月五日条からは幕府が鎌倉中での商業活動を七地区に限定許可したことが知られるが、この中には大町や米町（穀町）・小町など当地付近の地名も多く含まれている。こうした史料上の記載を裏付けるものか、周辺の発掘調査では手工業生産との関わりを示す知見も得られており、商行為に付随する生産（職能）活動がこの地域一帯で行われていた状況を想起させる。その一方で、『吾妻鏡』などからは当地付近に御家人屋敷も少なからず存在していた様子が窺える。当地点とは距離的にやや隔たりがあるが、米町遺跡の一地点では鎌倉時代の寺院または武家屋敷としての様相が確認されており、当地区が庶民の居住・生業一辺倒の場ではなかったことが発掘成果によっても追認されている。周辺の発掘調査では、破砕泥岩を用いた道路跡が随所で発見されているが、こうした大小規模の道路が鎌倉の交通機能とともに土地区画の役割も担っていたことは容易に推察できる。そして道路や溝、塀によって細分された区画ごとに庶民活動・居住の場としての町屋と武家屋敷あるいは寺院の混在する都市景観が鎌倉時代を通じて形づくられていったのだろう。

当地区の町屋としての賑わいは、中世後期になっても続いたようである。相模原市津久井の光明寺に残る明応六年（1497）七月二十五日付「善法（宝）寺分年貢注文」は、大町地区の米町や中座に青物屋、紙屋、塗師、銀細工などの商工業者が存在したことを伝えており、同時期の製作と考えられる「善寶寺寺地図」は、本地点付近の様子を詳細に描写している。それによれば、「置石」（段葛）の東側に滑川を渡る橋（延命寺橋）と民屋と思しき家並が続き、そこに「米町」と注記されている。その北に「善寶寺之地」と記された長方形の区画が見え、本地点もこの区画内に位置したと考えられる。「善寶寺之内」は滑川を挟んだ北岸にも広がっており、同寺が北は本覚寺、西は若宮大路、南は大町大路、東は小町大路によって画された広大な寺域を保有していたことが分かる。こののち善寶寺は廃寺となり、善昌寺（廃寺）を経て江戸前期の延宝六年（1678）には材木座光明寺境内にあった教恩寺が移され現在に至っている。

現在、鎌倉の市街地を貫く滑川は本地点の北で扇川と合流し、佐助川など丘陵部の谷戸に端を発する小流もこの周辺に集まっている。このことからも分かるように、下馬交差点の付近は鎌倉の沖積平野においても一際低い土地となっている。本地点は海抜6.5ｍの微高地上に立地し、現況で下馬交差点より2.7ｍほど高い（図1）。こうした土地条件のため本地点の地下水位は低く、故に木材などの有機質遺物は殆ど遺存していなかった。

中世の基盤層となる黒褐色粘質土は海抜5.2ｍ前後で確認され、南と西に向けて僅かに下がっていく状況が見て取れた。これ以下の堆積は明褐色の砂質土～砂層へと漸移していき、海抜3.8ｍで貝殻粒を多量に含む黄褐色砂層の堆積を確認した。約6000年前とされる、縄文時代前期の最海進時に形成されたものであろう。

【参考文献は第５章末（194頁）に掲載した】

Japan
Kanagawa Pref.
Kamakura City
若宮大路周辺遺跡群
（No.242）
若宮大路周辺遺跡群
（No.242）
若宮大路
滑川
小町大路
本地点
下馬周辺遺跡
（No.200）
下馬周辺遺跡
（No.200）
米町遺跡
（No.245）
0
50
100m
（1/2500）

図１　調査地の位置

第二章　調査の方法と経過

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は店舗併用住宅の建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会（市教委）が実施した。建築計画では基礎工事として現地表下3.5ｍまでの柱状改良を施すことから、市教委は平成22年1月19日と20日の二日間にわたって埋蔵文化財の確認調査を実施した。この結果、地表下50cmで中世の遺物包含層が検出され、地表下80cm、104cm、118cm、150cmでも中世遺構面と思しき堆積層が確認された。さらに下位にも中世遺構の存在を予測させる結果が得られたことから、建築計画の実施に先立ち本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

以上の手続きを経て、平成22年8月18日～11月5日の約2ヶ月半をかけて現地での調査を実施した。

第２節　調査の方法

重機による表土除去後、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から79.81㎡の範囲を三分割して調査を進めた（図2）。Ⅱ区西端部で遺存状態の良好な南北道路遺構が確認できたことから、道路幅などの全体像を視覚的に捉えるべく、続くⅢ区に着手するまで同遺構を残すこととした。

今回は大きく4枚の中世遺構面を確認したが、各区とも中世基盤層上の第4面の調査まで終えた後、同基盤層である黒褐色粘質土層から暗黄灰色砂質土上面まで掘り下げて古代以前の遺構・遺物について確認を試みた。その結果、いずれの調査区でも遺構・遺物の検出には及ばなかった。

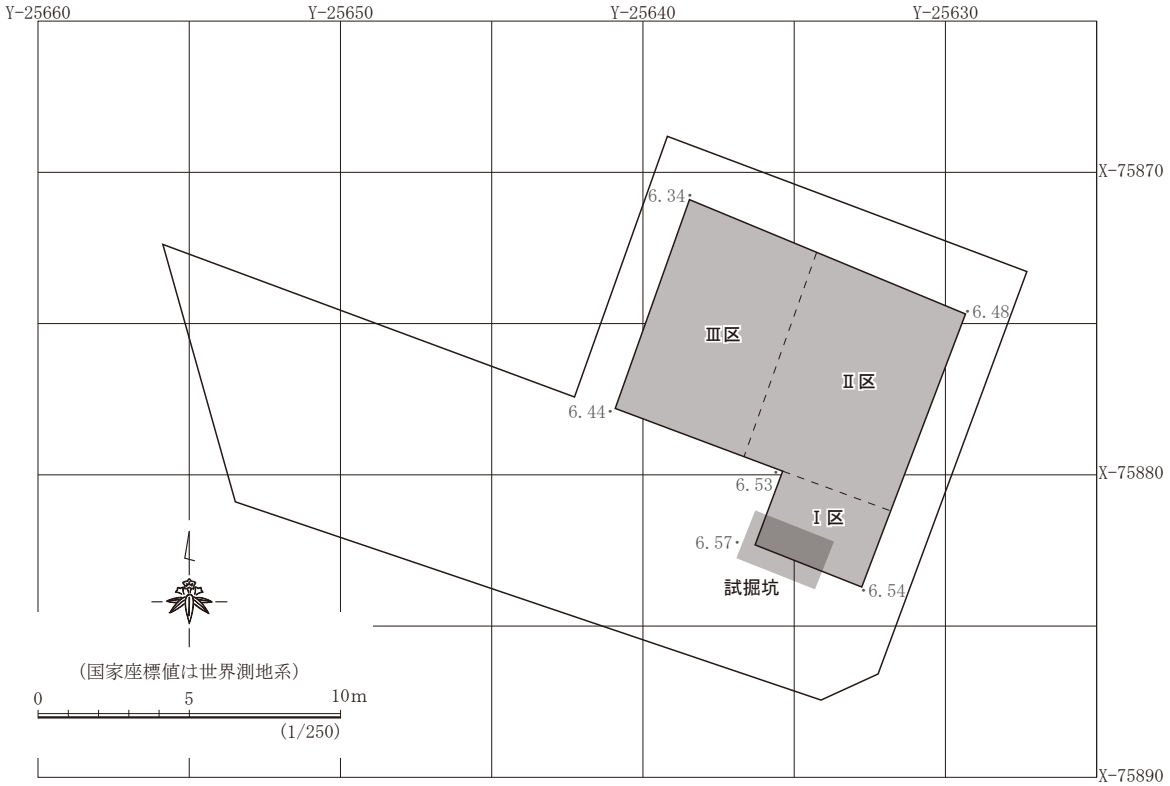


図２　調査区配置図

各調査区とも遺物包含層以下は全て人力によって掘削し、順次下層遺構面への掘り下げと遺構掘削、および写真撮影・測量図作成といった記録作業を進めた。測量に当たっては国家座標系に基づく基準軸を設定し、主に光波測距儀を用いて平面図の作図を行った。座標移動は市道上に設置された鎌倉市4級基準点「D01U129」と「D01U130」の座標値を国土地理院発行のweb版「TKY2JGD」で世界測地系（第Ⅸ系）に変換した後、二点間関係をもとに開放トラバース法によって行った。なお、図2に示した座標値は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災後の補正値とはなっていない。

第3節　調査の経過

前述のとおり、本地点の調査は平成22年8月18に開始した。Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ区の順に調査を進め、Ⅰ区は9月6日に、Ⅱ区は10月7日に、Ⅲ区は11月4日に調査を終えた。11月5日には調査用具を撤収し、現地での調査工程を全て終了した。

出土品などの整理作業は、平成26年度末に遺物実測に着手し、27年度前半には挿図および写真図版の作成、次いで表組みの作成・本文執筆へと作業を進めた。これら一連の整理作業は、鎌倉市文化財課分室で行った。

第三章　基本土層

中世の遺構群は海抜5.2ｍ前後の黒褐色粘質土上面を基盤とし、盛土造成と竪穴建物・土坑等の掘削を繰り返しながら形成されていた。中世基盤層上の4面から標高6.1ｍ付近の1面まで、大きく4枚の遺構面が確認できた。造成土および遺構覆土は暗褐色砂質土がベースで、これに泥岩のブロックや粒子が多く含まれる。黒褐色粘質土を取り除いた標高4.8ｍ前後では暗黄灰色砂質土の堆積が確認された。今回の調査ではこれより下位への掘削は行わなかったが、中世竪穴建物の掘り方壁面では貝殻粒を多く含む黄褐色砂層が確認されている。貝殻の粒径や含有量の違いによる間層も見受けられ、それらは概ね南へ向けて緩やかに下がっていた。地質学的裏付けをもたないが、おそらく縄文海進に伴い形成された砂層ではないかと考えている。

次章でも述べるように、本地点では調査区の中央を南北に縦貫する中世の道路遺構が連綿と築かれていたが、これを挟んだ東西で検出遺構の形態が大きく異なり、道路以東は土坑や井戸を主体とし、以西では竪穴建物が繰り返し構築されていた。このため、調査区全域を通じて遺構面の把握が困難であった中、道路以東では竪穴建物の重複によって1面以下、中世基盤層までの間に明確な生活面を見出すことはできなかった。こうした理由から、現地では竪穴建物群について3面遺構と捉えていたが、土層断面や遺構間の切り合い関係を検討した結果、本報告では2面段階の遺構と判断した。これに伴い、調査時に1面下や2面として記録した遺構についても、実際には1面より下位にあることが明らかであっても本報告で1面遺構に集約したものがある。土層断面および遺構間の切り合いに基づく帰属面の変更は、道路以西の遺構についても行っているが、夥しい数の遺構を4時期に大別した結果であるので、各面は厳密に同時期の遺構だけで構成されたものではなく、多少の混乱を残している。

調査区壁等の土層断面については、図3～5を参照されたい。

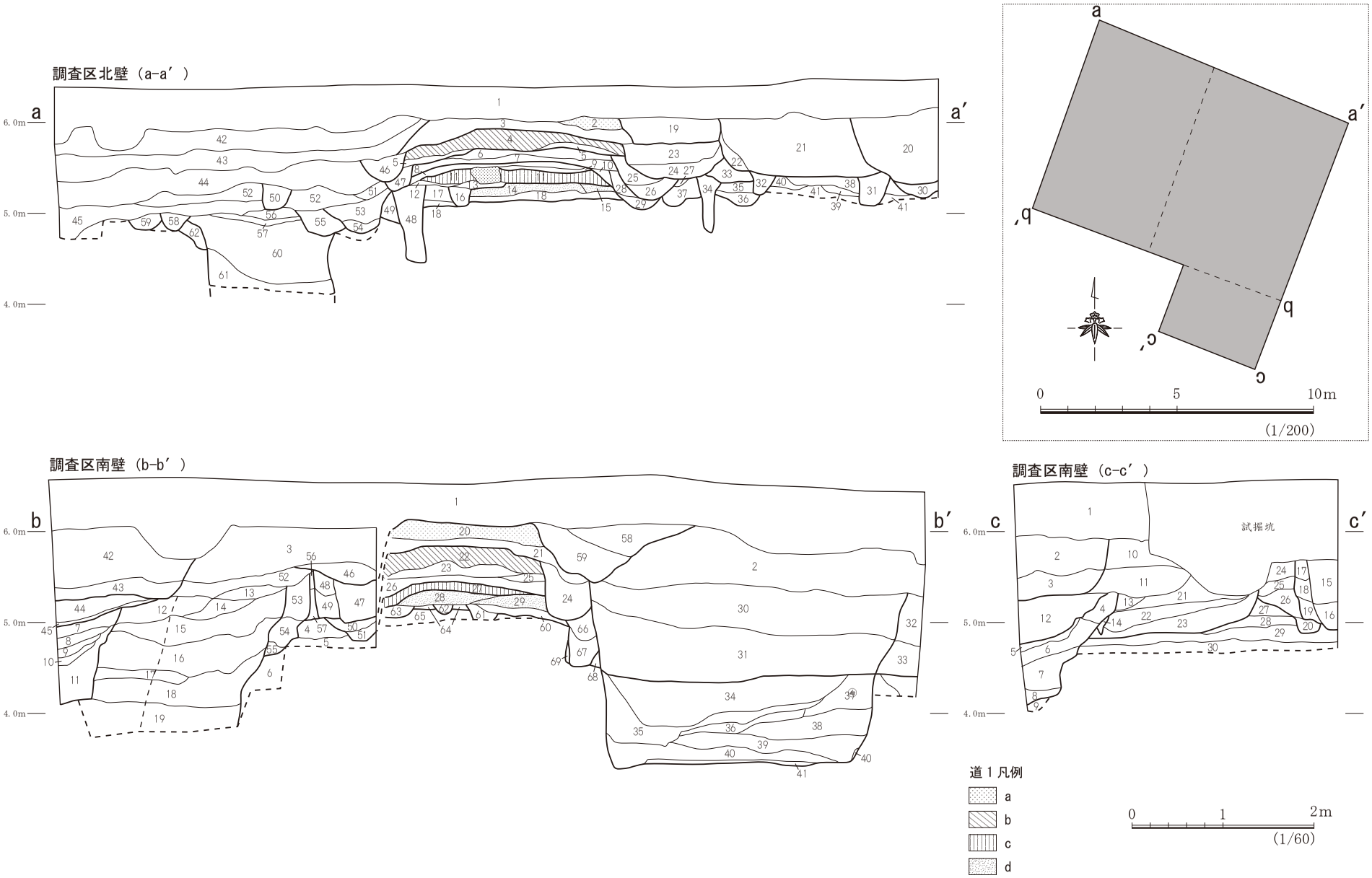


図３　調査区セクション図①

調査区北壁 (a-a′) 土層説明

1. 暗灰褐色土　表土。砂質土でコンクリート片など混入。

道1a～1d

2. 暗褐色土　砂質土。泥岩ブロック多量。
3. 暗褐色土　砂質土。2層より泥岩ブロック少ない。
4. 黄灰色土　大型泥岩による道路整地層。
5. 灰褐色土　砂質土。これに泥岩ブロックを入れて4層を構築。
6. 黄灰色土　泥岩粒による道路整地層。上面に混貝砂の薄層。
7. 暗灰褐色土　砂質土。
8. 黄灰色土　砂質土に泥岩粒と混貝砂を混ぜた整地層。
9. 暗灰褐色土　砂質土。
10. 暗灰褐色土　砂質土。泥岩粒少量。
11. 褐色砂　中粗砂。締まりややあり。
12. 黒色土　粘質土ベース。灰色砂微量。
13. 灰褐色砂　貝殻片ごく微量。締まり弱い。
14. 黄灰褐色砂　貝殻片多量泥岩粒少量。
15. 暗灰褐色土　砂質土。薄い炭層を挟む。締まり非常に強い。
16. 灰褐色砂　締まり弱い。
17. 灰褐色砂　細砂。締まり強い。
18. 暗黄灰褐色砂　細砂。酸化のため非常に締まり強い。炭粒ごく微量。

その他

19. 暗褐色土　2層より泥岩ブロック減る。
20. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。締まり弱い。
21. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。締まりあり。
22. 暗黄褐色砂　泥岩ブロックやや多い。
23. 灰褐色土　泥岩粒多い。締まり弱い。
24. 灰褐色土　砂質土。炭粒少量。
25. 暗灰褐色土　砂質土。炭粒少量。
26. 暗褐色土　泥岩ブロック多い。
27. 灰褐色土　砂質土。
28. 暗灰褐色土　砂質土。泥岩ブロック少量。
29. 暗灰褐色土　砂質土。泥岩ブロックやや多い。
30. 暗黄褐色土　砂質土。炭粒少量。
21. 暗褐色土　泥岩粒少量。粘性ややあり。
32. 暗褐色土　泥岩粒少量。粘性ややあり。
33. 暗黄褐色土　泥岩粒少量。
34. 暗褐色土　粘質土。泥岩粒、黄色さ砂少量。
35. 暗黄褐色土　砂質土。炭粒少量。締まり弱い。
36. 黄色褐色土　砂質土。35層より炭粒減る。締まり弱い。
37. 暗灰褐色土　粘質土。黄灰色砂を多く含む。
38. 暗褐色土　炭化物多量。締まり弱い。
39. 暗褐色土　粘質土。炭粒少量。
40. 暗褐色土　粘質土。黄色砂、炭粒少量。
41. 黄褐色砂　均質な微細砂。
42. 暗褐色土　泥岩粒少量。締まりあり。
43. 暗褐色土　泥岩粒少量。
44. 暗褐色土　泥岩粒多量。締まり、粘性あり。
45. 暗褐色土　砂質土。泥岩粒ごく微量。
46. 暗褐色土　泥岩粒少量。
47. 暗褐色土　泥岩粒ごく微量。締まり、粘性ややあり。
48. 暗褐色土　砂質土。
49. 黒褐色土　粘質土ベース。泥岩粒ごく微量。
50. 暗褐色土　泥岩粒多量。
51. 暗褐色土　砂質土。
52. 暗褐色土　砂質土。泥岩粒ごく微量。
53. 黒褐色土　粘質土ベース。砂粒少量。
54. 黒褐色土　粘質土ベース。56層より砂粒減る。
55. 黒褐色土　粘質土ベース。砂粒少量。
56. 黒褐色土　粘質土ベース。混貝微砂粒少量。
57. 暗黄褐色砂　混貝微砂。
58. 黒褐色土　粘質土ベース。砂粒、炭粒ごく微量。
59. 黒褐色土　粘質土。締まり弱い。
60. 暗褐色土　砂質土。粘性ややあり。炭粒少量。
61. 黄褐色砂　粗砂。
63. 暗褐色土　粘質土＋砂。泥岩粒ごく微量。

調査区南壁 (b-b′) 土層説明

1. 暗灰褐色土　表土。砂質土でコンクリート片など混入。
2. 黒色土　粘質土ベース＋炭。締まり、粘性あり。西壁8層。
3. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒多い。
4. 黒灰色土　粘質土ベース＋砂粒微量。
5. 暗黄灰色土　粘質土。
6. 黄灰色砂　粘質土が斑文状に混入。

遺構14･17

7. 暗褐色土　砂質土。炭粒多い。
8. 暗褐色土　砂質土。炭粒多い。
9. 暗褐色土　泥岩粒多い。
10. 暗灰褐色土　砂質土。炭粒多い。
11. 暗灰褐色土　泥岩粒、炭粒少量。

遺構18

12. 暗褐色土　泥岩粒少量。締まりあり。
13. 暗褐色土　泥岩粒少量。
14. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。
15. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒少量。
16. 暗褐色土　泥岩粒少量、炭粒やや多い。
17. 暗褐色土　泥岩粒少量。粘性ややあり。
18. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒、貝殻片少量。
19. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒、貝殻片少量。

道1a～1d

20. 暗褐色土　泥岩ブロック多い。
21. 暗褐色土　砂質土。締まり弱い。
22. 黄褐色土　泥岩ブロックによる整地層。
23. 暗褐色土　砂質土。貝殻片少量。
24. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。**道1b側溝**
25. 黒褐色土　砂質土。炭粒多量、貝殻片少量。
26. 黒褐色土　砂質土。炭粒多量。
27. 暗褐色土　泥岩粒少量、貝殻片多量。締まり非常に強い。
28. 暗褐色土　砂質土。貝殻片少量。締まり強い。
29. 暗褐色土　砂質土。泥岩粒、貝殻片少量。締まり強い。

遺構131

30. 暗褐色土　泥岩ブロックやや多い。
31. 暗褐色土　泥岩ブロック、貝殻片多量。

遺構131西

32. 暗褐色土　泥岩粒少量。西壁31層。
33. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。西壁33層。

遺構138

34. 暗褐色土　砂質土。貝殻片少量。締まり、粘性ややあり。
35. 黒褐色土　粘質土。泥岩粒ごく微量。締まりあり。
36. 暗黄褐色土　砂質土。
37. 暗褐色土　粘質土ベース。黄色砂、貝殻片ごく微量。締まりあり。
38. 暗褐色土　粘質土ベース＋黄色砂を斑文状。締まり、粘性あり。
39. 暗褐色土　粘質土ベース。黄色砂混入。締まり、粘性あり。
40. 暗黄褐色砂　濁った混貝砂ベース。部分的に薄い炭層を挟む。
41. 黒色土　粘質土ベース。炭粒混入。締まり、粘性あり。

その他

42. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒多い。
43. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。
44. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。炭粒少量。
45. 灰褐色土　粘質土。締まり弱い。
46. 黄褐色土　砂質土。泥岩ブロック少量。
47. 黄褐色土　砂ベース＋灰色粘質土の混交土。
48. 黄褐色砂
49. 暗黄褐色土　砂粒少量。
50. 黄褐色土　砂ベース＋粘質土少量。
51. 暗灰色土　泥岩ブロック多い。
52. 暗褐色土　泥岩粒少量。
53. 暗褐色土　泥岩粒少量。
54. 黄褐色土　砂ベース＋粘質土の混交土。
55. 暗黄褐色土　粘質土ベース。砂粒少量。
56. 黄褐色土　砂ベースに粘質土少量。
57. 暗褐色土
58. 暗褐色土　泥岩ブロック微量。締まり弱い。**道1a側溝**
59. 暗褐色土　56層より泥岩ブロック減り、締まり弱い。**道1a側溝**
60. 黒褐色土　粘質土ベース＋砂。締まりあり。
61. 暗褐色土　砂質土。泥岩粒ごく微量。
62. 黒褐色土　粘質土ベース＋砂少量。
63. 暗褐色土　砂質土。
64. 暗褐色土　砂質土。締まり非常に強い。道路面の可能性あり。
65. 黒褐色土　粘質土。中世基盤層。北壁44層。
66. 暗褐色土　粘質土ベース＋砂。泥岩粒、貝殻片少量。
67. 暗褐色土　粘質土ベース＋砂。泥岩粒微量、炭粒少量。66層より締まり、粘性強い。
68. 暗褐色土　粘質土ベース。泥岩粒ごく微量。67層より締まり強い。
69. 黒褐色土　粘質土主体。砂粒、炭粒ごく微量。

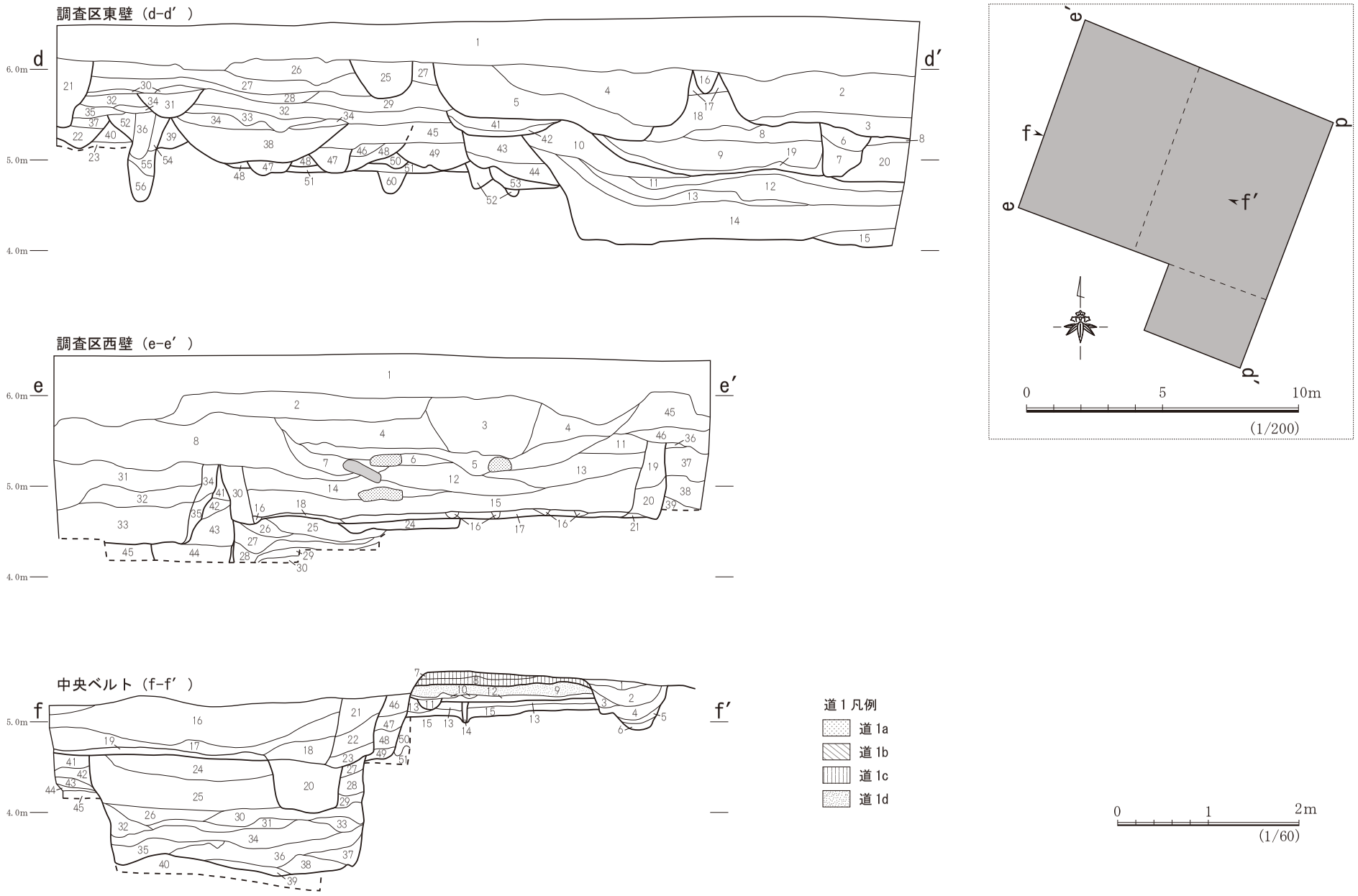


図４　調査区セクション図②

調査区南壁(c-c′)土層説明

1. 暗灰褐色土　表土。砂質土でコンクリート片など混入。
遺構3
2. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒多量。締まりややあり、粘性なし。
3. 暗褐色土　2層より泥岩粒少ない。
遺構14·17
5. 暗褐色土　砂質土。炭粒多い。東壁11層。
6. 暗褐色土　泥岩粒多い。東壁12層。
7. 暗灰褐色土　泥岩粒、炭粒少量。東壁14層。
8. 暗褐色土　泥岩粒少量。炭粒、貝殻片少量。東壁15層。
9. 黄褐色砂　自然堆積層。
その他
10.
11.
12.
13. 暗褐色土　泥岩粒少量。締まりあり。
14. 暗褐色土　やや砂質。泥岩粒少量。
15. 暗黄褐色土　泥岩粒、砂粒多量。
16. 暗黄褐色土　泥岩粒、砂粒多量。
17. 暗黄褐色土　泥岩粒、砂粒多量。
18. 暗褐色土　炭粒少量。粘性ややあり。
19. 暗黄褐色土　炭粒、貝殻片やや多い。
20. 暗褐色土　泥岩ブロック少量。粘性ややあり。
21. 黄褐色砂　粘質土が斑文状に混入。泥岩粒少量。
22. 暗褐色土　泥岩粒、砂粒、炭粒少量。粘性ややあり。
23. 暗褐色土　泥岩粒少量。粘質土ブロック混入。
24. 暗黄褐色土　砂質土。泥岩ブロック少量。
25. 暗黄褐色土　24層より砂粒少ない。泥岩粒少量。
26. 灰褐色土　砂質土。炭粒多量。
27.
28. 暗灰色土　粘質土ベース。砂粒、炭粒少量。
29. 黒灰色土　粘質土。砂粒微量。
30. 暗黄灰色土　粘質土。

調査区東壁(d-d′)土層説明

1. 暗灰褐色土　表土。砂質土でコンクリート片など混入。
遺構3
2. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒多量。締まりややあり、粘性なし。
3. 暗褐色土　2層より泥岩粒少ない。
遺構11
4. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒多い。南壁42層。
5. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。南壁43層。
遺構13
6. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒少量。締まりややあり。
7. 暗褐色土　6層より泥岩粒、炭粒減る。
遺構15·16
8. 暗褐色土　泥岩粒少量、炭粒多量。
9. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。炭粒少量。
遺構14·17
10. 暗褐色土　砂質土。炭粒多い。
11. 暗褐色土　砂質土。炭粒多い。
12. 暗褐色土　泥岩粒多い。
13. 暗灰褐色土　砂質土。炭粒多い。
14. 暗灰褐色土　泥岩粒、炭粒少量
15. 暗褐色土　泥岩粒少量。炭粒、貝殻片少量。
その他
16. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒多量。締まりややあり、粘性なし。
17. 灰褐色土　砂質土。泥岩粒少量。
18. 灰褐色砂　炭粒少量。締まりややあり。
19. 灰褐色土　粘質土。締まり弱い。
20. 暗褐色土　砂質土。泥岩粒、炭粒少量。
21. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。締まり弱い。北壁22層。
22. 暗黄褐色土　砂質土。炭粒少量。北壁32層。
23. 黄褐色砂　均質な微細砂。北壁43層。
24. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。
25. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。
26. 暗褐色土　泥岩粒多量。締まりあり。
27. 暗灰褐色土　砂質土。泥岩粒少量。
28. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。締まりややあり。
29. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。
30. 暗黄褐色土　泥岩粒、黄色砂多い。締まりややあり。
31. 暗褐色土　泥岩粒少量。
32. 暗褐色土　泥岩粒少量。締まりややあり。
33. 暗褐色土　粘性ややあり。
34. 暗褐色土　泥岩粒微量。
35. 暗褐色土　砂質土。
36. 暗褐色土　泥岩粒、炭粒少量。
37. 暗褐色土　泥岩粒少量。粘性ややあり。
38. 暗褐色土　泥岩粒少量。
39. 暗褐色土　砂質土。
40. 暗褐色土　砂質土。
41. 暗褐色土　泥岩ブロック少量。
42. 暗灰褐色土　粘質土。
43. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。
44. 暗褐色土　泥岩粒少量。
45. 暗褐色土　泥岩粒微量。
46. 暗褐色土　泥岩粒多量。締まりあり。
47. 暗黄灰色土　粘質土と黄灰色砂の混交土。
48. 暗黄灰色土　47層より黄灰色砂減る。炭粒少量。
49. 暗褐色土　砂質土。泥岩粒、炭粒少量。
50. 暗褐色土　砂質土。粘性ややあり、締まり弱い。
51. 暗褐色土　締まりややあり。
52. 黒灰色土　粘質土ベース＋黄灰色砂。粘性ややあり、締まり弱い。
53. 暗褐色土　泥岩粒、黄灰色砂ブロック少量。
54. 暗褐色土　泥岩粒微量。
55. 暗褐色土　砂質土。粘性ややあり、締まり弱い。
56. 黒灰色土　黄灰色砂少量。粘性あり、締まり弱い。

調査区西壁(e-e′)土層説明

1. 暗灰褐色土　表土。砂質土でコンクリート片など混入。
2. 暗褐色土　泥岩粒少量。締まり弱い。
3. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。
4. 暗褐色土　泥岩粒少量。
5. 暗褐色土　泥岩粒少量。炭粒微量。
6. 暗褐色土　泥岩粒少量。炭粒やや多い。
7. 暗褐色土　泥岩粒少量。部分的に炭粒多い。
8. 暗褐色土　泥岩粒微量。締まりあり。
9. 暗褐色土　泥岩粒少量。締まりあり。北壁45層。
10. 暗褐色土　泥岩粒少量。北壁46層。
遺構130
11. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。
12. 暗褐色土　泥岩ブロック多量。炭粒やや多い。
13. 暗褐色土　泥岩ブロック少量。
14. 暗褐色土　貝殻片、泥岩粒多い。中央ベルト16層。
15. 黒褐色土　14層より貝殻片、泥岩粒減る。中央ベルト17層。
16. 暗褐色土　締まり弱く粘性ややあり。遺構130根太痕。
17. 暗褐色土　砂質土。
18. 灰褐色砂　締まりややあり。貝殻粒、炭粒少量。中央ベルト19層。
19. 暗褐色土　泥岩粒少量。
20. 暗褐色土　砂質土。泥岩粒微量。
21. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。締まりあり。
22. 暗褐色土　粘性ややあり。
23. 暗褐色土　泥岩粒少量。
遺構130下
24. 黒褐色土　粘質土ベース。微量の灰色砂が斑文状に混入。
25. 暗褐色土　粘性ややあり。泥岩粒、炭粒微量。
26. 黒褐色土　粘質土ベース。黄色砂と泥岩粒ごく微量。
27. 暗褐色土　25層よりやや明るく、灰色砂を均質に含む。
28. 黒褐色土
29. 黄褐色砂　細砂。締まり弱い。
30. 暗褐色土　腐植土と混貝砂の混交土。締まりあり。
遺構131西
31. 暗褐色土　泥岩粒少量。南壁32層。
32. 暗褐色土　泥岩粒、貝殻片多い。
33. 暗褐色土　泥岩粒やや多い。南壁33層。
34. 暗褐色土　砂質土。締まり弱い。
35. 暗褐色土　泥岩粒少量。
その他
36. 暗黄褐色土　黄色砂ベース。締まりややあり。
37. 暗褐色土　泥岩粒多量。締まり、粘性あり。北壁47層。
38. 暗褐色土　砂質土。泥岩粒ごく微量。北壁48層。
39. 黒褐色土　粘質土。中世基盤層。北壁44層。
40. 黒褐色土　中世基盤層。北壁44層。
41. 暗褐色土　砂質土。
42. 暗褐色土　微細な貝殻片多い。
43. 黒褐色土　粘質土ベース。砂粒、泥岩粒ごく微量。
44. 黒褐色土　粘質土ベース。
45. 黒褐色土　粘質土ベース。砂粒、泥岩粒微量。貝殻片。
46. 灰黄褐色砂　自然堆積層。

中央ベルト(f-f′)土層説明

遺構1・10
1. 灰褐色土　砂主体。泥岩粒少量。
2. 暗黄褐色砂　黄色砂＋粘質土。炭粒、泥岩粒少量。
3. 暗黄褐色砂　2層より黄色砂が多い。
4. 暗灰褐色土　泥岩ブロック多い。炭粒、黄色砂少量。
5. 灰褐色砂　細砂＋粘質土。締まり弱い。
6. 灰褐色土　粘質土ベース＋細砂。底面に黄色砂の薄層あり。

道1c
7. 灰褐色砂　貝殻片を多く含む海砂。締まり強い。
8. 黄褐色砂　海砂をベースに泥岩粒少量含む。

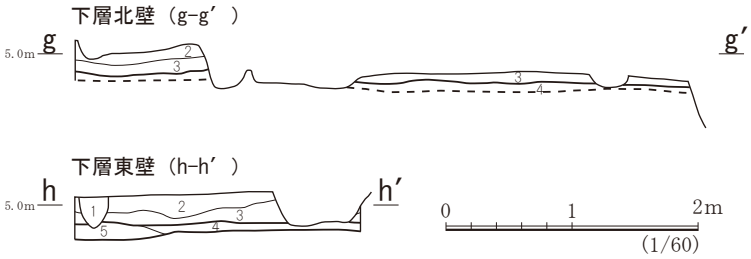
道1d
9. 灰褐色砂　上面に貝殻片、泥岩粒多い。締まり強い。

道1d下部
10. 黒褐色土　中世基盤層の粘質土がベース。砂少量。
11. 灰褐色砂　炭粒、貝殻片少量。締まり弱い。
12. 灰褐色砂　貝殻片多い。締まりややあり。
13. 暗黄褐色砂　細砂。酸化のため締まり非常に強い。
14. 暗黄褐色砂　炭粒少量。締まり弱い。
15. 暗黄褐色砂　細砂。13層に比べて締まり弱く明るい。

遺構130
16. 暗褐色土　貝殻片、泥岩粒多い。
17. 黒褐色土　1層より貝殻片、泥岩粒減る。
18. 暗灰褐色土　灰褐色砂が斑文状に入る。泥岩粒少量。
19. 灰褐色砂　締まりややあり。貝殻粒、炭粒少量。
20. 暗褐色土　粘質土多い。据え甕土坑。
21. 暗褐色土　泥岩粒少量。
22. 灰褐色砂　貝殻片少量。
23. 暗灰褐色土　灰色砂が均質に入る。炭粒少量。

遺構138
24. 暗褐色土　灰色砂を均質に含む。泥岩粒微量。
25. 暗褐色土　24層よりやや明るい。
26. 暗褐色土　貝殻片多い。
27. 黒色土　粘質土ベース。
28. 暗灰色土　泥岩粒、炭粒微量。
29. 暗褐色土　黄色砂を均質に含む。締まりあり。
30. 暗褐色土　泥岩粒多い。砂混入。
31. 暗褐色土　粘性あり。貝殻片、砂粒少量。
32. 暗褐色土　粘性あり。締まり弱い。
33. 黄褐色砂　締まりややあり。
34. 暗黄褐色土　粘質土ブロックと黄色砂の混交土。
35. 黒褐色土　粘性あり。炭粒多い。
36. 暗黄褐色土　34層より粘質土ブロック多い。
37. 暗黄褐色土　36層より粘質土ブロック多い。締まりあり。
38. 黒褐色土　粘質土。締まり強い。
39. 黒褐色土　粘質土。炭粒多い。締まりややあり。
40. 黄褐色砂　海成砂層。貝殻粒多くラミナ状を呈する。

その他
41. 暗褐色土　粘性ややあり。泥岩粒、炭粒微量。
42. 暗褐色土　41層よりやや明るく、灰色砂を均質に含む。
43. 黒褐色土
44. 黄褐色砂　細砂。締まり弱い。
45. 暗褐色土　腐植土と混貝砂の混交土。締まりあり。
46. 暗灰褐色土　砂質土。泥岩粒、炭粒微量。
47. 暗灰褐色土　均質な砂質土。炭粒微量。
48. 黒褐色土　粘質土ベース＋灰色砂。粘性、締まりあり。
49. 灰褐色砂　砂質土。黒色粘質土を斑文状に含む。
50. 黒色土。粘質土。中世基盤層。
51. 暗灰色土　黒色粘質土と灰黄色砂が斑文状に混交。自然堆積層。



下層北壁(g-g′)・東壁(h-h′)土層説明

1. 黒灰色土　粘性あり。中世基盤層の粘質土に黄灰色砂がブロック状に混入。
2. 黒灰色土　中世基盤層。白色微砂粒少量。
3. 黒灰色土　中世基盤層。2層より白色微砂粒が少ない。
4. 暗黄灰色土　粘性あり。基盤層の粘質土に黄灰色砂多く入る。
5. 暗黄灰色土　4層より黄灰色砂が多い。

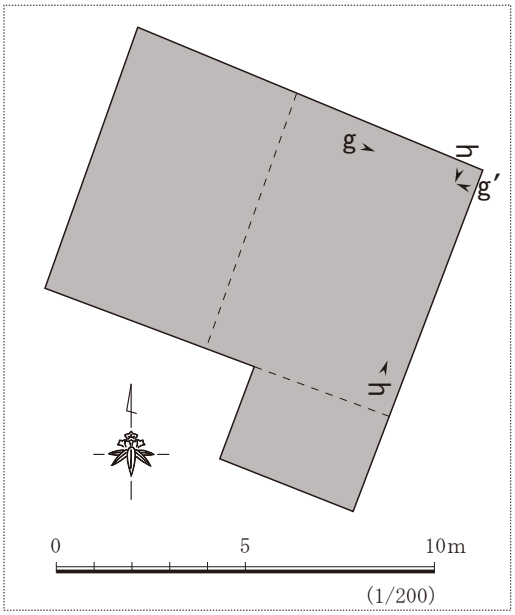


図5　調査区セクション図③

第四章　発見された遺構と遺物

本地点では大きく4時期に及ぶ中世遺構群が検出され、上層から1～4面の順に遡る。調査区中央を南北に縦走する道1は破砕泥岩を積み重ねて構築と補修が繰り返されており、新しい順に道1a～1cが1～3面に対応するものと考えた。道1以外の部分では明瞭な整地面を把握できなかったが、道の東側で井戸や溝・土坑といった遺構が、西側では竪穴建物を中心とする遺構展開が確認できた。4面は中世基盤層の上面で、道1c敷設以前の井戸や土坑などが検出された。

以下、主な検出遺構について、上層から順に説明する。

第1節　1面の遺構と遺物

道1a：調査区の中央部、Ⅰ区とⅡ区との境界ライン上で検出された南北道である。拳大程度の泥岩ブロックを敷き詰めて構築され、検出北端部の中心には50～60㎝長の泥岩塊が平坦面を上にした状態で敷き並べられていた。上面の幅は1.2～2.1ｍで、N 20° Wに延びる。路面の標高は、検出北端部で6.1ｍを測るが、調査区の南壁断面には対応する層序を確認できなかった。表土直下での検出であったことから、削平を受けて失われてしまった可能性も考えられる。東辺には側溝を伴うが（遺構1･10）、調査区の北端部付近で浅くなり途切れてしまう。調査区北壁断面からは縦貫していた可能性も窺える。底面レベルの推移から、北から南へ流下させていたと考えられる。西側溝は平面的な確認には及ばず、調査区の南壁断面には路面が西側へ落ち込む様子が見て取れたものの、これより北へと続く様相は確認できなかった。この南壁際の落ち込みについては、表土を除去した直後にサブトレンチを設けたため、平面プランは見落としてしまった。

道1aの築成土および東側溝（遺構1･10）からの出土遺物は、図17･18に分けて提示した。東側溝の遺構10覆土上層では、裏面に針状工具で線刻画を施した硯が出土している（図18-89）。地蔵菩薩、もしくは阿弥陀如来の来迎図がモチーフと思われる。図17-87の常滑片口鉢Ⅱ類は7･8型式なので、14世紀代に道1aの整備時期を考えることができる。

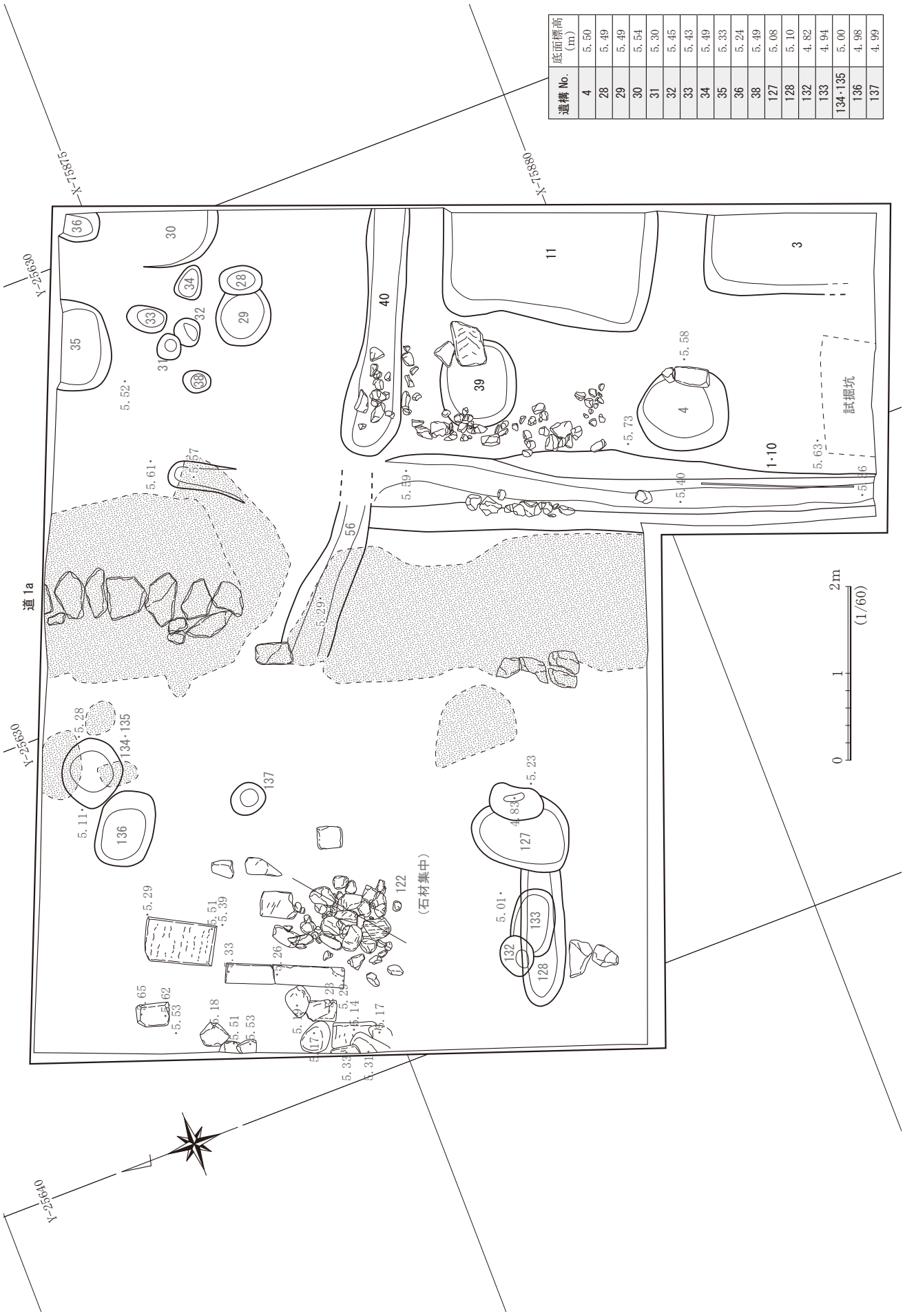
道1aの東側には、建物とは見なしにくい竪穴状遺構や土坑が点在していた。一方の西側では、上層で凝灰岩切石の集積箇所が、下層で掘り込みの浅い土坑数基が確認された。道1a東側の1面と比べ西側1面の上層はやや高く、下層はやや低い位置に広がっている。

遺構3（竪穴状遺構）：Ⅰ区の南東隅に位置し､東と南側の調査区外に続くため全体の規模と形状は不明。方形基調のプランを呈し、東西1ｍ、南北2ｍまでを計測した。現地では1面から2面まで掘り下げる際に確認に及んだ。底面標高は5.3～5.4ｍの範囲で推移し、確認面からの深さは5～15㎝と浅い。

遺構3からの出土遺物は図18-90～92に示した。90は内底面に焼成後の線刻をもつロクロかわらけの小皿。文字を刻したとも見られるが、具体的な内容は不明。91のロクロ大皿と合わせ、かわらけは14世紀前半の様相といえようか。

遺構11（竪穴状遺構）：Ⅱ区の南東隅に位置し、東側が調査区外へと続く。これも1面から2面までの掘り下げ時に確認された。方形基調のプランを呈し、南北長は2.5ｍを測る。東西長は1.5mまでを確認した。底面標高は5.35ｍ前後で推移し、確認面からは15～25㎝を測る。

遺構11の出土遺物は図18-93～105に示した。緡紐から外れたものか、数枚の銅銭が重なった状態で出土している。



遺構 No.	底面標高 (m)
4	5.50
28	5.49
29	5.49
30	5.54
31	5.30
32	5.45
33	5.43
34	5.49
35	5.33
36	5.24
38	5.49
127	5.08
128	5.10
132	4.82
133	4.94
134・135	5.00
136	4.98
137	4.99

図6　1面 全体図

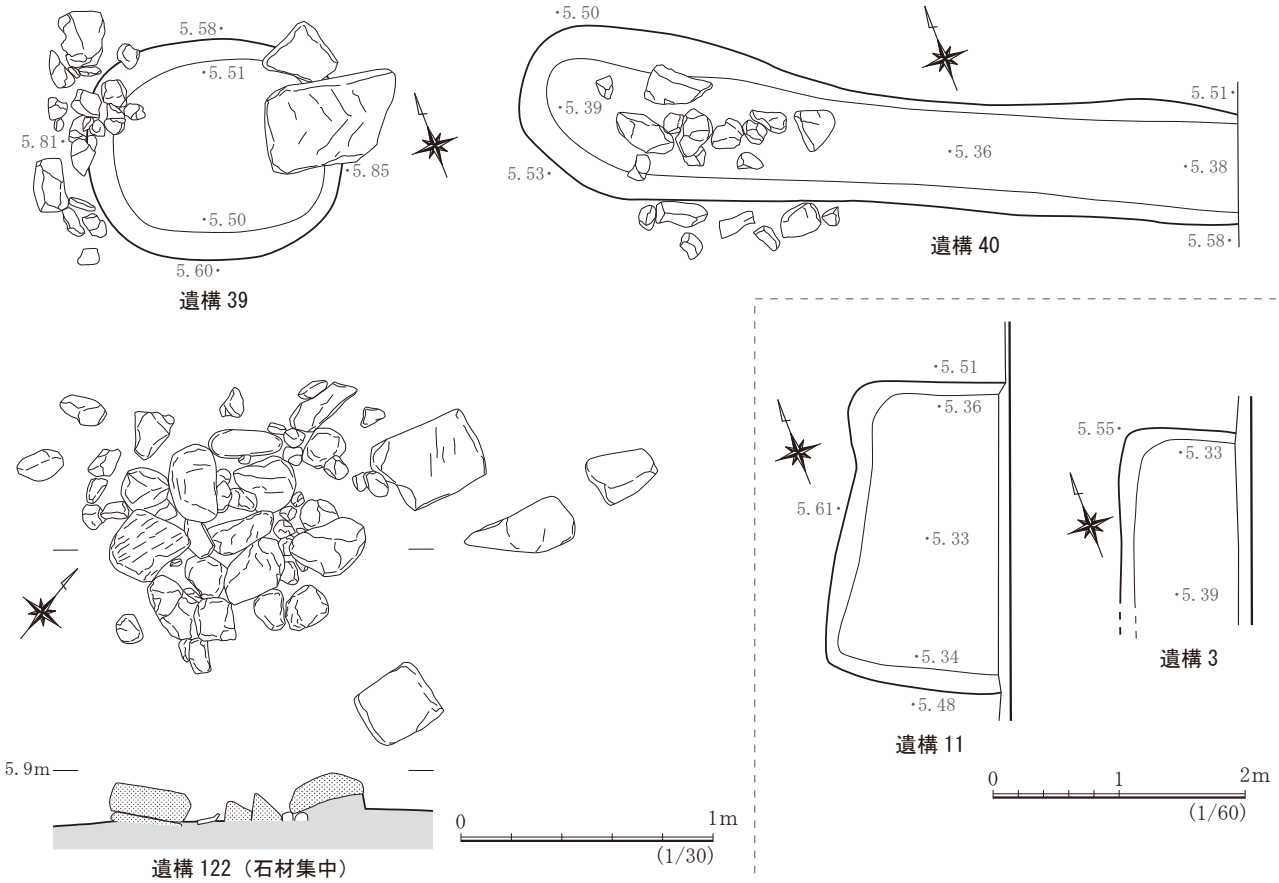


図７　１面 個別遺構図

遺構39（土坑）：Ⅱ区の中央部に位置する。東西１m、南北90cmの略円形プランを呈する。底面の標高は5.5 m前後でフラットであり、確認面からの深さは最大で35cmを測る。遺構の確認レベルには凝灰岩の切石や泥岩屑がややまとまって検出されている。

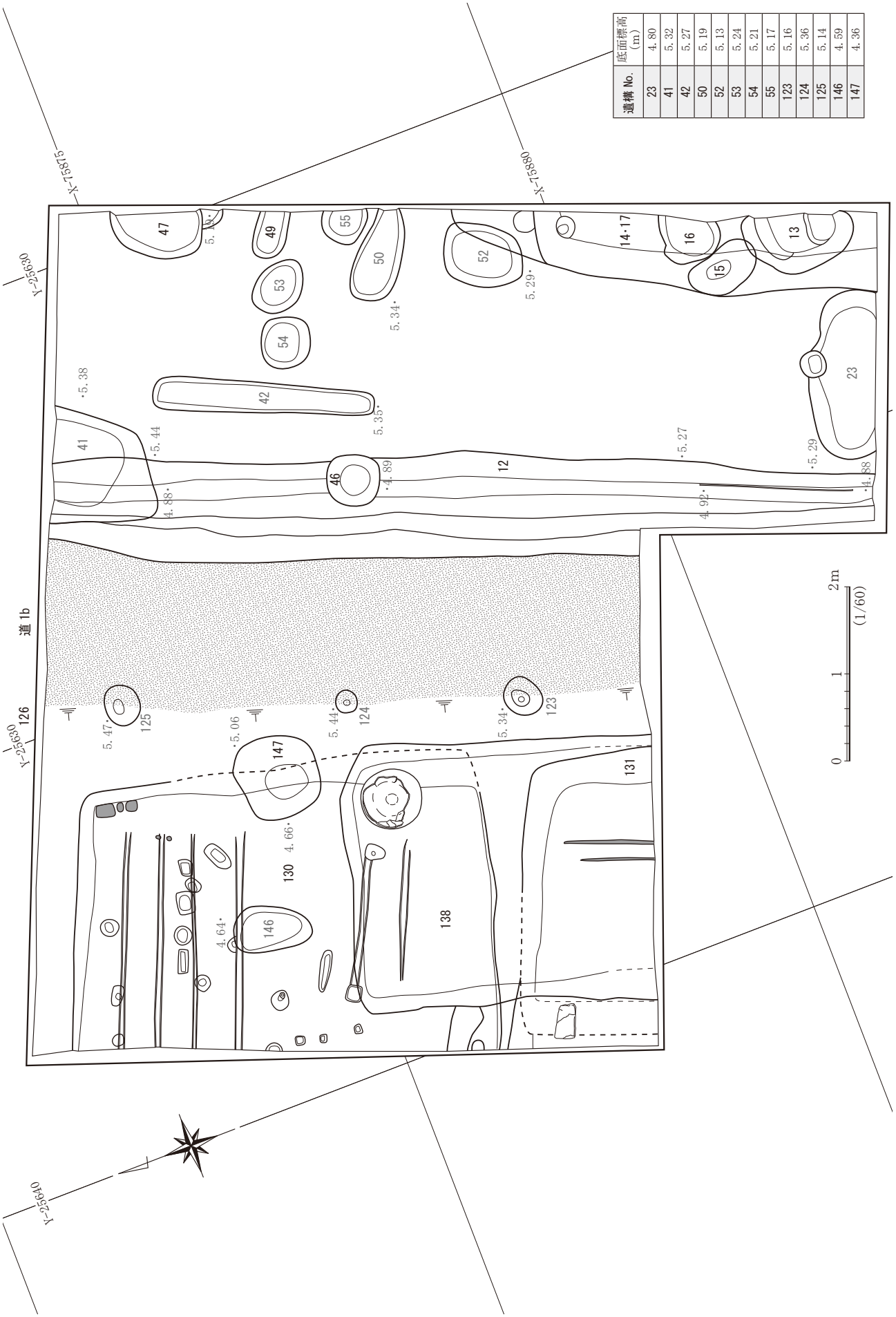
遺構39の出土遺物は図17-74～76に示した。年代的なまとまりを欠いているので、提示のみに留めたい。

遺構40（溝状遺構）：Ⅱ区中央に位置し、東側が調査区外に続く。上幅45～60cmで東西長は2.9 mまでを計測した。底面標高は5.4 m弱で、確認面から15～20cmの深さを確認した。遺構の確認レベルで小規模な泥岩屑の集積箇所が確認されている。本遺構の西側延長部では道1aの泥岩整地層が軟質になっていたので、本来は道1aの下部まで繋がっていた可能性もある。

遺構40で出土した遺物は図17-77～84に示した。少ない資料だが、かわらけを中心に、13世紀末～14世紀前半の様相と捉えられる。

遺構122（石材集中）：Ⅲ区の中央部で検出された。標高5.7～5.8 mに凝灰岩の切石や泥岩屑が集積していたが、下部での掘り込みは確認できなかった。人為的に寄せ集められたものであろうが、配置に規則性がなく火熱を受けた痕跡も見られなかったため用途は不明。この西側でも１面下の掘り下げ時に切石を中心とする石材の集積状況を確認したが（図6）、この下部の２面では竪穴建物（遺構130a）が検出されていることから、建物の廃絶・解体に際して不要石材を遺棄した痕跡とも考えられる。

１面下から２面までの掘り下げに際して出土した遺物は、図19-106～149と図20-150～163として示した。新旧遺物の混在は認められるが、主体となるかわらけには15世紀代の要素は見出せないので、大よそ14世紀代の年代幅で収まる資料と考えられる。



遺構 No.	底面標高 (m)
23	4.80
41	5.32
42	5.27
50	5.19
52	5.13
53	5.24
54	5.21
55	5.17
123	5.16
124	5.36
125	5.14
146	4.59
147	4.36

図8　2面 全体図

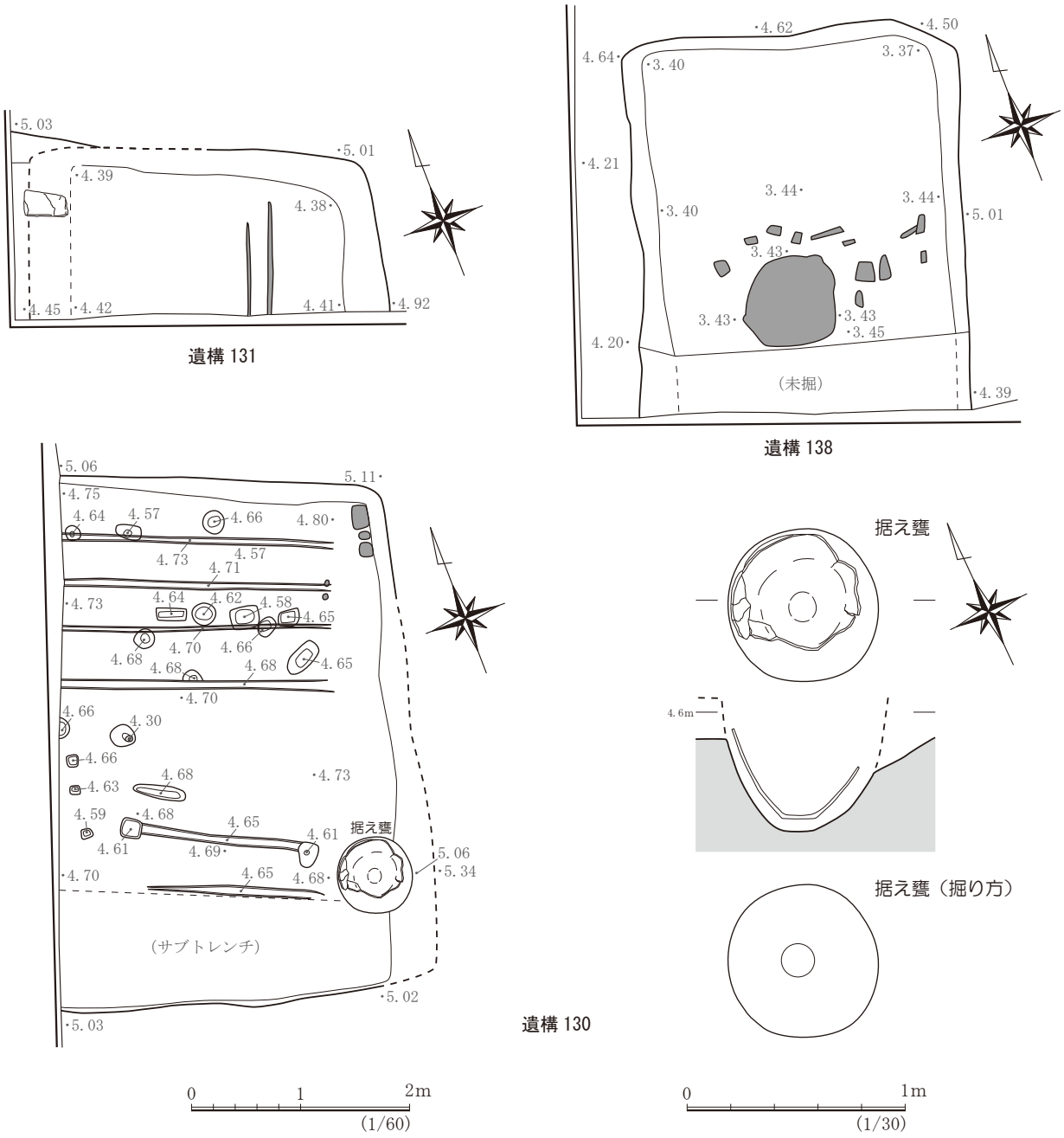


図９　２面 個別遺構図①

第２節　２面の遺構と遺物

道1b：道1aの下30cmで検出された。路面の標高は5.8～5.9ｍを測り、南側が僅かに低い。上幅は1.6～1.7ｍで、Ｎ20°Ｗで延びる。東側に上幅80～100cmの側溝が取り付くが（遺構12）、断面観察では道1bの路面で覆われてしまう状況が見て取れた。道路上端面からは80cm弱の深さがあった。底面標高は図8に示したが、断面観察によって下層の側溝覆土も同時に掘り上げてしまったことに気付き、本来は図8の数値よりも15cmほど高い標高5.0～5.1ｍ前後で推移していたものと考えられる。護岸施設の痕跡として、腐食した板材が僅かに遺存していた。西側溝は確認できなかったが、路面から西に向けてのなだらかな落ち込みを遺構126と呼称し、遺物の取り上げを行った。

道1bの築成土および遺構126の出土遺物を図21-164～167に示した。遺物の絶対量が少ないため、これらだけでは所産年代の提示は難しい。

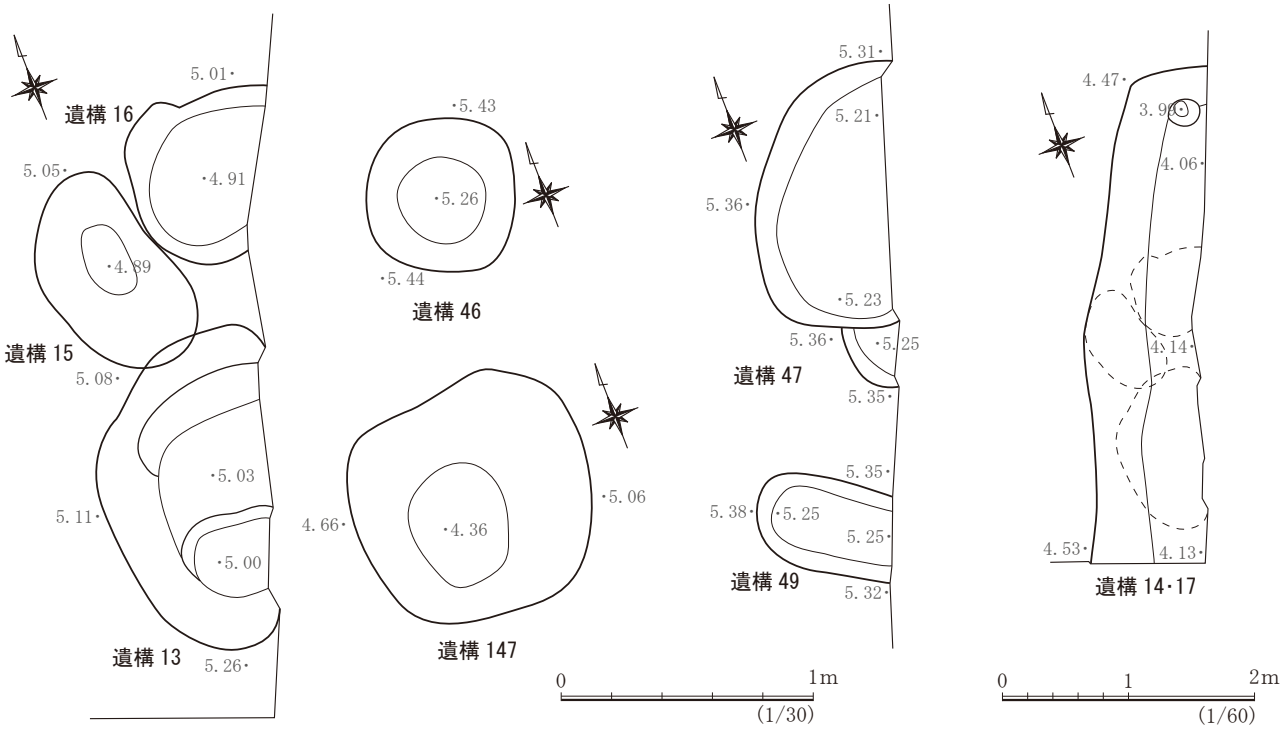


図10　2面 個別遺構図②

道1b以西では3基の竪穴建物を確認した。道の東側では土坑が散漫に分布しており、建物としての可能性をもつ竪穴状遺構も検出されている。

遺構130（竪穴建物）：Ⅲ区の北部に位置し、西側が調査区外に続く。平面規模は南北4.9ｍを測り、東西は3.5ｍまでを測った。南北の方向軸はＮ8°Ｗを指す。確認面から30cm、土層断面の観察では70cmの深さを測り、底面の標高は4.8ｍ弱を測る。底面上で幅10cm、深さ5cm程度の根太材の腐食痕を確認した。この他にも浅い腐食痕が散在しており、礎板など基礎部分の痕跡と考えられる。掘り方の底面までは10cmの厚さで砂質土が堆積していた。床材および壁体は遺存しておらず、使用材質も含め構造は不明だが、断面観察では南北の両壁際で壁体の裏込め土を確認している。南西隅の底面上では、常滑甕を据えた土坑1基が検出された。坑底までの深さは60cmで、甕は底部が全周遺存していたものの、口縁部は欠失していた。

現地調査では、本遺構の範囲を確定するまでに重複する別の遺構についても同時に覆土掘削に及んでしまっている。遺構130aとして取り上げた遺物は本遺構に、遺構140と認識した遺構は本遺構の北側裏込め土となる。遺構130bとして採集した遺物の大半は遺構138に帰属する可能性が高いが、多少の混在は否めないため、表2には現地で取り上げた際の遺構名のままで提示している。

本遺構からの出土遺物として、図22-186～201と図23-222を示した。222は据え甕土坑で出土したもので、その他は全て竪穴の覆土中から出土している。このため諸種の遺物片が混在しており、遺構の構築・使用年代を明確に示す資料は皆無であった。193の備前擂鉢は、口縁部形態および擂り目の条数から中世3a期＝14世紀中葉頃の所産と見られので、本遺構には、これ以前の使用年代を考えることができる。

遺構131（竪穴建物）：Ⅲ区の南端部に位置する。遺構間の切り合いでは遺構130より古く、遺構138より新しい。南側が調査区外に続き、東西3.3ｍ、南北1.6ｍ以上の平面規模を確認した。南北軸はＮ17°Ｗを指す。土層断面では110cmの深さを確認し、掘り方底面の標高は4.4ｍを測る。底面上では幅5cm程度で南北に延びる根太材の痕跡2条を確認している。

本遺構の出土遺物として、図22-202 ～ 213を提示した。他の竪穴建物の例に漏れず、覆土中の出土遺物が中心となり、構築・使用年代を示す資料とはならない。小片ではあるが、209の備前擂鉢が最新の資料と見れば、14世紀前半～中葉頃には廃絶・埋没段階に入っていたと見ることができる。

遺構138(竪穴建物):Ⅲ区の南端部に位置し、遺構130・131より古い。南が調査区の外方に続く。東西3.1ｍ、南北3.6ｍ以上の平面規模をもつ。長軸ラインはＮ18°Ｗを指す。土層断面で確認できる深さは1.2ｍで、掘り方底面の標高は3.4ｍ前後を測る。底面では直径80㎝ほどの円形プランを確認したが、このレベルで相当量の湧水があり、調査における深度規制もあって覆土の掘削は見合わせた。黄褐色の海成砂層中に黒褐色の砂質土を覆土としていた。この他にも、方形基調で腐植土を覆土とする小穴プランが点在して確認されており、礎板などの痕跡と考えられる。

本遺構の出土遺物として、図23-215 ～ 221、223 ～ 229を提示した。竪穴覆土からの出土品が中心で、新旧の遺物が混在している。13世紀中葉頃まで遡る資料も見られ、遺構間の新旧関係も考慮すると、これ以降、14世紀前葉までの間に構築～使用・廃絶に至った遺構かと考えられる。

遺構13・15・16（土坑）：Ⅰ区東部で検出された土坑群である。13と16は調査区の東外へと続く。いずれの土坑も暗褐色砂質土を覆土とし、泥岩粒を含んでいた。遺構13は南北120㎝、東西70㎝以上を測る。底面の標高は5.0ｍで、確認面からの深さは30㎝弱であった。遺構15は、南北80㎝、東西50㎝を測る。底面の標高は4.89ｍ、確認面からは20㎝の深さがあった。遺構16は南北70㎝、東西55㎝以上を測る。確認面からの深さは10㎝と浅く、底面標高は4.91ｍであった。

調査区の東壁断面では、平面規模および底面標高が平面での確認内容と異なっていた。本来であれば断面図に即して平面図の修正を行うべきところだが、同質の覆土で繰り返された遺構間の重複について現地では識別しきれなかったこともあるため、本報告では不確実な修正・復元図の提示は控えた。記述内容についても、基本スタンスとして現地で作図した平面記録に準じている。同じことは、調査区壁際で検出された各面の遺構に関してもいえる。

遺構13の出土遺物として図21-168、遺構15・16の出土遺物として図21-174 ～ 176を示した。168は尾張型山茶碗の6 ～ 7型式なので、13世紀中葉前後の所産品である。他の遺物については、年代特定の指標とできない。

遺構46（土坑）：Ⅱ区の西側で検出された。道1bの東側溝を切って構築されている。直径60㎝前後の円形プランを呈する。確認面からの深さは20㎝弱で、底面標高は5.26ｍを測る。

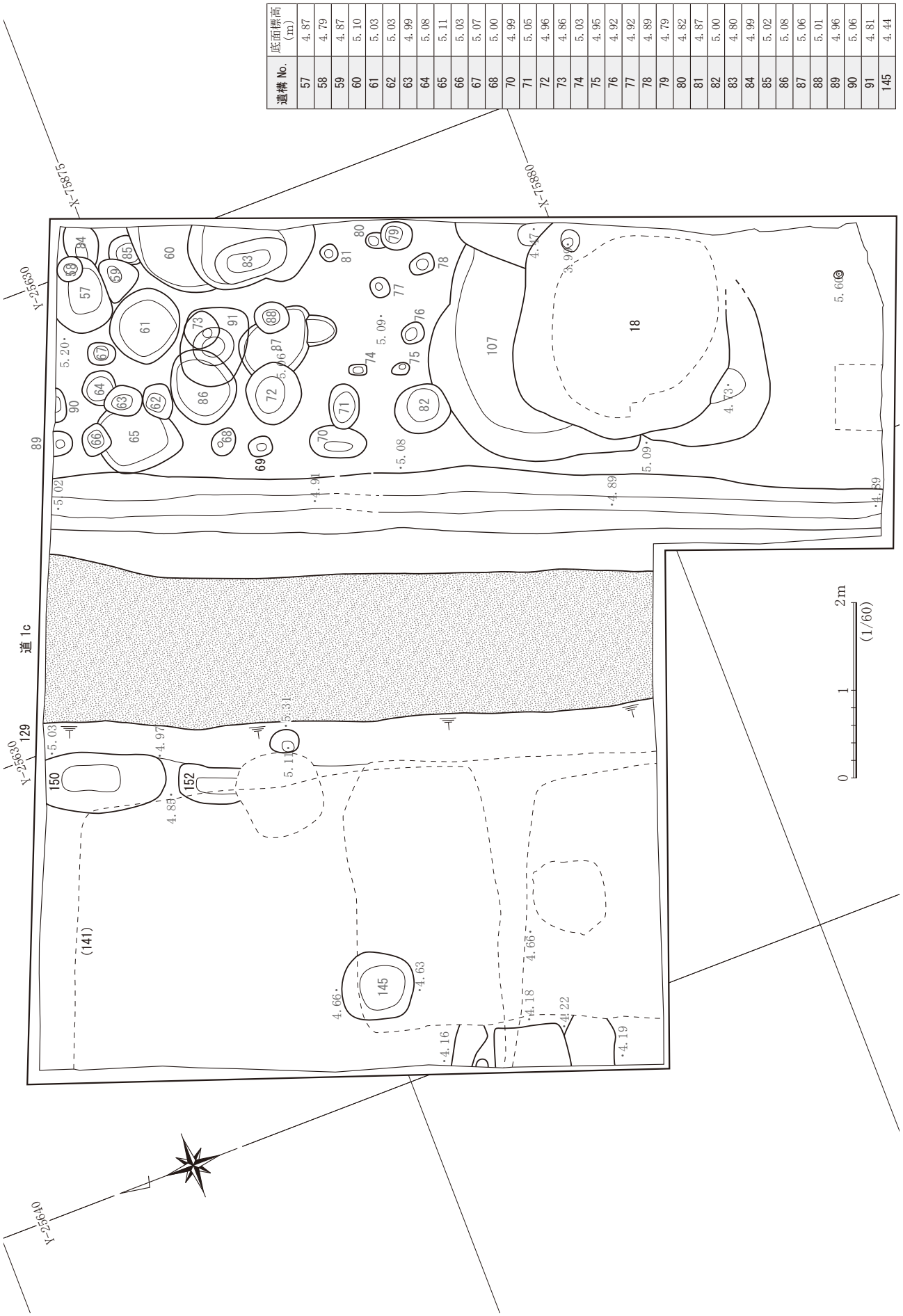
本遺構からの出土遺物を図21-183に示した。尾張産の片口鉢（常滑-Ⅰ類）で、内底近くの器面が細かく剥離している。遺存部位が少なく、型式の特定はできない。

遺構47（土坑）：Ⅱ区北東部に位置し、東側が調査区外に続く。南北110㎝、東西50㎝以上を測る。確認面からの深さは15㎝で、底面標高は5.2ｍ前後を測る。調査区の東壁断面では、後述する遺構49も含め遺構50・55を包括する落ち込みとして確認することができ、平面図における個々の遺構が単独のものであったのか、ひとつの大きな落ち込みの中で底面レベルが異なっていたのか、両者の可能性を残しておきたい。

遺構47の出土遺物として、図22-184に砥石1点を図示した。

遺構49（土坑）：Ⅱ区の北東部、遺構47の南側で検出された。上述したように、遺構47など周辺の土坑群と合わせて一連の落ち込みとなっていた可能性も考えられる。東側が調査区外へ続き、南北35㎝、東西55㎝以上の規模を測る。確認面からの深さは10㎝前後と浅く、底面標高は5.25ｍを測る。

本遺構の出土遺物として、図21-185を示した。滑石製鍋の再加工品と見られ、形態は紡錘車に近似している。



遺構 No.	底面標高 (m)
57	4.87
58	4.79
59	4.87
60	5.10
61	5.03
62	5.03
63	4.99
64	5.08
65	5.11
66	5.03
67	5.07
68	5.00
70	4.99
71	5.05
72	4.96
73	4.86
74	5.03
75	4.95
76	4.92
77	4.92
78	4.89
79	4.79
80	4.82
81	4.87
82	5.00
83	4.80
84	4.99
85	5.02
86	5.08
87	5.06
88	5.01
89	4.96
90	5.06
91	4.81
145	4.44

図11　3面 全体図

遺構147（土坑）：Ⅲ区の東辺部、道路1bの西側で検出された。遺構130に切られ、3面の遺構152の南半部を切っている。南北90cm、東西95cmの不整円形プランを呈する。確認面からの深さは最大で70cm、底面標高は4.36ｍを測る。

本遺構の出土遺物として、図22-214のロクロかわらけ大皿1点を示した。

遺構14･17（竪穴状遺構）：Ⅰ区東部～Ⅱ区の南東隅で検出された。現地では、遺構14を遺構17に切られる土坑と捉えていたが、土層断面の記録を基に整理した結果、両者とも一つの竪穴状遺構になるものと判断した。東と南が調査区の外に続き、遺構のごく一部を確認したにとどまる。東西90cm以上、南北3.9ｍ以上の平面規模をもつ。確認面からの深さは40cmほどで、調査区壁の断面では120cm以上の深さを有していたことを確認している。底面は標高4.1ｍ前後で、概ねフラットに推移する。壁面は外開きに立ち上がり、裏込めの痕跡などは見て取れなかった。竪穴建物としての可能性はあるが、部分的な確認であったため断定はできない。

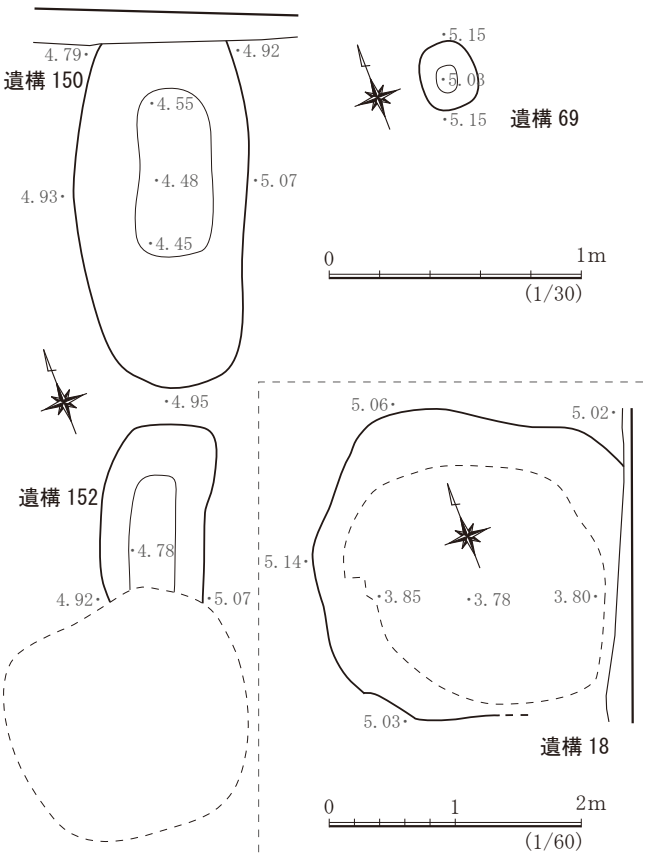


図12　3面 個別遺構図

本遺構の出土遺物として、図21-169～173と図21-177～182に示した。前者は遺構14として、後者は遺構17として現地で取り上げたものである。常滑の甕・片口鉢Ⅱ類は6型式の資料で13世紀後半の生産年代が考えられ、かわらけについても13世紀後葉～14世紀前葉の幅で捉えられよう。覆土からの出土品が中心で、遺構廃絶後の年代比定に資する遺物となる。

2面下から3面までの掘り下げ時に出土した遺物は、図24-230～258として示した。かわらけを中心に13世紀後葉～14世紀前葉の資料が主体を成していると見られるが、248の常滑片口鉢Ⅱ類や250の瀬戸天目茶碗などは14世紀後半まで下る要素をもっている。

第3節　3面の遺構と遺物

道1c：道1bの40cm下位で検出された。路面の標高は5.4～5.5ｍを測り、南側が僅かに低い。上幅は1.5～1.8ｍで、N 20° Wで延びる点は上層の道路と同じである。貝殻粒と泥岩粒を含む灰褐色砂によって、堅固な路盤が築成されていた。東側に上場幅80cmの側溝が取り付く。断面観察では道路面の上端から45～65cmの深さがあり、底面標高は4.8～5.03ｍで南側が低い。西辺では側溝は確認できなかったが、現地では路面からのなだらかな落ち込みを遺構129と呼称して遺物の取り上げを行った。

道1c築成土の出土遺物を図25-259～264に、遺構129からの出土遺物を図25-265･266に示した。264は小片のため器種不明であるが、胎土の特徴は渥美・湖西型の陶器と近似している。内面調整から壺の一種と考えており、胴上部に円形の透孔を開け、その下位に断面三角形の突帯文を巡らせている。259～261のかわらけ小皿は手づくね成形品を含み、低平な器形であることから13世紀前半まで遡るであ

遺構 No.	底面標高（m）
21	4.91
22	4.82
24	4.85
25	4.88
92	4.73
93	4.76
94	4.73
95	4.69
96	4.69
97	4.69
98	4.69
99	4.66
100	4.67
101	4.69
102	4.82
103	4.72
104	4.76
106	4.83
107	4.83
108	4.78
109	4.77
110	4.76
111	4.65
112	4.76
113	4.65
116	4.95
117	4.74
118	4.64
120	4.82
142	4.54
143	4.67
144	4.56
153	4.56
158	4.87
165	(4.23)
166	4.57
167	4.87
170	4.89
171a	4.69

図13　4面 全体図

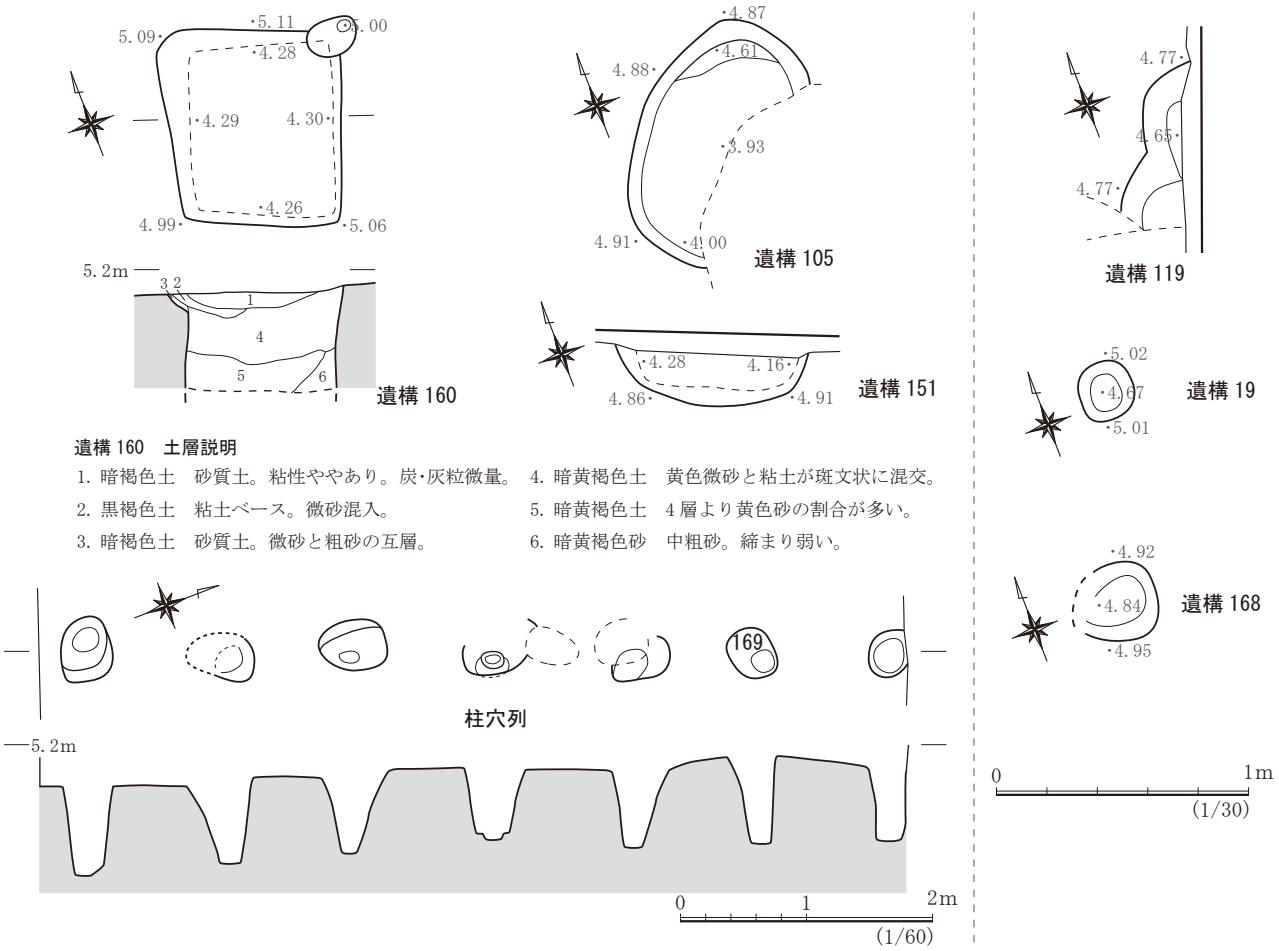


図14　4面 個別遺構図

ろうか。263の常滑片口鉢Ⅱ類は口縁部の細片であるが、7型式までは下らないと思われる。265の常滑甕は6型式段階となろう。

以上を総合すると、13世紀後半には道1cの築成が行われたと考えられる。

遺構150（土坑）：Ⅲ区の北部で検出され、道1cの西に隣接する。北側が調査区外に続き、東西70cm、南北140cm以上を測る。長軸方向は、道1cに平行している。確認面からは60cmの深さがあり、底面の標高は4.5ｍ前後を測る。黒褐色の粘質土を覆土とする。

本遺構からの出土遺物として、図25-270～272にかわらけの小皿3点を、273に平瓦1点を示した。かわらけは手づくね成形品を含み、低平な器形であることから13世紀前半の所産と考えられる。273は胎土・調整技法から永福寺女瓦Ａ類と見られる。焼成後に長辺方向に半截しており、熨斗瓦としての再利用が想定できる。

遺構152（土坑）：Ⅲ区の北部で検出され、遺構150の南側に隣接する。南側を上面遺構に切られており、東西50cm、南北70cm以上の平面規模となる。長軸方向は道1cに平行しており、遺構150と合わせて道路側溝の様にも見える。黒褐色粘質土を覆土としていた。確認面から30cmほどの深さを有し、底面の標高は4.78ｍを測る。

本遺構からの出土遺物として、図25-268にロクロかわらけの小皿を示した。口縁部に灯明具としての使用痕が残る。小片から図上復元したものであり、これ1点では年代比定の材料にはしがたいが、大まかには13世紀後葉～14世紀前葉の土器様相と捉えることができる。

遺構69（ピット）：Ⅱ区の北部で検出され、道1cの東辺に隣接する。直径30cm弱でやや南北に長い楕

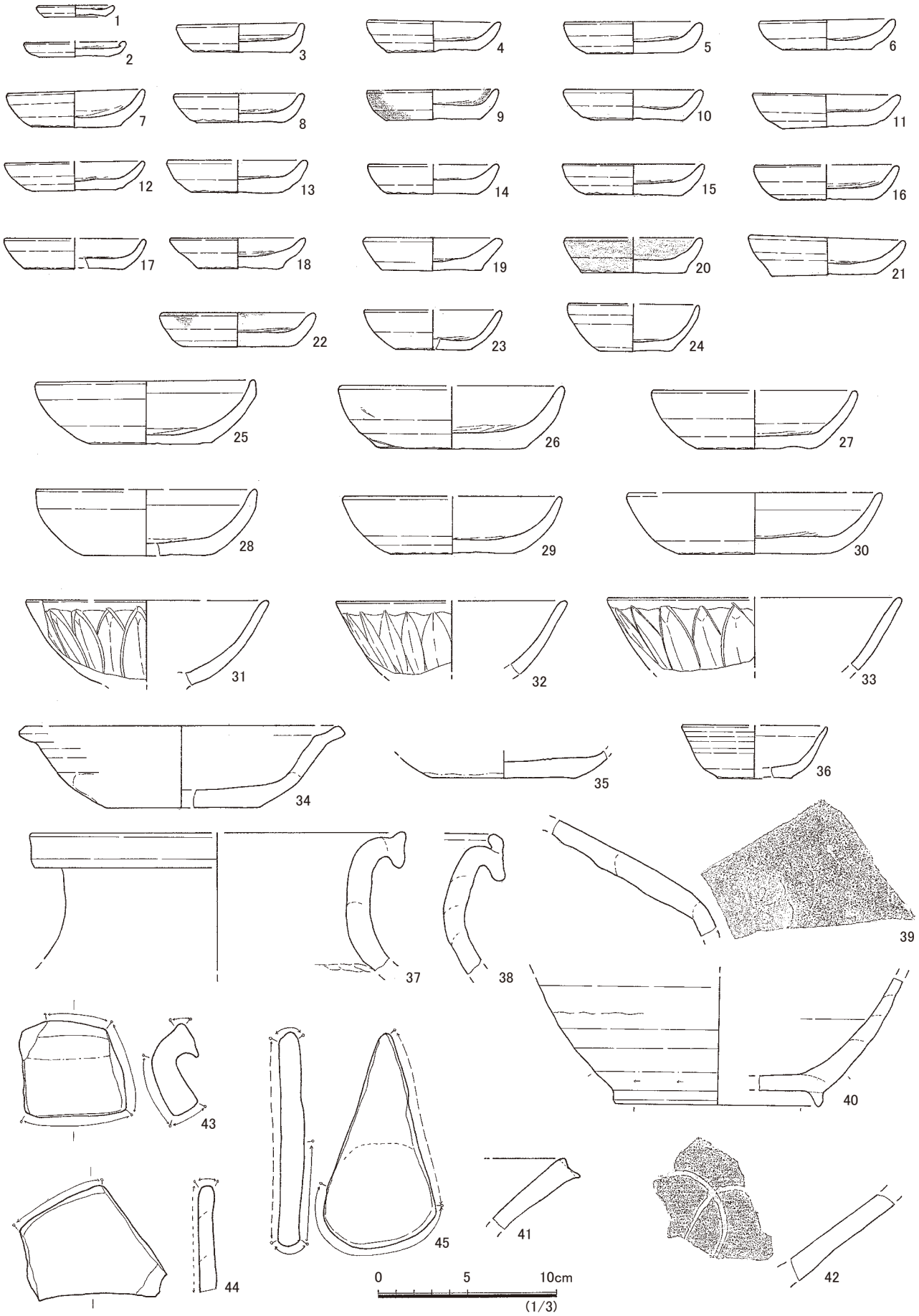


図15　表土～１面 出土遺物①

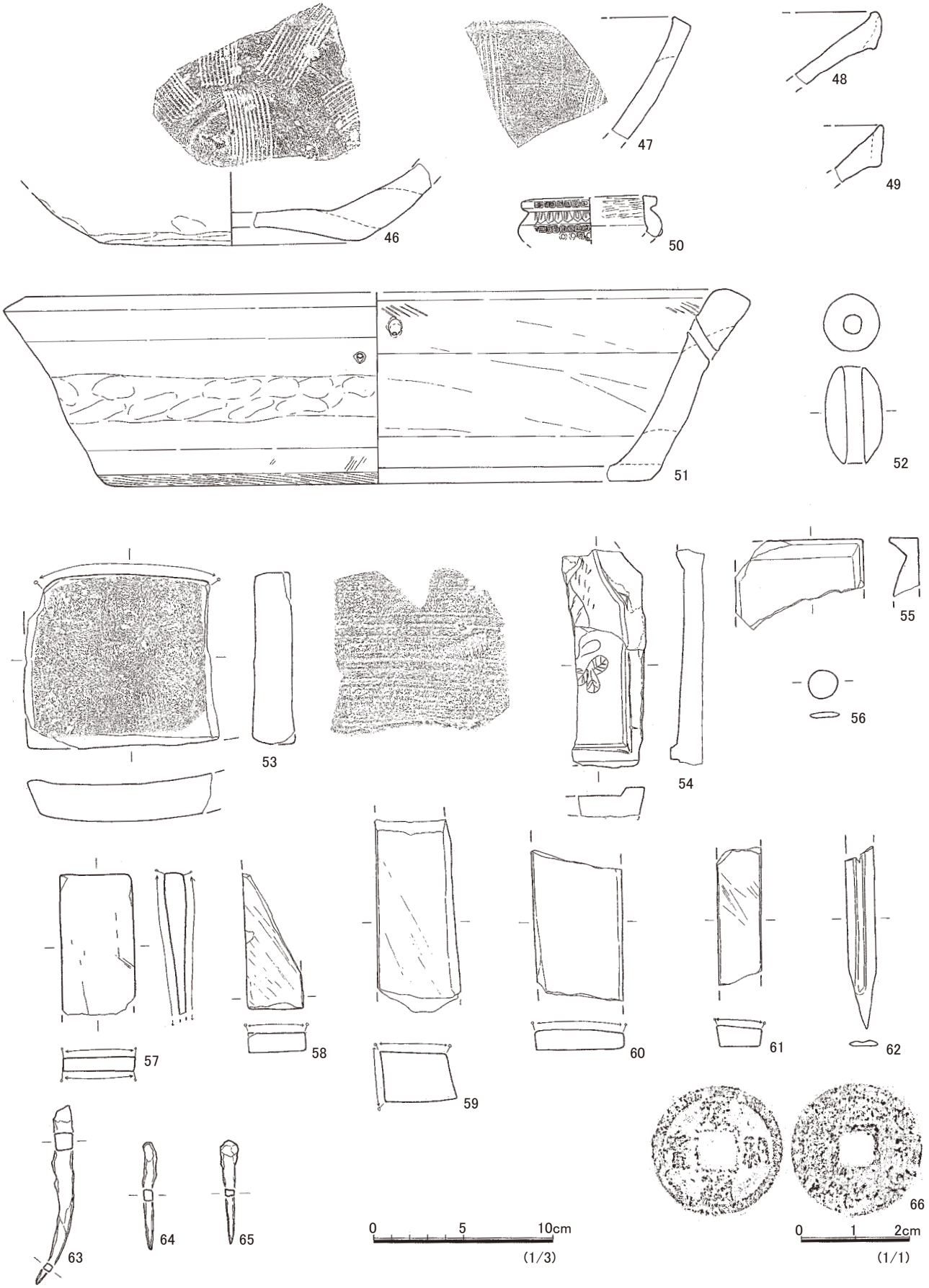


図16　表土～1面 出土遺物②

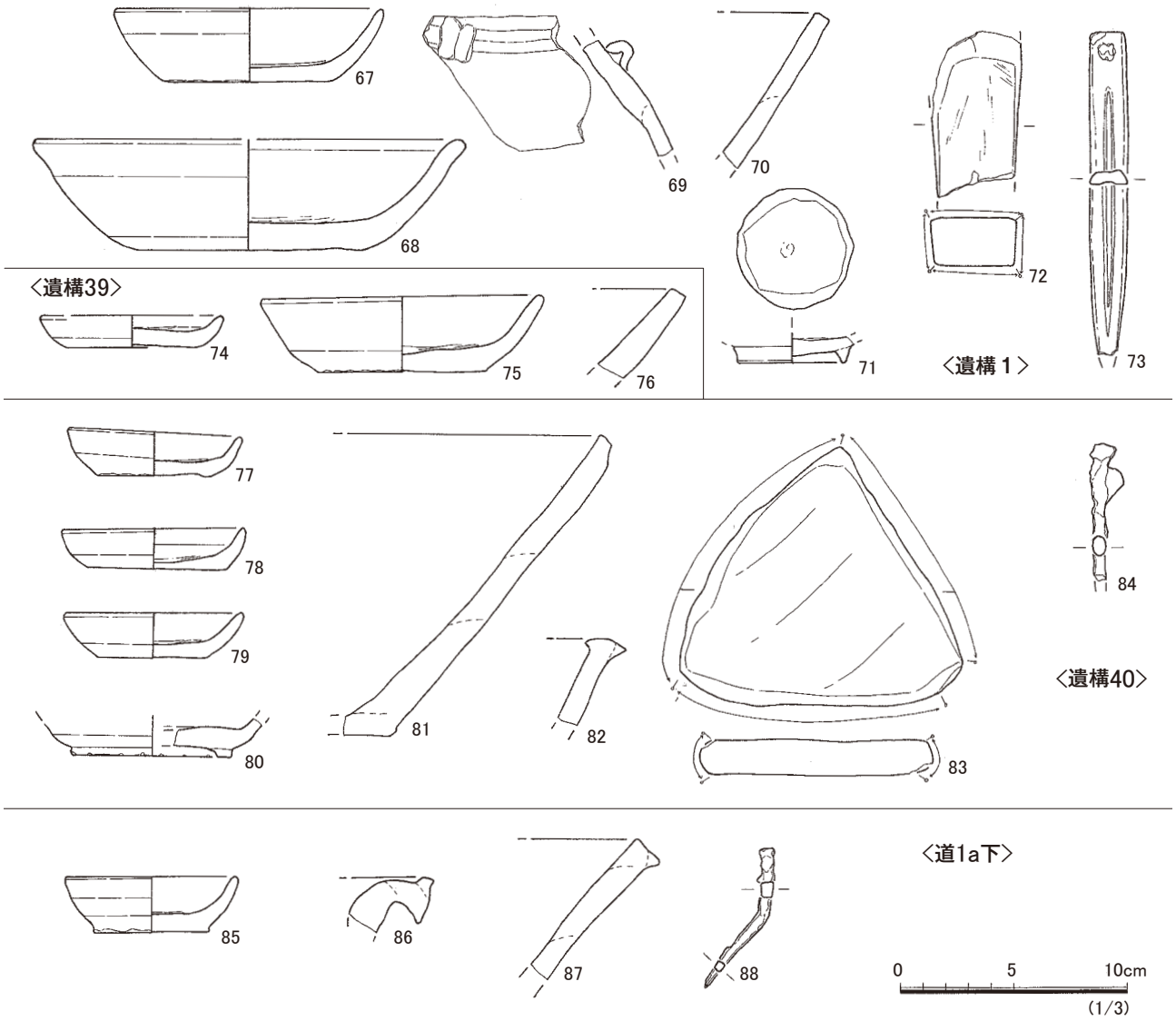


図17　１面遺構 出土遺物①

円形のプランを呈する。確認面からは10cm程度の深さしかなく、底面標高は5.03ｍを測る。

本遺構からの出土遺物として、図25-269に手づくねかわらけの小皿１点を示した。小片であるが、13世紀代の前半に収まるであろう。

遺構18（土坑）：Ⅰ区北部からⅡ区南部にかけて検出された。東側を２面の遺構14・17に切られて上部を失っており、下部も調査区東外へ続くことが確認された。東西2.5ｍ以上、南北2.4ｍを測り、隅丸方形状の平面プランを呈する。深度規制のため底面まで完掘できなかったが、確認面からは1.3ｍ以上の深さを有することを確認している。現状では、掘り下げを止めた標高3.8ｍ前後で湧水が始まるので、平面や掘り方の形状・規模も考慮すれば、井戸として利用されていた可能性が高いだろう。

本遺構の出土遺物として、図26-281 ～ 286を示した。かわらけは手づくねの大・小皿を含み、ロクロかわらけも低平で底が広いので13世紀前半の様相と見られる。286の常滑片口鉢Ⅱ類が5型式ないし6a型式なので、13世紀中頃から第3四半期にかけて廃絶・埋没した遺構かと考えられる。

3面下から4面（中世基盤層）まで掘り下げた際の出土遺物を、図27-287 ～ 291に示した。手づくねかわらけ289・290や常滑5型式の甕291の存在から、大よそ13世紀代前半の土器様相と考えられる。

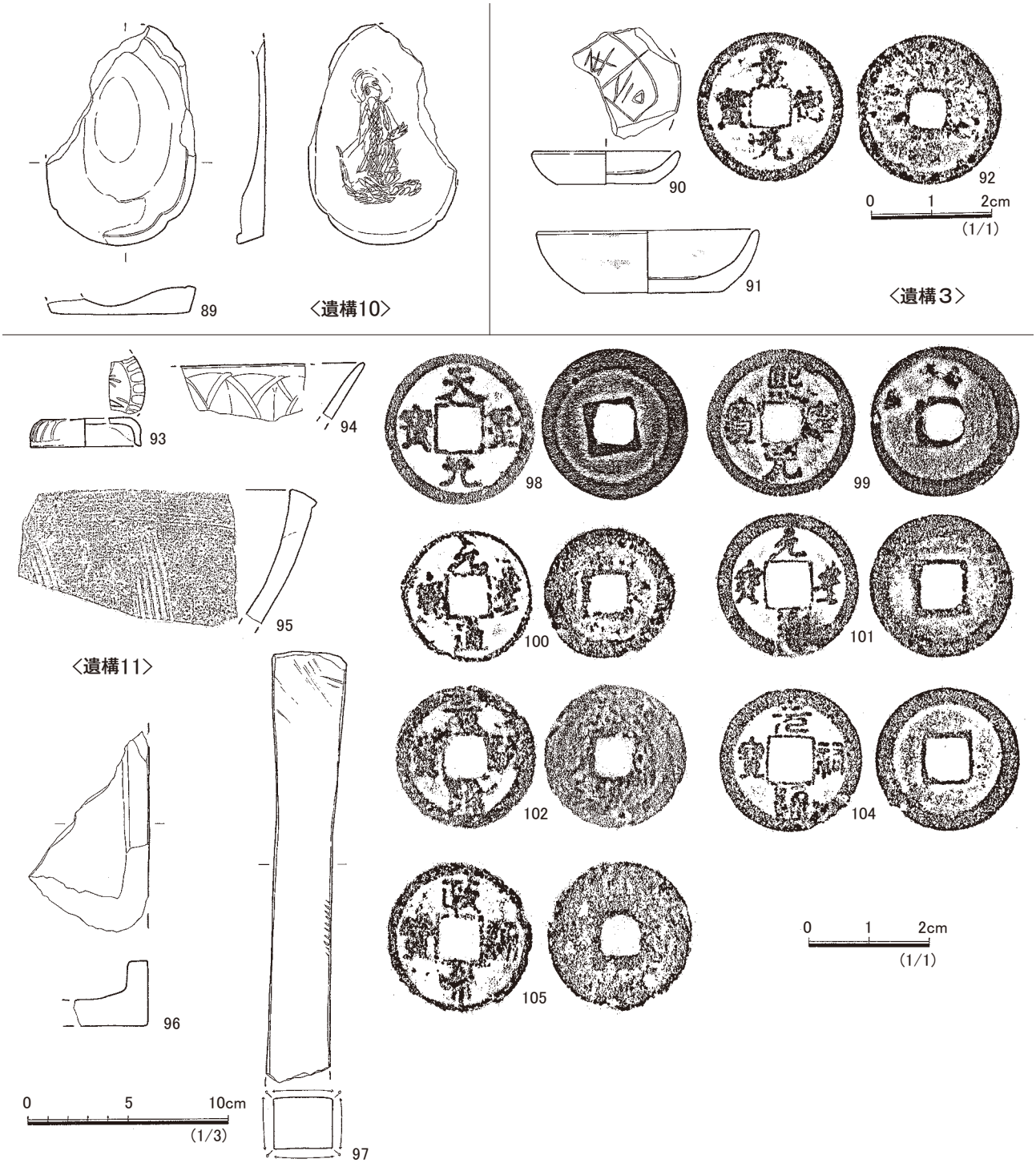


図18　1面遺構 出土遺物②

第4節　4面の遺構と遺物

中世基盤層となる黒褐色粘質土の上面を4面とした。Ⅲ区南部の中世基盤層は2面遺構138によって失われていた。当遺構面では土坑やピット多数が検出され、ピットには柱穴列をなすものも見られた。

また、道1cの下部では、中世基盤層までの間に道1dが遺存していた。

道1d:道1cの5～15㎝下で検出された。路面上端の標高は5.33～5.40ｍを測り、わずかに北側が低くなっている。上幅は1.5～2.0ｍで、N 20° W方向に延びる。路盤は灰褐色砂を用いて堅固に築成され、上面には泥岩粒や貝殻粒が多く見られた。

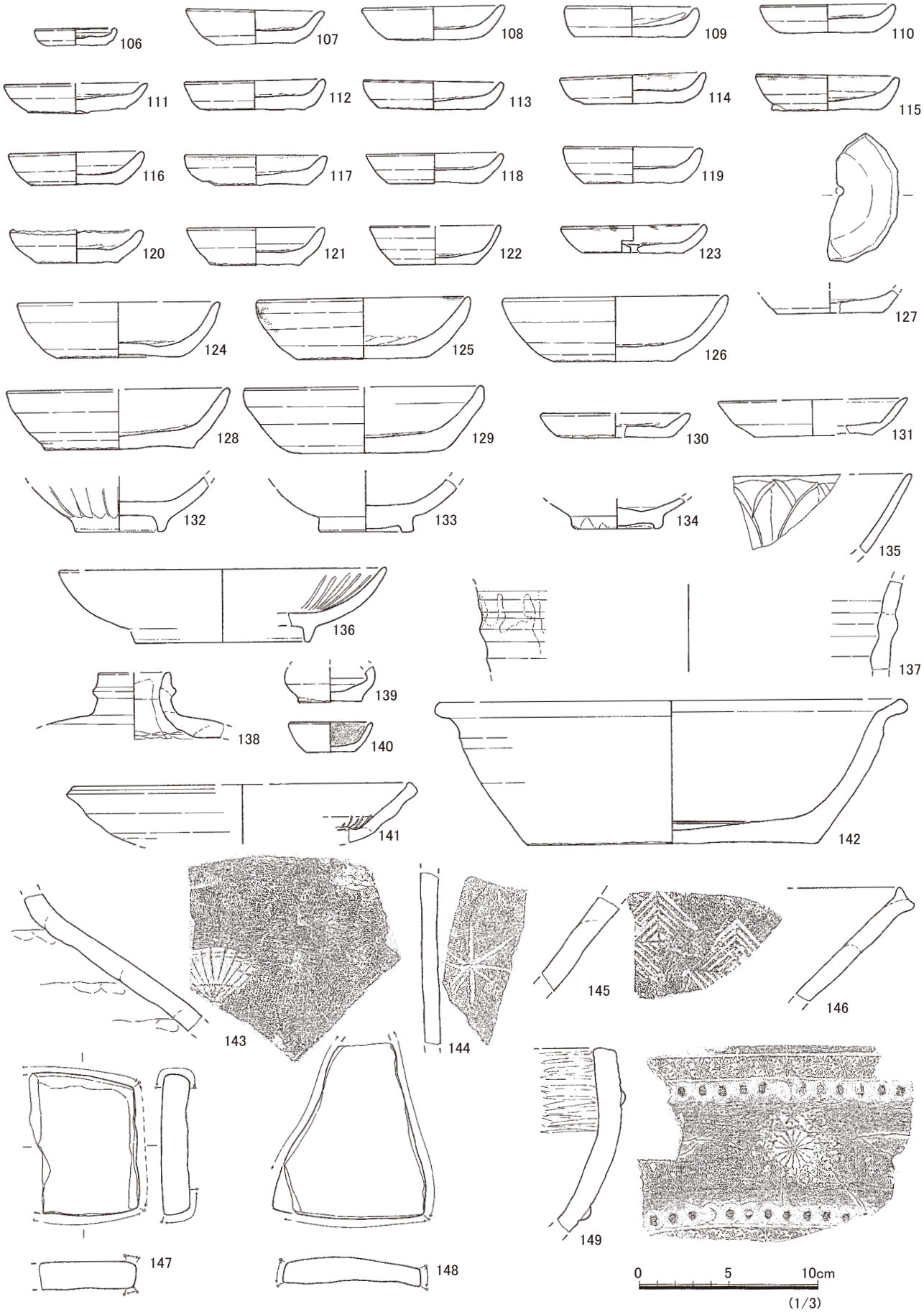


図19　1面下～2面 出土遺物①

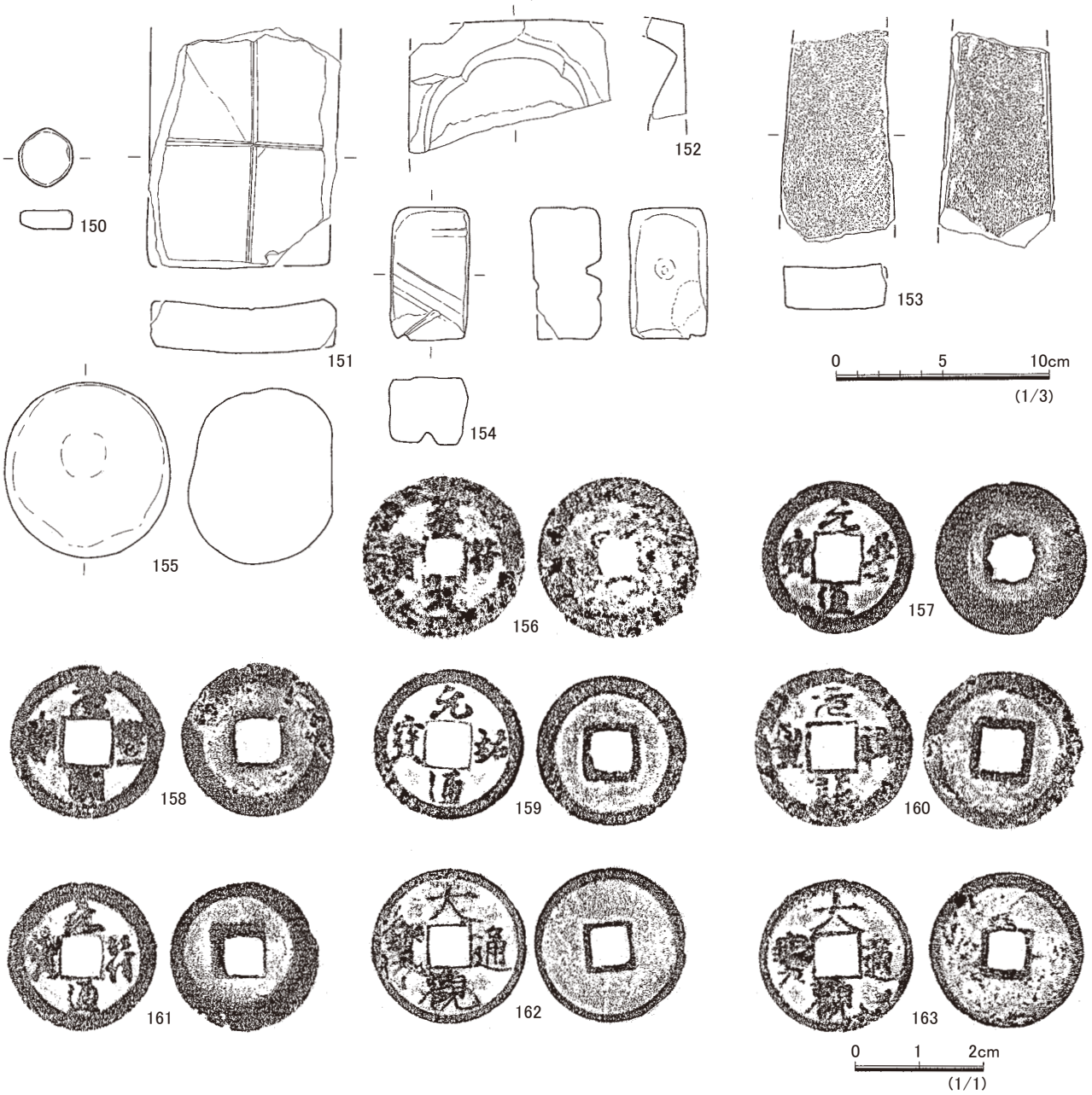


図20　1面下～2面 出土遺物②

道1dの築成土を含む道1c下～中世基盤層の出土遺物は、図26-274 ～ 280に示した。年代としては13世紀代の前半～第3四半期までに収まるだろう。

柱穴列:Ⅱ区東端部で検出された。道1dの西辺沿いに並び、断面観察では道1dより新しく、道1cより古い、もしくは同時存在することが確認できた。N 18° Eの方向に延び、北・南とも調査区外へと続くものと思われる。柱間距離は100 ～ 105cmで一定している。西・東への展開は見られなかったことから、板塀などの区画・遮蔽施設の痕跡であると考えられる。底面標高は4.15 ～ 4.44 mで、相対的に北側ピットの底面が高い傾向にある。

構成ピットのうち遺物が出土したのは遺構169が唯一で、小片のみで時期比定の材料にはし難いが、かわらけは手づくね成形品のみに限られるので、13世紀代前半以降の構築年代を当てておきたい。

遺構160（土坑）：Ⅰ区とⅡ区の境界ラインに位置し、道1dの下位で検出された。一辺150cmのやや歪んだ方形のプランを呈する。深度規制のため覆土は完掘できなかったが、確認面からの深さは80cm以

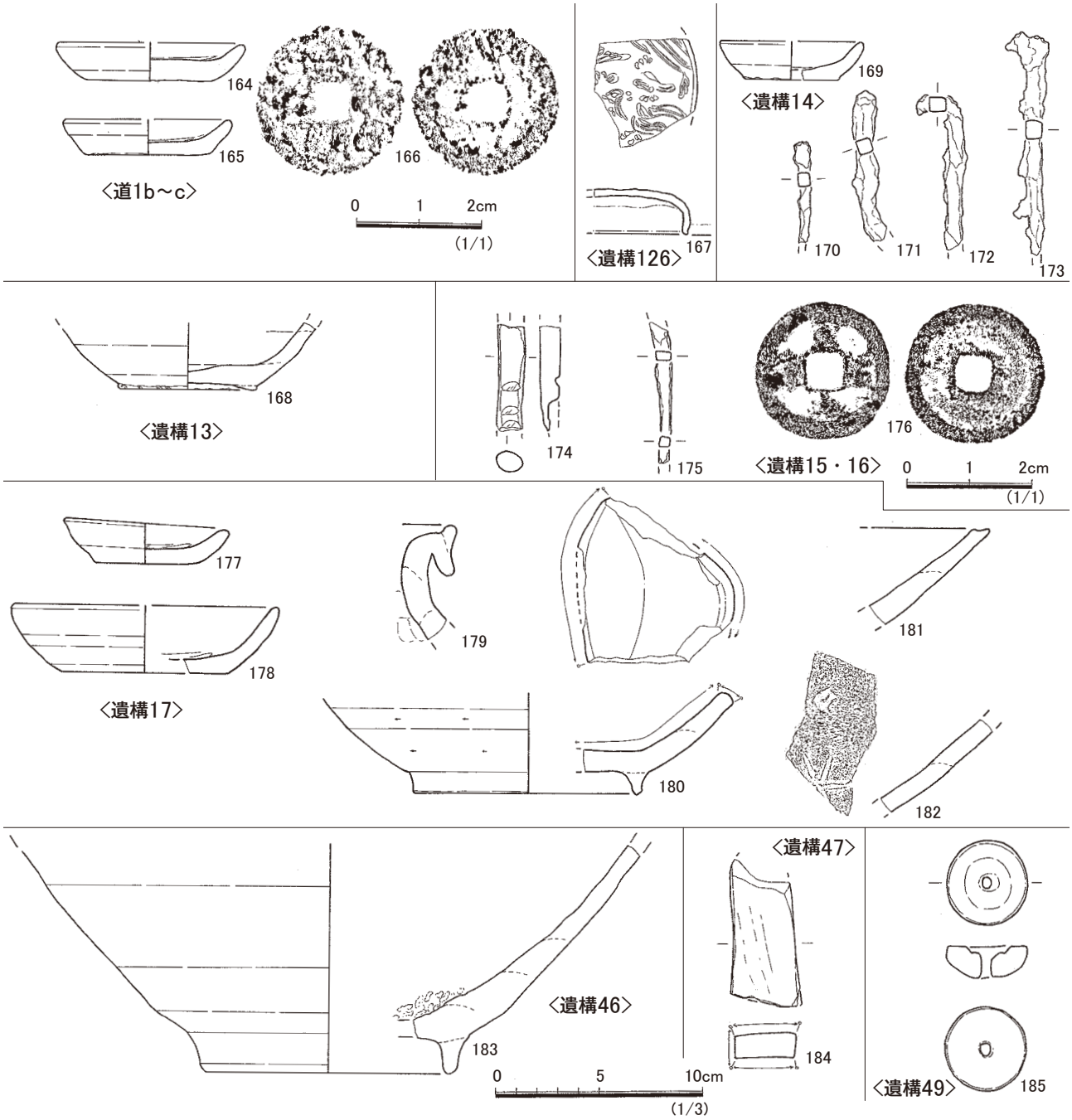


図21　2面遺構 出土遺物①

上で、底面が標高4.3ｍ以下にあることは確認できた。ほぼ垂直な掘り方形状を呈しており、現状で湧水レベル以下に底面があることから、やや小振りながら井戸としての機能が想定できる。

本遺構の出土遺物として、図27-293～299を示した。小片のみであり絶対量も少ないが、12世紀末～13世紀前葉の遺物様相といえよう。

遺構105（土坑）：Ⅱ区の南端部で検出された。南東側を3面の遺構18に切られており全体像は不明であるが、直径190cmほどの円形プランを呈していたものと考えられる。断面は円筒形を呈し、確認面から約1ｍの標高3.9ｍ強で底面に到達した。覆土は、暗褐色の砂質土である。

本遺構からの出土遺物はなかった。

遺構151（土坑）：Ⅱ区の北端部に位置する。検出できたのはごく一部で、北側の大部分が調査区外に続く。東西160cm、南北40cm以上の規模をもち、円形基調の平面プランを呈していたと考えられる。

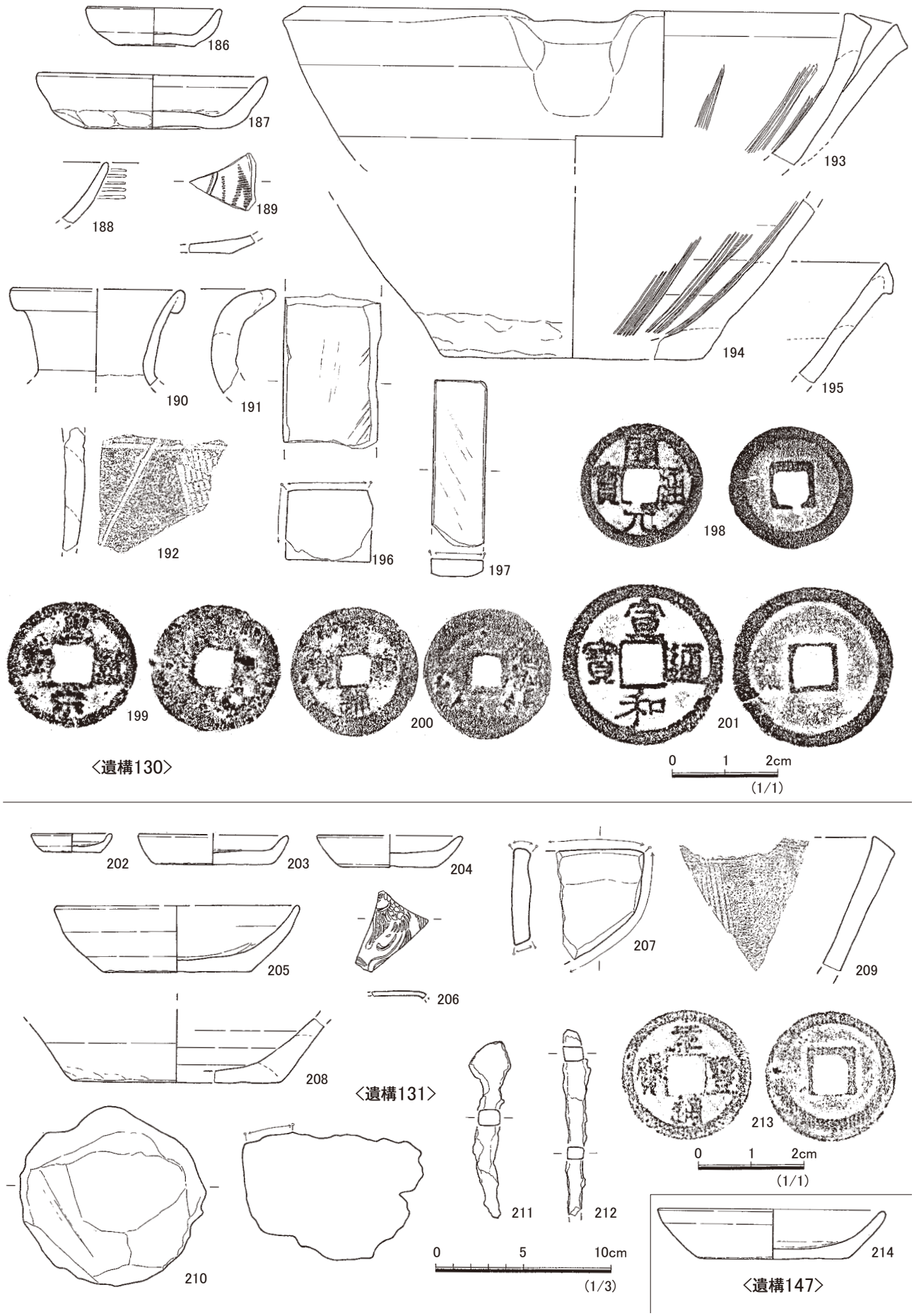


図22　２面遺構 出土遺物②

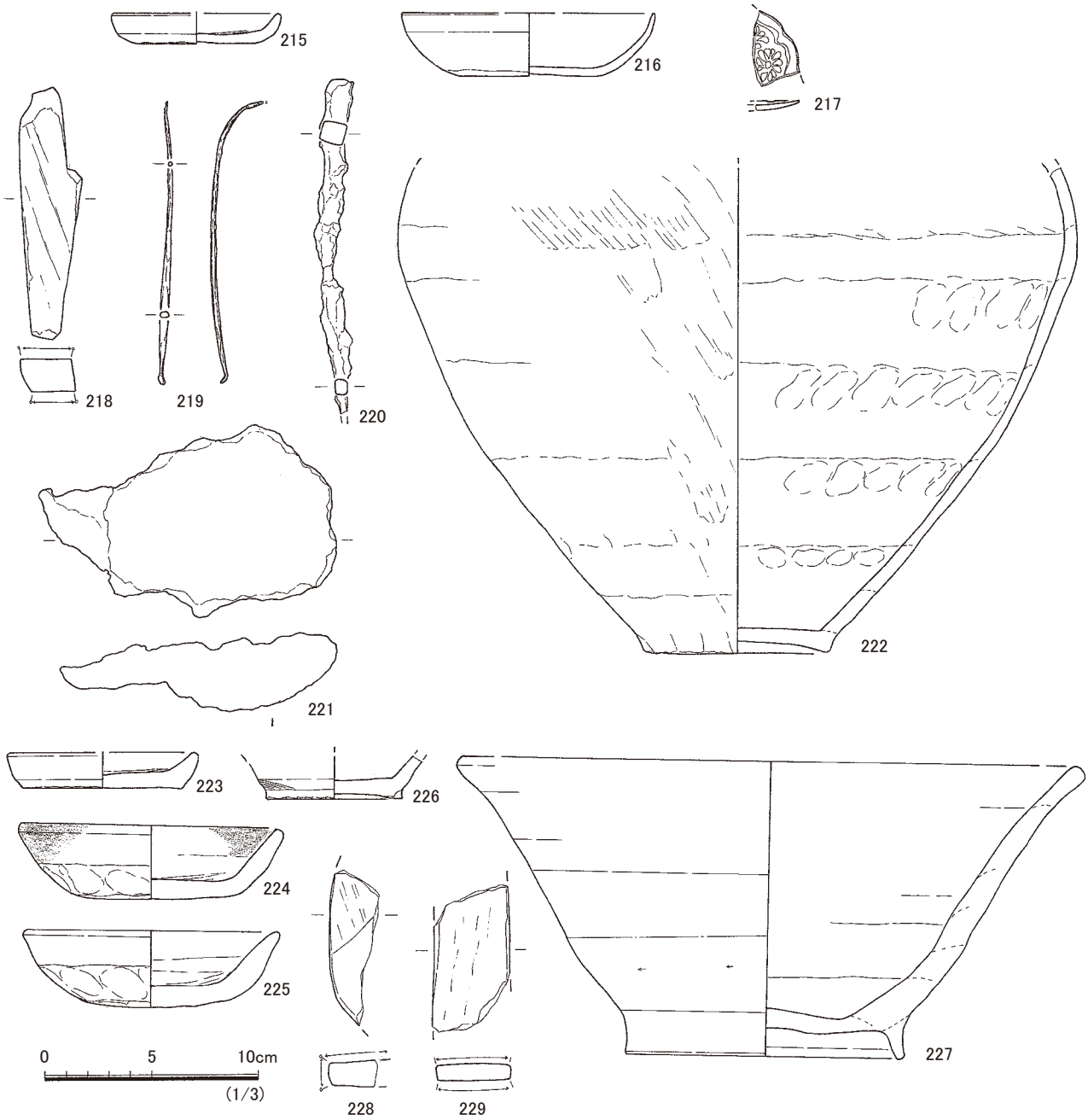


図23　2面遺構130･138 出土遺物

断面形は円筒状を呈しており、確認面から80cm以上の深さをもち標高4.1 m以下に底面があることを確認した。暗褐色の砂質土を覆土とする。

本遺構で出土した遺物は、図27-300 ～ 302に示した。小片ばかりで時期比定の決め手となる遺物はないが、手づくねかわらけ300の存在から13世紀前半の構築・使用年代を当てておきたい。

遺構119(土坑):Ⅱ区の南部で検出された。東側は調査区外に続き、南側を2面の遺構14･17に切られる。また、上部についても2面土坑の重複により削失を受けており、調査区東壁の土層断面からは4面より上位を掘り込み面としていた可能性も考えられる。検出できた限りでは東西28cm、南北67cmの平面規模をもつ。確認面からは10cm強、断面観察では30cm強の深さがあることを確認し、底面標高は4.65 mを測る。覆土は黒灰色～暗褐色の粘質土をベースとしていた。

本遺構の出土遺物として、図27-303に手づくねかわらけの大皿1点を示した。残存率が1/6ほどの小

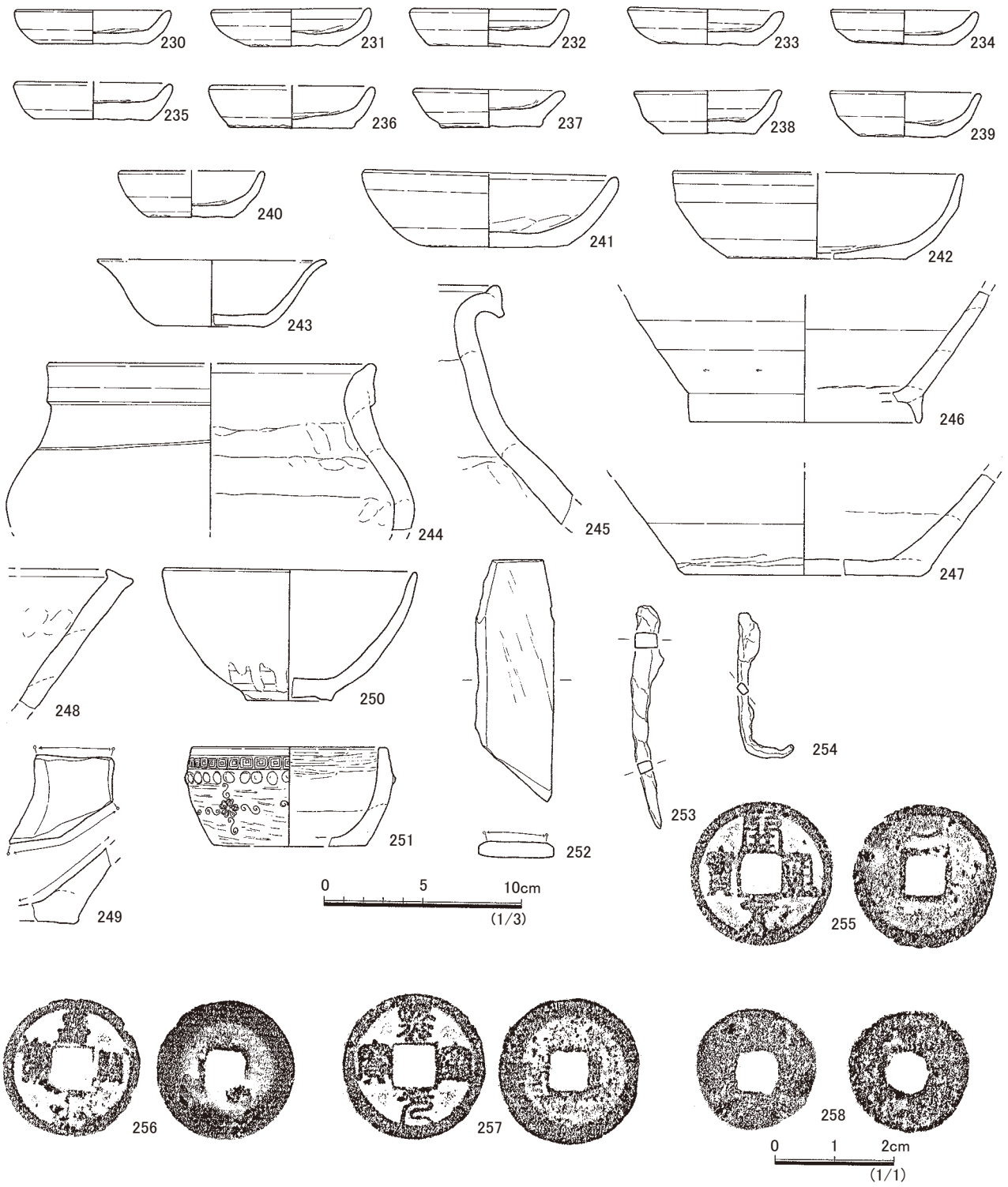


図24　２面下～３面 出土遺物

片であるため詳細な時期比定の材料とはならないが、概ね13世紀代の前半には位置付けられよう。

遺構19（ピット）：Ⅰ区の北部で検出された。直径25cmの円形プランを呈する。確認面からの深さは30cmほどで、底面標高は4.67ｍを測る。暗褐色の砂質土を覆土とする。

本遺構の出土遺物は、図27-304に手づくねかわらけの大皿１点を示した。小片であり、詳細な年代比定の材料とはしにくい。

遺構168（ピット）：Ⅲ区の中央に位置する。南北柱穴列と同じ並びに位置するが、同列とは柱間の

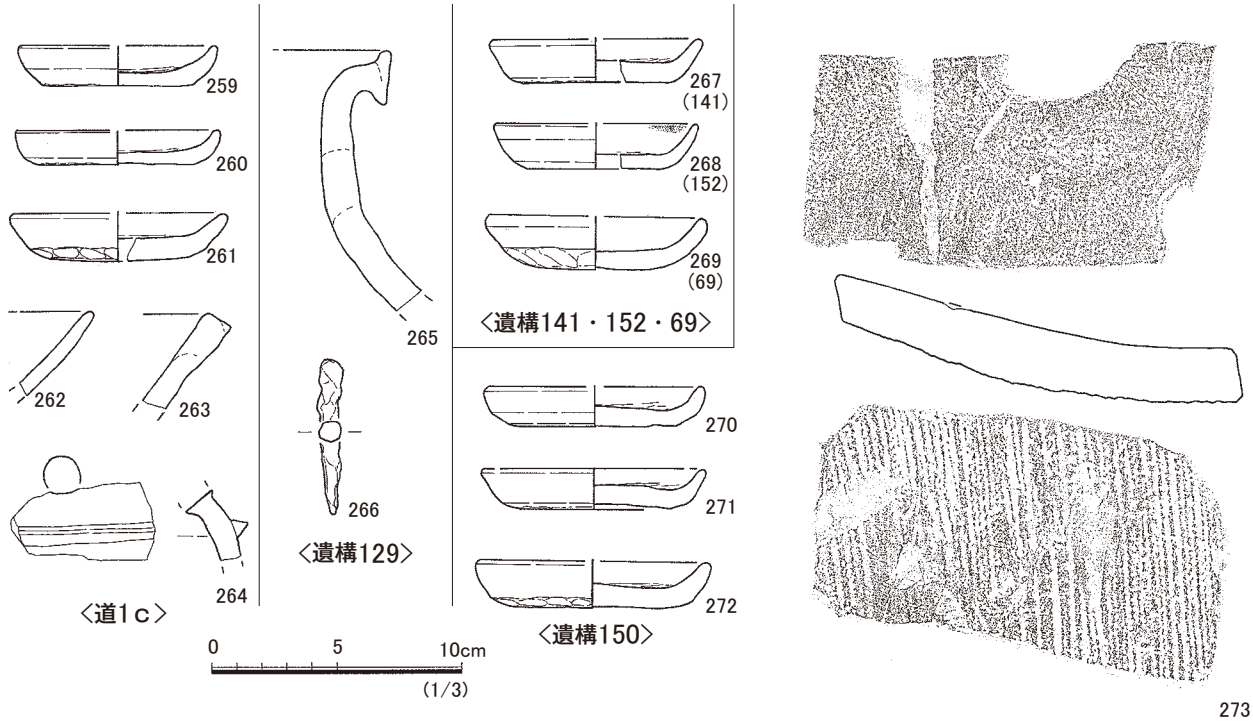


図25　3面遺構 出土遺物

距離が異なる。柱穴列の線上には他にも小穴が分布することから、補助柱もしくは別柱列の存在を想定することは可能だろう。西端部を上面遺構の重複によって失うが、直径30cm強の円形プランを呈していたものと考えられる。確認面からの深さは10cmほどで、底面標高は4.84 mを測る。

本遺構の出土遺物として、図27-305に尾張片口鉢の口縁部片1点を示した。

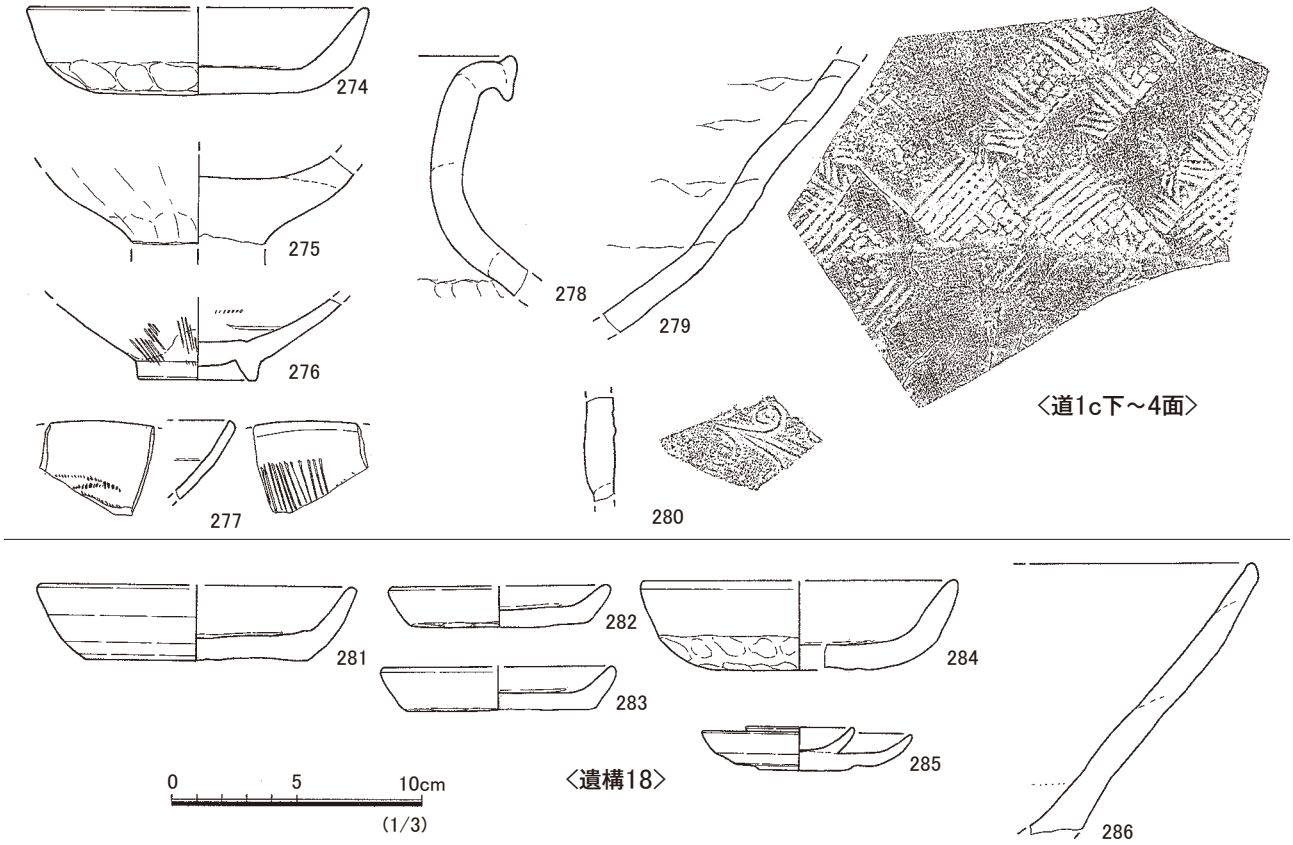


図26　3面 道1c下～4面（地山面）・3面 遺構18 出土遺物

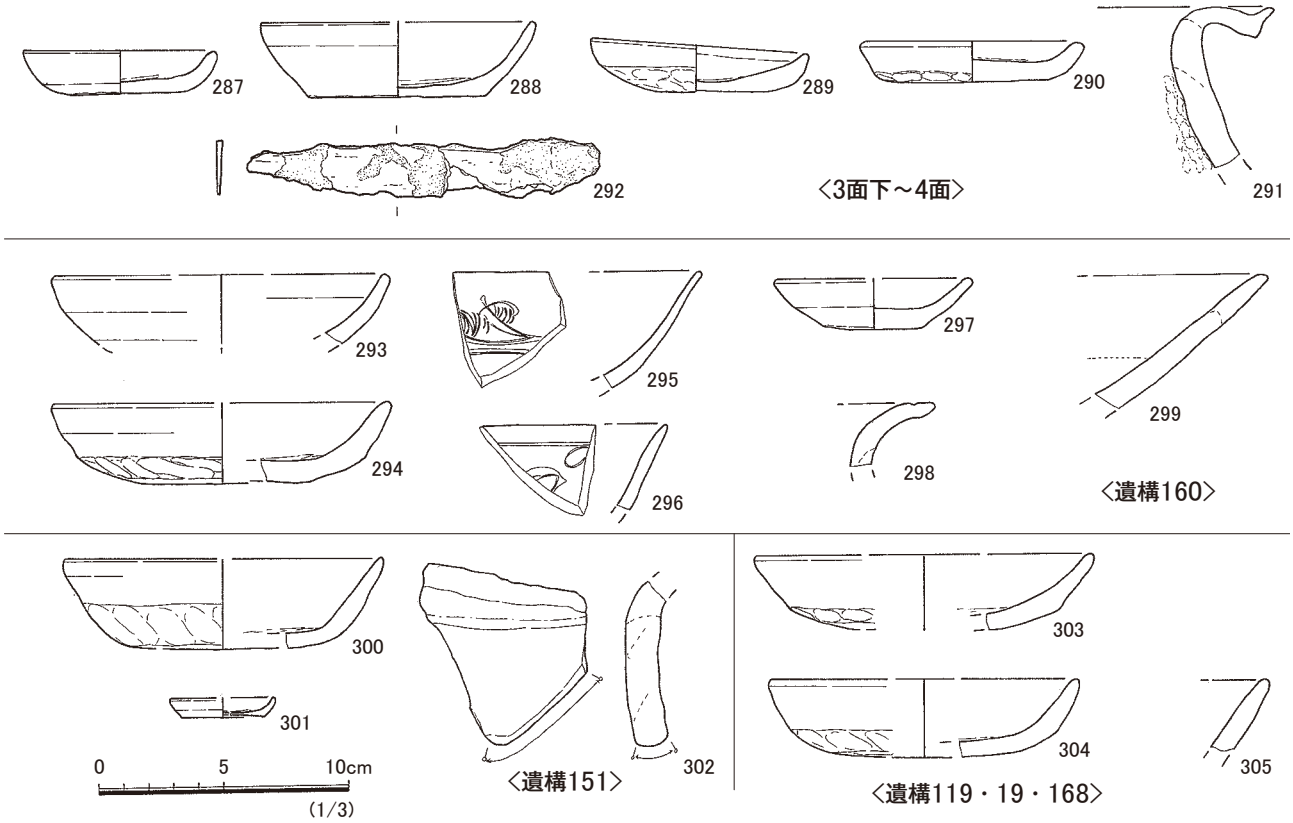


図27　3面下～4面（地山面）・4面遺構 出土遺物

第五章　調査成果のまとめ

遺構の展開と変遷について

今回の調査では80㎡弱という限られた範囲の中、南北道路を中心とする中世の土地利用の在り方を捉えることができた。南北道路は4面≒中世基盤層上面の遺構が廃絶した後に構築され、中世最上層の1面段階まで同じ規模を保ちながら踏襲される。各段階の路盤とも褐色砂や泥岩塊を用いて丁寧に築成されており、3面道路では路面上に混貝砂を敷いている状況も見て取れた。混貝砂の起源は、中世基盤層下に堆積する海成砂であると考えられる。4面遺構の出土遺物は少ないながら13世紀前半の様相に収まるので、初期道路（道1d）の構築は13世紀代の中頃（第2四半期も含むか）と考えられる。4面の南北柱穴列は道1dよりも新しく、続く道1cの西辺には板塀などの遮蔽施設が付帯していた可能性も考えられる。しかし、遮蔽物を挟んだ両サイドがどのような空間の違いを呈していたのか、今回の調査範囲の中では手掛かりを得ることができなかった。道路構築以前は井戸状の土坑が散在するのみで、出土遺物も僅少であることから、当地点における13世紀代前半までの土地利用は低調であったと推察される。

出土遺物から3面の道1cは13世紀後半に、1面の道1aは14世紀代に築成されたと考えられるので、各遺構面にも道路と近い年代観を与え得る。

1面～3面段階では、南北道路を境に東西で検出遺構の形態に差が見出せた。2面では道路西側に近接して竪穴建物が繰り返し構築される状況が見て取れ、東では小規模な土坑・ピットが重複して営まれていた。覆土中の出土遺物に拠れば、13世紀後半～14世紀前葉の中で構築・使用された遺構群と考えられる。道路の東側にも竪穴建物としての可能性を残す遺構が存在することから、道路から東にやや離れた場所での建物展開も推測できよう。道路西側の建物は路肩から60㎝しか離れていないが、路面に食い込むような構築はされておらず、道路による土地割を遵守していた様子が窺える。上屋の構造物については明確な復元案を提示するだけの見識をもたないが、遺構の検出状況から察するに、屋根材を道路面まで葺き下ろすような形態は採っていなかったと考えられる。

竪穴建物が埋没した後の1面でも道路（道1a）の東西で様相が大きく異なり、同時期に使用された遺構面として認識するのも躊躇するほどであった。道路の西側では東側よりも30～40㎝低いレベルで浅い土坑が確認されたほか、この上位では凝灰岩切り石などの石材がまとめて捨てられた跡も見られ、建物用地などとして積極的に土地利用を行った形跡は見出せなかった。道路の東側では土坑や溝が散漫に展開しており、西側より整然と土地利用が行われていた様子が窺えた。

表土から1面までに出土した遺物は、備前擂鉢などに15世紀代まで下る要素は見出せるものの殆どは14世紀代に収まり、「善寶寺寺地図」が作成された15世紀末頃の様相は捉えられなかった。後世の削平を受けた可能性もあるだろうが、この状況を理解する上では鎌倉公方足利成氏が下総古河へ逃れた康正元年（1455）以降に都市鎌倉が急速に衰退したとする従来説が助けとなるだろう。これに先駆けて15世紀に入る頃には、鎌倉時代に武家屋敷や庶民居住区が入り混じって賑わいを見せた当地区も人家疎らな地域と変貌していたのかもしれない。

本地点では中世における土地改変の頻度が非常に高かったと見え、現地調査および整理作業においてその痕跡の抽出には苦労した。なお混乱の痕を残したままの報告となったが、中世における土地利用の変遷過程を、大まかにでも示せたのではないかと思う。

線刻硯について

裏面に阿弥陀如来または地蔵菩薩の来迎図が線刻された硯は欠損品であり、道路側溝という出土位置からも他所で使用・廃棄されたものが造成土とともに本地点へと移動してきたと考えるべきであろう。遺物の具体相については前稿（押木・古田土2011）を参照されたいが、線刻画自体は稚拙に映るものの硬質な石材に極細線で丹念に描かれており、図像に託した人の心情が伝わってくる。尊像が阿弥陀菩薩であれば、来迎・浄土を希求する作者の想いの強さが偲ばれる。実際に描かれ、使用された時期は特定できないが、キャンバスとなった京都鳴滝産の楕円形四葉硯は13世紀の第2四半期頃から鎌倉への搬入が確認されるという。線刻画は消費地である鎌倉で施されたものであろうから、鎌倉後期以降の信仰・精神史を考える上で新たな素材が提供されたものと評価したい。

図28　線刻画（階調反転）

【参考文献】

高柳光寿　1959『鎌倉市史　総説編』 鎌倉市

三浦勝男編　1969『鎌倉の古絵図Ⅱ』 鎌倉市教育委員会・鎌倉国宝館

白石永二編　1976『鎌倉事典』 東京堂出版

宗臺秀明　2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』

田代郁夫　1998「大町大路と小町大路―中世都市の中の「町」と「路」―」『湘南考古学同好会会報73』 湘南考古学同好会

太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』

乗岡　実　2005「備前」『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』

藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

押木弘己・古田土俊一　2011「若宮大路周辺遺跡群の調査―成果概要と出土した線刻画をもつ硯について―」『かまくら考古』第7号　特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所

押木弘己　2011「若宮大路周辺遺跡群の調査―大町一丁目1034番9地点―」『第21回 鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨』 鎌倉市教育委員会・特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所

愛知県　2012『愛知県史　別編窯業3　中世・近世常滑系』

永田史子　2014「考古学からみた鎌倉研究の現状と課題」『鎌倉研究の未来』中世都市研究会編　山川出版社

表１　出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
表土～１面 出土遺物①（図15）						
1	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.1	3.4	0.7	完形　11g　胎土:細砂粒、白色針状物質　色調:明橙褐色
2	土器	ロクロ かわらけ・極小	(5.4)	(3.9)	0.9	1/5　胎土:緻密、やや砂質　色調:淡黄褐色　内折れ
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.4	1.4	略完形　[36]g　胎土:細砂質、白色針状物質　色調:橙色
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.1	1.8	略完形　[42]g　胎土:緻密、泥岩粒　色調:淡黄褐色
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.3	1.8	略完形　[52]g　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.9	1.7	略完形　[50]g　胎土:緻密　色調:淡黄褐色
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.1	2.1	4/5　胎土:緻密、白色針状物質微量　色調:橙色
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	5.1	1.6	完形　45g　胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	5.0	1.7	1/3　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡黄褐色　内外面煤付着
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.6	1.7	完形　60g　緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.2	2.0	略完形　[69]g　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.7)	1.6	1/2弱　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.1	1.8	2/3弱　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	5.1	1.7	1/2弱　胎土:緻密、泥岩粒　色調:淡黄褐色　器表に酸化鉄?付着
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.8	完形　51g　胎土:微砂質、泥岩粒、白色針状物質　色調:橙色
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.3	1.9	2/3　胎土:泥岩粒、色針状物質　色調:橙褐色
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.7	1/3　胎土:緻密、小礫　色調:淡黄褐色　器表に酸化鉄?付着
18	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.8	1.7	略完形　[43]g　胎土:緻密、泥岩粒　色調:淡黄褐色
19	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.8	1.9	2/3　胎土:粗、泥岩粒　色調:淡黄褐色
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.5	1.9	2/3　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色/黒褐色　内外面全体に黒ずむ
21	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.9	2.3	4/5　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:橙色
22	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.0	1.9	略完形　[72]g　胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色 口縁部内外面に煤付着
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(4.4)	2.2	1/3　胎土:緻密、白色針状物質、角閃石　色調:淡橙色
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	3.8	2.6	3/4　胎土:緻密　色調:淡黄褐色
25	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	6.8	3.6	2/3　胎土:緻密、泥岩粒　色調:橙褐色
26	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	7.3	3.5	1/3　胎土:やや微砂質、泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
27	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.3)	6.2	3.3	2/3　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色
28	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.3)	(6.6)	3.7	1/5　胎土:緻密　色調:淡橙褐色
29	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	7.0	3.2	2/3　胎土:白色針状物質　色調:淡橙褐色
30	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.1)	8.4	3.4	1/3　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色
31	磁器	青磁 蓮弁文碗	(13.5)	—	[4.7]	口～体1/6　胎土:灰色、緻密　釉調:緑灰色　龍泉窯系　大宰府Ⅱ－b類
32	磁器	青磁 蓮弁文碗	(12.9)	—	[4.1]	1/4　胎土:灰色、緻密　釉調:淡灰緑色　龍泉窯系　大宰府Ⅱ－b類
33	磁器	青磁 蓮弁文碗	(16.4)	—	[4.1]	口～体1/3　胎土:灰色、緻密で光沢あり　釉調:緑灰色　龍泉窯系　大宰府Ⅱ－b類
34	陶器	瀬戸 折縁中皿	(17.5)	(8.6)	3.6	1/3弱　胎土:灰色、緻密　釉調:淡灰緑色
35	陶器	瀬戸 折縁中皿?	—	7.9	[1.6]	底完存　胎土:黄灰色、緻密　釉調:灰黄～緑灰色　内底面に２重圏線あり

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
36	陶器	瀬戸 入れ子	(8.0)	(4.2)	3.0	略完形　[48]g　胎土:雲母　色調:黄橙色　備考:口縁部煤付着
37	陶器	常滑 甕	(20.4)	—	[7.6]	口頸1/3　胎土:緻密、やや砂質　色調:暗灰色
38	陶器	常滑 甕	—	—	[8.8]	口小片　胎土:粗、黒色粒少量　色調:暗褐色
39	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片　外面にスタンプによる花弁文＋自然釉
40	陶器	尾張 片口鉢	—	(11.3)	[7.1]	底1/3　胎土:長石、小礫　色調:灰色　内面やや磨耗 常滑Ⅰ類
41	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[3.9]	口小片　胎土:長石、小礫　色調:暗赤褐色　内面未使用
42	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	体小片　胎土:白色砂粒　色調:暗赤灰色 内面に焼成前のヘラ描き
43	陶器	すり常滑	長さ 5.0	幅 5.7	厚さ 1.6	甕の口縁部片を再利用　内面、割れ口など四辺を研磨に利用
44	陶器	すり常滑	長さ 5.8	幅 7.7	厚さ 0.9	片口鉢Ⅱ類の体部片を転用（内面磨耗）、割れ口の一辺を研磨に使用
45	陶器	すり常滑	長さ 11.9	幅 6.4	厚さ 1.3	片口鉢Ⅱ類の体部片を再利用、内面磨耗　割れ口上下端の二辺を研磨に利用

表土～1面 出土遺物②（図16）

46	陶器	備前 すり鉢	—	(13.8)	[4.0]	底1/3　胎土:緻密　色調:暗赤灰色　底部・体部内面に10条一単位の櫛目
47	陶器	備前 すり鉢	—	—	—	口小片　胎土:緻密、縞状の練り具合　色調:暗赤灰色　内面に4条一単位?の櫛目
48	陶器	東播系 鉢	—	—	[3.9]	口小片　胎土:砂質、白色砂粒　色調:灰色
49	陶器	東播系 鉢	—	—	—	口小片　胎土:砂質、白色砂粒　色調:灰色
50	瓦器	香炉	(6.0)	—	[2.3]	1/4弱　胎土:緻密、黒色　色調:橙灰色 外面ヨコヘラミガキ→スタンプ文＋貼り付け文　口縁部内面ヨコヘラミガキ
51	瓦質土器	火鉢	(39.0)	(30.6)	10.5	1/3弱　胎土:細砂質　色調:灰色　体部下端外面糸切り痕?　口縁部内面煤付着
52	土製品	管状土錘	長さ 5.4	最大径 3.2	孔径 1.1	完形　52g
53	瓦	平瓦 転用品	長さ [9.9]	幅 [9.8]	厚さ 2.2	胎土:緻密、白色砂粒　色調:灰白色　凸面に糸切り痕残る　割れ口の一辺を研磨に使用
54	石製品	硯	長さ [12.1]	幅 [5.4]	高さ 2.0	1/2以下?　[130]g　表面筆舟部に線刻画（三つ葉文?） 黒色粘板岩製（鳴滝産若大路石）
55	石製品	硯	長さ [4.3]	幅 7.2	高さ 1.6	1/5前後　粘板岩製
56	石製品	硯	7.3	4.4	2.2	略完形　[46]g　胎土:雲母・白色針状物質　色調:黄橙色
57	石製品	砥石	長さ [7.8]	幅 4.1	厚さ 1.2	1/2程度?　[56]g　仕上げ砥
58	石製品	砥石	長さ [7.7]	幅 3.2	厚さ 1.1	1/3前後か　仕上げ砥
59	石製品	砥石	長さ [10.7]	幅 4.7	厚さ 2.9	残存率不明　[243]g　表面と側面の二面を使用　中砥
60	石製品	砥石	長さ [7.7]	幅 5.0	厚さ 1.1	残存率不明　仕上げ砥か
61	石製品	砥石	長さ [7.6]	幅 2.5	厚さ 1.2	残存率不明　[38]g　表面1面を使用　仕上げ砥
62	骨製品	笄	長さ [10.1]	幅 1.6	厚さ 0.3	1/2
63	鉄製品	釘	長さ 9.9	幅 1.0	厚さ 1.0	完形　19g
64	鉄製品	釘	長さ 6.0	幅 0.7	厚さ 0.7	完形　9g
65	鉄製品	釘	長さ 5.8	幅 1.0	厚さ 1.1	完形　5g
66	銅製品	銭	直径 1.9	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　元祐通寶（篆書）　中国北宋代、1086年初鋳

1面遺構 出土遺物①（図17）

67	土器	ロクロ かわらけ・大	11.7	7.5	3.2	4/5　胎土:白色針状物質　色調:淡黄褐色
68	土器	ロクロ かわらけ・特大	(18.6)	(9.6)	4.8	1/3　胎土:粗、白色針状物質　色調:淡黄褐色　内底ナデ数回
69	陶器	常滑 壺	—	—	—	胴小片　胎土:緻密、長石・石英　肩部外面に突帯＋耳　色調:灰色

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
70	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	［6.7］	口小片　胎土:緻密、白色砂粒　色調:暗灰色
71	土器	吉備系 碗	—	4.6	［1.1］	底完存　胎土:緻密　色調:灰色～黒灰色　内底面に紅?付着
72	石製品	砥石	長さ ［6.4］	幅 ［3.8］	厚さ 2.1	1/2前後か　中砥
73	骨製品	笄	長さ ［13.9］	幅 1.7	厚さ 0.6	先端部欠損
74	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.4	1.4	2/3　胎土:細砂、泥岩粒　色調:淡黄褐色
75	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	7.4	3.4	完形　170g　胎土:粗、白色針状物質微量　色調:橙褐色
76	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	口小片　胎土:粗、小礫　色調:赤褐色
77	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	2.1	3/4　胎土:緻密　白色針状物質微量　色調:淡黄褐色
78	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.0	2.0	完形　48g　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
79	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.6	2.1	完形　52g　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡黄褐色
80	陶器	尾張型 山茶碗	—	(6.9)	［1.7］	底1/3　胎土:砂質、白色礫　色調:灰色　高台内回転糸切り痕
81	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	13.2	1/8以下　胎土:緻密、白色・黒色粒　色調:暗赤灰色～褐色 内面に自然釉付着、使用感なし
82	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	口小片　胎土:緻密、白色粗砂　色調:暗灰色～暗赤灰色　9型式以降
83	瓦質土器	火鉢 転用品	長さ 12.4	幅 11.2	厚さ 1.5	底部片を再利用か　割れ口の三辺を研磨に使用 内底面ナデ、外底面に糸切り?痕
84	鉄製品	釘	長さ ［6.0］	幅 1.1	厚さ 0.8	先端部欠損　［9］g
85	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.1	2.5	2/3弱　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙色
86	陶器	常滑 甕	—	—	—	口小片　胎土:粗、小礫　色調:灰色
87	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	［6.2］	口小片　胎土:長石　色調:暗赤灰色　8～9型式
88	鉄製品	釘	長さ 7.0	幅 0.7	厚さ 0.7	完形　6g
1面遺構 出土遺物②（図18）						
89	石製品	硯	長さ ［10.9］	幅 ［7.3］	高さ 1.4	4/5　［111］g　頁岩製（鳴滝産） 裏面に針状具による線刻画（阿弥陀如来or地蔵菩薩の来迎図か）
90	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	5.0	1.7	1/4弱　胎土:緻密　色調:淡黄褐色　内底面に焼成後の線刻（文字か?判読不明）
91	土器	ロクロ かわらけ・中	10.9	6.8	3.1	略完形　［139］g　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色 口縁部・体部内外面に煤付着
92	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　景徳元寶　中国北宋代、1004年初鋳
93	磁器	白磁 合子蓋	(5.4)	天井径 (4.5)	1.4	1/6　胎土:白色、緻密　釉調:白色　天井部外面型押し文　体部外面蓮弁文
94	磁器	青磁 蓮弁文碗	—	—	［2.7］	口小片　胎土:灰色、密　釉調:灰緑色　龍泉窯系　大宰府Ⅱ－b類
95	陶器	備前 すり鉢	—	—	—	口小片　胎土:緻密、小礫　色調:赤灰色～褐色　内面に6条一単位の櫛目
96	瓦質土器	角火鉢?	長さ ［9.8］	幅 ［6.0］	高さ 3.3	小片　内面ナデ、外面ヘラミガキ、外底面スノコ状圧痕
97	石製品	砥石	長さ ［21.2］	幅 3.7	厚さ 2.6	一部欠損　［345］g　中砥（上野産）　4面を使用
98	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　天聖元寶（真書）　中国北宋代、1023年初鋳
99	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　熙寧元寶（真書）　中国北宋代、1068年初鋳
100	銅製品	銭	直径 2.2	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　元豊通寶（行書）　中国北宋代、1078年初鋳
101	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形　元豊通寶（行書）　中国北宋代、1078年初鋳
102	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　元祐通寶（篆書）　中国北宋代、1086年初鋳
103	—	—	—	—	—	欠番
104	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　元祐通寶（篆書）　中国北宋代、1086年初鋳

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
105	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　政和通寶（篆書）　中国北宋代、1111年初鋳
1面下～2面 出土遺物①（図19）						
106	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.4	3.4	0.9	完形　11g　胎土:緻密　色調:淡橙色
107	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.3	2.0	完形　47g　胎土:やや砂質、白色針状物質　色調:橙色
108	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	4.9	1.9	略完形　[48]g　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色
109	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	6.1	1.8	完形　52g　胎土:砂質、白色針状物質　色調:淡橙色
110	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.1	1.7	略完形　[48]g　胎土:緻密　色調:淡黄褐色　器表、割れ口に酸化鉄?付着
111	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.3	1.7	3/4　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
112	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.7	1.7	完形　52g　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色
113	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.9	1.7	完形　50g　胎土:やや砂質　色調:淡橙褐色
114	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.4	1.7	完形　56g　胎土:緻密、泥岩粒、スコリア　色調:淡黄褐色 口縁部内外面に煤付着
115	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.0	2.0	完形　67g　胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色 口縁部内外面に煤付着
116	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.8	1.8	3/4　胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡黄褐色
117	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.7	1.8	略完形　[57]g　胎土　緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡黄褐色
118	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.2	1.7	3/4　胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色
119	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.4	2.0	2/3　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色
120	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	4.5	1.9	略完形、口縁部細かく打ち欠き　[45]g　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色
121	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	2.2	2/3　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色
122	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.5)	2.2	1/4　胎土:緻密　色調:淡黄褐色
123	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.7	1.7	2/3　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色 底部焼成後に穿孔（内面から）　口縁部内外面に煤付着
124	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(6.8)	3.1	1/5　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色
125	土器	ロクロ かわらけ・大	11.9	7.2	3.5	4/5　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色　口縁部内外面に煤付着
126	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	6.5	3.7	略完形　[173]g　胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙色
127	土器	ロクロ かわらけ・大	—	(6.0)	[1.2]	底1/3　胎土:白色針状物質　色調:淡黄褐色　底部焼成後に穿孔
128	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.4)	3.3	1/2弱　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
129	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	8.6	3.7	3/4　緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
130	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	(6.6)	1.4	1/3　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
131	磁器	白磁 口兀皿	(10.5)	(6.6)	2.0	1/6　胎土:白色、緻密　釉調:白黄色、薄掛け　外底面ヘラ切り、施釉
132	磁器	青磁 蓮弁文碗	—	4.9	[3.1]	底完存　胎土:灰色、やや粗　釉調:淡緑灰色　龍泉窯系　大宰府Ⅲ－2C類か
133	磁器	青磁 碗	—	5.3	[3.0]	底4/5　胎土:緻密、淡灰黄色　釉調:淡緑色　龍泉窯系　大宰府Ⅰ－1a類か
134	磁器	青磁 碗	—	4.7	[1.7]	底完存　胎土:白色、緻密　釉調:乳白色
135	磁器	青磁 蓮弁文碗	—	—	[3.4]	口小片　胎土:灰白色、緻密　色調:淡灰緑色
136	磁器	青磁 皿	(18.2)	(9.6)	4.1	1/6　胎土:灰白色、緻密　色調:淡灰緑色　内面に蓮弁状の型押し
137	舶載陶器	釣窯系 植木鉢?	—	—	[4.8]	胴1/8以下　胎土:灰褐色、白色微粒　釉調:褐色・白青色（褐釉＋澱青釉） 釣窯系・・・中国浙江省婺（ぶ）州窯などに類例
138	陶器	瀬戸 瓶子	(4.0)	—	[3.7]	口完存　胎土:灰色、緻密　釉調:淡緑灰色　瓶子Ⅰ or Ⅱ類　古瀬戸中期様式-Ⅱ期か
139	陶器	瀬戸 水滴	—	3.6	[2.0]	底完存　胎土:灰黄色、やや粗、混入物なし　釉調:透明釉　外底面まで施釉

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
140	陶器	瀬戸 入れ子	4.5	2.6	1.7	完形　15g　胎土:緻密、混入物なし　色調:灰白色　外底面回転糸切り→一部ナデ　内面に紅付着
141	陶器	瀬戸 卸皿	(18.8)	—	[3.3]	口1/4弱　胎土:灰白色、緻密　釉調:淡灰黄色　体部下端外面は無釉
142	陶器	瀬戸 折縁深皿	(25.8)	(16.4)	8.0	底1/6～口わずか　胎土:淡灰黄色、緻密、混入物少ない　釉調:淡灰黄色
143	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片　胎土:粗、白色砂粒　色調:赤褐色　外面に扇文のスタンプ
144	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片　外面に焼成前のヘラ描き
145	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片　胎土:長石　色調:赤褐色　外面に方格文のスタンプ
146	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.2]	口小片　胎土:長石　色調:赤灰色　内面未使用
147	陶器	すり常滑	長さ 7.9	幅 5.9	厚さ 1.5	甕の胴部片を転用　割れ口の二辺を研磨に使用
148	陶器	すり常滑	長さ [9.7]	幅 [7.7]	厚さ 1.2	甕の胴部片を再利用　割れ口の三辺を研磨に利用
149	瓦質土器	火鉢	—	—	10.3	口～体小片　胎土:灰白色、砂質、小礫　色調:灰黒色 口縁部内面～体部外面ヨコヘラミガキ→体部外面スタンプ花弁文＋貼り付け珠文

1面下～2面 出土遺物②（図20）

150	土製品	かわらけ転用 円盤	直径 2.6	厚さ 0.9	—	完形　6g　胎土:砂質　色調:淡橙褐色
151	瓦	平瓦 転用品	長さ [11.0]	幅 7.8	厚さ 2.1	分割後、再整形　胎土:緻密、小礫　色調:灰白色 凹面に離れ砂→「十」字の条線　凸面ナデorケズリ
152	石製品	硯	長さ [5.2]	幅 [9.5]	高さ [1.8]	1/3前後か
153	瓦	平瓦 転用品	長さ [9.3]	幅 5.3	厚さ 2.0	1/2前後　胎土:細砂質　色調:暗灰色　凸面離れ砂　割れ口を再加工（研磨）
154	石製品	用途不明	長さ 6.1	幅 3.7	厚さ 3.3	完形　35g　軽石製　一面に小孔
155	泥岩製品	用途不明	最大径 8.2	高さ 6.8	—	完形?　354g
156	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　祥符元寶　中国北宋代、1009年初鋳
157	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　元豊通寶（行書）　中国北宋代、1078年初鋳
158	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　元豊通寶（篆書）　中国北宋代、1078年初鋳
159	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　元祐通寶（行書）　中国北宋代、1086年初鋳
160	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　元祐通寶（篆書）　中国北宋代、1086年初鋳
161	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形　元符通寶（行書）　中国北宋代、1098年初鋳
162	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　大観通寶　中国北宋代、1107年初鋳
163	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　大観通寶　中国北宋代、1107年初鋳

2面遺構 出土遺物①（図21）

164	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.2)	1.8	1/2弱　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
165	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.7	1/3　胎土:細砂質、白色針状物質　色調:淡橙褐色
166	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　銭銘不明
167	磁器	青白磁 合子蓋	—	—	[2.1]	1/6以下　胎土:灰白色、緻密　釉調:白色～青白色　口縁部内外面無釉 天井部外面に型押しによる文様（鳳凰?草花?）
168	陶器	尾張型 山茶碗	—	6.5	[3.3]	底完存　胎土:粗、白色砂、黒色粒　色調:灰色　高台内回転糸切り痕 内面使用により平滑、光沢あり
169	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.3)	(4.6)	1.8	1/4　胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙色
170	鉄製品	釘	長さ [4.8]	幅 0.7	厚さ 0.8	下端部欠損　[3] g
171	鉄製品	釘	長さ [7.3]	幅 0.8	厚さ 0.8	下端部欠損　[13] g
172	鉄製品	釘	長さ (7.9)	幅 1.1	厚さ 0.9	下端部欠損　[13]g
173	鉄製品	釘	長さ [10.7]	幅 0.8	厚さ 1.0	下端部欠損　[23]g

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
174	骨製品	用途不明	長さ [5.0]	幅 1.3	厚さ 1.0	両端欠損　上面に刳り込み（3ヶ所）
175	鉄製品	釘	長さ [6.8]	幅 0.8	厚さ 0.4	両端欠損　[7]g
176	銅製品	銭	直径 2.1	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形　銭銘不明
177	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.8	2.2	略完形　[64]g　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
178	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.0)	3.3	1/4弱　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
179	陶器	常滑 甕	—	—	[5.6]	口小片　胎土:長石　色調:赤灰色　6b型式
180	陶器	すり常滑	—	(10.8)	4.8	片口鉢Ⅰ類片を再利用　内面磨耗　割れ口二辺を研磨に利用
181	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[4.7]	口小片　胎土:長石　色調:暗赤灰色
182	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	体小片　胎土:緻密　色調:暗灰色　内面にヘラ描き？＋自然釉（使用痕なし）
183	陶器	尾張 片口鉢	—	(12.0)	[11.0]	底1/8以下　胎土:粗、長石　色調:灰色　内面に自然釉、内底面付近の器表剥落
184	石製品	砥石	長さ [6.5]	幅 3.3	厚さ 1.3	残存率不明　中砥
185	石製品	紡錘車	最大径 4.1	孔径 0.7	厚さ 1.6	完形　33g　滑石鍋の転用品か？　独楽の可能性もあり
2面遺構 出土遺物②（図22）						
186	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.3	2.1	完形　46g　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色
187	土器	手づくね かわらけ・大	12.9	—	3.2	2/3　胎土:やや砂質、白色針状物質　色調:淡黄褐色
188	磁器	青磁 碗	—	—	[3.4]	口小片　口縁部外面に横位沈線5条　胎土:灰色、やや粗　釉調:緑灰色
189	磁器	青磁 櫛描文皿	—	—	[1.0]	底小片　胎土:灰色、緻密　釉調:緑灰色　内底面に櫛描文　外底面無釉
190	瀬戸	瀬戸 四耳壺	(9.6)	—	[5.3]	口1/3　胎土:灰白色、緻密　釉調:緑灰色　二次焼成受け釉薬が発泡
191	陶器	渥美 甕	—	—	[5.0]	口小片　胎土:微砂質　色調:灰色～暗青灰色
192	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片　胎土:長石　色調:灰色
193	陶器	備前 すり鉢	(31.4)	—	[8.5]	口1/6　胎土:粗、白色礫　色調:赤灰色～黒灰色　内面に6条一単位の櫛目
194	陶器	備前 すり鉢	—	(14.8)	[9.1]	底1/4　胎土:白色礫　色調:赤褐色～緑灰色　内面に7条一単位の櫛目
195	陶器	東播系 鉢	—	—	—	口小片　胎土:粗砂質、小礫　色調:暗灰色　片口部が部分的に残存
196	石製品	砥石	長さ [8.4]	幅 5.5	厚さ 4.1	残存率不明　[329]g　粗砥
197	石製品	砥石	長さ [9.3]	幅 2.9	厚さ 1.0	1/2以上か　仕上げ砥
198	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　開元通寶　中国唐代、621年初鋳
199	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　皇宋通寶（真書）　中国北宋代、1038年初鋳
200	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形　嘉祐通寶（篆書）　中国北宋代、1056年初鋳
201	銅製品	銭	直径 3.0	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形　宣和通寶・折二銭（分楷）　中国北宋代、1119年初鋳
202	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.5	3.3	1.1	2/3　胎土:砂質、泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
203	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	6.4	1.7	1/2弱　胎土:緻密　色調:橙褐色
204	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.5)	1.8	1/3　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色
205	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(8.4)	3.8	1/3　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
206	磁器	青白磁 合子蓋	—	—	—	天井小片　胎土:白色、緻密　釉調:青白色　天井部外面に型押しによる鳳凰文
207	陶器	すり常滑	長さ 6.2	幅 4.9	厚さ 1.1	片口鉢Ⅱ類の口小片を再利用、口唇部と割れ口の一辺を研磨に利用 内面に自然釉付着
208	陶器	東播系 鉢	—	(11.9)	[3.8]	底1/4　胎土:粗、白色礫　色調:灰白色　内外面に薄い煤付着

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
209	陶器	備前 すり鉢	—	—	—	口小片　胎土:灰色で緻密、小礫、黒色粒　内面に7条一単位の櫛目
210	石製品	軽石 研磨具?	長さ 10.5	幅 10.0	厚さ 7.0	完形?　113g　白色～灰白色
211	鉄製品	釘	長さ 9.9	幅 2.3	厚さ 2.0	完形　25g
212	鉄製品	釘	長さ [10.5]	幅 1.5	厚さ 0.9	下端部欠損　[32]g
213	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　元豊通寶（篆書）　中国北宋代、1078年
214	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.5	2.8	完形　151g　胎土:やや砂質、泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
2面遺構130・138 出土遺物（図23）						
215	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.4	1.4	1/2弱　胎土:砂質、白色針状物質、角閃石
216	土器	白かわらけ 手づくね?大	(11.8)	—	2.9	1/3　胎土:緻密、割れ口が薄い層状をなす　色調:白灰色
217	磁器	青白磁 皿	—	—	—	口小片　胎土:白色、緻密　釉調:青白色　内面に型押しの菊花文
218	石製品	砥石	長さ 11.8	幅 2.8	厚さ 1.6	完形?　中砥?　表裏2面を使用
219	金銅製品	笄	長さ [13.1]	幅 0.4	厚さ 0.3	ほぼ完形　[4.7]g　青銅の地金に鍍金
220	鉄製品	釘	長さ [14.5]	幅 1.3	厚さ 1.1	下端部欠損　[32]g
221	鉄製品	碗形滓	長さ 13.9	幅 8.0	厚さ 3.5	完形　402g
222	陶器	常滑 甕	—	17.0	[45.2]	口頸欠失　胎土:灰黒色、外面に長石表出
223	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.4)	1.7	1/2弱　胎土:細砂質、白色針状物質　色調:淡橙色
224	土器	手づくね かわらけ・大	12.1	—	3.5	4/5　胎土:微砂質、白色針状物質　色調:淡橙褐色
225	土器	手づくね かわらけ・大	11.7	—	3.6	完形　187g　胎土:粗、泥岩粒、白色針状物質　色調:橙色
226	陶器	北部系 山茶碗	—	5.4	[2.1]	底完存　胎土:黒色微粒表出　色調:灰白色　内底面磨耗　東濃産か?
227	陶器	尾張 片口鉢	(28.6)	13.0	13.7	底完存～口わずか　胎土:粗、長石、小礫　色調:灰色/黒色 内面磨耗　内外面～高台内薄く黒変
228	陶器	すり常滑	長さ [7.2]	幅 [2.2]	1.3	片口鉢Ⅰ類の小片を再利用　内面と割れ口の一辺を研磨に利用
229	石製品	砥石	長さ [6.2]	幅 3.6	厚さ 0.8	両端欠損　[28]g　仕上げ砥か
2面下～3面 出土遺物（図24）						
230	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.7	略完形　[55]g　胎土:緻密　色調:淡黄褐色
231	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.5	1.9	略完形　[56]g　胎土:緻密、泥岩粒　色調:淡黄褐色
232	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.1	1.9	4/5　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
233	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	1.9	略完形　[48]g　胎土:やや砂質、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色
234	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.3	1.8	完形　49g　胎土:緻密、白色針状物質、雲母?　色調:淡黄褐色
235	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	5.8	1.9	2/3弱　胎土:細砂質、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡黄褐色
236	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.4)	2.1	1/2弱　胎土:緻密　色調:淡黄褐色
237	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.1	2.0	3/4　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡黄褐色
238	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.7	2.2	完形　41g　胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
239	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.4	2.2	4/5　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:橙褐色
240	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	4.4	2.3	2/3弱　胎土:白色針状物質　色調:橙褐色
241	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	7.5	3.9	3/4　胎土:緻密　色調:淡黄褐色
242	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.6)	(9.0)	4.3	1/4弱　胎土:泥岩粒・白色礫　色調:明黄灰色　非在地産か

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
243	磁器	白磁 口禿皿	(11.5)	(5.4)	3.4	口わずか～底1/2弱　胎土:灰白色、緻密　釉調:淡青白色、薄掛け 外底面回転ヘラ切り、無釉　大宰府Ⅸ－1c類
244	陶器	常滑 広口壺	(16.4)	—	[8.3]	口～胴1/3　胎土:白色粗砂　色調:暗褐色～黒褐色　「不識壺」
245	陶器	常滑 甕	—	—	[12.0]	口小片　胎土:やや砂質、緻密　色調:暗灰色　6a型式
246	陶器	尾張 片口鉢	—	11.5	[6.7]	底1/2　胎土:長石、白色礫　色調:灰色
247	陶器	産地不詳 鉢	—	(12.0)	[5.2]	底1/3　胎土:粗砂質、長石、小礫　色調:灰白色　外底面に離れ砂?
248	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	口小片　胎土:長石　色調:淡橙褐色　内面に自然釉、未使用
249	陶器	すり常滑	—	—	[3.8]	片口鉢Ⅱ類の体～底部片を転用（内面磨耗）、割れ口の二辺を研磨に使用
250	陶器	瀬戸 天目茶碗	(12.6)	(4.4)	6.6	底1/2～口1/8　胎土:淡灰色、精緻　釉調:黒褐色/褐色 体部下位外面～高台内錆釉薬　天目茶碗D類?　大窯期以降か?
251	瓦器	香炉	(9.8)	(7.8)	[5.1]	1/4弱　胎土:灰白色、白・黒色細砂　色調:黒灰色　本来は三足あり? 外面ヨコヘラミガキ→スタンプ文＋貼り付け文　内面口縁部ヨコヘラミガキ
252	石製品	砥石	長さ [12.2]	幅 3.9	厚さ 0.8	1/2前後か　表面1面を使用　仕上げ砥
253	鉄製品	釘	長さ 11.3	幅 1.2	厚さ 0.9	完形　16g
254	鉄製品	釘	長さ (9.4)	幅 0.5	厚さ 0.4	完形　10g
255	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　開元通寶　中国唐代、621年初鋳
256	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　嘉祐通寶（篆書）　中国北宋代、1056年初鋳
257	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　熙寧元寶（篆書）　中国北宋代、1068年初鋳
258	銅製品	銭	直径 2.0	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形　銭銘なし
3面遺構 出土遺物（図25）						
259	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.7	1/3　胎土:やや細砂質、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡黄褐色
260	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	6.2	1.5	1/2弱　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
261	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	—	1.9	1/2弱　胎土:白色針状物質　色調:淡橙褐色
262	陶器	瀬戸 碗?	—	—	[3.3]	口小片　胎土:灰色、緻密　釉調:淡緑灰色
263	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	口小片　胎土:長石　色調:赤褐色　6b～7型式
264	陶器	渥美・湖西か 器種不明	—	—	—	胴小片　胎土:微砂質、緻密　色調:灰色　円形の透孔、外面に突帯
265	陶器	常滑・甕	—	—	—	口小片　胎土:緻密、長石　色調:暗灰色　6a型式
266	鉄製品	釘	長さ 5.1	幅 0.9	厚さ 0.8	完形?（錆の付着顕著）
267	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(5.8)	1.8	1/3　胎土:細砂質　色調:淡黄褐色
268	土器	ロクロ かわらけ・小	(8·0)	(5.3)	1.9	1/3　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色　口縁部内外面に煤付着
269	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	1.6	1/4　胎土:やや砂質　雲母、角閃石　色調:淡黄褐色
270	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	6.0	1.6	1/2弱　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色
271	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	6.0	1.6	1/2弱　胎土:白色針状物質　色調:淡橙褐色
272	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.4	1/2弱　胎土:細砂質、白色針状物質　色調:橙褐色
273	瓦	平瓦	長さ [9.0]	幅 16.3	厚さ 2.2	残存率不明　焼成後タテに2分割か?　胎土:緻密、白色微砂　色調:灰色 凸面縄目叩き＋竹管文、凹面ナデ（離れ砂）　永福寺女瓦A類
3面 道1c下～4面（地山面）・3面 遺構18出土遺物（図26）						
274	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	[3.3]	1/3弱　胎土:やや砂質、泥岩粒、白色針状物質　色調:橙色
275	土器	燭台?	—	—	[3.5]	皿部?　胎土:微砂質、白色針状物質、角閃石　色調:淡橙褐色
276	磁器	青磁 櫛描文碗	—	8.6	[3.3]	底1/2　胎土:灰色、緻密　釉調:緑色、薄掛け　内外面に櫛描き文様 同安窯系　大宰府Ⅰ－1b類

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
277	磁器	青磁 櫛描文碗	—	—	［3.1］	口小片　胎土:灰白色、やや粗　釉調:淡緑色、薄掛け　内外面に櫛描き文様 同安窯系　大宰府Ⅰ－1b類
278	陶器	常滑 甕	—	—	［9.3］	口小片　胎土:粗、白色粗砂　色調:暗褐色
279	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片　胎土:淡灰黄色、緻密　色調灰色　外面に格子状の押印帯2段
280	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片　胎土:緻密　色調:灰色～赤褐色　外面に唐草文のスタンプ
281	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	8.9	3.0	1/2弱　胎土:やや砂質、泥岩粒、白色針状物質、角閃石　色調:淡黄褐色
282	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	(7.1)	1.7	1/2弱　胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質　色調:淡黄褐色
283	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	(7.6)	1.8	1/3　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡黄褐色
284	土器	手づくね かわらけ・大	(12.5)	—	3.5	1/4　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色
285	陶器	東遠 子持ち小皿	(8.3)	3.7	1.6	子皿4.1×3.2×1.1cm　総高1.8cm　3/4弱　胎土:精緻、白色微砂　色調:灰色
286	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	［10.7］	1/8以下、底部剥離　胎土:密、白色礫　色調:暗灰褐色
3面下～4面（地山面）・4面遺構 出土遺物（図27）						
287	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	1.8	4/5　胎土:泥岩粒、白色針状物質　色調:淡橙褐色
288	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.9)	7.0	2.9	2/3　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙色
289	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	2.1	完形　63g　胎土:微砂質、白色針状物質、角閃石　色調:淡黄褐色
290	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	1.7	3/4　胎土:微砂質、白色針状物質　色調:橙褐色
291	陶器	常滑 甕	—	—	—	口小片　胎土:黒色粗粒、長石　色調:灰色
292	鉄製品	刀子	長さ (14.1)	幅 (2.1)	厚さ 0.2	両端部欠損　［33.5］g
293	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.3)	—	［2.7］	1/6以下　胎土:細砂多量、白色針状物質　色調:橙褐色
294	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.2	1/3弱　胎土:細砂少量、雲母・角閃石　色調:淡黄灰色（外面薄く黒変）
295	磁器	青磁 劃花文碗	—	—	［4.6］	口小片　胎土:白灰色、緻密　釉調:淡灰緑色 龍泉窯系　大宰府Ⅰ-3a類
296	磁器	青磁 劃花文碗	—	—	［3.4］	口小片　胎土:白灰色、緻密　釉調:淡緑灰色 龍泉窯系　大宰府Ⅰ-2類
297	陶器	東遠 小皿	(7.7)	3.9	2.0	1/3　胎土:緻密、混入物なし　色調:暗灰色
298	陶器	常滑 甕	—	—	［2.6］	口小片　胎土:長石　色調:暗褐色
299	陶器	尾張 片口鉢	—	—	［5.2］	口小片　胎土:微砂質、長石微粒　色調:灰色　体部内面磨耗 常滑Ⅰ類
300	土器	手づくね かわらけ・大	(12.7)	—	3.6	1/3　胎土:緻密、白色針状物質　色調:淡橙褐色
301	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.0)	(3.3)	0.8	1/2弱　胎土:緻密　色調:灰白色
302	陶器	すり常滑	長さ 6.7	幅 6.6	厚さ 1.3	甕の肩部片を再利用　割れ口の一辺を研磨に利用
303	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	［2.9］	1/6　胎土:砂質、角閃石　色調:淡黄褐色
304	土器	手づくね かわらけ・大	(12.2)	—	［3.1］	1/6　胎土:緻密、白色針状物質　色調:橙褐色
305	陶器	渥美 片口鉢	—	—	［2.8］	口小片　胎土:細砂質、緻密　色調:灰色

表2　出土遺物カウント表・計量表

器種		手づくねかわらけ				ロクロかわらけ												白かわらけ				渥美						渥美・湖西型	
		小		大		小		中・大		極小		特大		壺？		転用		大		内折れ		片口鉢		甕		壺		山茶碗	
面・層位	出土遺構	点数	重量																										
表採	—			4	40	3	140	1	35																				
表土		1	15	1	15			6	220													1	25						
—	攪乱			1	10	14	95	77	900																				
0面	—	1	10			23	170	55	690									1	5					1	30				
1面まで	—		5	12	265	205	3090	730	11410	2	20							1	10	1	5	2	45	23	1135	1	25	1	55
1面	—			7	125	59	840	236	345	1	5											1	25	1	20				
1面	遺構1･10					8	65	11	245			1	220									4	230	7	204				
1面	遺構2（欠）	1	10			1	10	10	140																				
1面	遺構3					19	105	23	315									1	5			1	30						
1面	遺構4					4	25	3	30																				
1面	遺構11																	1	15										
1面	遺構28							2	10																				
1面	遺構29							8	65					1	10														
1面	遺構30							3	20																				
1面	遺構32																												
1面	遺構33																												
1面	遺構34					1	10	1	10																				
1面	遺構35					4	20	15	140																				
1面	遺構36							5	50																				
1面	遺構37(欠)							2	5																				
1面	遺構39			1	5	2	40	3	175																				
1面	遺構40	1	5	3	25	9	70	40	425																			1	35
1面	遺構56					2	15	7	80																				
1面	遺構122							4	75																				
1面	遺構127							2	35																				
1面	遺構128		3	45	190	4	70	27	505																				
1面	遺構134					2	20	2	15																				
1面	遺構135																												
1面	遺構136			1	10	2	15	1	5																				
1面	遺構137																												
1面下	—	3	55	21	320	192	2915	548	9150	1	10					1	10	1	10			1	15	23	978	100			
1面下	道1a下																												

面・層位	出土遺構	尾張型・常滑 山茶碗		尾張型・常滑 片口鉢Ⅰ類		尾張型・常滑 片口鉢Ⅱ類		尾張型・常滑 片口碗		尾張型・常滑 甕		尾張型・常滑 壺		尾張型・常滑 すり常滑		瀬戸 天目碗		瀬戸 平碗		瀬戸 折縁深皿		瀬戸 卸皿		瀬戸 碗・皿・鉢		瀬戸 入子		瀬戸 四耳壺		瀬戸 瓶子		瀬戸 瓶類	
	器種			点数	重量																												
表採	—	1	5	2	55	1	105			4	515									2	45												
表土						3	170			12	725	1	35																				
—	攪乱			1	25	5	650			20	1350	3	95							1	30												
0面	—			2	50	6	425			9	890											1	30									1	35
1面まで	—	1	10	90	3525	102	6435	1	20	751	42950	2	80	2	210			2	30	5	355	2	30	1	5	3	60	2	60	1	15	3	35
1面	—			37	2025	29	2330			256	13670	1	35	1	100							1	30	1	5	1	5	2	20			3	55
1面	遺構1・10	1	20	42	1815	13	985			149	7246	58	200													1	30					2	75
1面	遺構2（欠）					1	20			2	120																						
1面	遺構3									5	225																						
1面	遺構4					1	35			17	690																						
1面	遺構11			18	435	10	605			80	4725																						
1面	遺構28																																
1面	遺構29									1	140																						
1面	遺構30																																
1面	遺構32									2																							
1面	遺構33									3	105																						
1面	遺構34																																
1面	遺構35			1	10					7	335																						
1面	遺構36									1	25																						
1面	遺構37（欠）									2	140																						
1面	遺構39					2	85																										
1面	遺構40	1	5	6	115	12	800			45	2105													1	75								
1面	遺構56			6	250	3	110			14	590	2	15																				
1面	遺構122			1	25	1	145			9	580	1	115																				
1面	遺構127			1	5					14	1055																						
1面	遺構128																																
1面	遺構134	1	5	1	25					1	60																						
1面	遺構135									1	75																						
1面	遺構136			1	10					3	130																						
1面	遺構137									1	55																						
1面下	—	3	45	93	3560	63	4010	1	15	870	56510	7	290	2	235	1	95			9	505	5	235			2	20					11	255
1面下	道1a下									11	685																						

器種		東濃		東遠				東播		亀山		備前		産地不明				土器															
		山茶碗		山茶碗		小皿		鉢		甕		すり鉢		鉢		甕		碗・坏		南伊勢系鍋		鍔釜		鍋・釜		香炉		火鉢		燭台		不明	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
表採	—																																
表土																																	
—	攪乱																																
0面	—											1	105																				
1面まで	—	2	15	1	15	2	55	2	65	1	40	3	320					1	10					1	5								
1面	—																			1	25	1	30					2	110				
1面	遺構1・10																	1	20														
1面	遺構2（欠）																																
1面	遺構3																																
1面	遺構4																																
1面	遺構11											1	145															1	70				
1面	遺構28																																
1面	遺構29																																
1面	遺構30																																
1面	遺構32																																
1面	遺構33																																
1面	遺構34																																
1面	遺構35																																
1面	遺構36																																
1面	遺構37（欠）																																
1面	遺構39																																
1面	遺構40																																
1面	遺構56																																
1面	遺構122													1	335																		
1面	遺構127																																
1面	遺構128																																
1面	遺構134																																
1面	遺構135																																
1面	遺構136																																
1面	遺構137																																
1面下	—											1	40			2	75					1	15	1	10			4	445				
1面下	道1a下																																

器種		土製品		瓦器		瓦質土器						瓦						土師器				ロクロ土師器		須恵器						灰釉陶器	
		管状土錘		碗		火鉢		香炉		転用		軒平瓦		平瓦		丸瓦		坏		甕		坏		坏		坏蓋		甕・瓶		碗	
面・層位	出土遺構	点数	重量																												
表採	—													1	80											1	5				
表土						1	35																								
—	攪乱					7	750									1	185														
0面	—					1	45							1	60																
1面まで	—	2	55	2	10	69	6440							18	2245	8	1180							1	5			1	5		
1面	—					7	460							5	920	7	810							1	5			1	5		
1面	遺構1・10					6	460							5	535	2	370														
1面	遺構2（欠）																														
1面	遺構3					2	85																								
1面	遺構4																														
1面	遺構11					1	70																								
1面	遺構28																														
1面	遺構29																														
1面	遺構30																														
1面	遺構32					1	120																								
1面	遺構33																														
1面	遺構34																														
1面	遺構35																														
1面	遺構36																														
1面	遺構37（欠）																														
1面	遺構39																														
1面	遺構40					1	25			1	205	1	35					1	50												
1面	遺構56													1	150	1	170														
1面	遺構122					5	445							2	150																
1面	遺構127																														
1面	遺構128																														
1面	遺構134					1	30																								
1面	遺構135																														
1面	遺構136																														
1面	遺構137																														
1面下	—					65	380			1	250			15	1720	4	130											2	105		
1面下	道1a下																														

器種		舶載施釉陶器								青白磁												白磁											
		天目碗		盤		釣窯系植木鉢?		壺		合子蓋		合子身		碗・皿		梅瓶		梅瓶蓋		水注		口禿皿・口禿碗		端反碗		皿		碗		四耳壺		瓶類	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
表採	—																					3	35					1	10				
表土														1	5	1	5																
—	攪乱																					2	20										
0面	—																																
1面まで	—			2	30			1	5			1	5							1	5	46	275					6	35			1	5
1面	—											1	10			1	20					3	35					4	15				
1面	遺構1・10																																
1面	遺構2(欠)																																
1面	遺構3																																
1面	遺構4																																
1面	遺構11									1	5																			1	15		
1面	遺構28																					1	5										
1面	遺構29																																
1面	遺構30																																
1面	遺構32																																
1面	遺構33																																
1面	遺構34																																
1面	遺構35																																
1面	遺構36																																
1面	遺構37(欠)																																
1面	遺構39																																
1面	遺構40																																
1面	遺構56																													1	20		
1面	遺構122			1	15																												
1面	遺構127							1	10																								
1面	遺構128											1	5																				
1面	遺構134																																
1面	遺構135																																
1面	遺構136															1	5																
1面	遺構137																																
1面下	—					1	65	1	10	1	5	1	5			2	20					17	165					1	10	1	15	1	25
1面下	道1a下																																

器種		龍泉窯系青磁														同安窯系青磁				高麗青磁		不明		鉄製品									
		蓮弁文碗		劃花文碗		折縁皿		酒会壺		瓶類		碗・皿		不明		櫛掻文碗		櫛掻文皿		瓶		甕		釘		刀子		板状		不明		スラグ	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
表採	—	1	5	2	1							1	25																				
表土		1	15																					1	5								
—	攪乱	2	25									1	5																				
0面	—	4	35	2	60																												
1面まで	—	76	800	3	20	4	40			1	5	15	215			2	10							38	275					1	20		
1面	—	43	380			1	10	1	90			1	15											13	75								
1面	遺構1・10	5	55	1	15																			10	75								
1面	遺構2（欠）																																
1面	遺構3																							2	10								
1面	遺構4	1	30																														
1面	遺構11	1	15													1	15							5	40			1	80				
1面	遺構28																																
1面	遺構29					1	5																										
1面	遺構30																																
1面	遺構32																																
1面	遺構33																							1	5								
1面	遺構34																																
1面	遺構35	1	5									2	5																				
1面	遺構36																																
1面	遺構37(欠)																																
1面	遺構39																																
1面	遺構40	10	75																					5	25								
1面	遺構56																							1	20								
1面	遺構122			1	35																												
1面	遺構127																																
1面	遺構128	1	75	1	10					1	10	1	30																				
1面	遺構134																																
1面	遺構135																																
1面	遺構136																																
1面	遺構137																																
1面下	—	39	390	2	30	4	15			3	50	10	245			1	10	1	10	1	10			24	205							4	180
1面下	道1a下																							1	5								

器種		銅製品		石製品																		骨製品		漆喰	
		銭		滑石鍋		砥石		硯		碁石		紡錘車		磨石		研磨具 軽石		石英石核		加工品 泥岩		笄	加工骨		
面・層位	出土遺構	点数	重量																						
表採	—	2	5															1	65						
表土																									
—	攪乱							1	130																
0面	—					1	55																		
1面まで	—	5	20	1	100	14	660	1	55	1	5			2	325										
1面	—	2	10	1	65	4	285			1	5											2			
1面	遺構1・10	2	10	1	160	1	105	1	111													1			
1面	遺構2(欠)																								
1面	遺構3	1	5																						
1面	遺構4																								
1面	遺構11	10	35	1	20	4	375															1		1	30
1面	遺構28																								
1面	遺構29																								
1面	遺構30																								
1面	遺構32																								
1面	遺構33																								
1面	遺構34																								
1面	遺構35																								
1面	遺構36																								
1面	遺構37(欠)																								
1面	遺構39																								
1面	遺構40	1	5																						
1面	遺構56					1	15																		
1面	遺構122																								
1面	遺構127																								
1面	遺構128																								
1面	遺構134																								
1面	遺構135																								
1面	遺構136																								
1面	遺構137																								
1面下	—	2	10																						
1面下	道1a下																								

器種		手づくねかわらけ				ロクロかわらけ												白かわらけ				渥美						渥美・湖西型	
		小		大		小		中・大		極小		特大		壺?		転用		大		内折れ		片口鉢		甕		壺		山茶碗	
面・層位	出土遺構	点数	重量																										
2面	遺構12	3	25	25	295	13	170	38	580															8	345				
2面	遺構13	6	50	1	10	4	20	30	310																				
2面	遺構14	1	15	1	20	15	115	21	245																				
2面	遺構15・16					5	35	14	165																				
2面	遺構17	6	65	14	235	21	235	101	1195																				
2面	遺構41			1	25	2	15	5	70																				
2面	遺構42					1	20	4	75																				
2面	遺構46			1	10	4	50	5	60																				
2面	遺構47	1	20					3	20															1	20				
2面	遺構49			1	5																								
2面	遺構50			4	30			2	15																				
2面	遺構52			1	15	4	30	21	210																				
2面	遺構53			1	10	1	15																						
2面	遺構54			1	20			2	35																				
2面	遺構55					1	5	2	10																				
2面	遺構69(欠)	1	30																										
2面	遺構123					1	15	3	25																				
2面	遺構125(欠)					1	5																						
2面	遺構126(欠)					1	5	4	35																				
2面	遺構129(欠)	1	5	6	55	6	30	19	130																			1	5
2面	遺構130a・b																					1	25	1	75				
2面	遺構130a	1	10	8	270	39	515	116	1840													1	10	1	60				
2面	遺構130a据甕																												
2面	遺構130a掘方			1	15	1	15	1	20																				
2面	遺構130b																												
2面	遺構131			4	105	43	600	123	2170	1	10																	1	10
2面	遺構138			49	660	19	265	27	805															1	65			1	80
2面	遺構140・141																												
2面	遺構147			1	10	3	55	2	160																				
2面下	—	18	175	71	1085	149	2075	354	6225													1	135	17	1250				
2面下	道1b下			8	125	11	135	39	720									1	20			1	75	4	240	1	25		

器種		尾張型・常滑														瀬戸																	
		山茶碗		片口鉢Ⅰ類		片口鉢Ⅱ類		片口碗		甕		壺		すり常滑		天目碗		平碗		折縁深皿		卸皿		碗・皿・鉢		入子		四耳壺		瓶子		瓶類	
面・層位	出土遺構			点数	重量																												
2面	遺構12	1	5	2	55	1	105			4	515																						
2面	遺構13					3	170			12	725	1	35																				
2面	遺構14			1	25	5	650			20	1350	3	95																				
2面	遺構15・16			2	50	6	425			9	890																						
2面	遺構17	1	10	90	3525	102	6435	1	20	751	42950	2	80	2	210																		
2面	遺構41			37	2025	29	2330			256	13670	1	35	1	100																		
2面	遺構42	1	20	42	1815	13	985			149	7246	58	200																				
2面	遺構46					1	20			2	120																						
2面	遺構47									5	225																						
2面	遺構49					1	35			17	690																						
2面	遺構50			18	435	10	605			80	4725																						
2面	遺構52																																
2面	遺構53									1	140																						
2面	遺構54																																
2面	遺構55																																
2面	遺構69(欠)									3	105																						
2面	遺構123																																
2面	遺構125(欠)			1	10					7	335																						
2面	遺構126(欠)									1	25																						
2面	遺構129(欠)									2	140																						
2面	遺構130a・b					2	85																					1	35				
2面	遺構130a	1	5	6	115	12	800			45	2105							1	5	6	245	1	20	2	15	1	10			1	40	6	125
2面	遺構130a据甕			6	250	3	110			14	590	2	15																				
2面	遺構130a掘方			1	25	1	145			9	580	1	115																				
2面	遺構130b			1	5					14	1055																						
2面	遺構131																											1	50				
2面	遺構138	1	5	1	25					1	60																	1	20				
2面	遺構140・141									1	75																						
2面	遺構147			1	10					3	130																						
2面下	—									1	55									2	110	5	145									5	145
2面下	道1b下									11	685													1	20							1	20

器種		東濃		東遠				東播		亀山		備前		産地不明				土器																	
		山茶碗		山茶碗		小皿		鉢		甕		すり鉢		鉢		甕		碗・坏		南伊勢系鍋		鍔釜		鍋・釜		香炉		火鉢		燭台		不明	
面・層位	出土遺構	点数	重量																																
2面	遺構12																															1	15
2面	遺構13																																		
2面	遺構14																																		
2面	遺構15・16																																		
2面	遺構17																															1	10
2面	遺構41																																		
2面	遺構42																																		
2面	遺構46																																		
2面	遺構47																																		
2面	遺構49																																		
2面	遺構50																																		
2面	遺構52																			1	5														
2面	遺構53																																		
2面	遺構54																																		
2面	遺構55																																		
2面	遺構69(欠)																																		
2面	遺構123																																		
2面	遺構125(欠)																																		
2面	遺構126(欠)																																		
2面	遺構129(欠)																			1	5														
2面	遺構130a・b											2	500																						
2面	遺構130a							1	90			2	750																						
2面	遺構130a据甕																																		
2面	遺構130a掘方																																		
2面	遺構130b																																		
2面	遺構131											1	70					1	20									3	100						
2面	遺構138																																		
2面	遺構140・141																																		
2面	遺構147																																		
2面下	—									1	5	29	1390			1	35	2	60									1	60						
2面下	道1b下																											1	30						

器種		土製品		瓦器		瓦質土器						瓦						土師器				ロクロ土師器		須恵器						灰釉陶器	
		管状土錘		碗		火鉢		香炉		転用		軒平瓦		平瓦		丸瓦		坏		甕		坏		坏		坏蓋		甕・瓶		碗	
面・層位	出土遺構	点数	重量																												
2面	遺構12			1	5	2	45							2	195	2	270														
2面	遺構13																														
2面	遺構14					1	315																								
2面	遺構15・16													1	350																
2面	遺構17					2	70							1	70	1	55														
2面	遺構41													2	290																
2面	遺構42																														
2面	遺構46																														
2面	遺構47																														
2面	遺構49																														
2面	遺構50																														
2面	遺構52					2	90							1	10																
2面	遺構53																														
2面	遺構54																														
2面	遺構55																														
2面	遺構69(欠)																														
2面	遺構123																														
2面	遺構125(欠)																														
2面	遺構126(欠)																														
2面	遺構129(欠)					1	15																								
2面	遺構130a・b													1	210																
2面	遺構130a					10	675							5	545					1	15			1	10						
2面	遺構130a掘甕																														
2面	遺構130a掘方																														
2面	遺構130b																														
2面	遺構131					2	175							2	275																
2面	遺構138													1	100																
2面	遺構140・141																														
2面	遺構147																														
2面下	—					9	315	1	60					5	1005	5	830														
2面下	道1b下													1	105	1	160													1	30

器種		舶載施釉陶器								青白磁												白磁											
		天目碗		盤		釣窯系植木鉢?		壺		合子蓋		合子身		碗・皿		梅瓶		梅瓶蓋		水注		口禿皿・口禿碗		端反碗		皿		碗		四耳壺		瓶類	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
2面	遺構12																					1	5					1	5				
2面	遺構13																																
2面	遺構14																																
2面	遺構15・16																																
2面	遺構17															1	40					4	25										
2面	遺構41																																
2面	遺構42																																
2面	遺構46																																
2面	遺構47																																
2面	遺構49																																
2面	遺構50																																
2面	遺構52																																
2面	遺構53																																
2面	遺構54																																
2面	遺構55																																
2面	遺構69(欠)																																
2面	遺構123																																
2面	遺構125(欠)																																
2面	遺構126(欠)									1	10					4	255																
2面	遺構129(欠)																					1	10										
2面	遺構130a・b																																
2面	遺構130a			1	5			1	25													1	10										
2面	遺構130a据甕																																
2面	遺構130a掘方																																
2面	遺構130b																																
2面	遺構131									1	5							1	10							1	10						
2面	遺構138													1	5													1	5				
2面	遺構140・141																																
2面	遺構147																																
2面下	—	1	10	1	25			1	15							3	20			1	5	1	30					1	5			2	20
2面下	道1b下									1	5			1	5																		

器種		龍泉窯系青磁														同安窯系青磁				高麗青磁		不明		鉄製品									
		蓮弁文碗		劃花文碗		折縁皿		酒会壺		瓶類		碗・皿		不明		櫛掻文碗		櫛掻文皿		瓶		甕		釘		刀子		板状		不明		スラグ	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
2面	遺構12			4	15							1	5																				
2面	遺構13																																
2面	遺構14	2	10	1	15																			1	10								
2面	遺構15・16	1	5																					1	5								
2面	遺構17	5	50	1	45							1	5					1	5					3	30								
2面	遺構41																							2	5								
2面	遺構42																																
2面	遺構46																																
2面	遺構47																							1	10	1	20						
2面	遺構49																																
2面	遺構50																																
2面	遺構52																																
2面	遺構53																							3	10								
2面	遺構54																																
2面	遺構55																																
2面	遺構69(欠)																																
2面	遺構123																																
2面	遺構125(欠)																																
2面	遺構126(欠)																							1	5								
2面	遺構129(欠)			1	5																			2	10								
2面	遺構130a・b											1	5											2	30								
2面	遺構130a	6	35	1	5							1	20			1	5	3	35					20	135							2	290
2面	遺構130a掘甕																																
2面	遺構130a掘方																																
2面	遺構130b																							2	10								
2面	遺構131	2	10			1	5					1	5			2	10							3	65								
2面	遺構138	2	10	4	30											3	15	3	15					5	80	1	45					1	400
2面	遺構140・141																							2	5								
2面	遺構147																							1	10								
2面下	—	10	60	2	40							4	20			3	55							34	210			1	25			3	265
2面下	道1b下	2	25									2	10											15	110							1	40

器種		銅製品		石製品																				骨製品		漆喰	
		銭		滑石鍋		砥石		硯		碁石		紡錘車		磨石		研磨具 軽石		石英石核		加工品 泥岩		笄	加工骨		
面・層位	出土遺構	点数	重量																						
2面	遺構12		5	2	105																				
2面	遺構13					1	10																		
2面	遺構14					1	30																		
2面	遺構15・16	1																		1	350				
2面	遺構17			1	75																		1		
2面	遺構41	2																							
2面	遺構42																								
2面	遺構46																								
2面	遺構47					1	45																		
2面	遺構49											1	35												
2面	遺構50																								
2面	遺構52		5																						
2面	遺構53																								
2面	遺構54																								
2面	遺構55																								
2面	遺構69(欠)																								
2面	遺構123																								
2面	遺構125(欠)		20																						
2面	遺構126(欠)		10																						
2面	遺構129(欠)		10																						
2面	遺構130a・b							1	110																
2面	遺構130a	3		2	50	2	270															3			
2面	遺構130a据甕		5																						
2面	遺構130a掘方																								
2面	遺構130b		35																						
2面	遺構131	1														1	110					1	5		
2面	遺構138					2	85																		
2面	遺構140・141																								
2面	遺構147																								
2面下	—	7		1	80	1	10	2	90																
2面下	道1b下	1				1	10																		

器種		手づくねかわらけ				ロクロかわらけ												白かわらけ				渥美						渥美・湖西型	
		小		大		小		中・大		極小		特大		壺?		転用		大		内折れ		片口鉢		甕		壺		山茶碗	
面・層位	出土遺構	点数	重量																										
3面	—	8	75	21	260	21	310	70	1040															10	620				
3面	遺構18	11	170	47	695	5	85	25	520															13	755				
3面	遺構57			3	35			1	50																				
3面	遺構59			1	10																								
3面	遺構60							3	20																				
3面	遺構61	1	15					1	10																				
3面	遺構63																												
3面	遺構64	1	10	2	55			1	15																				
3面	遺構65			1	5																								
3面	遺構66			1	15																								
3面	遺構70	1	5	1	10																								
3面	遺構71							1	20																				
3面	遺構72							1	10															1	50				
3面	遺構73			1	10	1	5	1	10																				
3面	遺構78							1	10																				
3面	遺構79			2	15			1	5																				
3面	遺構82			2	40																								
3面	遺構83	1	25					2	15															1	60				
3面	遺構84			1	10																								
3面	遺構85																												
3面	遺構86	2	10	4	35	1	5																						
3面	遺構87			6	65																								
3面	遺構91	3	20	1	50	7	40	7	70															1	15				
3面	遺構132(欠)					1	5																						
3面	遺構133							7	90																				
3面	遺構141・148・149			2	35	1	10	1	5																				
3面	遺構145	1	10	3	40			5	95																				
3面	遺構149	2	20	2	15			1	10																				
3面	遺構150a	1	15	4	75	7	140	9	125																				
3面	遺構152			1	10	3	50	2	40																				
3面	遺構154(欠)																												
3面	遺構155(欠)			1	5																								
3面	遺構156(欠)							1	15																				
3面下	—	4	160	20	345	13	175	22	310													1	90	7	555				
3面下	道1c下	34	595	37	565	2	25	9	245																	2	110		

面・層位	出土遺構	尾張型・常滑 山茶碗		尾張型・常滑 片口鉢Ⅰ類		尾張型・常滑 片口鉢Ⅱ類		尾張型・常滑 片口碗		尾張型・常滑 甕		尾張型・常滑 壺		尾張型・常滑 すり常滑		瀬戸 天目碗		瀬戸 平碗		瀬戸 折縁深皿		瀬戸 卸皿		瀬戸 碗・皿・鉢		瀬戸 入子		瀬戸 四耳壺		瀬戸 瓶子		瀬戸 瓶類	
	器種			点数	重量																												
3面	—	1	5	2	55	1	105			4	515																						
3面	遺構18					3	170			12	725	1	35																			1	15
3面	遺構57			1	25	5	650			20	1350	3	95																				
3面	遺構59	1	10	92	3575	108	6860	1	20	760	43840	2	80	2	210																		
3面	遺構60			37	2025	29	2330			256	13670	1	35	1	100																		
3面	遺構61	1	20	42	1815	13	985			149	7246	58	200																				
3面	遺構63					1	20			2	120																						
3面	遺構64									5	225																						
3面	遺構65					1	35			17	690																						
3面	遺構66			18	435	10	605			80	4725																						
3面	遺構70																																
3面	遺構71									1	140																						
3面	遺構72																																
3面	遺構73																																
3面	遺構78									3	105																						
3面	遺構79																																
3面	遺構82			1	10					7	335																						
3面	遺構83									1	25																						
3面	遺構84									2	140																						
3面	遺構85					2	85																										
3面	遺構86	1	5	6	115	12	800			45	2105																						
3面	遺構87			6	250	3	110			14	590	2	15																				
3面	遺構91			1	25	1	145			9	580	1	115																				
3面	遺構132(欠)			1	5					14	1055																						
3面	遺構133																					1	10										
3面	遺構141・148・149	1	5	1	25					1	60																						
3面	遺構145									1	75																						
3面	遺構149			1	10					3	130																						
3面	遺構150a									12	740																						
3面	遺構152	3	45	101	4010	71	4555	1	15	961	60685	11	710	2	235																		
3面	遺構154(欠)	1	135	1	10					9	230																						
3面	遺構155(欠)									7	945																						
3面	遺構156(欠)	1	20							9	465																						
3面下	—			3	100	5	405			43	2155																						
3面下	道1c下			6	200					12	705	1	20																				

器種		東濃		東遠				東播		亀山		備前産地不明						土器															
		山茶碗		山茶碗		小皿		鉢		甕		すり鉢		鉢		甕		碗・坏		南伊勢系鍋		鍔釜		鍋・釜		香炉		火鉢		燭台		不明	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
3面	—																																
3面	遺構18					1	40																			1	5						
3面	遺構57																																
3面	遺構59																																
3面	遺構60																																
3面	遺構61																																
3面	遺構63																																
3面	遺構64																																
3面	遺構65																																
3面	遺構66																																
3面	遺構70																																
3面	遺構71																																
3面	遺構72																																
3面	遺構73																																
3面	遺構78																																
3面	遺構79																																
3面	遺構82																																
3面	遺構83																																
3面	遺構84																																
3面	遺構85																																
3面	遺構86																																
3面	遺構87																																
3面	遺構91																																
3面	遺構132(欠)																																
3面	遺構133																																
3面	遺構141・148・149																																
3面	遺構145																																
3面	遺構149																																
3面	遺構150a																																
3面	遺構152																																
3面	遺構154(欠)																																
3面	遺構155(欠)																																
3面	遺構156(欠)																																
3面下	—																																
3面下	道1c下																													1	140		

器種		土製品		瓦器		瓦質土器						瓦						土師器				ロクロ土師器		須恵器						灰釉陶器	
		管状土錘		碗		火鉢		香炉		転用		軒平瓦		平瓦		丸瓦		坏		甕		坏		坏		坏蓋		甕・瓶		碗	
面・層位	出土遺構	点数	重量																												
3面	—					1	35																								
3面	遺構18					2	55																								
3面	遺構57																														
3面	遺構59																														
3面	遺構60																														
3面	遺構61																														
3面	遺構63			1	5																										
3面	遺構64																														
3面	遺構65																														
3面	遺構66																														
3面	遺構70																														
3面	遺構71																														
3面	遺構72																														
3面	遺構73																														
3面	遺構78																														
3面	遺構79																														
3面	遺構82																														
3面	遺構83																														
3面	遺構84																														
3面	遺構85																														
3面	遺構86																														
3面	遺構87																														
3面	遺構91																														
3面	遺構132(欠)																														
3面	遺構133																														
3面	遺構141・148・149																														
3面	遺構145															1	20														
3面	遺構149																														
3面	遺構150a													1	495																
3面	遺構152																														
3面	遺構154(欠)																														
3面	遺構155(欠)																														
3面	遺構156(欠)																														
3面下	—													1	35													1	10		
3面下	道1c下					3	380																					1	15		

面・層位	出土遺構	船載施釉陶器 天目碗 点数	船載施釉陶器 天目碗 重量	船載施釉陶器 盤		船載施釉陶器 釣窯系植木鉢?		船載施釉陶器 壺		青白磁 合子蓋		青白磁 合子身		青白磁 碗・皿		青白磁 梅瓶		青白磁 梅瓶蓋		青白磁 水注		白磁 口禿皿・口禿碗		白磁 端反碗		白磁 皿		白磁 碗		白磁 四耳壺		白磁 瓶類	
3面	—									1	5																						
3面	遺構18																					1	5										
3面	遺構57																																
3面	遺構59																																
3面	遺構60																																
3面	遺構61																																
3面	遺構63																																
3面	遺構64																																
3面	遺構65																																
3面	遺構66																																
3面	遺構70																																
3面	遺構71																																
3面	遺構72																																
3面	遺構73																																
3面	遺構78																																
3面	遺構79																																
3面	遺構82																																
3面	遺構83																																
3面	遺構84																																
3面	遺構85																																
3面	遺構86																																
3面	遺構87																																
3面	遺構91																																
3面	遺構132(欠)																																
3面	遺構133																																
3面	遺構141・148・149																							1	15								
3面	遺構145																					1	5										
3面	遺構149																																
3面	遺構150a																																
3面	遺構152																																
3面	遺構154(欠)																																
3面	遺構155(欠)																																
3面	遺構156(欠)																																
3面下	—																					1	5										
3面下	道1c下																																

器種		龍泉窯系青磁														同安窯系青磁				高麗青磁		不明		鉄製品									
		蓮弁文碗		劃花文碗		折縁皿		酒会壺		瓶類		碗・皿		不明		櫛掻文碗		櫛掻文皿		瓶		甕		釘		刀子		板状		不明		スラグ	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
3面	—	1	10	1	5																												
3面	遺構18			3	25							2	15					1	20					3	25								
3面	遺構57																																
3面	遺構59																																
3面	遺構60																																
3面	遺構61	1	10																					1	10								
3面	遺構63																																
3面	遺構64																																
3面	遺構65																																
3面	遺構66																																
3面	遺構70																																
3面	遺構71																																
3面	遺構72																																
3面	遺構73																							1	10								
3面	遺構78																																
3面	遺構79																																
3面	遺構82																																
3面	遺構83																																
3面	遺構84																																
3面	遺構85																							1	5								
3面	遺構86																																
3面	遺構87																																
3面	遺構91																							4	25								
3面	遺構132(欠)																							1	5								
3面	遺構133																																
3面	遺構141・148・149																																
3面	遺構145																																
3面	遺構149																																
3面	遺構150a																																
3面	遺構152																																
3面	遺構154(欠)																																
3面	遺構155(欠)																																
3面	遺構156(欠)			1	5																												
3面下	—											1	10			1	5	1	5					1	5								
3面下	道1c下	1	5	2	25					1	5	2	10	1	5	3	70							4	35								

器種		銅製品		石製品																		骨製品		漆喰	
		銭		滑石鍋		砥石		硯		碁石		紡錘車		磨石		軽石研磨具		石英石核		泥岩加工品		笄	加工骨		
面・層位	出土遺構	点数	重量																						
3面	—																								
3面	遺構18																								
3面	遺構57																								
3面	遺構59																								
3面	遺構60																								
3面	遺構61																								
3面	遺構63																								
3面	遺構64																								
3面	遺構65																								
3面	遺構66																								
3面	遺構70																								
3面	遺構71																								
3面	遺構72																								
3面	遺構73																								
3面	遺構78																								
3面	遺構79																								
3面	遺構82																								
3面	遺構83																								
3面	遺構84																								
3面	遺構85																								
3面	遺構86																								
3面	遺構87																								
3面	遺構91																								
3面	遺構132(欠)	1	5																						
3面	遺構133																								
3面	遺構141・148・149																								
3面	遺構145																								
3面	遺構149																								
3面	遺構150a																								
3面	遺構152																								
3面	遺構154(欠)																								
3面	遺構155(欠)																								
3面	遺構156(欠)																								
3面下	—					2	25																		
3面下	道1c下																								

器種		手づくねかわらけ				ロクロかわらけ												白かわらけ				渥美						渥美・湖西型	
		小		大		小		中・大		極小		特大		壺?		転用		大		内折れ		片口鉢		甕		壺		山茶碗	
面・層位	出土遺構	点数	重量																										
4面	遺構19			3	40																								
4面	遺構20(欠)			3	20			1	20																				
4面	遺構21					1	5																						
4面	遺構22			1	10	3	15																						
4面	遺構23(欠)	1	10	5	55			3	45																				
4面	遺構24			1	10	1	5																						
4面	遺構25																												
4面	遺構27			2	25	1	5	1	10																				
4面	遺構89																							1	25				
4面	遺構92			2	35																								
4面	遺構94	1	10																										
4面	遺構98																							1	45				
4面	遺構99			1	5																			1	10				
4面	遺構102																												
4面	遺構103			2	15																								
4面	遺構105	1	5					1	15																				
4面	遺構111			1	10																								
4面	遺構113																												
4面	遺構116	2	10			1	5																						
4面	遺構118																												
4面	遺構119(欠)			1	35																								
4面	遺構142			2	10	1	15																						
4面	遺構143																												
4面	遺構144																												
4面	遺構151			8	135																								
4面	遺構153																												
4面	遺構157(欠)																							2	30				
4面	遺構158	1	5					1	10															1	10				
4面	遺構160			16	315			1	20																				
4面	遺構163(欠)																												
4面	遺構166			1	5																								
4面	遺構167	1	5	4	35	2	15	2	20									1	5										
4面	遺構168																					1	30						
4面	遺構169			8	50																								
4面	遺構170																												
4面	遺構171			1	10																								
4面下	—			2	20																								

器種		尾張型・常滑														瀬戸																	
		山茶碗		片口鉢Ⅰ類		片口鉢Ⅱ類		片口碗		甕		壺		すり常滑		天目碗		平碗		折縁深皿		卸皿		碗・皿・鉢		入子		四耳壺		瓶子		瓶類	
面・層位	出土遺構			点数	重量																												
4面	遺構19	1	5	2	55	1	105			4	515																						
4面	遺構20(欠)					3	170			12	725	1	35																				
4面	遺構21			1	25	5	650			20	1350	3	95																				
4面	遺構22			2	50	6	425			9	890																						
4面	遺構23(欠)	1	10	90	3525	102	6435	1	20	751	42950	2	80	2	210																		
4面	遺構24			37	2025	29	2330			256	13670	1	35	1	100																		
4面	遺構25	1	20	42	1815	13	985			149	7246	58	200																				
4面	遺構27					1	20			2	120																						
4面	遺構89									5	225																						
4面	遺構92					1	35			17	690							2	35														
4面	遺構94			18	435	10	605			80	4725																						
4面	遺構98																																
4面	遺構99									1	140																						
4面	遺構102																																
4面	遺構103																																
4面	遺構105									3	105																						
4面	遺構111			1	10					7	335																						
4面	遺構113									1	25																						
4面	遺構116									2	140																						
4面	遺構118					2	85																										
4面	遺構119(欠)	1	5	6	115	12	800			45	2105																						
4面	遺構142			6	250	3	110			14	590	2	15																				
4面	遺構143			1	25	1	145			9	580	1	115																				
4面	遺構144			1	5					14	1055																						
4面	遺構151																																
4面	遺構153	1	5	1	25					1	60																						
4面	遺構157(欠)									1	75																						
4面	遺構158			1	10					3	130																						
4面	遺構160									12	740																						
4面	遺構163(欠)	3	45	101	4010	71	4555	1	15	961	60685	11	710	2	235																		
4面	遺構166	1	135	1	10					9	230																						
4面	遺構167									7	945																						
4面	遺構168	1	20							9	465																						
4面	遺構169									2	95																						
4面	遺構170			6	200					12	705	1	20																				
4面	遺構171			2	60	1	40			4	260																						
4面下	—			2	410	1	75			4	275							2	20														

器種		東濃		東遠				東播		亀山		備前		産地不明				土器																	
		山茶碗		山茶碗		小皿		鉢		甕		すり鉢		鉢		甕		碗・坏		南伊勢系鍋		鍔釜		鍋・釜		香炉		火鉢		燭台		不明	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
4面	遺構19																																
4面	遺構20(欠)																																
4面	遺構21																																
4面	遺構22																																
4面	遺構23(欠)																																
4面	遺構24					1	15																										
4面	遺構25																																
4面	遺構27																																
4面	遺構89																																
4面	遺構92																	2	35														
4面	遺構94																																
4面	遺構98																																
4面	遺構99																																
4面	遺構102																																
4面	遺構103																																
4面	遺構105																																
4面	遺構111																																
4面	遺構113																																
4面	遺構116																																
4面	遺構118																																
4面	遺構119(欠)																																
4面	遺構142																																
4面	遺構143																																
4面	遺構144																																
4面	遺構151																																
4面	遺構153																																
4面	遺構157(欠)																																
4面	遺構158																																
4面	遺構160					1	40																										
4面	遺構163(欠)																																
4面	遺構166																																
4面	遺構167																			1	20												
4面	遺構168																																
4面	遺構169																																
4面	遺構170																																
4面	遺構171																																
4面下	—																	2	20														

器種		土製品		瓦器		瓦質土器						瓦						土師器				ロクロ土師器		須恵器						灰釉陶器	
		管状土錘		碗		火鉢		香炉		転用		軒平瓦		平瓦		丸瓦		坏		甕		坏		坏		坏蓋		甕・瓶		碗	
面・層位	出土遺構	点数	重量																												
4面	遺構19																														
4面	遺構20(欠)																														
4面	遺構21					1	15																								
4面	遺構22																														
4面	遺構23(欠)																														
4面	遺構24																														
4面	遺構25																														
4面	遺構27																														
4面	遺構89																														
4面	遺構92																														
4面	遺構94																														
4面	遺構98																														
4面	遺構99																														
4面	遺構102																														
4面	遺構103																														
4面	遺構105																														
4面	遺構111																														
4面	遺構113																														
4面	遺構116																														
4面	遺構118																														
4面	遺構119(欠)													1	115																
4面	遺構142																														
4面	遺構143																														
4面	遺構144																														
4面	遺構151																														
4面	遺構153																														
4面	遺構157(欠)																														
4面	遺構158																														
4面	遺構160																														
4面	遺構163(欠)																														
4面	遺構166																														
4面	遺構167																					1	10								
4面	遺構168																														
4面	遺構169																														
4面	遺構170																														
4面	遺構171																														
4面下	—																														

器種		舶載施釉陶器								青白磁												白磁											
		天目碗		盤		釣窯系植木鉢?		壺		合子蓋		合子身		碗・皿		梅瓶		梅瓶蓋		水注		口禿皿・口禿碗		端反碗		皿		碗		四耳壺		瓶類	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
4面	遺構19																																
4面	遺構20(欠)																																
4面	遺構21																																
4面	遺構22																																
4面	遺構23(欠)																																
4面	遺構24																																
4面	遺構25																																
4面	遺構27																																
4面	遺構89																																
4面	遺構92																																
4面	遺構94																																
4面	遺構98																																
4面	遺構99																																
4面	遺構102																																
4面	遺構103																																
4面	遺構105																																
4面	遺構111																																
4面	遺構113																																
4面	遺構116																																
4面	遺構118																																
4面	遺構119(欠)																																
4面	遺構142																																
4面	遺構143																																
4面	遺構144																																
4面	遺構151																																
4面	遺構153																																
4面	遺構157(欠)									1	5																						
4面	遺構158																																
4面	遺構160																																
4面	遺構163(欠)																																
4面	遺構166																																
4面	遺構167																																
4面	遺構168																																
4面	遺構169																																
4面	遺構170																																
4面	遺構171																																
4面下	—																																

器種		龍泉窯系青磁														同安窯系青磁				高麗青磁		不明		鉄製品									
		蓮弁文碗		劃花文碗		折縁皿		酒会壺		瓶類		碗・皿		不明		櫛掻文碗		櫛掻文皿		瓶		甕		釘		刀子		板状		不明		スラグ	
面・層位	出土遺構	点数	重量																														
4面	遺構19																																
4面	遺構20(欠)			1	5																												
4面	遺構21																																
4面	遺構22																																
4面	遺構23(欠)	1	5																														
4面	遺構24																																
4面	遺構25																																
4面	遺構27															1	5							1	5								
4面	遺構89																																
4面	遺構92			2	35																												
4面	遺構94																																
4面	遺構98			1	5																												
4面	遺構99																																
4面	遺構102																																
4面	遺構103																																
4面	遺構105																									1	35						
4面	遺構111																																
4面	遺構113																																
4面	遺構116											1	5																				
4面	遺構118																											1	20				
4面	遺構119(欠)																																
4面	遺構142																																
4面	遺構143																																
4面	遺構144																																
4面	遺構151			1	10																												
4面	遺構153																																
4面	遺構157(欠)			1	5																			3	10								
4面	遺構158																																
4面	遺構160			2	30																												
4面	遺構163(欠)																																
4面	遺構166																																
4面	遺構167																																
4面	遺構168																																
4面	遺構169																																
4面	遺構170																																
4面	遺構171																																
4面下	—			2	20																												

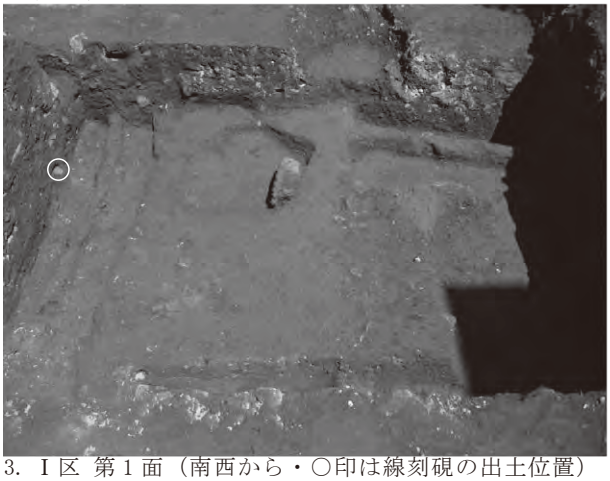
器種		銅製品		石製品																				骨製品		漆喰	
		銭		滑石鍋		砥石		硯		碁石		紡錘車		磨石		研磨具	軽石	石英石核		加工品	泥岩	笄	加工骨				
面・層位	出土遺構	点数	重量																								
4面	遺構19																										
4面	遺構20(欠)																										
4面	遺構21																										
4面	遺構22																										
4面	遺構23(欠)																										
4面	遺構24																										
4面	遺構25																										
4面	遺構27																										
4面	遺構89																										
4面	遺構92					2	35																				
4面	遺構94																										
4面	遺構98																										
4面	遺構99																										
4面	遺構102																										
4面	遺構103																										
4面	遺構105																										
4面	遺構111																										
4面	遺構113																										
4面	遺構116					1	15																				
4面	遺構118																										
4面	遺構119(欠)																										
4面	遺構142																										
4面	遺構143																										
4面	遺構144																										
4面	遺構151																										
4面	遺構153																										
4面	遺構157(欠)																										
4面	遺構158																										
4面	遺構160																										
4面	遺構163(欠)																										
4面	遺構166																										
4面	遺構167																										
4面	遺構168																										
4面	遺構169																										
4面	遺構170																										
4面	遺構171																										
4面下	—					2	20																				

面・層位	出土遺構	獣骨・魚骨	鯨骨	魚骨
0面	攪乱	6	1	
1面まで	—	102	1	3
1面	—	20		3
1面	遺構1・10	12		
1面	遺構11	3		
1面	遺構11	1		
1面	遺構122			1
1面	遺構127	1		
1面	遺構3	3		
1面	遺構35			1
1面	遺構40	3		1
1面	遺構56	1		
1面下	—	46	2	4
2面	遺構12	1		
2面	遺構14	1		
2面	遺構15・16	1		
2面	遺構17	2	1	
2面	遺構17	13		
2面	遺構17	1		
2面	遺構18	1		
2面	遺構41	2		
2面	遺構54	1		
2面	遺構130a	14		3
2面	遺構131	7		
2面	遺構131	16		
2面	遺構138	9		
2面下	—	31	1	5
2面下	遺構129(欠)	2		
2面下	道1b下	16	1	9
3面	—			
3面	遺構57	1		
3面	遺構91			1
3面	遺構152	1		
3面下	—	20		
3面下	道1c下	4		1
4面	遺構102	1		
4面	遺構157(欠)	8		
4面	遺構23(欠)			2
4面	遺構92	35		
4面下	—	20		

面・層位	出土遺構	カキ	アワビ	ハマグリ	チョウセンハマグリ	サルボウ	アサリ	アカニシ	サザエ蓋	ツメタガイ	バイ	ダンベイキサゴ	バテイラ	不明
0面	攪乱							1		1				
1面まで	—			1				9	1					
1面	—			1	3			5						
1面	遺構1			1				1		1				
1面	遺構4													
1面	遺構10				2			2			1		1	
1面	遺構11							2						
1面	遺構39							1						
1面	遺構40							3						
1面	遺構56			1									1	
1面	遺構127										1			
1面下	—			2		1	1	10	2	1	3			
2面	遺構12			1	2			4						
2面	遺構13													
2面	遺構18							1						
2面	遺構130a・b			2				1						
2面	遺構130a			1				7		2				
2面	遺構130b							5						
2面	遺構131			1				5			1			
2面	遺構138	1		4				4		1		1		1
2面下	—			1	1	1		4	2	1	1			
2面下	道1b下		1	2	1			6	1	1	3	4		
2面下	遺構129(欠)							2		1		1		
3面	遺構18			3				4						
3面	遺構60							1						
3面	遺構64	1												
3面	遺構91									1	4			
3面	遺構152							1				1		
3面下	—		1					6	2					
3面下	道1c下			1				3			2	2		
4面	遺構19							1						
4面	遺構21							1						
4面	遺構23(欠)											1		
4面	遺構92		2	35										
4面	遺構103							1						
4面	遺構160							2						
4面下	—		2	20										

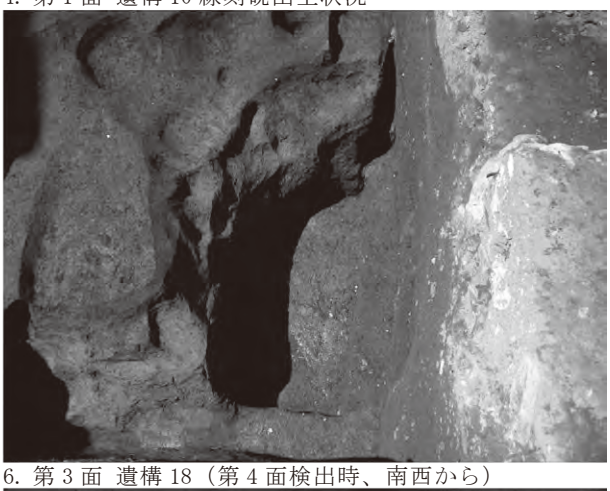
1. 現地調査前（南から）

2. 表土掘削作業（北東から）

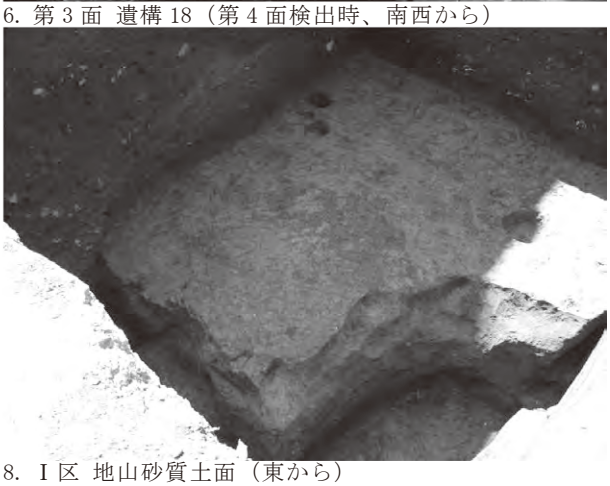

3. Ⅰ区 第 1 面（南西から・○印は線刻硯の出土位置）

4. 第 1 面 遺構 10 線刻硯出土状況

5. Ⅰ区 第 4 面（北東から）


6. 第 3 面 遺構 18（第 4 面検出時、南西から）

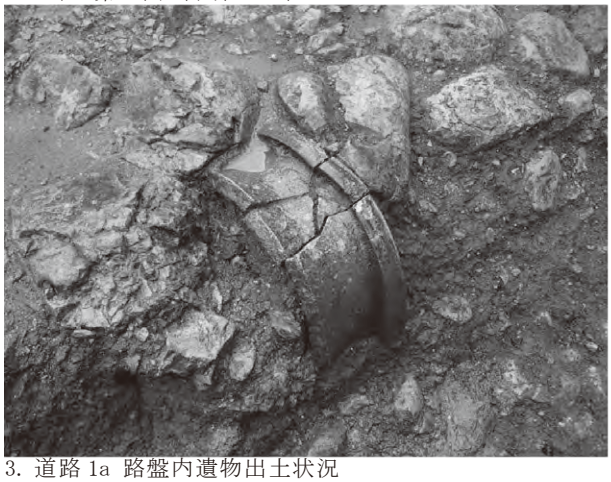
7. Ⅰ区 南壁断面（北東から）

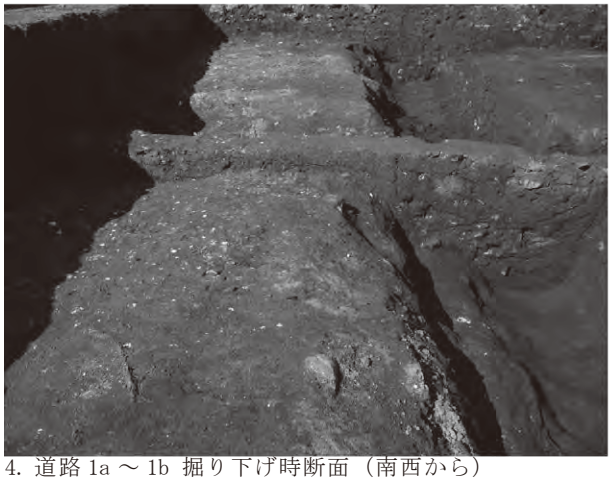

8. Ⅰ区 地山砂質土面（東から）

図版２

1. Ⅱ区 第１面（北東から）

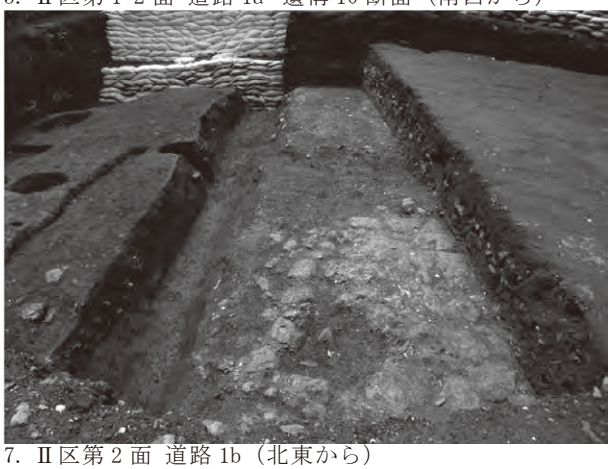
2. Ⅱ区第１面 道路 1a（北東から）


3. 道路 1a 路盤内遺物出土状況


4. 道路 1a ～ 1b 掘り下げ時断面（南西から）

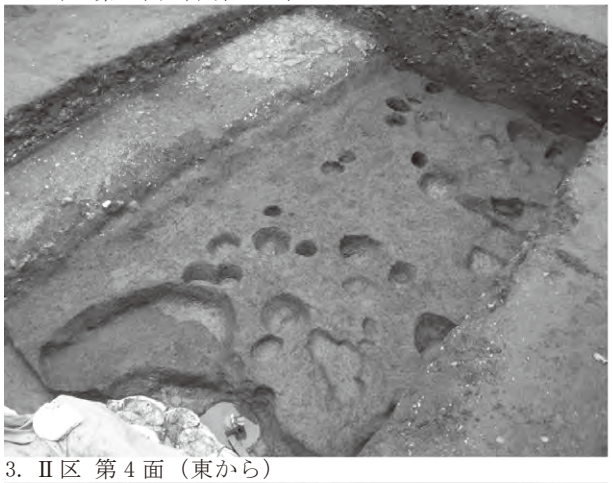
5. Ⅱ区第 1･2 面 道路 1a･ 遺構 10 断面（南西から）

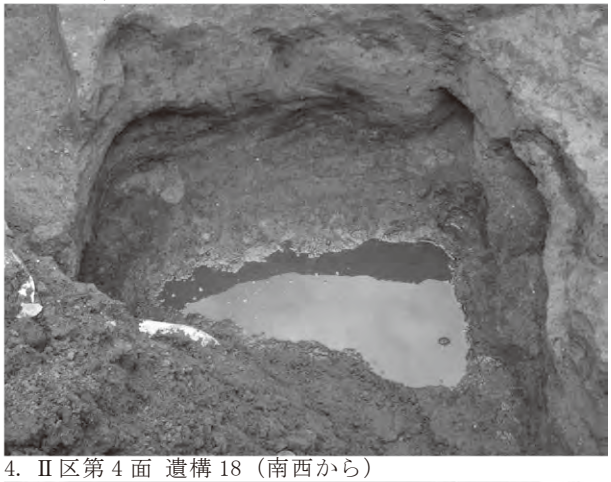
6. Ⅱ区 第２面（北東から）

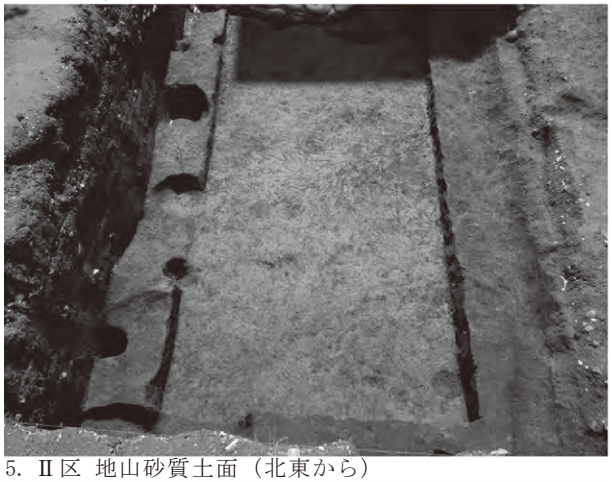

7. Ⅱ区第２面 道路 1b（北東から）

1. Ⅱ区 第３面（北東から）

2. Ⅱ区 第４面（北東から）

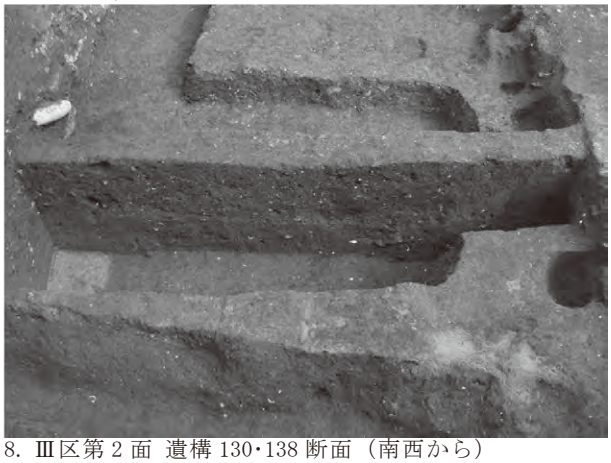

3. Ⅱ区 第４面（東から）


4. Ⅱ区第４面 遺構 18（南西から）


5. Ⅱ区 地山砂質土面（北東から）

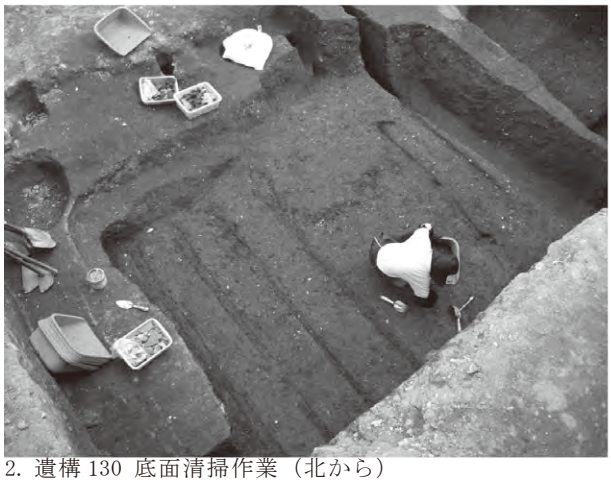
6．Ⅲ区 第１面（北東から）

7. Ⅲ区 第２面（北東から）

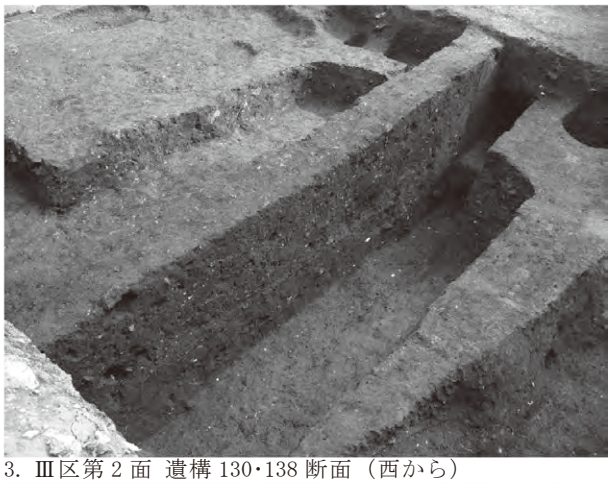

8. Ⅲ区第２面 遺構 130･138 断面（南西から）

図版４

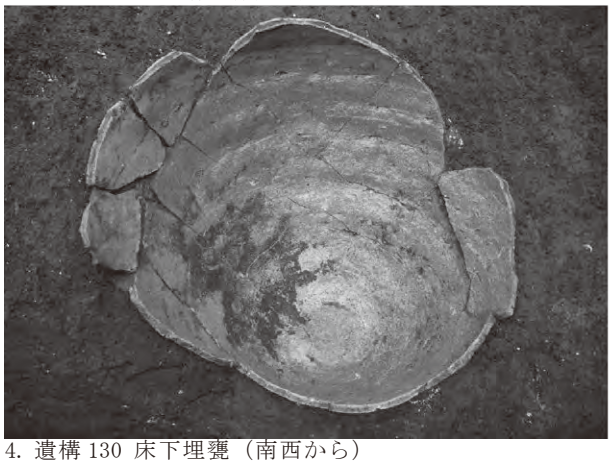
1. Ⅲ区第２面 遺構 130（北東から）



2. 遺構 130 底面清掃作業（北から）



3. Ⅲ区第２面 遺構 130･138 断面（西から）



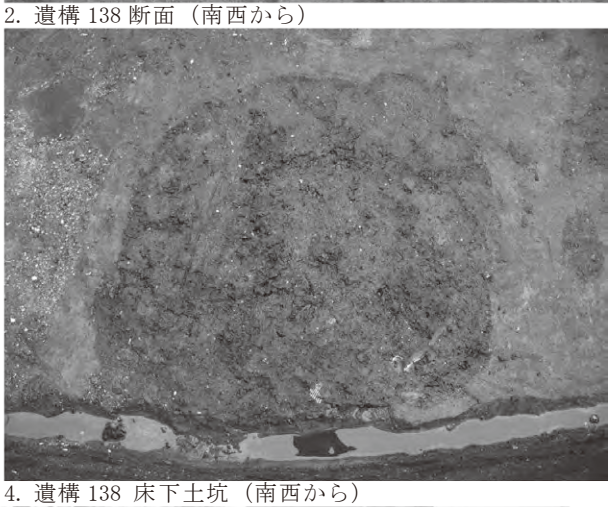
4. 遺構 130 床下埋甕（南西から）

5. Ⅲ区第２面 清掃作業（北から）

1. Ⅲ区第２面 遺構 138（北西から）

2. 遺構 138 断面（南西から）

3. 遺構 138 断面（北東から）

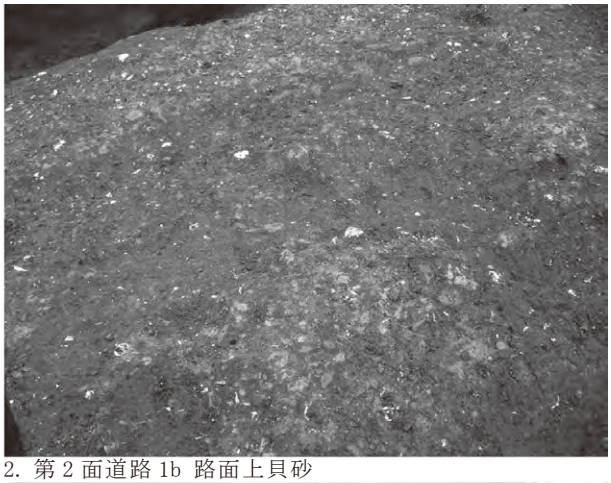


4. 遺構 138 床下土坑（南西から）

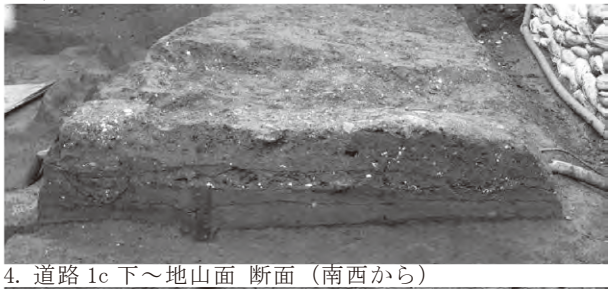
5. Ⅲ区 第４面（北東から）

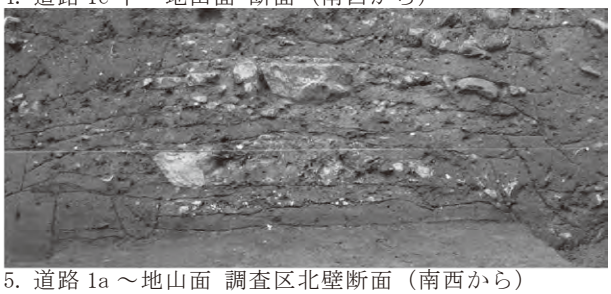
図版６

1. 第２面 道路 1b（北東から）


2. 第２面道路 1b 路面上貝砂

3. 地山砂中の貝層


4. 道路 1c 下～地山面 断面（南西から）


5. 道路 1a ～地山面 調査区北壁断面（南西から）

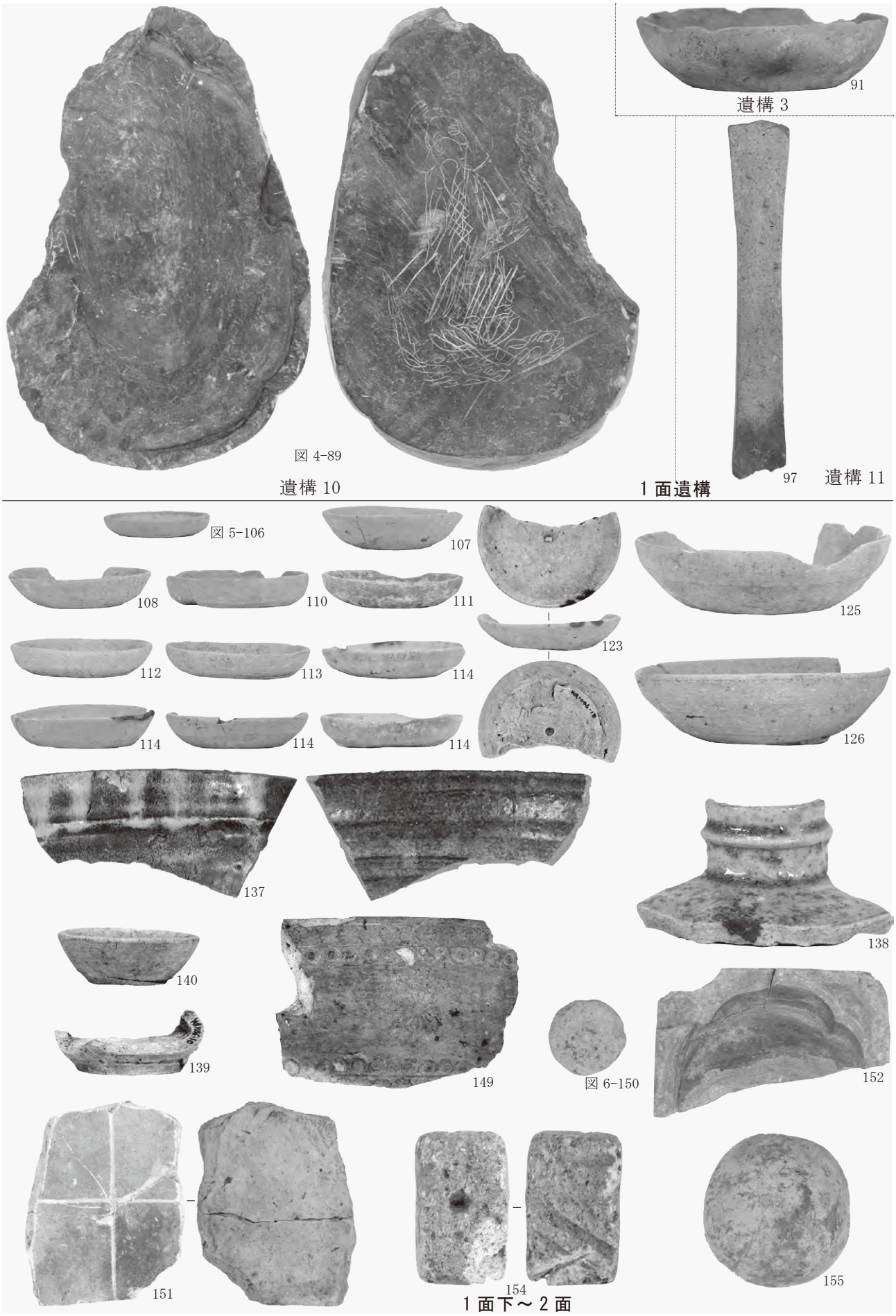
6. Ⅲ区 道路１下 第４ 面（北東から）

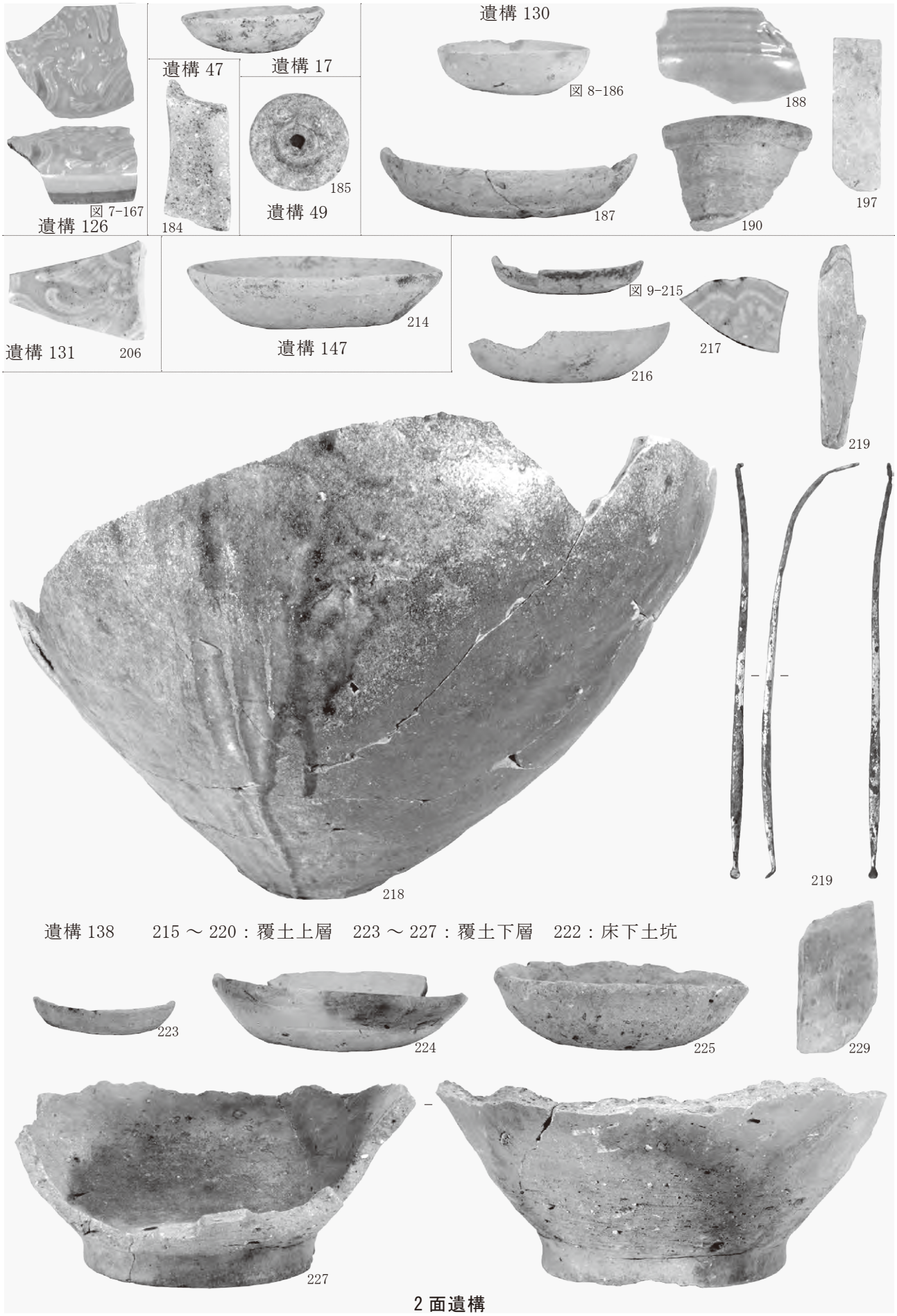
7. 第４面 遺構 160 断面（南西から）

8. 第４面 遺構 160（南東から）

3
4
5
6
7
8
10
12
11
19
図 1-1
16
18
22
24
25
35
37
45
図 2-49
52
53
55
54
57
57
59
60
61
62
表土～1面
図 3-67
68
69
71
遺構 1
72
73
77
87
遺構 40
79
道 1a 下
1面遺構

図版８


91
遺構 3
図 4-89
遺構 10
97
遺構 11
1 面遺構
図 5-106
107
108
110
111
123
125
112
113
114
126
137
138
140
139
149
図 6-150
152
151
154
155
1 面下～ 2 面


遺構 130
図 7-167
遺構 126
遺構 47
184
遺構 17
185
遺構 49
図 8-186
187
188
190
197
遺構 131
206
214
遺構 147
図 9-215
216
217
219
218
219
遺構 138　215 ～ 220：覆土上層　223 ～ 227：覆土下層　222：床下土坑
223
224
225
229
227

2 面遺構

図版10

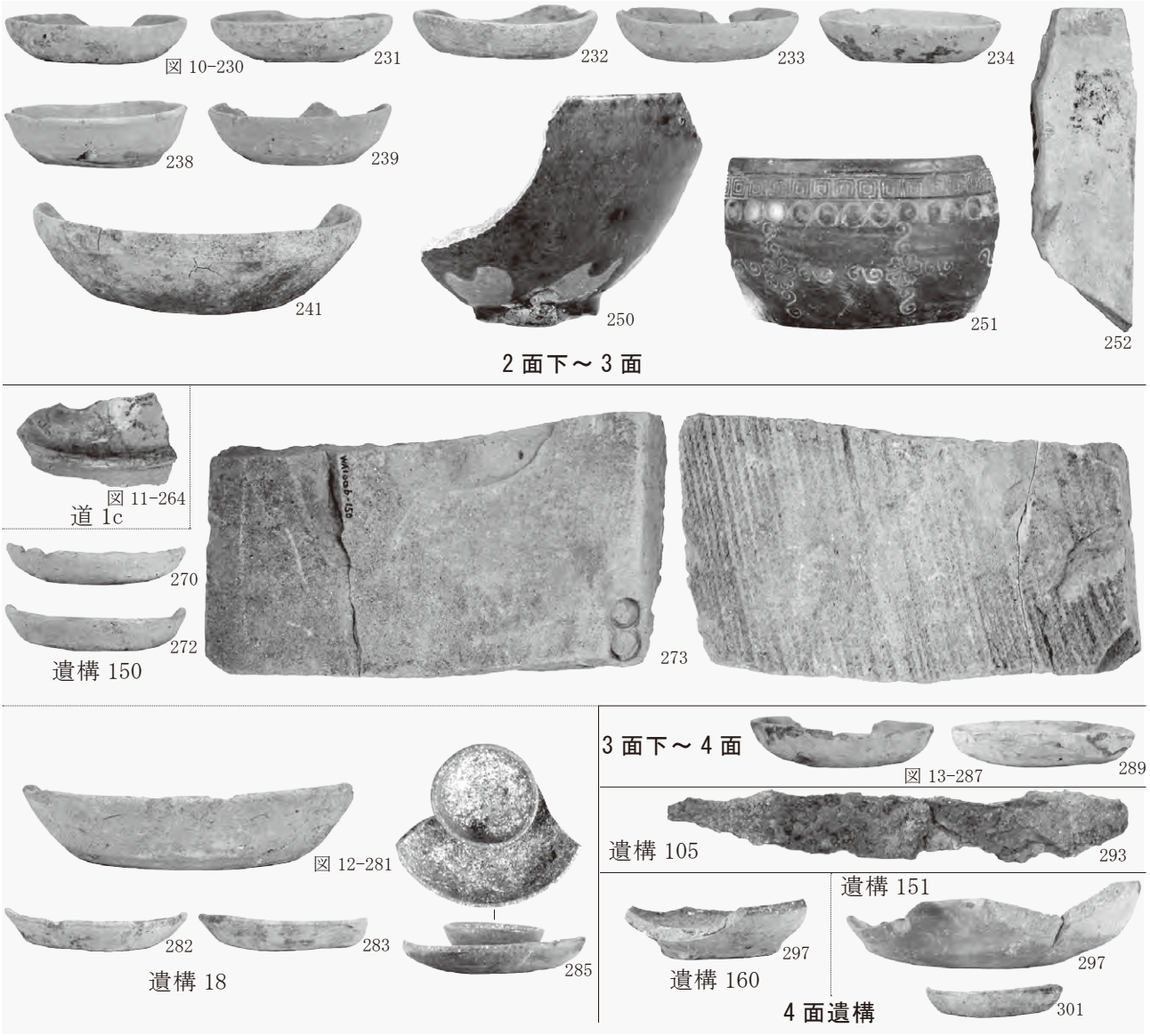


図 10-230
231
232
233
234
238
239
241
250
251
252
2 面下～ 3 面
図 11-264
道 1c
270
272
遺構 150
273
図 12-281
282
283
285
遺構 18
3 面下～ 4 面
図 13-287
289
遺構 105
293
遺構 151
297
297
遺構 160
301
4 面遺構

台山遺跡（No.29）

だいやまいせき

台字西ノ台 1418 番 10 地点

例　言

1．本報告は、鎌倉市台字西ノ台1418番10において実施した台山遺跡（鎌倉市No.29）の発掘調査報告である。

2．発掘調査は平成26年8月28日から同年10月10日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、40.4㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

　主任調査員　　押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）

　調　査　員　　小野夏菜、吉田桂子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）

　作　業　員　　牛嶋道夫、鈴木啓之、三嶋義人、星　栄人、遠藤雅廣、鈴木敏文、大澤清春

　　（公益社団法人　鎌倉市シルバー人材センター）

　整理作業参加者　押木弘己、遠藤綾子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）

4．本報告の執筆と編集は、押木が行った。

5．本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。

6．現地調査ならびに本報告の作成に当たり、以下の諸氏からご教示を賜った。記して感謝したい。

栗原伸好・畠中俊明（公益財団法人かながわ考古学財団）、汐見一夫（鎌倉市教育委員会）

6．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＤＩ１４０３」とし、出土品への注記などに使用した。

凡　例

1．挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2．本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅸ系:東日本大震災後の補正値）に基づいている。
3．挿図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより0°09′25″ほど東に振れている。
4．遺構挿図中の水糸高は、海抜値を示す。
5．遺物挿図中、断面を黒く塗りつぶしたものは須恵器であることを表す。

目　次

本　文　目　次

第一章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 247
　第１節　遺跡の立地
　第２節　周辺の調査成果
第二章　調査の方法と経過 …… 250
　第１節　調査に至る経緯
　第２節　調査の方法
　第３節　調査の経過
第三章　基本土層 …… 252
第四章　発見された遺構と遺物 …… 253
第五章　調査成果のまとめ …… 260
付編　台山遺跡のテフラ …… 261
　１．はじめに
　２．試料と方法
　３．結果と考察

挿　図　目　次

図１　台山遺跡における発掘調査地点 …… 248
図２　調査区配置図および遺構全体図 …… 251
図３　調査区壁セクション図 …… 252
図４　竪穴２（住居） …… 254
図５　竪穴２（住居）カマド …… 255
図６　出土遺物（１） …… 256
図７　出土遺物（２） …… 258

表　目　次

表１　出土遺物観察表 …… 257
表２　出土遺物カウント表 …… 259

図　版　目　次

図版１ ……265
　１．調査開始前（南から）
　２．Ⅰ区 表土掘削状況（北から）
　３．Ⅰ区 竪穴２（北から）
　４．Ⅰ区 竪穴２ 竈（北から）
　５．Ⅰ区 竪穴２ 竈セクション（東から）
　６．Ⅰ区 遺構外 遺物出土状況（図６－35）
　７．Ⅰ区 遺構外 遺物出土状況（図６－36）
　８．Ⅰ区 最終全景（北西から）
図版２ ……266
　１．Ⅱ区 竪穴２ 遺物出土状況（南西から）
　２．同上 アップ（図６－16）
　３．同上 アップ（図６－２）
　４．Ⅱ区 竪穴２（北から）
　５．Ⅱ区 竪穴２ 掘り方（北から）
　６．Ⅱ区 竪穴３ 掘り方（東から）
　７．Ⅱ区 ローム層確認坑（西から）
　８．Ⅱ区 ローム層確認坑 最下層付近アップ（南から）
図版３　竪穴２・３出遺物……267
図版４　遺構・遺構外出土遺物……268

東上空から調査地（○印）を望む
2015年２月９日撮影

第一章　遺跡の位置と歴史的環境

第１節　遺跡の立地

台山遺跡は鎌倉市北部に位置し、鎌倉街道（主要地方道 横浜鎌倉線）とJR横須賀線を北に見下ろす丘陵尾根の上部から裾部にかけて立地している。丘陵地形は多摩丘陵から三浦半島方面へ続くもので、鎌倉市北部の大部分を構成している。遺跡範囲は北西～南東に700ｍ、北東～南西には300ｍの規模をもち、標高は18 ～ 74ｍを測る。本地点は遺跡範囲のほぼ中央に位置し、JR北鎌倉駅から300ｍほど西の丘陵上に所在する。微地形としては遺跡の南東端となる北鎌倉女子学園近辺が最も高位にあり、北西に向けた急勾配の下り斜面を経て光照寺の南で標高34ｍほどの鞍部となる。本地点は、この鞍部から25ｍほど北西にあり、現況での標高は36.5ｍを測る。本地点が面する北西-南東方向の道路は尾根筋の中央を一直線に貫いているが、これは戦前に海軍将校の邸宅地を造成した際に通されたもので「海軍通り」との通称がある。この時の造成によって鞍部の北西側は大きく削平を受けたものと見られ、直線道路の両サイドには広い平坦面が続いている。本来は北西に向けて高まる地形が今少し続いていたのであろう。本地点以西の尾根上で発掘調査例が皆無なのは、戦前の造成によって遺跡が失われてしまったことに因るのではないだろうか。尾根の北裾部には明月谷から発した小袋谷川が西流し、現状で180ｍ幅の開析谷を形成している。現況の標高は15ｍ前後で推移する。南裾部にも120ｍ幅の谷が西に開口しており、その一部は遺跡範囲に内包されている。標高は、20 ～ 28ｍ前後である。

第２節　周辺の調査成果

台山遺跡では、これまでに16地点で発掘調査が実施されている（平成27年8月現在）。このうち、本調査は15地点目での調査例となる。

図1には、遺跡内の調査地点を実施した順に示した。未報告の地点もあって具体的な調査成果が不明なケースもあるが、幾例か代表的な成果について紹介する。地点1は昭和49年、三上次男氏によって学術調査として実施された。標高60ｍ弱の丘陵上で弥生後期・古墳後期・時期不明の竪穴住居が各1軒検出され、中世ではかわらけが出土したという。地点2･5･7は北鎌倉女子学園の校舎建設に伴い実施され、周辺の小字から「台山藤源治遺跡」と呼ばれている。この第1次調査（地点2）では縄文時代の陥とし穴1基や、弥生時代中期以降の竪穴住居18軒、古墳時代の竪穴住居13軒、平安時代の竪穴住居5軒が検出されている。中世では道路状遺構や14 ～ 16世紀の遺物が発見されている。第2次調査（地点5）でも縄文早期～前期の陥とし穴2基の他、弥生後期の竪穴住居1軒、奈良末～平安初期の竪穴住居1軒が検出されている。中世の遺構は確認されていないが、やはり14 ～ 16世紀の遺物が発見されている。第3次調査（地点7）では弥生後期後半～古墳時代の竪穴住居5軒、平安時代の竪穴住居1軒が検出され、中世では段切り造成面やピット列が確認されている。中世の遺物は、14 ～ 15世紀代の製品が中心となる。

この他、地点3･4では弥生後期を中心とする竪穴住居8軒が確認されており、地点8では中世後期の南北溝2条が確認されている。地点9では弥生時代後期の竪穴住居4軒、古墳時代の竪穴住居2軒と掘立柱建物1棟、古墳後期末～奈良時代前半の竪穴住居2軒が発見されている。古代以前の掘立柱建物や奈良時代の竪穴住居は、台山遺跡では初めての確認例となった。地点10は丘陵斜面に立地するため遺構・遺物とも少なかったが、弥生後期～古墳前期のピット2基が検出され、弥生中期後葉の宮ノ台式壺形土器が出土している。地点11と14･16は同じ雛壇状の造成面に立地しており、地点16では中世段階で丘陵斜面の岩盤を削って平場を造成している状況が確認されている。その後も削平面上に整地層を重ねて

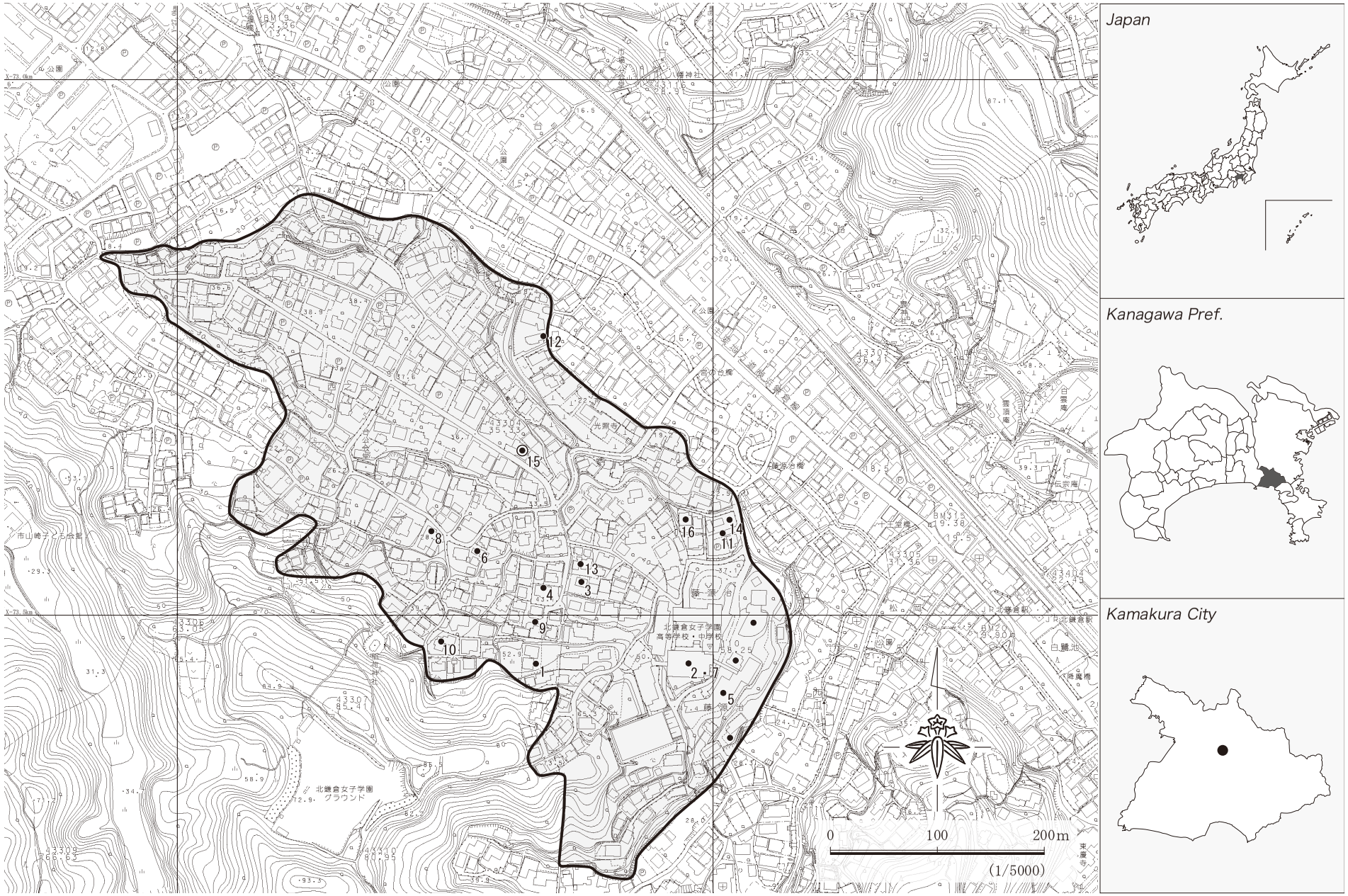


図１　台山遺跡における発掘調査地点

利用されており、丘陵裾に沿って排水目的であろう溝が開削されていた。出土かわらけの様相から造成の開始期は14世紀前半まで遡る可能性があるが、土地利用の中心は14世紀末～15世紀代であったと考えられる。地点12も丘陵の斜面中腹に立地し、雛壇状の平場において中世の遺構面3枚が確認されている。遺構は土坑とピットが中心で、一部のピットは並ぶ可能性がある。遺物の様相から、15世紀代の中葉～後半を中心に土地利用がなされていたと考えられる。

以上を整理すると、台山遺跡では丘陵上を中心に広範囲にわたって弥生時代～平安時代の竪穴住居が分布しており、各時代の集落展開が把握されていることになる。集落の開始時期は弥生時代中期後葉の宮ノ台式期となろうが、この段階では発見されている住居の数も少なく、現時点の調査成果では大規模集落の存在は想定できない。弥生後期の久ヶ原式～弥生町式期に住居軒数が増加し、古墳時代前期まで一定規模の集落が継続するようである。古墳中期には地点5･7で竪穴住居が3軒、地点9で土坑1基が発見されており、他地域の例に漏れず退潮には入るものの完全には途絶しないようである。古墳後期になると再び住居軒数は増加に転じ、後期末～奈良時代前半に継続する状況も窺える。続く平安時代に入っても、一定規模の集落が存続するようである。以上は大まかな時期区分に基づく記述であるため、報告された各遺構の帰属時期を詳細に把握することで集落変遷の実相が明らかになってこよう。

また、縄文時代の発見遺構は今のところ陥とし穴に限られているが、早期～前期と比較的古い時期の遺構も含まれていることから、鎌倉周辺の縄文社会の形成過程を考える上で貴重な成果といえる。

中世においては14世紀後半～15世紀代に土地利用が進んだことが明らかとなりつつあり、弘安五年(1282)の円覚寺創建に伴う土地開発は、本遺跡付近までは及ばなかったことが推測できる。本地点の北東に近い西台山英月院光照寺は時宗寺院で、藤沢市清浄光寺(遊行寺)の末である。境内に建武二年(1336)銘をもつ安山岩製板碑が現存することから14世紀前半に寺域の整備が進んだ可能性はあるが、この段階では周辺の広い範囲にまで開発が及ばなかった様子が、遺跡内容からは窺い知れる。

【図1に示した調査地点の報告書】

1. 丑野　毅　1974 「神奈川県鎌倉市台遺跡調査報告書」『人文学科紀要』第59輯　東京大学教養学部人文科学科
2. 手塚直樹他　1985 『台山藤源治遺跡』 台山遺跡発掘調査団
3. 齋木秀雄・宗臺秀明　1985 「3. 台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1』 鎌倉市教育委員会
4. 玉林美男他　1988 「6. 台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』 鎌倉市教育委員会
5. 大河内　勉　1996 『台山藤源治遺跡　第2次調査報告』 台山遺跡発掘調査団
6. 大上周三　1992 「4. 台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』鎌倉市教育委員会
7. 宗臺秀明　1993 『台山藤源治遺跡―第3次調査報告―』 台山藤源治遺跡発掘調査団
8. 野本賢二　1997 「台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会
9. 若松美智子　1998 『台山遺跡発掘調査報告書―西ノ台1733-1外地点―』 台山遺跡埋蔵文化財発掘調査団
・東国歴史考古学研究所
1999 「台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会
10. 継　　実　2001 「台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会
11. 森　孝子　2002 『台山遺跡発掘調査報告書』 有限会社 博通
12. 伊丹まどか　2004 「台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会
13. 2007年度調査・未報告
14. 2009年度調査・未報告
15. **2014年度調査・本報告**
16. 2015年度調査・未報告

【参考文献】

鎌倉市史編纂委員会編　1959 『鎌倉市史　社寺編』 鎌倉市
白井永二編　1976 『鎌倉事典』 東京堂出版

第二章　調査の方法と経過

第１節　調査に至る経緯

今回の調査は個人専用住宅の建設に伴う埋蔵文化財の記録保存調査として鎌倉市教育委員会（以下、市教委）が実施した。

建築計画では基礎工事として深さ10ｍの杭を打設することから、市教委では平成26年4月16日と17日の二日間にわたって埋蔵文化財の確認調査を実施した。この結果、地表下60cmで古墳時代の遺物包含層が検出され、地表下80cmの関東ローム層上では3基の遺構が確認されたことから、建築工事の実施に先立って本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

現地調査は平成26年8月28日～10月10日の約1か月半をかけて実施した。次節で述べる拡張区も含め、最終的な調査面積は40.4㎡となった。

第２節　調査の方法

調査区は、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から北半部のⅠ区と南半部のⅡ区とに分割し、Ⅰ区からⅡ区の順に調査を進めた。Ⅰ区の南部からⅡ区のほぼ全域で古墳時代後期の竪穴住居が検出され、さらにⅡ区の南西外にも同遺構が続くことが確認された。この部分では表土下15cmで遺構の確認面に達するが、建築計画ではカーポートの基礎工事が確認面付近にまで及ぶ可能性があったことから、施工対象となる約4㎡の範囲について調査区を拡張して遺構プランの確認を行った（図2）。

表土掘削はⅠ・Ⅱ区とも重機によって行い、拡張区については人力で行った。遺物包含層以下は全て人力によって掘削し、順次遺構の確認と掘削、次いで写真撮影・測量図作成といった記録作業を進めた。

測量に当たっては国家座標値を載せた基準杭を敷地内に設定し、主に光波測距儀で測定した座標値を方眼紙にプロットする方法で平面図を作成した。国家座標の移設は、市道上に設置された都市再生街区多角点「10B49」と同補助点「4A529」の二点間関係をもとに開放トラバース法によって行った。標高については、多角点「10B50」(33.374ｍ）を起点に直接水準測量を繰り返して敷地内の測量杭に移設した。これら測量の基準とした各多角点および補助点の国家座標値は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災後の補正値である。

第３節　調査の経過

前述のとおり、調査はⅠ区からⅡ区の順に進めた。Ⅰ区の表土掘削は平成26年8月27日に実施し、翌28日に調査用具を搬入して本格的に調査に着手した。遺構の確認と掘削、図面作成および写真撮影といった記録作業を進め、9月16日にはⅠ区の調査を終了して9月17日にⅡ区の表土掘削を行った。Ⅱ区と拡張区についてもⅠ区と同様に掘削と記録作業を進め、古墳時代の遺構調査を10月2日に終了した。この後は関東ローム層以下の確認坑を掘削して旧石器時代の調査を試みた。以上を経て、10月10日には調査用具を撤収して現地での調査工程を全て終了した。

出土品等の整理および本報告の作成は平成26年度後半から27年度前半にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課分室において断続的に行った。

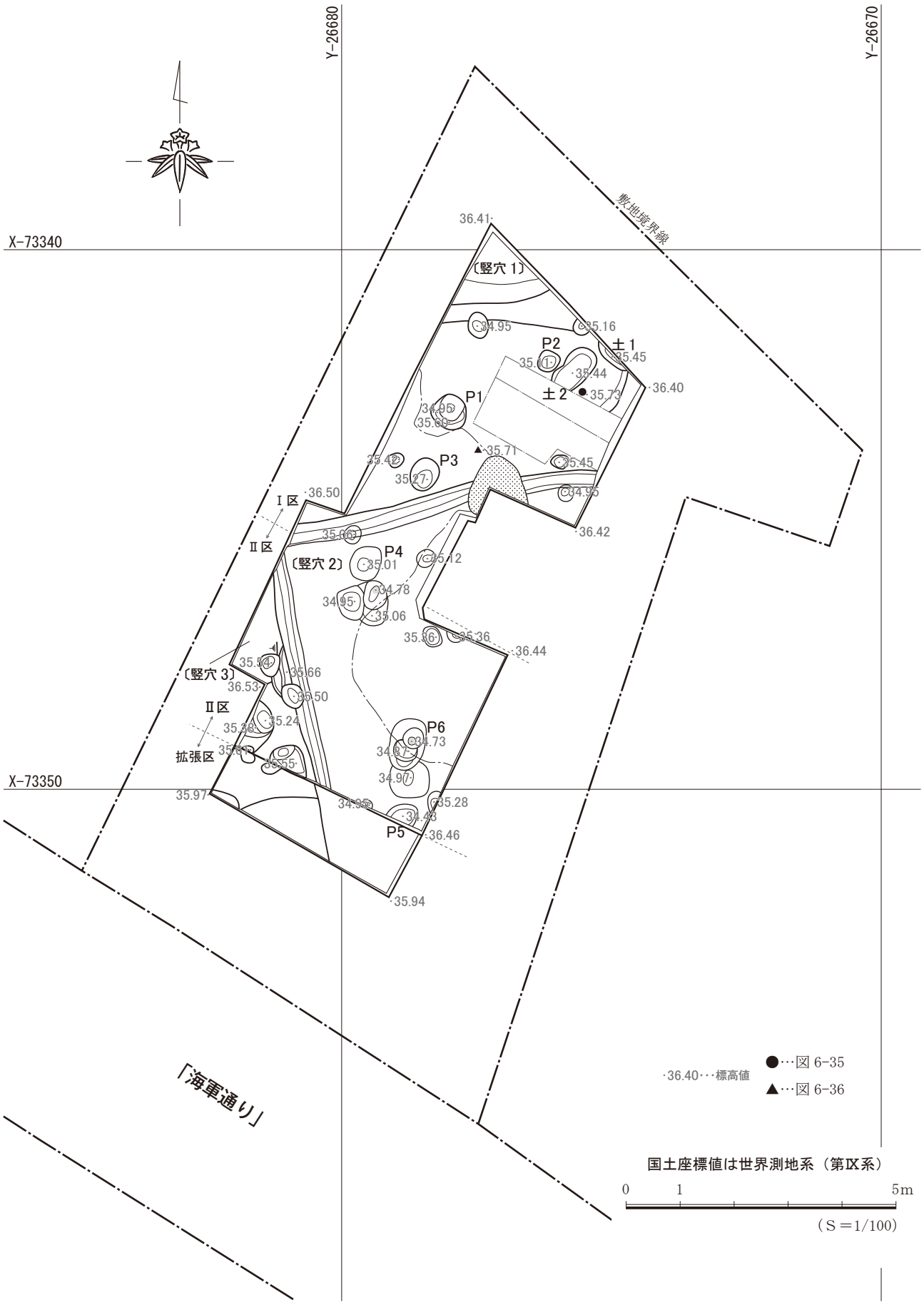


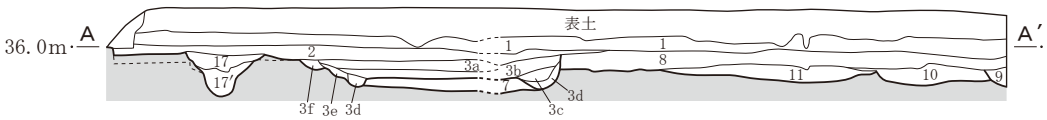
図２　調査区配置図および遺構全体図

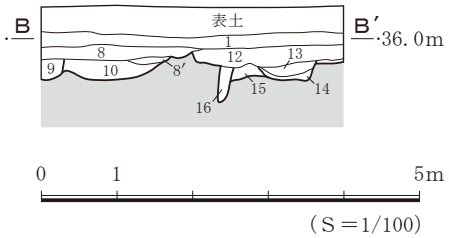
第三章　基本土層

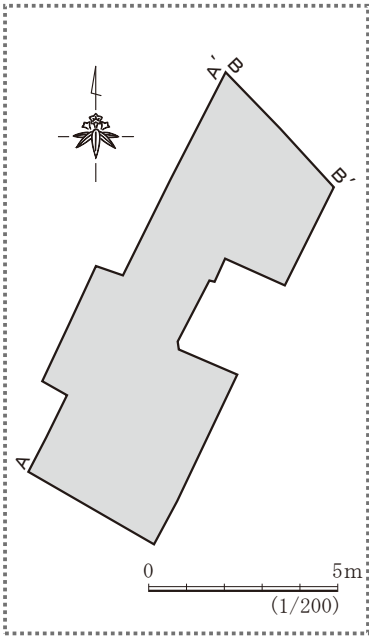
本地点は丘陵の尾根上に立地しており、鎌倉市内の調査遺跡としては例の少ない関東ローム層を基盤としている。ローム層は上総層群の岩盤上に堆積し、相模野台地における一般的な立川ローム層とは様相を異にしていた。本地点では標高33.9 mから35.9 mまで2 mの厚さをもち、上部ではB_1層相当の層序までは把握できるようである（栗原伸好氏・畠中俊明氏のご教示による：付編-図1参照）。標高33.9 m以下では、土壌分析の結果から、非テフラ起源の堆積が想定されている（付編参照）。

図3には、ローム層より上位の土層堆積状況を示した。現地表面は36.5 mで、表土層は30 ～ 40cmの厚さをもつ。この下位の1層と2層はともに古墳時代以降の遺物包含層で、1層には部分的に表土が入り込み、2層より軟質である。明確な帰属は掴めなかったが、1層までが中世遺物の包含層で、2層は古代以前の遺物包含層になるものと思われる。一部、2層直下でソフトローム層（L_1S）が確認され、縄文時代に堆積した「富士黒色土（FB）」は遺存していなかった。遺構確認は、ローム層上面で行った。

前章でも述べたように本地点の北西側については「海軍通り」など戦前の造成によって遺跡が削平を蒙っている可能性が高いが、本地点では古墳後期以降、2層の形成段階においてローム層近くまで削平が及んでいる状況を確認できた。南東の尾根鞍部に向けては、多少とも遺跡が良好に残っていることが推察される。







3a　暗褐色土　橙色スコリア多い。
3b　暗褐色土　橙色スコリア少量。
3c　暗褐色土　ローム粒多い。
3d　暗褐色土　3c 層よりローム粒減少。
3e　暗褐色土　ローム粒多量。
3f　暗褐色土　ローム粒多量。
8　暗褐色土　土器片多量。
9　暗褐色土　締まり弱い
10　黄褐色土　ローム土主体。締まり弱い。
11　暗褐色土　ロームブロック多量。上面硬化。住居の貼り床か。
12　暗褐色土　ローム粒少量。締まり、粘性ややあり。
13　暗褐色土　ローム粒少量。粘性ややあり。
14　暗褐色土　ローム粒少量。13 層より締まりあり。
15　暗褐色土　ローム粒少量。締まり、粘性ややあり。
16　暗褐色土　締まり弱い。
17　暗褐色土　締まりやや強い。
17′　暗褐色土　締まり弱い

図３　調査区壁セクション図

第四章　発見された遺構と遺物

今回の調査ではローム層上面で3基の竪穴遺構と10基ほどのピットが検出された。竪穴遺構のうち1基はカマドなど付帯施設の存在から、住居であることが把握できた（竪穴2）。この北側でも貼り床状の硬化面が確認され、住居としての可能性も考えられるが、その他の施設痕跡が発見できなかったことから竪穴には含まなかった。ピットのうち何基かは敷地境界線に沿うように並ぶ様子も窺えたが、間隔が一定でなく、覆土様相も区々であったことから柱穴列とは判断しなかった。

以下、主な検出遺構と出土遺物について説明する。

竪穴２（住居）

Ⅰ区の南部からⅡ区のほぼ全域にかけて検出された。方形基調の平面形を呈するが、調査範囲内では何れのコーナーも確認できなかった。北と西の壁面が検出され、両壁際で壁周溝を確認している。北壁には灰色粘土で構築されたカマドが付くが、大部分が調査区外に位置するため、焚き口や煙道など内部の調査は行えなかった。貼り床の上面は硬化しており、カマド前面の硬化が最も顕著であったと考えられる。床面上では西壁に沿って2本の主柱穴が確認でき、柱穴と周溝の造り替え状況から、少なくとも1回は西壁の拡張を伴う建て替えが行われたことが推測できる。カマドを前方に見た場合の主軸方位はＮ10°Ｗを指す。

南と東が調査範囲外に続くため全体の規模は不明であるが、カマドや柱穴の位置を基準に反転復元を試みると東西9ｍ×南北6ｍの長方形プランに復元できる。6×6ｍの正方形プランでカマドが北壁の東寄りに位置していた可能性も想定できよう。確認面から20～25㎝の深さで床面に達し、床面標高は35.55～35.6ｍ前後で推移する。主柱穴は建て替え後のもので床面から80～90㎝の深さをもち、底面では柱当たりと思しき直径15㎝ほどの硬化面が遺存していた。柱間距離は290㎝を測る。建て替え前の柱穴は僅かに浅く底面標高が34.9～35.0ｍを測り、柱間距離は270～280㎝前後であったと考えられる。床下から掘り方底面までは5～15㎝を測り、竪穴の中央部よりも壁際の方が深かった。

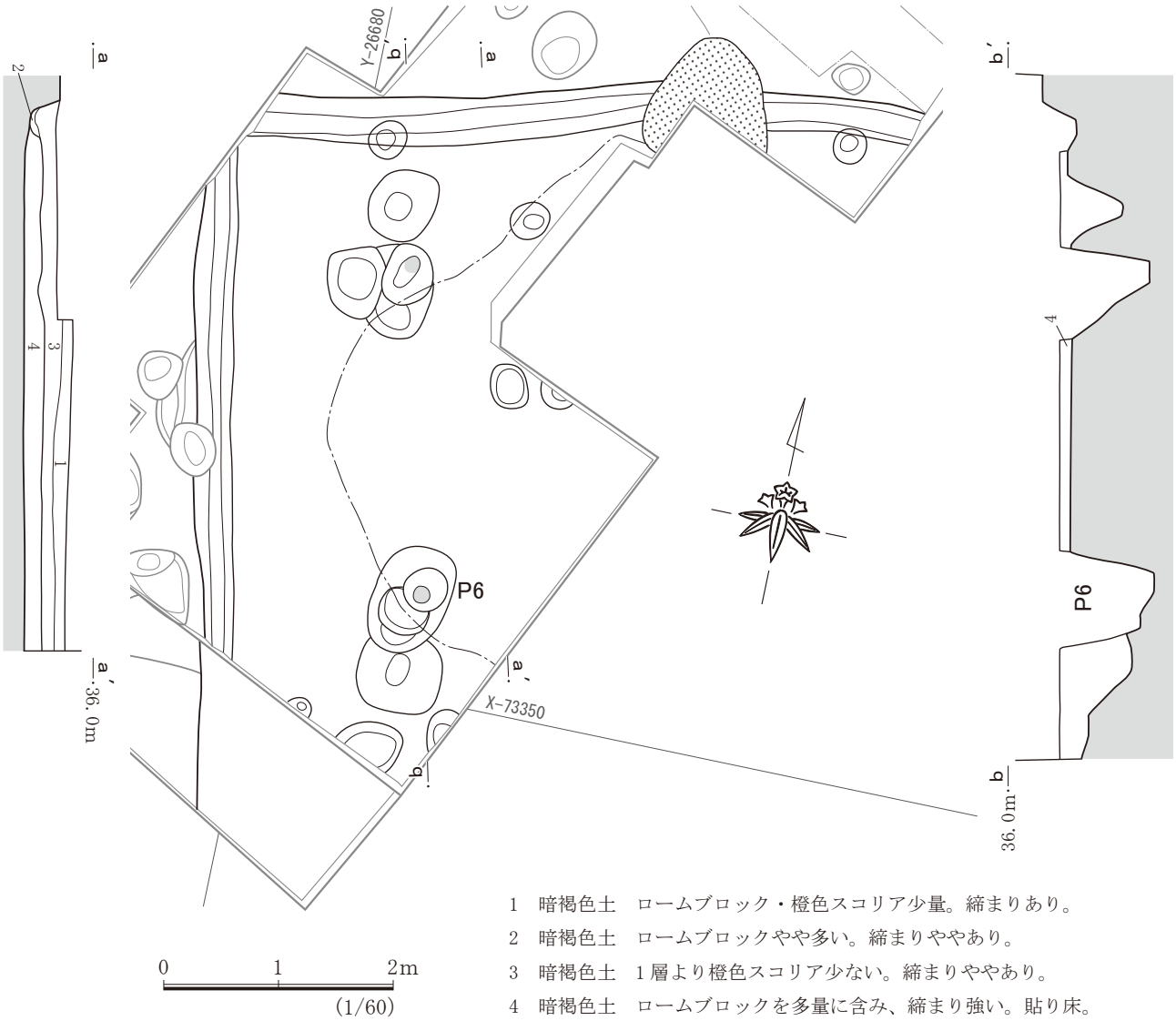
竪穴2の出土遺物は、図6-1～24に示した。覆土からの出土遺物が殆どであり、床面での使用状態を残す資料は皆無であった。カマドの周辺では崩落粘土中より土師器甕などの遺物が出土しているが、燃焼部の掘削に及んでいないことからカマドでの使用を明確に把握し得る遺物はなかった。個々の遺物についての詳細は、表1を参照されたい。

先述の出土状況に加えて完形品も全くないことから年代の指標としては物足りないが、16の東海産須恵器坏身は復元最大径が10.6㎝と小振りで蓋受けの返りも短小化しているので、この種の資料（坏Ｈ）としては比較的新しい7世紀第3四半期頃の所産と考えられる。加えて10～12･15の土師器甕は古墳時代後期のケズリ甕よりも後出的である相模型甕に含め得るので、7世紀後葉～末の所産と判断できる。土師器坏の様相も含め、本遺構は7世紀後葉には廃絶して埋没過程に入っていたことが推測できる。

竪穴３（住居？）

Ⅱ区の西壁際で検出された、西へ向けての落ち込みである。東側は竪穴2に切られていることから、東西1ｍ、南北1.5ｍ程度の範囲を確認できたに過ぎない。落ち込みの形状や覆土様相は竪穴2に類似するが､検出できた部分のみでは遺構の具体的な様相は不明である。確認面からは20㎝ほどの深さをもち、底面標高は35.6ｍ前後で推移する。

本遺構の出土遺物は図6-25～30に示した。小片ばかりであるため具体的な年代観を見出すのは難しいが、7世紀前半～中頃の資料が最も新しいものと考えられる。30の高坏脚部は、古墳前期の所産か。



1　暗褐色土　ロームブロック・橙色スコリア少量。締まりあり。
2　暗褐色土　ロームブロックやや多い。締まりややあり。
3　暗褐色土　1層より橙色スコリア少ない。締まりややあり。
4　暗褐色土　ロームブロックを多量に含み、締まり強い。貼り床。

図４　竪穴２（住居）

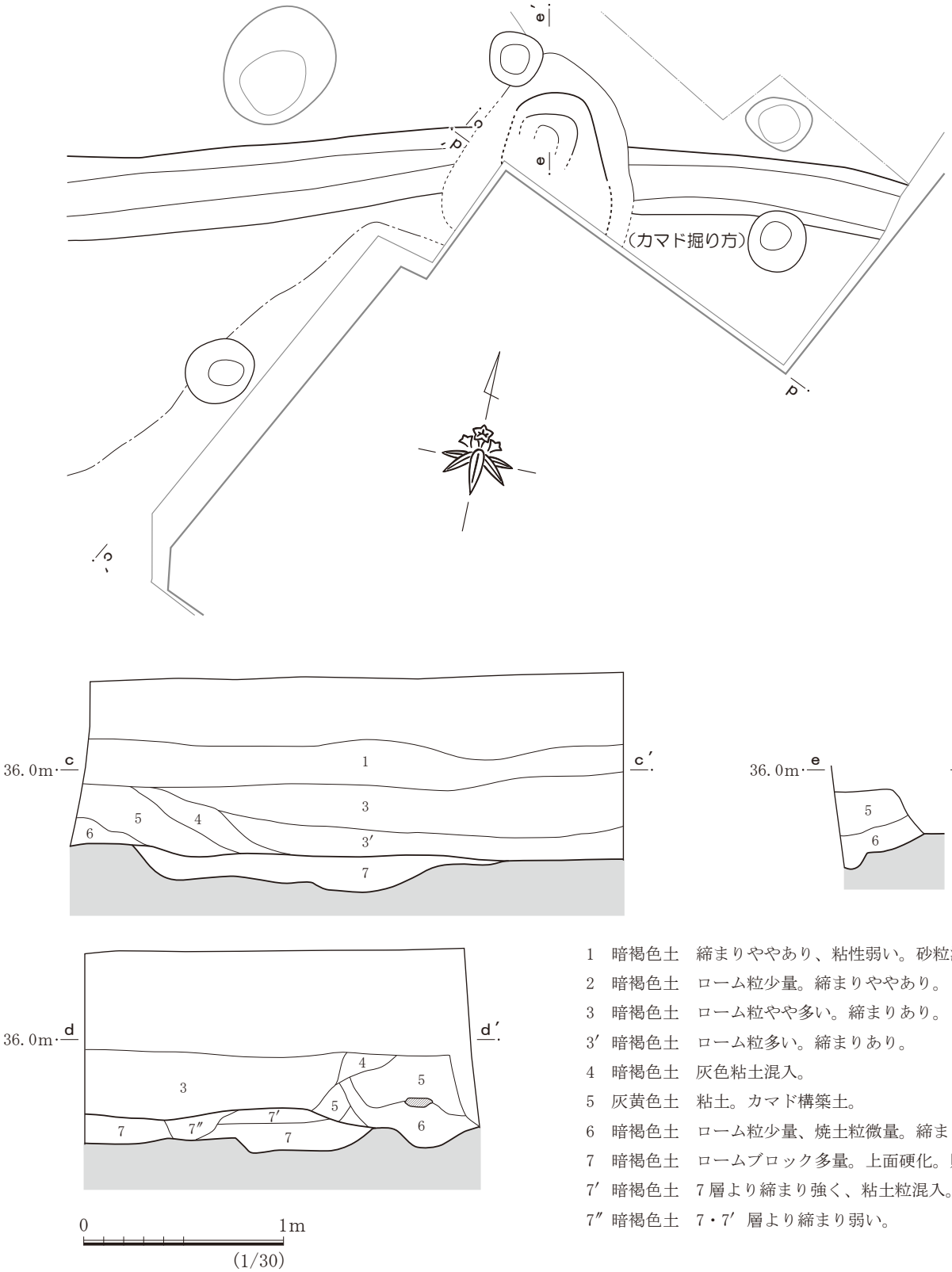
竪穴１（地割れ？）

Ⅰ区の北西隅で検出された、北に向けての落ち込みである。南北160cmほどが確認できたものの遺構の大部分が調査区外に続くため全体の形状や規模は不明である。確認面から25cmの深さ、標高35.4ｍまで掘り下げたが底面には達せず、下位に進むほど覆土が軟質なローム土に変移する様子が見て取れたことから、人為による遺構ではなく、地割れなど自然要因の落ち込みであると判断した。この位置から北に20ｍほど向かうと斜面地となることから、地震や降雨の際には小規模な地割れが生じ易い土地であったことが推察できる。上位の覆土には、硬化土のブロックが混入する。

本遺構の出土遺物は図6-31に示した。器形・調整から古墳時代前期の小型高坏脚部と見られる。

硬化面

Ⅰ区の南部、竪穴2の北側に位置する。南側は竪穴2に切られ、西側は調査区外に続く。東西2.9ｍ、南北2.8ｍの広がりを確認した。硬化面上の標高は35.7ｍ前後で推移し、層厚10 ～ 25cmの暗褐色土で構成される（図3-11層）。全体に締まりの強い土層だが、上面の硬化が顕著であった。断面観察では竪穴1（地割れ?）で北部が切られていることを確認した。竪穴の覆土上位に混入した硬化土ブロックは、本硬化面の構成土が崩れたものと考えられる。



1　暗褐色土　締まりややあり、粘性弱い。砂粒混入。
2　暗褐色土　ローム粒少量。締まりややあり。
3　暗褐色土　ローム粒やや多い。締まりあり。
3′暗褐色土　ローム粒多い。締まりあり。
4　暗褐色土　灰色粘土混入。
5　灰黄色土　粘土。カマド構築土。
6　暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量。締まり弱い。
7　暗褐色土　ロームブロック多量。上面硬化。貼り床。
7′暗褐色土　7層より締まり強く、粘土粒混入。
7″暗褐色土　7・7′層より締まり弱い。

図5　竪穴2（住居）カマド

本遺構については竪穴住居の貼り床と考えるのが最も理解しやすいが、調査範囲の少なさや遺構間の重複が著しいことも相俟ってカマドや壁周溝・柱穴など付帯施設の痕跡は確認できなかった。

硬化面上部では図6-36に示した土師器高坏の脚部が出土している。帰属関係が曖昧なため、遺構外の出土資料として提示した。

土坑・ピット

土坑・ピットは遺物が出土したもののみ番号を付した。Ⅰ区で検出されたP1は他の遺構よりも覆土が軟質で底面に向けて先細りになることから、比較的新しい痕跡（山芋の採取穴など）と考えた。この他の遺構については竪穴2などと近似した覆土様相と認識できたことから、古墳時代～古代の所産と推測している。数基のピットは直線上、または直行方向に並ぶようにも見て取れるが、調査範囲が狭いこともあって等間隔で並ぶ確実な柱穴列は抽出できなかった。遺構個々の特徴については説明を省くので、図3を参照されたい。

土坑・ピットの出土遺物は図6-32 ～ 34に示した。32は古墳時代前期のS字状口縁台付甕の口縁部片。35は内外面に黒色処理を施す駿東系の土師器坏で、7世紀代の所産と見られる。

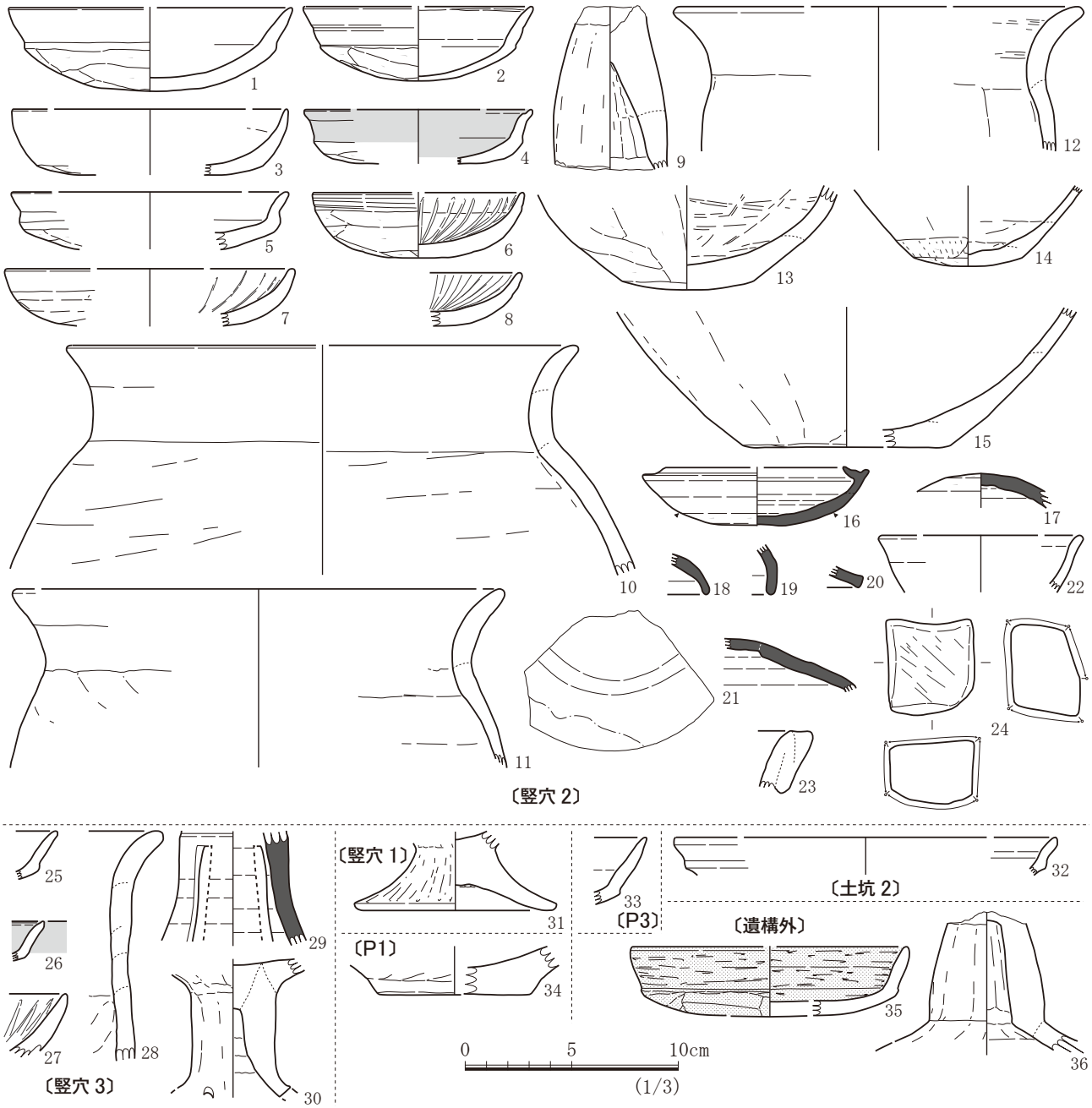


図6　出土遺物（1）

表１　出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
出土遺物（1）（図6）						
1	土師器	坏	(13.2)	—	4.0	1/3　胎土:微砂質。赤色礫、白色針状物質　色調:淡橙褐色
2	土師器	坏	(10.6)	—	3.5	1/3　胎土:小礫、角閃石　色調:淡橙色
3	土師器	坏	(12.8)	(10.5)	3.1	1/8　胎土:細砂質　色調:橙色
4	土師器	坏	(10.6)	—	2.6	1/8　胎土:白色小礫　色調:赤褐色　口縁部外面～内面全体を赤彩比企型
5	土師器	坏	(12.8)	—	[2.7]	口1/6　胎土:角閃石　色調:橙褐色
6	土師器	坏	(9.7)	—	3.1	1/4　胎土:微砂質。褐色スコリア　色調:橙褐色　内面:放射状暗文
7	土師器	坏	(12.4)	—	[2.7]	口1/6　胎土:緻密。微砂質。白色針状物質　色調:橙褐色～黒褐色内面放射状暗文
8	土師器	坏	—	—	[2.5]	口1/6　胎土:細砂質。角閃石　色調:橙褐色　内面放射状暗文
9	土師器	高坏	—	—	[7.7]	脚のみ（端部欠）　胎土:緻密。角閃石　色調:橙褐色～黒褐色　外面ナデ
10	土師器	甕	(23.8)	—	[10.8]	口～胴上1/4　胎土:緻密。微砂質。白色針状物質、褐色スコリア色調:橙色
11	土師器	甕	(22.6)	—	[8.4]	口1/6　胎土:細砂質。雲母微粒　色調:橙褐色
12	土師器	甕	(18.9)	—	[6.8]	口1/6　胎土:細砂質。泥岩粒、角閃石　色調:橙褐色　胴部外面～口縁部内面黒変
13	土師器	甕	—	(6.2)	[5.0]	底のみ　胎土:細砂質。角閃石　色調:橙褐色　内外面弱いヘラミガキ
14	土師器	甕	—	5.2	[3.8]	底完存　胎土:微砂質。緻密　色調:橙褐色～黒褐色　内底面に煤付着
15	土師器	甕	—	(9.6)	[6.6]	底1/3　胎土:微砂質。白色針状物質　色調:橙褐色
16	須恵器	坏	最大径(10.6)	—	2.7	1/2弱　胎土:緻密　色調:淡灰黄色　底部外面回転ヘラケズリ湖西産　合子状坏身（坏H）
17	須恵器	坏蓋	—	—	[1.6]	天井周辺　胎土:緻密。白色砂粒　色調:灰色
18	須恵器	坏蓋	—	—	[1.9]	口小片　胎土:緻密。白色砂粒　色調;灰色
19	須恵器	坏蓋	—	—	[2.3]	口小片　胎土:緻密。白色粗砂　色調:灰色
20	須恵器	坏蓋	—	—	[1.0]	口小片　胎土:緻密。小礫　色調:灰色
21	須恵器	瓶	—	—	—	胴小片　胎土:やや砂質。黒色微粒　色調:灰色　外面に緑灰色の自然釉　湖西窯産　フラスコ瓶or平瓶
22	ロクロ土師器	坏	(9.4)	—	[2.7]	口1/8　胎土:微砂質。白色針状物質、角閃石　色調:橙褐色
23	土師器	壺or甕	—	—	[3.0]	口小片　胎土:粗砂粒　色調:にぶい橙褐色　折り返し口縁か
24	石製品	砥石	長さ4.5	幅4.0	厚さ3.2	完形か　86g　4面を使用
25	土師器	坏	—	—	—	口小片　胎土:微砂質　色調:橙褐色
26	土師器	坏	—	—	—	口小片　胎土:白色微砂粒　色調:赤褐色　口縁部外面～内面赤彩
27	土師器	壺?	—	—	[3.0]	口小片　胎土:角閃石　色調:橙褐色　内面粗いタテヘラミガキ（放射状）
28	土師器	甑?	—	—	[10.8]	口～胴上小片　胎土:小礫、角閃石　色調:にぶい褐色～黒褐色　内外面黒変胴部外面ナデ
29	須恵器	高坏	—	—	[5.4]	脚1/4（端部欠）　胎土:緻密。石英粒、白色礫　色調:灰色ヘラ切りによる長方形スリット
30	土器	高坏	—	—	[6.5]	脚のみ（端部欠）　胎土:粗砂、角閃石。　色調:橙褐色円形の透孔1ヶ所
31	土師器	高坏	—	(9.5)	[3.7]	脚1/3　胎土:粗砂、角閃石　色調:にぶい褐色～赤褐色　外面赤彩
32	土器	甕	(17.8)	—	[1.8]	口1/8　胎土:粗砂粒、雲母粒　色調:赤褐色　S字状口縁（台付甕）
33	土師器	坏	—	—	—	口小片　胎土:緻密。微砂粒　色調:橙色
34	土師器	甕	—	(7.2)	[2.3]	底1/2弱　胎土:粗砂粒　色調:褐色　外面:煤付着
35	土師器	坏	(12.8)	—	3.3	1/2弱　胎土:橙褐色。微砂質。白色微砂、角閃石　色調:黒色駿東系
36	土師器	高坏	—	—	[6.7]	脚のみ（端部欠）　胎土:緻密。白色針状物質、角閃石　色調:橙褐色
37	土器	壺	—	—	—	胴小片　胎土:細砂質。角閃石、石英粒　色調:橙褐色胴部外面単節RL縄文＋S字状結節文3段　文様帯以外は赤彩?＋ヘラミガキ

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
出土遺物（2）（図7）						
38	土器	壺	—	—	—	胴小片　胎土：細砂質。角閃石　色調：褐色～黒褐色 胴部外面鋸歯状沈線区画内に単節LR縄文充填　文様帯以外はナナメハケ→ヘラミガキ
39	土師器	坏	(13.4)	—	(3.1)	1/4弱　胎土：淡褐色。緻密。混入物殆どなし　色調：黒褐色
40	土器	甕	(17.3)	—	[4.5]	口1/8弱　胎土：白色針状物質、角閃石　色調：橙褐色
41	土師器	甑？	—	—	[6.4]	口小片　胎土：緻密。白色針状物質、角閃石　色調　橙色 胴部外面タテヘラケズリ
42	土師器	甕	—	—	[5.9]	口小片　胎土：微砂質。緻密　色調：褐灰色/黒色　内面黒色処理＋ヨコヘラミガキ　胴部外面ナナメヘラケズリ
43	土師器	甕？	—	—	[5.0]	口小片　胎土：細砂質。角閃石　色調：赤褐色　胴部内面黒変
44	土器	ロクロかわらけ・大	—	—	3.1	1/8以下　胎土：微砂質。角閃石　色調：淡橙色
45	石製品	砥石	長さ 3.4	幅 [3.2]	厚さ 2.0	残存率不明　表面1面を使用　白色・緻密
46	土器	壺	—	—	—	胴小片　胴部外面に櫛描きのコンパス文と横線文　山中式系・在地産
47	土器	高坏	—	—	[3.5]	脚のみ（端部欠）胎土：粗砂粒、角閃石　色調：橙褐色
48	土師器	埦	(13.4)	—	[6.0]	1/3　胎土：白色砂粒　色調：赤褐色～黒褐色 口縁部外面～内面全体に赤彩　体部外面黒変
49	土師器	坏	—	—	—	口小片　胎土：白色微砂　色調：褐色～赤褐色　口縁部外面～内面に赤彩
50	陶器	縁釉皿	—	—	[1.9]	口小片　胎土：灰黄色。やや粗　釉調：黒褐色
51	ロクロ土師器	坏	(11.4)	—	[2.5]	口1/6　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
52	土師器	甕	—	(7.0)	[3.2]	底1/3　胎土：白色針状物質　色調：褐色
53	土製品	用途不明	長さ [3.9]	直径 2.4	孔径 0.1～0.7	残存率不明　胎土：粗砂粒　色調：淡黄褐色
54	石製品	砥石	長さ [3.7]	2.2	1.5	残存率不明

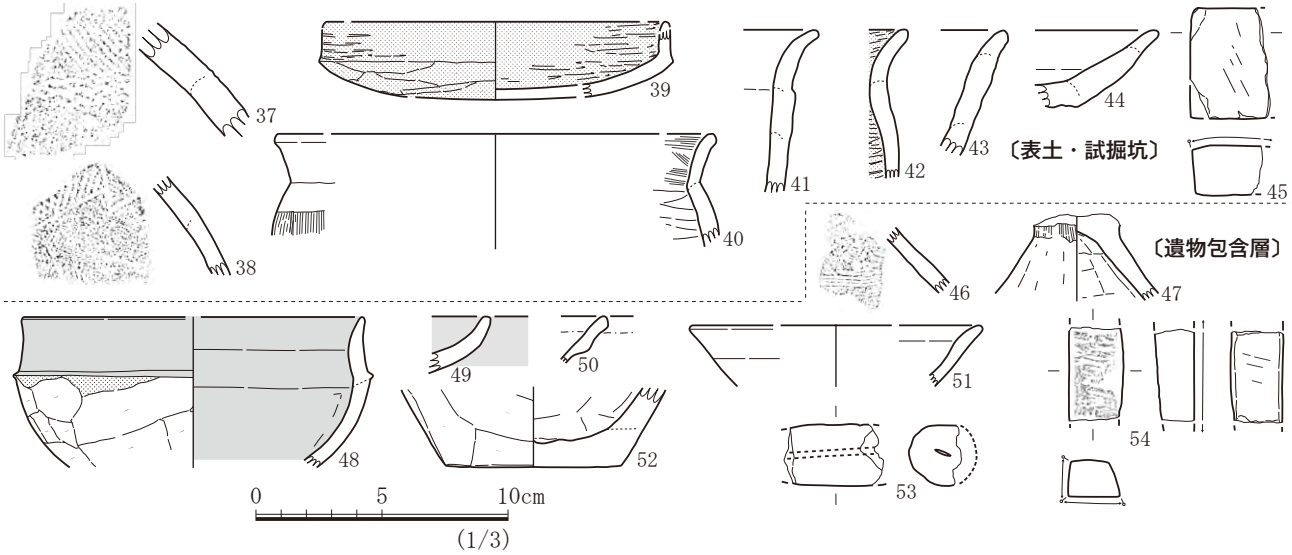


図7　出土遺物（2）

その他の出土遺物

図6-35～図7-54には遺構以外で出土した遺物を掲げた。古墳時代後期の遺物が中心となるが、弥生後期の壺形土器（37・38・46）や平安時代のロクロ土師器（51）、中世後期のかわらけ・陶器（44・50）などがごく少量ながら含まれており、希薄ながら各時代における土地利用の跡を窺うことができる。

表２　出土遺物カウント表

地区	面・層位	遺構	層位	土師器					須恵器					ロクロ土師器	弥生土器or古式土師器			
				坏	高坏	甕	甑	小片	坏身	坏蓋	高坏	瓶	甕	坏	壺	甕	鉢	高坏
—	—	表採	—	30	1	68				1					20	1		
Ⅰ	—	試掘時	—	4		20	20								9	3	1	
Ⅰ拡	表土	—	—	1		12						1			4			
Ⅰ	包含層	—	—	23		104	2			1			1		16			
Ⅰ	1面	—	—	3	1	29									2			
Ⅱ	包含層	—	—	25	1	198				4		3	2	1	21			2
Ⅱ	表土	—	—	8		27			14			1	4		3	1		
Ⅱ	TP上層	—	—					1										
Ⅱ	1面	—	—	1		1												
Ⅰ	1面	竪穴1	覆土		1	2												
Ⅰ	1面	竪穴2	覆土	8		18	50		1						12	4		
Ⅱ	1面	竪穴2	覆土	70	2	396	44	1		6	1	2		4	36	9		3
Ⅰ	1面	竪穴2カマド	—	5		15												
Ⅰ	1面	竪穴2	掘り方	4		7							1					
Ⅰ	1面	竪穴3	覆土	13		30										1		
Ⅱ	1面	竪穴3	掘り方	1		13			1			1			1			1
Ⅱ	1面	土坑1	覆土	1		17									2			1
Ⅱ	1面	土坑2	覆土			1										1		
Ⅰ	1面	ピット1	覆土			3												
Ⅰ	1面	ピット2	覆土			2												
Ⅰ	1面	ピット3	覆土	1		7												
Ⅱ	1面	ピット5	覆土	1														
Ⅱ	1面	ピット6	覆土			1												

地区	面・層位	遺構	層位	縄文土器		ロクロかわらけ	瀬戸			常滑	土製品	石製品	鉄	人骨?
				深鉢	鉢	大・小	仏華瓶	縁釉小皿	鉢	甕	土錘	砥石	鉄滓	焼骨
—	—	表採	—			7	1		1			1	1	1
Ⅰ	—	試掘時	—			1								
Ⅰ拡	表土	—	—			3								
Ⅰ	包含層	—	—								1			
Ⅰ	1面	—	—											
Ⅱ	包含層	—	—	1		10	1	1		2		1	1	1
Ⅱ	表土	—	—			16		1		1				
Ⅱ	TP上層	—	—											
Ⅱ	1面	—	—											
Ⅰ	1面	竪穴1	覆土											
Ⅰ	1面	竪穴2	覆土									1	1	1
Ⅱ	1面	竪穴2	覆土											
Ⅰ	1面	竪穴2カマド	—											
Ⅰ	1面	竪穴2	掘り方											
Ⅰ	1面	竪穴3	覆土											
Ⅱ	1面	竪穴3	掘り方											
Ⅱ	1面	土坑1	覆土		1									1
Ⅱ	1面	土坑2	覆土											
Ⅰ	1面	ピット1	覆土											
Ⅰ	1面	ピット2	覆土										1	
Ⅰ	1面	ピット3	覆土											
Ⅱ	1面	ピット5	覆土											
Ⅱ	1面	ピット6	覆土											

第五章　調査成果のまとめ

今回は約40㎡と狭い範囲での調査となったが、その中でも古墳時代を中心とする濃密な遺構展開を確認することができた。

調査区の南部で検出された竪穴2は、カマドや貼り床硬化面・柱穴の存在から竪穴住居であることは確実である。大部分が調査区外へ続き北西側1/3ほどが検出できたのみであるが、一辺6ｍ前後（以上）という大よその規模は把握できた。覆土中の出土遺物からは、7世紀後葉には廃絶・埋没過程に入っていたであろうことが推察できる。古墳時代後期でも終末段階の遺構といえよう。

その他の竪穴や硬化面、遺物包含層からも同時期の遺物が多く出土しており、本地点周辺に当該期の集落が広がっていたことを窺わせる成果となった。台山遺跡では過去の調査でも古墳後期に属する住居の発見例が多く、丘陵上を中心に広範囲での集落展開を見て取ることができる。一方、本遺跡では古墳時代中期や奈良時代に属する住居の発見例もあり、弥生中期後半から平安時代までの遺構・遺物も多く発見されている。このように、台山遺跡は時間軸という視点から当地域の社会動向を考える上でも貴重な遺跡ということができる。今のところ点的な調査ばかりでこうした問題を論じるには資料不足の感が否めないが、今回のように小規模な調査でも積み重ねることで、各時期における遺構の空間的広がりと時間的消長が次第に明らかになって行くことだろう。

台山遺跡から北西に続く丘陵地においても、水道山遺跡や天神山城で弥生後期～平安時代の集落や遺物集中といった調査成果が挙がっており、周辺の山崎地区は鎌倉市域でも古墳後期の横穴墓の密集地として知られている。やはり調査・報告例が少ないため今もって遺跡の全体像を語れる段階にはないが、今後の調査も含め、資料の蓄積と公開に立脚した研究の深化が期待される地域であることは疑いない。

※出土した須恵器の年代観については、以下の文献を参考とした。

鈴木敏則　2004 「第5章 第2節　静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』 浜松市教育員会

付編　台山遺跡のテフラ

藤根　久（パレオ・ラボ）

１．はじめに

台山遺跡は、鎌倉市台字西ノ台1418番10の市内北部の台地上に位置する。発掘調査では、テフラと思われる堆積物が検出された。ここでは、この試料について湿式篩分けを行い、重鉱物および軽鉱物組成を調べた。

２．試料と方法

分析試料は、台山遺跡の発掘調査で採取された試料１点である（表1、図版1-1）。この試料は、古墳時代末の竪穴住居とピットを検出した後、旧石器時代の遺跡と堆積層序確認を行うために、地表より約２ｍ掘り下げた土層から採取した試料である。

表１　分析試料とその特徴

分析No.	試料	試料の特徴
1	③	暗褐色（10YR 3/3）シルト質粘土、明黄褐色（10YR 6/6）粒子（～ 3mm）混じる

試料は、以下の方法で処理した。

自然湿潤状態22.25g程度を秤量した後、1φ（0.5mm）、2φ（0.25mm）、3φ（0.125mm）、4φ（0.0063mm）の４枚の篩を重ね、流水下で湿式ふるい分けを行った。それらを乾燥後、４φ篩残渣につて、重液（テトラブロモエタン、比重2.96）を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。重鉱物および軽鉱物は、プレパラートを作製した後、偏光顕微鏡下で鉱物粒子を同定、計数し、鉱物組成を求めた。

重鉱物は、斜方輝石（Opx）、単斜輝石（Cpx）、角閃石（Ho）、磁鉄鉱（Mag）、不明（Opq）に分類・計数した。また、軽鉱物は、石英（Qu）、長石（Pl）、火山ガラス（形態別）、不明（Opq）に分類・計数した。火山ガラスの形態は、町田・新井（2003）の分類基準に従った。

なお、含水率を求めるために、10g程度を蒸発皿に採取し、恒温乾燥機110℃、24時間乾燥した。

３．結果と考察

以下に、各試料の湿式篩分け結果、軽鉱物組成および重鉱物組成の結果を示す。

［分析No.1（試料③）］

試料は、含水率（%）が60.09%であった。湿式篩分けした結果、１φ篩残渣が最も多かった（表2）。

１φ篩残渣の実体顕微鏡観察では、褐鉄鉱のパイプ状（高師小僧）とその破片のみであった。２φ篩残渣の実体顕微鏡では、褐色の褐鉄鉱や磁鉄鉱、やや発泡した黒灰色火山岩片、白色岩片、長石類、輝石類などの鉱物群が含まれていた（図版1-2）。

表２　試料の湿式篩分け・重液分離の結果

分析No.	含水率 %	処理乾燥重量（g）	砂粒分の粒度組成（重量g）				重液分離（g）	
			1φ	2φ	3φ	4φ	軽鉱物	重鉱物
1	60.09	13.37	0.0444	0.0066	0.0123	0.0120	0.0064	0.0083

軽鉱物（4 φ）の偏光顕微鏡観察では、長石（Pl）が最も多く、次いで石英（Qu）も多い。火山ガラスは、急冷破砕型フレーク状ガラス（c1）が1個体検出された（表3）。なお、骨針化石も含まれていた（図版1-10）。

重鉱物（4 φ）の偏光顕微鏡観察では、斜方輝石（Opx）が最も多く、カンラン石（Ol）や単斜輝石（Cpx）あるいは角閃石（Ho）も含まれていた（表3）。なお、スコリア粒子と考えられる黒色斑晶質岩片は、不明粒子（Opq）の19個体中の2個体であった（図版1-9）。

以上の結果から、この試料は、火山ガラスやスコリアが含まれないことから、テフラの可能性は低いと考えられる。

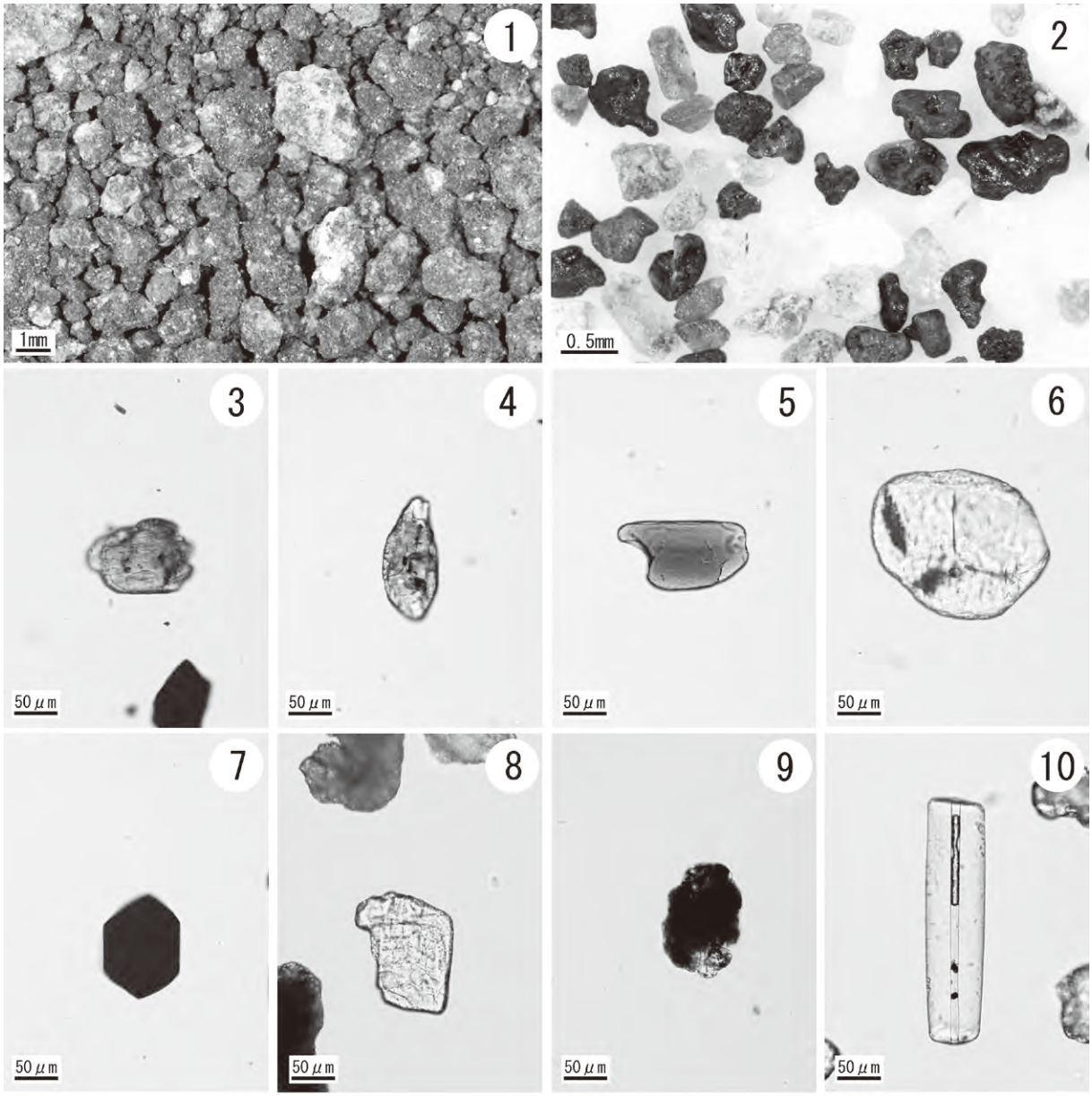
表3　4 φ篩残渣中の鉱物組成

分類群 / 分析No.	石英（Qu）	長石（Pl）	不明（Opq）	軽鉱物（個数）					
				バブル（泡）型		軽石型		急冷破砕型	
				平板状（b1）	Y字状（b2）	繊維状（p1）	スポンジ状（p2）	フレーク状（c1）	塊状（c2）
1	38	74	95					1	

分類群 / 分析No.	ガラス合計	軽鉱物の合計	重鉱物（個数）						重鉱物の合計
			斜方輝石（Opx）	単斜輝石（Cpx）	角閃石（Ho）	カンラン石（Ho）	磁鉄鉱（Mg）	不明（Opq）	
1	1	208	62	8	7	11	121	19	228

引用文献

町田 洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス. 336p, 東京大学出版会.

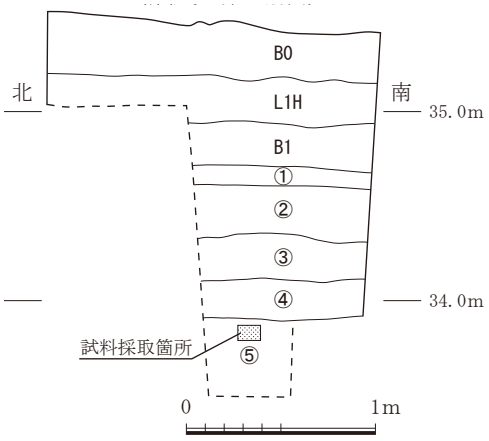


図版１　分析試料と鉱物の偏光顕微鏡写真

1.分析した試料　2.2φ篩残渣の実体顕微鏡写真　3.斜方輝石（Opx）

4.単斜輝石（Cpx）　5.角閃石（Ho）　6.カンラン石（Ol）　7.磁鉄鉱（Mag）

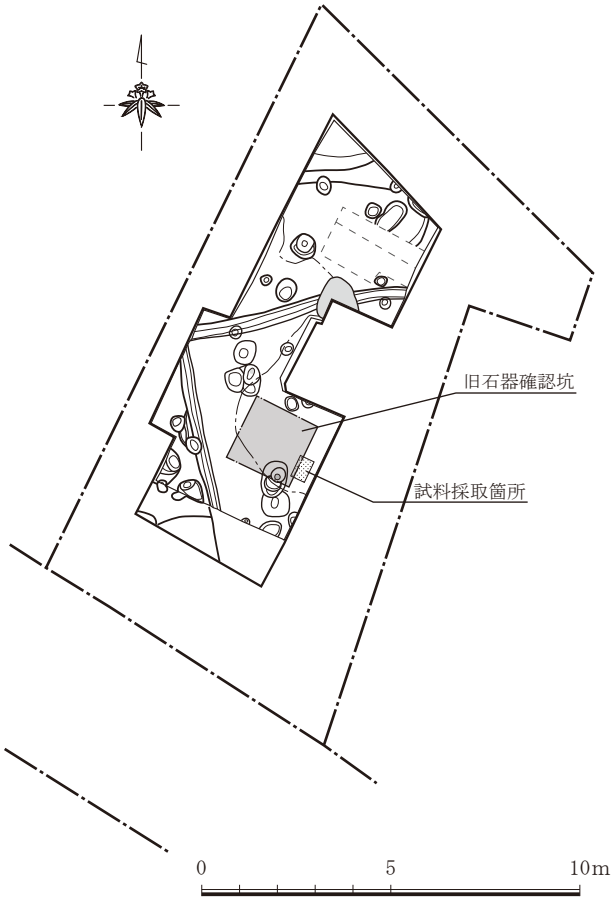
8.長石（Pl）　9.スコリア粒子　10.骨針化石



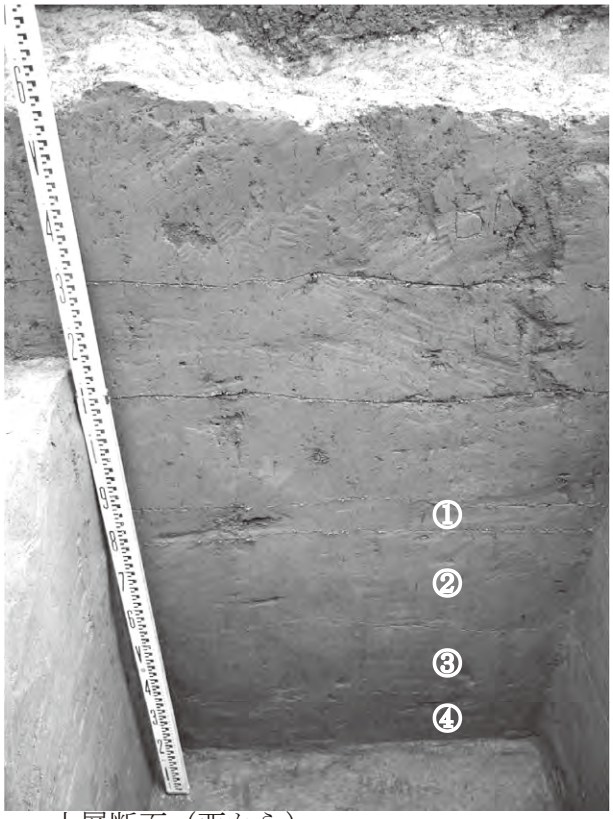
（S＝1/40）

① 黄褐色土　上層よりやや明るい。粒径５㎜の黒色スコリア多い。
② 黄褐色土　上位がやや明るい。粒径１～３㎜の黒色スコリア多い。
③ 暗黄褐色土　①や②の上位に比べて暗い（ように見える）。
　　粒径１㎜の黒色スコリア微量。
④ 暗黄褐色土　③より暗い。粒径３㎜の黒色スコリア微量。
⑤ 暗灰色土　軟質（ボソボソ）。粒径10㎜大の白色軟化粒子多い。

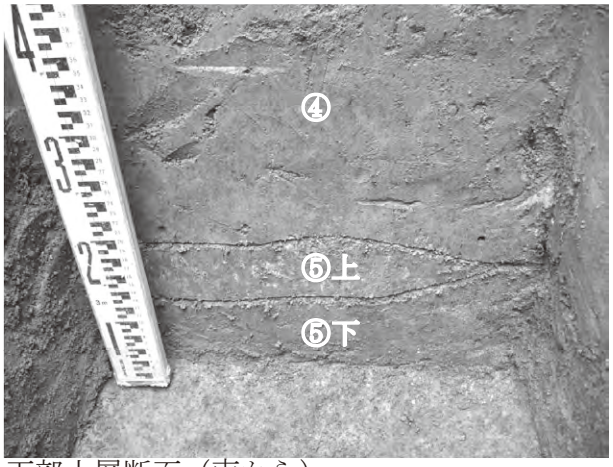
確認坑完掘状況（西から）



（S＝1/200）



土層断面（西から）



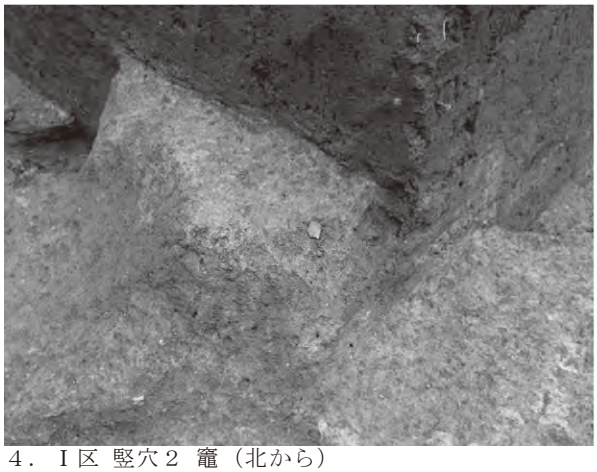
下部土層断面（南から）

図１　試料採取箇所

１．調査開始前（南から）

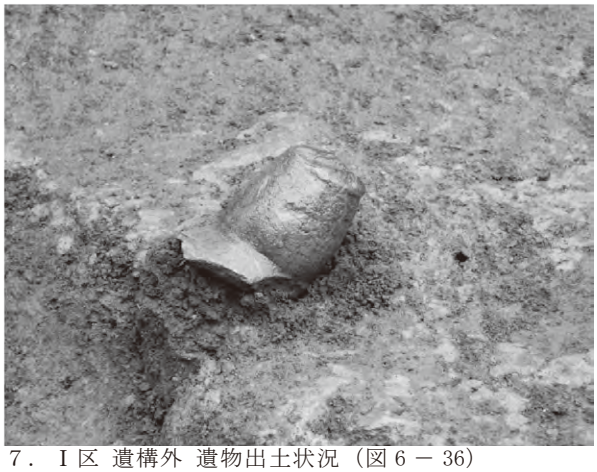
２．Ⅰ区 表土掘削状況（北から）

３．Ⅰ区 竪穴２（北から）


４．Ⅰ区 竪穴２ 竈（北から）

５．Ⅰ区 竪穴２ 竈セクション（東から）

６．Ⅰ区 遺構外 遺物出土状況（図６－35）

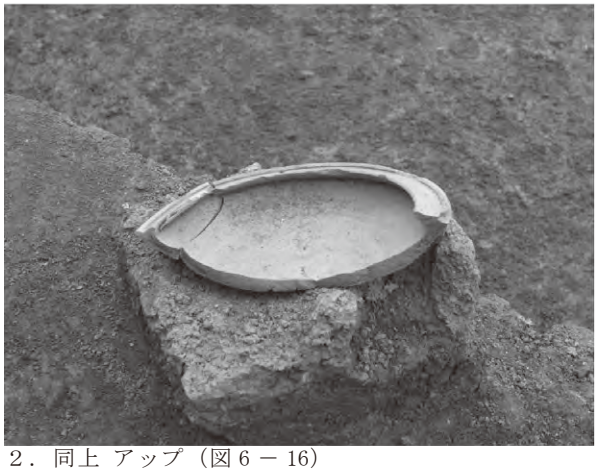

７．Ⅰ区 遺構外 遺物出土状況（図６－36）

８．Ⅰ区 最終全景（北西から）

図版２

１．Ⅱ区 竪穴２ 遺物出土状況（南西から）

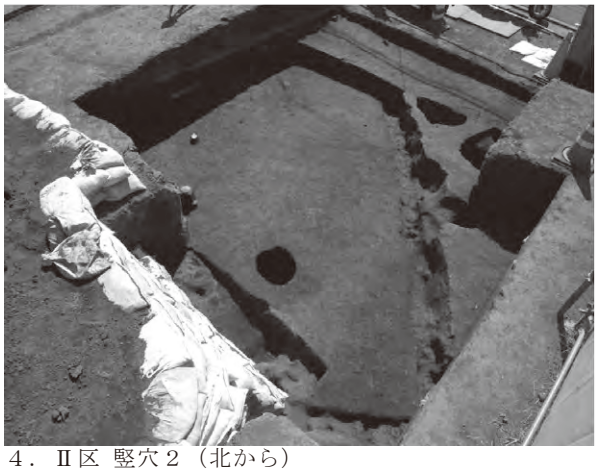
５．Ⅱ区 竪穴２ 掘り方（北から）


２．同上 アップ（図６－16）

６．Ⅱ区 竪穴３ 掘り方（東から）

３．同上 アップ（図６－2）

７．Ⅱ区 ローム層確認坑（西から）


４．Ⅱ区 竪穴２（北から）

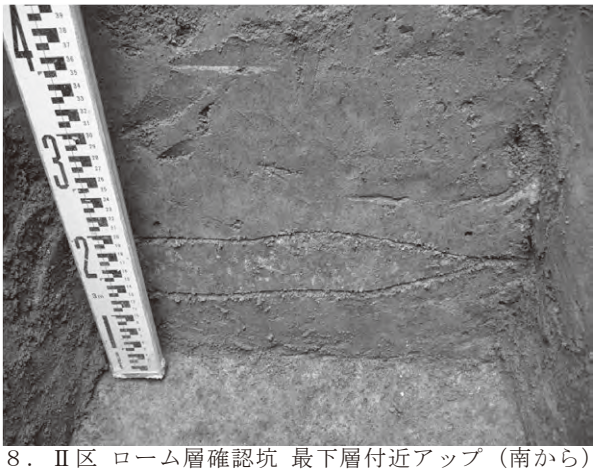

８．Ⅱ区 ローム層確認坑 最下層付近アップ（南から）

図 6-1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
竪穴 2
25
26
27
28
29
30
竪穴 3

図版４

31
竪穴 1

33
P3

34
P1

36
遺構外

32
土坑 2

35

表土・試掘坑

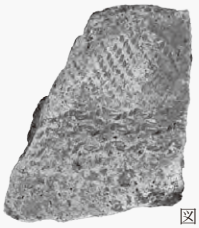
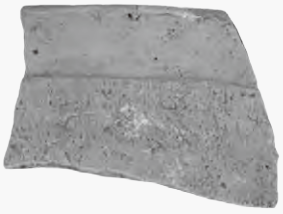


図 7-37

38

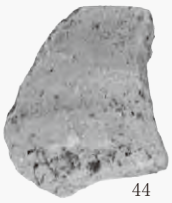
39

40


41

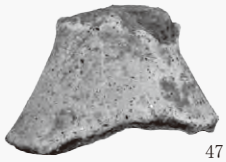
42

43


44

45

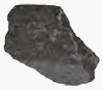
遺物包含層

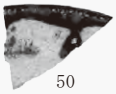

47

48

52

46


49


50

51

53

54

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書
副書名	平成２７年度発掘調査報告
巻次	３２（第２分冊）
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	沖元　道／沖元　道・馬淵和雄／押木弘己／押木弘己
編集機関	鎌倉市教育委員会
所在地	〒２４８－８６８６　鎌倉市御成町１８番１０号
発行年月日	西暦２０１６年3月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 小町二丁目 ２４番１４	14204	242	３５° １９′ １７″	１３９° ３３′ ０５″	20070828 ～ 20070926	14.50	個人専用 住宅 （杭基礎）
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 雪ノ下字天神前 ５６２番３０	14204	49	３５° １９′ ２４″	１３９° ３３′ ４６″	20071107 ～ 20071214	26.25	個人専用 住宅 （地盤の表層改良）
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 大町一丁目 １０３４番９	14204	242	３５° １８′ ５７″	１３９° ３３′ ０５″	20100818 ～ 20101105	79.81	個人専用 住宅 （地盤の柱状改良）
だいやまいせき 台山遺跡	神奈川県鎌倉市 台字西ノ台 １４１８番１０	14204	29	３５° ２０′ １９″	１３９° ３３′ ２３″	20140828 ～ 20141010	40.40	個人専用 住宅 （杭基礎）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市	中世	溝、板列、土坑、ピット	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品、金属製品、石製品	13 世紀前葉から 14 世紀の生活面。土坑から寄生虫卵を検出。
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	都市	中世	溝、土塁状遺構、道路跡、土坑、ピット	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品、金属製品、石製品	13 世紀前半～ 15 世紀の遺構を検出。道路や溝の軸方位で土地利用の変遷を確認。
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市	中世	竪穴建物、道路、井戸、土坑、ピット	土器、陶磁器、金属製品、石製品	南北方向の道路を検出。13 世紀中頃～ 14 世紀代で 4 段階の造り替えを確認。
だいやまいせき 台山遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居、硬化面、土坑、ピット、地割れ	土師器、須恵器、石製品、弥生土器	ローム層を掘り込む竪穴住居を確認。カマドを備え、7 世紀後葉に廃絶。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　32
平成 27 年度発掘調査報告
（第 2 分冊）

発行日　平成 28 年 3 月 31 日

編集・発行　鎌倉市教育委員会
印　　刷　芝浦エンジニアリング株式会社